京都府遺跡調査報告集

第182冊

平安京跡（左京一条三坊三町）発掘調査報告

２０２１

公益財団法人　京都府埋蔵文化財調査研究センター

巻頭図版１　平安京跡（左京一条三坊三町）

平安京跡左京一条三坊三町調査地（第２区）全景（南西から）

調査地第３面全景（合成写真、上が北）

巻頭図版３　平安京跡（左京一条三坊三町）

(1) ＳＤ2037漆喰遺構全景（北西から）

(2) ＳＫ2258礎石検出状況（北西から）

巻頭図版４　平安京跡（左京一条三坊三町）

⑴光格菊御紋付染付椀

⑵壱紋唐津向付

序

公益財団法人　京都府埋蔵文化財調査研究センターは、昭和56年に設立されて以来、京都府内の公共事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査を行うとともに、その成果を広く公開し、考古学研究や地域の歴史研究に活用していただけるように努めてまいりました。また、これまで発掘調査を実施したすべての遺跡の調査は、『京都府遺跡調査報告書』『京都府遺跡調査概報』『京都府遺跡調査報告集』などを刊行し、各々の遺跡が有する歴史的な重要性について報告を行ってきたところです。

この度、京都府庁新行政棟・文化庁移転施設整備事業に係り、京都府の依頼を受けて実施しました、平安京跡左京一条三坊三町の発掘調査につきまして、整理作業を終え、その成果をまとめることができましたので、『京都府遺跡調査報告集第182冊』として刊行する次第です。

本調査では、平安時代の近衛大路の路面や戦国時代の構の一部である堀と建物の布掘り基礎をはじめ、江戸時代後期の町屋の地下構造や同末期の京都守護職上屋敷関連の遺構を検出するなど、重要な成果を得ることができました。

本書が、学術研究の資料として、また、地域の埋蔵文化財への関心と理解を深めるうえで、ご活用いただければ幸いです。

後になりましたが、発掘調査を依頼いただきました京都府をはじめ、ご支援を賜りました多くの関係各位に厚く感謝し、御礼を申し上げます。

令和３年８月

公益財団法人　京都府埋蔵文化財調査研究センター
理　事　長　　井　上　満　郎

例　　言

１．本書に収めた報告は下記のとおりである。

　平安京跡（左京一条三坊三町）

２．遺跡の所在地、調査期間、経費負担者および報告の執筆者は下表のとおりである。

遺　跡　名	所　在　地	調査期間	経費負担者	執筆者
平安京跡	京都市上京区下立売通 新町西入藪ノ内町	平成30年11月７日～ 平成31年２月27日 平成31年４月16日～ 令和２年３月９日	京都府総務部	岡﨑研一 加藤雄太

３．本書で使用している座標は、原則として世界測地系国土座標第Ⅵ座標系によっており、方位は座標の北をさす。なお、現地調査及び過去の調査との整合性のため日本測地系を使用している場合もある。また、国土地理院発行地形図の方位は経度の北をさす。

４．本書の編集は、調査課調査担当者の編集原案をもとに、調査課企画調整係が行った。

５．現場写真は主として調査担当者が撮影し、遺物撮影は、調査課企画調整係調査員武本典子が行った。

本 文 目 次

挿 図 目 次

付 表 目 次

図 版 目 次

平安京跡（左京一条三坊三町）発掘調査報告

１．はじめに

本発掘調査は京都府庁新行政棟・文化庁移転施設整備事業に係る工事に伴って、京都府の依頼を受けて実施した。京都府庁舎３号館が老朽化したことと、文化庁移転に伴い、増床する必要が生じたため、３号館に代わる新行政棟の建設が計画された。

調査地点は新町通に面した旧京都府警察本部の北側にあたり、平安京では左京一条三坊三町と近衛大路にあたる。平安時代には修理職の厨町である修理職町であった。室町時代には下御霊神社の御旅所、桃山時代には大名屋敷地として利用される。江戸時代には町屋となり、江戸時代末には京都守護職上屋敷が平安京の一条三坊二·三町の２町分に築かれ､調査地は上屋敷の東通用門付近にあたる。上屋敷敷地は、現在の京都府庁や府警本部の敷地へと踏襲されている。

調査開始前は来庁者の駐車場であり、地下には府庁に関連する様々な配管が通っていた。発掘調査に際しては、廃土等の搬出ができなかったため、場内に廃土等の仮置場を確保する必要があり、３地区に分けて随時調査を実施した。現地調査は、平成30年度から平成31年度の２か年にわたり実施し、その際複数の遺構検出面を認識し、平安時代から近世までの多くの遺構を検出した。出土した土器類、金属製品、石製品などは整理箱566箱を数える。

現地発掘調査終了後、令和２年度に出土遺物の理化学処理と科学分析を行い、整理報告作業を実施した。

なお、調査に係る経費は京都府が全額負担した。

現地発掘調査及び整理作業時には、京都市文化財保護課、公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所、京都府上京警察署、國下多美樹、高橋康夫、日向進、中井均、松尾信裕、佐藤亜聖、伊野近富（順不同・敬称略）のご協力とご指導を得た。記してお礼申し上げたい。

（岡﨑研一）

【調査体制等】

平成30年度調査

現地調査責任者	調査課長　小池　寛
調査担当者	調査課課長補佐兼調査第２係長　中川和哉
	同　　主　任　綾部侑真
	同　　調査員　加藤雄太
調査場所	京都市上京区下立売通新町西入藪ノ内町
調査期間	平成30年11月7日～平成31年２月27日
調査面積	270㎡

平成31年度調査

現地調査責任者　調査課長　小池　寛

調 査 担 当 者　調査課調査第２係長　高野陽子

　　　　　　　　　　　　同　　副主査　引原茂治・岡﨑研一

　　　　　　　　　　　　同　　主　任　綾部侑真

　　　　　　　　　　　　同　　調査員　加藤雄太・山本　梓・上井佐紀・川上晃生・浅田洋輔

調　査　場　所　京都市上京区下立売通新町西入藪ノ内町

調　査　期　間　平成31年４月16日～令和２年３月９日

調　査　面　積　1,280㎡

令和２年度（整理等）

整理等責任者　調査課長　小池　寛

整 理 担 当 者　調査課参事第３係長事務取扱　　中川和哉

　　　　　　　　　　　　同　　副主査　　　　岡﨑研一

　　　　　　　　　　　　同　　調査員　　　　加藤雄太

２．遺跡の位置と環境

１）地理的環境

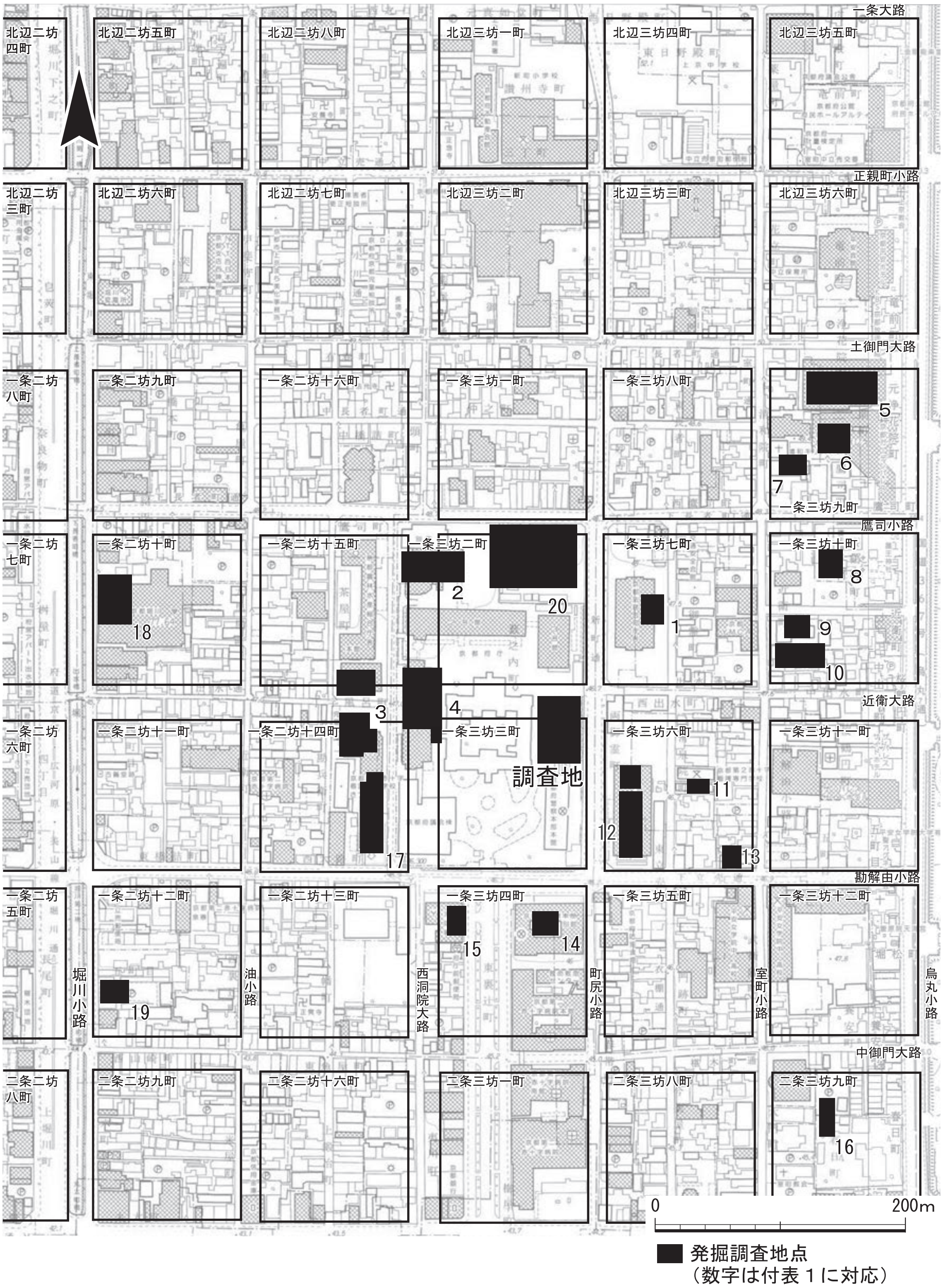
調査地は、北は下長者通、東は新町通、西は西洞院通、南は下立売通に囲まれる藪之内町内にある。京都府庁旧本館（重要文化財）の東側に位置し、来庁者用駐車場であった。

調査地点は断層によって形成された京都盆地に位置し、東・西・北を山に囲まれ、南に平坦部が広がる。盆地内は北高南低の地形であり、南には現存しないが淡水湖である巨椋池があった。『日本後紀』には、桓武天皇が平安京遷都時に三方を山に囲まれた地形が城のようであることから、山背国から山城国に名前を変えるよう命じた記録がある。盆地内には西から桂川・御室川・紙屋川・鴨川と４つの河川が流れ、それぞれが扇状地を形成している。鴨川は洪水を引き起こす河川で、平安京の左京域は鴨川によって形成された扇状地上に展開する。調査地もこの鴨川の扇状地上にあたり、鴨川の扇状地由来の硬い礫層を地盤とし、黄褐色の粘土層が部分的に堆積している。

２）歴史的環境

調査地は平安京の条坊では北側を近衛大路、西側を西洞院大路、南側を勘解由小路、東側を町尻小路に四方を区画された左京一条三坊三町の北東部にあたり、一部近衛大路にかかる。左京一条三坊二・三町、左京一条二坊十四町・十五町（付表１－４）では平安時代から江戸時代に至るまでの近衛大路と西洞院大路の路面と道路側溝、交差点を検出している。この場所は左京一条三坊三町から六町にかけて平安京の諸施設の修理を担当する修理職の厨町である修理職町があった。

中世には付近に下御霊神社が位置し、近世の町割りの地名に下御霊町、下御霊横町、御霊町な



第１図　調査地及び周辺調査位置図

付表１　周辺の調査事例一覧

№.	調査地	調査概要	文献
1	左京一条三坊七町	平安時代末～鎌倉時代の礎石建物・柵列 室町・江戸時代の井戸・土坑など	鳥羽離宮跡調査研究所 『埋蔵文化財概報集』（1976）
2	左京一条三坊二町	平安時代～江戸時代の各時代の西洞院大路西側溝 金箔瓦・近世初頭の国産・輸入陶磁器出土	（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター 『京都府遺跡調査概報』第45冊（1991）
3	左京一条二坊 （茶屋四郎次郎邸跡）	平安～室町時代のピット群 中世の青磁・白磁・近世初頭の国産・輸入陶磁器出土 近世の井戸・石列・石垣・土坑など	（財）京都市埋蔵文化財研究所 『昭和59年度京都市埋蔵文化財調査概要』 （1987）
4	左京一条三坊二・三町 左京一条二坊十四・十五町	平安～江戸時代各時代の近衛大路路面・北側溝・南側溝 室町～江戸時代各時代の西洞院大路路面・東側溝・西側溝 重圏文軒丸瓦・桐紋金箔方形瓦・華南三彩盤出土	（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター 『京都府遺跡調査概報』第33冊（1989）
5	左京一条三坊九町	平安後期～末の土御門大路の路面・南側溝、宅地内の区割り溝 越州窯製青磁椀（毛彫文様）出土	（財）古代学協会 『平安京跡研究調査報告』第10輯（1983）
6	左京一条三坊九町	平安時代の宅地割りの溝、中期～後期の溝・土坑・柱穴・東西溝 戦国時代の堀、室町後半～安土桃山時代の土坑・井戸・石室	（財）京都市埋蔵文化財研究所 『昭和61年度京都市埋蔵文化財調査概要』 （1989）
7	左京一条三坊九町	戦国～桃山時代の土坑・井戸・石室・石組遺構・溝 平安時代の溝２条・柵列、鉄や鉄滓、坩堝が石組遺構・石室より出土	（財）京都市埋蔵文化財研究所 『昭和61年度京都市埋蔵文化財調査概要』 （1989）
8	左京一条三坊十町	江戸時代前期以前の遺構はなし	花園大学考古学研究室 『京都市護王神社境内の発掘調査概報 －江戸時代遺跡の考古学的調査－』（1976）
9	左京一条三坊十町	平安時代中期の溝、室町～江戸時代の遺構群 10世紀の溝から土師器・須恵器・灰釉・緑釉陶器・白磁・青磁出土	京都市編 『史料京都の歴史』第二巻　考古（1983）
10	左京一条三坊十町 （旧二条城跡）	平安時代の溝・土坑・建物跡、室町～江戸時代の石室・土坑・井戸 土師器・須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器・輸入陶磁器・瓦類	（財）京都市埋蔵文化財研究所 『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告』 2012-13
11	左京一条三坊六町	江戸時代の土坑・井戸 室町時代の土坑・溝・柱穴群、桃山時代の金箔巴紋軒丸瓦出土	（財）京都市埋蔵文化財研究所（1981） 『昭和56年度京都市埋蔵文化財調査概要』発掘調査編
12	左京一条三坊六町	安土桃山時代の斜め方向の堀・南北方向の堀	（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター 『京都府遺跡調査概報』第59冊（1994）
13	左京一条三坊六町	安土桃山時代の旧二条城跡の濠跡 平安～近世の井戸・柱穴群	古代文化調査会 現地説明会資料（2012）
14	左京一条三坊四町 （修理職）	平安時代の南北方向の柵列	京都府教育委員会 『埋蔵文化財発掘調査概報』（1974）
15	左京一条二坊十三町	平安前期の土坑・中期の井戸、室町時代の井戸・柱穴・土坑 安土桃山時代の庭園施設とみられる池、それにとりつく流路２条。 楽焼１点出土 江戸時代の東西・南北の敷地境を示す柱列	（財）京都市埋蔵文化財研究所 『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報』 （1998）
16	左京一条三坊九町	旧二条城の濠跡、東西方向の柱列	古代文化調査会 現地説明会資料（2016）
17	左京一条二坊十四町 （左獄・囚獄司）	平安時代の掘立柱建物・井戸・土坑。富寿神宝出土 安土桃山時代の中国製男子象。江戸時代の町境の区割り	（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター 『京都府遺跡調査概報』第63冊（1995）
18	左京一条二坊十町	近世の掘立柱建物・井戸・土坑・漆喰溝 中世の土坑	（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター 『京都府遺跡調査概報』第52冊（1993）
19	左京一条二坊十二町	平安中期～後期の土坑、大型の方形縦板横桟組井戸 室町時代の井戸・礎石建物・宅地割りの東西柵 平安時代の井戸から白磁が目立って出土	（財）京都市埋蔵文化財研究所 『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報』 （2004）
20	左京一条三坊二町	平安時代の鷹司小路南側溝・井戸 戦国時代の東西方向の堀（構）・北側に土塁 近世初頭の金箔瓦出土・上級町衆の宅地・土坑群から瀬戸美濃系陶器や肥前系陶器などの茶道具・輸入陶磁器・朝鮮やヴェトナムなどが出土 江戸時代末の京都守護職上屋敷の礎石建物	（公財）京都府埋蔵文化財調査研究センター 『京都府遺跡調査報告集』第176冊（2018）

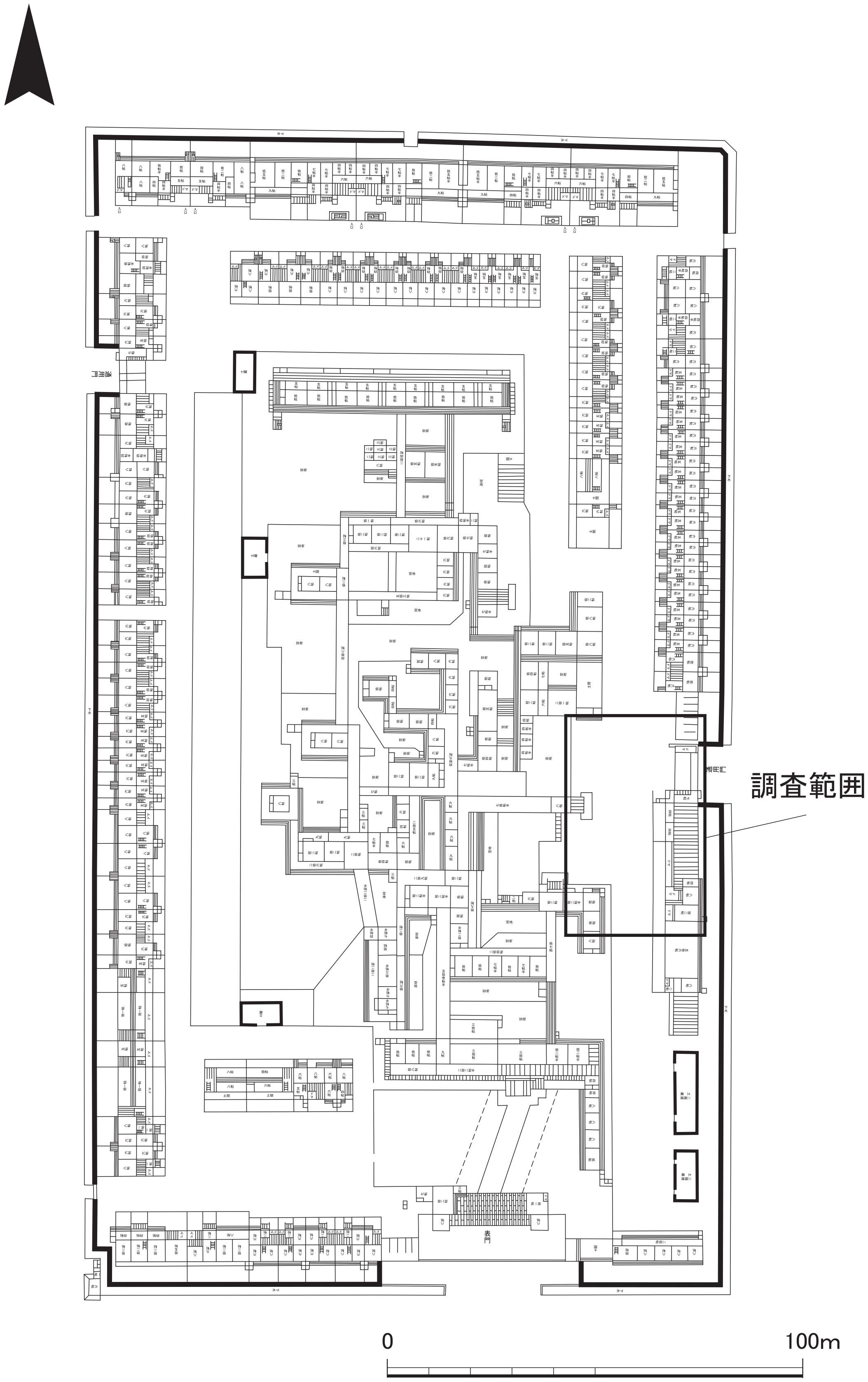
ど名残が散見される。付近の勘解由小路室町には室町時代に管領斯波氏の邸宅である武衛邸（勘解由小路邸）が構えられていた。左京一条二坊十二町の調査（付表１－19）では、『後法興院記』明応８（1499）年10月10日条の「爲要害京中堀事従京兆加下知云々、家門舊跡邊鷹司ヲ東西へ至堀河ニ可掘也云々、」の記述と合致する大規模な堀を検出している。応仁･文明の乱頃には要塞化され、12代斯波義寛まで本宅として使用したが放棄される。その後、足利義輝が将軍御所の武衛陣として使用するが、永禄８（1565）年に永禄の変で義輝が殺害され焼失する。永禄12（1569）年には織田信長によって武衛陣跡には足利義昭の将軍御所として旧二条城が規模を拡大して造営されるが後に信長によって解体される。今回の調査地の南西側に位置する左京一条三坊六町の調査（付表１－12）では、旧二条城の堀の可能性がある遺構を検出している。

天正14（1586）年には豊臣秀吉によって西洞院通の西側に聚楽第の造営が始まる。聚楽第の周りには大名屋敷が配されていたことから調査地周辺にも大名屋敷が立ち並んでいたと考えられ、左京一条三坊二町（付表１－２）、左京一条二坊十四町･十五町（付表１－４）、左京一条三坊六町（付表１－11）などのように付近の発掘調査では屋敷の屋根を飾った金箔瓦が出土している。

秀吉による大規模な造営事業とともに、市中の地割の改編も実施され、寺町から高倉、堀川以西、押小路以南の地域に半町ごとに南北の小路を通した。平安京以来の「碁盤の目」の正方形の町割りの中心に小路が通され、短冊形の町割りが形成され現代に受け継がれていくことになる。文禄４（1595）年には聚楽第が破却され、大名屋敷も伏見へ移転し、町人が暮らす居住空間になったと考えられる。

江戸時代には、北は出水通（旧近衛大路）に面する下御霊横町、東は新町通（旧町尻小路）に面するのりものや町（下御霊町）、西には町境を超えてならや町が調査地にあたる。また、調査地北西側に位置する左京一条二坊十五町には茶屋四郎次郎の邸宅が移るなど富裕な商人層による土地利用も行われていた。左京一条二坊（茶屋四郎次郎邸跡）の調査（付表１－３）では、富裕な商人層が所有したと思われる桃山茶陶が出土している。また、左京一条二坊十四町（付表１－17）では、江戸時代の町境の区割りが検出されている。

元和大火（1620年）、寛文大火（1673年）、宝永大火（1708年）、天明大火（1788年）、嘉永大火（1854年）と当地はたびたび火災に見舞われ焼亡している。文久２（1862）年に会津藩主松平容保が京都守護職に任じられる。これに伴って当地を幕府が買い上げ現在の藪之内町とし、京都守護職上屋敷とした。左京一条二坊十二町（付表１－19）では、京都守護職上屋敷の礎石建物などの関連施設が検出されている。慶応３（1867）年に守護職は廃止され、跡地は京都裁判所に引き継がれたが、軍務官、京都府庁の用地を経て、明治６年に京都中学校、同18年に再び京都府庁の敷地となり現在に至っている。

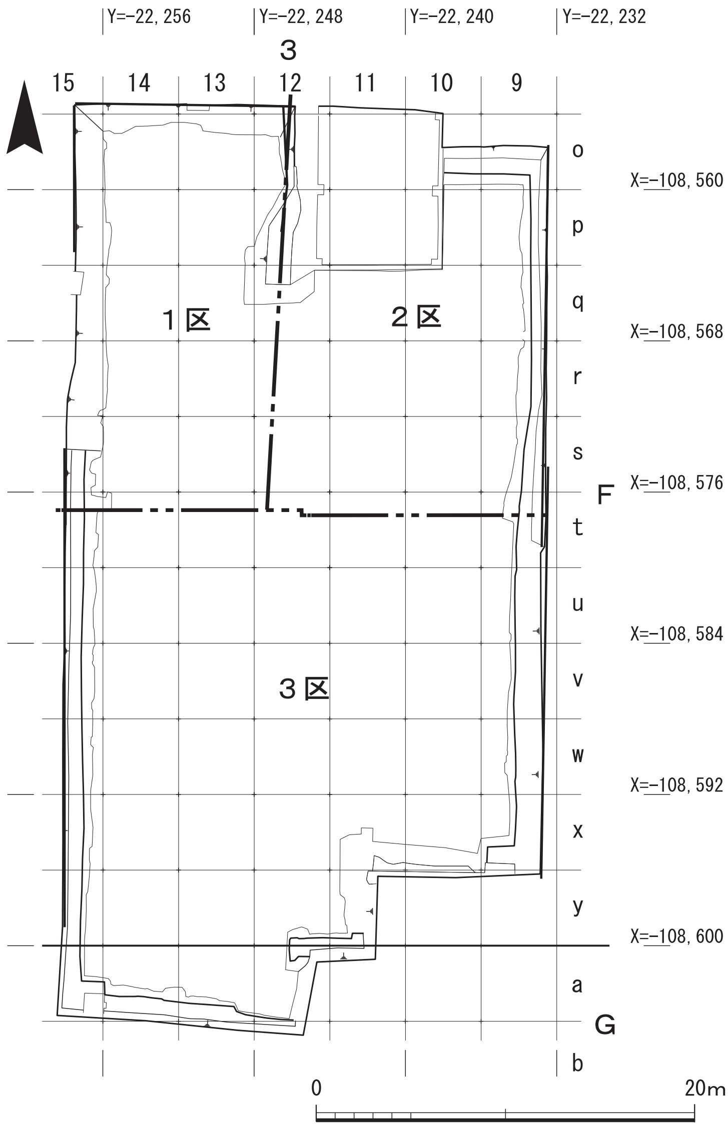


第２図　守護職上屋敷図

３．調 査 の 方 法

１）地区割りの設定について

発掘調査は、工事の工程や土置き場の関係から調査地を三分割して実施した（第３図）。南北に二分割し、そのうち北側を東西に分割する。調査区の北西側を１区、北東側を２区、南側を３区とした。また、調査対象範囲を国土座標（世界測地系）の座標値を基準に、大グリッドと小グリッドを設定した。大グリッドはX=-108,000m、Y=-22,000mを基準とし、一辺100mの正方形区割りである。調査地は３Fと３Gにあたり、FとGの境は、X=-108,600mとなる。さらに大グリッドは、東西・南北列を１辺４mの方形区割りの小グリッドに分割し、北東隅を基準として東西方向を１～25、南北方向をａ～ｙに区分した。



第３図　調査地地区割り図

２）調査の方法について

調査地内にＧＰＳを用いて基準点を設置し、調査区を設定した。

調査にあたっては遺構検出面直上までを重機で掘削し、その後人力により包含層の掘削、精査作業を実施し、遺構を検出した。第３面及び下層の遺構については、遺構が密集し、明瞭な層理が検出できないため、人力にて遺構面の掘り下げを行い、順次遺構の検出と掘削作業を行った。また、調査の進行に伴い、必要に応じて記録図面の作成と、記録写真の撮影を実施した。遺構の図化作業にあたっては、調査地全体の平面図については、縮尺1/20・1/50で作成を行った。個別の遺構図面は基本的に縮尺1/20で作成し、遺物出土状況などは必要に応じて縮尺1/10で作成した。

３）遺構番号について

遺構番号は調査の進捗に応じて地区ごとに番号を付した。遺構掘削の過程で種類を特定できたものからＳＫなどの名称を付与した。使用した略称は、建物：ＳＢ、柱穴列・礎石据付穴列：ＳＡ、柱穴・礎石据付穴：ＳＰ、礫敷・路面：ＳＦ、土坑：ＳＫ、井戸：ＳＥ、溝：ＳＤ、石組：ＳＳ、土器埋納遺構：ＳＪ、かまど：ＳＬ、整地土：ＳＭ、不明遺構・その他：ＳＸである。

当調査では検出される遺構数が多くなることが想定されたため、整理段階での作業簡易化のために２・３区では遺構番号の四桁目に各地区の番号を表記した（１地区ＳＫ02→ＳＫ02、２地区ＳＸ64→ＳＸ2064、３地区ＳＤ370→ＳＤ3370）。また、建物跡や柱穴列には構成する礎石のうち、最も小さい遺構番号を建物、柱列番号とした。

４）報告書作成について

令和２年度は、平成30年度及び平成31年度の調査で出土した遺物の整理作業ならびに、報告書の作成作業を実施した。

出土遺物の整理作業は、平成30年度から調査と並行して台帳登録及び洗浄作業などの基礎作業については実施しており、令和２年度は台帳登録及び洗浄作業を継続するとともに、注記、接合作業を実施した。注記の完了した遺物から報告に必要な遺物を抽出して実測し、必要に応じて拓本を実施した。実測資料は完形復元が可能であれば石膏を用いた復元作業を実施した。また、必要資料に限り写真撮影を行い、遺物写真図版として掲載した。

遺構図は版下作成とトレース作業を実施した。遺構図は、調査地全体図を縮尺1/250で作成した。個別の遺構平面図については、礎石列、柱穴列・溝などは縮尺1/50・1/80・1/100で、土坑・井戸・かまどなどは1/40・1/50で、遺物出土状況については、縮尺1/20で作成することを基本とした。

また、各遺構の年代は、主に平尾政幸の土師器皿編年（平尾2019）を基準に決定している。

４．調査の経過

１）平成30年度の調査

平成30年11月７日から現地調査に着手した。調査対象地の北西に位置する１区から調査を開始した。調査区全域に貼られたアスファルトの１区範囲分を除去し、さらにその下層に貼られたコンクリート基礎を除去し地表面を確認した。地表下から0.4ｍ掘削し露出した安定面で嘉永７(1854)年の大火に伴う火災層を確認し、この面を第１面として調査を実施した。その後調査を進めていく中で第３面にて堀を検出、近代建物の下に堀が及ぶことが判明したため建物基礎を除去する方針となった。

２）平成31年度の調査

平成31年４月16日から調査を開始した。前年度から継続して１区の調査を実施した。近代建物を除去し、下層に残存した遺構を調査し、５月29日に全景撮影を実施し、６月から埋め戻し作業を開始した。合わせて６月10日から２区の調査に着手した。地表下0.4ｍで整地土を確認、整地土の下層に焼土が確認できることから守護職上屋敷に伴う整地土である可能性を考慮し、この面を第１面として調査した。２区でも１区で確認された堀が検出され、１区と２区にまたがる近代建物基礎を除去する作業を行った。２区は10月15日に全景撮影を実施し、埋め戻し作業を含めて10月23日まで作業を行ったが、調査ヤードの拡張に伴って10月１日より３区の調査を並行して実施した。２区も地表を覆うアスファルト等の除去と搬出、建物基礎除去とその搬出を実施している。３区でも近代建物の別棟が確認され、その下層に遺構が残存していることが判明したため、これを除去し、調査を行った。建物基礎の産業廃棄物や調査区掘削で生じた廃土の一部は、調査対象地の空間確保のために場外搬出を行った。第３面では、堀を２条検出し、人力で掘削した。３区は令和２年２月18日に全景撮影を実施し、同28日に埋め戻し作業を終え、３月９日に現地作業を終了した。

調査期間中、令和２年２月15日に現地説明会を開催した。前日には府庁と府警本部職員対象とした現地公開を実施した。現地説明会では290名の参加を得た。同年２月21日には平安女学院中学校の生徒が授業の一環として現地を見学した。

５．基本層序

調査地全域を被覆する0.15ｍほどのアスファルトの下には同厚程のコンクリート、さらに0.2ｍの礫を敷き詰めた層が確認され、これを除去した地表面からさらに0.3ｍから0.5ｍほど掘削した安定面を第１面とした。

近代の造成土の下層には白色細粒砂の整地土が確認され、白色細粒砂整地に伴う造成土の下層に嘉永の大火に伴う焼土面、天明の大火以降の堆積土、天明の大火に伴う焼土面、以下幾層もの整地面が黄褐色のシルト・礫層に至るまで堆積する。調査区は多くが近代以降の工事・造成により撹乱を受けており、また、調査区東部と西部の各時代における土地利用の差異から基本層序の確認には慎重な判断が求められた。

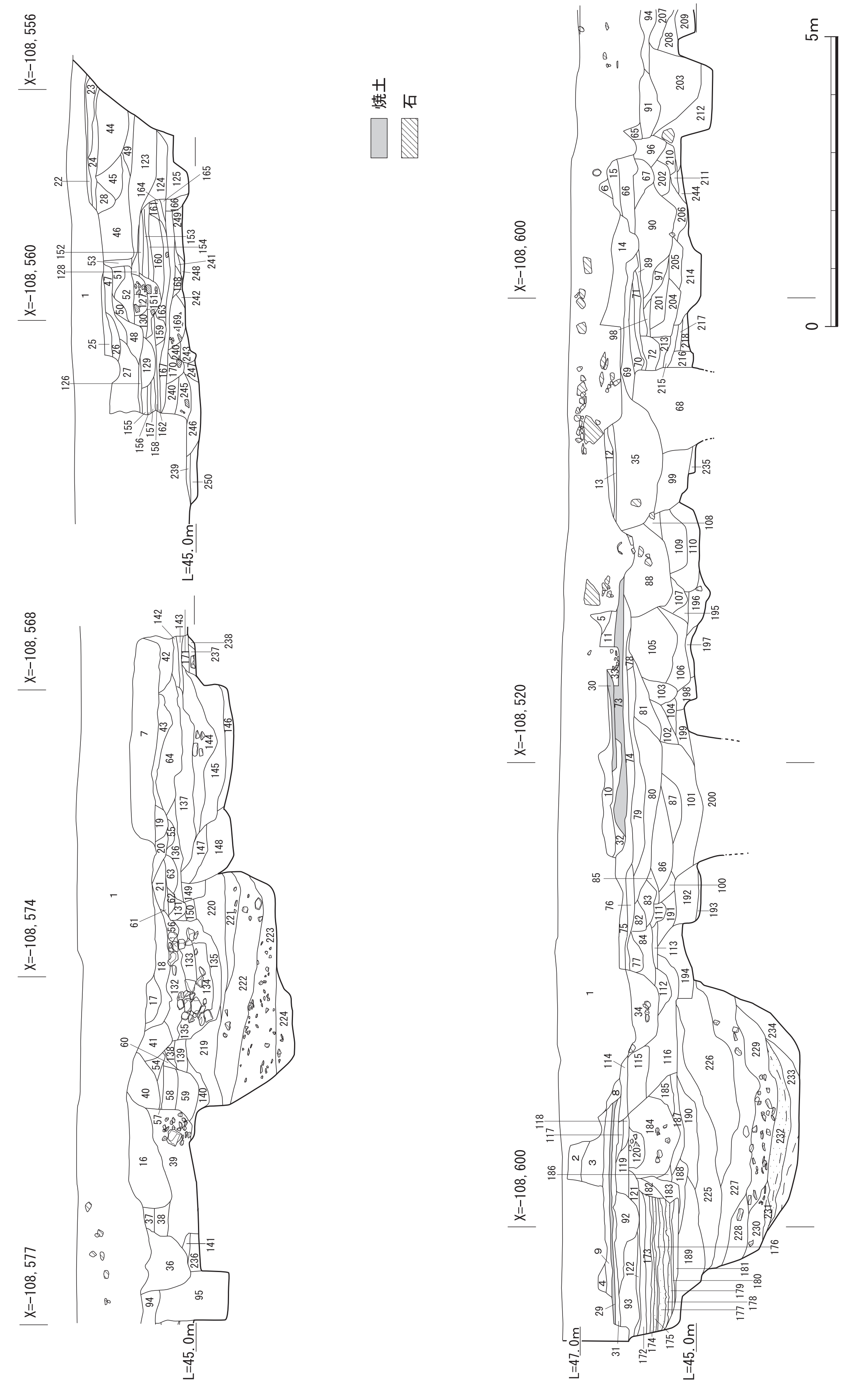
第4図　2・3区東壁断面図

２・３区東壁断面図土色

1．暗オリーブ褐色（2.5Y 3/3）礫混じり細粒砂
2．暗オリーブ褐色（2.5Y 3/3）礫混じり中粒砂質細粒砂
3．暗褐色（10YR 3/3）礫混じり細粒砂質極細粒砂
4．にぶい黄褐色（10YR 4/3）礫混じり細粒砂
5．オリーブ褐色（2.5Y 4/3）細粒砂質シルト
6．黒褐色（10YR 2/2）礫混じり中粒砂
7．暗褐色（10YR 3/3）中粒砂質細粒砂〈炭化物・焼土含む〉
8．黒色（５Y 2/1）細粒砂質極細粒砂〈レンガ・漆喰片少量含む〉
9．灰黄褐色（10YR 6/2）細粒砂
〈径８～20㎝の礫含む、漆喰片少量含む〉
10．にぶい黄褐色（10YR 4/3）礫混じり細粒砂質極細粒砂
11．オリーブ黒色（5Y 2/2）細礫混じり細粒砂
〈径２～４㎝礫・漆喰・焼土少量含む〉
12．下層：黒褐色（2.5Y 2/2）極細粒砂〈礫かなり含む〉
上層：オリーブ褐色（2.5Y 4/4）細粒砂～中粒砂
13．黒褐色（10YR 2/2）礫混じり中粒砂質細粒砂
14．黒褐色（10YR 3/2）細粒砂
〈径２～４㎝礫少量含む。整地土、焼土含む〉
15．暗褐色（10YR 3/3）細礫混細粒砂〈焼土・炭化物少量含む〉
16．黒褐色（7.5YR 3/1）細礫混細粒砂
〈焼土・炭少量含む。径４～８㎝の礫少量含む〉
17．暗赤褐色（5YR 3/3）極細粒砂～細粒砂〈焼土・炭化物含む〉
18．にぶい黄褐色（10YR 5/3）粗シルト～極細粒砂【竈】
19．褐灰色（10YR 4/1）細礫混細粒砂〈炭化物少量含む〉
20．灰黄褐色（10YR 4/2）細礫混細粒砂【町屋面】
21．赤褐色（5YR 4/5）細粒砂〈焼土、瓦片多量含む〉
22．赤褐色（5YR 4/5）中粒砂混じり細粒砂〈焼土・瓦片多量含む〉
23．暗褐色（10YR 3/3）中粒砂混じり極細粒砂
〈径２～５㎝の礫少量含む〉
24．暗褐色（10YR 3/3）礫混じり砂質シルト
25．黒褐色（10YR 3/2）礫混じり細粒砂
26．オリーブ褐色（2.5Y 4/3）細粒砂質極細粒砂
27．暗灰黄色（2.5Y 4/2）極細粒砂質シルト〈礫・土器混じる〉
28．暗褐色（10YR 3/3）礫混じり砂質シルト〈炭化物少量含む〉
29．にぶい黄褐色（10YR 4/3）礫混じり極細粒砂質シルト
〈焼土・炭化物含む〉
30．暗褐色（10YR 3/4）礫混じり極細粒砂質シルト
〈焼土・炭化物含む〉
31．褐灰色（10YR 4/1）細礫混細粒砂
〈焼土・炭少量含む。径２～６㎝の礫少量含む〉
32．暗褐色（10YR 3/3）礫混じり極細粒砂質シルト
〈焼土・炭化物含む〉
33．黒褐色（10YR 2/3）礫混じり極細粒砂質シルト
34．褐色（7.5YR 4/6）礫混じる中粒砂【焼土層】
35．褐色（7.5YR 4/3）礫混じり極細粒砂〈焼土・炭化物含む〉
36．暗褐色（10YR 3/3）砂質シルト〈炭化物含む〉
37．暗赤褐色（5YR 3/3）中～細粒砂〈焼土・径２～４㎝礫少量含む〉
38．暗赤褐色（5YR 3/3）中～細粒砂〈焼土・径２～４㎝礫少量含む〉
39．赤褐色（5YR 4/6）中粒砂質細粒砂〈焼土多量含む〉
40．オリーブ黒色（5Y 2/2）極細粒砂質細粒砂【整地層】
41．オリーブ黒色（5Y 3/2）細礫混じり細粒砂
42．暗褐色（10YR 3/3）細粒砂〈炭化物少量含む〉
43．オリーブ褐色（2.5Y 4/3）細粒砂質質極細粒砂
44．オリーブ褐色（2.5Y 4/3）粗砂質極細粒砂〈瓦片含む〉
45．暗褐色（7.5Y 3/3）礫混じり極細粒砂質シルト
〈焼土・炭化物・瓦片含む〉
46．赤褐色（5YR 4/6）砂質シルト〈焼土・炭化物少量含む〉
47．暗褐色（7.5YR 3/3）細粒砂質極細粒砂〈２～３㎝の礫含む〉
48．褐色（10YR 4/6）細礫【整地層】
49．暗褐色（10YR 3/3）中粒砂質細粒砂〈炭化物含む〉
50．灰黄褐色（10YR 4/2）中粒砂質細粒砂
51．黒褐色（10YR 3/2）礫混じり中粒砂極細粒砂
52．にぶい黄褐色（10YR 4/3）極細粒砂質シルト〈焼土・礫含む〉
53．暗褐色（10YR 3/4）中粒砂質極細粒砂〈礫含む〉
54．暗褐色（10YR 3/3）シルト質極細粒砂〈黄褐の礫含む〉
55．黒色（2.5YR 2/2）細粒砂質極細粒砂〈焼土含む〉
56．黒褐色（2.5Y 3/2）礫混じり細粒砂質シルト
57．暗灰黄色（2.5Y 4/2）シルト質極細粒砂〈礫・瓦含む〉
58．にぶい黄褐色（10YR 4/3）礫混じり細粒砂質シルト
59．暗褐色（10YR 4/4）細粒砂
60．暗褐色（10YR 3/3）極細粒砂質細粒砂
61．暗褐色（10YR 3/3）細粒砂〈焼土多量含む〉
62．暗褐色（10YR 3/3）礫混じり極細粒砂質シルト
〈炭化物・土器片含む〉
63．にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト質極細粒砂〈焼土・炭化物含む〉
64．オリーブ褐色（2.5Y 4/4）粗砂質極細粒砂
〈瓦片多量含む、炭化物含む〉
65．暗褐色（10YR 3/3）中粒砂質細粒砂〈径２～４㎝の礫少量含む〉
66．黒褐色（7.5YR 3/3）細粒砂〈径２～４㎝の礫・炭化物少量含む〉
67．暗灰黄色（2.5Y 4/2）細粒砂質中粒砂
〈径２～８㎝の礫含む、炭化物含む〉
68．オリーブ黒色（5Y 3/1）細粒砂〈焼土・炭化物含む〉
69．黒褐色（10YR 3/2）細礫細粒砂
〈径２～４㎝礫含む。径６～12㎝礫多量含む。瓦片少量含む〉
70．赤褐色（2.5YR 4/6）細礫混じり粗砂～中粒砂〈焼土・炭化物含む〉
71．赤褐色（5YR 4/6）中粒砂質細粒砂
〈焼土多量含む、径２～４㎝礫・炭少量含む〉
72．暗褐色（10YR 3/4）極細粒砂質細粒砂
〈径２～４㎝の礫少量含む、焼土・炭化物含む〉
73．にぶい黄褐色（10YR 4/3）礫混じり極細粒砂
〈焼土層、下層に炭化物堆積〉
74．暗褐色（7.5YR 3/3）中粒砂〈焼土多量含む〉
75．暗褐色（10YR 3/2）細粒砂〈炭化物多量含む〉
76．褐色（7.5YR 4/4）細礫混じり細粒砂〈焼土・炭化物含む〉
77．にぶい褐色（7.5YR 5/3）中粒砂〈炭化物含む〉
78．灰褐色（7.5YR 4/2）シルト質極細粒砂〈灰層とシルト層の互層〉
79．黒褐色（10YR 3/2）細粒砂〈細礫多量含む〉
80．黒褐色（10YR 3/2）粗砂質細粒砂〈中礫含む〉
81．褐色（10YR 4/6）細粒砂〈細礫多量含む〉
82．暗オリーブ褐色（2.5Y 3/5）細粒砂〈焼土・炭化物含む〉
83．黒褐色（2.5Y 3/2）中粒砂質極細粒砂〈径２～８㎝の礫含む〉
84．暗褐色（10YR 3/2）シルト
〈径６～15㎝の礫少量含む、瓦多量含む〉
85．褐色（10YR 4/4）礫混じり細粒砂
〈上層に焼土多量含む、下層に細礫少量含む〉
86．暗褐色（7.5YR 3/3）中粒砂〈炭化物少量含む〉
87．にぶい黄褐色（10YR 4/3）細粒砂質礫層〈細粒砂主体〉【整地層】
88．にぶい黄褐色（10YR 4/3）礫質細粒砂
89．にぶい黄褐色（10YR 4/3）細粒砂〈細礫多量含む〉【整地層】
90．灰黄褐色（10YR 4/2）細粒砂質極細粒砂〈細礫、炭化物少量含む〉
91．黄褐色（10YR 5/6）細礫混じりシルト〈焼土少量含む〉
92．にぶい黄褐色（10YR 5/4）シルト質極細粒砂
93．にぶい黄褐色（10YR 4/3）粗砂
94．褐色（10YR 4/4）極粗砂
95．にぶい黄褐色（10YR 5/4）細粒砂〈礫多量含む〉
96．灰黄褐色（10YR 4/2）細粒砂【整地層】
97．暗褐色（10YR 3/4）細粒砂〈炭化物多量含む〉
98．暗褐色（10YR 3/3）シルト質極細粒砂
99．にぶい黄褐色（10YR4/5）中粒砂〈径２～４㎝の礫少量含む〉
100．暗褐色（10YR 3/3）細粒砂〈径１～２㎝の礫・炭化物少量含む〉
101．黒褐色（2.5Y3/1）中粒砂質細粒砂
〈径２～６㎝の礫少量含む、炭化物・焼土少量含む〉
102．黄灰色（2.5Y 4/3）細粒砂〈径１～２㎝の礫・炭・土器少量含む〉
103．黒褐色（10YR 3/2）中粒砂～細粒砂
〈径２～６㎝の礫・炭化物少量含む〉
104．褐灰色（10YR 4/1）細礫混細粒砂〈径２～８㎝の礫・炭含む〉
105．暗灰黄色（2.5Y 4/1）細礫混細粒砂〈径２～３㎝礫少量含む〉
106．褐色（7.5YR 4/3）細粒砂質中粒砂〈径２～４㎝の礫少量含む〉
107．暗褐色（10YR 3/4）細粒砂
108．暗褐色（7.5YR 3/4）シルト質細粒砂〈細礫含む〉
109．暗褐色（10YR 3/4）細粒砂〈径２～６㎝の礫少量含む〉
110．暗褐色（10YR 3/2）極細粒砂〈細礫含む〉
111．暗褐色（10YR 3/3）礫混じりシルト質細粒砂
〈炭化物、大礫多量含む〉
112．褐色（10YR 4/4）細礫混じり細粒砂〈細礫から中礫含む〉

２・３区東壁断面図土色

113. にぶい黄褐色（10YR 4/2）礫混じり細粒砂
〈下層に大礫多量含む〉
114. にぶい黄褐色（10YR 4/3）極細粒砂
115. 褐色（7.5YR 4/4）シルト質極細粒砂
116. 褐色（7.5YR 4/3）細礫混じりシルト質極細粒砂
117. 黒褐色（10YR 3/2）細粒砂
118. 褐色（7.5YR 4/3）細粒砂〈炭化物多量含む〉
119. 暗褐色（10YR 3/3）細礫混じり細粒砂
120. 黒褐色（10YR 3/2）細礫混じり細粒砂〈炭化物多量含む〉
121. 黒褐色（10YR 3/2）細粒砂〈細礫含む〉
122. 灰黄褐色（10YR 4/2）細粒砂
123. 暗褐色（10YR 3/3）シルト質礫層〈10～15cmの礫層〉
124. にぶい黄褐色（10YR 4/3）シルト質細粒砂〈細礫含む〉
125. 黒褐色（10YR 3/2）細粒砂
126. 黒褐色（10YR 3/2）極細粒砂
127. 黒褐色（10YR 3/2）極細粒砂
128. 暗褐色（10YR 3/4）シルト混じる細粒砂〈炭化物含む〉
129. にぶい黄褐色（10YR 4/3）細粒砂
130. 暗褐色（10YR 3/3）細粒砂〈炭化物・焼土含む〉
131. 褐色（10YR 4/4）細粒砂
132. にぶい黄褐色（10YR 5/3）粗砂
133. にぶい黄褐色（10YR 4/3）細礫混じり細粒砂〈炭化物含む〉
134. 暗褐色（10YR 3/4）シルト質細粒砂〈細礫含む〉
135. 褐色（10YR 4/6）シルト質細粒砂【整地層】
136. 暗褐色（10YR 3/4）細礫混じり極細粒砂〈炭化物多量含む〉
137. にぶい黄褐色（10YR 4/3）細礫混じり細粒砂〈細礫含む〉
138. 灰黄褐色（10YR 4/2）極細粒砂〈炭化物少量含む〉
139. 暗褐色（10YR 3/3）極細粒砂
140. にぶい黄褐色（10YR 4/3）細礫混じり細粒砂
141. 黒褐色（2.5Y 3/2）粗砂質中粒砂〈径１～２cmの礫含む〉
142. 黒褐色（2.5Y 3/2）中粒砂〈径１～２cmの礫少量含む〉
143. 灰黄褐色（10YR 4/2）細～中粒砂〈径２～４cm礫・炭含む〉
144. 灰黄褐色（10YR 4/2）細礫混細粒砂〈焼土炭少量含む〉
145. 暗灰黄色（2.5Y 4/2）粗砂質中粒砂〈径２～８cmの礫含む〉
146. 黒褐色（2.5Y 3/1）細礫混細粒砂
〈径２～４cmの礫・炭・土器少量含む〉
147. 灰黄褐色（10YR 4/2）中～細粒砂　〈径４～８cm礫・炭含む〉
148. 褐灰色（10YR 4/1）中～細粒砂
〈径１～２cmの礫・炭・土器少量含む〉
149. にぶい黄褐色（10YR 4/3）細礫混細粒砂
〈径２～８cmの礫・炭化物含む〉
150. 黒褐色（10YR 2/2）細粒砂
〈径１～３cmの礫、径６～12cmの礫含む〉
151. 暗灰黄色（2.5Y 4/2）細礫混細粒砂〈径２～６cm礫含む〉
152. 黄灰色（2.5Y 4/1）細粒砂〈径８～12cmの礫含む〉
153. 暗オリーブ褐色（2.5Y 3/3）中粒砂質細粒砂
〈径１～２cmの礫少量含む〉
154. オリーブ褐色（2.5Y 4/3）細礫混細粒砂
〈径６～８cm礫含む。焼土少量含む〉
155. 暗オリーブ褐色（2.5Y 3/3）細粒砂
〈径４～６cm礫・土器片・炭化物少量含む〉
156. 暗灰黄色（2.5Y 5/2）細礫混細粒砂
〈径８～20cmの礫含む。炭少量含む〉
157. 黒褐色（10YR 3/2）細礫混細～中粒砂〈炭少量含む〉
158. 黒褐色（2.5Y 3/2）細粒砂
〈径３～４cmの礫少量含む、炭化物少量含む〉
159. 褐灰色（10YR 4/1）細粒砂〈径１～２cm礫・炭化物含む〉
160. 灰黄褐色（10YR 4/2）細礫混細粒砂〈炭化物・土器片含む〉
161. 暗褐色（2.5Y 3/1）細礫混細粒砂〈径２～４cm礫含む〉
162. 暗褐色（10YR 3/3）細粒砂
〈径２～４cmの礫少量含む、炭化物少量含む〉
163. 暗褐色（10YR 3/3）細粒砂
〈径２～４cmの礫少量含む、土器片・炭化物少量含む〉
164. 暗褐色（10YR 3/4）細粒砂〈炭化物含む〉
165. 暗褐色（10YR 3/3）シルト混じり細粒砂
166. 黒褐色（10YR 3/2）シルト質極細粒砂〈炭化物多量含む〉
167. 褐色（10YR 4/4）細粒砂質中粒砂
168. 暗褐色（10YR 3/4）シルト混じる細粒砂
169. 灰黄褐色（10YR 4/2）細粒砂〈細礫多量含む〉
170. 黒褐色（10YR 3/2）中礫混じり細粒砂
171. 暗褐色（10YR 3/3）シルト質細粒砂〈細礫含む〉
172. にぶい黄褐色（10YR 4/3）極細粒砂
173. 黒褐色（2.5Y 3/2）極細粒砂質細粒砂
〈細礫～大礫多量含む、土器片少量含む〉
174. 黒褐色（10YR 3/2）極細粒砂質細粒砂〈細礫含む〉
175. 暗褐色（10YR 3/3）中礫混じり極細粒砂質シルト
〈細礫多量含む、土器片少量含む〉
176. 暗褐色（10YR 3/3）シルト質細粒砂〈黄橙色（10YR 7/2）のシルト塊を少量含む、細礫～中礫含む〉
177. にぶい黄褐色（10YR 4/3）礫混じり中粒砂質細粒砂
178. 黒色（5Y 2/1）中粒砂質極細粒砂〈炭化物少量含む〉
179. 暗オリーブ褐色（2.5Y 3/3）粗砂質極細粒砂
〈径３～15cmの礫含む〉
180. 黒褐色（2.5Y 3/2）細粒砂
〈径２～４cmの礫少量含む、炭化物少量含む〉
181. 暗オリーブ（2.5YR 3/3）細粒砂
〈径２～４cmの礫少量含む、径８～12cmの礫多量含む〉
182. 暗褐色（10YR 3/4）細礫混じりシルト質極細粒砂
〈細礫含む〉
183. 暗褐色（10YR 3/3）シルト質細粒砂〈炭化物少量含む〉
184. 暗オリーブ褐色（2.5Y 3/3）細粒砂
〈径２～４cmの礫少量含む、炭化物少量含む〉
185. オリーブ黒色（5Y 2/2）中～細粒砂
〈径２～４cm礫・径６～12cm礫含む〉
186. 暗褐色（10YR 3/3）細礫混細粒砂
〈径２～６cm礫多量に含む〉
187. オリーブ黒色（5Y 3/2）中粒砂～粗砂
〈径２～８cm礫多量に含む〉
188. 暗オリーブ褐色（2.5Y 3/3）中粒砂〈径４～８cm礫含む〉
189. 黒褐色（2.5Y 3/2）中～細粒砂
〈径２～４cm礫・炭化物・土器片少量含む〉
190. オリーブ褐色（2.5Y 4/4）細～極細粒砂
〈径１～２cm礫少量含む〉
191. 黒褐色（2.5Y 3/2）細礫混細粒砂
〈炭化物・土器片少量含む〉
192. 暗灰黄色（2.5Y 4/2）細礫混細粒砂〈土器少量含む〉
193. 灰黄褐色（10YR 4/2）細礫混細粒砂
〈径１～４cm礫・土器・炭少量含む〉
194. 灰色（5Y 4/1）シルト～極細粒砂〈炭・土器少量含む〉
195. 灰黄褐色（10YR 4/2）細粒砂
〈径１～２cmの礫・炭・土器少量含む。〉
196. 黒褐色（2.5Y 3/2）細粒砂〈径１～５cmの礫少量含む〉
197. 暗褐色（10YR 3/3）細礫混じりシルト質細粒砂
198. にぶい黄褐色（10YR 4/3）シルト質細粒砂
199. 暗褐色（10YR 3/3）極細粒砂〈細礫含む〉
200. 暗褐色（10YR 3/3）極細粒砂〈細礫含む〉
201. 暗褐色（10YR 3/3）シルト質細粒砂〈中礫含む〉
202. 暗褐色（10YR 3/3）粗粒砂〈炭化物多量含む〉
203. 黒褐色（10YR 2/2）細粒砂〈細礫、炭化物含む〉
204. 暗褐色（10YR 3/3）極細粒砂〈炭化物少量含む〉
205. 暗褐色（10YR 3/4）細粒砂
206. 暗褐色（10YR 3/3）シルト質細粒砂
207. 暗褐色（10YR 3/3）シルト混じり極細粒砂〈炭化物含む〉
208. 褐色（10YR 4/6）シルト質中粒砂
209. 黒褐色（10YR 3/4）シルト質極細粒砂〈瓦多量含む〉
210. 暗褐色（10YR 3/3）極細粒砂〈細礫多量含む〉
211. 黒褐色（10YR 3/2）シルト質細粒砂〈細～中礫含む〉
212. 暗褐色（10YR 3/3）細粒砂〈細礫含む〉
213. にぶい黄褐色（10YR 5/4）中粒砂【整地層】
214. 褐色（10YR 4/4）細粒砂
215. 淡黄色（2.5Y 8/4）礫混じり中粒砂質シルト【整地層】
216. 黄色（2.5Y 8/6）シルト質粗砂
〈細礫～中礫多量含む〉【整地層】
217. 暗褐色（10YR 3/3）細粒砂〈細礫含む〉【整地層】
218. 暗褐色（7.5YR 2/3）細礫混じり細粒砂



第５図　１・３区西壁断面図

１・３区西壁断面図土色

1．暗灰黄色（2.5Y 4/2）粗砂混じり中粒砂〈レンガ、径10cm程度の礫、土器片含む〉
2．黒褐色（10YR3/1）細粒砂〈細礫、焼土、炭化物少量含む〉
3．褐灰色（7.5YR4/1）細粒砂質極細粒砂
4．褐灰色（10YR4/1）細礫混じり細粒砂〈中粒砂、焼土、炭化物少量含む〉
5．オリーブ黒色（5Y3/1）粗砂
6．黒色（2.5Y2/1）細粒砂〈径１～２cmの礫少量含む〉
7．灰褐色（5YR4/2）細粒砂質中粒砂〈細礫～大礫多量含む〉
8．黒褐色（10YR3/2）細礫混じり細粒砂質極細粒砂〈焼土、炭化物含む〉
9．黒褐色（10YR3/1）細礫混じり細粒砂〈焼土、炭化物少量含む〉
10．にぶい黄色（2.5Y6/3）粗砂
11．黒褐色（7.5YR3/1）細粒砂〈炭化物少量含む〉
12．赤灰色（2.5Y4/1）粗砂〈焼土・炭化物多量含む〉
13．黒褐色（7.5YR3/1）細粒砂〈炭化物少量含む〉
14．赤灰色（2.5Y4/1）粗砂〈焼土・炭化物多量含む〉
15．灰褐色（7.5YR4/2）細粒砂〈径２～４cmの礫少量含む、焼土・炭化物少量含む〉
16．黒褐色（7.5YR3/2）礫混じり中粒砂質細粒砂〈炭化物少量含む〉
17．褐灰色（10YR4/1）砂質極細粒砂〈甕埋設〉
18．暗灰黄色（2.5Y5/2）シルト質細粒砂〈細礫～大礫含む〉
19．にぶい褐色（7.5YR5/3）礫混じり細粒砂
20．灰褐色（7.5YR4/2）細礫混じり細粒砂〈炭化物少量含む〉
21．暗褐色（10YR3/3）細礫混じり細粒砂
22．灰黄褐色（10YR 4/2）粗砂混じり中粒砂〈焼土少量含む〉
23．暗褐色（10YR 3/3）粗砂混じり中粒砂〈焼土大量に含む径２～３cmの礫・炭化物含む〉
24．黒褐色（10YR 3/2）中粒砂混じり粗砂〈焼土・径１cm前後の礫・炭化物含む、浅黄色（5Y 7/4）ブロック状に混じる〉
25．黒褐色（10YR 3/2）粗砂混じり中粒砂〈径５～10cmの礫少量含む、焼土・炭化物・浅黄色（5Y 7/4）ブロック状に混じる〉
26．黒褐色（10YR 3/2）中粒砂混じり粗砂〈径３～５cmの礫・焼土・炭化物含む〉
27．黒褐色（7.5YR 3/2）粗砂混じり中粒砂〈径５～10cmの礫含む、炭化物・焼土・褐色（10YR 4/6）ブロック状に混じる〉
28．暗褐色（10YR 3/3）粗砂混じり細粒砂〈径５cm前後の礫含む、焼土・炭化物含む〉
29．にぶい赤褐色（5YR4/4）細礫混じり細粒砂質中粒砂〈焼土多量含む、炭化物少量含む〉
30．赤灰色（2.5YR 4/1）粗砂〈焼土、炭多く含〉
31．黒色（10YR2/1）極細粒砂質細粒砂【炭化物層】
32．褐灰色（5YR 4/1）粗砂
33．黒褐色（7.5YR3/1）細粒砂〈炭化物少量含む〉
34．黒褐色（10YR3/1）細礫混じり細粒砂〈中礫含む、焼土、炭化物少量含む〉
35．灰黄褐色（10YR 4/2）粗砂〈３～18cm大の石・瓦多量に含む〉
36．灰黄褐色（10YR5/2）細粒砂〈焼土少量含む〉
37．灰色（5Y5/1）細粒砂
38．浅黄色（2.5Y7/4）中粒砂質細粒砂〈径１～２cmの礫少量含む〉
39．灰黄褐色（10YR4/2）礫層〈細礫～大礫多量含む〉
40．黒褐色（7.5YR3/1）礫混じり中粒砂質細粒砂〈炭化物少量含む〉
41．灰褐色（7.5YR4/2）細礫混じり細粒砂〈大礫少量含む〉
42．暗灰黄色（2.5Y5/2）粗砂〈細礫～大礫多量含む〉
43．黒褐色（2.5Y3/2）粗砂質中粒砂〈細礫～中礫含む、炭化物少量含む〉
44．暗褐色（10YR 3/3）粗砂混じり中粒砂〈焼土大量に含む、漆喰・径３～５cmの礫・炭化物含む〉
45．黒褐色（2.5Y 3/2）粗砂混じり中粒砂〈瓦片多量に含む、径５cm前後の礫含む、焼土・炭化物混じる〉
46．黒褐色（2.5Y 3/1）中粒砂混じり細粒砂〈径10～15cm礫含む、焼土・炭化物・漆喰含む〉
47．暗オリーブ褐色（2.5Y 3/3）粗砂混じり中粒砂〈径５cm前後の礫・炭化物・焼土・土器片含む〉
48．暗オリーブ褐色（2.5Y 3/3）粗砂混じり中粒砂〈径５～10cmの礫・焼土・炭化物・暗褐色（10YR 3/4）ブロック状に含む〉
49．黒褐色（2.5Y 3/2）粗砂混じり中粒砂〈炭化物・漆喰・多量に含む、径１～３cmの礫少量含む〉
50．黒褐色（2.5Y 3/2）中粒砂混じり細粒砂〈炭化物・土器片・焼土・径２cm前後の礫含む〉
51．オリーブ褐色（2.5Y 4/3）粗砂混じり中粒砂〈径１～３cmの礫・土器片・漆喰・炭化物・木片含む〉
52．黄褐色（2.5Y 5/3）中粒砂混じり粗砂〈径５～10cmの礫・漆喰・炭化物・焼土含む〉
53．暗灰黄色（2.5Y 4/2）粗砂混じり細粒砂〈漆喰・土器片含む〉
54．暗褐色（10YR3/3）礫混じり中粒砂質細粒砂〈炭化物少量含む〉
55．灰黄褐色（10YR4/2）細礫混じり細粒砂〈大礫少量含む〉
56．褐灰色(7.5YR)極細粒砂質細粒砂〈細礫～中礫含む、炭化物含む〉
57．黒褐色（10YR3/1）細礫混じり細粒砂
58．黒褐色（10YR3/2）礫混じり粗砂質細粒砂
59．黒色（10YR1.7/1）炭化物堆積層
60．褐灰色（7.5YR4/1）細礫混じり細粒砂
61．にぶい黄褐色（10YR4/3）細礫混じり極細粒砂質細粒砂
62．黒褐色（10YR3/2）細礫混じり細粒砂
63．褐灰色（10YR4/1）細礫混じり細粒砂〈焼土、炭化物少量含む〉
64．橙色（7.5YR6/6）極粗砂質粗砂〈細礫～中礫多量含む〉
65．黒褐色（10YR4/1）粗砂質細粒砂〈炭化物少量含む〉
66．黒褐色（10YR3/2）細粒砂〈径２～４cmの礫少量含む、炭化物少量含む〉
67．暗灰黄色（2.5Y4/2）細粒砂〈径２～４cmの礫少量含む〉
68．黒色（10YR2/1）極細粒砂質細粒砂〈径２～６cmの礫少量含む、瓦含む〉【ＳＥ3198】
69．黒褐色（7.5YR3/1）極細粒砂
70．にぶい赤褐色（5YR4/4）粗砂〈径３～７cmの礫含む〉
71．暗赤褐色（5YR3/3）極粗砂質粗砂
72．暗灰黄色（2.5Y5/2）極粗砂混じり粗砂〈径～２cmの礫含む〉
73．灰赤色（2.5YR 4/2）極細砂〈焼土、炭多く含〉
74．灰褐色（5YR4/2）粗砂〈焼土・炭化物少量含む〉
75．褐灰色（10YR4/1）細礫混じり中粒砂質細粒砂〈焼土少量含む〉
76．暗褐色（10YR3/3）中粒砂質細粒砂〈焼土、炭化物少量含む〉
77．黒褐色（10YR2/2）細粒砂〈瓦多量含む、細礫少量含む〉
78．黒褐色（10YR3/2）粗砂〈炭化物少量含む〉
79．黒褐色（5YR 3/1）粗砂〈焼土片・炭片含〉
80．灰褐色（7.5YR 4/2）粗砂〈炭片・焼土片少量含む〉
81．褐灰色（7.5YR 4/3）粗砂〈焼土片・瓦片含む〉
82．にぶい黄褐色（10YR 4/3）粗砂〈焼土片・炭片少量含〉
83．褐灰色（7.5YR 4/1）粗砂〈２～５cm大の石含、漆喰片含む〉
84．黒褐色（2.5Y3/2）細礫混じり細粒砂〈焼土、炭化物少量含む〉
85．灰褐色（5YR 4/2）粗砂
86．褐灰色（10YR 4/1）粗砂〈炭含む〉
87．褐色（7.5YR 4/3）粗砂〈層の上位にしっくい片堆積・炭片含む〉
88．灰黄褐色（10YR 4/2）粗砂〈３～20cm大の石・瓦片・陶器片含む〉
89．褐灰色（10YR4/1）細粒砂質中粒砂〈径～２cmの礫少量含む、炭化物少量含む〉
90．黒褐色(10YR3/1)極細粒砂質細粒砂〈径２～６cmの礫少量含む、焼土・炭化物少量含む〉
91．明黄褐色（2.5Y7/4）シルト質極細粒砂
92．黄灰色（2.5Y4/1）中粒砂質細粒砂〈中礫含む、焼土、炭化物少量含む〉
93．明灰黄色（2.5Y4/2）極細粒砂質細粒砂〈細礫、焼土、炭化物少量含む〉
94．黒褐色（10YR3/1）細粒砂〈径２～４cmの礫含む〉
95．黒褐色(2.5Y3/1)極細粒砂質細粒砂〈径２～６cmの礫少量含む〉
96．褐灰色（10YR4/1）細粒砂質中粒砂〈径２～４cmの礫少量含む、焼土少量含む〉
97．黒色（7.5YR2/1）細粒砂質中粒砂〈炭化物含む〉
98．黒褐色（10YR3/1）中粒砂質細粒砂
99．暗オリーブ褐色（2.5Y 3/3）粗砂〈炭少量含む〉
100．褐灰色（10YR 4/1）粗砂〈土器片・炭片含む〉
101．にぶい褐色（7.5YR 5/4）粗砂〈３～10cm大の石・瓦片多量・陶器片少量含〉
102．明赤褐色（2.5YR 5/6）粗砂【焼土層】

１・３区西壁断面図土色

103. 褐灰色（7.5YR 5/1）粗砂〈３～６cm大の石含む〉
104. 黒褐色（5YR 3/1）粗砂〈瓦片含む〉
105. 褐色（7.5YR 4/3）粗砂
106. 灰白色（5Y 8/1）粗砂と褐灰色〈7.5YR 5/1〉の瓦層
107. 灰褐色（7.5YR 5/2）粗砂〈小石混じる〉
108. にぶい赤褐色（5YR 4/3）粗砂
109. 褐灰色（5YR4/1）極粗砂混じり粗砂
110. 灰褐色（5YR 4/2）粗砂〈土器片含〉
111. 黒褐色（7.5YR 3/2）粗砂
112. 黒褐色（7.5YR3/2）細礫混じり中粒砂質細粒砂〈炭化物少量含む〉
113. 黒褐色（7.5YR3/2）細礫混じり細粒砂〈炭化物、焼土少量含む〉
114. 黒褐色（10YR3/2）細礫混じり細粒砂〈炭化物少量含む〉
115. 暗褐色（10YR3/3）細礫混じり細粒砂質中粒砂〈中礫、焼土、炭化物少量含む〉
116. 褐灰色（10YR3/1）極細粒砂質細粒砂〈径～６cmの礫少量含む、炭化物含む〉
117. にぶい黄褐色（10YR4/3）細礫混じり中粒砂質細粒砂〈中礫、炭化物少量含む〉
118. 黒褐色（7.5Y3/1）細礫混じり細粒砂〈炭化物少量含む〉
119. 黒褐色（2.5Y3/1）中粒砂質細粒砂〈中礫、焼土、炭化物少量含む〉
120. 黒色（10YR2/1）細礫混じり細粒砂〈中礫含む、炭化物少量含む〉
121. 黒色（7.5YR2/1）細礫混じり細粒砂質中粒砂〈焼土、炭化物少量含む〉
122. 黒色（7.5YR2/1）細礫混じり細粒砂質中粒砂〈焼土、炭化物少量含む〉
123. 黒褐色（2.5Y 3/1）極粗砂〈炭化物・土器片含む、径２～10cmの礫多量に含む〉
124. 暗灰黄色（2.5Y 4/2）細粒砂〈径１～３cmの石含む〉
125. 黒褐色（2.5Y 3/2）細粒〈炭化物・径１～５cmの石含む〉
126. 暗灰黄色（2.5Y 4/2）粗砂混じり中粒砂〈径２～３cmの礫多量に含む、炭化物・酸化鉄少量混じる〉
127. 柱痕：黄褐色（2.5Y 5/3）粗砂混じり中粒砂〈径２～10cm礫多量に含む、酸化鉄・炭化物・漆喰・焼土含む〉掘形埋土：オリーブ褐色（2.5Y 4/3）細粒砂混じり粗砂〈径１～５cmの礫含む、酸化鉄・炭化物少量含む〉
128. 黄灰色（2.5Y 4/1）粗砂混じり中粒砂〈径１～５cmの礫・炭化物・土器片含む〉
129. 暗灰黄色（2.5Y 4/2）粗砂混じり中粒砂〈炭化物多量に含む、径２～４cmの礫・焼土・土器片少量含む〉
130. 灰黄褐色（10YR 4/2）粗砂混じり中粒砂〈２～15cmの礫・炭化物・黄褐色（2.5Y 5/4）ブロック状に含む〉
131. 褐灰色（10YR4/1）細礫混じり細粒砂
132. 黄灰色（2.5Y4/1）極細粒砂質細粒砂〈細礫～中礫含む、炭化物少量含む〉
133. 灰褐色（7.5YR5/2）シルト質細粒砂〈炭化物少量含む〉
134. にぶい褐色（7.5YR5/3）粗砂〈細礫～大礫多量含む〉
135. 暗灰黄色（2.5Y5/2）細粒砂質中粒砂〈細礫少量含む〉
136. 暗褐色（10YR3/3）礫混じり細粒砂〈炭化物少量含む〉
137. 灰黄褐色（10YR 4/2）細粒砂〈細礫～中礫含む〉
138. 灰黄褐色（10YR4/2）礫混じり極細粒砂質細粒砂〈炭化物少量含む〉
139. 黒褐色（10YR3/2）礫混じり粗砂質細粒砂
140. 褐灰触（10YR4/1）細礫混じり細粒砂
141. 褐灰色（10YR4/1）中粒砂質細粒砂
142. 黒褐色（10YR3/1）細礫混じり細粒砂〈細礫少量含む〉
143. 灰褐色（7.5YR4/2）極細粒砂質細粒砂
144. 褐灰色（10YR4/1）細礫混じり細粒砂〈炭化物少量含む〉
145. 灰色（5Y4/1）粗砂質細粒砂〈細礫～大礫含む〉
146. 灰色（N5/）礫混じりシルト
147. 黒褐色（7.5YR3/2）細礫混じり細粒砂
148. 黒褐色（10YR3/2）細粒砂〈（細礫～中礫多量含む〉
149. 灰褐色（7.5YR4/2）細粒砂〈炭化物少量含む〉
150. 灰褐色（7.5YR4/2）礫混じり細粒砂
151. 柱痕：暗灰黄色（2.5Y 4/2）粗砂混じり中粒砂〈径２～20cmの礫含む、炭化物・土器片含む〉掘形埋土：暗灰黄色（5Y 4/2）中粒砂混じり細粒砂〈酸化鉄・炭化物・径１～３cmの礫少量混じる〉
152. オリーブ褐色（2.5Y 4/3）粗砂混じり細粒砂〈土器片・炭化物・酸化鉄少量含む、黄褐色（2.5Y 5/4）・オリーブ色（5Y 5/4）ブロック状に混じる〉
153. にぶい黄褐色（10YR 4/3）粗砂混じり中粒砂〈炭化物・土器片・酸化鉄・径１～３cmの礫含む〉
154. 暗灰黄色（2.5Y 5/2）細粒砂混じり中粒砂〈炭化物・酸化鉄・土器片少量含む、褐色（10YR 4/4）・オリーブ色（5Y 5/4）ブロック状に混じる〉
155. 黄灰色（2.5Y 4/1）粗砂混じり中粒砂〈炭化物・土器片少量混じる、径１～10cmの礫含む〉
156. 黄灰色（2.5Y 6/1）極細粒砂
157. 暗灰黄色（2.5Y 5/2）細粒砂
158. 暗灰黄色（2.5Y 5/2）径0.5～3.0cmの礫層〈0.5～3cmの礫層〉
159. 灰黄褐色（10YR 5/2）径0.5～5.0cmの礫層〈0.5～5cmの礫層、炭化物含む〉51. 黒褐色（2.5Y 3/1）細粒砂混じり中粒砂〈径１～５cmの礫・酸化鉄含む、黄褐色（2.5Y 5/4）ブロック状に混じる〉
160. 黒褐色（2.5Y3/1）細粒砂質中粒砂〈径１～５cmの礫少量含む〉
161. 暗灰黄色（2.5Y 4/2）粗砂混じり中粒砂〈径３～５cmの礫含む〉
162. 暗灰黄色（2.5Y 4/2）細粒砂〈径0.5～１cmの石多く含む・整地層〉
163. 灰黄褐色（10YR 4/2）径１～10cmの礫層〈１～10cmの礫層〉
164. 暗灰黄色（2.5Y 4/2）極粗粒砂〈径１～３cmの礫含む〉
165. オリーブ褐色（2.5Y 4/3）極細粒砂
166. 暗灰黄色（2.5Y 4/2）極細粒砂
167. 暗灰黄色（2.5Y 4/2）極細粒砂
168. 灰黄褐色（10YR 4/2）細粒砂〈炭化物含む〉
169. 暗褐色（10YR 3/3）極細粒砂〈径２～10cmの礫含む、径１～５cmの粘土含む〉
170. 暗オリーブ褐色（2.5Y 3/3）粗砂混じり細粒砂〈径２～10cmの石含む、明黄褐色（10YR 6/6）土混じる〉
171. 暗灰黄色（2.5Y4/2）極粗砂〈細礫多量含む〉
172. オリーブ黒色（5Y3/1）細礫混じり中粒砂質細粒砂〈明黄褐色（10YR7/6）シルト塊含む〉
173. 灰黄褐色（10YR4/2）細粒砂〈細礫少量含む〉
174. オリーブ黒（5Y3/1）細粒砂質極細粒砂〈炭化物少量含む〉
175. 明黄褐色（2.5Y6/6）粗砂質極粗砂
176. オリーブ黒（5Y3/1）細礫混じり細粒砂質極細粒砂〈炭化物少量含む〉
177. 明黄褐色（2.5Y6/6）粗砂質極粗砂〈中礫少量含む〉
178. オリーブ黒色（5Y3/1）細礫混じり細粒砂質極細粒砂〈炭化物少量含む〉
179. 明黄褐色（2.5Y6/6）粗砂質極粗砂〈中礫～大礫少量含む〉
180. オリーブ黒色（5Y3/1）細礫混じり細粒砂質極細粒砂〈炭化物少量含む〉
181. 褐灰色（10YR5/1）粗砂質細粒砂〈細礫少量含む〉
182. 褐灰色（10YR4/1）細礫混じる中粒砂質細粒砂
183. 褐灰色（7.5YR4/1）細粒砂質中粒砂〈細礫、焼土、炭化物少量含む〉
184. 黒褐色（10YR2/2）中粒砂質細粒砂〈中礫含む、炭化物、焼土少量含む〉
185. 灰黄褐色（10YR4/2）細礫混じり細粒砂〈焼土、炭化物少量含む〉
186. 褐灰色（10YR4/1）細礫混じり中粒砂質細粒砂
187. 黒褐色（7.5YR3/2）細礫混じり細粒砂
188. 灰黄褐色（10YR4/2）中粒砂質細粒砂〈中礫少量含む〉
189. 暗灰黄色（2.5Y4/2）細礫混じり細粒砂〈炭化物少量含む〉
190. にぶい黄褐色（10YR5/3）細礫混じり細粒砂〈中礫、炭化物、土器片少量含む〉
191. 黒褐色（7.5YR 3/1）粗砂〈３～５cm大の石含・炭片少量含む〉
192. にぶい黄橙色（10YR 7/4）粗砂〈炭片・土器片含、５～10cm大の石含む〉
193. 褐灰色（7.5YR 4/1）粗砂〈炭多量に含む〉
194. 黒褐色（10YR3/1）細粒砂質極細粒砂〈細礫、炭化物少量含む〉
195. 灰褐色（7.5YR 4/2）粗砂〈炭多く含む〉

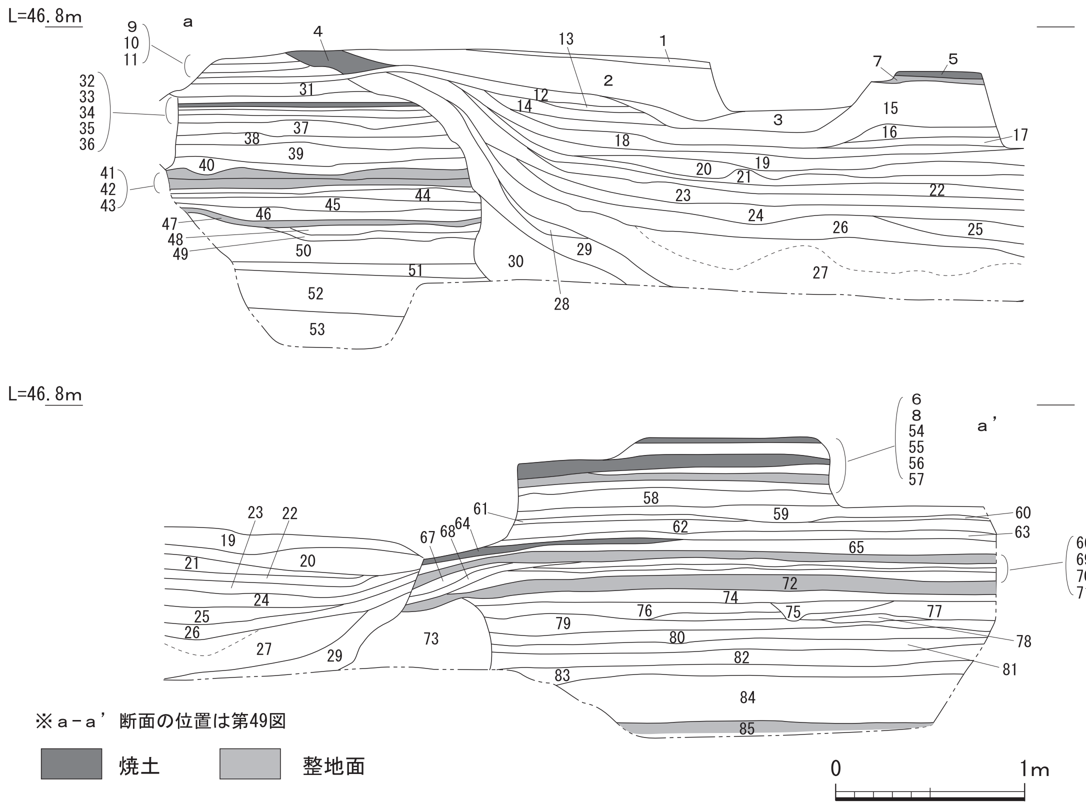
１・３区西壁断面図土色

196. 褐灰色（7.5YR 5/1）粗砂〈炭含む・２～５cm大の石含む〉
197. 黒色（7.5YR 2/1）細砂とにぶい橙色（7.5YR 7/1）粗砂の瓦層
198. 暗灰色（N 3/0）細砂〈炭層〉
199. にぶい赤褐色（5YR 5/4）粗砂〈焼土若干含〉
200. 灰褐色（7.5YR 5/2）粗砂〈３～５cm大の石含む〉
201. 灰黄褐色(10YR3/2)中粒砂質細粒砂〈径１～６cmの礫少量含む〉
202. 黄灰色(2.5Y4/1)細粒砂質中粒砂〈径６～８cmの礫少量含む、炭化物少量含む〉
203. 黄灰色(2.5Y4/1)中粒砂質細粒砂〈径２～６cmの礫少量含む、炭化物含む〉
204. 黒褐色（10YR3/2）細粒砂〈径２～４cmの礫少量含む〉
205. 灰黄褐色（10YR4/2）中粒砂質細粒砂〈径６～12cmの礫含む〉
206. 黒褐色（2.5Y3/1）細粒砂〈径６～８cmの礫多量含む〉
207. 褐灰色（10YR4/1）細粒砂〈径２～４cmの礫少量含む〉
208. 黄灰色（2.5Y4/1）細粒砂〈径１～２cmの礫少量含む、炭化物少量含む〉
209. 黒褐色(2.5Y3/1)極細粒砂質細粒砂〈径１～３cmの礫少量含む〉
210. 暗灰黄色（2.5Y4/2）細粒砂〈径３～６cmの礫少量含む〉
211. 暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)細粒砂〈径２～３cmの礫少量含む〉
212. 褐灰色（10YR4/1）細粒砂〈径２～６cmの礫少量含む〉
213. 黒褐色（10YR3/1）細粒砂〈炭化物少量含む〉
214. 褐灰色（10YR4/1）細粒砂〈径２～４cmの礫少量含む、炭化物少量含む〉
215. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質中粒砂〈径２～４cmの礫少量含む、炭化物少量含む〉
216. 黒褐色（2.5Y3/1）細粒砂〈径２～４cmの礫少量含む〉
217. 黒褐色（2.5Y3/1）中粒砂質細粒砂
218. 暗灰黄色（2.5Y4/2）細粒砂〈径２～４cmの礫少量含む、炭化物含む〉
219. 黒褐色（10YR3/2）細礫混じり細粒砂〈中礫少量含む〉
220. 灰黄褐色（10YR4/2）細粒砂〈中礫～大礫多量含む〉
221. にぶい黄褐色（10YR4/3）細粒砂〈細礫～中礫含む〉
222. 暗灰黄色（2.5Y4/2）中粒砂質細粒砂〈中礫～大礫少量含む〉
223. 黒褐色（10YR2/2）中粒砂〈中礫～大礫多量含む〉
224. 黒褐色（10YR2/3）粗砂〈細礫～中礫多量含む〉
225. 灰黄褐色（7.5YR4/2）中粒砂質細粒砂〈中礫、炭化物、土器片少量含む、鉄分沈着〉
226. 灰黄褐色（10YR5/2）細礫混じり細粒砂〈中礫含む、炭化物、土器片少量含む〉
227. 灰黄褐色(10YR4/2)細粒砂質極細粒砂〈細礫､炭化物少量含む〉
228. 褐灰色（10YR4/1）細粒砂質極細粒砂〈細礫、大礫、土器片、炭化物少量含む〉
229. 暗灰黄色（2.5Y5/2）粗砂質中粒砂〈細礫～中礫多量含む〉
230. 褐灰色（7.5YR4/1）細礫混じり極細粒砂質細粒砂〈土器片、炭化物少量含む〉
231. 褐灰色（10YR4/1）極粗砂質粗砂〈細礫少量含む〉
232-1. 褐灰色（10YR4/1）細礫混じりシルト質中粒砂〈土器片、炭化物少量含む〉
232-2. 暗灰黄色（2.5Y5/2）中粒砂〈下層に褐灰色（10YR5/1）シルト堆積〉
233-1. 褐灰色(7.5YR4/1)粗砂質シルト〈土器片､炭化物少量含む〉
233-2. 黄灰色（2.5Y5/1）シルト質中粒砂〈中礫､炭化物少量含む〉
234. 褐灰色（7.5Y4/2）極細粒砂混じりシルト質中粒砂〈中礫少量含む、鉄分沈着〉
235. 黒褐色（10YR 3/1）粗砂〈炭少量含〉
236. 暗灰黄色（2.5Y5/2）細粒砂〈径２～６cmの礫少量含む、炭化物含む〉
237. 褐灰色（10YR4/1）細粒砂〈細礫～中礫含む〉
238. 灰黄褐色（10YR5/2）中粒砂
239. 黒褐色（2.5Y 3/2）細粒砂〈径１～２cmの石･土師器片含む〉
240. 暗灰黄色(2.5Y 4/2)極細粒砂〈明黄褐色(10Y 6/6)土混じる、土器片含む〉
241. 黒褐色（10YR 3/2）細粒砂
242. 暗褐色(10YR 3/3)中粒砂混じり細粒砂〈径１～５cmの石含む、炭化物・土師器片含む〉
243. 灰黄褐色(10YR 4/2)シルト混じる極細粒砂〈炭化物多く含む〉
244. 暗褐色（10YR 3/3）粗砂混じり極細粒砂〈径0.5～４cmの石・土師器片含む、明黄褐色（10YR 6/6）土混じる〉
245. 暗オリーブ褐色（2.5Y 3/3）粗砂混じり極細粒砂〈径３～15cmの石・炭化物含む、明黄褐色（10YR 7/6）土混じる〉
246. 黒褐色(2.5Y 3/2)シルト混じり極細粒砂〈径１～５cmの石・炭化物含む、明黄褐色（10YR 6/6）土混じる〉
247. オリーブ褐色（2.5Y 4/3）粗砂混じり極細粒砂〈径１～２cmの石・炭化物含む、明黄褐色（10YR 7/6）ブロック状に含む〉
248. にぶい黄褐色（10YR 4/3）細粒砂〈径0.5～３cmの石含む〉
249. オリーブ褐色（2.5Y 4/3）中粒砂
250. 暗オリーブ褐色（2.5Y 3/3）粗砂混じり細粒砂〈径１～３cmの石・炭化物含む〉

第１面は、近代から幕末を中心とした江戸時代後期の遺構検出面である。近現代の建物などの構築物による撹乱が広範に確認され、平面的な検出は部分的であった。１区では撹乱を除去した標高約46.6mの焼土で覆われた出水通検出面を第１面とし、２区は近代以降の造成土を除去した安定面である白色細粒砂整地土を検出した標高46.8mを第１面とし、３区では近代以降の工事撹拌土を除去した安定面の標高約46.2mあたりを第１面とした。

第２面は、江戸時代中期から安土・桃山時代の遺構検出面である。天明の大火に伴う焼土層を含む堆積土を一部を除き、桃山茶陶が確認できる安定面まで重機によって除去した。１区では、標高約45.6mを測り、２区では45.5～45.7m、３区では45.5mである。

第３面は、室町時代から平安時代の遺構検出面である。河川堆積由来の黄褐色シルトないし硬質の礫層であるが、部分的に遺構の良好な残存状況が確認された２区北側や３区北西部などの地点では、第２面以下漸次記録を残し第３面まで掘削した。

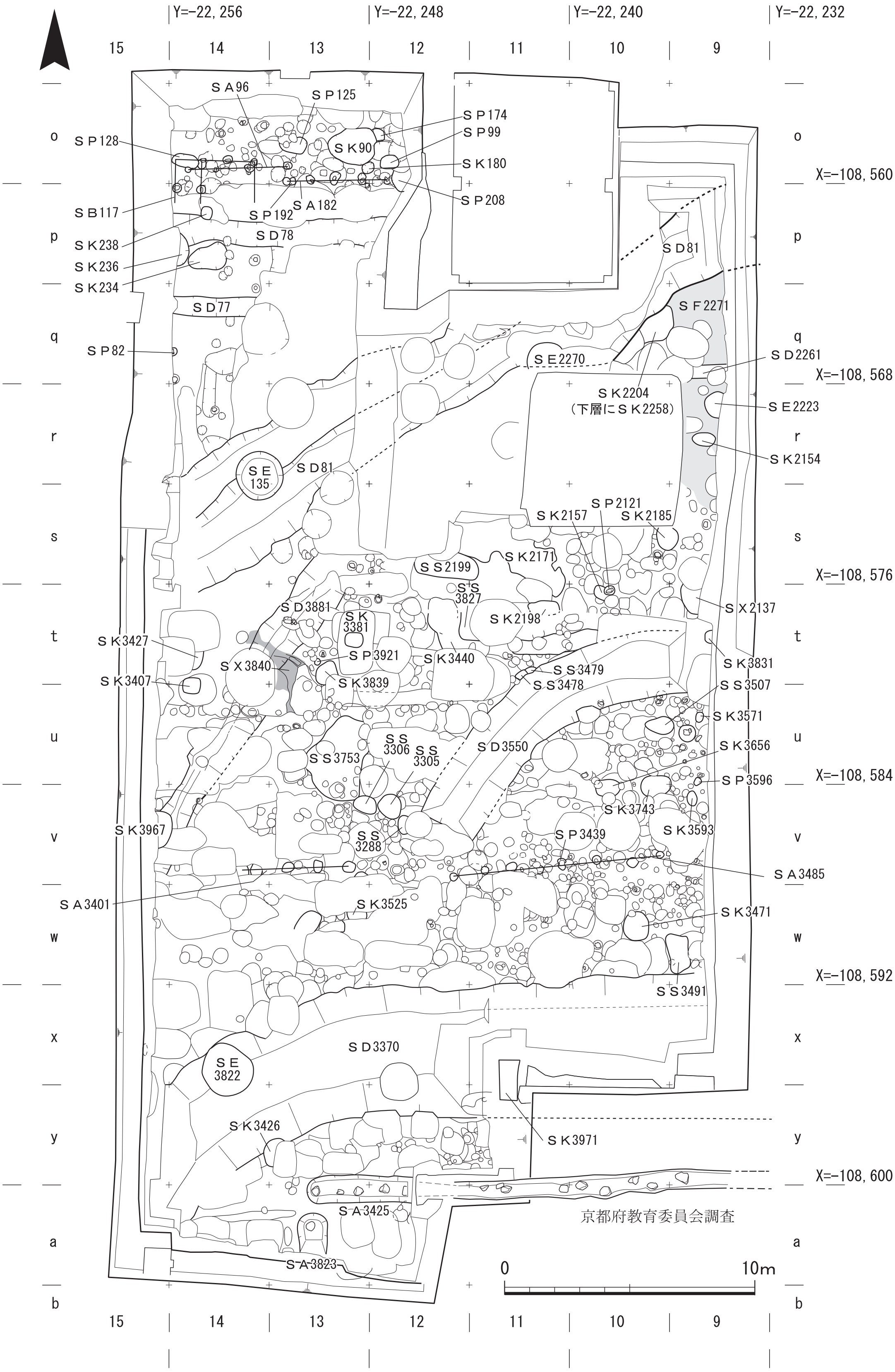


1．黒褐色（10YR 2/2）中～細礫混じり細粒砂
〈炭化物少量含む〉
2．暗褐色（7.5YR 3/3）中～細礫混じり細粒砂
〈ブロック状の焼土、炭化物、貝、花崗岩片、
漆喰少量含む〉
3．暗褐色（10YR 3/3）細礫混じり細粒砂
〈焼土、炭化物少量含む〉
4．赤褐色（5YR 4/6）中～細礫混じり細粒砂
〈焼土多量含む・焼け瓦少量含む〉
5．褐色（7.5YR 4/3）大～中礫混じり粗粒砂【焼土層】
6．黒褐色（10YR 2/2）中～細礫混じり粗～細粒砂【焼土層】
7．にぶい黄褐色（10YR 5/4）細礫混じり細粒砂
〈炭化物少量含む・強固であることから整地面か〉
8．黒褐色（10YR 3/3）中～細礫混じり粗粒砂
〈炭化物、磁器片少量含む〉
9．褐色（7.5YR 4/3）粗～細礫混じり粗粒砂
10．黒褐色（7.5YR 3/2）細礫混じり中～粗粒砂
〈炭化物、0.2～1cm大の角礫少量含む〉
11．暗褐色（10YR 3/2）中～細礫混じり中～粗粒砂
12．黒褐色（7.5YR 3/2）細粒砂混じり粗～細粒砂
〈炭化物、貝片、漆喰少量含む〉
13．にぶい黄褐色（10YR 4/3）中礫混じり細粒砂
〈貝片少量含む〉
14．暗褐色（10YR 3/2）大～中礫混じり細粒砂
〈炭化物、貝片、瓦片少量含む〉
15．にぶい黄褐色（10YR 4/3）細砂～中礫混じり粗粒砂
〈貝片、炭化物、瓦片、漆喰少量含む〉
16．暗褐色（10YR 3/4）中～細礫混じり粗粒砂
〈炭化物含む〉
17．暗褐色（10YR 3/3）細礫混じり粗～細粒砂
〈炭化物、漆喰少量含む〉
18．暗褐色（10YR 3/3）粗～細礫混じり粗～細粒砂
〈炭化物少量含む〉
19．暗褐色（10YR 3/3）粗～細礫わずかに混じる細粒砂
〈焼土、炭化物、漆喰少量含む〉
20．黒褐色（7.5YR 3/2）粗～細礫混じり細粒砂
〈炭化物少量含む〉
21．赤褐色（5YR 4/8）細礫混じり細粒砂
〈焼土多量に含む〉
22．にぶい黄褐色（10YR 5/4）中～細礫混じり粗粒砂
〈炭化物少量含む〉
23．黒褐色（10YR 3/2）中～細礫混じり細粒砂
〈炭化物、焼土少量含む〉
24．暗褐色（10YR 3/3）径1～8cm大の礫混じり細粒砂
〈炭化物少量含む、焼土多量に含む〉
25．褐色（7.5YR 4/3）細礫混じり細粒砂
〈焼土、漆喰少量含む〉
26．暗褐色（10YR 3/3）中～粗礫混じり細粒砂
〈焼土、焼け瓦片、炭化物少量含む〉
27．にぶい褐色（7.5YR 5/4）細礫混じり極細粒砂
〈炭化物少量含む・上位は細礫混じり細粒砂
漆喰、焼土、土器片を含む〉
28．暗褐色（10YR 3/3）中礫混じり細粒砂
〈炭化物少量含む〉
29．黒褐色（10YR 3/2）中～細礫混じり細粒砂
〈漆喰、瓦片含む〉
30．黒褐色（7.5YR 3/2）粗～細礫混じり細粒砂〈漆喰含む〉
31．黒褐色（7.5YR 2/2）粗～細礫混じり粗粒砂
32．黒褐色（10YR 3/2）中～細礫混じり粗～細粒砂
〈炭化物少量含む〉
33．黒色（10YR 1.7/1）粗～細礫混じり粗～細粒砂
【焼土層・天明の大火か】

第6図　1区12～15-p（近衛大路）断面図

１区12～15-p断面図土色

34. にぶい黄褐色（10YR 4/3）粗～細礫混じり細粒砂
35. 褐色（10YR 4/4）細礫混じり粗～細粒砂
36. 暗褐色（10YR 3/3）細礫混じり粗～細粒砂
37. 褐色（10YR 4/4）粗～細礫混じり細粒砂〈土器片少量含む〉
38. にぶい黄褐色（10YR 4/3）粗～細礫混じり細粒砂〈土器片少量含む・やや強固〉
39. 黒褐色（10YR 3/2）粗～細礫混じり細粒砂〈炭化物含む〉
40. 明褐色（7.5YR 5/6）粗～細礫混じり細粒砂〈やや強固〉
41. 暗褐色（10YR 3/3）粗粒砂混じり細粒砂〈強固〉【整地面か】
42. にぶい黄褐色（10YR 5/4）中礫混じり粗～細粒砂〈強固〉【整地面か】
43. にぶい黄褐色（10YR 5/4）粗粒砂混じり細粒砂
44. 暗褐色（10YR 3/3）粗～細礫混じり細粒砂〈やや強固〉
45. にぶい黄褐色（10YR 5/4）中～細礫混じり細粒砂
46. 暗褐色（10YR 3/3）細礫混じり細粒砂〈炭化物少量含む〉
47. にぶい黄褐色（10YR 4/3）粗～細礫混じり粗～細粒砂〈やや強固〉
48. 黒褐色（10YR 3/2）細礫混じり細粒砂〈炭化物、土器片少量含む〉
49. にぶい黄褐色（10YR 4/3）粗～細礫混じり粗粒砂〈土器片少量含む・やや強固〉
50. 暗褐色（10YR 3/3）中～細礫混じり細粒砂〈炭化物、土器片少量含む〉
51. にぶい黄褐色（10YR 4/3）粗～細礫混じり粗～細粒砂〈炭化物、土器片少量含む〉
52. 暗褐色（10YR 3/2）粗～細礫混じり細粒砂
53. 黒褐色（10YR 3/2）シルト質極細粒砂〈炭化物少量含む〉
54. 明赤褐色（2.5YR 5/8）中～粗礫混じる粗～細粒砂〈炭化物、漆喰少量含む〉【焼土層、天明の大火か】
55. 褐色（7.5YR 4/3）粗～細礫混じり中～粗粒砂〈洪水に伴うものか〉
56. 暗褐色（10YR 3/3）中～細礫混じり細粒砂〈焼土少量含む・強固であることから整地面か〉
57. にぶい黄褐色（10YR 4/3）中～細礫混じり粗～細粒砂〈炭化物、土器片少量含む〉
58. 黒褐色（10YR 3/1）中～細礫混じり粗～細粒砂〈焼土、炭化物少量含む〉
59. 黒褐色（10YR 3/2）径１～８cm大の礫多量に混じる粗～細粒砂〈炭化物、焼土含む〉
60. 褐色（10YR 4/4）中～細礫混じり細粒砂〈やや強固〉
61. 褐色（10YR 4/4）中～細礫混じり細粒砂
62. にぶい黄褐色（10YR 4/3）中～細礫混じり粗～細粒砂
63. にぶい黄褐色（10YR 5/4）中～細礫混じり細粒砂〈炭化物含む・やや強固〉
64. 赤褐色（5YR 4/8）中礫混じり細粒砂〈炭化物、焼土少量含む〉
65. にぶい黄褐色（10YR 4/3）中～粗礫混じり粗～細粒砂〈炭化物少量含む〉
66. にぶい黄褐色（10YR 4/3）中礫混じり粗～細粒砂【整地土】
67. にぶい黄褐色（10YR 5/4）中礫混じり粗～細粒砂
68. にぶい黄褐色（10YR 5/4）中礫混じり細粒砂〈炭化物多量含む〉
69. 黒褐色（10YR 3/2）中～粗礫混じり粗～細粒砂
70. にぶい黄褐色（10YR 6/4）細礫混じり粗粒砂
71. 黒褐色（10YR 3/2）中～粗礫混じり細粒砂〈強固〉
72. 黒褐色（10YR 3/2）中～粗礫混じり細粒砂〈上層に礫敷〉【整地土】
73. 攪乱
74. にぶい黄褐色（10YR 5/4）中～粗礫混じり細粒砂〈上層に礫多く含む〉
75. にぶい黄褐色（10YR 5/4）中～粗礫混じり粗粒砂〈炭化物少量含む〉
76. 暗褐色（10YR 3/3）中～細礫少量混じる粗粒砂
77. 黒褐色（10YR 3/2）中～粗礫混じり細粒砂〈炭化物少量含む〉
78. 黒褐色（10YR 3/2）粗礫混じり粗粒砂
79. 黒褐色（10YR 3/2）中～細礫混じり粗粒砂〈炭化物少量含む〉
80. 褐色（7.5YR 4/3）粗～細礫混じりシルト質細粒砂〈炭化物、土器片少量含む〉
81. 黒褐色（7.5YR 3/2）粗～細礫混じりシルト質極細粒砂〈炭化物、土器片少量含む〉
82. 褐色（7.5YR 4/4）中～細礫混じり細粒砂〈土器片、炭化物少量含む・上層は粗粒砂〉
83. 黒褐色（10YR 3/1）中～細礫混じりシルト質極細粒砂〈炭化物、土器片少量含む〉
84. 黒褐色（10YR 3/2）中～粗礫混じりシルト質極細粒砂〈炭化物、土器片少量含む〉
85. 黒褐色（10YR 3/1）中礫混じりシルト質極細粒砂〈炭化物少量含む〉【整地土】



第７図　第３面遺構配置図

６．調 査 概 要

１)検出遺構

(１)平安時代・鎌倉時代の遺構

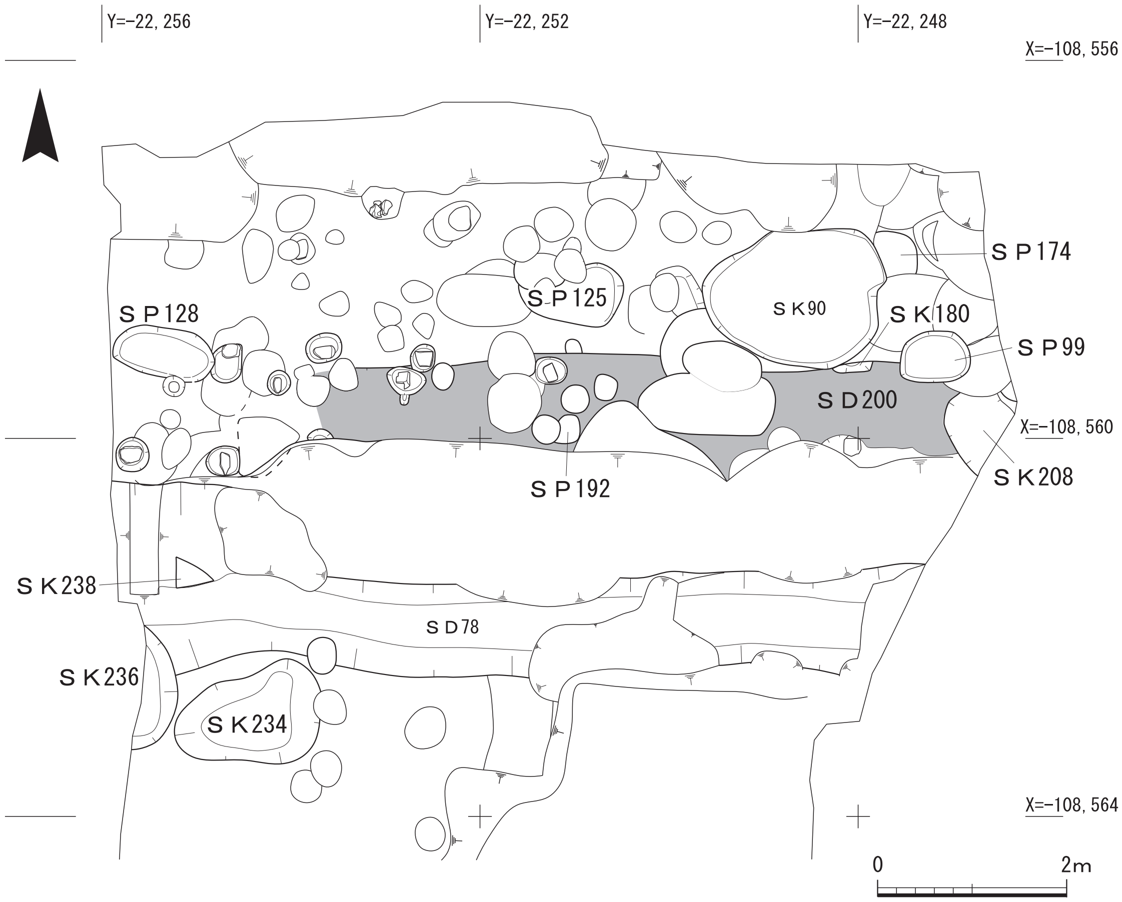
平安時代から鎌倉時代(８世紀～14世紀)の遺構は、第３面で検出した。柱穴、流路、溝、土坑などを検出した。調査地の北側では、近衛大路に付随する道路側溝や巨大な軸摺り石が出土した土坑を検出した。遺物は、土師器・須恵器・瓦質土器・陶磁器・瓦などが出土した。

①柱穴

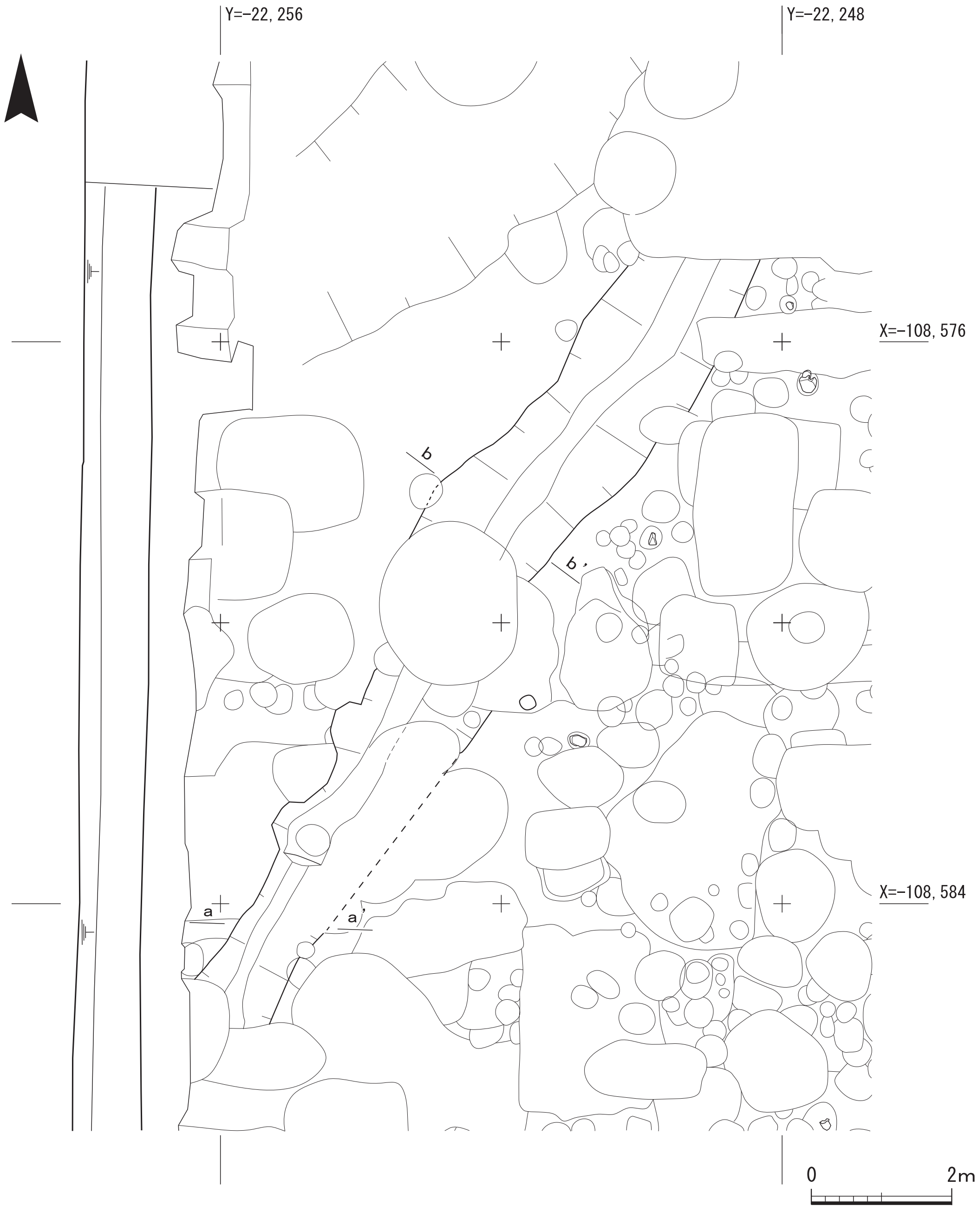
ＳＰ128(第８図)　１区北東(14･15-o)で検出した柱穴である。南北0.59m、東西1.11m、深さ0.17mを測る。埋土は黒褐色中粒砂混じり極細粒砂で、粒径２～３cmの礫を含む。土師器の細片が出土している。11世紀第２四半期(第76図３～11)。

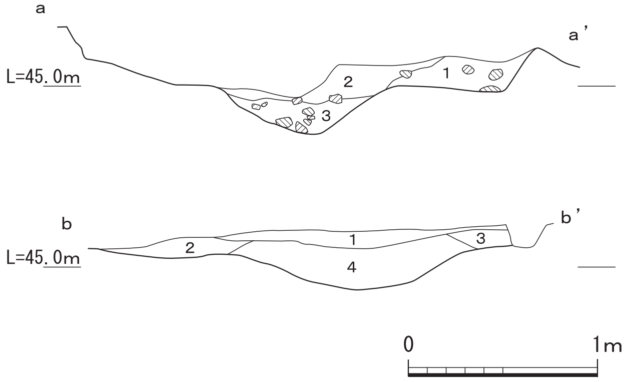
ＳＰ174(第８図)　１区北部(12-o)で検出した柱穴である。南北0.48m、東西0.43m、深さ0.17mを測る。埋土は黒褐色シルト質細粒砂である。柱痕は確認できなかった。土師器皿のほか中国産の白磁、褐釉壺が出土した。10世紀第２四半期(第76図１・２)。

ＳＰ3921(第13図)　３区(13-t)で検出した柱穴である。直径0.2m、深さ0.1mを測る。軒平瓦の瓦当片が出土した(第156図４)。



第８図　第３面１区北半平面図





1．オリーブ褐色（2.5Y 4/4）中粒砂混じり細粒砂
〈径１～10㎝の礫多量に含む。土器片含む〉
2．暗オリーブ褐色（2.5Y 3/3）砂質シルト
〈径１～６㎝の礫含む。炭化物少量含む〉
3．黒褐色（2.5Y 3/2）砂質シルト〈径１～10㎝の礫多量に含む〉

1．オリーブ褐色（2.5Y 4/3）粘土
2．黒褐色（10YR 2/2）中粒砂質シルト
〈オリーブ褐色（2.5Y 4/3）シルト含む〉
3．暗褐色（2.5Y 3/2）シルト質極細粒砂
4．オリーブ黒色（5Y 3/2）粗粒砂質土
〈径1～10㎝の礫含む〉

第９図　ＳＤ3881実測図

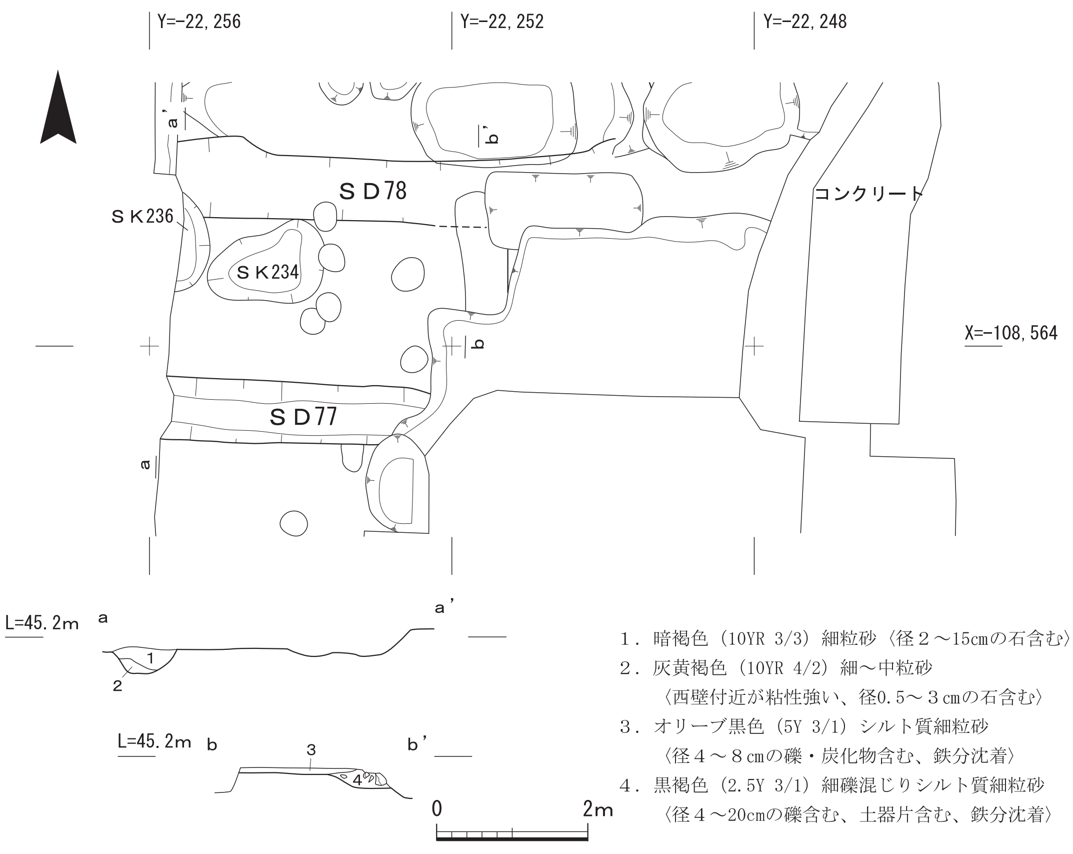
②礫敷

ＳＦ2271（第７図）　２区北東部（9-p~r）で検出した礫敷の道路である。南北6.2m、東西２mを測るが、撹乱による削平を受け北端、西端を確認できない。また、東部は調査区外に続く。遺物の出土はなく明確な時期を特定できないが、地山直上であること、後述するＳＫ2258により削平されていることから同遺構よりも古段階に造成されたと考えられる。黄色の粘土と粒径５cmほどの礫からなり、礫の堆積した地山に張り付くように敷かれている。出土位置から近衛大路と想定される。

③溝・流路

ＳＤ78（第８・10図）　１区北部（13･14-p）で検出した近衛大路の北側道路側溝である。幅は0.91mを測るが、南側は撹乱による削平を受け、北側は後世の遺構により削平されているため、全幅は不明である。検出長は8.74mで、東西いずれも調査地外に延びる。深さは0.31mを測る。土師器を主体として白磁、瓦器、須恵器、羽釜、緑釉陶器、土師質甕などが出土した。12世紀後半（第76図22～56・第155図１～４）。

ＳＤ2261（第７図）　２区中央東（9-q･r）で検出した近衛大路の南側道路側溝である。幅0.77mで2.2mほど検出した。東は調査区外へ続き、西は撹乱により削平を受けているため、確認できない。深さは0.09mを測る。埋土は褐色細礫混じり粗粒砂である。土師器皿や瓦器が出土した。



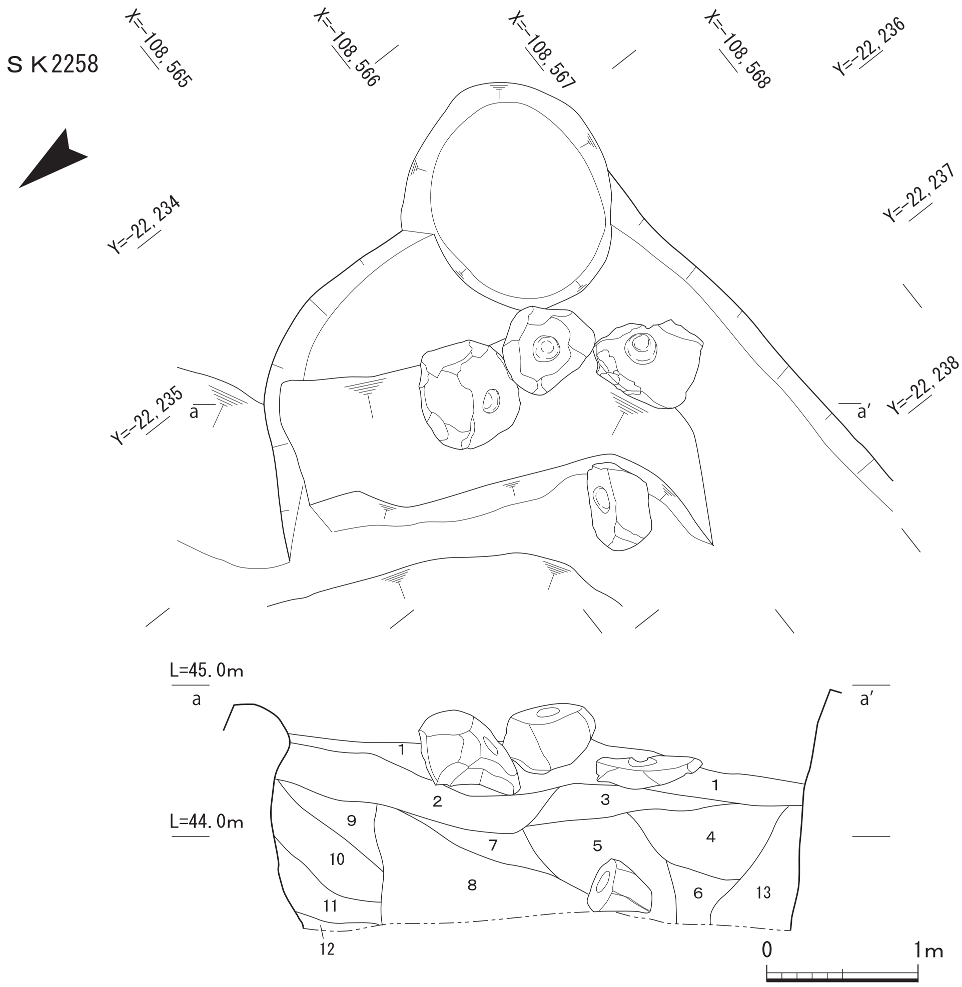
第10図　ＳＤ77・78実測図

12世紀第３四半期(第76図16～21)。

ＳＤ3881(第９図)　３区北西部(13･14-t･u)で検出した流路である。北東から南東にかけてのび、15.98ｍを検出した。幅は1.55ｍ、深さ0.2ｍを測る。土師器皿が出土した。11世紀第３四半期(第76図12～15)。

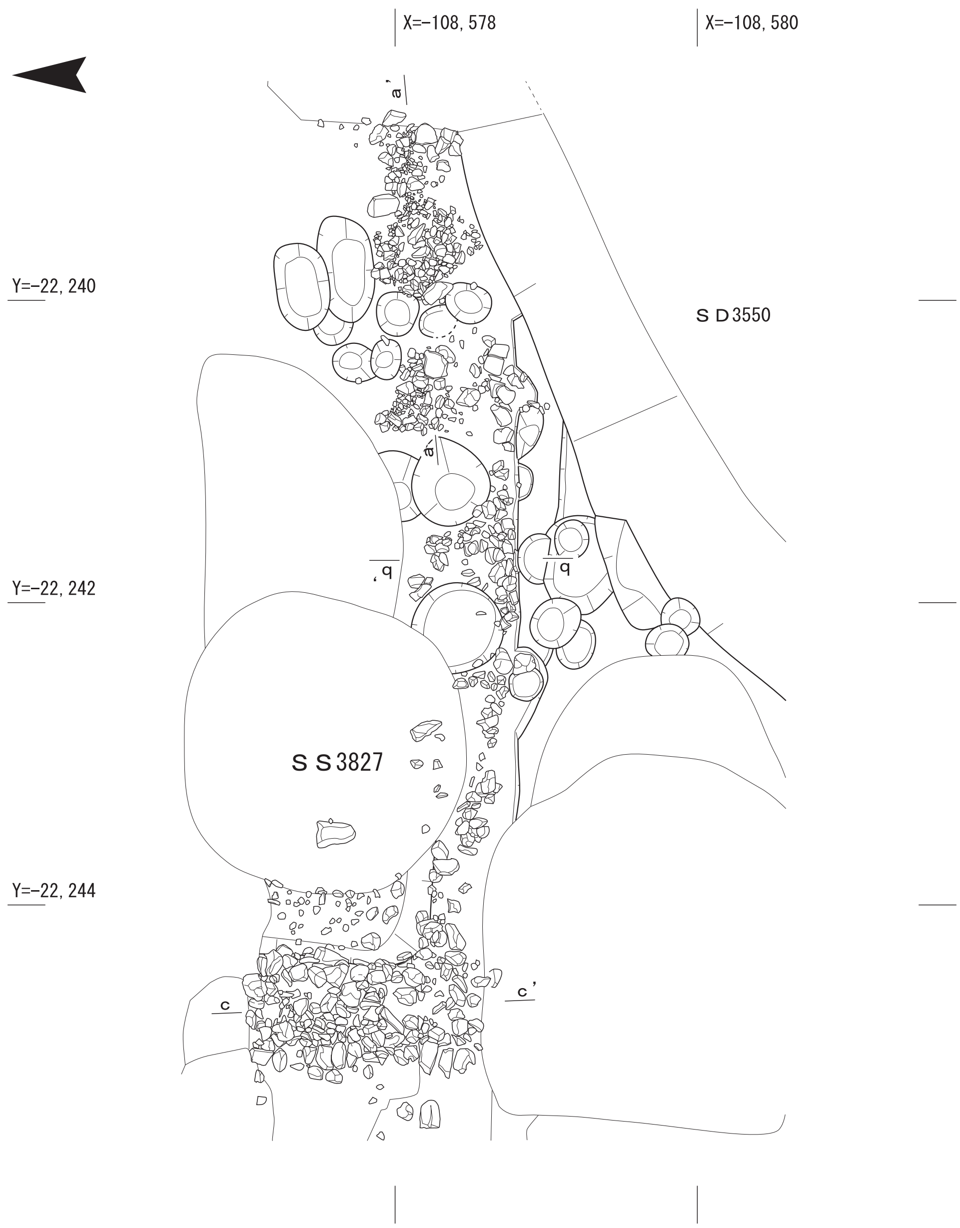
④土坑

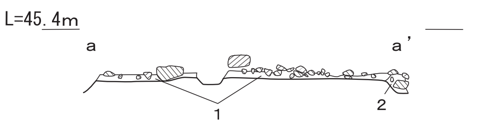
ＳＫ234(第８図)　１区北西部(14-p)で検出した廃棄土坑である。南北1.12ｍ、東西1.49ｍ、深さ0.14ｍを測る。埋土は黒褐色細礫混じり細粒砂で、粒径２～４cmの礫と炭化物を含む。土師

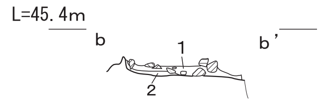


１．黒褐色（10YR 2/3）シルト混じり粗粒砂
２．暗褐色（10YR 3/3）シルト混じり粗粒砂＜径５～10cmの礫多量含む。粘性の強い土層含む＞
３．暗褐色（10YR 3/3）粗粒砂＜径５～10cmの礫含む＞
４．暗褐色（10YR 3/3）シルト混じり粗粒砂＜径３～５cmの礫含む。やや粘質＞
５．暗褐色（10YR 3/3）シルト混じり中粒砂＜径10～20cmの礫含む。粘性強い＞
６．黒褐色（10YR 2/1）中粒砂～粗粒砂＜粘性の弱い砂層＞
７．暗褐色（10YR 3/3）中粒砂～粗粒砂
８．黒褐色（10YR 2/3）シルト含む中粒砂＜径10～20cmの礫多量含む＞
９．暗褐色（10YR 3/4）中粒砂～粗粒砂＜粘性弱い砂層＞
10．暗褐色（10YR 3/3）シルト混じり中粒砂＜径10～20cmの礫多量含む＞
11．暗褐色（10YR 3/3）シルト混じり中粒砂～粗粒砂＜径３cmの礫含む。粘性強い＞
12．暗褐色（10YR 3/3）シルト混じり粗粒砂＜径３cmの礫少量含む。粘性強い＞
13．暗褐色（10YR 3/4）シルト混じり粗粒砂＜径10～20cmの礫含む。やや粘質＞

第11図　ＳＫ2258実測図

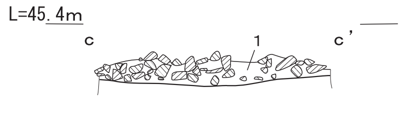




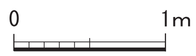


1．暗褐色（10YR 3/3）細粒砂〈径２～５cmの礫多く含む。
　須恵器片・土師器片含む〉
2．暗褐色（10YR 3/4）粗砂混じり極細粒砂

1．灰黄褐色（10YR 4/2）細礫混じり中粒砂
　〈径１～２cmの礫多量に含む〉
2．黒褐色（10YR 3/2）細粒砂〈径１～２cm
　の礫・炭片少量含む〉



1．黒褐色（2.5Y 3/2）細粒砂
　〈径３～12cmの石多量含む。土器片少量含む〉

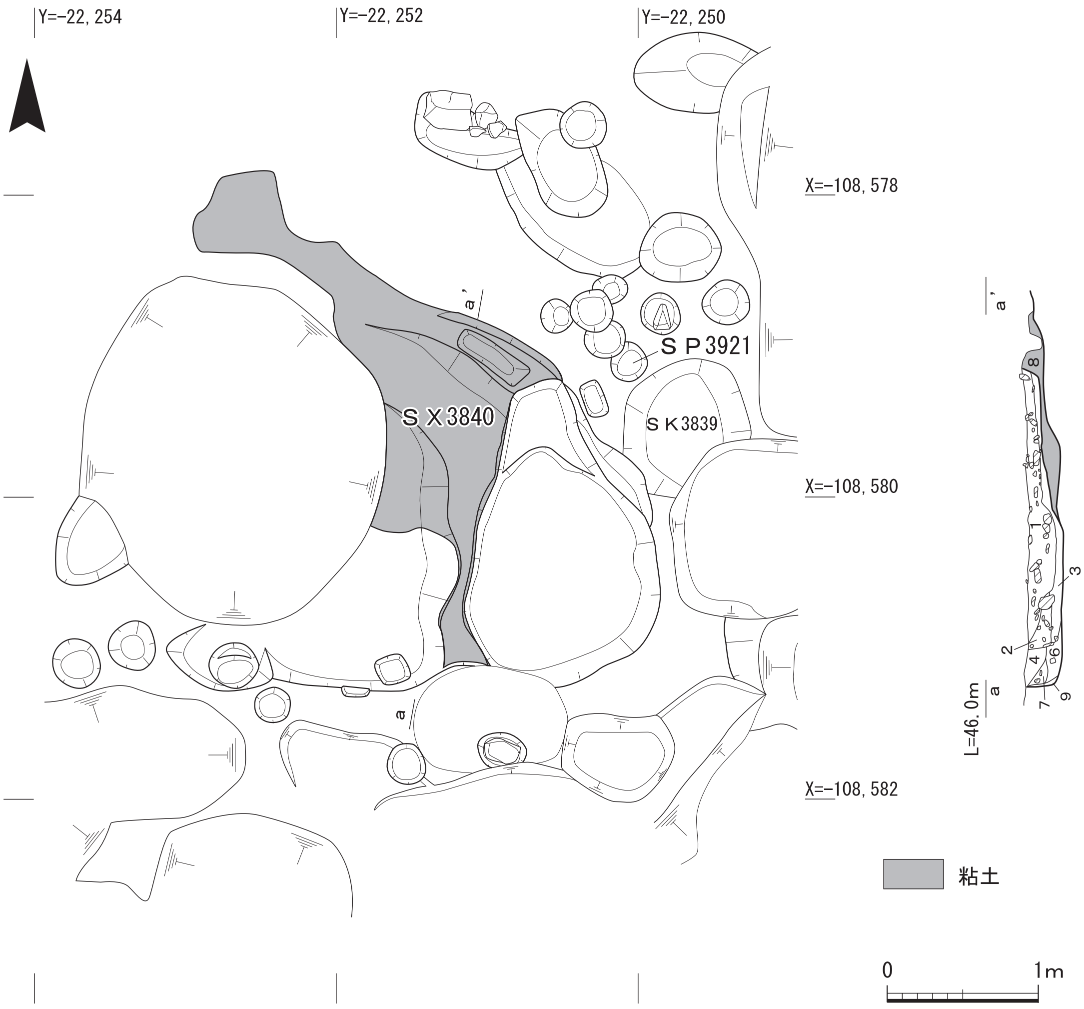


第12図　ＳＳ3827実測図

器、黒色土器が出土した。11世紀第２四半期（第78図１～10）。

ＳＫ238（第８図）　１区北西部（14-p）で検出した廃棄土坑である。南北1.33m、東西0.4m、深さ0.18mを測るが、他の遺構に削平されている。埋土は黒褐色細礫混じり細粒砂である。出土遺物は土師器、緑釉陶器、灰釉陶器、瓦器である。11世紀第２四半期（第78図15～21）。

ＳＫ2258（第11図）　２区北部（9・10-q）で検出した大型土坑である。ＳＫ2204を除去した段階で検出した。南北３m、東西2.5m、を測る。深さは1.5mまでを掘削したが、掘削深度がＧＬより4.5mを超えるため安全を考慮し掘削を断念した。埋土は黒褐色細礫混じり極細粒砂で、粒径２～５cmの礫を含む。土師器、緑釉陶器、灰釉陶器、須恵器、白磁、宋銭などが出土したほか、100kgを超えるものを含む軸摺り石と想定される巨石が４点出土している。10世紀末～11世紀半



１．灰黄褐色（10YR 4/2）中粒砂質細粒砂
〈径３～12cm大の石を多量に含む〉
２．暗褐色（10YR 3/3）極細粒砂質細粒砂
〈径２～５cm大の石を含む〉
３．黒褐色（2.5Y 3/2）極細粒砂質シルト
〈径１～２cm大の石を少量含む〉
４．にぶい黄褐色（10YR 4/3）細礫混細粒砂
〈炭片少量含む〉
５．黒褐色（2.5Y 3/2）細礫混極細粒砂質細粒砂
〈径４～７cm大の石含む〉
６．にぶい黄褐色（10YR 4/3）細粒砂混じり極細粒砂
７．暗褐色（10YR 3/4）細粒砂〈土器片・炭片少量含む〉
８．にぶい黄褐色（10YR 5/4）極細粒砂含むシルト
〈径２～４cm大の石含む〉
９．褐色（10YR 4/4）極細粒砂

第13図　ＳＸ3840実測図

ば(第77図・第155図５・６・第168図、第169図50)。

ＳＫ3188(第29図)　３区(12-v)第２面で検出した円形の土坑である。南北0.7m、東西0.8mを測る。瓦当が出土した(第155図７)。

ＳＫ3204(第29図)　３区(11-v)第２面で検出した円形の土坑である。南北0.65m、東西0.75mを測る。瓦当が出土した(第155図８)。

ＳＫ3525(第７図)　３区中央部(13-w)で検出した土坑である。南北0.3m、東西0.75m、深さ0.1mを測る。土師器皿が出土した。13世紀第１四半期(第78図11・12)。

ＳＫ3839(第７図)　３区中央北部(13-t)で検出した土坑である。南北0.9m、東西0.95mを測る。埋土は暗褐色細粒砂で炭化物を含む。土師器皿が出土した。12世紀前半(第78図13・14)。

⑤集石遺構

ＳＳ3827(第12図)　３区北部(10～12-ｔ)で検出した集石遺構である。南北1.7m、東西6.3mを測る。「凹」形に残存しているが、北東側は削平を受けている。本来は北に延びており、「コ」形をしていたと考えられる。形状から蔵などの建物基礎と想定される。土師器皿、同安窯系の青磁椀などが出土したがいずれも細片である。13世紀第１四半期(第78図22～25)。

⑥その他

ＳＸ3840(第13図)　３区北西部(13･14-t･u)で検出した粘土貼り付け遺構である。南北3.4m、東西2.4mを測る。四方が後年の遺構により削平されていて全容は判然としないが、残存部の中央に長方形のへこみが作出されている。水を制御する目的で造成された遺構と想定される。

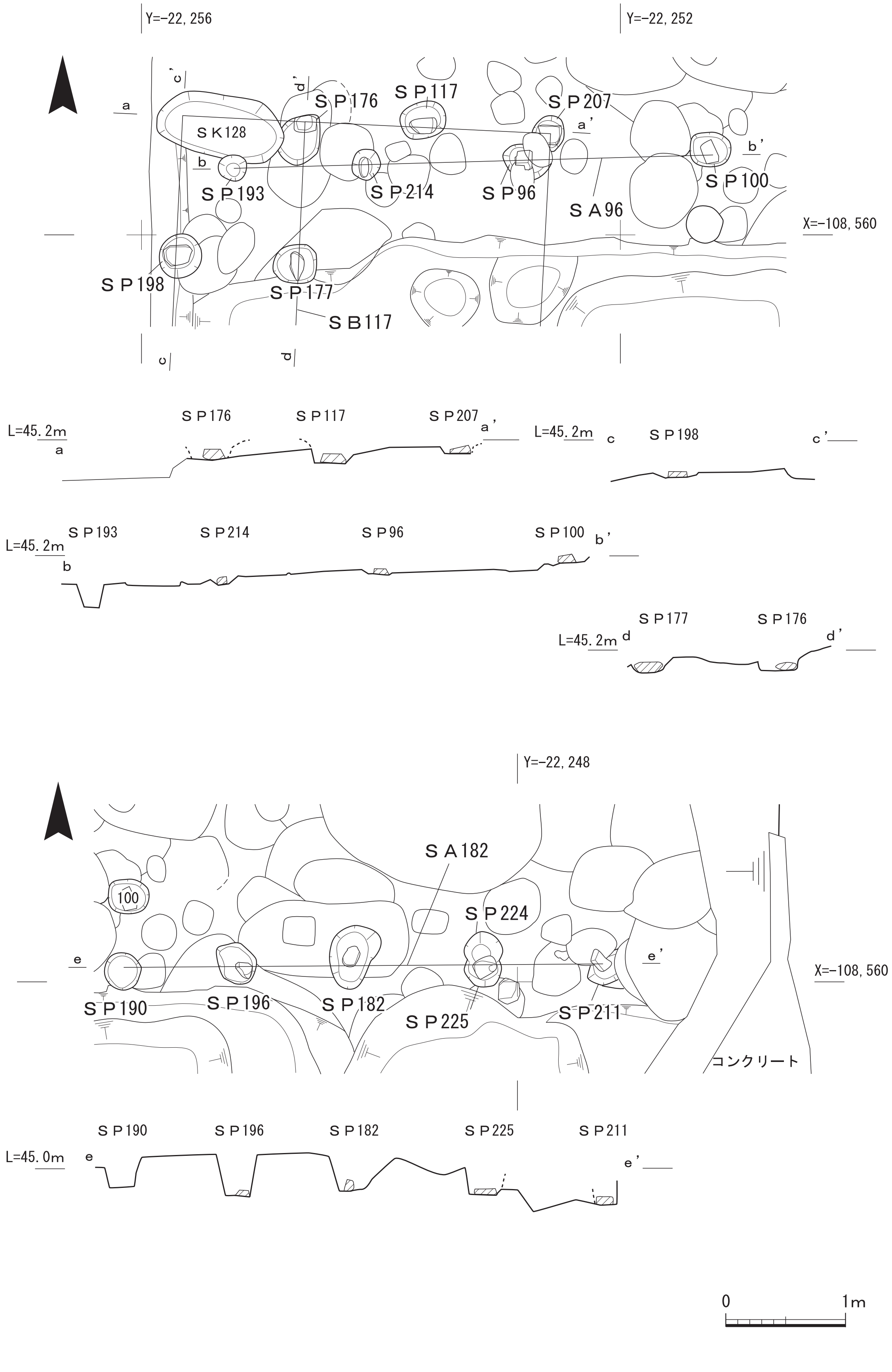
（２）室町時代・戦国時代の遺構

室町時代から戦国時代(14世紀～16世紀)の遺構は第３面で検出した。柱穴列、堀、溝、土坑などを検出した。１区・２区を横断する堀など、合計３条の戦国時代の堀とそれに付随する布堀り柱列、及び１区北部と３区中央で柱列を検出した。土師器・瓦質土器・陶磁器などが出土した。

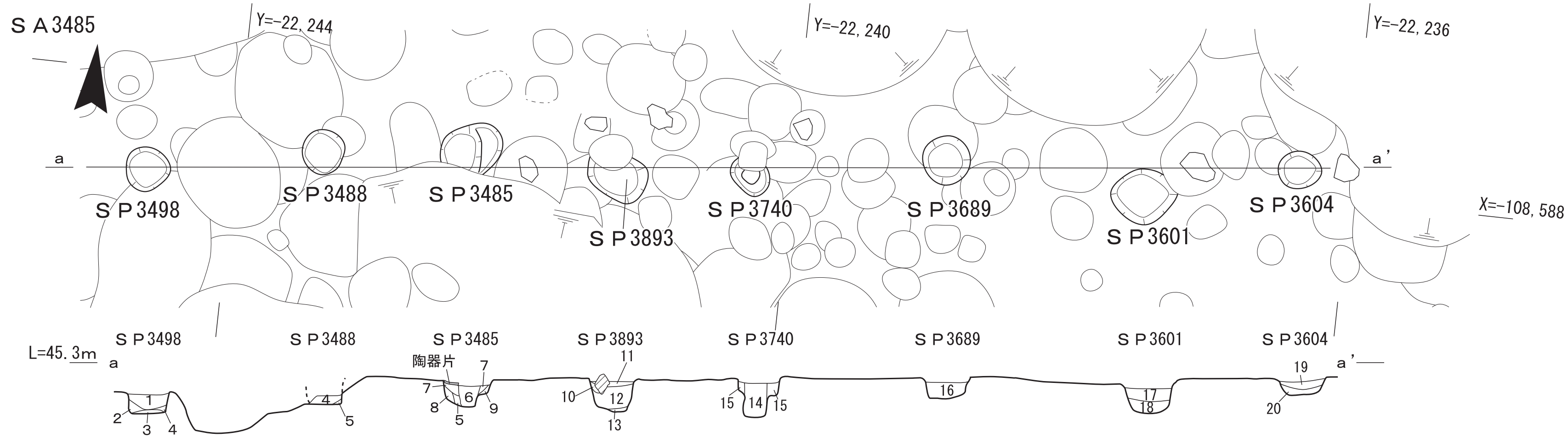
①布堀り柱列・柱列・建物

ＳＡ96(第14図上)　１区北部(13～15-o)で検出した柱列である。長軸である東西方向は4.3mを測る。ＳＡ96は以下の遺構などから構成される。ＳＰ96は１区北部(14-o)で検出した柱穴である。南北0.4m、東西0.25m、深さ0.1mを測る。底部に礎板石と思われる石を据えている。 ＳＰ100は１区北部(13-o)で検出した柱穴である。南北0.27m、東西0.35m、深さ0.1mを測る。埋土は黒褐色の細粒砂質シルトで、粒径２～４cmの礫を少量含む。底部に礎板石と思われる石を据えている。土師器が出土した。16世紀第１四半期(第79図34～36)。ＳＰ193は１区北部(14-o)で検出した柱穴である。南北0.22m、東西0.24m、深さ0.12mを測る。ＳＰ214は１区北部(14-o)で検出した柱穴である。南北0.24m、東西0.26m、深さ0.06mを測る。

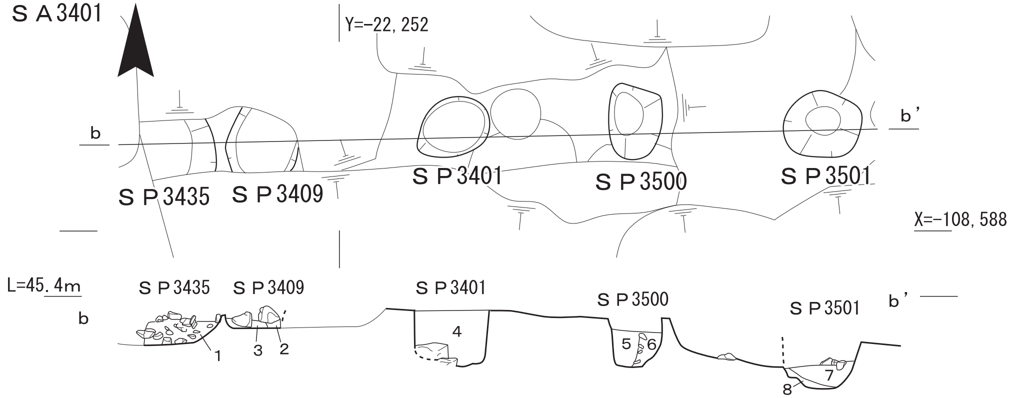
ＳＢ117(第14図上)　１区北部(14･15-o･p)で検出した建物跡である。東西方向は3.1m、南北方向は1.4mを測る。ＳＢ117は以下の遺構から構成される。ＳＰ117は１区北部(14-o)で検出した柱穴である。南北0.3m、東西0.4m、深さ0.05mを測る。底部に礎板石と思われる石を据えている。ＳＰ176は１区北部(14-o)で検出した柱穴である。南北0.42m、東西0.3m、深さ0.08mを測るが、



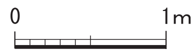
第14図　ＳＡ96・182、ＳＢ117実測図



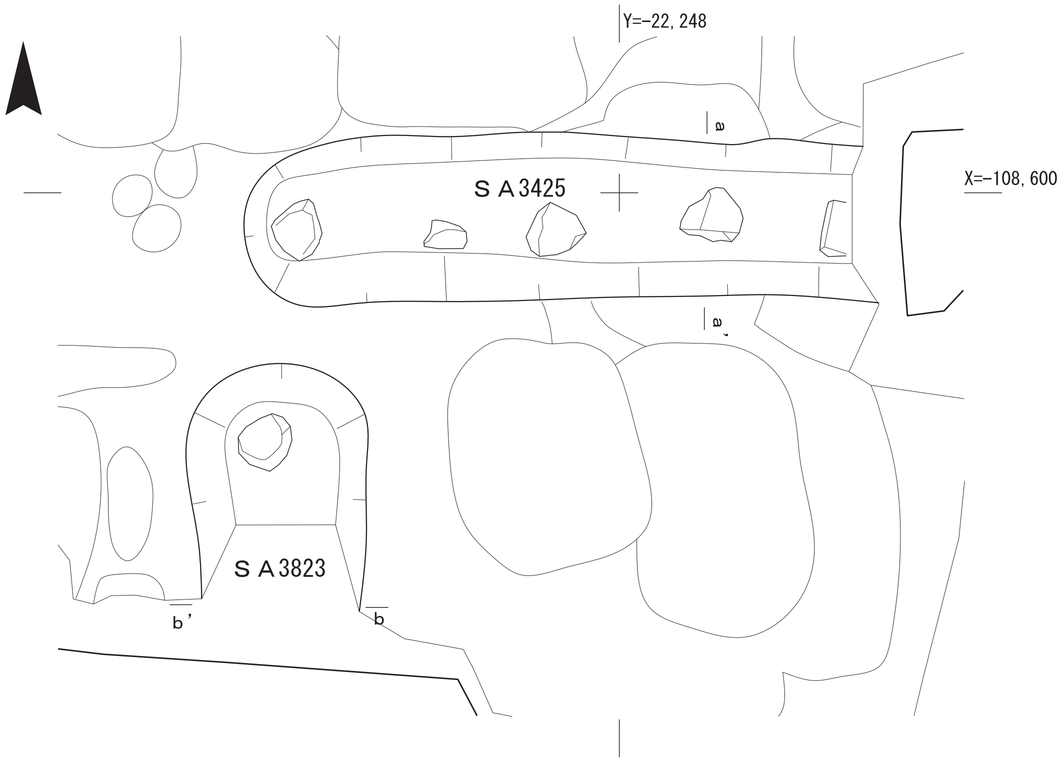
1．暗オリーブ褐色（2.5Y 3/3）細粒砂
〈炭化物・鉄付着物含む。径１～４cm礫含む。〉
2．暗褐色（10YR 3/3）細礫混極細粒砂〈径２cm礫含む〉
3．にぶい黄褐色（10YR 4/3）シルト〈径0.5～１cm礫含む〉
4．暗褐色（10YR 3/3）細礫混極細粒砂〈径１～２cm礫含む〉
5．にぶい黄褐色（10YR 4/3）シルト〈径0.5～１cm礫含む〉
6．暗褐色（10YR 3/3）極細粒砂
〈炭化物・鉄付着物含む。径１～３cm礫含む〉
7．暗オリーブ褐色（2.5Y 2/3）極細粒砂
8．黒褐色（10YR 3/2）細礫混極細粒砂
9．にぶい黄褐色（10YR 4/3）シルト〈径１～３cm礫含む〉
10．黒褐色（10YR 2/2）極細粒砂〈炭化物含む〉
11．黒褐色（10YR 3/2）細礫混極細粒砂〈炭化物含む〉
12．黒褐色（10YR 3/2）細粒砂混極細粒砂
〈炭化物・鉄付着物・径１～３cm礫含む〉
13．にぶい黄褐色（10YR 4/3）シルト
14．黒褐色（10YR 3/2）極細粒砂〈径１～２cm礫含む〉
15．暗褐色（10YR 3/3）極細粒砂〈径１～３cm礫含む〉
16．黒褐色（10YR 3/2）極細粒砂〈径１～３cm礫含む〉
17．暗褐色（10YR 3/3）細礫混極細粒砂
〈径１～２cm礫・炭化物含む〉
18．黒褐色（10YR 3/2）細粒砂〈径１～５cm礫含む〉
19．黒褐色（10YR 2/3）細礫混極細粒砂〈炭化物含む〉
20．にぶい黄褐色（10YR 4/3）細礫混極細粒砂
〈径１～５cm礫含む〉

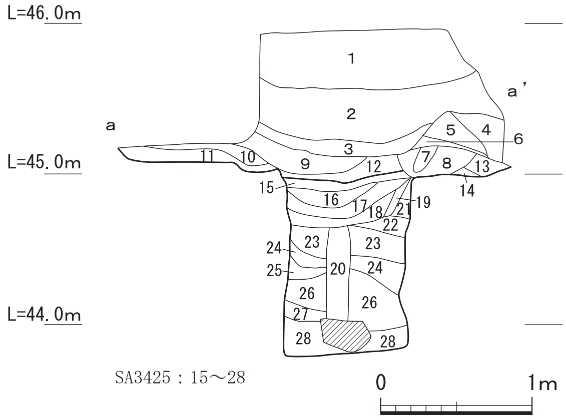


1．黄灰色（2.5Y 4/1）細礫混細粒砂
〈径４～７cm礫含む。土器片・炭化物少量含む〉
2．褐灰色（10YR 4/1）細礫混細～極細粒砂〈鉄沈着〉
3．暗灰黄色（2.5Y 4/2）極細～細粒砂〈鉄沈着〉
4．褐灰色（7.5YR 4/1）細礫混細～極細粒砂
〈径８cm礫・炭化物・土器片少量含む〉
5．黒褐色（10YR 3/1）細礫混細～極細粒砂
〈径２～４cm礫・炭化物少量含む。鉄沈着〉
6．褐灰色（10YR 4/1）細礫混極細粒砂
〈径２cm礫含む。炭化物少量含む。鉄沈着〉
7．黄灰色（2.5Y 4/1）中～細粒砂
〈径２～６cm礫・炭化物少量含む〉
8．にぶい黄褐色（10YR 5/3）中～細粒砂
〈径２～６cm礫少量含む〉



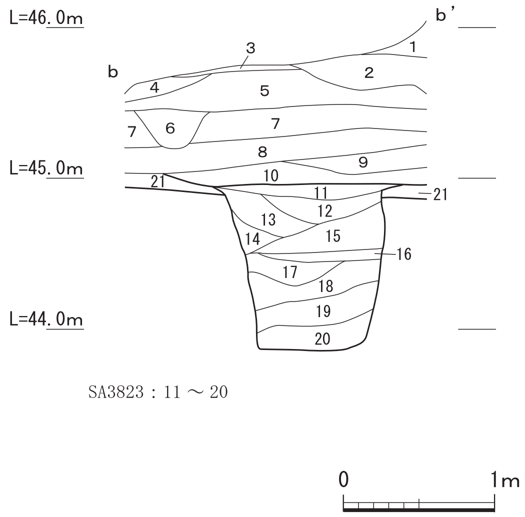
第15図　ＳＡ3485・3401実測図





1．暗褐色（10YR 3/3）細粒砂
〈径３～10㎝の礫多く含む。漆喰・炭化物含む〉
2．黒褐色（10YR 2/2）シルト質極細粒砂〈炭化物多く含む。陶磁器・土師器片少量含む。文明の大火後の廃棄土坑か〉
3．暗褐色（10YR 3/3）細粒砂
〈径２～４㎝の礫・炭化物少量含む〉
4．にぶい黄褐色（10YR 4/3）細粒砂
〈径３～７㎝の礫・土器片少量含む〉
5．黒褐色（2.5Y 3/2）粗粒砂混じり細粒砂
〈径３～５㎝の礫・炭化物少量含む〉
6．黒褐色（10YR 2/2）粗粒砂混じり細粒砂
〈径２～４㎝の礫・土器片少量含む〉
7．灰オリーブ色（5Y 4/2）細粒砂
〈径５㎝大の礫・炭化物少量含む〉
8．オリーブ黒色（5Y 3/2）細粒砂
〈径３㎝大の礫・土器片・炭化物少量含む〉
9．黒褐色（10YR 3/1）細粒砂混じり粗粒砂
〈径３～５㎝礫含む〉
10．暗灰黄色（2.5Y 4/2）粗粒砂混じり中粒砂
〈径１～３㎝の礫・炭化物・酸化鉄少量含む〉
11．黒褐色（2.5Y 3/2）細粒砂混じり中粒砂〈径２㎝の礫含む〉
12．オリーブ黒色（5Y 3/1）中粒砂混じり細粒砂
〈径１～３㎝の礫・炭化物少量含む〉
13．暗オリーブ褐色（2.5Y 3/3）中粒砂混じり細粒砂
〈径２㎝の礫・酸化鉄少量含む〉
14．灰オリーブ褐色（2.5Y 5/3）細粒砂混じり中粒砂
〈炭化物少量含む〉
15．灰色（7.5Y 4/1）粗粒砂混じり細粒砂
〈径0.5㎝大の礫多量含む。径３㎝大の礫少量含む〉
16．暗灰黄色（2.5Y 4/2）粗粒砂混じり中粒砂
〈径３～10㎝の礫多量含む。土器片・炭化物少量含む〉
17．暗オリーブ褐色（2.5Y 3/3）粗粒砂混じり細粒砂
〈径0.5～３㎝の礫含む〉
18．暗灰黄色（2.5Y 4/2）粗粒砂混じり細粒砂
〈径１～３㎝の礫多く含む。土器片・炭化物少量含む〉
19．オリーブ黒色（5Y 3/1）粗砂混じり細粒砂
〈径２㎝大の礫・土器片・炭化物少量含む〉
20．暗灰黄色（2.5Y 4/2）粗粒砂混じり中粒砂
〈径１㎝大の礫・酸化鉄・炭化物少量含む〉
21．黒褐色（2.5Y 3/2）粗粒砂混じり中粒砂
〈土器片・炭化物少量含む〉
22．オリーブ黒色（7.5Y 3/1）粗粒砂混じり中粒砂〈径１～４㎝の礫含む。にぶい黄色（2.5Y 6/4）ブロック状に少量含む〉
23．暗灰黄色（2.5Y 5/2）中粒砂混じり細粒砂
〈径３㎝大の礫含む。酸化鉄・土器片・炭化物含む〉
24．灰オリーブ色（5Y 4/2）細粒砂混じり中粒砂〈径１～５㎝の礫・土器片・炭化物・酸化鉄少量含む〉
25．にぶい黄褐色（10YR 4/3）中粒砂混じり粗砂〈径１㎝大の礫多量含む。径４㎝大の礫少量含む。酸化鉄含む〉
26．灰色（5Y 4/1）中粒砂混じり細砂〈径0.5～１㎝の礫多量含む。径３～５㎝の礫含む。土器片・酸化鉄含む〉
27．オリーブ褐色（2.5Y 4/3）粗粒砂〈径１㎝大の礫含む〉
28．灰オリーブ色（5Y 4/2）細粒砂混じり粗粒砂
〈径２～６㎝の礫多量に含む〉

第16図　S A3425・3823実測図



1．灰黄褐色（10YR 4/2）粗砂〈炭・焼土少量含む〉
2．黒褐色（5YR 2/1）粗砂〈焼土多量含む〉
3．明黄褐色（10YR 7/6）粗砂〈炭少量含む〉
4．黒褐色（10YR 3/1）細粒砂〈炭少量含む〉
5．黒褐色（2.5Y 3/2）細粒砂〈焼土少量含む〉
6．オリーブ黒色（5Y 3/2）細粒砂〈径３～10cmの礫含む〉
7．灰色（5Y 4/1）細粒砂〈炭少量含む〉
8．黄灰色（2.5Y 4/1）細粒砂〈炭・土器片多量含む〉
9．暗オリーブ褐色（2.5Y 3/3）細粒砂〈炭含む〉
10．暗灰黄色（2.5Y 4/2）細粒砂〈炭少量含む〉
11．灰色（5Y 4/1）細粒砂〈炭少量含む〉
12．灰オリーブ色（5Y 5/2）細粒砂〈径４～６cmの礫含む〉
13．オリーブ褐色（2.5Y 4/3）細粒砂〈径５～10cmの礫含む〉
14．暗オリーブ褐色（2.5Y 3/3）粗砂〈径３～５cmの礫含む〉
15．灰黄褐色（10YR 4/2）粗砂〈径３～４cmの礫・炭含む〉
16．褐灰色（10YR 4/1）粗砂
17．礫層〈径５～16cmの礫の堆積〉
18．黒褐色（10YR 3/2）粗砂〈径５cmの礫含む〉
19．にぶい黄褐色（10YR 4/3）粗砂〈径５cmの礫含む〉
20．にぶい黄褐色（10YR 5/4）粗砂〈径４～７cmの礫含む〉
21．暗褐色（10YR 3/4）細粒砂質粘土〈径３cmの礫含む〉

第17図　ＳＡ3823断面図

西部が削平されている。埋土は暗褐色の細礫混じりシルト質細粒砂で粒径２～３cmの礫を含む。底部に礎板石と思われる石を据えている。土師器が出土した。14世紀前半（第79図46）。ＳＰ177は１区北部（14-p）で検出した柱穴である。南北0.37m、東西0.32m、深さ0.09mを測る。埋土は黒褐色の細礫混じり細粒砂で粒径４～８cmの礫を含む。底部に礎板石と思われる石を据えている。ＳＰ198は１区北部（15-p）で検出した柱穴である。南北0.37m、東西0.35m、深さ0.4mを測る。灰黄褐色の細礫混じり細粒砂で粒径２～３cmの礫を含む。土師器皿（第79図45）が出土した。ＳＰ207は１区北部（13-p）で検出した柱穴である。南北0.3m、東西0.28m、深さ0.13mを測る。

ＳＡ182（第14図下）　１区北部（12･13-o）で検出した東西方向の柱列である。検出長は8.6mを測る。ＳＡ182は以下の遺構などから構成される。ＳＰ182は１区北部（12-o）で検出した柱穴である。南北0.52m、東西0.42m、深さ0.28mを測る。須恵器片や褐釉陶器の細片が出土した（第79図38～40）。ＳＰ196は１区北部（13-o）で検出した柱穴である。南北0.34m、東西0.32m、深さ0.31mを測る。土師器皿片が出土した。15世紀前半（第79図37）。ＳＰ211は１区北部（12-o,p）で検出した柱穴である。南北0.3m、東西0.25m、深さ0.36mを測る。ＳＰ225は1区北部（13-o）で検出した柱穴である。南北0.25m、東西0.32m、深さ0.3mを測る。底部に礎板石と思われる石を据えている。埋土は黒褐色のシルト質細粒砂である。

ＳＡ3401（第15図）　３区西部（13･14-v）で検出した柱列である。東西方向は4.25mを測る。柱列を構成するＳＰ3401は３区中央部（13-v）で検出した柱穴で、南北0.38m、東西0.47m、深さ0.7ｍを測る。埋土は暗褐色の細礫混じり細粒砂で粒径６cm程の礫と炭化物を少量含む。土師器皿が出土した。また、ＳＰ3409は南北0.5m、東西0.45m、深さ0.1ｍを測る柱穴であるが、他の遺構に削平され全体の規模は確認できない。埋土は黒褐色細礫混じり細粒砂で、粒径２～６cmの礫と炭化物を少量含む。土師器皿、白磁が出土した。15世紀前半（第79図41～44）。

ＳＡ3425（第16図）　３区（12・13-ｙ）で検出した布堀り柱列である。短軸の南北幅は1.13mを測り、長軸の東西幅は4.3mを測るが、調査区外東側に続くため全容は判然としない。深さは1.2

mを測る。ＳＡ3823の北東に位置し、一連の遺構であったと想定できる。遺構の深さから頑強な塀などの基礎であった可能性がある。当調査地東側で行われた京都府教育委員会の立ち合い調査で、ＳＤ3425が東に続くことが確認されている（第７図）。この部分の詳細については、同教育委員会の報告を参考にされたい。土師器皿や瀬戸産や常滑産の陶器が出土した。15世紀末～16世紀初頭（第79図１～18）。

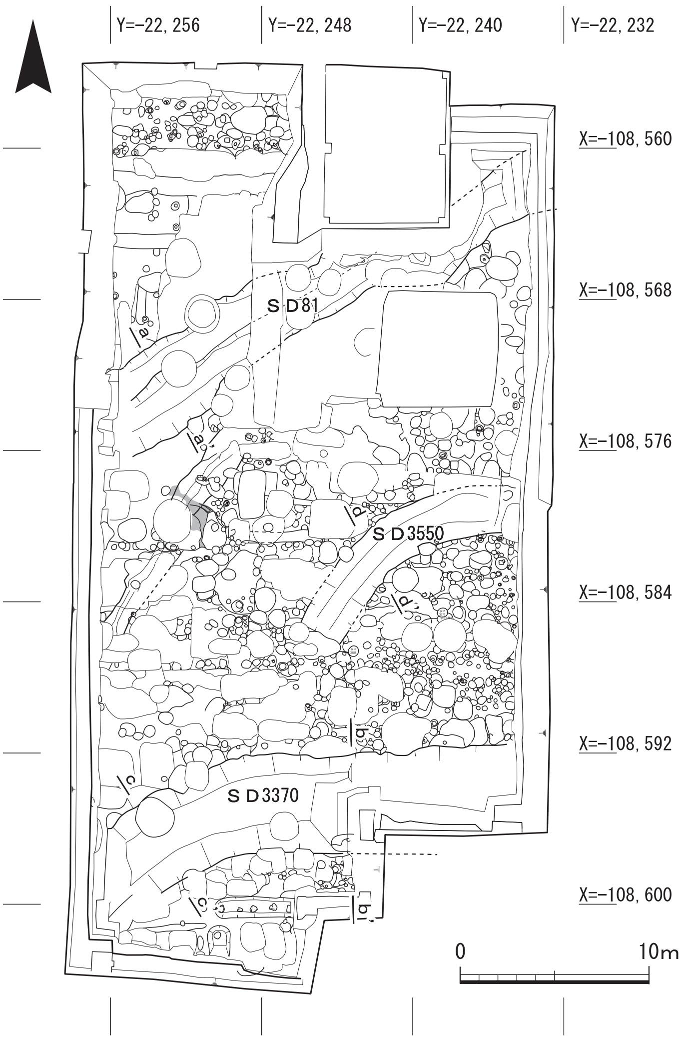
ＳＡ3485（第15図）　３区東部（9～12-v）で検出した柱列である。長軸である東西方向は8.75mを測る。ＳＡ3485は以下の遺構などから構成される。ＳＰ3485は３区中央付近（11-v）で検出した柱穴である。南北0.3m、東西0.45mを測るが後年の遺構により削平されている。深さ0.2mを測る。土師器皿が出土した。14世紀末～15世紀前半（第79図31～33）。ＳＰ3689は３区中央東（10-v）で検出した柱穴である。南北0.35m、東西0.32m、深さ0.16mを測るが後年の遺構により削平されている。土師器皿が出土した。15世紀前半（第79図29・30）。ＳＰ3740は３区中央付近（11-v）で検出した柱穴である。南北0.3m、東西0.3m、深さ0.3mを測るが後年の遺構により削平されている。土師器皿が出土した。15世紀前半（第79図28）。

ＳＡ3823（第16・17図）　３区南部（13-a）で検出した布堀り柱列である。長軸である南北方向は1.8mを測るが調査区外に続く。短軸の東西幅は１mを測る。深さは1.1mを測る。ＳＡ3425の南西に位置し、一連の遺構であったと想定できる。遺構の深さから頑強な塀などの基礎であった可能性がある。土師器皿の細片が出土した。15世紀末～16世紀初頭（第79図19～27）。

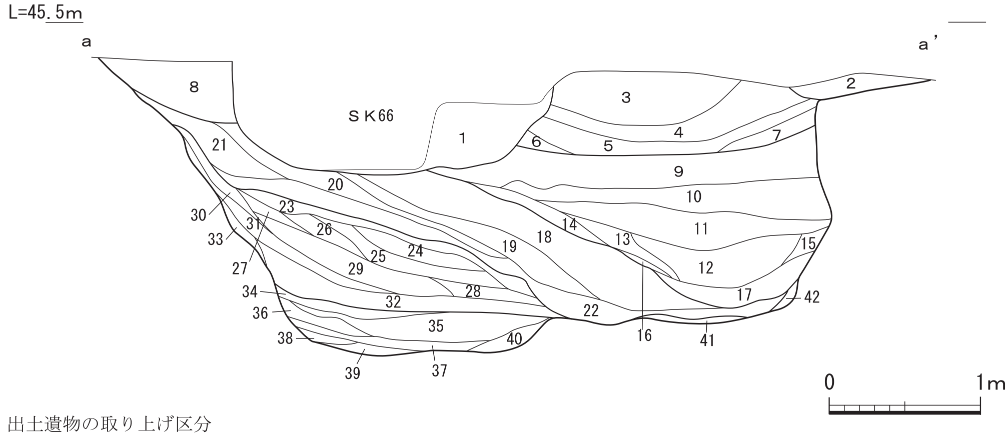
②柱穴

ＳＰ82（第７図）　１区（14-q）で検出した柱穴である。直径0.3m、深さ0.1mを測る。底部に底板石を据える。朝鮮通寳が出土した（第169図25）。

ＳＰ99（第８図）　１区北部（12-o）で検出した柱穴である。南北0.55m、東西0.7m、深さ0.2mを測る。土師器が出土した。16世紀後半（第79図61）。



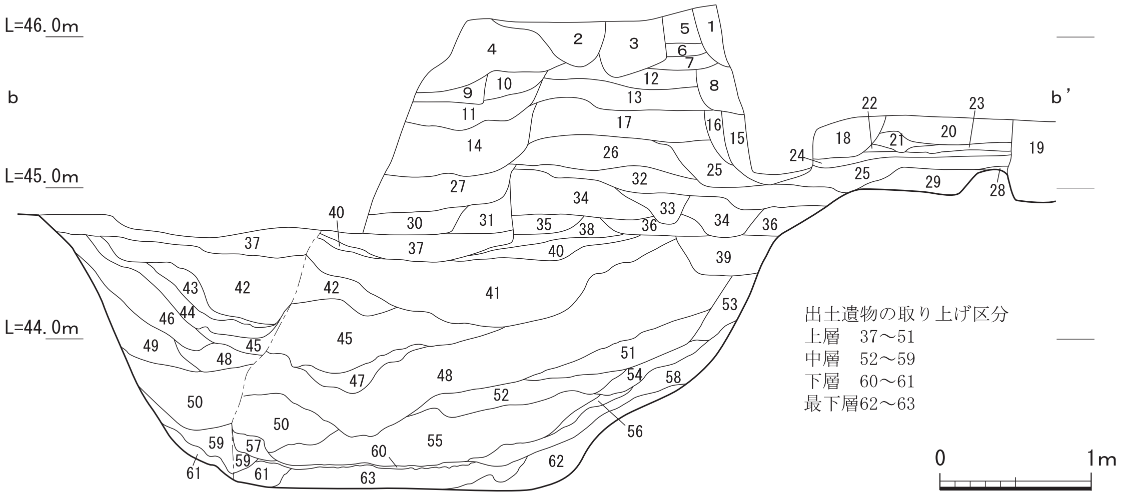
第18図　堀断面位置図



出土遺物の取り上げ区分
第１層３～８　第２層９～17　第３層18～22、41、42
第４層23～33　第５層34～36　第６層37～40

1．灰黄褐色（10YR 4/2）細礫混じりシルト質中粒砂
〈径２～４cm大の礫含む・ＳＫ66の埋土〉
2．暗褐色（10YR 3/3）細礫混じり中粒砂質細粒砂
〈径２～４cm大の礫、土器片含む〉
3．暗褐色（10YR 3/4）細礫混じり中粒砂
〈径２～６cm大の礫、土器片少量含む〉
4．暗褐色（10YR 3/3）細礫混じり中粒砂質細粒砂
〈径６～10cm大の礫含む〉
5．暗褐色（10YR 3/4）細礫混じり中粒砂質細粒砂
〈径４～６cm大の礫含む〉
6．暗オリーブ褐色（2.5Y 3/3）中粒砂質細粒砂
〈径１～２cm大の礫含む〉
7．黒褐色（10YR 3/2）中粒砂質細粒砂
〈径１～２cm大の礫含む〉
8．にぶい黄褐色（10YR 4/3）細礫混じり粗砂質中粒砂
〈６～12cm大の礫含む〉
9．暗褐色（10YR 3/4）中粒砂質細粒砂
〈径0.5～３cm大の礫少量含む。土器片含む〉
10．暗褐色（10YR 3/3）中粒砂質細粒砂
〈径0.5～３cm大の礫少量含む〉
11．黒褐色（10YR 2/3）中粒砂混じりシルト質細粒砂
〈径１～２cm大の礫少量含む・炭化物含む・鉄分沈着〉
12．黒褐色（10YR 2/3）細礫混じりシルト質細粒砂
〈径８～12cm大の礫、炭化物含む〉
13．暗褐色（10YR 3/3）シルト質極細粒砂
〈径２～４cm大の礫少量含む、炭化物・土器片含む〉
14．黒褐色（2.5Y 3/2）細礫混じり中粒砂質細粒砂
〈径１～２cm大の礫・炭化物・土器片含む〉
15．黒褐色（10YR 3/2）中粒砂質細粒砂
〈径２～３cm大の礫少量含む〉
16．暗オリーブ褐色（2.5Y 3/3）シルト質細粒砂
17．灰黄褐色（10YR 4/2）中礫混じりシルト質極細粒砂
〈径８cm大の礫少量含む・炭化物含む・マンガン沈着〉
18．黒褐色（2.5Y 3/2）シルト質細粒砂
〈径４～12cm大の礫多量に含む〉
19．暗褐色（10YR 3/3）細礫混じりシルト質細粒砂
〈径４～７cm大の礫、炭化物、土器片含む〉
20．黒褐色（10YR 3/2）細礫混じり極細粒砂質中粒砂
〈径１～３cm大の礫少量含む・土器片含む〉
21．暗褐色（10YR 3/3）細礫混じり極細粒砂質細粒砂
〈径１～３cm大の礫少量含む〉
22．黒褐色（10YR 3/2）細礫混じり極細粒砂質細粒砂
〈径１～３cm大の礫少量含む。土器片含む〉
23．にぶい黄褐色（10YR 4/3）細礫混じり細粒砂質中粒砂
〈径１～３cm大の礫少量含む。土器片含む〉
24．褐色（10YR 4/4）中粒砂質礫
〈径１～２cm大の礫多量に含む。鉄分沈着〉
25．黒褐色（10YR 3/2）中粒砂質礫
〈径1.5～４cm大の礫多量に含む〉
26．暗褐色（10YR 3/3）粗砂質礫
〈径２～４cm大の礫多量に含む〉
27．にぶい黄褐色（10YR 4/3）粗砂質中粒砂
〈径１～２cm大の礫少量含む〉
28．暗褐色（10YR 3/3）シルト質中粒砂
〈径８～12cm大の礫含む〉
29．褐色（10YR 4/4）シルト質細粒砂
〈径２～６cm大の礫多量に含む〉
30．にぶい黄褐色（10YR 4/3）粗砂質中粒砂
〈径１cm大の礫少量含む〉
31．暗褐色（10YR 3/3）細礫混じりシルト質細粒砂
〈径２～４cm大の礫少量含む〉
32．黒褐色（10YR 2/3）極細粒砂質シルト
〈径４～20cm大の礫少量含む。炭化物含む〉
33．暗褐色（10YR 3/3）細礫混じりシルト質細粒砂
〈径２～４cm大の礫少量含む〉
34．暗褐色（10YR 3/4）細礫混じり粗砂
〈径４～６cm大の礫少量含む〉
35．暗褐色（10YR 3/3）細礫混じりシルト質細粒砂
〈径２～4cm大の礫少量含む。炭化物・土器片含む〉
36．にぶい黄褐色（10YR 4/3）細礫混じりシルト質細粒砂
〈径１～４cm大の礫少量含む〉
37．褐色（7.5YR 4/4）粗砂
〈径１～２cm大の礫少量含む。鉄分沈着〉
38．暗褐色（7.5YR 3/3）細礫混じりシルト質細粒砂
〈径２～３cm大の礫少量含む〉
39．灰黄褐色～にぶい黄褐色（10YR 4/2）泥質シルト
〈径１～２cm大の礫少量含む〉
40．暗褐色（10YR 3/3）シルト質中粒砂
〈径２～４cm大の礫少量含む。炭化物含む〉
41．暗褐色（10YR 3/3）極細粒砂質粗砂
〈径４～６cm大の礫含む〉
42．暗褐色（10YR 3/3）極細粒砂質粗砂
〈径４～６cm大の礫含む〉

第19図　ＳＤ81実測図

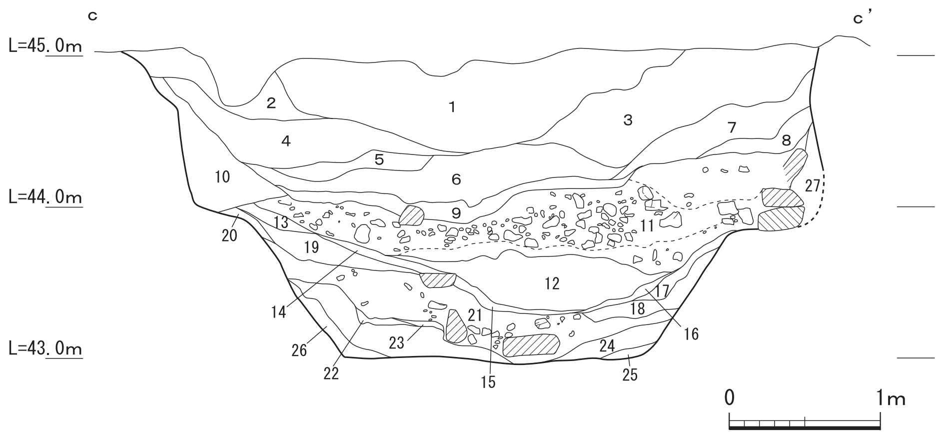


1．黒褐色（10YR 3/1）細礫混じり細粒砂〈径２～４cm 大の礫・焼土・炭化物少量含む〉
2．黄褐色（2.5Y 5/3）細礫混じり細砂〈径２cm 大の礫・にぶい黄色（2.5Y 6/4）のシルト塊・焼土・炭化物・漆喰片含む〉
3．黄灰色（2.5Y 4/1）細礫混じり細粒砂〈１cm 大の礫多量に含む。径４～ 12cm 大の礫・焼土・炭化物少量含む〉
4．黒褐色（10YR 2/2）細砂〈径１～ 20cm 大の礫・炭化物・焼土含む〉
5．灰黄褐色（10YR 4/2）細礫混じり細砂〈炭化物・焼土含む〉
6．褐灰色（7.5YR 4/1）細砂～極細粒砂〈径１～３cm 大の礫・炭化物・土器片少量含む〉
7．褐灰色（7.5YR 5/1）細礫混じり極細粒砂～細砂〈土器片・炭化物少量含む〉
8．灰褐色（7.5YR 4/2）細礫混じり細砂〈径４～６cm 大の礫・焼土・炭化物少量含む〉
9．黒褐色（2.5Y 3/2）細礫混じり細砂〈炭化物・焼土含む〉
10．暗灰黄色（2.5Y 4/2）細礫混じり細砂〈径２cm 大の礫・炭化物含む〉
11．オリーブ褐色（2.5Y 4/3）細礫混じり細砂〈径７cm 大の礫・炭化物含む〉
12．褐灰色（7.5YR 4/1）細礫混じり細砂〈径４cm 大の礫・炭化物含む〉
13．褐灰色（10YR 4/1）細礫混じり細砂〈径２cm 以下の礫含む径３～６cm 大の礫少量含む〉
14．黒褐色（10YR 3/1）細礫混じり細砂〈径８～ 12cm 大の礫・炭化物含む〉
15．褐灰色（10YR 4/1）細砂〈径３cm 大の礫・炭化物・焼土含む〉
16．灰黄褐色（10YR 4/2）細砂～極細粒砂〈径３～６cm 大の礫・炭化物少量含む〉
17．黄灰色（2.5Y 4/1）細礫混じり細砂〈径２cm 以下の礫・径６～ 20cm 大の礫少量含む〉
18．褐灰色（10YR 4/1）細礫混じり細粒砂〈径２～４cm 大の礫・炭化物・土器片少量含む〉
19．褐灰色（10YR 4/1）細礫混じり細粒砂〈径３cm 大の礫・土器片含む〉
20．黒褐色（10YR 3/2）極細～細粒砂〈径４～８cm 大の礫・炭化物・土器片少量含む〉
21．褐灰色（7.5YR 4/1）極細～細粒砂〈炭化物含む〉
22．灰黄褐色（10YR 4/2）砂質シルト（極細粒砂～細砂）下層に細砂堆積
23．灰黄褐色（10YR 4/2）細礫混じり細粒砂〈径 12 ～ 20cm 大の礫・炭化物少量含む〉
24．褐灰色（10YR 5/1）砂質シルト（中粒砂混じり粗シルト）〈径２～４cm 大の礫少量含む〉
25．黄灰色（2.5Y 5/1）砂質シルト（中粒砂混じり極細粒砂）〈径４～８cm 大の礫少量含む〉
26．褐灰色（7.5YR 4/2）細砂〈径１～２cm 大の礫・炭化物・土器片少量含む〉
27．灰黄褐色（10YR 4/2）細礫混じり細粒砂〈径８～ 20cm 大の礫含む〉
28．暗灰黄色（2.5Y 5/2）砂質シルト（極細粒砂～中粒砂）
29．黄褐色（2.5Y 5/4）砂質シルト（中粒砂～粗シルト）〈径２～４cm 大の礫少量含む〉
30．黒褐色（2.5Y 3/1）細砂～中粒砂〈径２～ 20cm 大の礫少量含む〉
31．灰黄褐色（10YR 4/2）細礫混じり細砂〈径３cm 大の礫・炭化物含む〉
32．褐灰色（7.5YR 5/1）還元土と褐色（7.5YR 4/3）酸化土の細礫混じり細粒砂〈径２～４cm 大の礫・土器片少量含む〉
33．褐灰色（10YR 4/1）還元土とにぶい黄褐色（10YR 4/3）細礫混じり細砂〈土器片少量含む〉
34．黄灰色（2.5Y 4/1）還元土と灰褐色（7.5YR 4/2）酸化土の極細粒砂～細砂〈径２～６cm 大の礫少量含む〉
35．黄灰色（2.5Y 4/1）還元土と灰褐色（7.5YR 4/2）酸化土の極細粒砂～細砂
36．褐灰色（10YR 5/1）細礫混じり細砂〈径３～６cm 大の礫・土器片・炭化物少量含む〉
37．暗灰黄色（7.5Y 4/2）細礫混じり極細粒砂～細砂〈径２～６cm 大の礫含む〉
38．黄灰色（2.5Y 4/1）細礫混じり細砂～極細粒砂〈明黄褐色（2.5Y 6/6）シルト塊含む〉
39．黄灰色（2.5Y 4/1）細礫混じり細砂～極細粒砂〈径２cm 以下の礫含む。土器片少量含む〉
40．灰黄褐色（10YR 4/2）細礫混じり極細粒砂～細砂〈径３cm 大の礫含む〉
41．褐灰色（10YR 4/1）シルト質砂（極細粒砂～中粒砂）〈径１～８cm 大の礫含む。炭化物少量含む〉
42．黒褐色（10YR 3/1）細礫混じり極細粒砂～細砂〈径４～８cm 大の礫含む。炭化物少量含む〉
43．黄灰色（2.5Y 4/1）シルト質砂（極細粒砂～中粒砂）〈径１～６cm 大の礫少量含む〉
44．褐灰色（10YR 4/1）極細粒砂～細砂〈径２～６cm 大の礫・炭化物・土器片少量含む〉
45．黄灰色（2.5Y 5/1）細礫混じり極細粒砂～細砂〈径４～ 24cm 大の礫・炭化物・土器・シルト塊少量含む〉
46．黄灰色（2.5Y 4/1）シルト質砂（極細粒砂～中粒砂）〈径２cm 以下の礫含む。炭化物少量含む〉
47．褐灰色（10YR 4/1）細礫混じり極細粒砂～細砂〈径２～６cm 大の礫含む。明黄褐色（10YR 6/6）シルト塊少量含む〉

第20図　ＳＤ3370東側アゼ実測図

ＳＤ3370東側アゼ土色

48. 褐灰色（7.5YR 4/1）わずかに砂質シルト（極細粒砂～中粒砂・粗シルト）〈径４～８cm大の礫・炭化物・土器少量含む〉
49. 褐灰色（10YR 4/1）シルト質砂（極細粒砂～粗砂）〈径２～６cm大の礫多量に含む〉
50. 明黄褐色（10YR 6/6）シルト・褐灰色（7.5YR 5/1）極細粒砂〈径２～15cm大の礫含む〉
51. 灰色（N 5/ ）酸化砂質シルト（極細粒砂～中粒砂）〈径１～４cm大の礫含む。明黄褐色（7.5Y 7/6）酸化シルト塊含む〉
52. 灰色（N 4/ ）酸化砂質シルト（極細粒砂～中粒砂～粗シルト）〈径１～４cm大の礫少量含む。明黄褐色（7.5Y 7/6）酸化シルト塊含む〉
53. 褐灰色（10YR 5/1）砂質シルト（粗砂～中粒砂、極細粒砂～粗シルト）〈径２～４cm大の礫少量含む。明黄褐色（10YR 7/6）シルト塊含む〉
54. 褐灰色（7.5YR 5/1）砂質シルト（極細粒砂～中粒砂～粗シルト）〈径２～４cm大の礫少量含む。明黄褐色（10YR 7/6）シルト塊、土器片少量含む〉
55. 灰色（N 5/ ）シルトブロック状に混じる、明オリーブ灰色（2.5GY 7/1）シルト
56. 明褐灰色（7.5YR 7/1）シルト
57. 褐灰色（7.5YR 5/1）砂質シルト（極細粒砂～中粒砂）〈炭化物・土器片少量含む〉
58. にぶい黄褐色（10YR 4/3）砂礫（中粒砂混じり粗砂）〈径２～６cmの大の礫少量含む〉
59. 黒褐色（10YR 3/1）細礫混じり極細粒砂〈径４～８cm大の礫含む。明黄褐色（10YR 6/6）シルト塊含む〉
60. 黒色（2.5Y 2/1）泥
61. 灰黄褐色（10YR 5/2）細砂～中粒〈径４～12cm大の礫含む〉
62. 黄灰色（2.5Y 4/1）シルト質砂（中粒砂～粗砂、粗シルト）〈径２～４cm大の礫少量含む〉
63. 灰色（N 6/ ）還元土混じり褐灰色（7.5YR 4/1）酸化シルト〈部分的に中粒砂混じる〉



1. 灰黄褐色（10YR 4/2）細礫混じり細粒砂〈径２cm大の礫・径６～17cm大の礫少量含む。炭化物・土器片少量含む〉
2. 黒褐色（10YR 3/1）細礫混じり細粒砂〈径４～８cm大の礫少量含む。鉄分沈着〉
3. 褐灰色（7.5YR 4/1）細礫混じり細粒砂〈径２～６cm大の礫・炭化物少量含む〉
4. 黒褐色（10YR 3/1）細礫混じり極細粒砂～細粒砂〈径３～６cm大の礫・炭化物・土器片少量含む〉
5. 黄灰色（2.5Y 4/1）細礫混じり細粒砂〈径２～４cm大の礫・炭化物・土器片少量含む〉
6. 暗灰黄色（2.5Y 4/2）細礫混じり細粒砂〈径２～６cm大の礫少量含む〉
7. 黒褐色（2.5Y 3/1）細粒砂〈径４～12cm大の礫多量含む〉
8. 灰黄褐色（10YR 4/2）細礫混じり細粒砂〈径２cm以下の礫・土器片少量含む〉
9. 灰黄褐色（10YR 4/2）細礫混じり極細粒砂〈径３cm以下の礫・土器片少量含む〉
10. 褐灰色（10YR 4/1）細礫混じり極細粒砂～細粒砂〈径２～４cm大の礫・炭化物・土器片少量含む〉
11. 黄灰色（2.5Y 4/1）極細粒砂～細粒砂〈径６～20cm大の礫多量含む〉
12. にぶい黄褐色（10YR 4/3）細礫混じり細粒砂〈径１cm以下の礫含む。径４～８cm大の礫少量含む。明黄褐色（10YR 6/6）のシルト塊含む〉
13. 灰黄褐色（10YR 4/2）細礫混じり細粒砂〈径６～８cm大の礫含む。土器片少量含む〉
14. 灰黄褐色（10YR 4/2）極細粒砂～中粒砂〈炭化物少量含む〉
15. 灰黄色（2.5Y 6/2）極細粒砂～中粒砂
16. 暗灰黄色（2.5Y 5/2）細礫混じり極細粒砂～中粒砂〈土器片少量含む〉
17. 褐灰色（7.5YR 4/1）細礫混じり極細粒砂～細粒砂〈径２～６cm大の礫・炭化物・土器片少量含む〉
18. 黒褐色（10YR 3/1）細礫混じり細粒砂～中粒砂〈土器片少量含む〉
19. にぶい黄褐色（10YR 4/3）極細粒砂～中粒砂〈径２～４cm大の礫・炭化物・土器片少量含む〉
20. 灰褐色（7.5YR 4/2）粗砂～中粒砂（シルト質砂）〈径１cm以下の礫含む。径２～４cm大の礫少量含む〉
21. 褐灰色（10YR 4/1）細礫混じり細粒砂〈径２～６cm大の礫・径10～30cm大の石・炭化物・土器片少量含む〉
22. 灰黄褐色（10YR 5/2）極細粒砂
23. 褐灰色（10YR 4/1）極細粒砂～細粒砂〈径２cm以下の礫含む。炭化物・土器片少量含む〉
24. 褐色（7.5YR 4/3）粗砂～中粒砂〈径１cm以下の礫含む〉
25. にぶい黄褐色（10YR 4/3）粗砂〈径２cm以下の礫含む〉
26. 黒褐色（10YR 3/1）シルト質砂（粗砂～中粒砂・極細粒砂～粗シルト）〈炭化物少量含む〉
27. 黒褐色（10YR 3/2）細礫混じり細粒砂〈径４cm以下の礫少量含む。炭化物少量含む。井戸の掘形埋土〉

第21図　ＳＤ3370西側アゼ実測図

ＳＰ125（第８図）　１区北部（13-o）で検出した柱穴である。南北0.67m、東西１m、深さ0.1mを測る。土師器、白磁が出土した。15世紀後半（第79図55～57）。

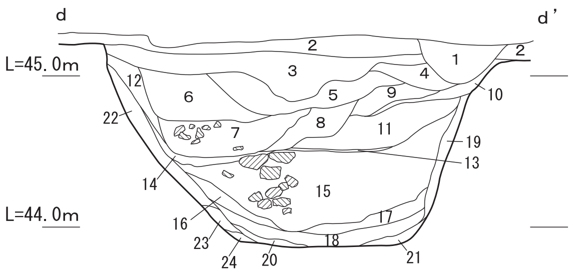
ＳＰ192（第８図）　１区北部（13-o）で検出した柱穴である。南北0.28m、東西0.19m、深さ0.28mを測るが、西部が削平されている。埋土は黒褐色細礫混じりシルト質細粒砂で、粒径４～６cmの礫を含む。土師器皿片が出土した。15世紀第４四半期（第79図62）。

ＳＰ2107（第29図）　２区南東部（10-s）第２面で検出した柱穴である。南北0.45m、東西0.45m、深さ0.2mを測る。土師器皿が出土した。14世紀後半～15世紀初頭（第79図48～52）。

ＳＰ2121（第７図）　２区南東部（10-t）で検出した柱穴である。南北0.42m、東西0.41m、深さ0.08mを測る。埋土は黒褐色細粒砂で、粒径４～６ｃｍの礫を少量含む。土師器皿、青磁が出土した。16世紀第２四半期（第79図58～60）。

ＳＰ3439（第７図）　３区中央付近（11-v）で検出した柱穴である。南北0.3m、東西0.3m、深さ0.2mを測る。埋土は灰黄褐色の粗砂混じり中粒砂で炭化物やにぶい黄褐色のシルトブロックを少量含む。柱穴痕が残存する。土師器皿や羽釜が出土した。15世紀前半（第79図53・54）。

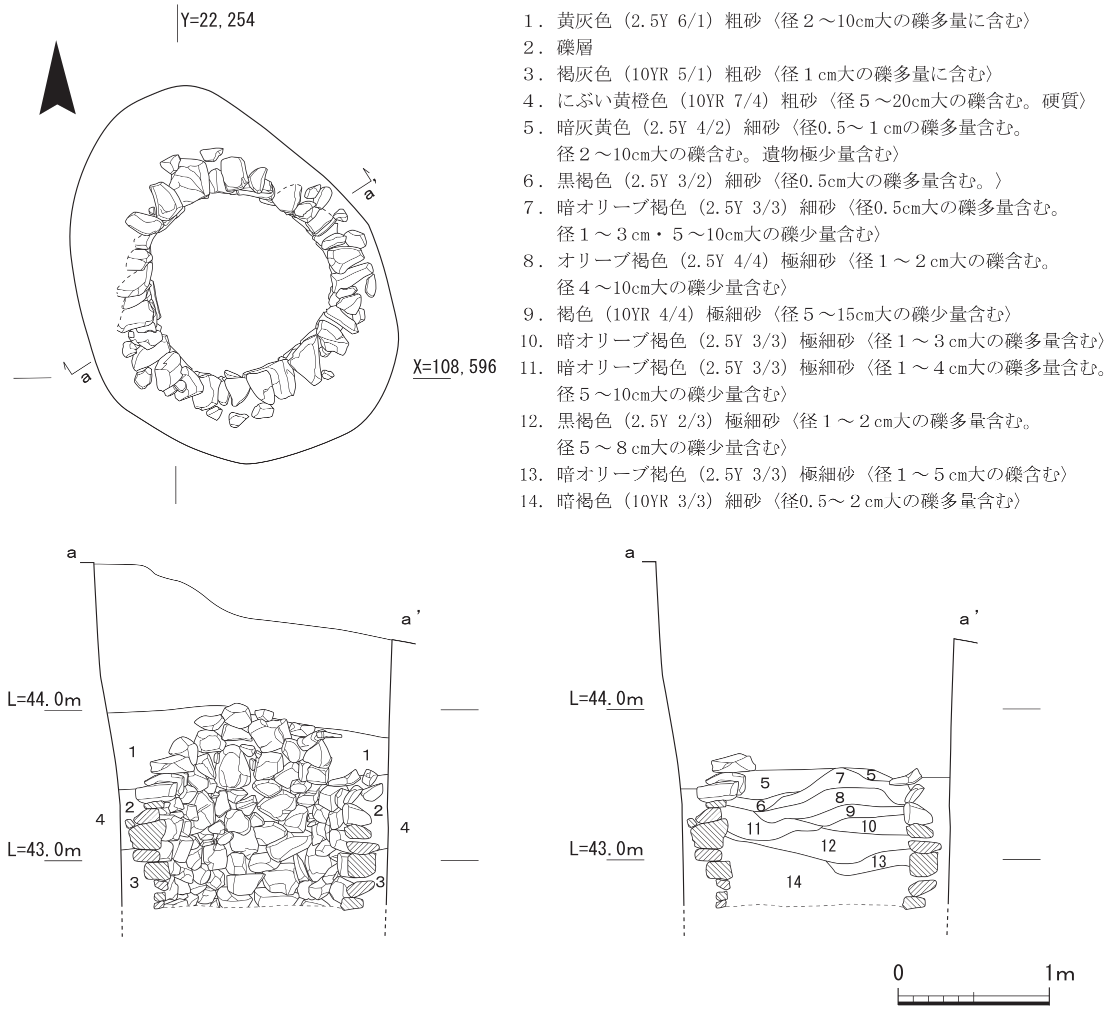
ＳＰ3596（第７図）　３区北東部（9-u）で検出した柱穴である。南北0.15m、東西0.17m、深さ0.15mを測る。土師器皿が出土した（第79図47）。



出土遺物の取り上げ区分
上層　３～14　中層　15～17
下層　18～24

1．灰黄褐色（10YR 4/2）細礫混じり細粒砂〈径４cm以下の礫少量含む〉
2．黒褐色（10YR 3/1）極細粒砂混じり細粒砂〈径２～４cm大の礫少量含む〉
3．黒褐色（7.5YR 3/1）極細粒砂混じり細粒砂〈径２～21cm大の礫少量含む〉
4．黒褐色（2.5Y 3/1）極細粒砂混じり細粒砂〈径１～６cm大の礫少量含む。炭化物少量含む。鉄分沈着〉
5．褐灰色（10YR 4/1）極細粒砂混じり細粒砂〈径２～４cm大の礫少量含む。炭化物・土器片少量含む。鉄分沈着〉
6．オリーブ黒色（5Y 3/1）細粒砂〈径１～４cm大の礫少量含む径８～12cm大の礫混じる。炭化物・土器片少量含む〉
7．黄灰色（2.5Y 4/1）細粒砂混じり極細粒砂〈径２cm以下の礫・径８～16cm大の礫含む。明黄褐色（2.5Y 7/6）粗シルト混じる〉
8．灰黄褐色（10YR 4/2）粗シルト混じり中粒砂〈径２～４cm大の礫含む。明黄褐色（2.5Y 7/6）粗シルト少量含む〉
9．褐灰色（10YR 4/1）粗シルト混じり細粒砂〈径４～６cm大の礫少量含む。鉄分沈着〉
10．黄灰色（2.5Y 4/1）シルト質砂（粗シルト混じり中粒砂～粗砂）〈炭化物少量含む。鉄分沈着〉
11．褐灰色（10YR 4/1）シルト質砂（極細粒砂混じり細粒砂～中粒砂）〈径４～６cm大の礫少量含む。鉄分沈着〉
12．黄灰色（2.5Y 5/1）中粒砂混じり細粒砂〈径２～３cm大の礫含む。鉄分沈着〉
13．黒褐色（2.5Y 3/1）砂質泥（中粒砂混じり粗シルト～極細粒砂）
14．黒褐色（10YR 3/1）泥質砂（粗シルト～極細粒砂混じり中粒砂）〈黄灰色（2.5Y 6/1）シルト塊含む。炭化物少量含む〉
15．暗灰黄色（2.5Y 4/2）細粒砂〈径４～20cm大の礫多量に含む。鉄分沈着。下層に泥堆積部分的に粗シルト・中粒砂堆積〉
16．黒褐色（10YR 3/1）シルト質砂（極細粒砂混じり中粒砂）〈径１～３cm大の礫含む。鉄分沈着。炭化物少量含む〉
17．黄灰色（2.5Y 4/1）砂質シルト（粗砂混じり極細粒砂・粗シルト）〈径４～６cm大の礫含む。土師器片少量含む〉
18．灰黄褐色（10YR 4/2）わずかにシルト質砂（極細粒砂混じり中粒砂～粗砂）〈径２～４cm大の礫少量含む。炭化物少量含む。鉄分沈着〉
19．灰色（5Y 4/1）砂質シルト（中粒砂混じり極細粒砂）〈径２～６cm大の礫含む。鉄分沈着〉
20．暗灰黄色（2.5Y 3/2）砂質シルト（中粒砂～粗砂混じり極細粒砂）〈径４cm大の礫少量含む。炭化物少量含む〉
21．黄褐色（2.5Y 5/4）粗砂～極粗砂〈径２～４cm大の礫含む〉
22．黄灰色（2.5Y 4/1）わずかにシルト質砂（極細粒砂混じり中粒砂～粗砂）
23．褐灰色（10YR 4/1）シルト質砂（粗シルト混じり粗砂）〈炭化物少量含む〉
24．黒褐色（10YR 3/1）シルト質砂（粗シルト混じり中粒砂）〈黄色（5Y 7/6）粗砂ブロック状に含む〉

第22図　ＳＤ3550実測図



第23図　ＳＥ3822実測図

③溝・堀

ＳＤ77（第10図）　１区中央（14-q）で検出した道路側溝である。出土遺物から室町時代の道路側溝と考えられる。南北0.89m、東西3.59m、深さ0.18mを測るが、西側は調査区外に延び、東側は撹乱により削平されている。土師器皿が出土した。15世紀後半から16世紀初頭（第84図８・９）。

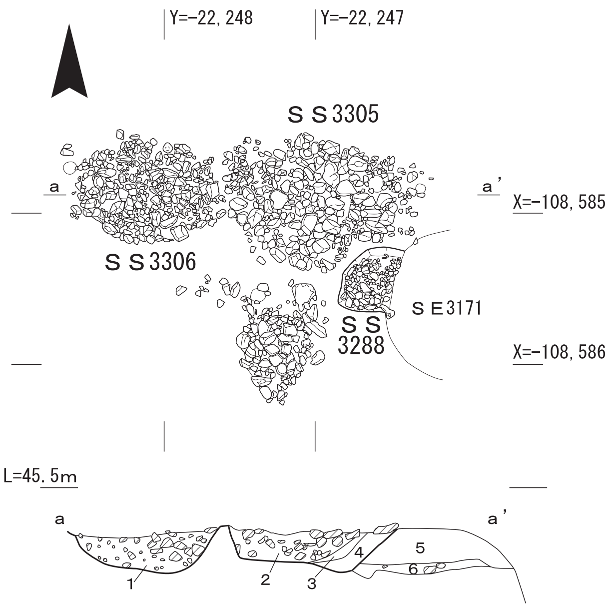
ＳＤ81（第18・19図）　１区南西から２区北東部（9～15-o～t）にかけて検出した、南西から北東に縦断する堀である。検出長22.46m、幅3.6m、深さ1.5mを測る。構に伴う堀と考えられ、南側から土砂で埋められていることから、南側に掘削時の土砂を盛土していたと想定される。底の南半分は北半分と比べて0.1m程低く、堀の法面も南側の勾配が強いことから、一度造成した後に南側か北側のいずれかを拡張したと考えられる。こうした状況から、ＳＤ81は南側を守る北側に備える堀であったようである。出土遺物は上層から下層にかけて出土するが、堀の造成以前に堆積していた遺物の混入が大半である。土師器皿、瀬戸陶器、須恵器、鍋釜類、瓦質火鉢、中国製染付、中国製青磁、中国製白磁、灰釉陶器などが出土した。15世紀末（第80・81図）。

ＳＤ200（第８図）　１区北部（12～15-o）で検出した溝である。南北幅1.1mを測るが、削平によ

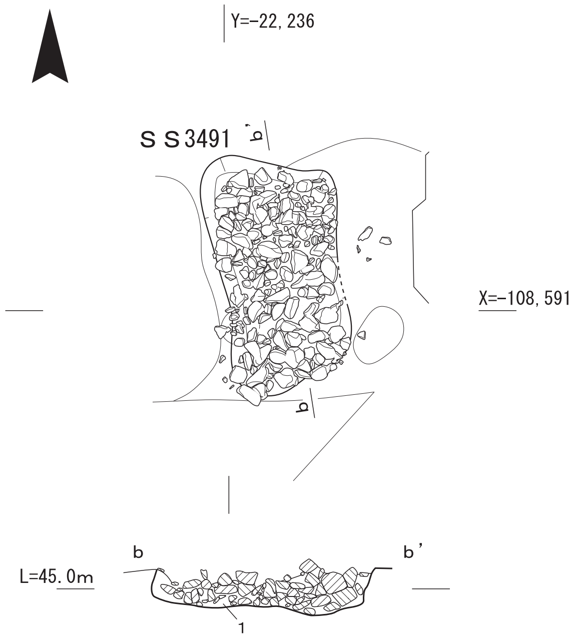
り本来の規模は判然としない。東西9.57m、深さ0.2mを測る。西側は調査区外に続き、東側は撹乱に削平されている。土師器、土師質羽釜、中国製白磁などが出土した。16世紀初頭(第84図10～16)。

ＳＤ3370（第18・20・21図）　３区南西部から東部(9～15-x～a)で検出した堀である。検出長は25mを測るが、東部、西部ともに調査区外に続く。幅約５m、深さ約1.8mを測る。構に伴う堀と考えられる。南側から地山由来の黄色シルトのブロックを包含する土砂で埋められている。中層にかけて人頭大の石がまとまって投棄されており、石は構を構築する構造物の一部であったと想定される。下層にかけて砂層とシルト層が堆積し、一程度の水の流れる環境であったと想定されるが、滞水はしていない。北側の堀ＳＤ3550と南側の布掘り柱列ＳＡ3425とＳＡ3823は、同時期に造成された構の一部であると考えられる。出土遺物は上層から下層にかけてあるが、堀造成以前にあった遺構由来の遺物が大半を占める。土師器皿、瀬戸陶器、中国製白磁、中国製青磁、中国製染付、緑釉陶器、灰釉陶器、瓦、石製品が出土した。15世紀末から16世紀初頭(第83図、第84図1～７、第156図６・７、第164図２・５、第169図69)。

ＳＤ3550（第18・22図）　３区中央から東部(9～12-ｔ～v)で検出した堀である。検出長12mを測るが、東側は調査区外に続く。幅2.8m、深さ約1.3mを測る。構に伴う堀と考えられる。堀は東から西南に振り、調査区中央で止まる。堆積状況から一度に埋められたことと、滞水していない状況が看取される。南側に堀ＳＤ3370と布掘り柱列Ｓ



１．黒褐色（10YR 2/2）シルト〈径２～10㎝礫多く含む〉
２．黒褐色（10YR 3/2）極細粒砂質シルト〈径２～15㎝礫多く含む〉
３．暗褐色（10YR 3/3）シルト含む極細粒砂
４．黒褐色（10YR 3/2）細礫含むシルト質細粒砂〈径１～３㎝礫含む〉
５．暗褐色（10YR 3/4）細礫含むシルト質極細粒砂
〈径１～２㎝礫含む。遺物多く含む〉
６．暗褐色（10YR 3/3）細礫含むシルト質極細粒砂〈径３～５㎝礫含む〉



１．暗褐色（10YR 3/3）極細粒砂質シルト〈炭化物少量含む〉

第24図　ＳＳ3305・ＳＳ3306・ＳＳ3288・ＳＳ3491実測図

A3425とＳＡ3823があり、同時期に造成された構の一部であると考えられる。出土遺物は上層から下層にかけて出土するが、堀造成以前にあった遺構由来の遺物が大半を占める。土師器皿、中国製白磁、中国製青磁、中国製天目などが出土した。15世紀末から16世紀初頭（第82図、第164図３・４）。

④井戸

ＳＥ3822（第23図）　３区南西部（14-x･y）で検出した石組井戸である。南北2.07m、東西2.05m、深さ2.3mを測るが､安全対策上これ以上の掘削をしていない。堀ＳＤ3370により削平されている。土師器皿、白磁皿の細片が出土した。15世紀（第85図１～４）。

⑤集石遺構

ＳＳ2199（第７図）　２区南部（11・12-s）で検出した集石土坑である。南北1.2m、東西2.5m、深さ0.17mを測るが、一部削平を受けている。埋土は黒褐色細粒砂で、粒径６～20cmの礫を多量に含む。土師器皿、緑釉陶器、瀬戸陶器が出土した。14世紀後半～15世紀初頭（第86図５～８）。

ＳＳ3147（第29図）　３区東部（9-w）第２面で検出した集石土坑である。南北0.9m、東西0.8m、深さ0.12mを測るが、一部削平を受けている。

ＳＳ3288（第24図上）　３区北部（12-v）で検出した集石土坑である。南北0.45m、0.35mを測るが東側はＳＥ3171により削平されている。埋土は黒褐色の細粒砂である。粒形５～10ｃｍの礫が充填されていた。

ＳＳ3305（第24図上）　３区北部（12-v）で検出した集石土坑である。南北0.75m、東西0.95m、深さ0.25mを測る。埋土は黒褐色の極細粒砂で炭化物を含む。

ＳＳ3306（第24図上）　３区北部（12･13-v）で検出した集石土坑である。南北0.74m､東西0.93m､深さ0.3mを測る。埋土は黒褐色極細粒砂で炭化物を含む。土師器皿が出土した。16世紀初頭か（第85図25・26）。

ＳＳ3390（第29図）　３区中央部（12-v）第２面で検出した集石土坑である。南北0.8m、東西0.85m、深さ0.1mを測る。埋土は黒褐色細粒砂で、粒径10～25cmの礫を多量に含む。土師器皿が出土した。16世紀第２四半期（第85図27・28）。

ＳＳ3478（第７図）　３区北部（11-t）で検出した集石土坑である。南北0.4m、東西0.5m、深さ0.2mを測る。埋土は黄灰色細礫混じり細粒砂で、粒径８～16cmの礫を多量に含む。土師器皿が出土した。16世紀前半（第85図20～22）。

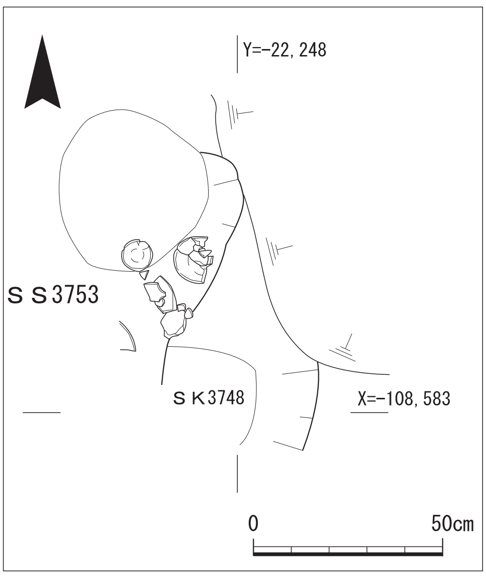
ＳＳ3479（第７図）　３区北部（11-t）で検出した集石土坑である。南北0.3m、東西0.35m、深さ0.15mを測る。埋土はオリーブ褐色中粒砂～細粒砂で細礫を含み、８～16cmの礫を多量に含む。土師器皿が出土している。15世紀初頭～半ば（第85図５～７）。

ＳＳ3491（第24図下）　３区東部（9-w）で検出した集石土坑である。南北0.59m、東西0.41m、深さ0.35mを測る。土師器皿、大和の火鉢が出土している。16世紀（第85図23・24）。

ＳＳ3507（第７図）　３区北東部（9･10-u）で検出した集石土坑である。南北0.74m、東西1.15m、深さ0.1mを測る。土師器皿が出土した。15世紀後半～16世紀初頭（第85図14～19）。

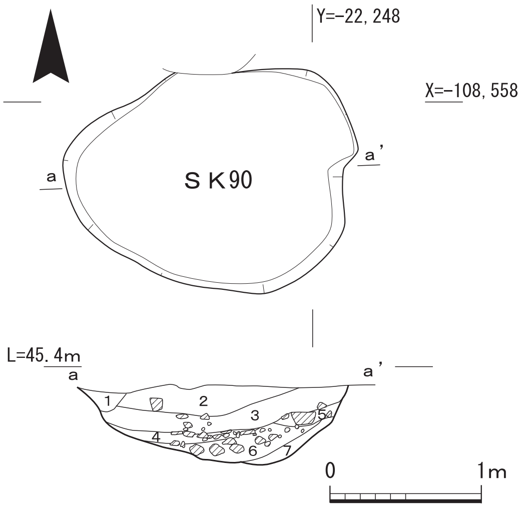
ＳＳ3753（第25図）　３区北部（13-u･v）で検出した集石土坑である。南北3.3m、東西2.3m、深さ0.4mを測る。下層に粒径５～10cmの礫が多量に混入する。土師器皿や瓦質羽釜、瀬戸陶器などが出土した。16世紀半ば（第85図８～13）。

土器出土状況



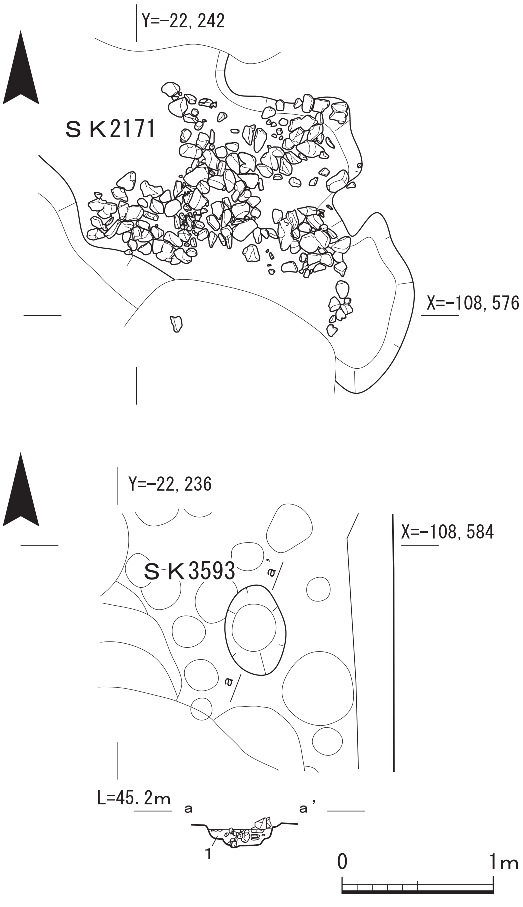
１．オリーブ褐色（2.5Y 4/4）中粒砂混じり細粒砂
〈炭片・土師器片少量含む〉
２．暗褐色（10YR 3/3）中粒砂質細粒砂
〈炭片・土師器片含む。マンガン少量含む〉
３．暗オリーブ褐色（2.5Y 3/3）礫混じり細粒砂
〈炭片・土師器片多量含む〉
４．黒褐色（2.5Y 3/2）シルト質細粒砂
〈炭片・土師器片少量含む〉
５．暗褐色（10YR 3/3）細粒砂質極細粒砂
〈炭片・土師器片少量含む〉
６．黒褐色（2.5Y 3/2）中粒砂質細粒砂
〈土師器片多量含む〉
７．暗灰黄色（2.5Y 4/2）砂質シルト（極細粒砂）
〈径８～10cmの礫含む。径２～６cmの礫多量に含む。
土師器片含む〉
８．黒褐色（10YR 2/2）細粒砂〈炭片・土師器片少量含む〉
９．灰褐色（7.5YR 4/2）細粒砂〈径１～２cmの礫少量含む〉
10．黒褐色（2.5Y 3/1）砂質シルト（極細粒砂～細粒砂）
〈極粗砂少量含む〉
11．褐灰色（10YR 4/1）砂質シルト（細粒砂～極細粒砂）
〈径１～２cmの礫少量含む。土師器片・粘土含む〉

第25図　ＳＳ3753実測図



１．黒褐色（2.5Y 3/2）極細粒砂
２．オリーブ褐色（2.5Y 4/3）細礫混じる細粒砂
３．暗灰黄色（2.5Y 4/2）シルト混じる細粒砂
４．オリーブ褐色（2.5Y 4/3）極細粒砂
〈明黄褐色のシルトブロック（地山由来）含む〉
５．黒褐色（2.5Y 3/2）極細粒砂
６．黒褐色（2.5Y 3/2）シルト混じる細粒砂
７．暗灰黄色（2.5Y 4/2）細礫含む極細粒砂

第26図　ＳＫ90実測図



１．黄褐色（10YR 3/2）細礫混極細粒砂
〈炭化物多量に含む〉

第27図　ＳＫ2171・3593実測図

⑥土坑

ＳＫ90（第26図）　１区北部（13-o）で検出した廃棄土坑である。南北1.47m、東西２m、深さ0.6mを測る。土師器、中国製青磁、中国製白磁、瀬戸陶器などが出土した。15世紀末～16世紀初頭（第87図１～13）。

ＳＫ180（第８図）　１区北部（12-o）で検出した柱穴である。南北0.14m、東西0.24m、深さ0.15mを測るが、ほか遺構により削平されている。埋土は暗灰黄色細礫混じりシルト質細粒砂で、粒径３～６cmの礫を少量含む。土師器、瓦質風炉、中国製陶磁器が出土した。16世紀初頭（第87図14～20）。

ＳＫ208（第８図）　１区北部（12-o）で検出した柱穴である。南北0.88m、東西0.81m、深さ0.23mを測る。土師器、備前、白磁、青磁、瓦が出土した（第88図１～６・第156図５）。

ＳK2104（第29図）　２区南東部（9･10-s）第２面で検出した土坑である。南北0.85m、東西0.65m、深さ0.2mを測る。土師器皿が出土した。16世紀初頭（第86図48）。

ＳK2105（第29図）　２区南東部（9-s）第２面で検出した土坑である。南北0.45m、東西0.45m、深さ0.18mを測る。底部が被熱して赤色に変色し炭化物が堆積する特徴から、かまどの可能性も考えられる。土師器皿片が出土した。16世紀初頭（第86図49）。

ＳＫ2154（第７図）　２区東部（9-r）で検出した廃棄土坑である。南北0.66m、東西0.34m、深さ0.2mを測る。埋土は黒褐色細粒砂で粒径２～３cmの礫を少量含む。土師器皿とガラス製品が出土した。16世紀初頭（第87図28～30・第170図９）。

ＳＫ2157（第７図）　２区南部（10-t）で検出した廃棄土坑である。南北0.65m、東西0.95m、

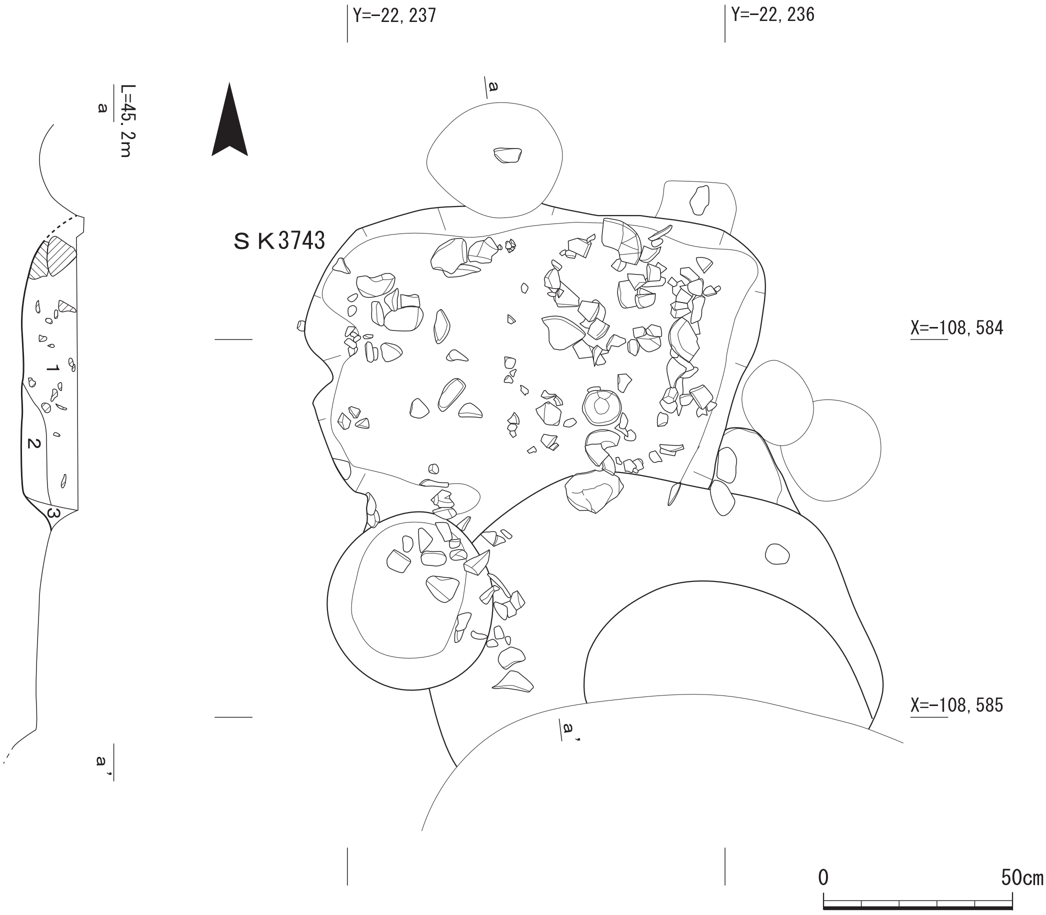
深さ0.1mを測る。埋土は黒褐色細礫混じり細粒砂で、粒径８～20cmの礫を含む。土師器がまとまって出土した。15世紀後半(第86図23～47)。

ＳＫ2171(第27図上)　２区南部(11-s)で検出した落ち込み状土坑である。南北1.28m、東西１m、深さ0.1mを測る。埋土はオリーブ黒色中粒砂～細粒砂で、粒径８～16cmの礫を多量に含む。羽釜が出土した(第88図７)。

ＳＫ2185(第７図)　２区南部(9･10-s)で検出した廃棄土坑である。南北0.9m、東西0.4m、深さ0.18mを測る。埋土は暗褐色細礫混じり中粒砂である。土師器皿が出土した。14世紀末～15世紀初頭(第86図９～14)。

ＳＫ2204(第７図)　２区東部(9・10-q)で検出した廃棄土坑である。埋土は黒褐色細礫混じり極細粒砂で、粒径２～４cmの礫と炭化物を少量含む。土師器皿、瓦器などが出土した。15世紀半ば(第86図15～22)。

ＳＫ3381(第７図)　３区北部(13-t)で検出した土坑である。南北0.6m、東西0.7m、深さ0.1mを測る。土師器皿、瓦質火鉢、中国製青磁が出土した。16世紀第１四半期(第87図21～27)。



１．黒褐色（10YR 3/2）細礫混じり細粒砂〈土器片含む。径１～４cmの石含む。炭化物混じる〉
２．暗褐色（10YR 3/3）細中粒砂〈褐色（10YR 4/6）の粘質土ブロックで多く含む〉
３．黄褐色（10YR 3/2）細礫混じる細粒砂〈径３cmの石含む〉

第28図　ＳＫ3743実測図

ＳＫ3593（第27図下）　３区東部（9-v）で検出した土坑である。深さ0.15mを測る。土師器が出土した。16世紀半ば（第87図32・33）。

ＳＫ3743（第28図）　３区北東部（9･10-u･v）で検出した土坑である。南北0.8m、東西1.2m、深さ0.2mを測る。土師器皿が出土した。16世紀初頭（第87図31）。

ＳＫ3831（第７図）　３区北東部（9-t）で検出した土坑である。南北0.3m、東西0.2m、深さ0.15mを測るが削平を受けている。土師器皿が出土した。14世紀半ば（第86図１～４）。

⑦その他

ＳＸ2165（第29図）　３区北部（9-q）第２面で検出した焼土である。南北２m、東西3.5mを測る。東側は調査区外に広がり、南・北・西側は遺構や撹乱により削平されている。炭化物が残存しており、理化学分析を行った。分析の成果から、戦国期の焼土であると判明した。下層にＳＤ81があり、同遺構の年代を検討する上で重要な焼土である。土師器皿片が出土している。16世紀（第88図８）。

（３）安土桃山時代・江戸時代前期の遺構

安土桃山時代から江戸時代前期（16世紀半ば～17世紀後半）の遺構は主に第２面で検出した。礎石建物跡、道路側溝、井戸、石組遺構、土坑などを検出した。調査地の３区北東部に位置する礎石建物や２区北側の路面に付随する道路側溝などを検出した。遺物は、土師器・中国製陶磁器・国産陶磁器などが出土した。

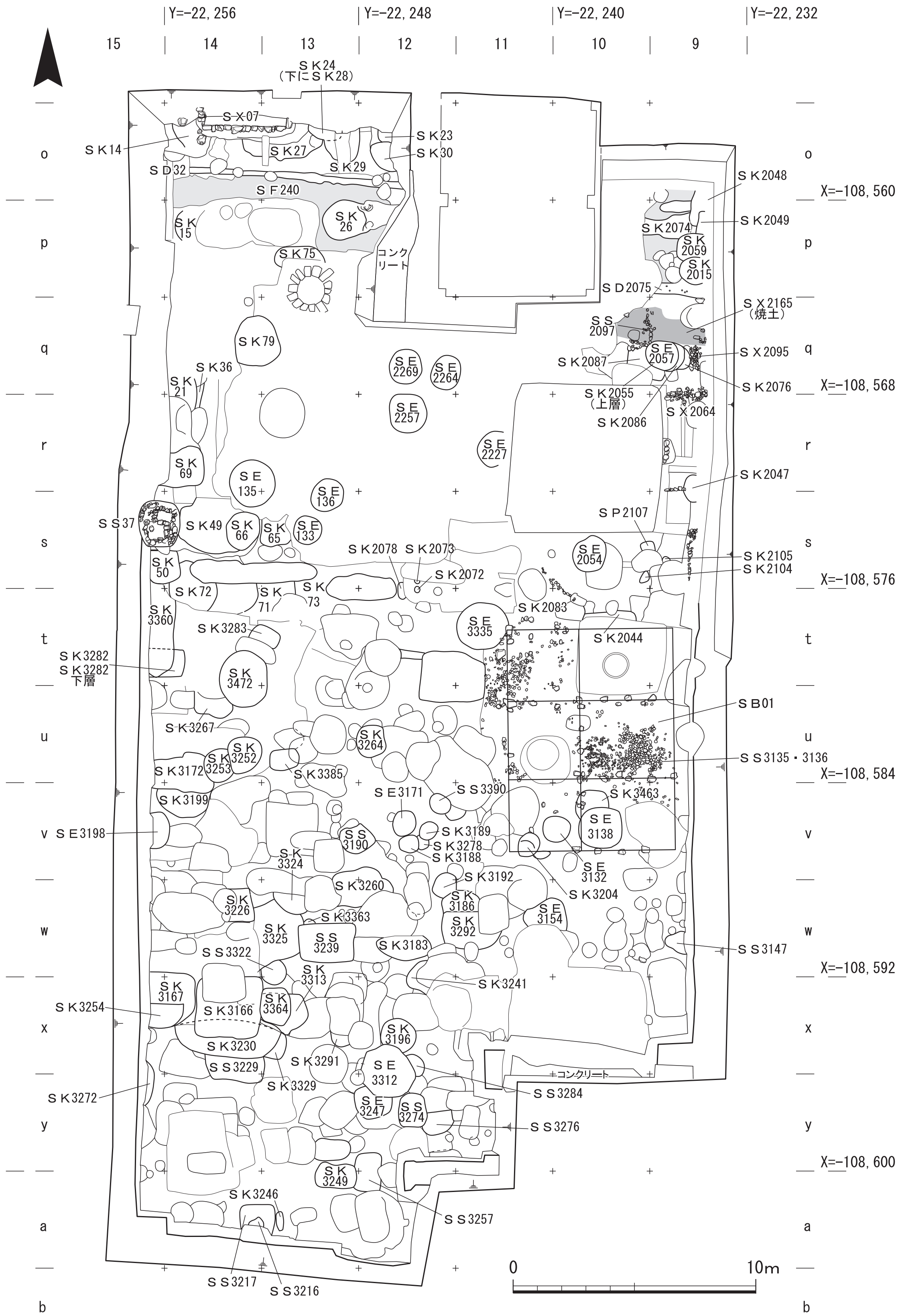
①礎石建物

ＳＢ01（第30・31図）　３区北東部（10･11-t･u）で検出した礎石建物である。礎石の配置された最大範囲は南北9.1m、東西6.8mであるが、東側は調査区外に続き、西側や北側は削平を受けているため全体の規模は判然としない。また、すべての礎石が現位置を留めているわけではなく、様相を把握することは困難である。東西方向の礎石列は一部に２列の配石が確認でき、若干の高低差があることから、建物が同じ位置に２度にわたり建てられたことが想定される。また、ＳＢ01の下層には集石遺構ＳＳ3135・3136が位置する。これらはいずれも建物の沈み込みを防ぐ目的で敷設されたと考えられる。土師器皿や中国製陶磁器、朝鮮、瀬戸、肥前陶器、銭などが出土した。16世紀末～17世紀初頭（第89図１～18、第169図62）。

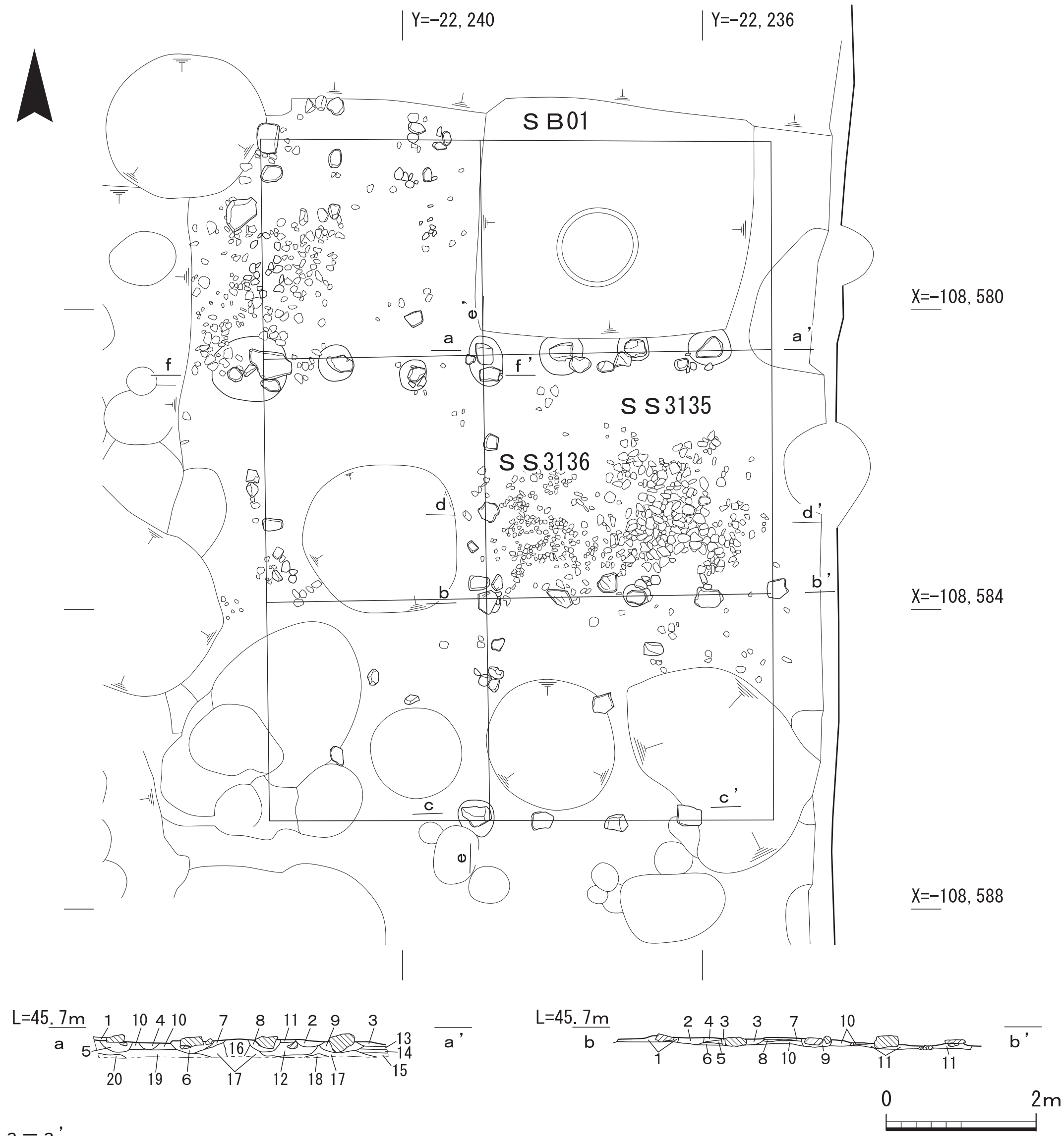
②塀、建物基礎

ＳＸ2058（第32図）　２区北東部（10-q）で検出した築地跡である。南北幅1.3m、検出長3.7mを測るが、西側が撹乱により削平を受け、東側は調査区外に続く。0.2m程度が残存していた。黄色粘土層と黒色土層が互層状に堆積している。黄色粘土にはスサが混ぜ込まれている。残存する遺構の北端と南端の東西軸には、部分的であるが石が埋め込まれるように配置されている。土師器、肥前陶器、瀬戸美濃陶器、銭などの細片が出土しているが、いずれも黄色粘土に挟まれた黒色土出土である。16世紀末～17世紀初頭（第89図19～40、第165図５・６、第169図40・41・43）。

ＳＸ2064（第33図）　２区東部（9-q･r）で検出した集石遺構である。南北0.85m、東西1.8mを測るが、東は調査区外に続き、西は撹乱により削平を受けている。ぐり石のまとまった上に60～


Y=-22, 256
Y=-22, 248
Y=-22, 240
Y=-22, 232
X=-108, 560
X=-108, 568
X=-108, 576
X=-108, 584
X=-108, 592
X=-108, 600
ＳＫ24
（下にＳＫ28）
ＳＸ07
ＳＫ14
ＳＤ32
ＳＦ240
ＳＫ23
ＳＫ30
ＳＫ27
ＳＫ29
ＳＫ26
ＳＫ15
ＳＫ75
コンクリート
ＳＫ79
ＳＫ36
ＳＫ21
ＳＥ2269
ＳＥ2264
ＳＥ2257
ＳＥ2227
ＳＫ69
ＳＥ135
ＳＥ136
ＳＳ37
ＳＫ49
ＳＫ66
ＳＫ65
ＳＥ133
ＳＫ50
ＳＫ72
ＳＫ71
ＳＫ73
ＳＫ2078
ＳＫ2073
ＳＫ2072
ＳＫ2048
ＳＫ2049
ＳＫ2074
ＳＫ2059
ＳＫ2015
ＳＤ2075
ＳＸ2165
（焼土）
ＳＳ2097
ＳＸ2095
ＳＫ2087
ＳＥ2057
ＳＫ2076
ＳＫ2055
（上層）
ＳＫ2086
ＳＸ2064
ＳＫ2047
ＳＰ2107
ＳＥ2054
ＳＫ2105
ＳＫ2104
ＳＫ2083
ＳＥ3335
ＳＫ2044
ＳＢ01
ＳＳ3135・3136
ＳＫ3360
ＳＫ3283
ＳＫ3282
ＳＫ3282
下層
ＳＫ3472
ＳＫ3267
ＳＫ3264
ＳＫ3252
ＳＫ3253
ＳＫ3172
ＳＫ3385
ＳＫ3199
ＳＥ3171
ＳＳ3390
ＳＫ3463
ＳＥ3198
ＳＳ3190
ＳＫ3189
ＳＫ3278
ＳＫ3188
ＳＥ3138
ＳＥ3132
ＳＫ3324
ＳＫ3260
ＳＫ3192
ＳＫ3204
ＳＫ3226
ＳＫ3363
ＳＫ3186
ＳＫ3292
ＳＥ3154
ＳＫ3325
ＳＳ3239
ＳＫ3183
ＳＳ3322
ＳＳ3147
ＳＫ3313
ＳＫ3241
ＳＫ3167
ＳＫ3254
ＳＫ3166
ＳＫ3364
ＳＫ3196
ＳＫ3230
ＳＫ3291
ＳＥ3312
ＳＫ3229
ＳＫ3329
コンクリート
ＳＳ3284
ＳＫ3272
ＳＥ3247
ＳＳ3274
ＳＳ3276
ＳＫ3249
ＳＫ3246
ＳＳ3257
ＳＳ3217
ＳＳ3216
0
10m
15
14
13
12
11
10
9
o
p
q
r
s
t
u
v
w
x
y
a
b

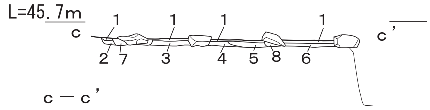
第29図　第２面平面図



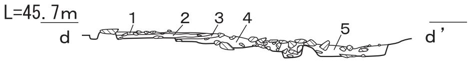
a－a’
1．褐色（7.5YR 4/4）シルト質極細粒砂
2．暗褐色（10YR 3/4）細～極細粒砂〈径５cmの礫含む〉
3．暗褐色（10YR 3/2）シルト混細粒砂〈炭化物多量含む〉
4．暗褐色（7.5YR 3/4）シルト混細粒砂〈焼土少量含む〉
5．褐色（7.5YR 4/6）シルト混極細粒砂
〈径３cmの礫含む。地業か〉
6．暗褐色（10YR 3/3）シルト・細礫混極細粒砂〈地業か〉
7．暗褐色（10YR 3/3）細礫混細粒砂〈地業か〉
8．暗褐色（10YR 3/3）細粒砂〈地業か〉
9．黒褐色（10YR 3/2）細粒砂〈地業か〉
10．黒褐色（10YR 2/3）細礫混じり細粒砂〈やや粘質。土器細片含む〉
11．黒褐色（10YR 2/3）細礫混細粒砂〈整地土か〉
12．暗褐色（10YR 3/3）極細粒砂〈径３～５cmの礫含む〉
13．暗褐色（10YR 3/4）細粒砂
14．暗褐色（10YR 3/3）細粒砂〈炭含む〉
15．暗褐色（10YR 3/3）シルト混中粒砂
16．暗褐色（10YR 3/3）シルト混細粒砂～極細粒砂
〈径３～５cmの礫含む〉
17．暗褐色（10YR 3/4）シルト・細礫混細粒砂〈径３cmの礫含む〉
18．黒褐色（10YR 2/2）細粒砂～極細粒砂
19．暗褐色（10YR 3/3）シルト混細粒砂〈径0.5cmの礫含む〉
20．暗褐色（10YR 3/3）細粒砂

b－b’
1．灰黄褐色（10YR 4/2）極細粒砂質シルト
2．暗褐色（10YR 3/3）極細粒砂
3．黒褐色（10YR 3/2）細粒砂質極細粒砂
4．にぶい黄褐色（10YR 4/3）シルト質極細粒砂
5．黒褐色（2.5Y 3/2）極細粒砂
6．暗褐色（10YR 3/3）極細粒砂〈炭化物少量含む〉
7．黒褐色（10YR 3/2）細粒砂質極細粒砂
〈炭化物少量含む〉
8．にぶい黄褐色（10YR 4/3）シルト質極細粒砂
9．暗褐色（10YR 3/4）シルト質極細粒砂
10．暗褐色（10YR 3/4）細粒砂混じり砂質シルト
〈炭化物少量含む〉
11．暗褐色（10YR 3/3）細粒砂質極細粒砂

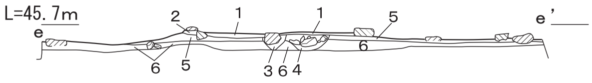
第30図　S B01実測図（１）



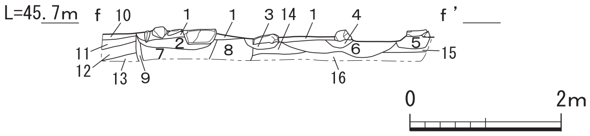
c－c’
1．黒褐色（10YR 3/2）細粒砂〈径１～５cmの礫含む。
炭化物含む（整地層）〉
2．暗褐色（10YR 3/3）細礫混じり極細粒砂
〈径0.5～１cmの礫含む〉
3．黒褐色（10YR 3/2）細礫混じり極細粒砂
〈径１～３cmの礫含む〉
4．暗褐色（10YR 3/3）細礫混じり細粒砂
5．黒褐色（10YR 2/2）極細粒砂
6．暗褐色（10YR 3/3）細礫混じり細粒砂
〈径１～３cmの礫含む〉
7．黒褐色（2.5YR 3/2）細礫混じり極細粒砂
8．黒褐色（2.5Y 3/2）砂礫混じり極細粒砂〈炭化物含む〉



d－d’
1．黒褐色（2.5Y 3/2）シルト質極細粒砂
〈炭化物少量含む〉
2．暗褐色（10YR 3/3）シルト質極細粒砂
3．暗褐色（10YR 3/3）極細粒砂質シルト
4．黒褐色（10YR 3/2）極細粒砂質シルト
〈炭化物少量含む〉
5．暗褐色（10YR 3/3）極細粒砂質シルト
〈炭化物少量含む〉



e－e’
1．にぶい黄褐色（10YR 4/3）細礫混細粒砂
〈径５cm礫含む。整地土〉
2．オリーブ褐色（2.5Y 4/6）細～極細粒砂
〈炭化物細片含む〉
3．暗褐色（10YR 3/3）細～極細粒砂
〈炭化物多量含む〉
4．暗オリーブ褐色（2.5Y 3/3）細粒砂〈地業か〉
5．にぶい黄褐色（10YR 5/4）シルト混細粒砂
〈整地土。径５cm礫含む〉
6．黒褐色（2.5Y 3/2）やや粘質の細粒砂〈盛土〉



f－f’
1．暗オリーブ褐色（2.5Y 3/3）シルト質細粒砂
〈焼土・径１～８cm礫含む。
オリーブ褐色（2.5Y 3/3）細粒砂含む〉
2．黒褐色（2.5Y 3/2）シルト質細粒砂
〈焼土・炭化物含む。径１～３cm礫含む〉
3．黒褐色（2.5Y 3/2）細粒砂〈径１～３cm礫含む〉
4．暗オリーブ褐色（2.5Y 3/3）細粒砂混中粒砂
〈黄褐色（2.5Y 5/4）シルト質細粒砂含む。
径１～５cm礫含む〉
5．暗灰黄色（2.5Y 4/2）中粒砂混じり細粒砂
〈暗オリーブ褐色（2.5Y 3/3）シルト質細粒砂含む。
径３cm礫含む〉
6．暗褐色（10YR 3/3）中粒砂混じり細粒砂
〈焼土・炭化物含む。径１～５cm礫含む〉
7．暗褐色（10YR 3/3）細粒砂〈径１～10cm礫含む〉
8．黒褐色（2.5Y 3/2）中粒砂混じり細粒砂
〈焼土・炭化物含む。径１～５cm礫含む〉
9．褐灰色（10YR 4/1）細粒砂
〈焼土含む。径10cm礫・粘土ブロック状に含む〉
10．にぶい黄褐色（10YR 4/3）中粒砂混じり細粒砂
〈焼土・炭化物少量含む。径１～３cm礫含む〉
11．褐色（2.5Y 3/1）細粒砂
〈径１～３cm礫含む。鉄分含む〉
12．灰黄褐色（2.5Y 4/2）中粒砂混じり細粒砂
〈径１～３cm礫含む。鉄分含む〉
13．黒褐色（2.5Y 3/2）細粒砂
〈焼土・炭化物含む。径１～５cm礫含む〉
14．暗オリーブ褐色（2.5Y 3/3）中粒砂混じり細粒砂
〈焼土・炭化物含む。径１～３cm礫含む〉
15．暗褐色（2.5Y 3/3）中粒砂〈径１～３cm礫含む〉
16．黒褐色（2.5Y 2/2）細粒砂
〈焼土・炭化物含む。径１cm礫含む〉

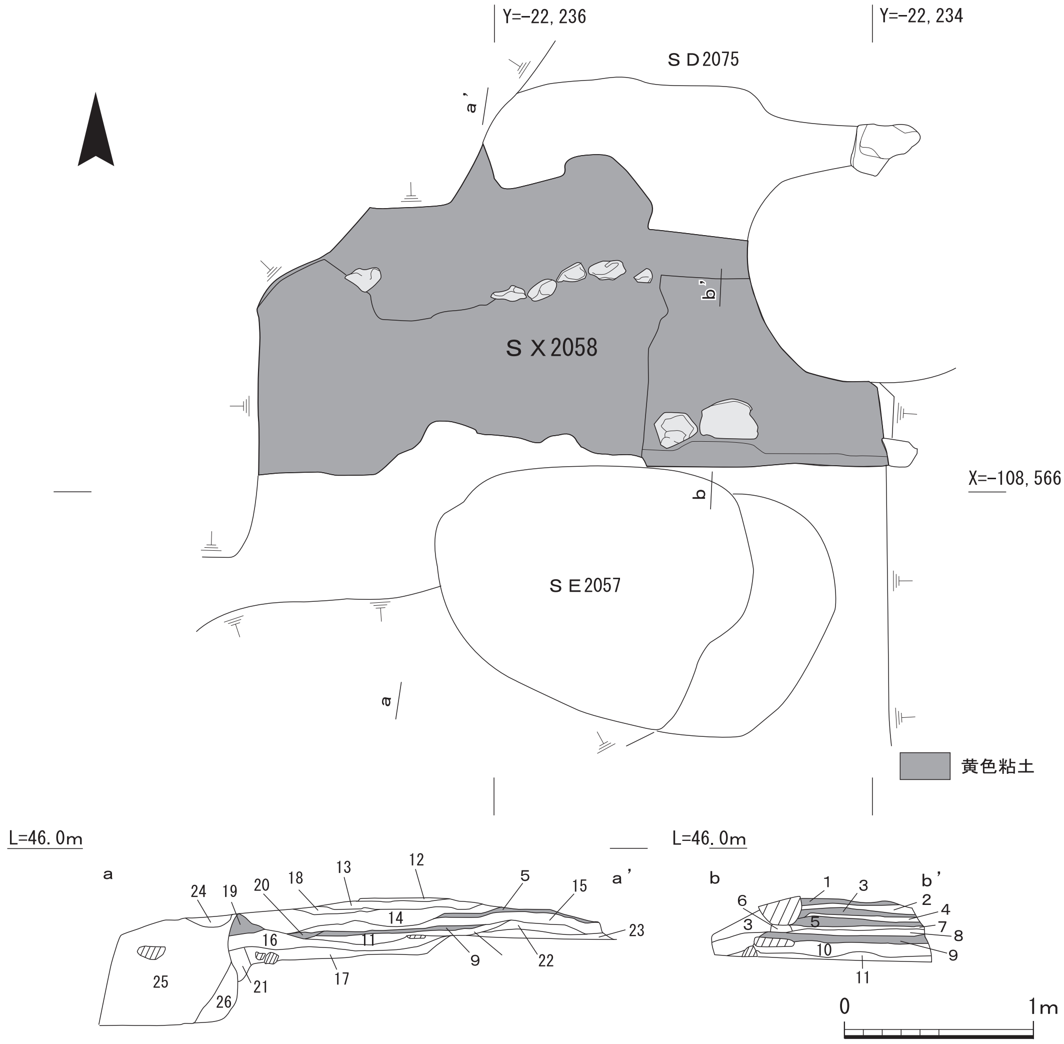
第31図　ＳＢ01実測図（２）

80cmの石を据えており、蔵などの建物の基礎部分ではないかと考えられる。土師器、瀬戸美濃陶器、石製品などが出土した。16世紀後半～17世紀初頭（第89図41～48、第165図７）。

ＳＸ2095（第37図）２区東部（9-q）で検出した集石遺構である。南北2.1m、東西1.8mを測るが、ＳＸ2065と同じく撹乱による削平と調査区外へ広がる状況から全容は判然としない。蔵などの建物の基礎ではないかと考えられる。土師器皿や中国製の白磁、銭が出土した。16世紀末から17世紀前半（第89図49・50、第169図44）。

③礫敷路面

ＳＦ240（第34図）　１区北部（12～14-o･p）で検出した礫敷の路面である。南北幅３ｍを測るが、



1．明黄褐色（10YR 7/6）粘土〈すさ類含む〉
2．褐色（10YR 4/4）粘土〈0.5～1cm大の礫少量含む〉
3．にぶい黄褐色（10YR 5/3）粘土〈明黄褐色（10YR 7/6）土ブロック状に含む、土器片炭化物少量含む〉
4．灰黄褐色（10YR 4/2）細粒砂混じり粘土〈炭化物含む〉
5．にぶい黄褐色（10YR 4/3）粘土〈0.5～3cm大の礫少量含む〉
6．黄褐色（10YR 5/6）粘土〈土器片少量含む〉
7．灰黄褐色（10YR 4/2）細粒砂混じり粘土〈0.5～1cmの礫、炭化物少量含む〉
8．褐色（10YR 4/4）中粒砂混じり粘土〈0.5～1cm大の礫含む、明黄褐色（7.5YR 5/8）土ブロック状に含む〉
9．にぶい黄褐色（10YR 8/3）粗砂混じり極細粒砂〈0.5～1cmの礫少量含む、明黄褐色（7.5YR 5/8）土ブロック状に含む〉
10．灰黄褐色（10YR 4/2）粗砂混じり粘土〈1～5cmの礫、炭化物少量含む、明黄褐色（7.5YR 5/8）土ブロック状に含む〉
11．暗褐色（10YR 3/3）シルト混じり細粒砂〈1～5cm大の礫含む、明黄褐色（7.5YR 5/8）土ブロック状に含む〉
12．褐色（7.5YR 4/4）粘土〈上面に被熱痕〉
13．褐色（10YR 4/6）粘土混じりシルト〈0.5～1cmの礫含む〉
14．暗褐色（10YR 3/3）シルト混じり細粒砂
15．褐色（10YR 4/4）粘土混じり極細粒砂〈シルトブロック状に含む〉
16．黒褐色（10YR 3/2）極細粒砂質シルト〈炭化物多量含む〉
17．暗褐色（10YR 2/2）シルト質極細粒砂〈炭化物含む、粘土ブロック状に少量含む〉
18．褐色（10YR 4/4）極細粒砂
19．にぶい黄褐色（10YR 4/3）粘土〈1～5cm大の礫含む〉
20．にぶい黄褐色（10YR 4/3）シルト質極細粒砂〈炭化物少量含む〉
21．暗褐色（10YR 3/3）シルト質極細粒砂〈1cm大の礫少量含む〉
22．暗褐色（10YR 3/3）細粒砂混じり極細粒砂〈1～5cm大の礫含む〉
23．黒褐色（10YR 3/2）シルト質極細粒砂〈2～3cm大の礫含む。焼土少量含む〉
24．暗褐色（10YR 3/4）粗砂混じり極細粒砂〈土器片含む〉
25．暗褐色（10YR 3/3）細粒砂混じり極細粒砂〈1～5cm大の礫・焼土含む、褐色（10YR 4/6）粘土ブロック・炭化物・土器片含む〉
26．暗褐色（10YR 3/30）粗砂混じりシルト質極細粒砂〈1～3cm大の礫、焼土含む〉

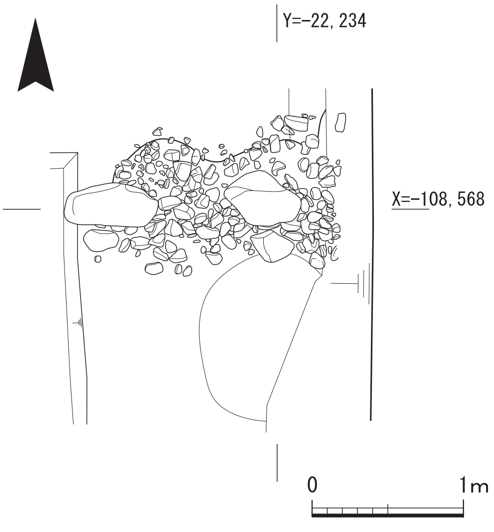
第32図　ＳＸ2058実測図

南側は撹乱により削平されている。東西の検出長は９ｍを測るが、東西いずれも調査区外に広がっている。

④溝

ＳＤ32（第34図）　１区北部（12～15-o）で検出した道路側溝である。幅0.4m、検出長8.8m、深さ0.06mを測る。埋土は暗褐色の細粒砂である。土師器皿などが出土した。16世紀末から17世紀初頭（第90図９～12）。

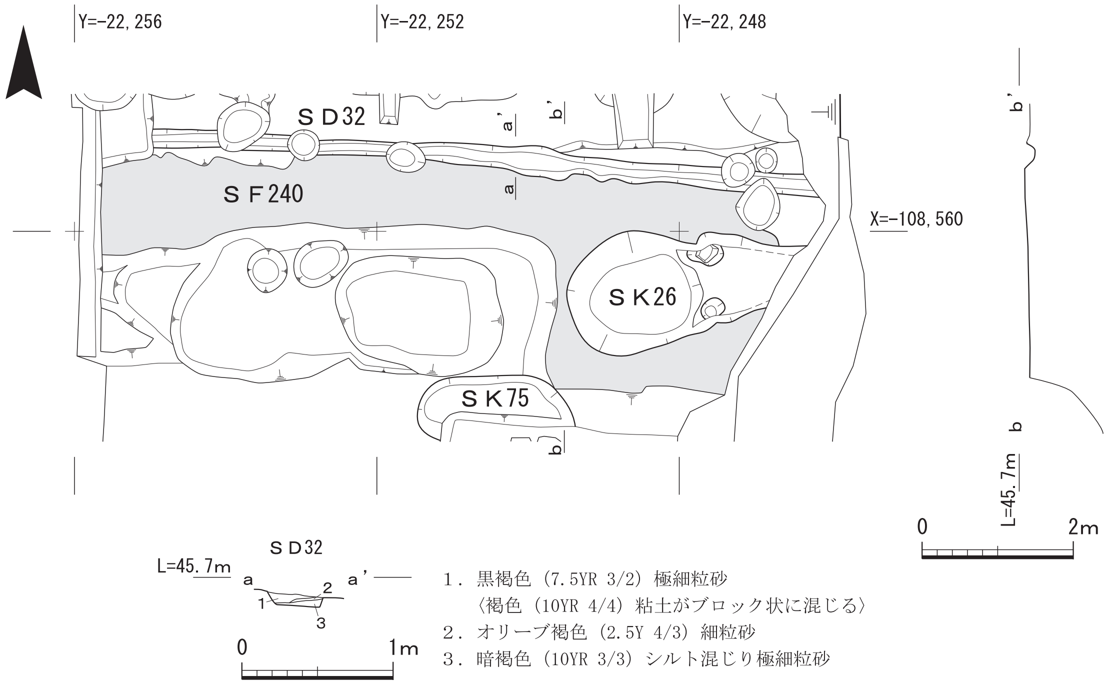
ＳＤ2075（第37図）２区北東部（9-p）で検出した道路側溝である。幅0.68程、検出長1.9m、深さ0.1ｍを測る。調査区外に延び、西側は遺構により削平を受けている。ＳＤ2075は底部に杭の跡が７本分見つかっている。この杭は道路側溝の側壁を保護するために施された施工痕跡で、側壁に沿うように板などの用材を当て、杭で板を固定した痕跡であると考えられる。埋土は暗褐色シルト混じり細粒砂である。土師器皿、瀬戸美濃陶器が出土した。16世紀後半（第90図１～８）。



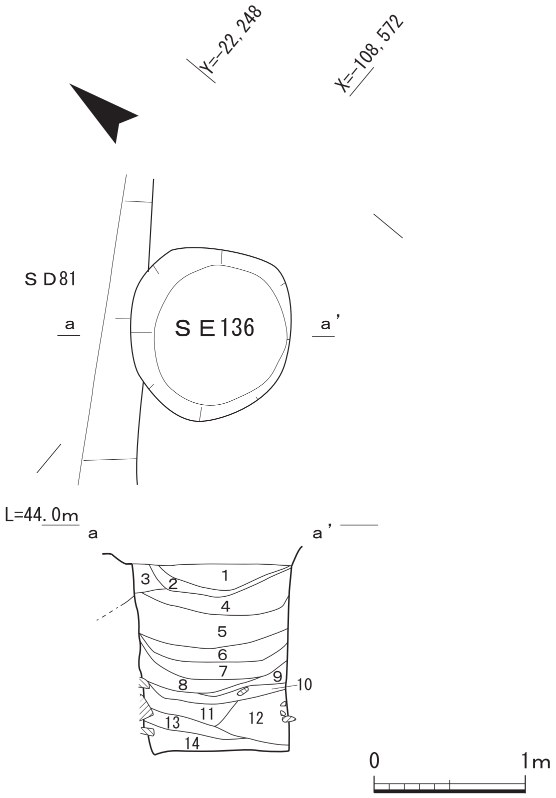
第33図　ＳＸ2064実測図

⑤井戸

ＳＥ133（第29図）　１区南部（13-s）で検出された素掘り井戸である。直径1.2mを測り、検出面から深さ1.8mまで掘削した。埋土は黒褐色極細粒砂～細粒砂で炭化物を含む。土師器皿、瀬戸美濃陶器などが出土した。16世紀末から17世紀前半（第90図13～23）。



第34図　ＳＦ240・ＳＤ32・ＳＫ26・75実測図

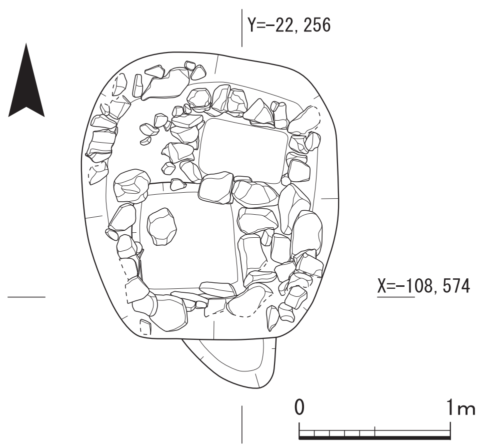


1．黒褐色（10YR 3/2）細礫混じり細粒砂
〈径３～10cmの石少し含む〉
2．黒色（N 1.5/ ）シルト〈炭・炭化物層〉
3．黒褐色（10YR 3/2）シルト混じり細粒砂
〈粘性やや強〉
4．暗褐色（10YR 3/3）砂礫〈径３～10cmの石含む〉
5．黒褐色（10YR 3/2）シルト混じり極粗砂
〈炭化物多く含む〉
6．暗褐色（10YR 3/4）シルト混じり砂礫〈軟弱層〉
7．黒色（N 1.5/ ）シルト〈灰・炭化物層〉
8．暗褐色（10YR 3/4）細礫混じり極粗砂
9．暗褐色（10YR 3/3）シルト混じり細粒砂
〈炭化物・径１cmの礫含む〉
10．褐灰色（10YR 4/1）極粗砂混じり細粒砂
〈炭化物・径２cm前後の礫含む〉
11．灰黄褐色（10YR 4/2）中粒砂混じり極粗砂
〈炭化物少量含む、径２cm前後の礫含む〉
12．黒褐色（10YR 3/2）シルト混じり極粗砂
〈炭化物・径0.5～３cmの礫含む〉
13．黒褐色（10YR 3/1）粗砂混じりシルト
〈炭化物・土器片含む、径１～５cmの礫少量含む〉
14．灰黄褐色（10YR 4/2）粗砂混じりシルト
〈径１～３cmの礫含む〉

第35図　ＳＥ136実測図

ＳＥ136（第35図）　１区南部（13-r・s）で検出した素掘り井戸である。直径1.3ｍを測り、検出面から1.3ｍほど掘削した。近代の建物基礎除去後に検出した遺構で地山からおよそ1.5ｍ下で検出した。埋土は黒褐色シルト混じりの細粒砂で炭化物を多量に含む。土師器をはじめ肥前陶器、瀬戸美濃陶器など多様な遺物が出土した。16世紀末～17世紀前半（第93・94図、第162図14、第163図８など）。

ＳＥ2057（第32・37図）　２区北東部（9·10-q）で検出した円形の井戸である。南北1.26ｍ、東西1.7ｍ、深さ２ｍを測る。上層にＳＫ2055がある。肥前陶器、瀬戸美濃陶器、土師器皿、軟質施釉陶器、鉄製品など多量の遺物が出土した。16世紀末から17世紀初頭（第91・92図、第161図５・６・９·12、第162図６・７，第163図７・13、第165図２など）。



第36図　ＳＳ37実測図

ＳＥ2227（第29図）　２区南部（11-r）で検出した素掘り井戸である。直径1.5ｍを測るが、遺構の東半分は近代建物の基礎が入るため掘削できていない。検出面から深さ0.8ｍまで掘削した。埋土は暗褐色細礫混じり粗砂質粗シルトで炭化物を含む。土師器皿、瀬戸美濃陶器、肥前陶器などの陶磁器のほか、鉄製品、木製の箸などが出土している。17世紀前半（第90図24～35、第161図11、第172図など。

ＳＥ2257（第29図）　２区西部（12-r）で検出した素掘り井戸である。直径1.6mを測り、検出面から0.6m掘削した。埋土は暗褐色細礫混じり細粒砂で、粒径６～８cmの礫を少量含む。土師器皿、肥前陶器などが出土した。17世紀半ば～18世紀初頭（第95図１～９）。

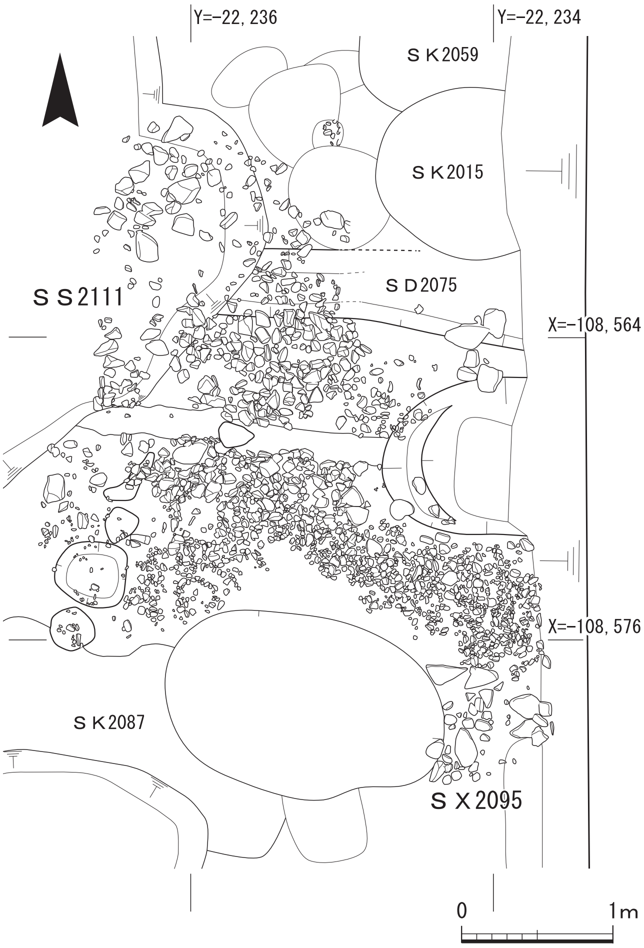
⑥集石遺構、石組遺構

ＳＳ37（第36図）　１区南西部（14･15-s）で検出した石組遺構である。南北1.89m、東西1.75m、深さ0.75mを測る。遺構内に重複する方形の石組を検出した。内径は約0.7mである。土師器や瀬戸美濃陶器、肥前陶磁器が出土した。17世紀前半（第95図19～29）。

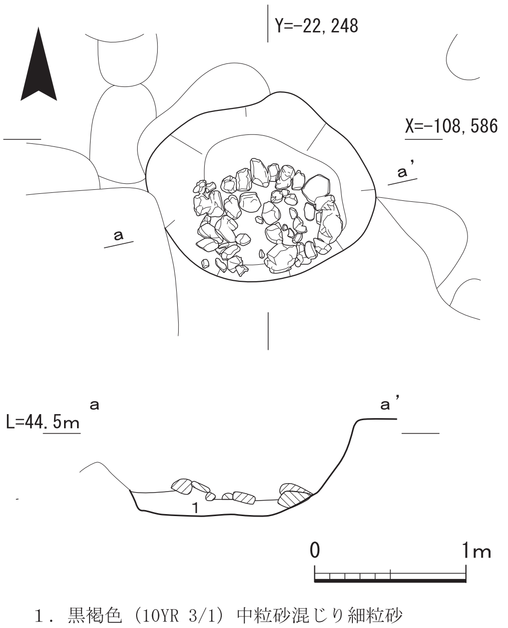
ＳＳ2097（第29図）　２区北東部（9･10-q）で検出した配石遺構である。南北1.5m、東西１ｍを測る。「Ｌ」字状に配石されており、構築物の一部であると推測される。土師器皿が出土した。16世紀末～17世紀初頭（第95図10）。

ＳＳ2111（第37図）　２区（9･10-q）で検出した集石遺構である。検出規模は南北4.5m、東西6.5ｍを測る。ＳＤ2075からＳＸ2095の間でまとまって10cm程度の礫が出土している。ＳＸ2058の下層にあたり、築地や建物などの構築物を建てる際の沈み込み防止を目的として敷設された遺構であると考えられる。土師器皿の細片などが出土した。

ＳＳ3135・ＳＳ3136（第30図）　３区中央部（9・10-u）で検出した集石遺構である。南北2.8m、東西3.35ｍの範囲に５～10cm前後の礫が敷設されている。下層にＳＤ3550が埋没していることから、

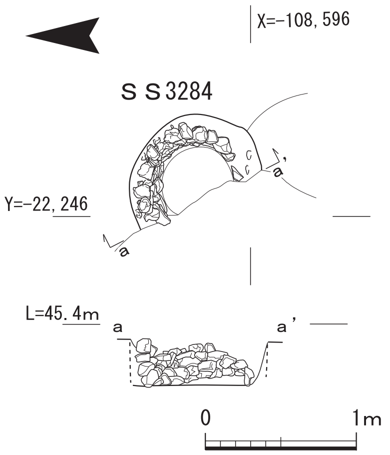


第37図　ＳＸ2095・ＳＳ2111実測図

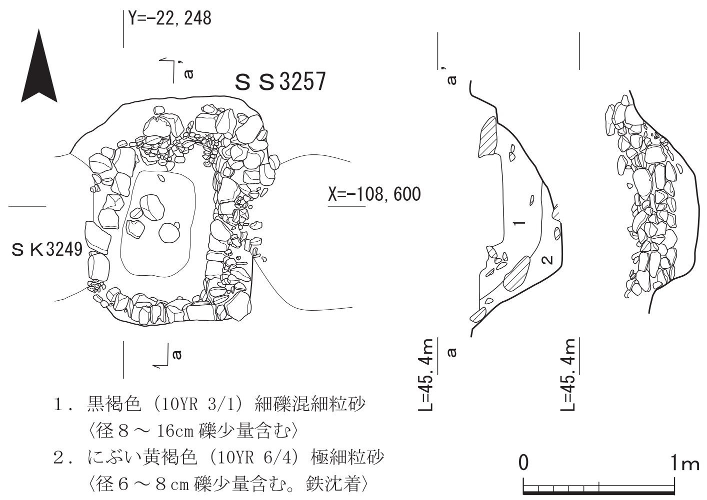


1．黒褐色（10YR 3/1）中粒砂混じり細粒砂
〈焼土・炭化物少量含む。径５～15cm礫含む〉

第38図　ＳＳ3190実測図

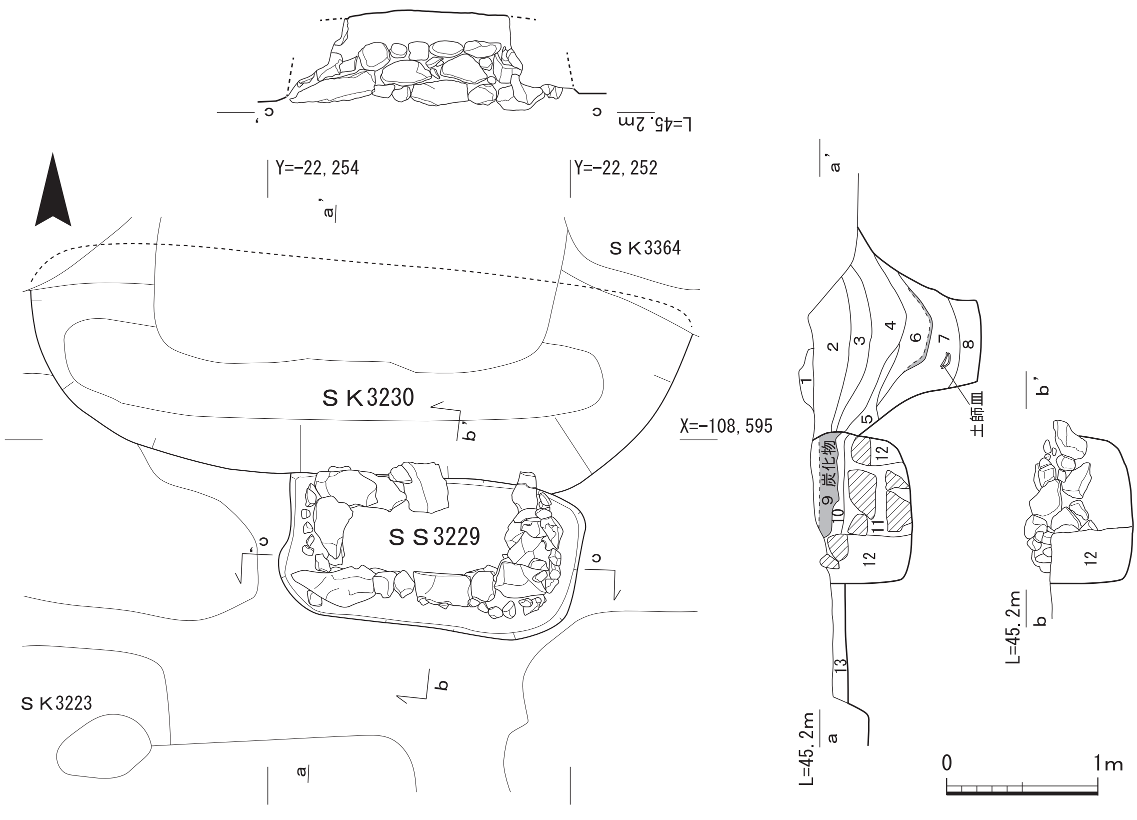


第39図　ＳＳ3284実測図



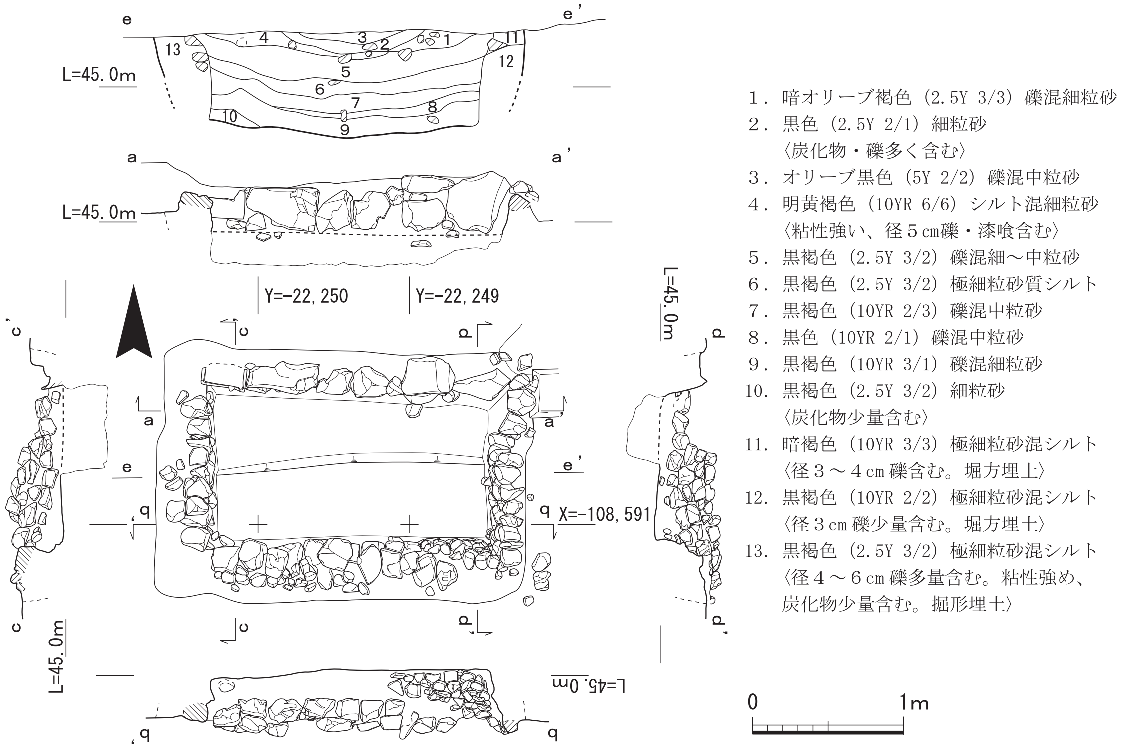
１．黒褐色（10YR 3/1）細礫混細粒砂
〈径８～16cm 礫少量含む〉
２．にぶい黄褐色（10YR 6/4）極細粒砂
〈径６～８cm 礫少量含む。鉄沈着〉

第40図　ＳＳ3257実測図

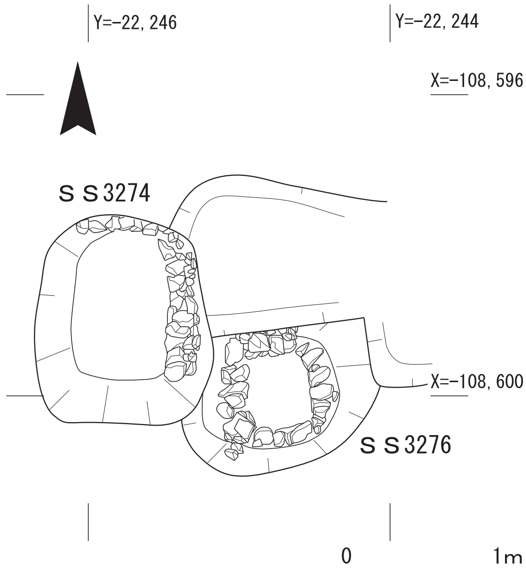


１．暗褐色（10YR 3/3）中粒砂混細粒砂〈径１～３cm礫・焼土・炭化物含む〉
２．暗褐色（10YR 3/4）極細粒砂
〈径１～５cm 礫均等に含む。炭化物含む。褐色（10YR 4/6）中粒砂ブロック状に混じる〉
３．黒褐色（10YR 3/2）細粒砂
〈径１～５cm 礫・土師器片含む。炭化物均等に含む。褐色（10YR 4/4）細粒砂ブロック状に含む〉
４．暗褐色（10YR 3/3）細粒砂混極細粒砂〈径１～３cm 礫・土師器片含む。炭化物均等に含む。〉
５．黒褐色（10YR 3/2）中粒砂〈径１～２cm 礫・炭化物含む〉
６．黒褐色（10YR 3/2）シルト混細粒砂〈炭化物含む〉
７．黒褐色（10YR 3/2）シルト混細粒砂
〈径２～５cm 礫少量含む。土師器片・炭化物含む。黄褐色（10YR 5/6）粘土ブロック状に混じる〉
８．暗褐色（10YR 3/4）シルト混極細粒砂〈径２～３cm 礫含む〉
９．黒褐色（10YR 3/2）極細粒砂〈径１～３cm 礫少量含む。炭化物多く含む〉
10．暗褐色（10YR 3/3）極細粒砂〈炭化物含む〉
11．暗褐色（10YR 3/4）細粒砂〈炭化物含む。土師器片少量含む〉
12．黒褐色（10YR 3/1）中粒砂混じり細粒砂
13．暗褐色（10YR 3/3）細粒砂混極細粒砂〈径１～３cm 礫含む〉

第41図　ＳＳ3229・ＳＫ3230実測図



第42図　ＳＳ3239実測図



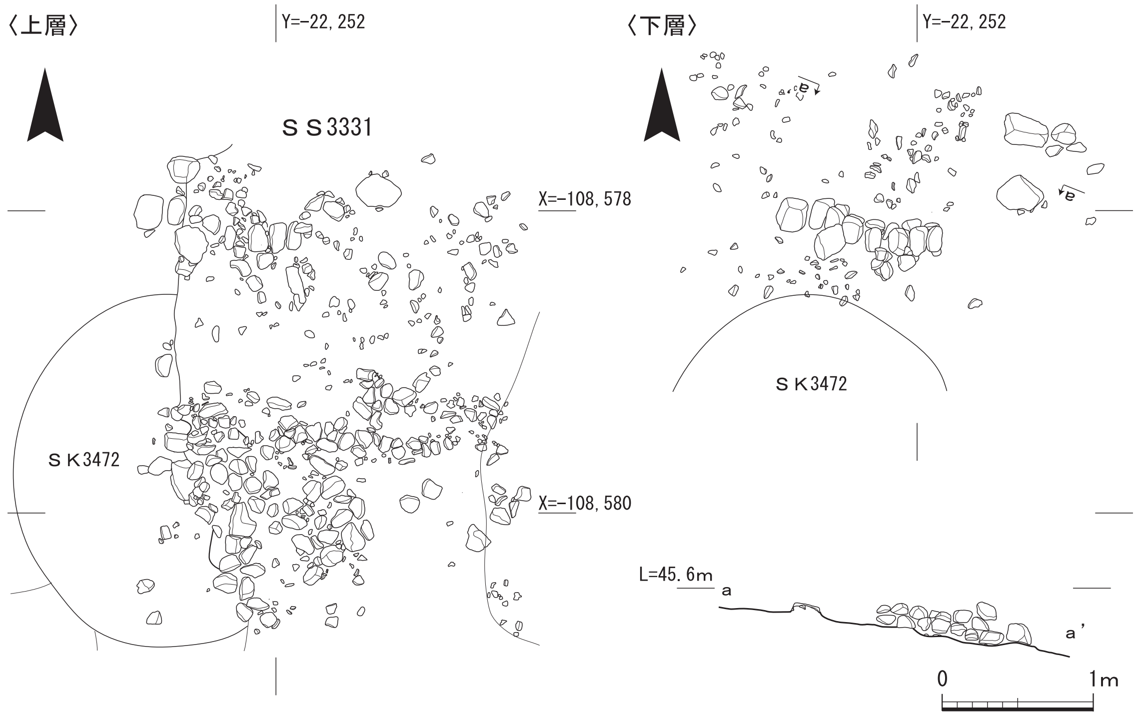
第43図　ＳＳ3274・3276実測図

ＳＢ01建設時の沈み込み防止として敷設されたと考えられる。埋土は礫間に堆積しており黒褐色泥質極細粒砂である。土師器皿が出土した（第95図12〜18）。16世紀末〜17世紀初頭。

ＳＳ3190（第38図）　３区中央部（12･13-v）で検出した配石遺構である。南北1.2m、東西1.5m、深さ0.65mを測る。埋土は褐灰色中粒砂混じり細粒砂で、粒径５〜15cmの礫を多量に含む。土師器皿が出土した。17世紀第２四半期（第96図12）。

ＳＳ3216・3217（第29図）　３区南部（13･14-a）で検出した集石遺構である。掘形の直径1.5m、南北内径0.3m、東西内径0.2m、深さ0.3mを測る。掘形をＳＳ3217、集積部をＳＳ3216として掘削した。埋土は暗灰黄色中粒砂〜細粒砂で、粒径10〜20cmの礫を含む。土師器皿や褐釉の壺が出土した。16世紀後半から17世紀前半（第96図13〜16）。

ＳＳ3229（第41図）　３区南西部（14-x）で検出した石組遺構である。南北１m、東西2.5m、深さ0.65mを測る。北側はＳＫ3230に削平されている。埋土は黄灰色細礫混じり極細粒砂〜細粒砂である。土師器皿、肥前陶磁器、瀬戸美濃陶器、鎌、煙管などが出土した。17世紀前半（第96図17〜25、第161図７，第162図５など）。



第44図　ＳＳ3331実測図

ＳＳ3239（第42図）　３区中央部（13-w）で検出した石組遺構である。南北1.6m、東西2.3m、深さ0.45mを測る。内側は南北１m、東西２mである。埋土は黒褐色細粒砂である。石組の北西角に瓦を転用している。また南東隅及び東面と南北西面の配石の規格が異なり、前者の配石の上に増築したように後者が配されていることから、当初南東隅及び東面の石を用いて施工したが、後年に検出段階の状況に作り替えた遺構と考えられる。砂目の肥前陶器などが出土した（第97図）。

ＳＳ3257（第40図）　３区南部（12･13-y･a）で検出した石組遺構である。南北1.62m、東西１m、深さ0.62mを測る。埋土は暗オリーブ褐色中粒砂～細粒砂である。土師器や肥前陶器が出土した。16世紀末～17世紀前半（第96図１～11）。

ＳＳ3276（第43図）　３区南部（12-y）で検出した方形の石組遺構である。掘形は南北0.95m、東西1.35mを測るが、北側と西側が他の遺構により削平される。埋土は暗灰黄色細礫混じり細粒砂である。土師器皿、瀬戸美濃陶器、中国製染付などが出土した。17世紀前半（第96図26～29）。

ＳＳ3284（第40図）　３区（12-x･y）で検出した石組遺構である。南北0.85m、東西0.6m、深さ0.3mを測る。埋土は黒褐色極細粒砂～細粒砂で、粒径４～８cmの礫を少量含む。出土遺物はなく、遺構の切り合いから江戸時代前期頃の遺構と判断した。

ＳＳ3331（第44図）　３区北西部（13･14-t）で検出した配石遺構である。ＳＫ3472の上層に構築され、北側の石組は北側に面を持つ。配石の広がりは南北1.15m、東西0.6mを測る。埋土は暗灰黄色細粒砂である。土師器皿が出土した。16世紀後半（第95図11）。

⑦土坑

ＳＫ14（第64図）　１区北西部（14-o）で検出した廃棄土坑である。南北1.6m、東西1.5m、深さ0.6mを測る。掘形は北と西が調査区外まで広がり、東はＳＳ07に削平されている。埋土は黒褐色細

粒砂である。炭化物を多く含む。土師器皿、肥前陶器、瀬戸美濃陶器、中国製染付などが出土した。16世紀末から17世紀前半（第101～102図１、第162図１・２、第165図４、第169図６・８・10・24）。

ＳＫ15（第29図）　１区北西部（14-p）で検出した廃棄土坑である。遺構の大部分が撹乱により削平を受けている。南北0.2m、東西0.6m、深さ0.6mを測る。瀬戸美濃が出土した（第116図１）。

ＳＫ21（第29図）　１区西部（14-q・r）で検出した廃棄土坑である。南北0.52m、東西0.4m、深さ0.17mを測る。北側と西側が撹乱により削平されている。肥前陶磁器や土師器皿、褐釉陶器などが出土した。16世紀末～17世紀前半（第102図２～24、第169図１～５）。

ＳＫ24（第29図）　１区北部（13-o）で検出した廃棄土坑である。南北0.64m、東西1.1m、深さ0.25mを測る。北側は調査区外に広がる。土師器皿、瀬戸美濃陶器、肥前陶器などが出土した。17世紀後半（第114図１～６、第164図１）。

ＳＫ26（第34図）　１区北東部（12･13-p）で検出した円形廃棄土坑である。南北1.7m、東西1.8m、深さ0.8mを測る。埋土は黒褐色細粒砂で、炭化物が多量に堆積していた。土師器皿、瀬戸陶器、肥前陶器、肥前磁器、中国製染付などが多量に出土した。17世紀後半～18世紀初頭（第115図19～46、第163図６）。

ＳＫ28（第29図）　１区北部（13-o）で検出した廃棄土坑である。南北0.6m、東西１m、深さ0.07mを測る。ＳＫ24の下層で検出した土坑で、ＳＫ29により削平されている。土師器皿、瀬戸美濃陶器などが出土した。16世紀末～17世紀初頭（第99図35～38）。

ＳＫ29（第29図）　１区北部（13-o）で検出した円形の廃棄土坑である。南北1.42m、東西1.46m、深さ0.31mを測る。北側は調査区外に広がる。土師器皿、瀬戸美濃陶器、中国製陶磁器、鉄製品、銭などが出土した。16世紀末から17世紀初頭（第100図１～22、第161図１、第169図９）。

ＳＫ30（第29図）　１区北東部（12-o）で検出した円形廃棄土坑である。南北1.2m、東西１m、深さ0.5mを測るが、北部東部ともに調査区外に広がっている。土師器皿、瀬戸美濃陶器などが出土した。16世紀後半～17世紀初頭（第98図７～28）。

ＳＫ36（第29図）　１区西部（14-q･r）で検出した土坑である。南北1.2m、東西0.5m、深さ0.3mを測る。北はＳＫ21により削平され、西側は撹乱に削平される。元和の火災による廃棄土坑と考えられる。土師器皿、瀬戸美濃陶器、肥前陶器、中国製染付、瓦質の鉢、鉄製品、銅製品、石製品、銭などが出土した。16世紀末～17世紀前半（第103･104図、第161図２、第163図１・５、第165図３、第169図11～21）。

ＳＫ49（第29図）　１区南西部（14-s）で検出した不定形の廃棄土坑である。南北２m、東西3.3m、深さ0.58mを測る。北側は撹乱に削平され、東側はＳＫ66に削平されている。上層遺構から混入した土人形が出土したほか、土師器皿が出土している。16世紀末～17世紀前半（第105図１～14）。

ＳＫ65（第29図）　１区南部（13-s）で検出した不定形の廃棄土坑である。南北1.3m、東西1.2m、深さ0.27mを測る。東側と北側は撹乱により削平されている。土師器皿、肥前陶器、瓦質の鉢などが出土した。17世紀前半（第107図21～27）。

ＳＫ66（第29図）　１区南部（14-s）で検出した円形の廃棄土坑である。南北1.58m、東西1.4m、深さ0.43mを測る。土師器、信楽、丹波が出土した。16世紀末～17世紀前半（第105図15～28）。

ＳＫ69（第29図）　１区西部（14-r）で検出した方形の廃棄土坑である。南北1.6m、東西1.4m、深さ0.65mを測る。西端は調査区外に続く。埋土は黒褐色細粒砂で炭化物を多く含む。土師器、瀬戸美濃陶器、肥前陶器、中国製陶磁器、取鍋、信楽、備前、犬形土製品、鉄製品など多様な遺物が出土した。16世紀後半～17世紀初頭（第99図１～34、第161図３・４）。

ＳＫ71（第29図）　１区南部（13-s・t）で検出した廃棄土坑である。東西及び南を別遺構に削平されているが、南北1.5m、東西2.6m、深さ0.22mを測る。埋土は暗褐色シルト質細粒砂である。土師器、瀬戸美濃陶器、銭が出土した。16世紀後半～17世紀初頭（第98図29～36、第169図22）。

ＳＫ72（第29図）　１区南西部（14-s･t）で検出した円形の廃棄土坑である。北側をＳＫ50により削平されており部分的な検出にとどまった。南北1.6m、東西1.6m、深さ0.27mを測る。埋土は黒褐色シルト質極細粒砂である。土師器皿、焼塩壺、軟質施釉陶器、銅製品などが出土した。16世紀末～17世紀前半（第105図29～41、第163図９）。

ＳＫ75（第34図）　１区北部（13-p）で検出した楕円形の廃棄土坑である。南北0.9m、東西２m、深さ0.75mを測る。南側を撹乱により削平されている。埋土は黒褐色中粒砂で底部付近に炭化物が堆積する。土師器、吹子の羽口が出土した。16世紀末～17世紀初頭（第99図39～42）。

ＳＫ79（第29図）　１区中央部（13･14-ｑ）で検出した円形の廃棄土坑である。南北1.8m、東西0.65m、深さ0.5mを測る。東側が撹乱により削平されている。土師器皿、中国製陶磁器、石製品などが出土した。16世紀末～17世紀前半（第106図１～17）。

ＳＫ236（第７図）　１区西部（14-p）第３面で検出した廃棄土坑である。南北1.3m、東西0.41m、深さ0.2mを測る。埋土は黒褐色シルト混じり極細粒砂である。土師器、瀬戸美濃陶器、中国製陶磁器、肥前陶器などが出土した。17世紀前半（第108～109図１・２、第164図６）。

ＳＫ2044（第29図）　２区南部（10-t）で検出した楕円形の土坑である。土師器皿、青磁、銅製品、石製品などが出土した。16世紀後半か（第98図１～６、第163図４、第164図９、第169図28～33・35・36、第170図５）。

ＳＫ2047（第29図）　２区東部（9-ｒ･s）で検出した円形の廃棄土坑である。南北1.1m、東西0.6m、深さ0.23mを測る。調査地外東側に続く。土師器皿、瀬戸美濃陶器、中国製陶磁器、銭などが出土した。16世紀末～17世紀前半（第107図１～17、第162図12、第169図46・52・53）。

ＳＫ2049（第29図）　２区北東部（9-p）で検出した方形の廃棄土坑である。南北0.94m、東西0.37m、深さ0.2mを測る。調査地外に広がっていく。土師器皿、肥前陶磁器、石製品などが出土した。17世紀後半（第114図７～12、第164図８、第170図４）。

ＳＫ2072（第29図）　２区西部（12-s･t）で検出した不定形の廃棄土坑である。南北1.2m、東西2.6m、深さ0.3mを測る。土師器皿、瀬戸美濃陶器、肥前陶磁器、軟質施釉陶器などが出土した。17世紀前半（第114図13～25）。

ＳＫ2073（第29図）　２区南部（12-s）で検出した土坑である。南北0.15m、東西0.2m、深さ0.1

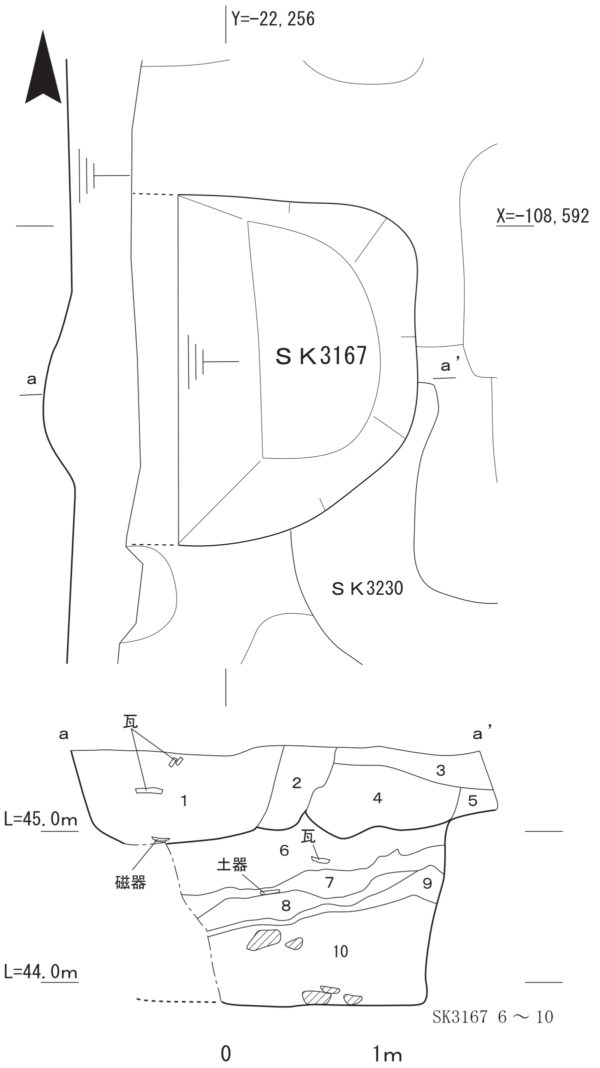
mを測る。華南三彩が出土した(第116図２)。

ＳＫ2074(第29図)　２区北東部(9･10-p)で検出した不定形の土坑である。南北0.9m、東西２m、深さ0.1mを測る。西側を撹乱により削平され、東側を上層の遺構により削平されている。吹子の羽口などが出土した。17世紀後半(第114図26～28)。

ＳＫ2078(第29図)　２区南西部(12-t)で検出した楕円形の土坑である。南北0.7m、東西0.27m、深さ0.2mを測るが、東側は撹乱により削平されている。中国製陶磁器などが出土した。17世紀前半(第106図22・23)。

ＳＫ2086(第29図)　２区東部(9-q)で検出した円形土坑である。南北1.1m、東西0.35m、深さ0.2mを測る。遺構の北西部はＳＫ2057により削平されている。瀬戸美濃陶器、土師器皿、肥前磁器などが出土した。16世紀末～17世紀初頭(第100図23～34)。

ＳＫ2087(第29図)　２区中央部(9･10-q)で検出した不定形の土坑である。南北1.5m、東西2.85m、深さ0.3mを測る。中国製の白磁が出土した(第116図３)。



１．黒褐色（10YR 2/2）中粒砂混細粒砂
〈径１～５㎝礫含む。瓦片・炭化物混じる〉
２．黒褐色（10YR 2/2）細粒砂混極細粒砂
〈径１～３㎝礫・炭化物・焼土・瓦片・土器片混じる〉
３．暗褐色（10YR 3/3）中粒砂混細粒砂
〈径１～３㎝礫・炭化物混じる。焼土少量混じる〉
４．暗褐色（10YR 3/2）極細粒砂混シルト
〈径１～３㎝礫混じる。炭化物均等に含む。
明黄褐色（10YR 6/6）粘土ブロック状に混じる。
土器片混じる〉
５．暗褐色（10YR 3/3）シルト混極細粒砂
〈炭化物混じる。明黄褐色粘土ブロック混じる〉
６．黒色（2.5Y 2/1）極細粒砂混シルト
〈径３㎝礫含む。炭化物・焼土・土器・瓦片混じる。
黄褐色（10YR 5/8）粘土ブロック混じる〉
７．黒褐色（2.5Y 2/2）細粒砂混シルト
〈炭化物・焼土混じる〉
８．黒褐色（10YR 3/3）シルト／褐色（10YR 4/6）粘土
〈炭化物・焼土混じる〉
９．黒褐色（10YR 2/2）シルト混極細粒砂
〈径２～３㎝礫混じる。炭化物均等に含む。
褐色（10YR 4/6）粘土ブロック少し混じる〉
10．暗褐色（10YR 3/3）粒砂混シルト
〈褐色（10YR 4/6）粘土均等に含む。
径１～15㎝礫含む。焼土・土器片混じる〉

第45図　ＳＫ3167実測図

ＳＫ2198（第７図）　２区南西部（11-t）第３面で検出した土坑である。南北0.5m、東西1.5m、深さ0.2m測る。遺構の南西部は撹乱により削平されている。埋土は暗オリーブ灰色中礫混じり細粒砂である。土師器皿、中国製の白磁が出土した。16世紀末～17世紀初頭（第100図35～38）。

ＳＫ3167（第45図）　３区南西部（14･15-w･x）で検出した方形の廃棄土坑である。南北1.5m、東西1.5m、深さ1.2mを測る。南側を上層の遺構に削平され、西側は調査区外に広がる。埋土は褐灰色細礫混じり細粒砂である。土師器皿、肥前陶磁器、中国製の白磁、銭などが出土した。17世紀半ば（第109図３～15、第165図10、第169図68）。

ＳＫ3183（第29図）　３区中央部（12-w）で検出した東西に長い楕円形の廃棄土坑である。南北１m、東西2.2mを測る。埋土は黒色中粒砂混じり細粒砂である。肥前磁器が出土した。17世紀半ば（第113図３～５）。

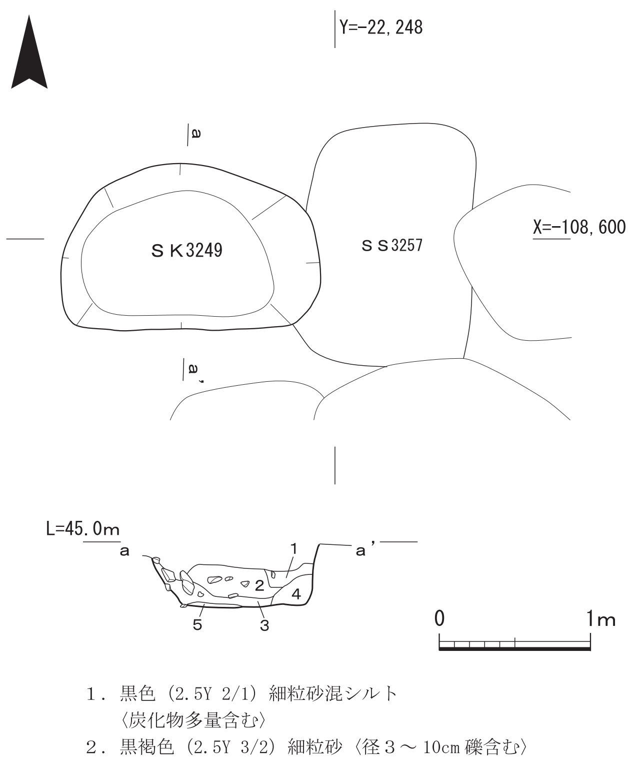
ＳＫ3186（第29図）　３区中央部（11･12-w）で検出した円形の廃棄土坑である。南北0.6m、東西1.5m、深さ0.4mを測るが、南側を上層の遺構により削平されている。埋土は黄灰色中粒砂混じり細粒砂である。肥前陶器、金箔瓦が出土した。17世紀前半（第106図18・19、第157図３）。

ＳＫ3192（第29図）　３区（12-v･w）で検出した不定形土坑である。南北1.1m、東西１m、深さ0.15mを測る。ＳＫ3186により削平される。銭が出土した（第169図71）。

ＳＫ3199（第29図）　３区北西部（14･15-v）で検出した円形の廃棄土坑である。南北１m、東西2.2m、深さ0.25mを測る。北側をＳＫ3172により削平されている。埋土は黒褐色極細粒砂である。土師器皿、肥前磁、中国製陶磁器などが出土した。17世紀半ば（第113図６～26）。

ＳＫ3226（第29図）　３区北東部（14-w）で検出した不定形の廃棄土坑である。南北1.4m、東西0.65m、深さ0.7mを測る。南側と東側が上層の遺構により削平されている。ＳＫ3325を切る土坑である。17世紀半ばの肥前磁器が出土している（第113図２、第165図８）。

ＳＫ3230（第41図）　３区南西部（13･14-x）で検出した楕円形の廃棄土坑である。南北1.4m、東西2.7m、深さ1.2mを測る。埋土は暗オリーブ褐色細粒砂で、粒径４～12cmの礫と炭化物を含む。土師器皿をはじめとして、中国製陶磁器、肥前陶器、瀬戸美濃の陶器などの遺物が



１．黒色（2.5Y 2/1）細粒砂混シルト
〈炭化物多量含む〉
２．黒褐色（2.5Y 3/2）細粒砂〈径３～10cm礫含む〉
３．オリーブ黒色（5Y 2/2）細中粒砂
４．黒褐色（2.5Y 3/1）細粒砂混シルト
〈径２～４cm礫多量含む〉
５．黒褐色（2.5Y 3/1）礫混極細粒砂質シルト
〈径１～２cm礫少量含む〉

第46図　ＳＫ3249実測図

多量に出土した。17世紀半ば（第110・111図、第165図９、第169図64〜67・70）。

ＳＫ3241（第29図）　３区中央部（12-w・x）で検出した楕円形の土坑である。南北1.3m、東西0.9m、深さ0.12mを測る。遺構の大部分を東側の遺構により削平されている。埋土は黄灰色極細粒砂〜細粒砂である。肥前陶器が出土した。17世紀前半（第106図20・21）。

ＳＫ3246（第29図）　３区北東部（13-a）で検出した楕円形の土坑である。南北0.8m、東西0.2m、深さ0.1mを測る。ベトナム陶器が出土した（第116図６）。

ＳＫ3249（第46図）　３区南部（13-ｙ・a）で検出した長方形の廃棄土坑である。南北1.2m、東西1.7m、深さ0.4mを測る。埋土は暗灰黄色細粒砂である。土師器皿、瀬戸美濃陶器、肥前陶器、中国磁器などが出土した。17世紀半ば（第112図１〜５）。

ＳＫ3252（第29図）　３区北西部（14-u）で検出した円形の土坑である。南北1.5m、東西1.4m、深さ0.25mを測る。西側のＳＫ3253に削平されている。埋土は褐灰色極細粒砂〜細粒砂である。土師器皿、中国製の青磁、石製品が出土した。16世紀末〜17世紀初頭（第100図39・40、第165図１）。

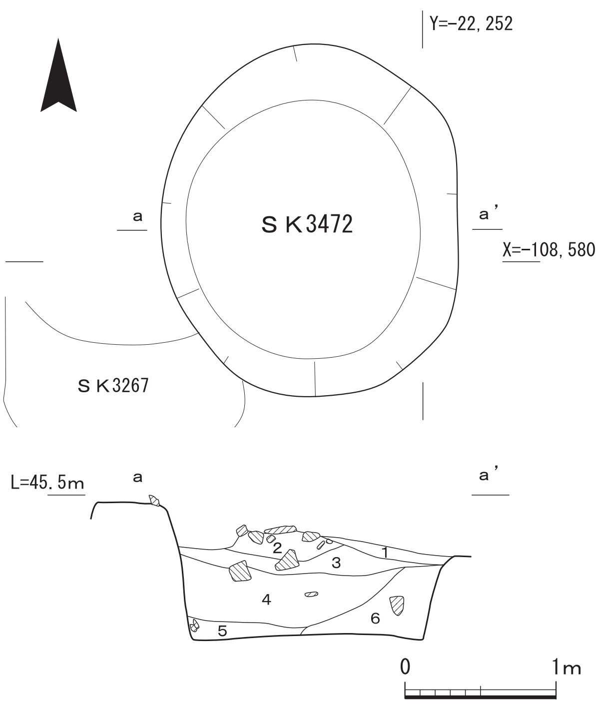
ＳＫ3260（第29図）　３区中央部（12・13-v・w）で検出した不定形の廃棄土坑である。南北1.7m、東西1.9m、深さ0.6mを測る。埋土は褐灰色極細粒砂である。土師器皿、肥前陶器などが出土した。17世紀後半（第115図１〜18）。

ＳＫ3282下層（第29図）　３区北西部（14・15-t）で検出した方形の廃棄土坑である。南北1.57m、東西1.67m、深さ0.5mを測る。上層で検出したＳＫ3282と同じ位置で掘削された別遺構である。埋土は灰黄褐色中粒砂質細粒砂である。土師器皿、肥前陶器、瀬戸美濃陶器などが出土した。17世紀半ば（第112図６〜10）。

ＳＫ3283（第29図）　３区（13・14-t）で検出した土坑である。直径0.8m、深さ0.1mを測る。金箔の残存する丸瓦の瓦当が出土した（第157図２）。

ＳＫ3292（第29図）　３区（11・12-w）で検出した土坑である。直径2.5mを測る。軟質施釉陶器と金箔の残存する軒丸瓦・軒平瓦、石製品などが出土した（第116図７、第157図４・７、第164図11）。

ＳＫ3313（第29図）　３区南西部（13-x）で検出した廃棄土坑である。南北1.5m、東西



１．黒褐色（10YR 3/1）シルト〈炭化物・焼土混じる〉
２．黒褐色（10YR 3/2）シルト混細粒砂
　〈炭化物含、明黄褐色（2.5YR 5/8）ブロック少し混じる〉
３．暗褐色（10YR 3/3）中粒砂〈土師器片、炭化物混じる、
　径３〜５㎝の礫混じる、黄橙色（10YR 7/8）均等に含む〉
４．灰黄褐色（10YR 4/2）シルト混中粒砂
　〈炭化物・径１〜５㎝の礫混じる〉
５．黒褐色（2.5Y 3/2）シルト混細粒砂〈炭化物混じる〉
６．黄灰色（2.5Y 4/1）シルト混細粒砂〈径１〜５㎝の礫含む、
　炭化物混じる、明黄褐色（2.5YR 6/8）土含む〉

第47図　ＳＫ3472実測図

1.8m、深さ0.15mを測る。上層の遺構に激しく削平を受けている。埋土は黒褐色細礫混じり細粒砂である。土師器皿、肥前陶器、中国製陶磁器、鉄製品などが出土した。17世紀後半(第114図29～36、第161図10)。

ＳＫ3324(第29図)　３区西部(13-w)で検出した円形の廃棄土坑である。南北１m、東西1.35m、深さ0.15mを測る。埋土は褐灰色細粒砂である。北側と東側を他の遺構により削平されている。中国製陶磁器が出土した。17世紀前半(第107図18)。

ＳＫ3329(第29図)　３区西部(13-x)で検出した廃棄土坑である。南北0.5m、東西0.35m、深さ0.15mを測る。埋土は黒色細粒砂である。西側をＳＫ3230に削平されている。土師器皿、肥前陶器のほか華南三彩、瓦などが出土した。17世紀半ば(第112図12～17、第157図８)。

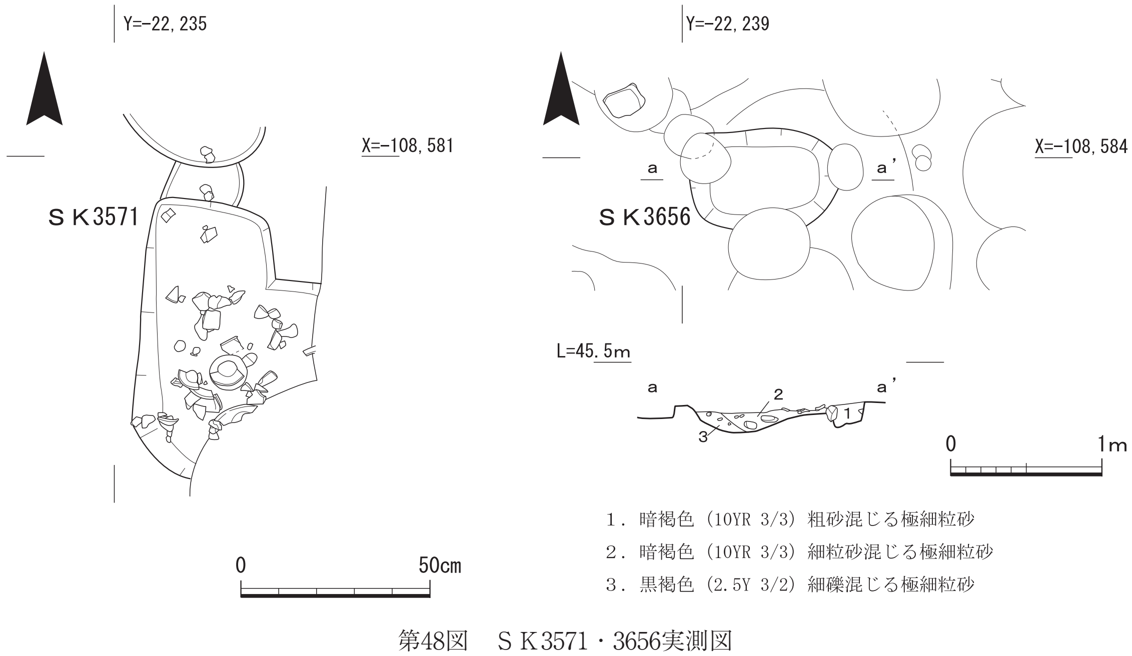
ＳＫ3363(第29図)　３区中央部(13-w)で検出した土坑である。埋土は黒褐色細粒砂である。金箔の残る土師器皿が出土した。17世紀半ば(第112図11)。

ＳＫ3364(第29図)　３区南西部(13-x)で検出した廃棄土坑である。南北1.5m、東西1.25m、深さ0.28mを測る。埋土は黄灰色細礫混じり細粒砂である。土師器皿、肥前陶器などが出土した。17世紀半ば(第112図18～22、第169図72)。

ＳＫ3407(第７図)　３区北西部(14-t･u)第３面で検出した廃棄土坑である。南北0.65m、東西1.15m、深さ0.2mを測る。埋土は黄灰色極細粒砂～細粒砂である。土師器皿、中国製陶磁器、瀬戸美濃陶器、石製品などが出土した。17世紀半ば(第112図23～29、第164図10・12)。

ＳＫ3427(第７図)　３区北西部(14-t)第３面で検出した廃棄土坑である。南北１m、東西0.25m、深さ0.12mを測る。大部分をＳＫ3282に削平される。埋土は黒褐色細粒砂である。肥前陶器、瀬戸美濃陶器や瓦が出土した。17世紀前半(第107図19・20・第156図１～３)。

ＳＫ3440(第７図)　３区北部(12-t)第３面で検出した不定形の土坑である。南北1.3m、東西1.3m、深さ0.2mを測る。遺構の南側と東側は上層の遺構により削平を受けている。軟質施釉陶



第48図　ＳＫ3571・3656実測図

器が出土した。17世紀前半(第106図24)。

ＳＫ3471(第７図)　３区南東部(10-w)第３面で検出した円形の土坑である。南北1.1m、東西１m、深さ0.2mを測る。埋土は暗褐色シルト質細粒砂である。朝鮮産と思われる焼き物が出土した(第116図４・５)。

ＳＫ3472(第47図)　３区北西部(13･14-t・u)で検出した円形の廃棄土坑である。南北2.35m、東西２m、深さ0.5mを測る。土師器皿、肥前陶器などが出土した。16世紀末～17世紀初頭か(第100図41～44)。

ＳＫ3571(第48図左)　３区北東部(9-u)第３面で検出した円形の土坑である。南北0.8m、東西0.6m、深さ0.08mを測る。土師器皿が出土した。16世紀末～17世紀初頭(第100図45～47)。

ＳＫ3656(第48図右)　３区北東部(10-u・v)第３面で検出した土坑である。南北0.5m、東西0.68m、深さ0.15mを測る。埋土は黄褐色混じり黒褐色細粒砂である。土師器皿が出土した。17世紀半ば(第113図１)。

⑧その他

ＳＸ2137(第７図)　２区南東部(9-s･t)第３面で検出した土器埋め込み遺構である。南北1.22m、東西0.88m、深さ0.85mを測る。埋土は黒褐色極細粒砂～細粒砂である。備前の甕を埋め込んだ土坑である。甕は水溜として用いられたと考えられる(第116図８)。

（４）江戸時代後期・幕末の遺構

江戸時代後期から幕末(18世紀前半～19世紀後半)の遺構は主に第１面で検出した。幕末の会津藩上屋敷に伴うかまどや井戸を検出したほか、近世後期の町家に関係するかまどや井戸、漆喰の暗渠、土坑、出水通り(近衛大路)の道路側溝などを検出した。土師器・国産陶磁器・骨加工品・ガラス製品など多様な遺物が出土した。

①建物・礎石

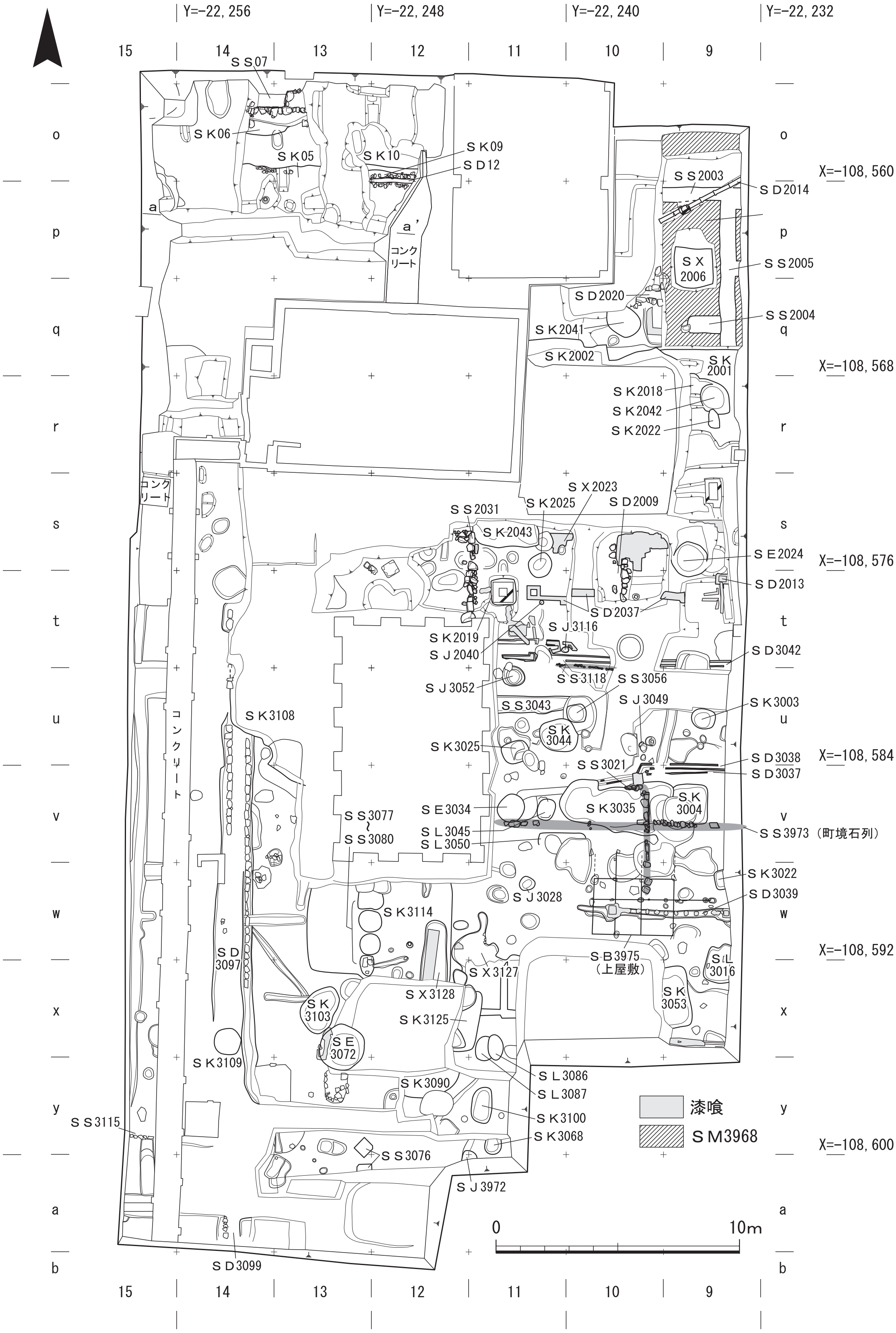
ＳＢ3975(上屋敷)(第50図)　３区東部(9･10-v･w)で検出した礎石建物である。南北３間、東西４間、検出規模は南北3.3m、東西５mを測る。出土遺物はないが、嘉永の大火の焼土層の上に据えていることから、京都守護職上屋敷の建物と考えられる。柱間の距離は西側２間が1.2m、東側２間が1.45mである。現存する京都守護職上屋敷絵図で確認できる限りにおいて西側が縁側で東側が床にあたると考えられる。南北はともに撹乱により削平されており全容は不明である。

②溝・暗渠・池

ＳＤ12(第51図)　１区東部(12･13-o)で検出した石組の道路側溝である。幅0.36m、検出長1.86m、深さ0.2mを測る。出水通りの北側道路側溝で、ＳＫ05により削平されている。土師器皿の細片が出土した。17世紀末～18世紀半ば(第117図１～７)。

ＳＤ2013(第52図)　２区南東部(9-ｔ)で検出した漆喰暗渠の桝部分である。桝の底に泥が堆積しており、中から京・信楽系陶器や、泥面子などが出土した。18世紀後半(第117図８～10)。

ＳＤ2020(第53図)　２区北部(9･10-q)で検出した石組の道路側溝である。東西検出長4.65m、南北幅１m、石組内の幅は0.3m、深さ0.62mを測る。漆喰留の石組溝で出水通りの南側道路側溝

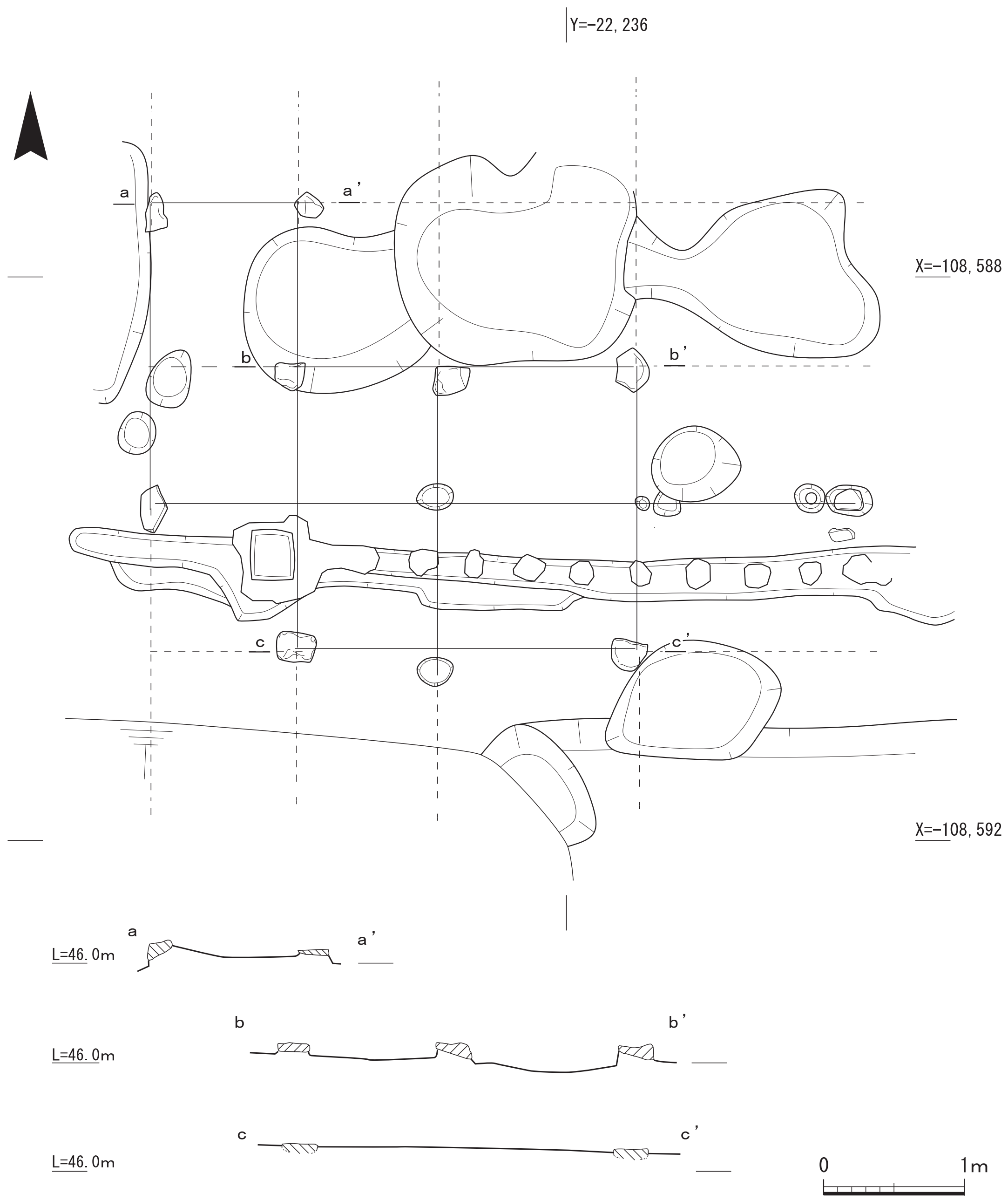

Y=-22, 256
Y=-22, 248
Y=-22, 240
Y=-22, 232
X=-108, 560
X=-108, 568
X=-108, 576
X=-108, 584
X=-108, 592
X=-108, 600
ＳＳ07
ＳＫ06
ＳＫ05
ＳＫ10
ＳＫ09
ＳＤ12
ＳＳ2003
ＳＤ2014
ＳＸ2006
ＳＳ2005
ＳＳ2004
ＳＤ2020
ＳＫ2041
ＳＫ2002
ＳＫ2001
ＳＫ2018
ＳＫ2042
ＳＫ2022
コンクリート
ＳＸ2023
ＳＳ2031
ＳＫ2025
ＳＤ2009
ＳＫ2043
ＳＥ2024
ＳＤ2013
ＳＤ2037
ＳＫ2019
ＳＪ2040
ＳＪ3116
ＳＤ3042
ＳＳ3118
ＳＳ3056
ＳＪ3052
ＳＪ3049
ＳＳ3043
ＳＫ3003
ＳＫ3108
ＳＫ3044
ＳＫ3025
ＳＳ3021
ＳＤ3038
ＳＤ3037
ＳＳ3077
ＳＳ3080
ＳＥ3034
ＳＫ3035
ＳＫ3004
ＳＳ3973（町境石列）
ＳＬ3045
ＳＬ3050
ＳＫ3022
ＳＤ3039
ＳＪ3028
ＳＫ3114
ＳＤ3097
ＳＢ3975（上屋敷）
ＳＬ3016
ＳＸ3127
ＳＸ3128
ＳＫ3053
ＳＫ3103
ＳＫ3125
ＳＥ3072
ＳＫ3109
ＳＫ3090
ＳＬ3086
ＳＬ3087
ＳＫ3100
ＳＫ3068
ＳＳ3115
ＳＳ3076
ＳＪ3972
ＳＤ3099
漆喰
ＳＭ3968
0
10m

第49図　第１面平面図

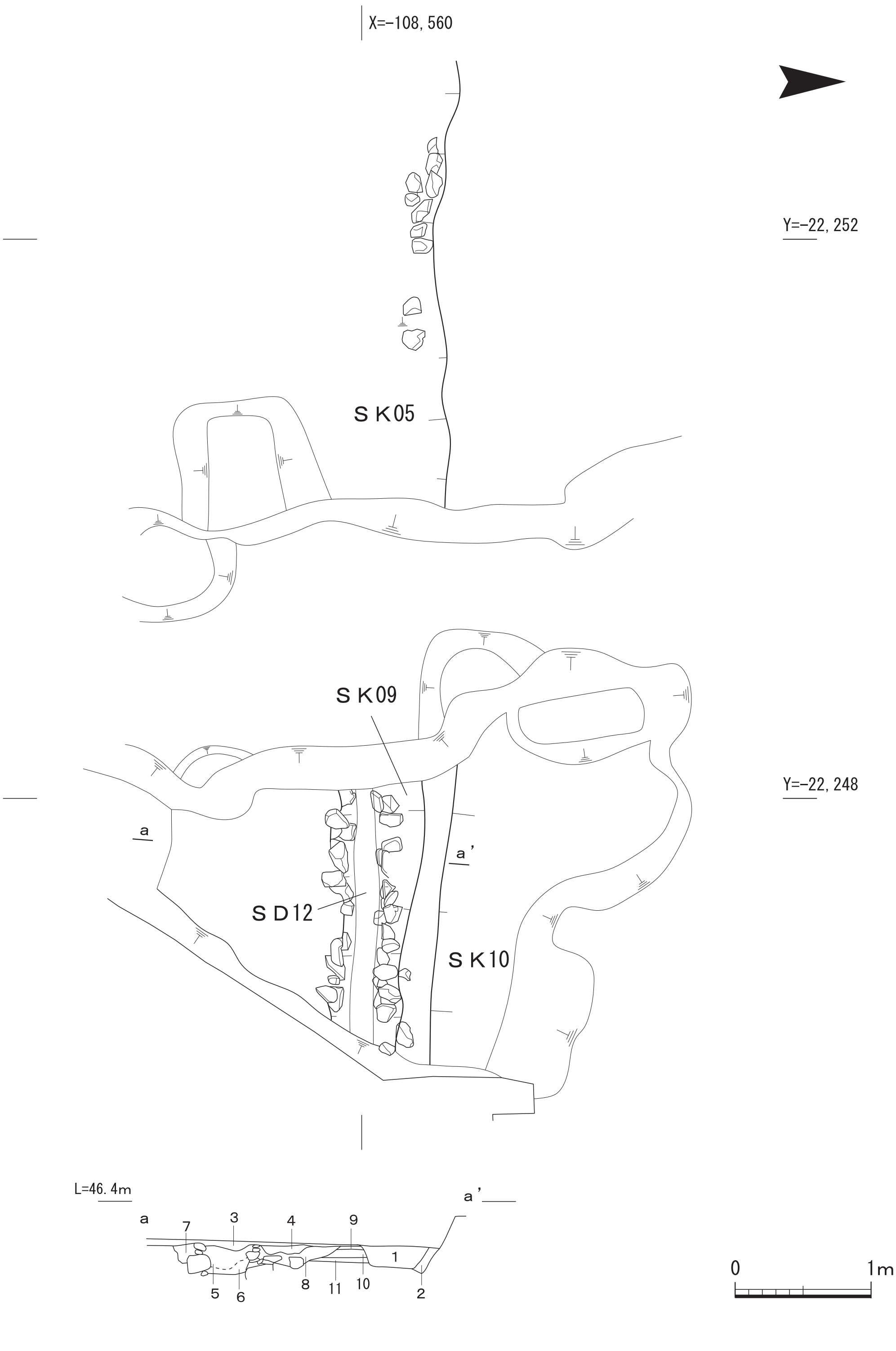
である。東側は調査区外に続き、西側は撹乱で削平されている。溝の下から天明の大火に伴う焼土が確認されたことから築造は大火以降と考えられる。側溝の南側には漆喰の溝がＳＤ2020に水を流すために接続している。肥前磁器・銅製品などの遺物が出土した。19世紀半ば（第118図、第162図10）。

ＳＸ2023（第54図）　２区南部（10-s）で検出した漆喰遺構である。検出規模は南北0.7m、東西1.8mを測る。ＳＤ2037の上層遺構で嘉永の大火の焼土層の上に施工されていることから、幕末の上屋敷に伴う遺構である可能性があるが判然としない。東方向と北側を撹乱により削平されている。北側に排水桝と考えられる孔が作り出されている。

ＳＤ2037（第52図）　２区南部（9～11-s・t）で検出した漆喰暗渠である。ＳＤ2013はＳＤ2037

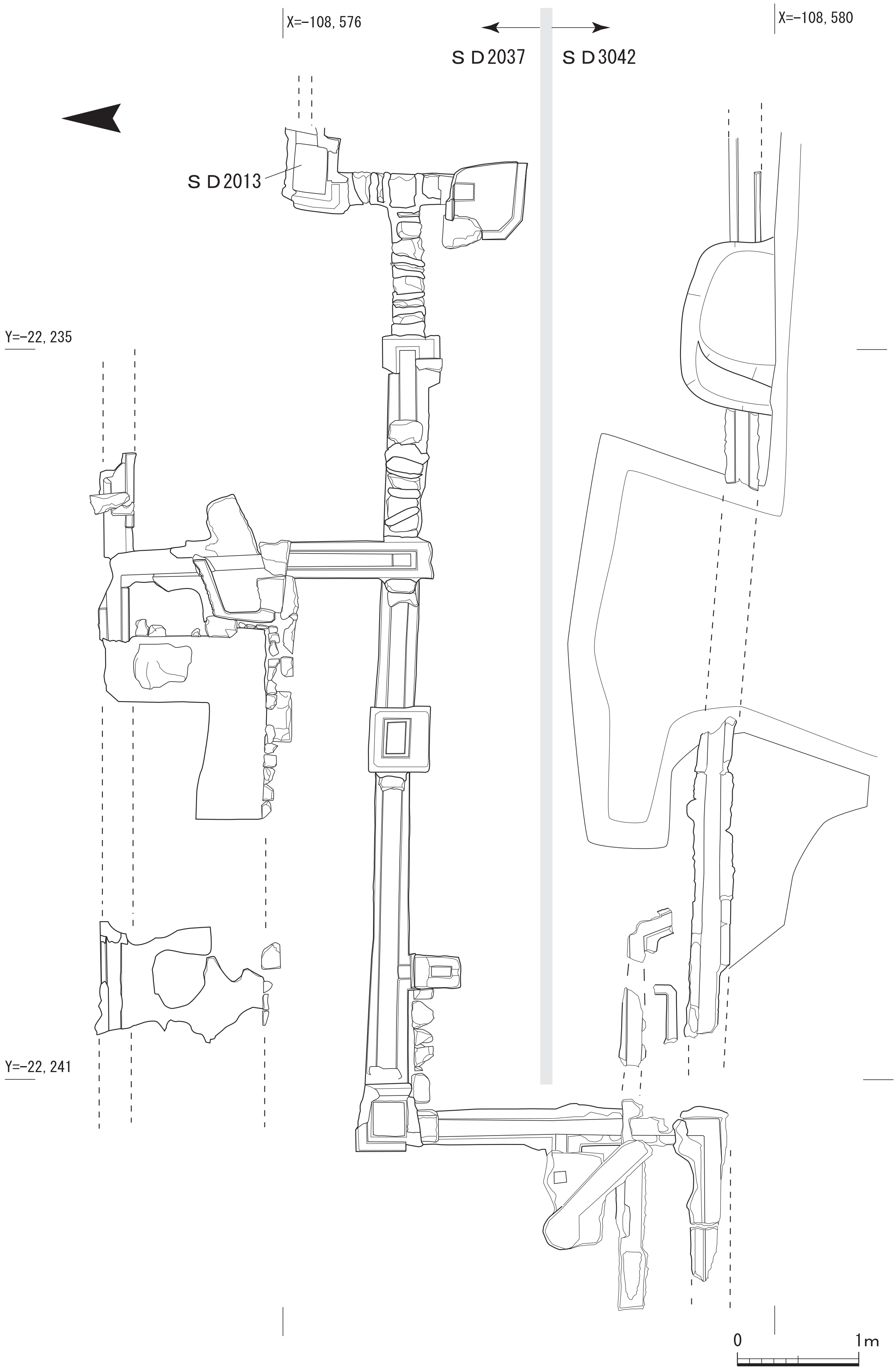


第50図　ＳＢ3975（上屋敷）実測図

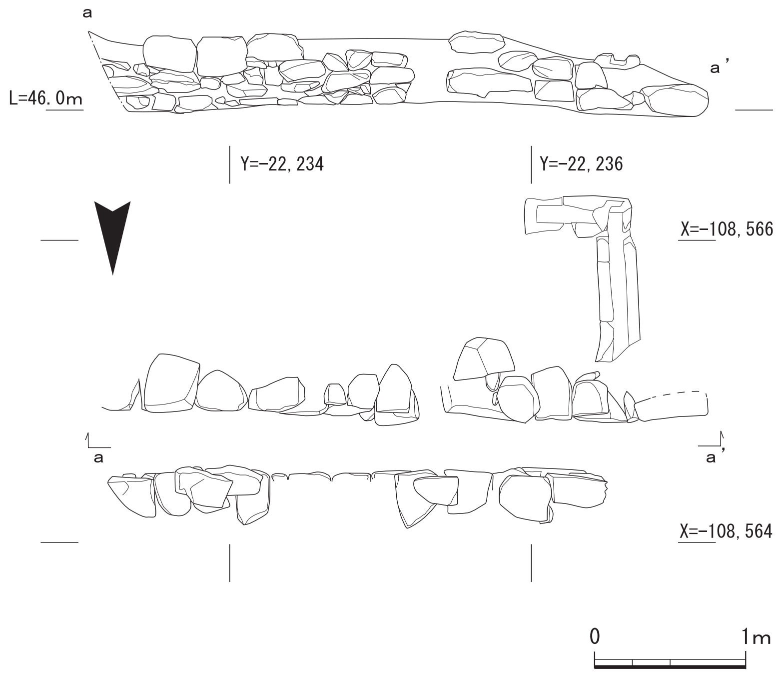


1．にぶい褐色（7.5YR5/4）礫混じり細粒砂〈焼土･炭化物含む〉
2．黒褐色（10RY3/2）細粒砂〈土器片含む〉
3．にぶい赤褐色(5YR4/4)細礫混じり細粒砂〈炭化物･焼土含む〉
4．灰黄褐色（10YR4/2）細礫含む細～中粒砂
5．明黄褐色（2.5Y4/6）中礫含む中～粗粒砂
6．にぶい黄色（2.5YR6/4）中礫含む中～粗粒砂〈鉄分沈着〉
7．灰黄褐色（10YR4/2）細礫含む細～中粒砂【ＳＫ09】
8．灰黄褐色（10YR4/2）細礫含む細～中粒砂
9．浅黄色（2.5YR7/4）細礫含む中粒砂【路面】
10．にぶい黄色（2.5YR6/4）礫混じり中粒砂【路面】
11．黄褐色（2.5YR5/3）礫混じり中粒砂【路面】

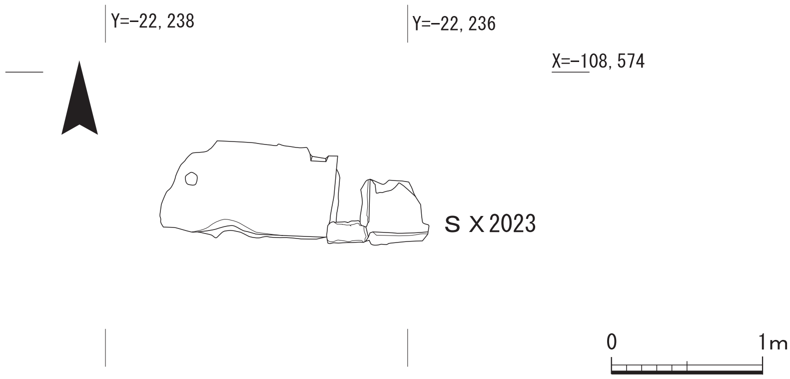
第51図　ＳＤ12・ＳＫ05・10実測図



第52図　ＳＤ2013・2037・3042実測図



第53図　ＳＤ2020実測図



第54図　ＳＸ2023実測図

の一部である。南北4.65m、東西９ｍ規模の地下施設で、暗渠と桝、水の流し場からなる。ＳＤ2037は調査地外の東側に広がる。桝は内側四方に段がつき、桝の内側と段に炭化した木材が落ち込み残存していたことから、嘉永の大火で焼亡した設備であり、桝の上には蓋として木製の板などが用いられていたことがわかる。水の流し場と想定される部位の漆喰は赤く被熱した痕跡を看取できる。町家の排水を担った遺構であると考えられる。暗渠内には黒褐色の泥が堆積し、京・信楽系陶器の蓋などが出土した(第117図11・12)。

ＳＤ3037(第55図)　３区北東部(9～11-u･v)で検出した漆喰暗渠である。南北0.2m(内側)、東西2.2m規模の暗渠である。ＳＤ3037は調査区外の東に続く。埋土は黒褐色細礫混じり細粒砂で炭化物を含む。

ＳＤ3038(第55図)　３区北東部(9～11-u･v)で検出した漆喰暗渠である。南北0.2m(内側)、東西8.5m規模の地下施設で、暗渠と桝からなる。ＳＤ3038は調査区外の東に続く。漆喰の暗渠であるＳＤ2037、ＳＤ3037、ＳＤ3038はいずれも排水溝という性格から東に位置する新町通りに接続すると思われる。なお、中央の桝から西側の暗渠は西に位置するＳＥ3034へ傾斜する傾向を示し、同井戸に接続する。埋土は暗褐色細礫混じり細粒砂で炭化物を含む。土師器皿、泥面子、京・信楽系陶器などの細片が出土した。19世紀半ば(第117図17～21、第167図４)。

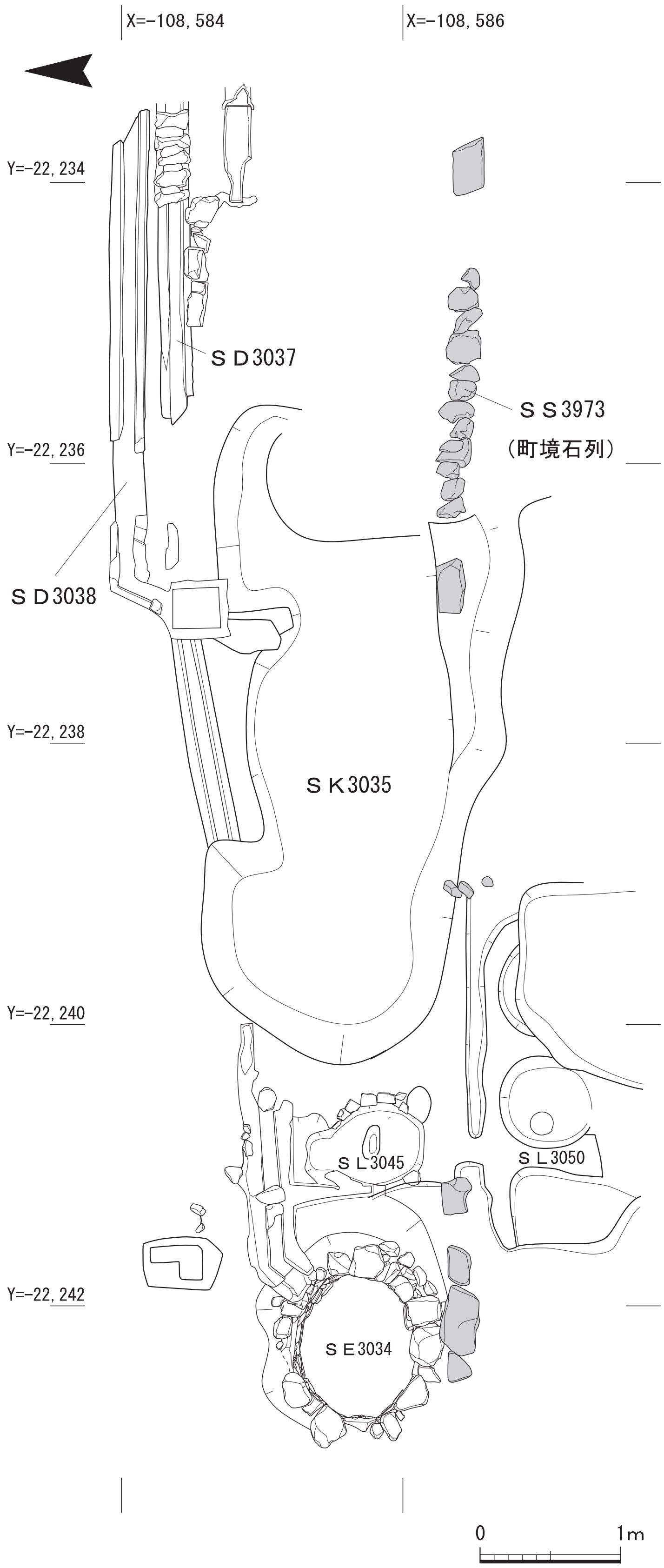
ＳＤ3039(第56図)　３区南東部(9～10-w)で検出した漆喰留の暗渠である。丸瓦を転用して土管代わりに使用し、瓦の接続部に漆喰を塗り込めていたと考えられるが、東端の桝付近以外の瓦は残存せず、接着剤として利用された漆喰のみが残存する。南北幅0.6m、東西検出長は5.14m

を測るが、東側調査区外に続く。深さ0.24mを測る。埋土は黒褐色中粒砂～細粒砂で炭化物を含む。出土遺物は瀬戸磁器、京・信楽系陶器などである。19世紀半ば（第117図13～16）。

ＳＤ3042（第52図）　３区北東部（9･10-ｔ）で検出した漆喰暗渠である。検出規模は南北1.7m、東西9.63mを測る。ＳＤ2037と接続する暗渠であるが、漆喰の重なり合いから三度の修築が行われたことがわかる。一度目がＳＤ2037と接続する暗渠であり、二度目は東端から東西方向にのびる暗渠、三度目は二度目の暗渠に横付けした暗渠である。いずれも現地で塗り込んだ「現場打ち」で施工されている。

ＳＤ3097（第57図）　３区西部（14-t～x）で検出した石組溝である。南北10.9m、掘形は東西幅1.2m、石組内側の幅は0.6m、深さ0.2mを測る。町境の背割り溝で嘉永の大火ののち上屋敷造成に伴って役割を終えたと考えられる。滞水していた痕跡は確認できない。ＳＤ3099はＳＤ3097と同じ背割り溝である。埋土は黒褐色細粒砂である。土師器皿、銭などが出土した。18世紀末～19世紀半ば（第117図22～26、第169図59）。

ＳＤ3099（第57図）　３区南西部（14-a）で検出した石組溝である。南北1.02m、掘形幅1.5m、深



第55図　ＳＫ3035・ＳＤ3037・3038・SS3973実測図

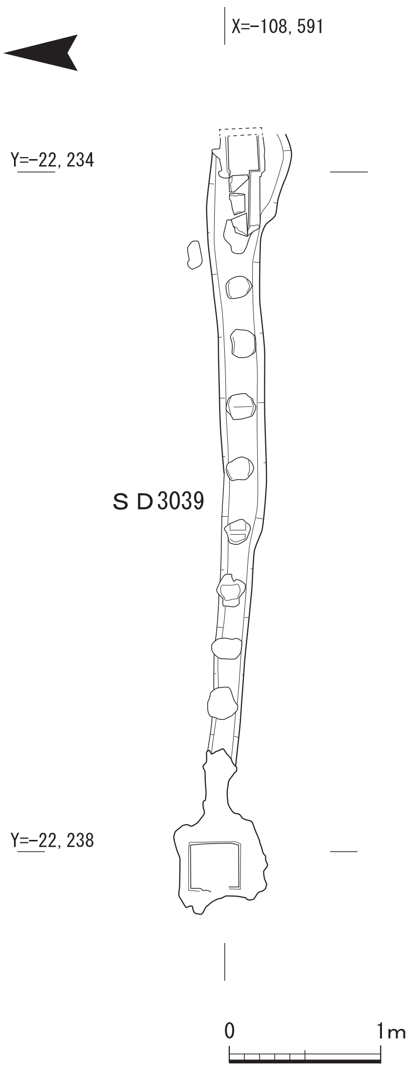
さ0.3mを測る。埋土は黒褐色細粒砂である。土師器皿、京・信楽系陶器などが出土した。掘形の年代は18世紀末か(第117図27～29)。

③井戸

ＳＥ135(第58図左上)　１区中央南側(13･14-r)第３面で検出した石組の井戸である。直径1.9m、石組内の直径は0.9m、近代の建物跡を除去した後にＳＤ81の底部を検出面として、そこから0.5mほど掘削した。埋土は焼土で満たされており、土師器皿や土人形、肥前磁器、瓦、銅製品等が出土したが、いずれも被熱痕が観察できる。肥前磁器の生産年代から嘉永の大火に伴う廃棄と考えられる。19世紀半ば(第123図１～17、第158図、第163図10、第170図１・２)。

ＳＥ2024(第49図)　２区南部(9-s･t)で検出した井戸である。直径1.45mである。深さ２mまで掘削した。石組は確認できない。埋土は灰褐色細礫混じり細粒砂である。天明の大火の焼土層を削平していることから大火後に掘削された遺構であると考えられる。

ＳＥ2054(第29図)　２区南部(10-s)第２面で検出した井戸である。直径1.45mで、深さ1.2mまで掘削した。石組は確認できない。埋土は灰黄褐色中粒砂～細粒砂である。京・信楽系陶器、中国製白磁などが出土した。19世紀(第121図５～８)。



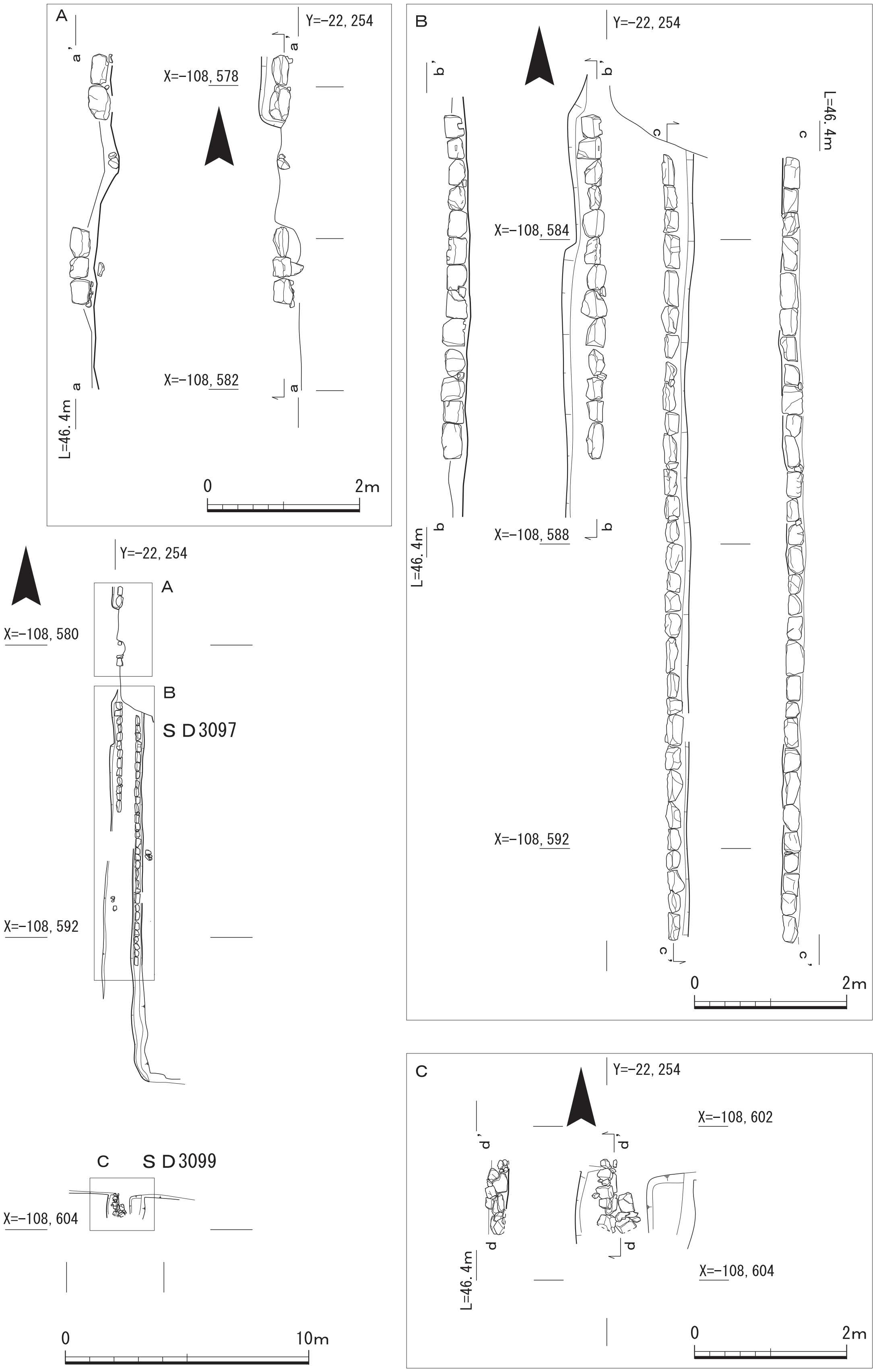
第56図　ＳＤ3039実測図

ＳＥ2223(第７図)　２区東部(9-r)第３面で検出した井戸である。南北の直径1.04mで、深さ１mほど掘削した。埋土は黒褐色細礫混じり極細粒砂～細粒砂である。土師器皿、肥前磁器、軟質施釉陶器などが出土した。17世紀末～18世紀初頭(第119図１～４)。

ＳＥ2264(第29図)　２区西部(11・12-q)第２面で検出した井戸である。直径1.4mで、深さ0.75mほど掘削した。土師器皿、肥前陶器などが出土した。18世紀前半(第119図14～21)。

ＳＥ2269(第29図)　２区西部(12-q)第２面で検出した井戸である。直径1.4mを測る。検出面から0.86m掘削した。土師器皿、肥前磁器などが出土した。17世紀末～18世紀初頭(第119図５～13)。

ＳＥ3034(第58図左下)　３区北部(11-v)で検出した石組井戸である。直径1.5m、石組内直径0.75m、深さ1.02mを測る。井戸枠内の堆積の上半は便槽として利用された信楽焼の甕が投棄されており、井戸の底部には泥が沈殿していた。ＳＥ3034にはＳＤ3038が接続し、ＳＤ3038に流した水



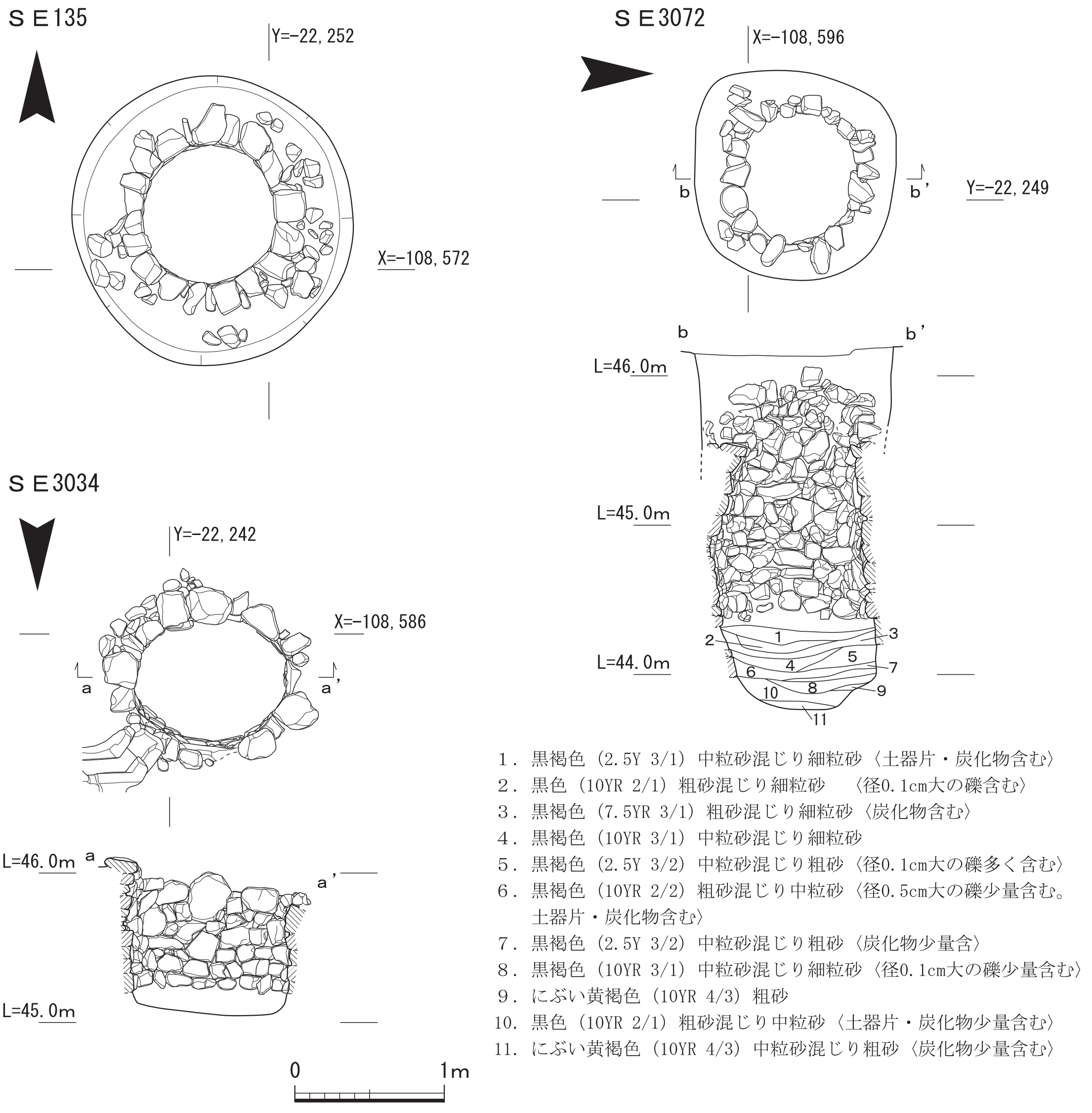
第57図　S D3097・3099実測図

がＳＥ3034に流れ込む構造を有している。ＳＥ3034が同時代の井戸としては浅いことと合わせてＳＥ3034が貯水目的で造成された可能性がある。枠内から土師器皿、信楽の甕など、掘形から信楽の擂鉢が出土した。19世紀半ば。（第121図16～23、第166図５）。

ＳＥ3072（第58図右）　３区南西部（13-x･y）で検出した石組井戸である。直径1.9mで、石組内直径0.8m、深さ2.45mを測る。埋土は上層は黒褐色細粒砂であるが、下層はにぶい黄褐色中粒砂～粗砂になる。上層から京・信楽系陶器、肥前磁器、瀬戸磁器、坩堝などが出土した。19世紀半ば（第121図９～15）。

ＳＥ3132（第59図上）　３区東部（10・11-v）第２面で検出した石組井戸である。直径1.22m、石組内直径0.8m、深さ0.8mを測る。埋土は褐灰色細粒砂である。土師器皿や京・信楽系、肥前陶器などが出土した。18世紀前半（第120図）。

ＳＥ3138（第59図上）　３区東部（10-v）第２面で検出した石組井戸である。直径1.8m、石組内径0.85mを測る。深さ2.25mまで掘削した。埋土は黒褐色細粒砂である。土師器皿、肥前磁器、京･



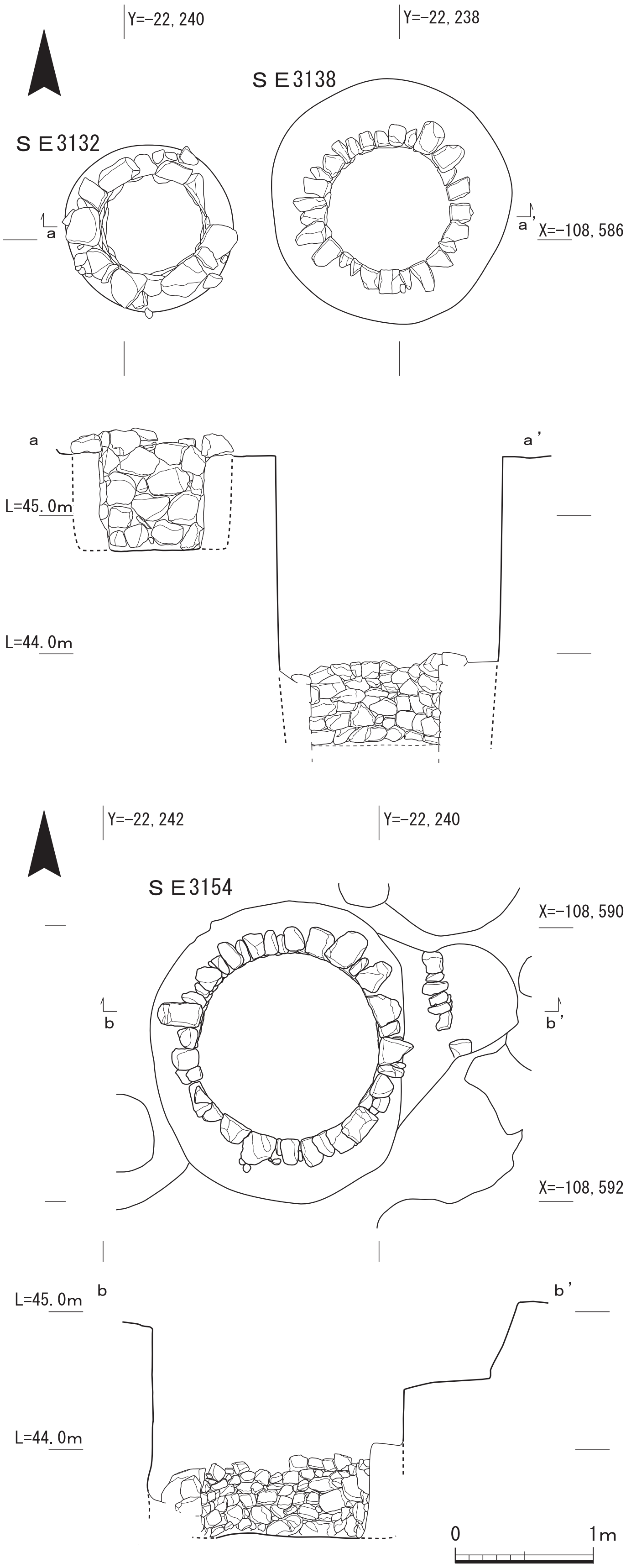
第58図　ＳＥ135・3034・3072実測図

信楽系陶器などが出土した。19世紀前半(第122図１～５)。

ＳＥ3154（第59図下）　３区南東部（10･11-w）第２面で検出した石組井戸である。直径1.85m、石組内直径1.30mを測る。深さ1.8mまで掘削した。南側の一部が撹乱により削平されている。土師器皿、肥前磁器、石製品などが出土した。18世紀末～19世紀前半（第122図６～21、第166図１～３・６・７）。

ＳＥ3171（第60図右上）　３区中央部（12-v）第２面で検出した瓦組井戸である。直径1.1m、瓦組内直径0.45m、深さ0.5mを測る。上部が近代建物基礎に削平されている。平瓦を短軸0.1m、長軸0.2m程度に破砕加工して組み上げている。京・信楽系陶器、肥前磁器、瓦などが出土した。19世紀前半(第121図１～４、第157図９・10)。

ＳＥ3198（第60図左上）　３区西部（15-v）第２面で検出した瓦・石組井戸である。南北1.5m、石組内直径は0.8m、東西0.87m、深さ1.4mを測る。西側は調査区外に広がる。石と瓦を交互に組み上げて造成している。瓦は一部破砕加工を施している。軒瓦を組み込み、瓦当面が枠内に向くようにしている。埋土は黒褐色細礫混じり細粒砂である。埋土に石、瓦を多く含むが井戸の壁から崩れた一部と思われる。肥前磁器、信楽、瓦などが出土した。17世紀後半(第119図28・29、第159図９～12)。

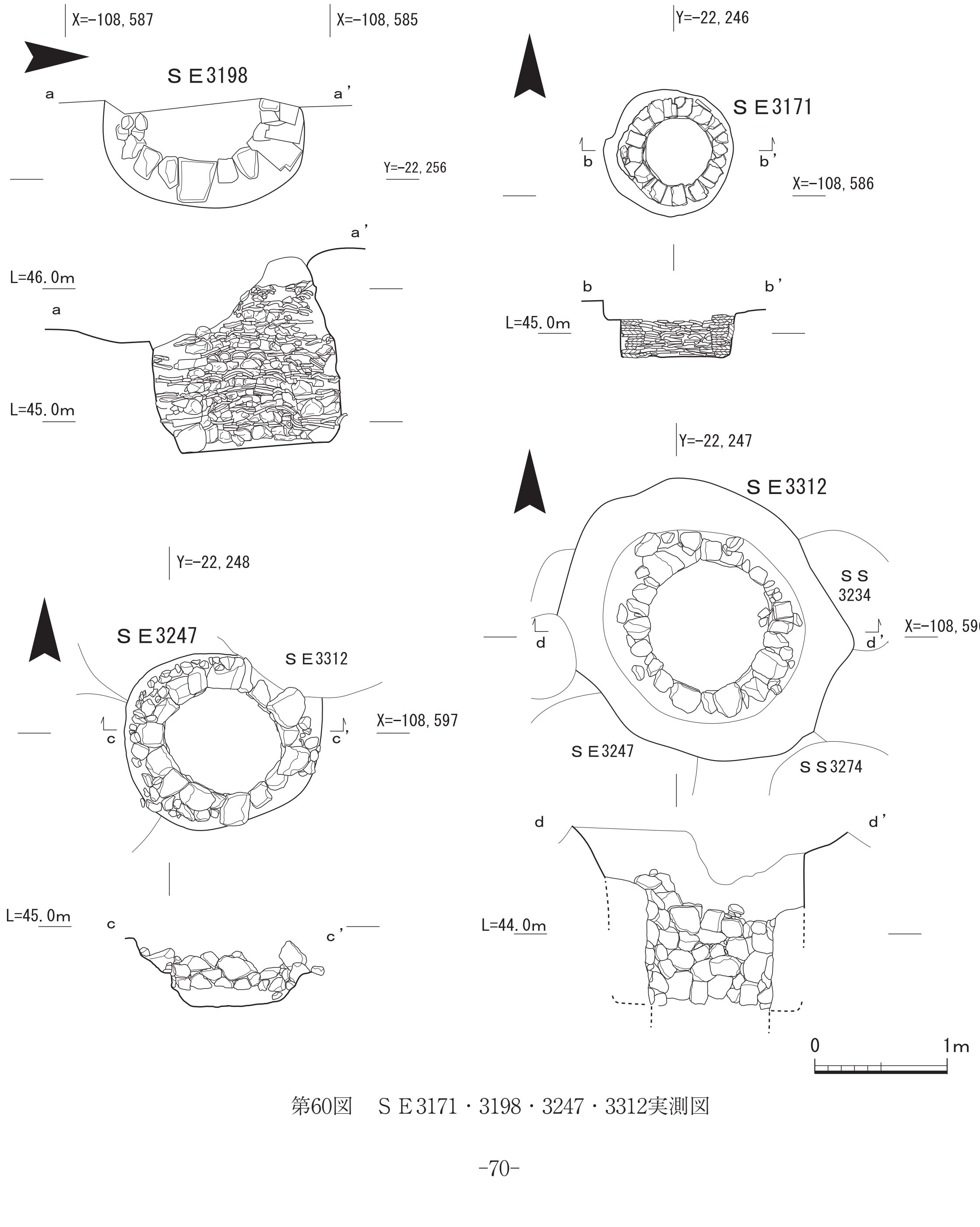


第59図　ＳＥ3132・3138・3154実測図

ＳＥ3247（第60図左下）　３区南部（12-y）第２面で検出した石組井戸である。直径1.3m、石組内直径0.85mを測る。検出面からの深さは0.5mである。埋土は褐灰色細粒砂である。土師器皿、肥前磁器などが出土した。18世紀前半（第119図22～27）。

ＳＥ3312（第60図右下）　３区西部（12-x・y）第２面で検出した石組井戸である。直径２m、石組内直径0.95mで、深さ2.6mまで掘削した。埋土は暗灰黄色細粒砂で漆喰片、瓦片を含む。「府」と描かれた京・信楽系の椀などが出土した。中井主水の上屋敷図面上で示された井戸の位置と検出位置が合致する井戸である。投棄された遺物が近代の遺物であることから井戸の廃絶は近代と考えられるが、井戸の掘削時期は幕末の上屋敷造成時と考えられる。19世紀後半（第123図18～21・第160図８～13、169図75）。

ＳＥ3335（第29図）　３区北部（11-t）第２面で検出した井戸である。南北1.9m、東西2.1mを測



第60図　ＳＥ3171・3198・3247・3312実測図

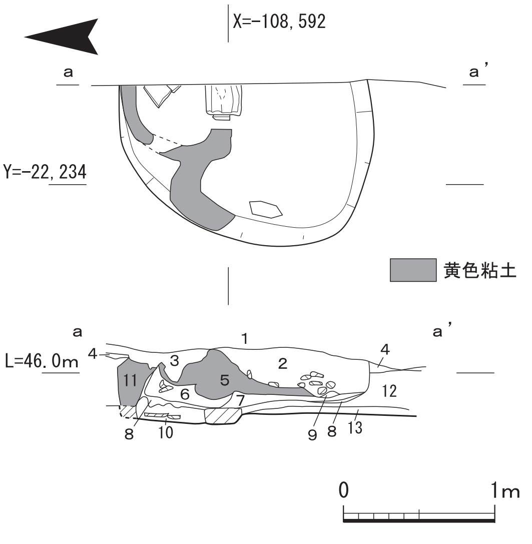
る。深さ0.5mまで掘削した。石組等は確認できなかった。埋土は黒褐色細粒砂で、漆喰や瓦片、粒径10～20cmの石を含む。井戸内の石は井戸壁の崩れた残骸かと思われる。ＳＥ3312と同じく上屋敷の図面から幕末に掘削された井戸であると考えられる。京・信楽系陶器、硯などが出土した。19世紀後半（第123図22、第160図６、第167図５・６）。

④かまど

ＳＬ3016（第61図）　３区東部（9-w・x）で検出した２連のかまどである。南北0.6m、東西0.4m、調査区東壁に残存するＳＬ3016の残存高は0.5mを測り、調査区東側に広がる。黄色粘土を円弧状に貼り付けて造成しており、かまどの内面は被熱して赤く変色している。南向きの焚口には石を据えている。石の上面も被熱している。円弧が２つ確認できるため少なくとも２基のかまどがあったと考えられる。ＳＬ3016の下層の焼土は遺物の年代より嘉永の大火であると考えられることから、この遺構の造成時期を上屋敷建設時としたい。

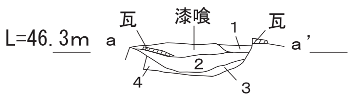
ＳＬ3045（第62図）　３区中央部（11-v）で検出した１連のかまどである。南北0.95m、東西0.7m、残存高は0.15mを測る。検出面では破砕加工した瓦片を並べ、その下に黄色粘土を貼り付けている状況が確認できた。粘土は平面では円弧上に貼り付けており、底部まで粘土が貼り付けられている。北向きのかまど焚口には石が据えられていた。かまどの底に被熱痕が観察できる。京・信楽系陶器の細片などが出土した。19世紀前半（第124図１・２）。

ＳＬ3050（第62図）　３区中央部（10・11-v）で検出した３連のかまどである。南北1.1m、東西1.16mを測る。かまどの東西は撹乱に削平されている。残存高は0.2mを測る。３つ並びで円弧上に黄色粘土を貼り付けて成形している。内面には被熱痕が確認できる。真ん中のかまどの中から胞衣壺として用いられる素焼き壺が出土しており、火消し壺として用いていたと考えられる。南向きのかまどの焚口には扁平に加工した花崗岩や瓦、加工岩石が据えられていた。加工岩石は被熱している。土師器皿の細片などが出土した。19世紀半ば（第124図３～５、図版第133-３・４）。



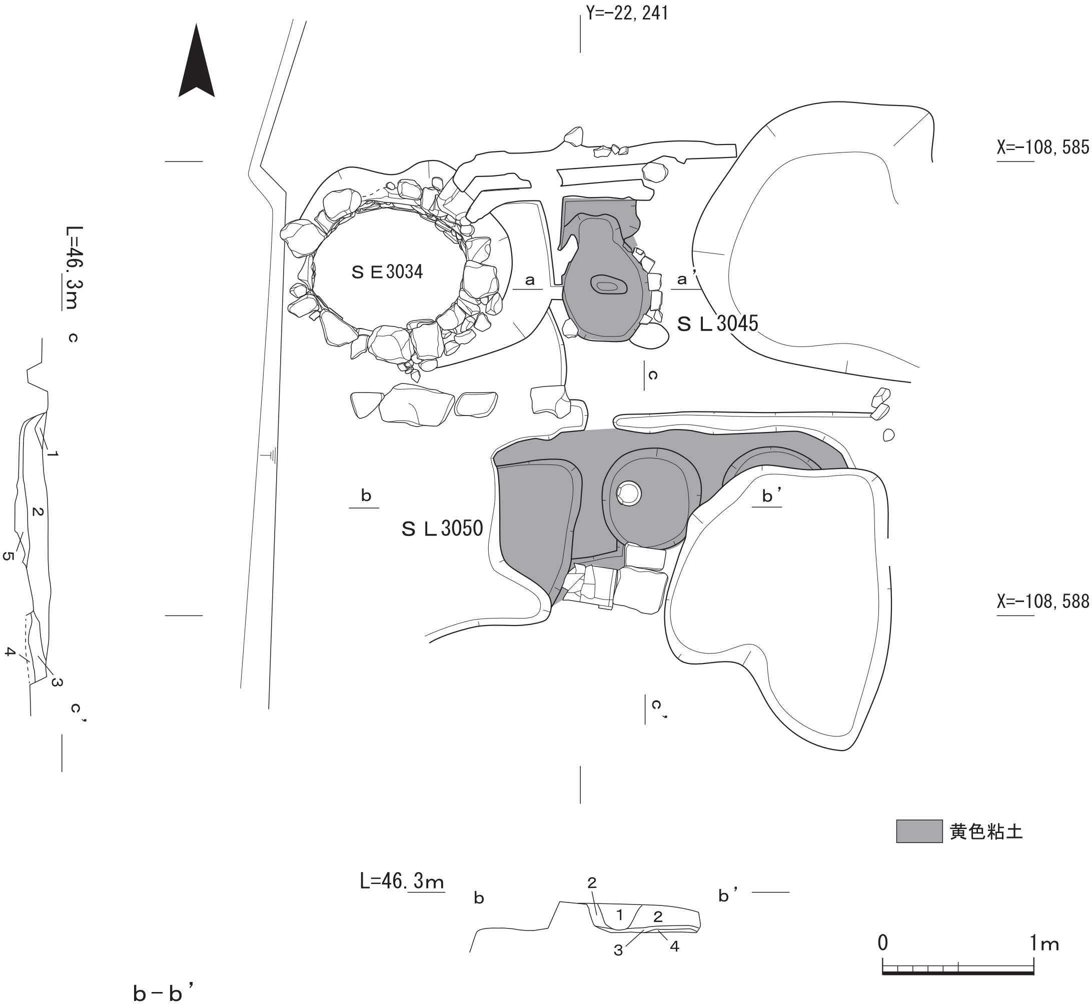
1．灰黄褐色（10YR 4/2）細礫混細粒砂【近代造成土】
2．黄灰色（2.5Y 4/1）細粒砂
〈径４～10cmの礫多量に含む。土器・貝含む〉
3．褐灰色（7.5YR 4/1）細粒砂
〈径２～４cmの礫少量含む〉【近代造成土】
4．褐灰色（10YR 4/1）細礫混細粒砂〈炭化物少量含む〉
【幕末造成土】
5．明黄褐色（2.5Y 7/6）シルト粘土
〈被熱跡・上部崩落〉【かまど一部】
6．灰色（5Y 6/1）細～極細粒砂【灰溜まり】
〈赤色（10R 4/6）焼土（廃絶伴う造成土）混じる〉
7．灰色（5Y 5/1）細粒・極細粒砂【灰溜まり】
8．褐灰色（10YR 5/1）細礫混細粒砂〈焼土・炭化物含む〉
9．灰色（5Y 6/1）極細粒砂〈灰層＋上層は10YR 7/1炭化層〉
10．褐灰色（10YR 4/1）細礫混細粒砂〈炭化物少量含む〉
11．明黄褐色（2.5Y 7/6）シルト・粘土【かまど奥壁】
12．赤色（10R 4/6）細礫混細粒砂〈焼土主体・炭化物少量含む〉
【嘉永大火】
13．灰黄褐色（10YR 4/2）細礫混細粒砂【町屋面】

第61図　ＳＬ3016実測図



a－a’

1．黒褐色（10YR3/2）細粒砂〈焼土含む〉
2．暗褐色（10YR3/4）細粒砂〈炭化物堆積層〉
3．暗褐色（10YR3/3）細粒砂〈炭化物含む〉
4．褐色（10YR4/4）シルト質極細粒砂〈カマド壁〉



b－b’

1．灰褐色（7.5YR4/2）粗シルト質極細粒砂〈1～2cmの礫少量含む、炭化物少量含む〉
2．暗灰黄色（2.5Y4/2）粗シルト質極細粒砂〈灰白色（2.5Y7/2）シルト塊、焼土、炭化物含む〉
3．褐灰色（10YR4/1）中粒砂混粗シルト質極細粒砂
4．黒褐色（10YR3/1）中粒砂混粗シルト質極細粒砂

c－c’

1．灰褐色（7.5YR4/2）シルト質極細粒砂〈焼土、炭化物含む〉
2．暗灰黄色（2.5Y4/2）シルト質極細粒砂
3．黒色（10YR2/1）細礫混細粒砂〈炭化物、焼土含む〉
4．黒褐色（10YR3/1）細礫混細粒砂〈焼土、炭化物含む〉
5．褐灰色（10YR4/1）中粒砂混じり粗シルト

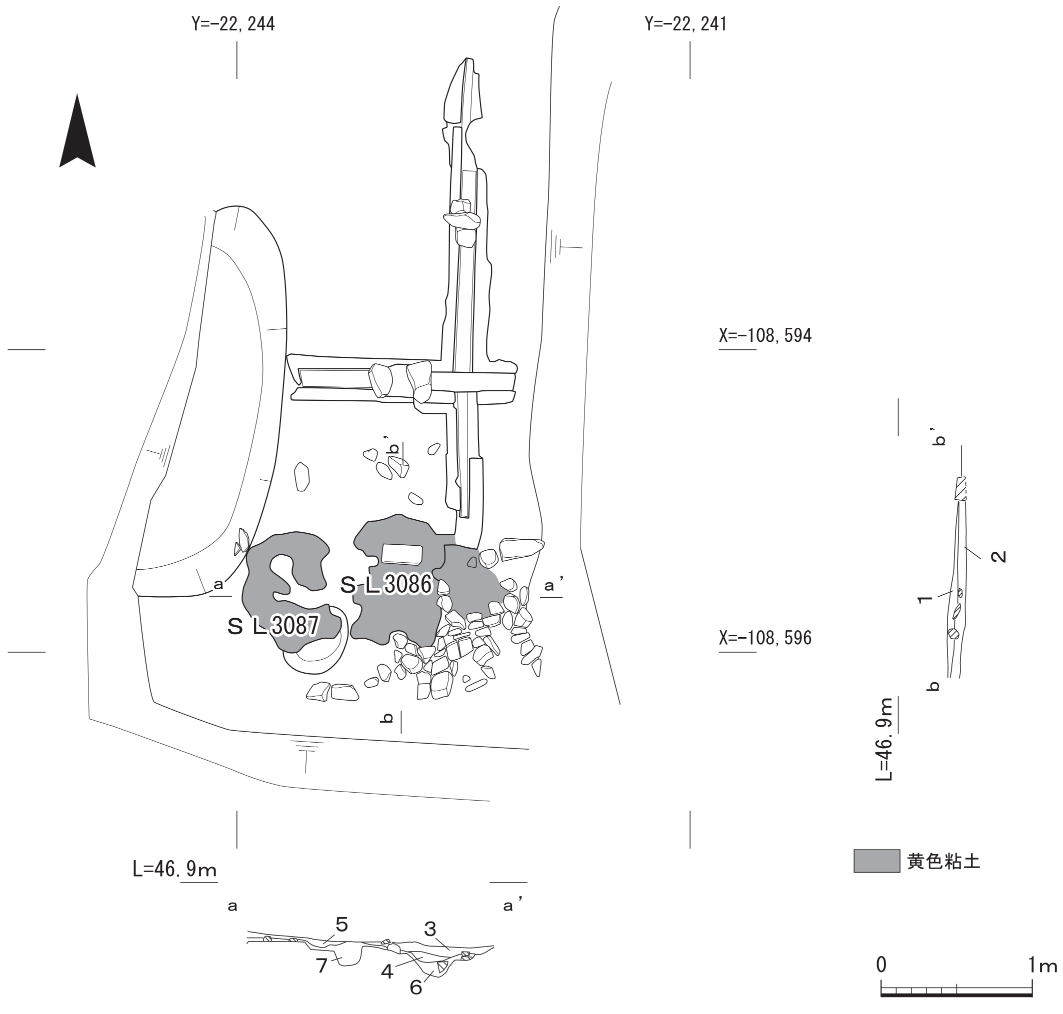
第62図　ＳＬ3045・3050実測図

ＳＬ3086（第63図）　３区南部（11-x）で検出した２連かまどの東側である。南北0.9m、東西0.6mを測るが上端が削平されている。底部の張り付いた黄色粘土が一部と、北向きの焚口に据えられた加工岩石を確認している。周囲に石が敷設されている。底部が被熱して赤く変色している。土師器皿、肥前磁器が出土した。19世紀半ば（第124図６・７、図版第133－１・２）。

ＳＬ3087（第63図）　３区南部（11-x）で検出した２連のかまどの西側である。南北0.85m、東西0.65mを測る。上部が激しく削平されている。底部の黄色粘土と被熱痕を確認した。土師器皿、肥前磁器が出土している。19世紀半ば（第124図６・７、図版第133－１・２）。

⑤集石遺構・石組遺構

ＳＳ07（第64図）　１区北部（13･14-o）で検出した石組遺構である。南北1.2m、東西4.1m、石組



１．黒褐色（10YR2/2）細粒砂質極細粒砂〈炭化物焼土含む〉
２．にぶい黄褐色（10YR4/3）極細粒砂〈焼土含む〉
３．暗褐色（10YR3/3）粗砂混　中粒砂〈焼土含む〉
４．黒色（N1.5/）中粒砂〈炭化物層〉
５．暗褐色（10YR3/3）極細粒砂
６．にぶい黄褐色（10YR4/3）中粒砂混細粒砂〈焼土炭化物含む〉
７．暗褐色（10YR3/2）極細粒砂質細粒砂

第63図　ＳＬ3086・3087実測図

内東西幅は3.2mで、深さ0.8mまで掘削して確認した。遺構の大部分は北側調査区外に広がる。埋土は黒褐色中粒砂～細粒砂である。上層に焼土と炭化物を含む堆積状況が観察できたため、遺物の年代から天明の大火での廃絶と考えられる。廃絶段階では東西幅のおよそ２/３程度しか使用していなかったようで、南北方向に石組を新設している。中層では黄褐色中礫～細礫混じり粗砂～極粗砂が堆積する。築造後に洪水などの影響で一度埋没したと考えられる。土師器皿、肥前陶磁器などが出土した。上層18世紀末、中層18世紀半ば、掘形17世紀（第125図１～38）。

ＳＳ3056（第65図）　３区北側（10-u）で検出した漆喰遺構である。検出規模は南北1.9m、東西1.65m、深さ0.65mを測る。排水用の漆喰構造物である。下部は円筒状の穴を掘削して土坑の内部に瓦片、漆喰片の混じる粒径５～15cmの角礫を充填し、水を浸透させる構造を有する。上部は擂鉢状に漆喰を塗り付け、端に石を据え付けている。水が流れるように底に穴を空けている。中学校時代の遺構であるＳＳ3043に削平され、天明の大火の焼土層を掘削して造成されている。

ＳＳ3115（第49図）　３区南西部（15-y）で検出した漆喰留の石組遺構である。南北0.3m、東西検出幅1.05m、残存高0.15mを測る。東側は撹乱に削平され、西側は調査区外に広がる。町家の裏手にあたり建物の基礎などの可能性がある。

ＳＳ3118（第66図）　３区北東部（10･11-u）で検出した石列である。南北0.2m、東西検出幅2.7mを測る。町家と町家の境を示す石列と考えられる。土師器皿の細片が出土した。18世紀後半か（第125図40）。

ＳＳ3274（第43図）　３区南部（12-y）第２面で検出した方形の石組遺構である。掘形は南北1.3m、東西1.1mを測る。西側と南側の石組は残存していない。埋土は黄灰色極細粒砂～細粒砂である。遺構の切り合いからＳＳ3276よりも新相であるが年代は不明である（第125図39）。

ＳＳ3322（第67図）　３区西部（13-w）第２面で検出した石組遺構である。直径１m、石組内直径0.5m、深さ0.2mを測る。埋土はにぶい黄褐色細粒砂である。肥前陶磁器が出土した。18世紀後半（第125図41・42）。

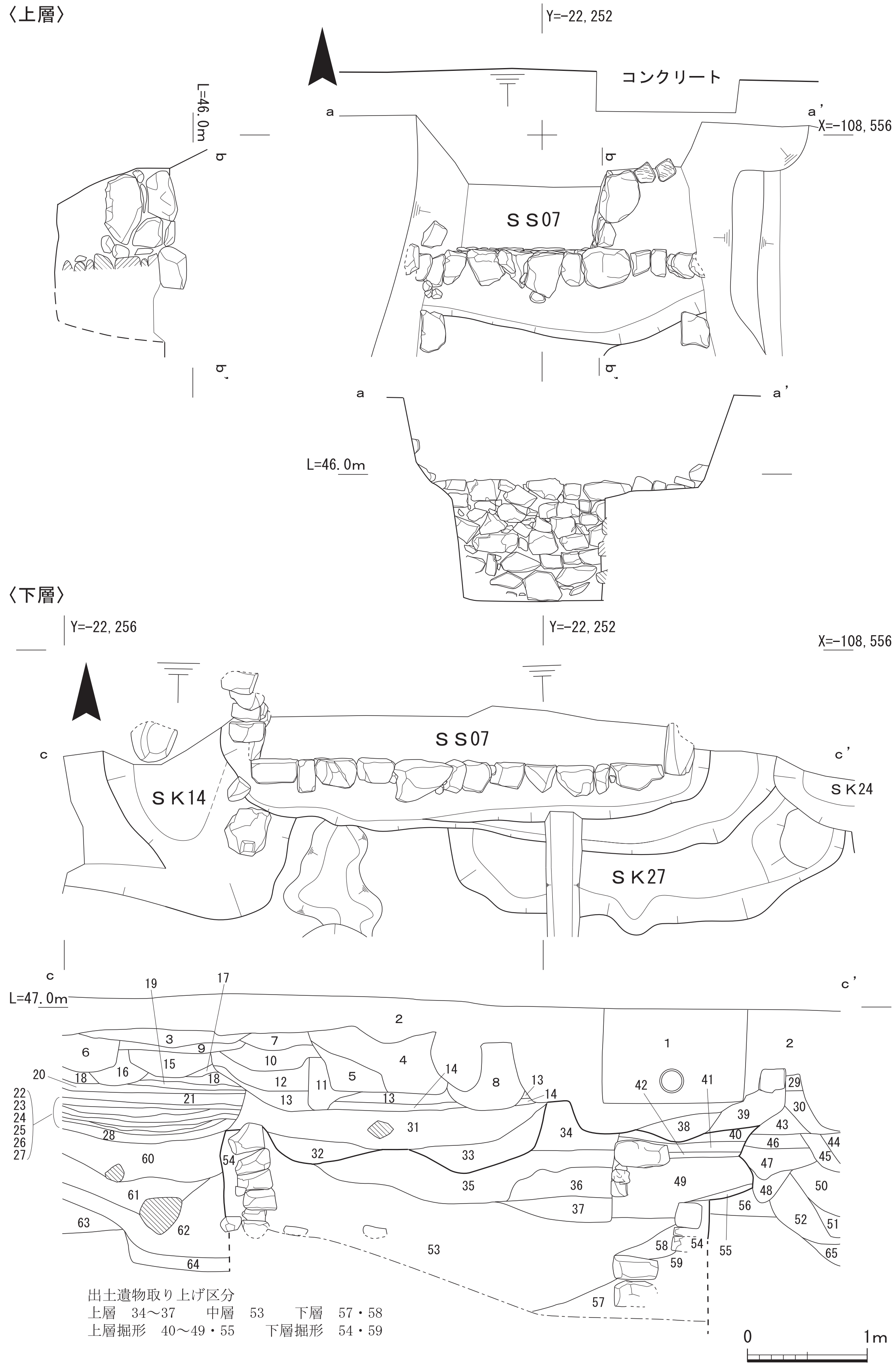
ＳＳ3973（町境石列）（第55図）　３区東部（9～11-v）で検出した石列である。検出規模は南北0.3m、東西8.8mを測る。この石列と並行にのびるＳＬ3050の北側で確認された小溝と合わせて、町家と町家の境を示す境目と考えられる。出土遺物はないが、近代整地土、焼土に覆われており、これらよりも古段階の遺構として考えられ、町家段階の構築物と判断した。

⑥土器埋納遺構

ＳＪ2040（第49図）　２区南部（11-t）で検出した胞衣壺である。直径0.3mを測る。壺に内容物は確認できない。19世紀（第126図１・２）。

ＳＪ3049（第49図）　３区西部（10-u）で検出した胞衣壺である。直径0.3m、深さ0.2mを測る。壺に内容物は確認できない。19世紀（第126図３・４）。

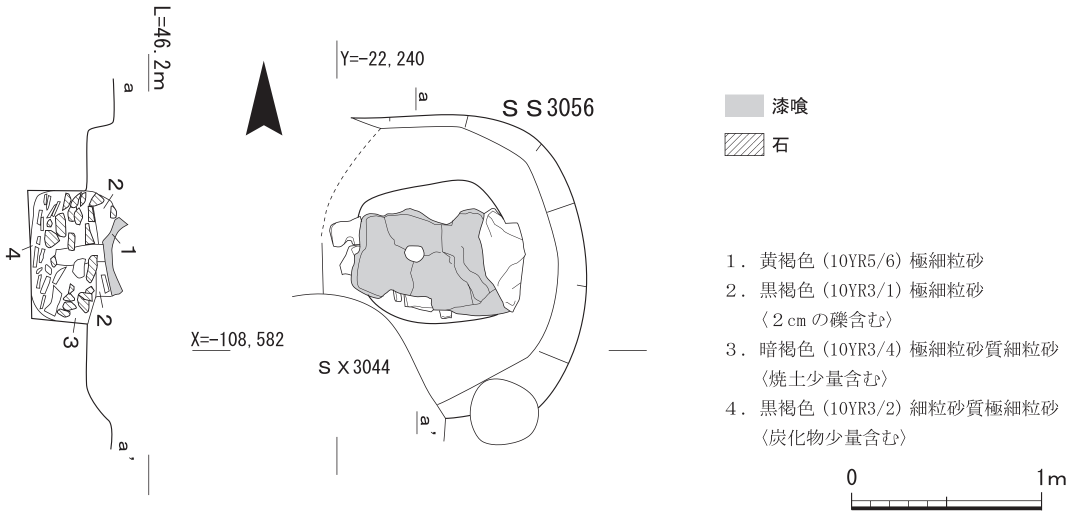
ＳＪ3052（第68図）　３区北部（11-u）で検出した甕埋設遺構である。南北0.9m、東西0.9m、深さ0.35mを測る。上部は削平されており残存しない。甕の底部には黄色の物質が付着しており、理化学分析の結果、尿石であることが判明した。便槽として埋設された遺構であると考えられる。



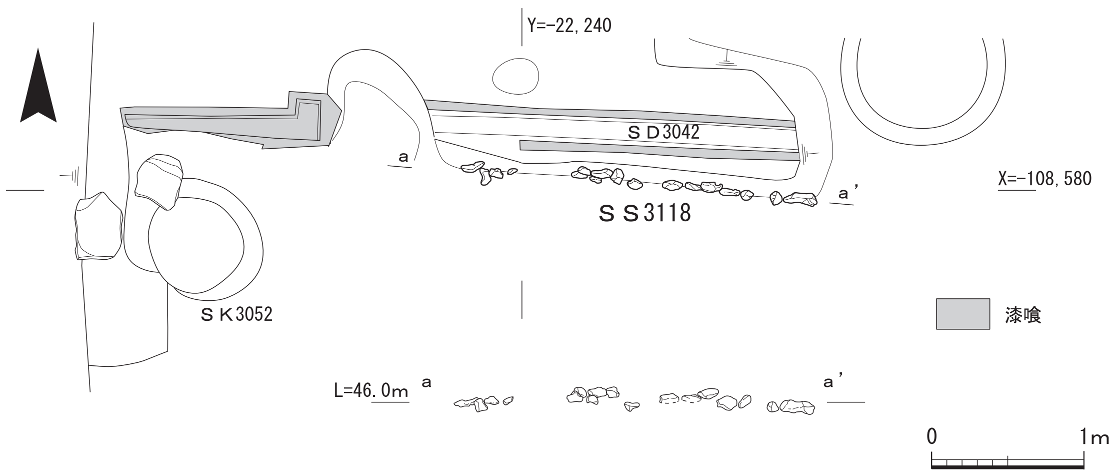
第64図　ＳＳ07・ＳＫ14・27実測図

SS07土色

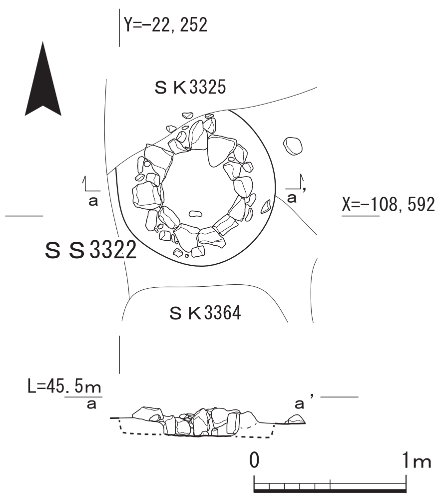
1．コンクリート基礎
2．攪乱
3．灰黄褐色（10YR 4/2）細礫混じり細粒砂
〈径２～４cmの礫・炭化物少量含む〉
4．にぶい黄褐色（10YR 4/3）細礫混じり細粒砂
〈径４～６cmの礫含む、下層に多量の焼土・
少量の炭化物含む〉
5．黒褐色（2.5Y 3/2）中～細粒砂
6．褐色（7.5YR 4/3）細礫混じり細粒砂
〈径10～20cmの礫・焼土・炭化物少量含む〉
7．暗褐色（10YR 3/3）細礫混じり細粒砂
〈径１～３cmの礫・炭化物含む〉
8．黒褐色（10YR 3/2）細礫混じり細粒砂
〈径２～４cmの礫含む、焼土・炭化物少量含む〉
9．灰黄褐色（10YR 4/2）細粒砂〈径１～２cmの礫・焼土含む〉
10. 黒褐色（10YR 3/2）細礫混じり細粒砂
〈径２～４cmの礫・炭化物・焼土少量含む〉
11. 黒褐色（7.5YR 3/2）細礫混じり細粒砂〈焼土少量含む〉
12. にぶい黄褐色（10YR 4/3）細礫混じり中～細粒砂
〈径６～20cmの礫・焼土・土器片含む〉
13. 暗褐色（10YR 3/3）細礫混じり細粒砂
〈炭化物・焼土多量に含む〉
14. 黒褐色（10YR 3/2）細礫混じり細粒砂
〈シルトブロック状に含む、炭化物少量含む〉
15. にぶい黄褐色（10YR 4/3）細礫混じり中～細粒砂
〈径２～４cmの礫含む、焼土少量含む、漆喰溝〉
16. 暗灰黄色（2.5Y 4/2）細粒砂
〈径４～８cmの礫含む、漆喰含む〉
17. 灰黄褐色（10YR 4/2）細礫混じり細粒砂
〈径２～４cmの礫少量含む〉
18. 灰褐色（5YR 4/2）細礫混じり細粒砂
〈径２～４cmの礫・炭化物少量含む、焼土多量に含む〉
19. 黒褐色（7.5Y 3/2）細礫混じり細粒砂
〈径２～４cmの礫・炭化物・焼土少量含む〉
20. 暗灰黄色（2.5Y 4/2）シルト質細粒砂【整地土】
21. 灰黄褐色（10YR 4/2）細粒砂〈焼土層・炭化物含む〉
22. 暗オリーブ褐色（2.5Y 3/3）中粒砂混じり細粒砂
23. 暗灰黄色（2.5Y 5/2）細粒砂混じり中粒砂
〈径１～２cmの礫・炭化物少量含む〉
24. 黒褐色（2.5Y 3/2）中粒砂混じり細粒砂
〈径２～４cmの礫含む、上面が焼土層〉
25. 暗灰黄色（2.5Y 4/2）極細粒砂～細粒砂
〈径６～８cmの礫少量含む〉
26. 灰黄色（2.5Y 6/2）極細粒砂～細粒砂〈中粒砂混じる〉
27. 浅黄色（2.5Y 7/4）細粒砂～中粒砂
〈径１～２cmの礫・炭化物含む〉
28. にぶい黄色（2.5Y 6/4）中粒砂
〈径２～６cmの礫・炭化物含む〉
29. 黒褐色（7.5Y 3/1）細礫混じり細粒砂
〈径１～２cmの礫・焼土・炭化物少量含む〉
30. にぶい黄褐色（10YR 5/3）細粒砂
〈径１～２cmの礫・焼土・炭化物少量含む〉
31. 黒色（10YR 1.7/1）炭の単一層
32. 暗褐色（10YR 3/3）細礫混じり細粒砂
〈炭化物・焼土多量に含む〉
33. 黒褐色（2.5Y 3/2）中粒砂～細粒砂
〈径２～３cmの礫多量に含む、
径４～８cmの礫少量含む、洪水堆積か〉
34. 暗褐色（10YR 3/4）細礫混じり細粒砂
〈径２～４cmの礫・焼土・炭化物少量含む〉
35. 黄褐色（2.5Y 5/3）シルト混じり中粒砂～粗砂
〈径１～２cmの礫多量に含む、径４～８cmの礫少量含む〉
36. 暗灰黄色（2.5Y 4/2）細礫混じり細粒砂
〈径２～４cmの礫少量含む、炭化物含む〉
37. 灰黄褐色（10YR 4/2）中礫～細礫混じり細粒砂
〈上層に径２～４cmの礫堆積 下層に焼土・炭化物堆積〉
38. 灰黄褐色（10YR 4/2）細粒砂
〈径２～４cmの礫・焼土少量含む〉
39. 黒褐色（10YR 3/2）細礫混じり細粒砂
〈径４～８cmの礫・焼土含む〉
40. 黒褐色（10YR 3/2）細粒砂～中粒砂〈径２～４cmの礫含む〉
41. 黒褐色（7.5YR 4/3）細礫混じり細粒砂
〈径２～４cmの礫少量含む〉
42. 淡黄色（5Y 8/4）粗砂〈径２～４cmの礫少量含む〉
43. 灰褐色（7.5YR 4/2）細礫混じり細粒砂
〈焼土・炭化物少量含む〉
44. 黒褐色（10YR 3/2）細礫混じり細粒砂
〈径２～６cmの礫・焼土少量含む、炭化物含む〉
45. 灰黄褐色（10YR 4/2）中粒砂～細粒砂
〈径２～４cmの礫含む、炭化物・焼土少量含む〉
46. 褐色（7.5YR 4/3）細粒砂
〈径３～４cmの礫・炭化物少量含む、焼土含む〉
47. 灰褐色（7.5YR 4/2）砂礫層〈径２～４cmの礫多量に含む〉
48. 黒褐色（7.5YR 3/2）細礫混じり細粒砂
〈焼土少量含む〉
49. 黄褐色（2.5Y 5/3）極粗砂混じり中粒砂～粗砂
〈径２～３cmの礫多量に含む、径４～８cmの礫少量含む〉
50. 黒褐色（2.5Y 3/2）細礫混じり細粒砂～中粒砂
〈径２～10cmの礫・土器片含む、炭化物含む〉
51. にぶい黄褐色（10YR 4/3）細礫混じり細粒砂～
中粒砂〈径４～８cmの礫少量含む〉
52. 黒褐色（10YR 2/2）細粒砂〈径１～６cmの礫少量含む〉
53. 黄褐色（2.5Y 5/3）中礫～細礫混じり粗～極粗砂
【洪水堆積】
54. オリーブ褐色（2.5Y 4/3）細礫混じり細粒砂
〈径２～４cmの礫・炭化物・焼土少量含む〉
55. 黒褐色（7.5YR 3/2）細礫混じり細粒砂
〈径３～６cmの礫少量含む、焼土含む〉
56. 黒褐色（7.5YR 2/2）細礫混じり中粒砂～細粒砂
〈径２～４cmの礫少量含む、炭化物含む〉
57. オリーブ褐色（2.5Y 4/3）細礫混じり中粒砂～細粒砂
58. 黒褐色（7.5YR 3/2）細礫混じり細粒砂〈焼土含〉
59. 暗褐色（10YR 3/3）細礫混じり細粒砂〈焼土含〉
60. 暗褐色（10YR 3/3）細礫混じり細粒砂
〈径２～４cmの礫少量含む、
焼土・炭化物含む、元和期の火災か〉
61. 灰黄色（2.5Y 6/2）中粒砂～粗砂
〈径１～６cmの礫多量に含む〉
62. 暗灰黄色（2.5Y 4/2）細礫混じり中粒砂
〈径４～６cmの礫少量含む、土器片含む〉
63. オリーブ褐色（2.5Y 4/3）細粒砂
〈径２～６cmの礫・炭化物少量含む〉
64. オリーブ黒色（5Y 3/1）わずかにシルト質細粒砂
〈径６～８cmの礫少量含む、炭化物含む〉
65. 黒褐色（10YR 3/2）細礫混じり細粒砂
〈径４～６cmの礫・炭化物少量含む〉



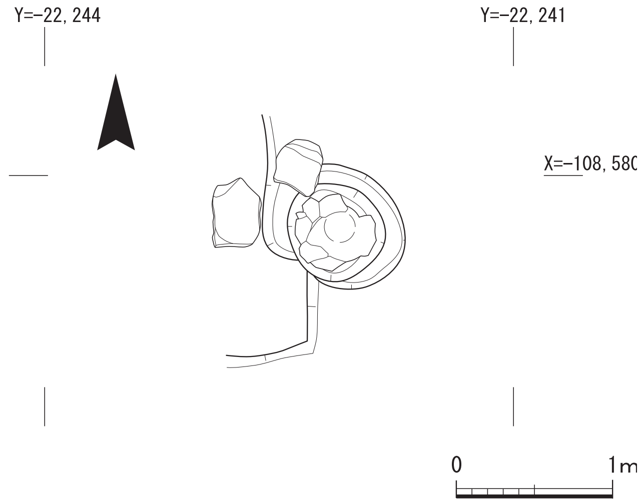
第65図　ＳＳ3056実測図



第66図　ＳＳ3118実測図



第67図　ＳＳ3322実測図



第68図　ＳK3052実測図

埋土は褐灰色粗シルト～極細粒砂である。信楽甕が埋設されていた。19世紀(第127図１)。

ＳＪ3116(第49図)　３区西部(11-t)で検出した胞衣壺である。直径0.25m、深さ0.15mである。壺に内容物は確認できない。19世紀(第126図５)。

ＳＪ3972(第49図)　３区南部(11・12-a)で検出した甕埋設遺構である。検出幅は南北1.4m、東西2.4m、深さ0.3mを測る。南側は調査区外に広がる。ＳＪ3052と共通する状況から便槽であると考えられる。埋土は黒褐色細粒砂で焼土を含む。信楽甕が埋設されていた。19世紀(第127図２・３)。

⑥土坑

ＳＫ05(第49図)　１区中央部(13･14-o･p)で検出した廃棄土坑である。検出規模は南北1.9m、東西5.06m、深さ1.2mを測る。南側を撹乱により削平される。ＳＤ12を削平する大型土坑で、下層は白色土と黒色土の互層を呈することから長期間開口していた土坑であると考えられる。上層は暗褐色の細粒砂を主体とする埋土が堆積する。土師器皿、肥前磁器、京・信楽系陶器、瓦、石製品などの遺物が多量に出土した。19世紀半ば(第140～143図、第159図１・２、第167図１)。

ＳＫ06(第49図)　１区北部(13･14-o)で検出した土坑である。検出規模は南北0.58m、東西1.82m、深さ0.2mを測る。北側をＳＳ07により削平されている。土師器皿、土人形、肥前磁器が出土した。17世紀末～18世紀初頭(第128図１～５)。

ＳＫ09(第49図)１区東部(12-o)で検出した廃棄土坑である。南北0.27m、東西２m、深さ0.09mを測る。ＳＤ12に削平されている。土人形が出土した。18世紀初頭(第131図４)。

ＳＫ10(第49図)　１区北東部(12･13-o)で検出した不定形の廃棄土坑である。南北1.76m、東西2.6m、深さ0.43mを測る。上層と南側は撹乱により削平されている。土製品が出土した。19世紀(第138図20・21)。

ＳＫ23(第29図)　１区北東部(12-o)第２面で検出した円形の廃棄土坑である。検出規模は南北0.56m、東西0.60m、深さ0.12mを測る。埋土は黒褐色細粒砂である。土師器皿、肥前陶器、瀬戸美濃陶器などが出土した。17世紀末～18世紀初頭(第128図６～10)。

ＳＫ27(第64図)　１区北部(13・14-o)第２面で検出した楕円形の廃棄土坑である。検出規模は南北1.1m、東西3.3m、深さ0.13mを測る。北側をＳＳ07により削平されている。土師器皿、銭などが出土した。17世紀末から18世紀初頭か(第128図11～17、第169図７)。

ＳＫ50(第29図)　１区南西部(14･15-s)第２面で検出した廃棄土坑である。検出規模は南北1.6m、東西1.9m、深さ0.5mを測る。ＳＫ72の上層遺構である。土師器皿、瀬戸美濃陶器、肥前陶磁器、銅製品などが出土した。17世紀末～18世紀初頭(第128図18～33、第162図８)。

ＳＫ2015(第29図)　２区東北部(9-p)第２面で検出した廃棄土坑である。南北0.92m、東西１m、深さ1.36mを測る。遺構の東側は調査区外に広がる。埋土は灰黄褐色細礫混じり細粒砂である。骨貝類の食物残滓が残存していた。肥前磁器、京・信楽系陶器、土師器皿、銅製品などの多様な遺物が出土した。18世紀末～19世紀初頭(第136・137図、第162図３・９、第163図11など)。

ＳＫ2022(第49図)　２区東部(9-r)で検出した不定形の土坑である。南北0.95m、東西1.2m、深さ0.2mを測る。肥前磁器、瀬戸磁器などが出土した。19世紀前半(第139図10～13)。

ＳＫ2025（第49図）　２区（11-s･t）で検出した円形の土坑である。南北１m、東西0.95m、深さ0.15mを測る。軟質施釉陶器の椀が出土した（第144図10）。

ＳＫ2041（第49図）　２区中央部（10-q）で検出した円形の廃棄土坑である。埋土は黒褐色細礫混じり細粒砂で焼土を含む。天明の大火に伴う廃棄土坑であると考えられる。肥前磁器、京・信楽系、土師器皿などが出土した。18世紀後半（第134図）。

ＳＫ2042（第49図）　２区東部（9-r）で検出した不定形の廃棄土坑である。検出規模は南北1.25m、東西1.07m、深さ0.5mを測る。肥前磁器、風炉、瓦などが出土した。19世紀（第135図・159図３～８、図版第120-１～３）。

ＳＫ2043（第49図）　２区南部（11-s）で検出した不定形の土坑である。南北1.1m、東西2.7m、深さ0.5mを測る。北側を撹乱に削平されている。便槽として使用された信楽甕が出土した（第139図16）。

ＳＫ2048（第29図）　２区北東部（9-o･p）第２面で検出した廃棄土坑である。南北1.45m、東西0.6m、深さ0.3mを測る。遺構北側と東側が調査区外へ広がる。肥前磁器、京・信楽系陶器、土師器器などが出土した。19世紀前半（第138図１～19）。

ＳＫ2055（第29図）　２区北東部（9-q）第２面で検出した廃棄土坑である。南北1.2m、東西1.2m、深さ0.8mを測る。下層にＳＥ2057が位置する。埋土は黒褐色細粒砂である。肥前磁器、土師器皿、銭などが出土した。17世紀末～18世紀初頭（第129図１～９、第169図34）。

ＳＫ2059（第29図）　２区北東部（9-p）第２面で検出した廃棄土坑である。検出規模は南北1.17m、東西1.1m、深さ0.6mを測る。埋土は黒褐色極細粒砂～細粒砂である。土師器皿、肥前陶磁器、瀬戸美濃陶器、鉄製品、銭が出土した。17世紀末～18世紀初頭（第129図10～16、第161図８、第169図37）。

ＳＫ2076（第29図）　２区東部（9-q）第２面で検出した円形の土坑である。ＳＫ2055により削平されている。検出規模は南北0.25m、東西0.27m、深さ0.15mを測る。中国製陶磁器、土師器皿、肥前陶器などが出土した。17世紀末～18世紀初頭（第129図17～21）。

ＳＫ3003（第49図）　３区東部（9-u）で検出した土坑である。南北0.86m、東西0.98m、深さ0.92mを測る。埋土は暗褐色細礫混じり極細粒砂で焼土、炭化物を含む。肥前磁器、銭が出土した（第138図29、第169図54～57）。

ＳＫ3004（第49図）　３区東部（9-v）で検出した方形の廃棄土坑である。検出規模は南北1.5m、東西２m、深さ0.5mを測る。埋土は黒褐色細礫混じり細粒砂である。時期幅のある遺物が多量に出土している。ＳＫ3004は上部にＳＳ3021が構築されていることから近世段階で埋没した遺構であると考えられる。19世紀ごろ（第144図１・２）。

ＳＫ3022（第49図）　３区東部（9-w）で検出した焼土坑である。検出長は南北0.8m、東西0.35mを測る。炭化物を多量に含む。肥前陶磁器が出土した。19世紀半ば（第144図３・４）。

ＳＫ3025（第49図）　３区中央部（11-u）で検出した円形の土坑である。南北0.97m、東西1.14m、深さ0.15mを測る。埋土は黒褐色細粒砂である。土師器皿、京・信楽系陶器、銅製品などが出土

した。18世紀後半(第133図１～６、第162図15)。

ＳＫ3035(第55図)　３区東部(9～11-v)で検出した不定形の廃棄土坑である。南北2.1m、東西4.7m、深さ0.6mを測る。埋土は黒褐色中粒砂～細粒砂である。遺物の時期にはばらつきがある。土師器皿、肥前磁器、瀬戸磁器、銭などが出土した。19世紀前半(第139図１～９、第169図61)。

ＳＫ3053(第49図)　３区東部(9-x)で検出した方形の廃棄土坑である。南北2.5m、東西1.18m、深さ0.6mを測る。遺構の西側は削平を受けている。嘉永の大火に伴う焼土層を掘削した土坑である。埋土は黒色細粒砂である。土師器皿、京・信楽系、肥前磁器などが出土した。19世紀半ば(第149図)。

ＳＫ3068(第49図)　３区(11-y)で検出した円形の土坑である。南北0.6m、東西0.7m、深さ0.2mを測る。文久永寳が出土した(第169図58)。

ＳＫ3090(第49図)　３区(12-y)で検出した不定形の土坑である。検出規模は南北0.8m、東西2.1m、深さ0.3mを測る。埋土は黒褐色細粒砂である。骨製の櫛払と金属製の匙が出土した(第162図13・第170図６)。

ＳＫ3100(第49図)　３区南部(11-y)で検出した楕円形の土坑である。南北1.5m、東西0.86m、深さ0.2mを測る。埋土は黒褐色極細粒砂～細粒砂である。19世紀前半(第138図22)。

ＳＫ3103(第49図)　３区中央部(13-x)で検出した不定形の廃棄土坑である。南北1.95m、東西1.56m、深さ0.35mを測る。埋土は黒色細粒砂である。ＳＫ3053と似た系統の肥前磁器などが出土した。19世紀半ば(第144図５～９、第169図60)。

ＳＫ3108(第49図)　３区西部(13･14-u･v)で検出した不定形の土坑である。東側を大きく削平されており、南北3.8m、東西2.8m、深さ0.75mを測る。埋土は黒褐色細粒砂である。土師器皿、肥前磁器、瀬戸陶器などが出土した。19世紀前半～半ば(第144図12～16、第160図１～５)。

ＳＫ3109(第49図)　３区南西部(14-x)で検出した円形の廃棄土坑である。南北0.85m、東西0.84m、深さ0.3mを測る。埋土は暗褐色細礫混じり細粒砂である。土師器皿、京都の磁器、ガラス製品などが出土した。19世紀前半(第138図23～28・第170図11)。

ＳＫ3114(第49図)　３区中央部(12･13-w･x)で検出した方形の大型廃棄土坑である。南北4.45m、東西６m、深さ0.6mを測る。遺構の南北は撹乱により削平されている。町家廃絶に伴い掘削された土坑で、上層から下層まで単一の土質である。埋土は黒褐色細粒砂である。京・信楽系陶器、瀬戸磁器などの遺物が多量に出土した。19世紀前半～半ば(第144図17～28)。

ＳＫ3125(第49図)　３区(11・12-x)で検出した土坑である。直径0.2m、深さ0.1mを測る。チャート製の火打石が出土した(第166図４)。

ＳＫ3166(第29図)　３区西部(14-x)第２面で検出した廃棄土坑である。南北2.55m、東西2.5m、深さ0.8mを測る。埋土は黒褐色中粒砂～細粒砂である。肥前磁器、京・信楽系陶器などが出土した。19世紀半ば(第145・146図)。

ＳＫ3172(第29図)　３区西部(14･15-u･v)第２面で検出した不定形の廃棄土坑である。検出規模は南北1.76m、東西2.55m、深さ0.12mを測る。遺構の西側は調査区外に広がる。埋土は黒色

極細粒砂で、炭化物の堆積層が確認できた。土師器皿、肥前磁器、肥前陶器などが出土した。17世紀末～18世紀初頭（第130図）。

ＳＫ3196（第29図）　３区南部（12-x）第２面で検出した円形の廃棄土坑である。直径1.5m、深さ0.4mを測る。埋土は黒褐色細粒砂である。土師器皿、京都陶磁器、肥前磁器、瀬戸磁器、京・信楽系陶器、中国製陶磁器、銅製品、独楽などの遺物が出土した。19世紀半ば（第147・148図、第162図11、第170図８）。

ＳＫ3253（第29図）　３区北西部（14-u・v）第２面で検出した円形の土坑である。南北1.4m、東西1.2m、深さ0.23mを測る。埋土は灰黄褐色細礫混じり細粒砂である。肥前磁器、銭が出土した。18世紀（第132図11、第163図12）。

ＳＫ3254（第29図）　３区（14・15-x）第２面で検出した楕円形の土坑である。検出規模は南北1m、東西1.6mを測る。瓦当が出土した（第160図７）。

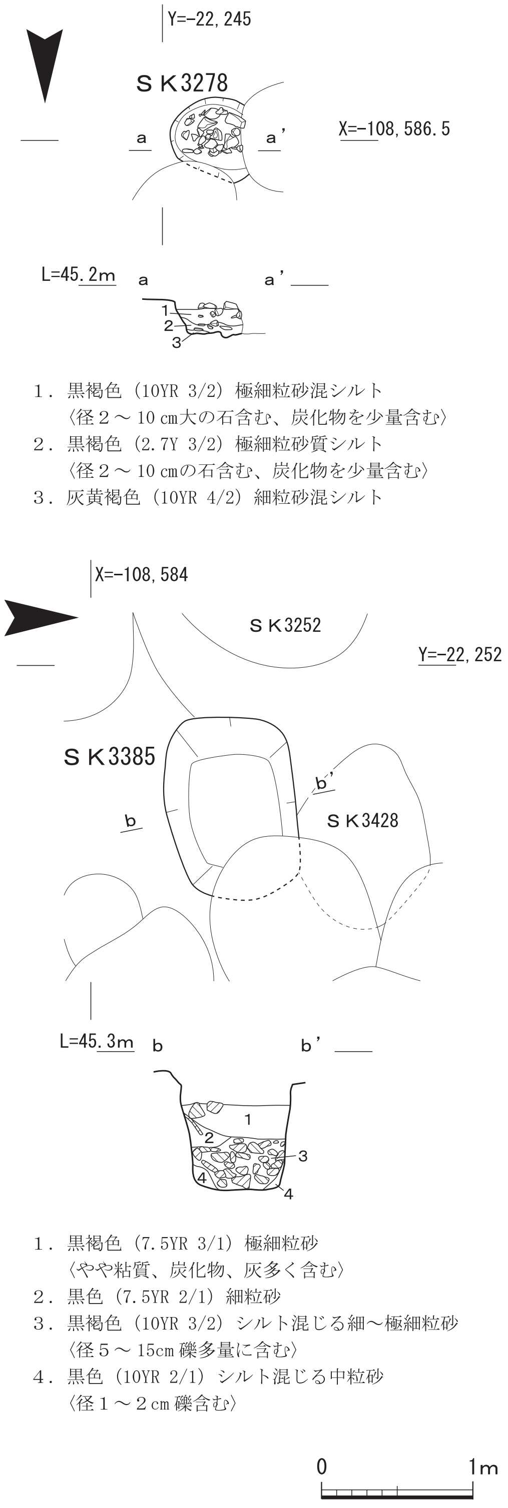
ＳＫ3264（第29図）　３区北部（12-u）第２面で検出した不定形の廃棄土坑である。南北1.3m、東西1.2m、深さ0.12mを測る。埋土は黒褐色細礫混じり細粒砂である。土師器皿、肥前陶器などが出土した。18世紀前半（第131図16～23）。

ＳＫ3267（第29図）　３区（14-u）第２面で検出した不定形土坑である。検出規模は南北1.1m、東西1.6mを測る。未成品の硯が出土している（第166図10）。

ＳＫ3272（第29図）　３区南西部（15-x・y）第２面で検出した廃棄土坑である。検出規模は南北1.86m、東西0.4m、深さ0.27mを測る。埋土は鈍い黄褐色細粒砂である。土師器皿や京・信楽系陶器、肥前磁器などが出土した。18世紀前半（第132図１～10）。

ＳＫ3278（第69図上）　３区中央部（12-v）第２面で検出した円形の土坑である。直径0.55m、深さ0.25mを測る。土師器皿、金箔瓦が出土した。17世紀末～18世紀初頭（第131図１・第157図６）。

ＳＫ3282（第29図）　３区北西部（15-t）第２面で出土した方形の廃棄土坑である。南北1.57m、東



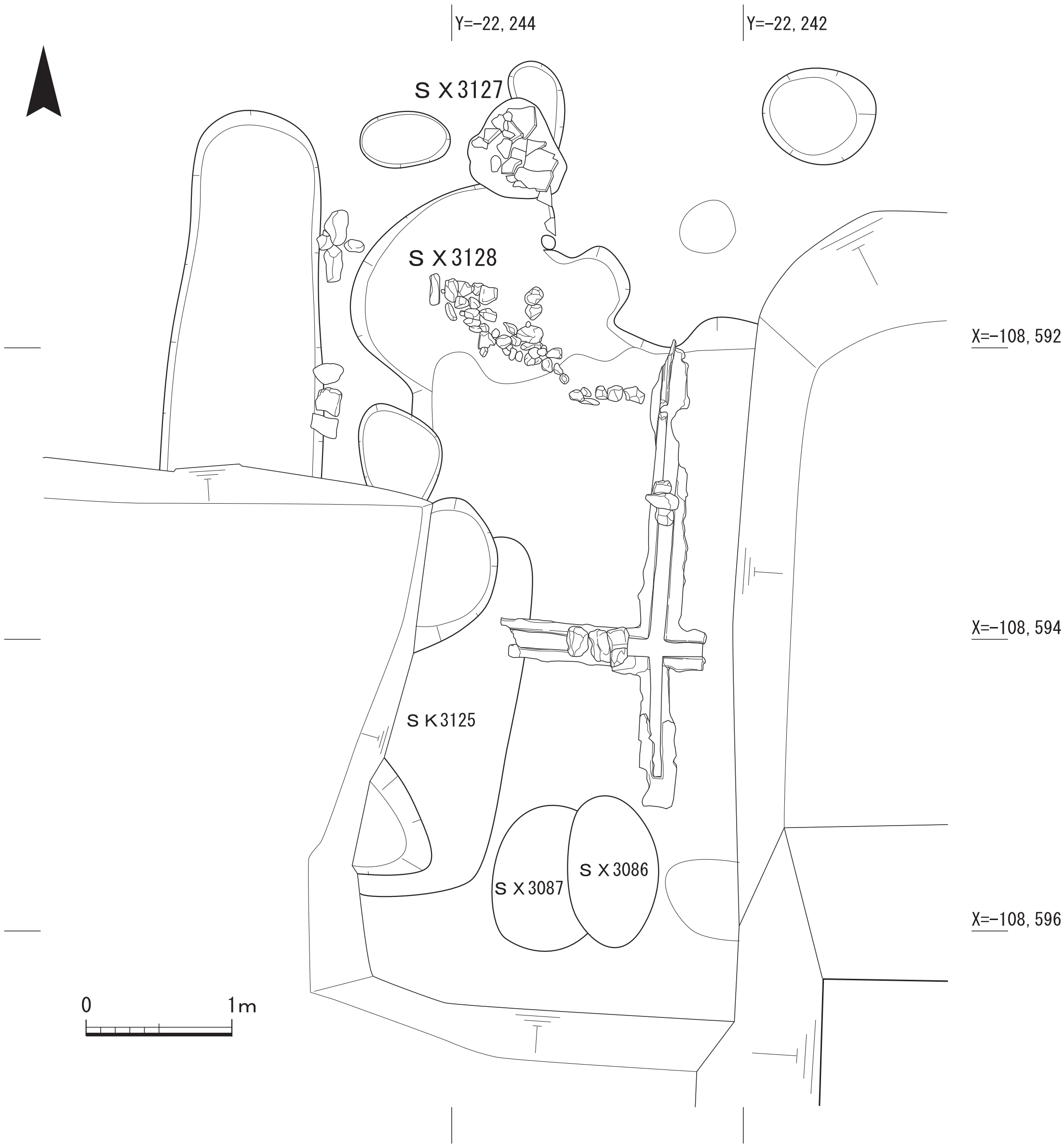
第69図　ＳＫ3278・3385実測図

西1.67m、深さ1.0mを測る。ＳＫ3282の西側は調査区外に広がる。埋土は暗オリーブ褐色細礫混じり極細粒砂で炭化物を含む。ＳＫ3282の下層は同じ位置で掘削された別遺構である。土師器皿、肥前磁器、肥前陶器などが出土した。18世紀後半（第133図７～18）。

ＳＫ3291（第29図）　３区中央部（13-x）第２面で検出した楕円形の廃棄土坑である。南北１ｍ、東西1.5m、深さ0.3mを測る。南側を別遺構に削平される。埋土は暗オリーブ褐色細礫混じり中粒砂～細粒砂である。肥前磁器、瀬戸陶器、花塩壺の蓋、銭が出土した。18世紀前半（第132図12～15、第169図73・74）。

ＳＫ3325（第29図）　３区西部（13･14-w）第２面で検出した方形の廃棄土坑である。南北2.9m、東西２ｍ、深さ0.35mを測る。埋土は黒褐色細礫混じり細粒砂である。土師器皿、肥前磁器などが出土した。17世紀末～18世紀半ば（第131図５～15）。

ＳＫ3360（第29図）　３区北西部（14･15-t）第２面で検出した楕円形の土坑である。検出規模は



第70図　ＳＸ3127・ＳＸ3128実測図

南北3.8m、東西１m、深さ0.2mである。遺構は調査区外の西側に広がる。埋土は灰黄褐色細礫混じり細粒砂である。泥面子が出土した。19世紀（第144図11）。

ＳＫ3385（第69図下）　３区北西部（13-u）第２面で検出した楕円形の土坑である。検出規模は南北0.77m、東西1.21m、深さ0.15mを測る。埋土は黄灰色細礫混じり細粒砂である。土師器皿が出土した。17世紀末～18世紀初頭（第131図２・３）。

ＳＫ3426（第７図）　３区北西部（13-y）第３面で検出した円形の土坑である。検出規模が南北1.14m、東西0.8m、深さ0.2mを測る。南東部を別遺構により削平されている。土師器皿、京・信楽系、土鈴などが出土した。18世紀（第132図16～21）。

ＳＫ3971（第７図）　３区南部（11-y）第３面で検出した土坑である。検出規模は南北1.6m、東西0.9mである。京焼、人形などが出土した。19世紀（第139図14・15）。

⑦その他

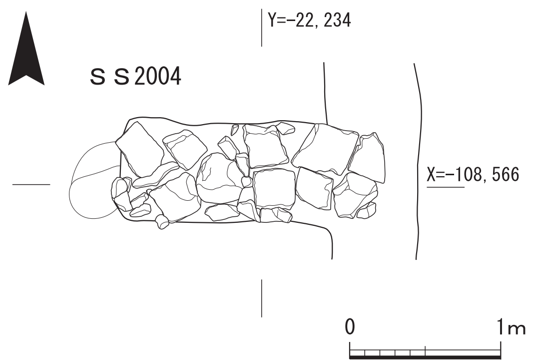
ＳＸ3127・3128（第70図）　３区南部（11・12-w・x）で検出した配石遺構と瓦集積遺構である。ＳＸ3127は検出規模南北0.7m、東西0.7mを測る。ＳＸ3128は南北１m、東西2.25mを測る。出土位置などから町家に伴う露地跡の遺構であると考えられ、瓦の集積部は蹲の一部か。

（５）近代

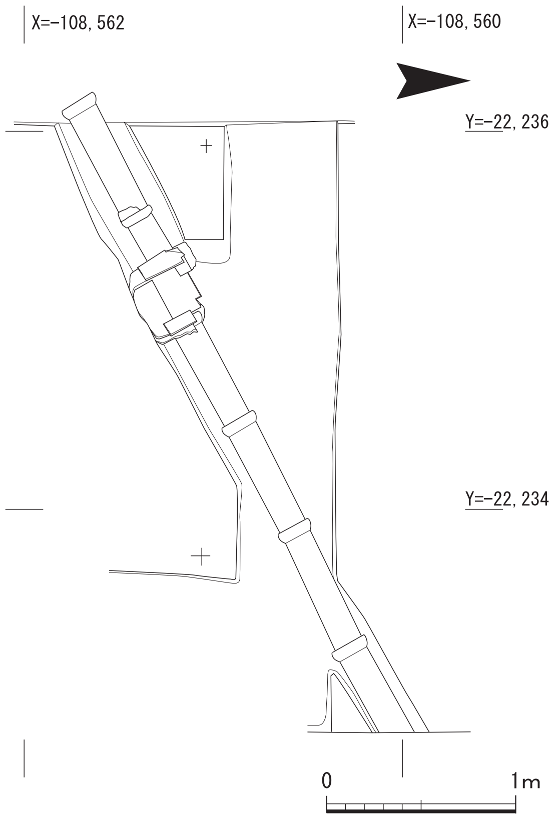
明治時代の京都府中学校から京都府庁（19世紀後半～20世紀前半）の遺構は第１面で検出した。中学校時代の建物基礎や溝、踏み石を検出したほか、京都府庁の建物基礎などを検出したが、中学校時代の遺構を中心に報告する。府庁時代の建物に関しては別の機会に報告を予定している。遺物は国産陶磁器・ガラス瓶などが出土した。

①中学校時代の遺構

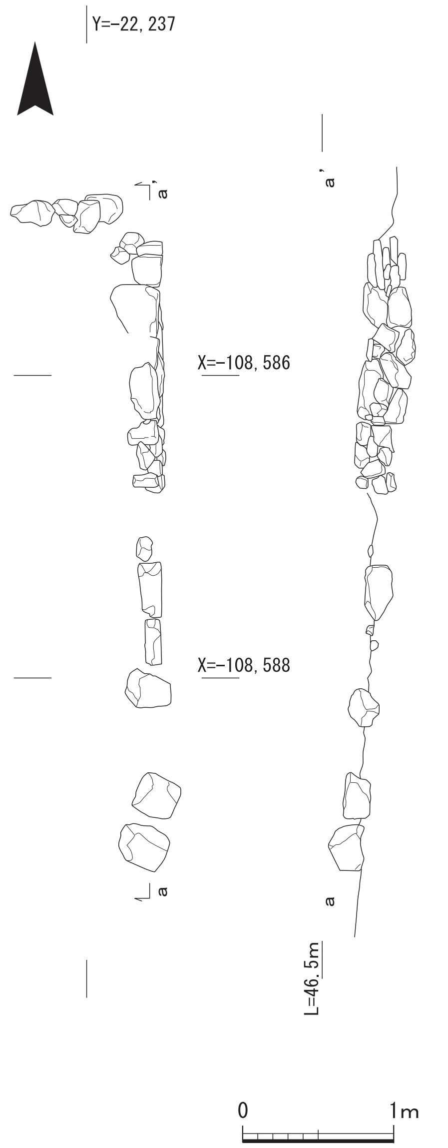
ＳＳ2003・2004・2005（第49・71図）　２区北東部（9-p・q）で検出した集石遺構である。検出長は南北6.45m、東西3.26mを測る。破砕した花崗岩を敷き詰めた集石遺構で、中学校



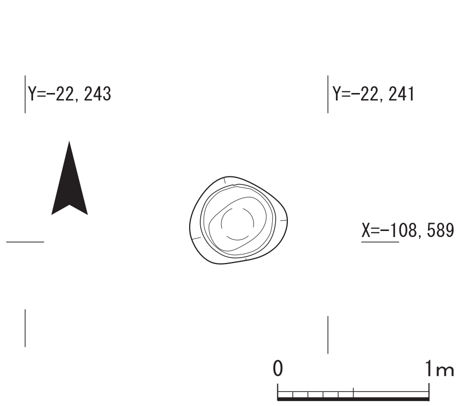
第71図　ＳＳ2004実測図



第72図　ＳＤ2014実測図



第73図　ＳＳ3021実測図



第74図　ＳＪ3028実測図

時代には英学生寄宿舎があったとされ、この建物の基礎部分であると考えられる。

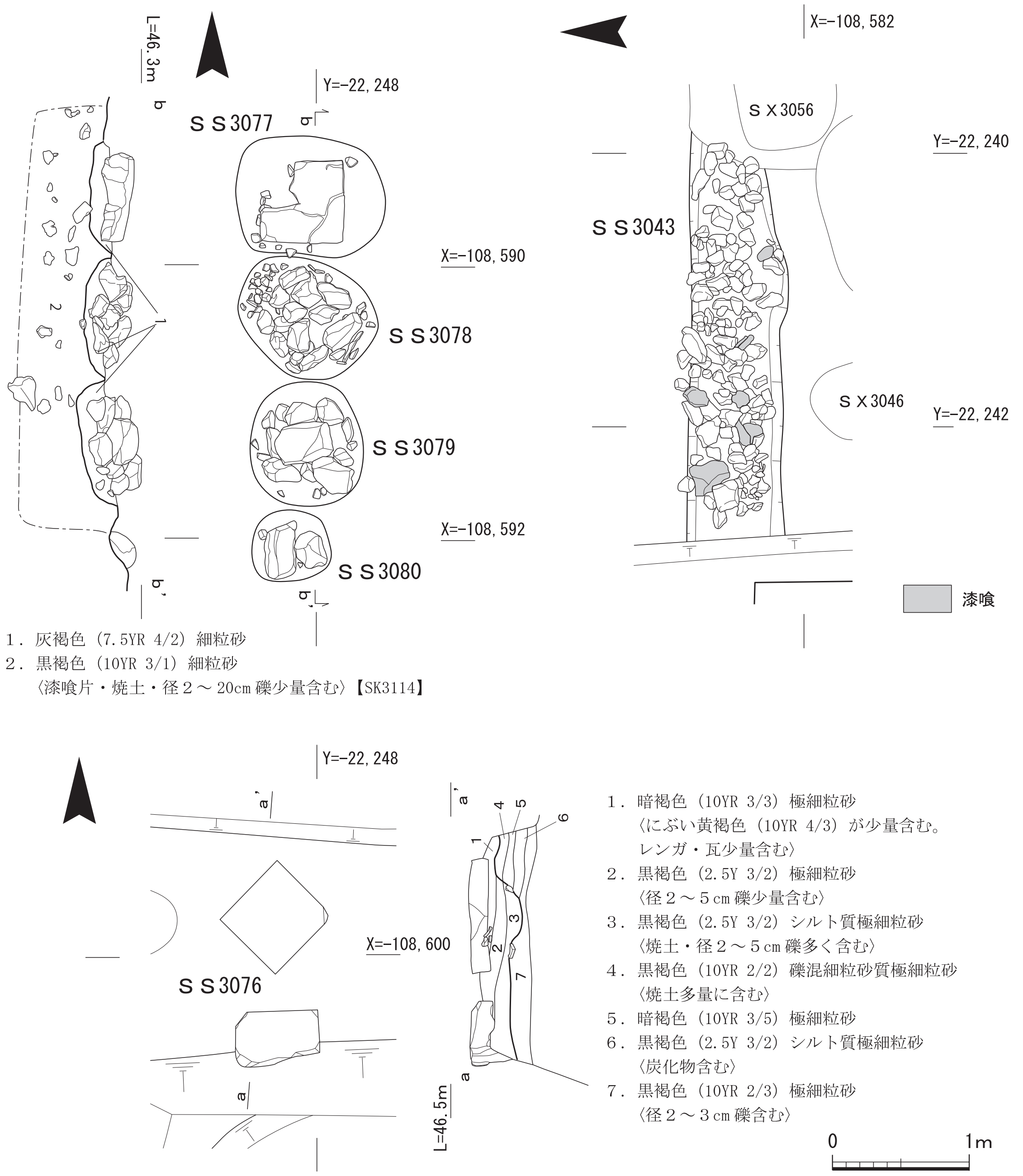
ＳＤ2014（第72図）　２区北東部（9・10-o・p）で検出した埋管遺構である。検出長は3.74ｍを測り、幅は0.41ｍ、深さ0.16ｍを測る。遺構は土管を一部破壊して造り出した枡が存在する。枡は底に瓦を据え、四方を煉瓦で漆喰を塗りこめて固定している。中学時代の英学生寄宿舎から新町通りに流れる管であったと考えられる（第152図１～３）。

ＳＫ2018（第49図）　２区東部（9-r）で検出した不定形の廃棄土坑である。南北0.8ｍ、東西1.04ｍ、深さ0.2ｍを測る。「府」の染付磁器が出土した。19世紀後半（第153図13）。

ＳＳ3021（第73図）　３区東部（9・10-w）で検出した漆喰石組遺構である。南北３ｍ、東西0.9ｍ、残存高0.2ｍを測る。北面の東側一部と東面の北半分程度が残存している。石組の遺構であるが、前時代の漆喰を切り出して再利用している。検出位置と出土遺物、層位から中学校時代の学務小便詰所の建物基礎であると考えられる。肥前磁器、深草の火鉢などが出土した。19世紀後半（第151図５～８、第167図３）

ＳＪ3028（第74図）　３区中央部（11-w）で検出した甕埋設遺構である。南北0.55ｍ、東西0.6ｍ、深さ0.3ｍを測る。甕は内面に白色の結晶物が蓄積している。また掘形には甕を固定するために１個の煉瓦を据え付けていた。層位と位置関係からＳＳ3021と同じく中学校時代の学務小便詰所の便所跡と考えられる（第152図４）。

ＳＳ3043（第75図右上）　３区東北部（10・11-u）で検出した溝の基礎である。東西方向に延びる溝で検出規模は南北0.8ｍ、東西３ｍ、深さ0.1ｍを測る。埋土は黒色細粒砂である。調査区東側壁面にも確認できる。ＳＳ3043は集石部のみの残存状況であるが、東側壁面を確認する限りその上部に３段の花崗岩が組まれていたと考えられる。検出位置から中学校時代の水路の跡であると判断した。肥前磁器、瀬戸磁器、京・信楽系陶器などが出土し



第75図　ＳＳ3043・3076・3077~3080実測図

た（第151図９～13）。

ＳＳ3076（第75図下）　３区南部（13-y・a）で検出した配石遺構である。南北軸に石を２つ配置し、検出規模は南北1.5m、東西0.75mを測る。後述するＳＳ3077・3078・3079・3080と一連の配石遺構である。南北に縦断する踏み石で、中学校時代に設置された。

ＳＳ3077・3078・3079・3080（第75図左上）　３区南西部（12・13-w・x）で検出した配石遺構である。南北3.42m、東西幅0.9m、深さ0.2mを測る。ＳＳ3076と一連の遺構で、中学校時代の踏み石遺構である。土師器、肥前磁器、京・信楽系陶器などがＳＳ3079から出土したが、いずれも下層から巻き上げた遺物である（第151図２～４）。

②府庁時代の遺構

ＳＫ2001（第49図）　２区北部(9-q･r)で検出した炭化物堆積遺構である。南北１ｍ、東西6.4ｍ、深さ0.9ｍを測る。埋土のほとんどが炭である。同遺構の南側には昭和後半まで使用されたボイラー室の燃焼部が位置していたことから、燃料が投棄されたと考えられる。京都府庁時代の遺構と考えられる。京・信楽系陶器、美濃磁器などが出土した（第153図１～12）。

ＳＫ2002（第49図）　２区東部（9・10・11-q･r）で検出した土坑である。南北1.3ｍ、東西3.3ｍ、深さ0.5ｍを測る。京都府庁のボイラー室焼成部の裏手にあたる。インク瓶や飲料水のガラス瓶が出土した（第154図１～７・第171図）。

ＳＸ2006（第49図）　２区北東部（9-p･q）で検出した遺構である。南北1.8ｍ、東西1.8ｍ、深さ0.5ｍを測る方形の土坑で、後述するＳＭ3968を削平して成形している。近代の遺構と考えられるが、詳しい年代は不明である。バイ貝を加工して作出した独楽が出土した（第170図７）。

ＳＤ2009（第49図）　２区南部で（10-s）で検出した石組溝である。南北軸に延びる溝で検出規模は2.4ｍ、東西幅は１ｍを測り、石組内の幅は0.25ｍである。深さは0.26ｍを測る。埋土は黒色細粒砂である。溝内埋土と掘形から京・信楽系陶器と、瀬戸美濃磁器などが出土している。５銭貨幣が出土していることから、府庁時代の遺構と考えられる（第154図８～９、第169図76）。

ＳＫ2019（第49図）　２区南部（11-t）で検出したレンガ組遺構である。直径1.25ｍ、深さ0.25ｍを測る。京都府庁時代の建物の一部であると考えられる。京・信楽系陶器、瀬戸美濃磁器などが出土した（第154図11～20、第167図２）。

ＳＳ2031（第49図）　２区南西部（11・12-s・t）で検出した集石遺構である。南北3.8ｍ、東西1.05ｍを測る。破砕した花崗岩を詰め込んだ建物基礎と考えられる。京都守護職上屋敷と京都府中学校時代の図面では建物のない位置に構築されていることから京都府庁時代に建てられた建物の基礎であると考えられる。

ＳＥ2270（第７図）　２区北部（11-q）第３面で検出した漆喰の井戸である。直径1.2ｍを測る。撹乱により削平を受けており、G.L.から２ｍほど下で検出し、0.6ｍほど掘削した。層位から、京都府庁時代の遺構であると考えられる。瀬戸美濃磁器が出土した（第153図15・16）。

③その他の遺構

ＳＫ3044（第49図）　３区北東部（10･11-u）で検出した土坑である。直径1.55ｍ、深さ1.5ｍを測る。アースを埋め込んだ土坑で、相馬焼が出土した（第153図14）。

ＳＭ3968（第49図）　２区（9-o・p）、３区（12･13-a）で検出した白色整地土である。白色の整地土は調査区において近代の造成土の下層で普遍的に確認される。この整地土下には造成土が盛られており、その下層に嘉永の大火に伴う焼土面が確認できている。層序から大火後の安定面として幕末の造成と想定したが、明治期の２銭貨幣が出土した（第169図77）ことから、明治段階の整地であると判断した。

２）出土遺物

今回の調査で出土した遺物はコンテナ箱で566箱に上る。遺物の種類は土器、陶磁器、輸入陶磁器、金属製品、ガラス製品、銭貨、鋳造関連遺物、瓦など多岐にわたる。年代は平安時代～幕末、明治時代におよび、近世以降の遺物が出土量のほとんどを占める。

発掘調査では、禁裏御用品関連の肥前産磁器が少量ながら出土したこと、良好な近世後期の町家遺構が見つかったことから、これらに関連する近世の陶磁器、中世においては堀などの重要遺構から出土した遺物や輸入陶磁器を中心に報告した。遺物は極力多く報告することとしたが、本来提示すべき出土遺物の組成比率の提示がかなわず、精査・攪乱等の出土遺物についても巻末写真での報告にとどまってしまった。

本報告では非常に多量の遺構・遺物を報告する都合上、本項では平安時代・鎌倉時代の遺物以外に関して、一部のみ言及し、そのほかの大半の遺物については遺物観察表に法量、胎土、産地、特徴などを記載した。また、遺構の掲載序列は大分類に遺構種別、小分類に時期を採用している。

（１）平安時代・鎌倉時代の遺物

ＳＰ174（第76図１・２）　１は土師器皿である。２は中国産の白磁の椀である。

ＳＰ128（第76図３～11）　３～11は土師器皿である。

ＳＤ3881（第76図12～15）　12～15は土師器皿である。12の「て」の字状口縁の皿と13・14のコースター形の皿が出土している。

ＳＤ2261（第76図16～21）　16は「て」の字状口縁の皿である。21は樟葉型の瓦器椀である。激しく摩耗しておりミガキは確認できない。

ＳＤ78（第76図22～56）　22～39は土師器皿である。40～43は瓦器である。40・41は内外面にミガキを施しており、42・43は内面にのみミガキが施されている。44～47・51～54は中国産の白磁である。47は口縁を輪花状に作出している。48は土師質の甕、49は須恵器の壺である。底部に糸切り痕を有する。50は緑釉陶器の椀である。55は陶器の壺で東海系産と考えられる。56は土師質の羽釜である。

ＳＫ2258（第77図１～39）　１～７は土師器皿、10・25は黒色土器Ｂ類の椀である。８・９・13・21～24・32は緑釉陶器の椀で、13は釉薬が残存せず素焼きの状態である。12・14・16～19・30・33は灰釉陶器、30・33は壺などの容器と考えられる。20・26・27は中国の越窯で焼成された遺物で、26は水注の頸部と考えられる。28は須恵器の壺である。31は土師質の壺、36～38は土師質の羽釜、39は土師質の甕である。

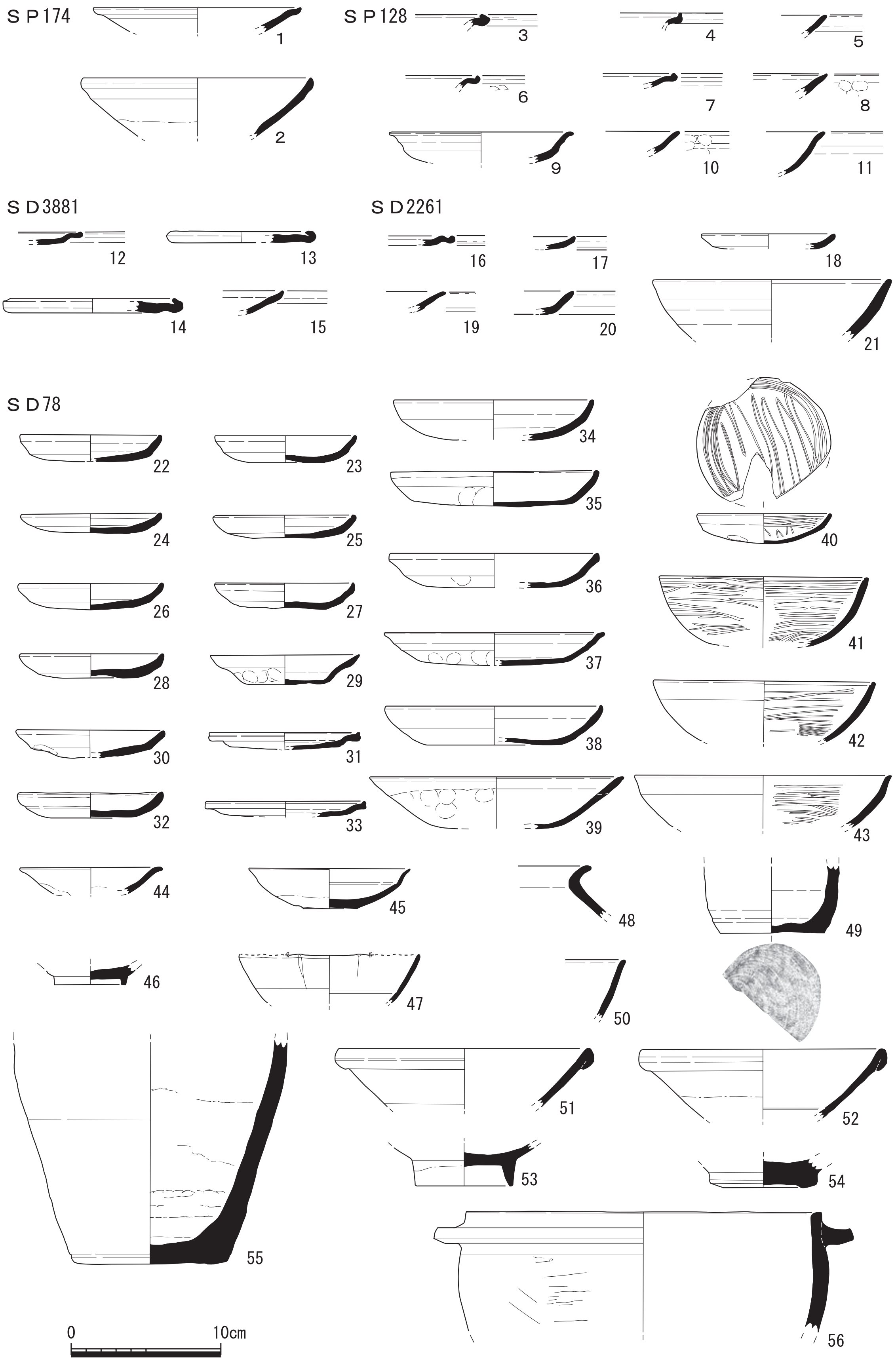
ＳＫ234（第78図１～10）　１～８は土師器皿、９・10は黒色土器Ｂ類の椀である。

ＳＫ3525（第78図11・12）　11・12はともに土師器皿である。11はコースター形の皿である。

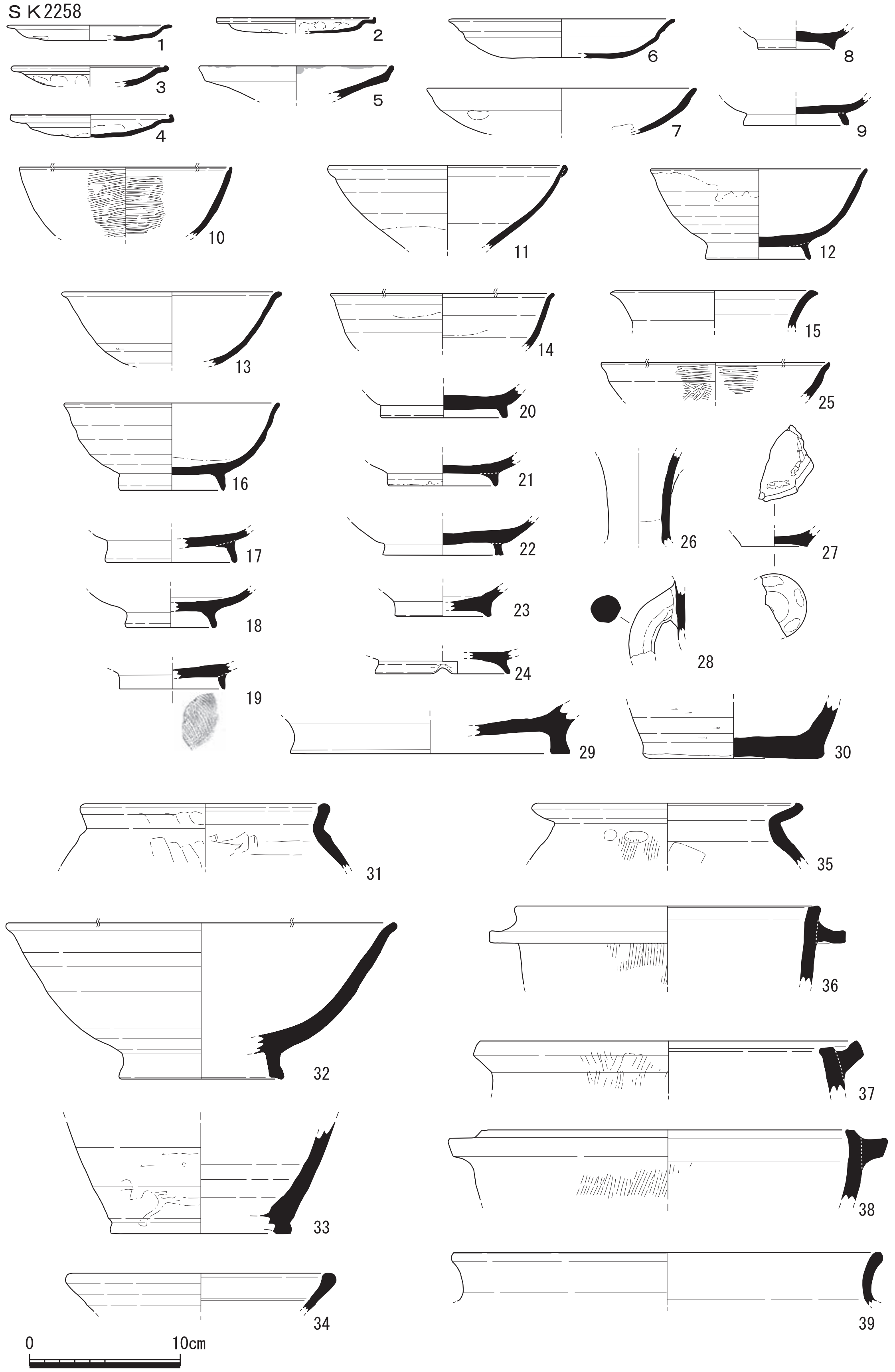
ＳＫ3839（第78図13・14）　13・14ともに土師器皿である。

ＳＫ238（第78図15～23）　15～17は土師器皿、18・21は緑釉陶器の椀、19は灰釉陶器の椀である。20は黒色土器Ｂ類の椀で、内外面にミガキを施している。

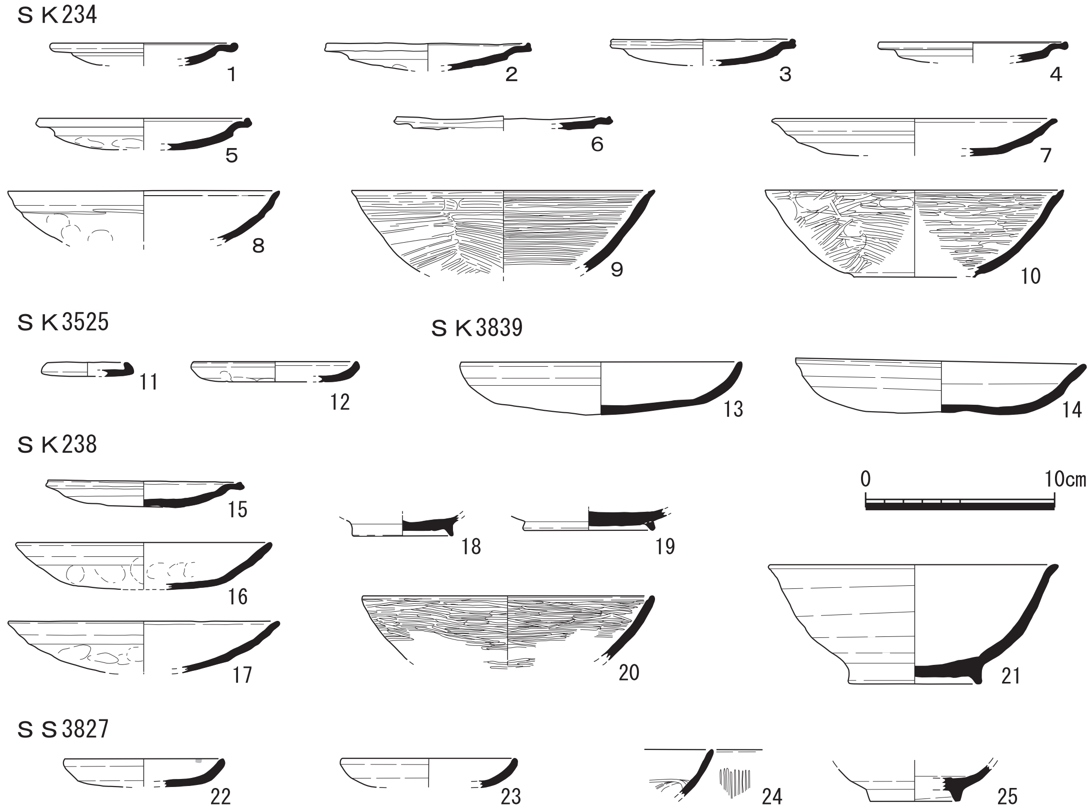
ＳＳ3827（第78図22～25）　24・25は中国の同安窯系の青磁椀である。内面に片切彫、外面に



第76図　平安時代・鎌倉時代の出土遺物１



第77図　平安時代・鎌倉時代の出土遺物２



第78図　平安時代・鎌倉時代の出土遺物３

も文様を彫刻している。同一個体の可能性があるが接点がない。

（２）室町時代・戦国時代の遺物

ＳＡ3425（第79図１～18）　１～16は土師器皿、17は瀬戸の鉢である。灰釉がかかる。18は常滑の甕の口縁部分である。

ＳＡ182（第79図37～40）　38は東播系須恵器の鉢、40は鉄釉のかかる瀬戸の小壺である。

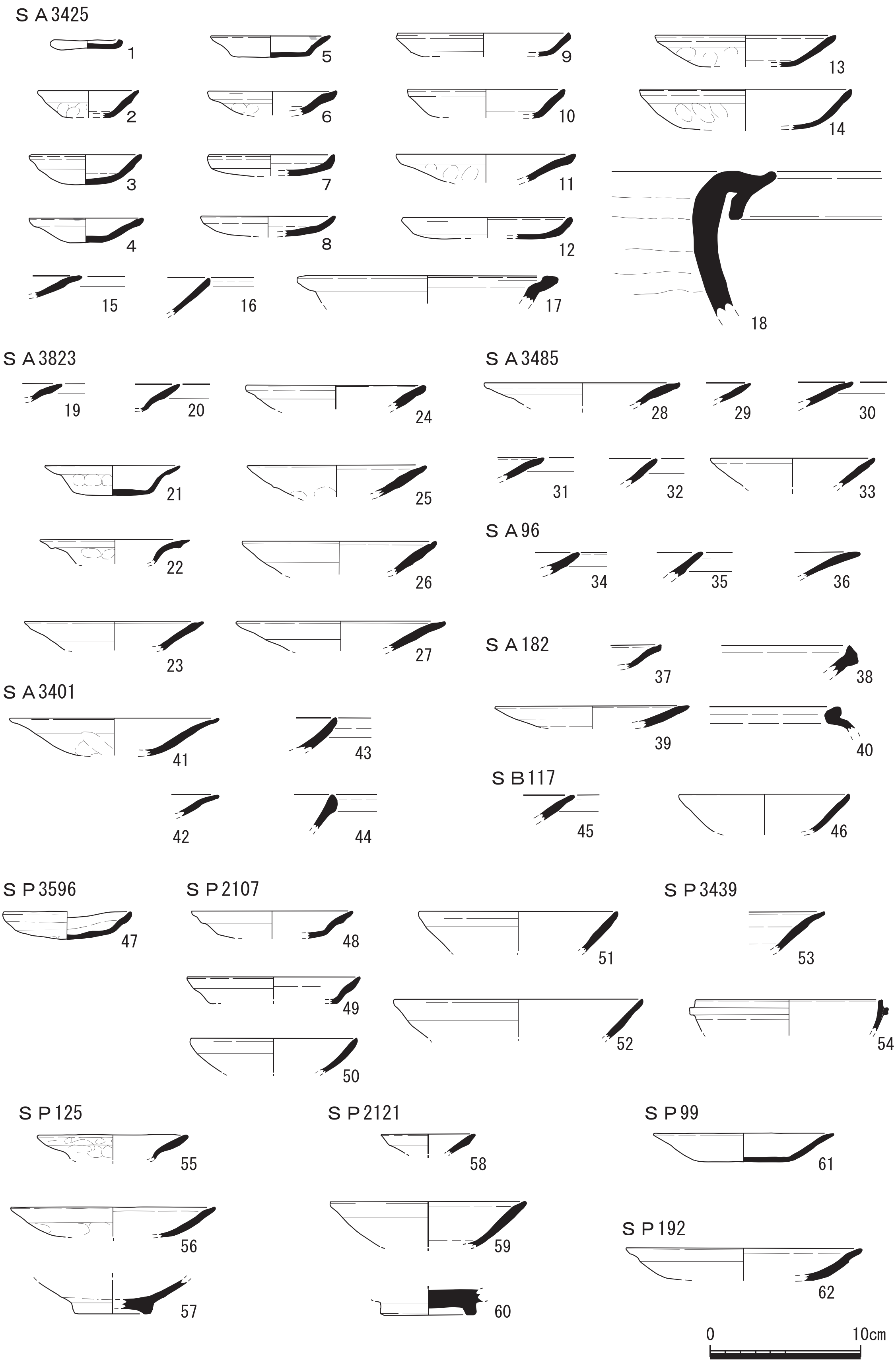
ＳＡ3401（第79図41～44）　41～43は土師器皿、44は中国産の白磁である。

ＳＰ125（第79図55～57）　57は中国産の白磁椀の底部である。

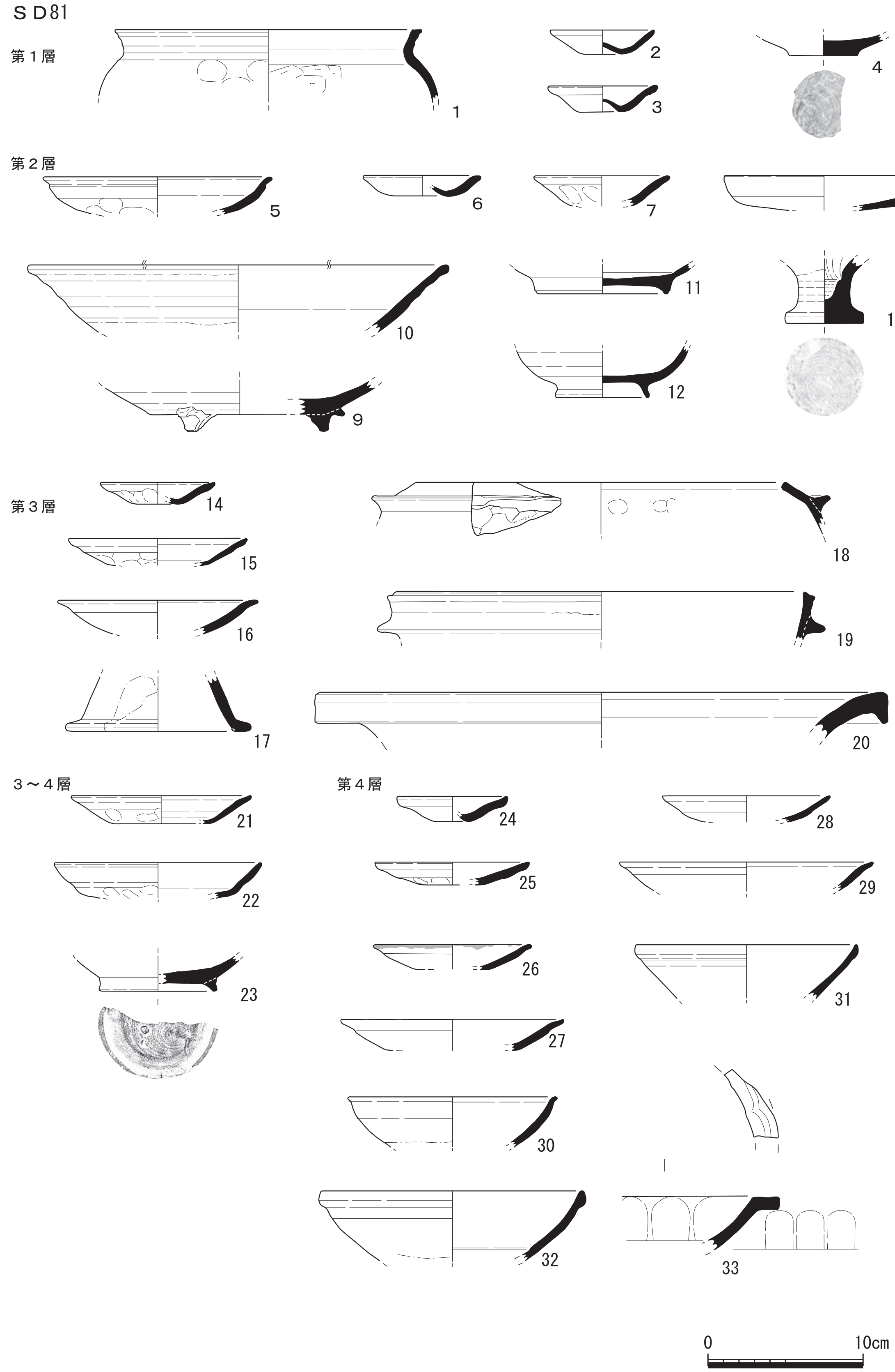
ＳＰ2121（第79図58～60）　60は中国産の龍泉窯系青磁の底部である。

ＳＤ81（第80・81図）　第80図１は土師質の壺、２・３はへそ皿である。４は柱状高台土器で、底部に糸切り痕が確認できる。９・10は瀬戸の脚付の鉢で同一個体の可能性があるが、接点を有しない。灰釉がかかる。11は中国産の白磁である。13は瀬戸の花瓶と考えられる脚部で底部に糸切り痕が確認できる。17は瀬戸の花瓶と考えられる。鉄釉をかける脚部のみが残存している。18は瓦質の三足であるが残存状況が悪い。23は灰釉陶器の椀の底部で、貼り付け高台の内部に糸切り痕が確認できる。31・32は中国産の白磁の椀で、33は中国龍泉窯系の青磁の鉢である。

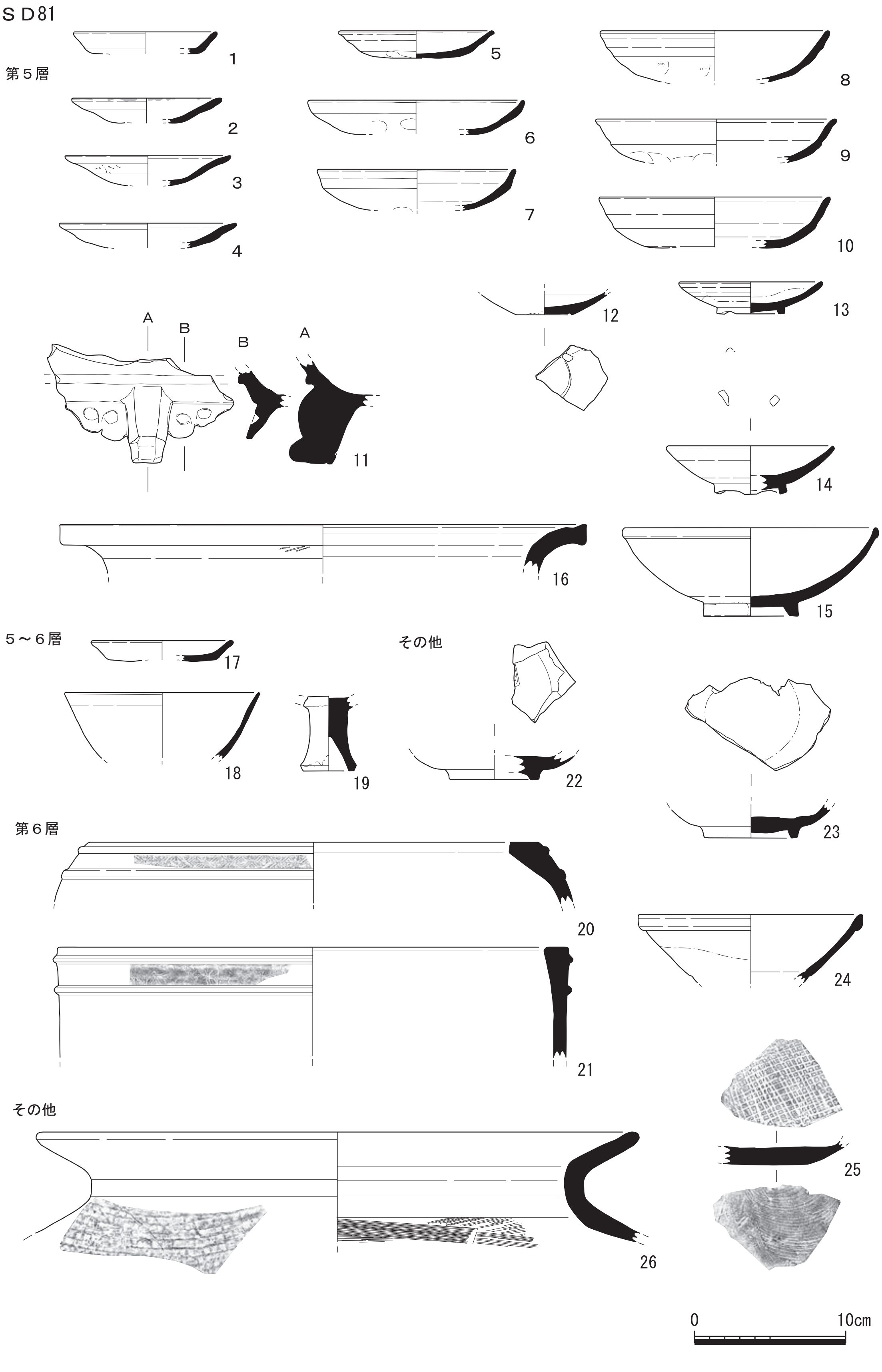
第81図11は瓦質の火鉢で大和産、12～15・18・24は中国産の白磁、14は見込みに重ね焼きの痕が残る。19・22・23は中国の龍泉窯系の青磁で、19は馬上杯の脚部、22と23は椀の底部である。22は見込みにスタンプを押している。20・21は大和の瓦質火鉢、25は瀬戸の卸目皿、26は中国四



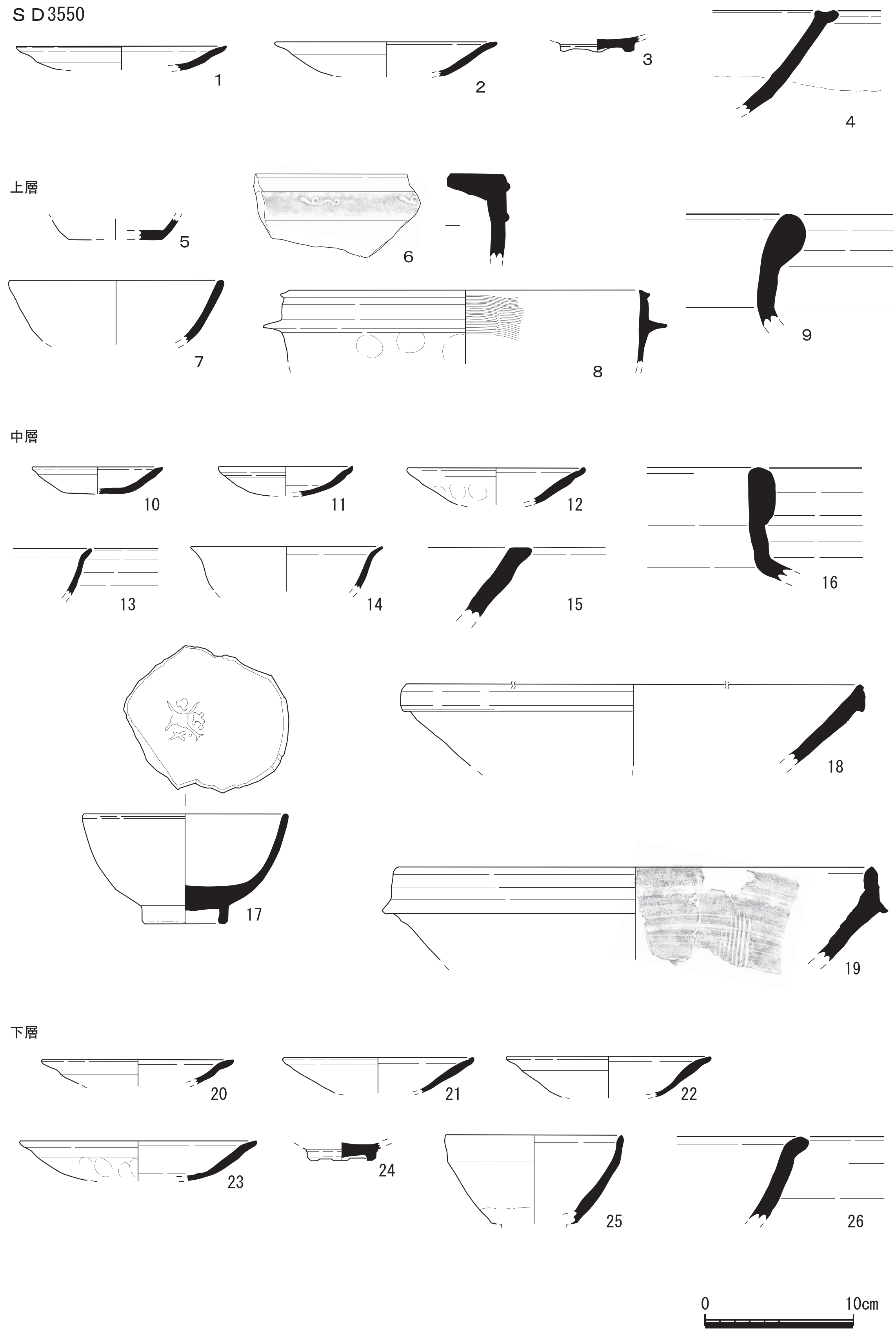
第79図　室町時代・戦国時代の出土遺物１



第80図　室町時代・戦国時代の出土遺物２



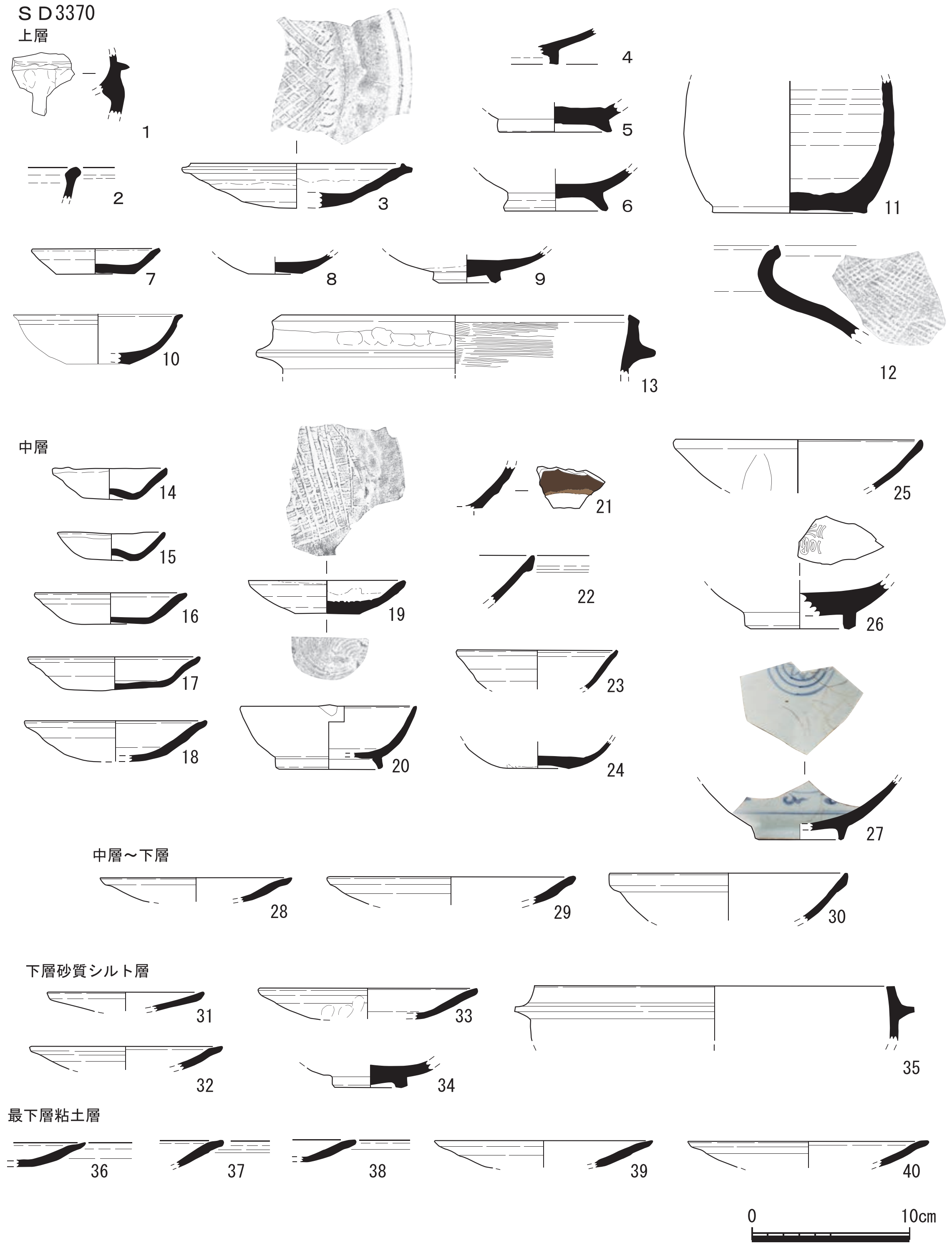
第81図　室町時代・戦国時代の出土遺物３



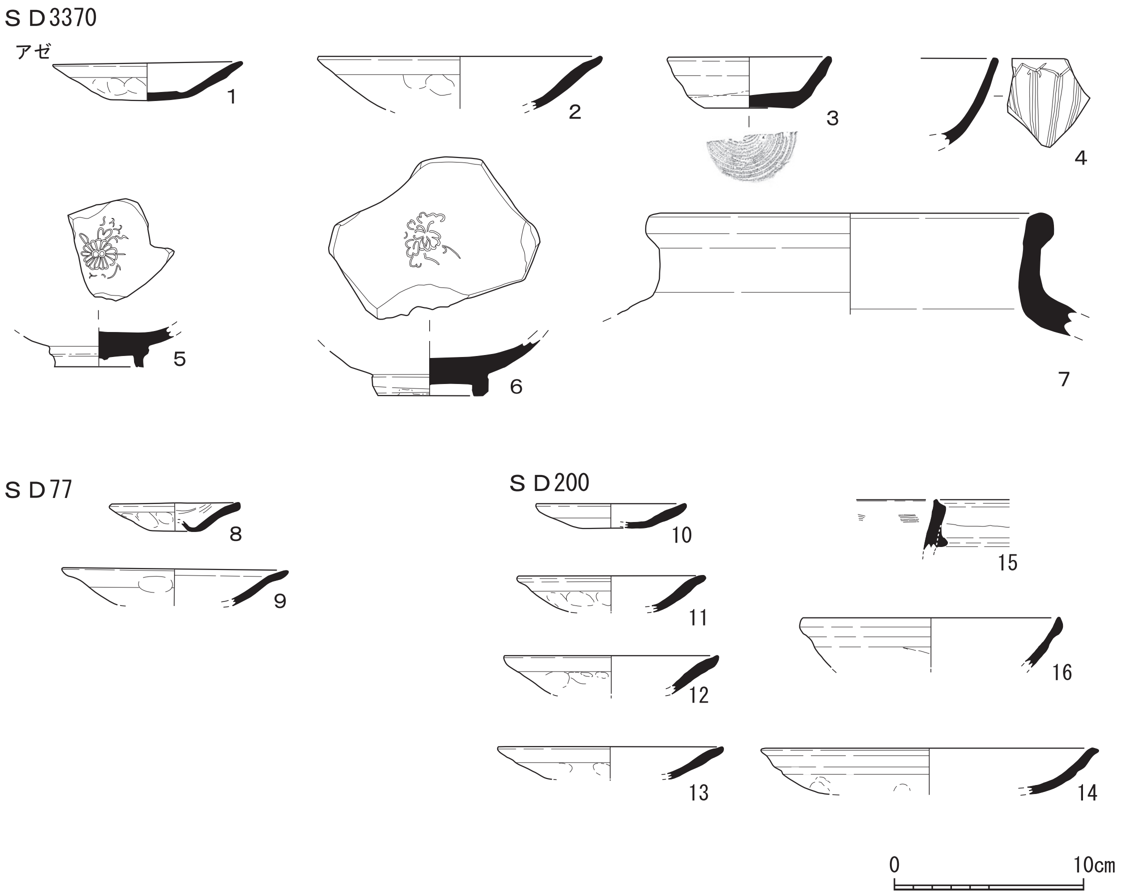
第82図　室町時代・戦国時代の出土遺物４

国系の須恵器の甕である。

ＳＤ3550（第82図）　３・５・24は中国産の白磁の皿の底部である。３は高台内に「井」字の墨書があり、24は高台内に「川」字の墨書が残存する。７・13・17は中国の龍泉窯系の青磁椀で17は見込みにスタンプで文様が施されている。４は瀬戸の鉢で体部まで灰釉がかかる。６は大和の瓦質火鉢、９･16は備前の甕である。14は青白磁の椀で中国産である。15は和泉河内系の擂鉢、



第83図　室町時代・戦国時代の出土遺物５



第84図　室町時代・戦国時代の出土遺物６

18は信楽の擂鉢であるが、残存率が悪くまた、摩耗しており擂り目を確認できない。19は備前の擂鉢、25は中国産の鉄釉のかかる椀でいわゆる天目椀である。26は信楽の擂鉢である。

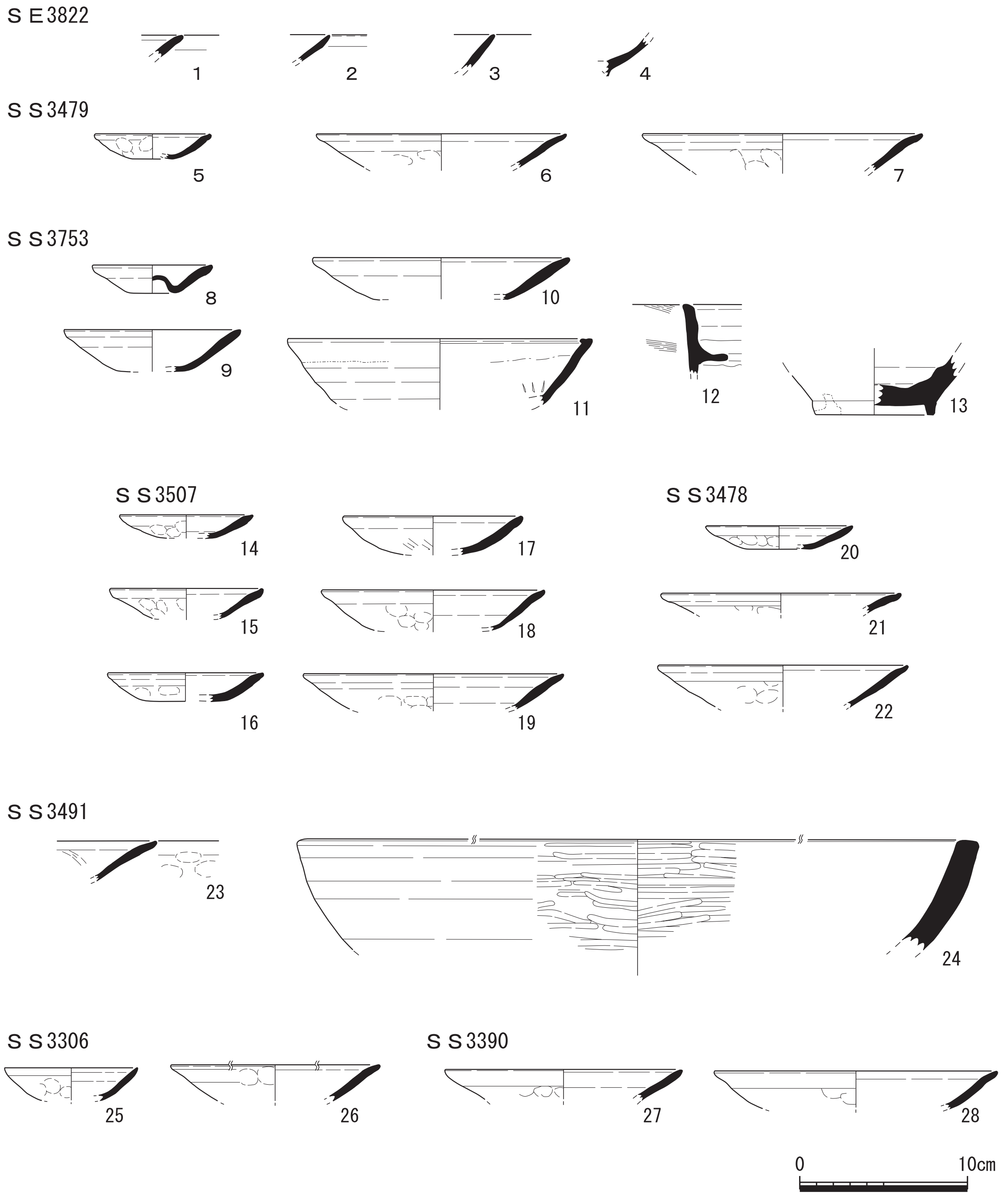
ＳＤ3370（第83図・第84図１～７）　第83図１は瓦質の三足鍋、２は中国産緑釉の陶器で古華南か。３は瀬戸の卸目皿、４・５は緑釉陶器の椀、６は灰釉陶器の椀、７～10は中国の白磁、11は緑釉陶器の水注と思われるがかなり摩耗している。12は東播系須恵器の壺で外面にタタキの痕跡が残る。13は瓦質の羽釜で内面にヘラによる調整の痕跡、外面に凸帯を貼り付ける際に指で押さえた痕が確認できる。21は瀬戸の鉄釉のかかる椀。22・23は中国産の白磁椀、24は中国産の白磁皿である。25は中国の龍泉窯系の青磁椀である。刻花が刻まれる。26は中国の龍泉窯系の青磁椀で見込みに「福」字の陰刻がスタンプで施される。27は中国の明代の染付である。30・34は中国の白磁椀である。35は瓦質の羽釜で凸帯を貼り付けている。

第84図３は瀬戸の灰釉陶器の皿で底部に糸切り痕が残る。４は中国の龍泉窯系の青磁椀で蓮弁が彫刻されている。５は中国の龍泉窯系の青磁椀で見込みにスタンプで文様を施している。６は中国の龍泉窯系の青磁椀で見込みにスタンプで文様を施している。７は備前産の壺である。

ＳＤ200（第84図10～16）　16は中国産の白磁である。

ＳＥ3822（第85図１～４）　４は中国産の白磁である。

ＳＳ3753（第85図８～13）　13は朝鮮の陶器である。



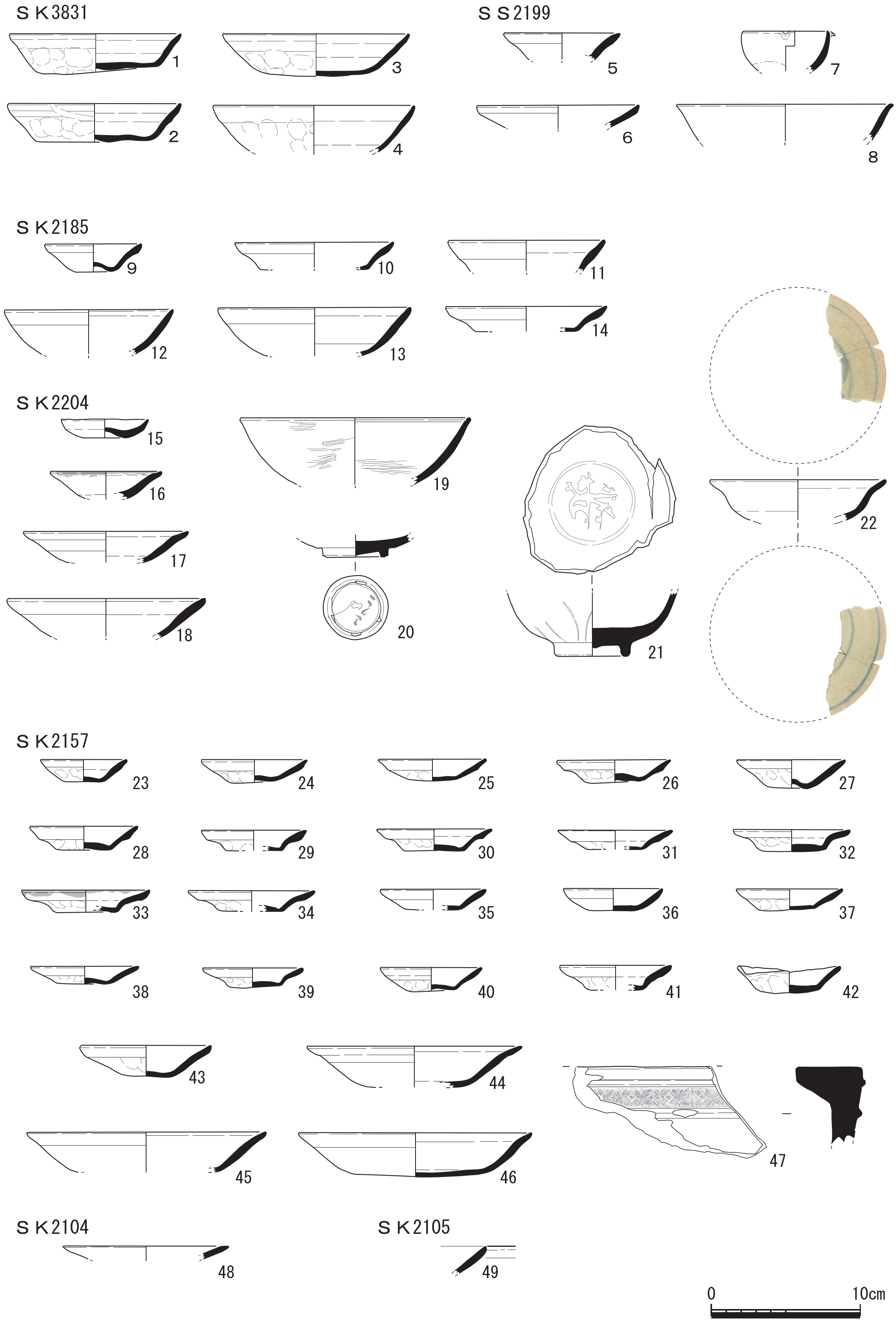
第85図　室町時代・戦国時代の出土遺物７

ＳＳ3491（第85図23・24）　24は大和の瓦質火鉢である。内外面にミガキの痕跡が残存する。

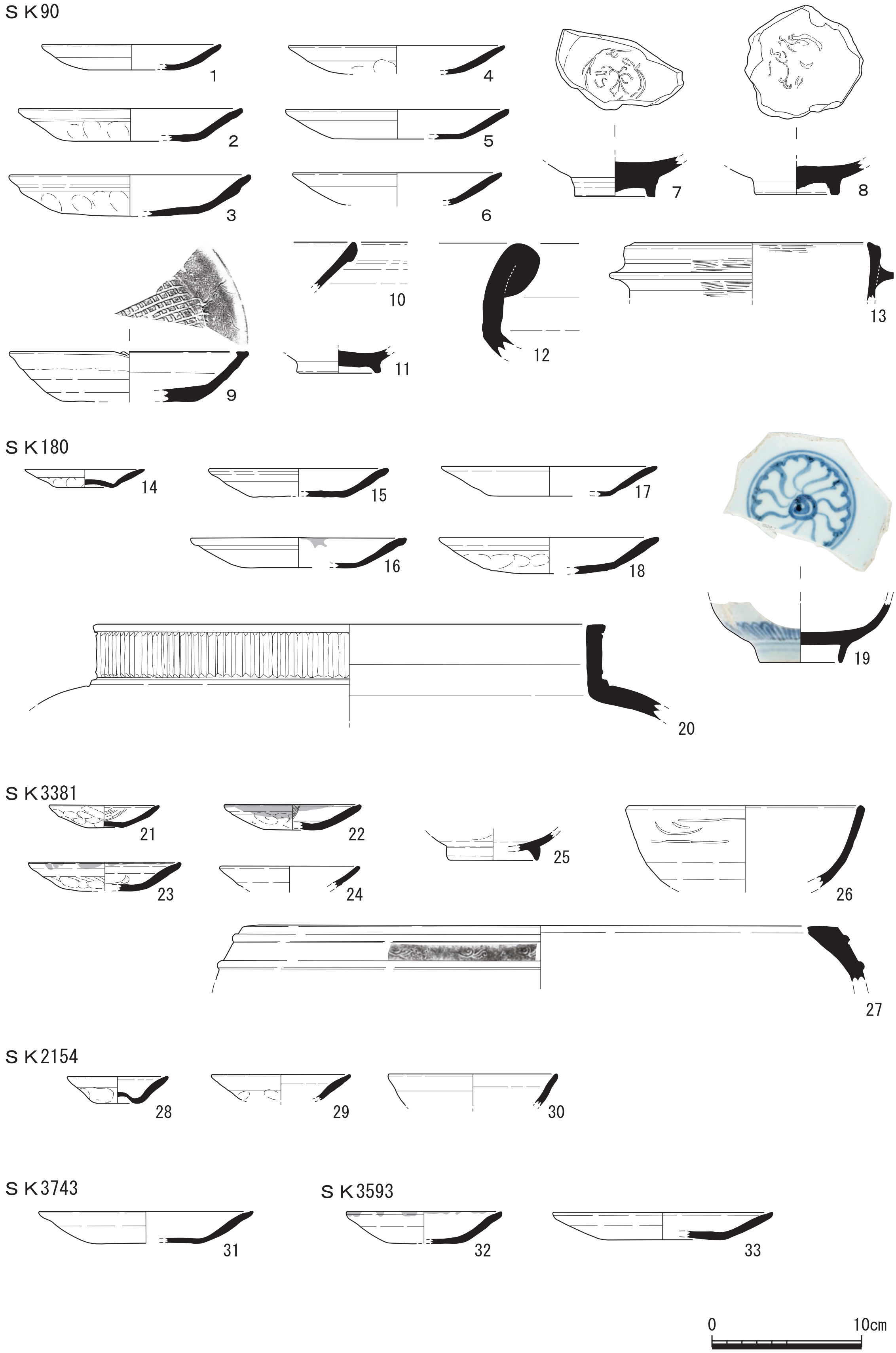
ＳＸ2199（第86図５～８）　７は瀬戸の鉄釉の椀である。小形の椀で口縁の一部をつまみ出すようにして注ぎ口状の造り出しを作出する。８は緑釉陶器の椀である。

ＳＫ2204（第86図15～22）　19は樟葉型の瓦器椀で、摩耗が激しいが内外面にミガキの痕跡がうかがえる。20は中国の白磁椀の底部で、高台内に墨書が残る。21は中国の龍泉窯の青磁椀で見込みにスタンプで文様を施し、外面に蓮弁を表現している。22は中国産の染付である。見込みに絵が描かれているがほぼ残っていない。

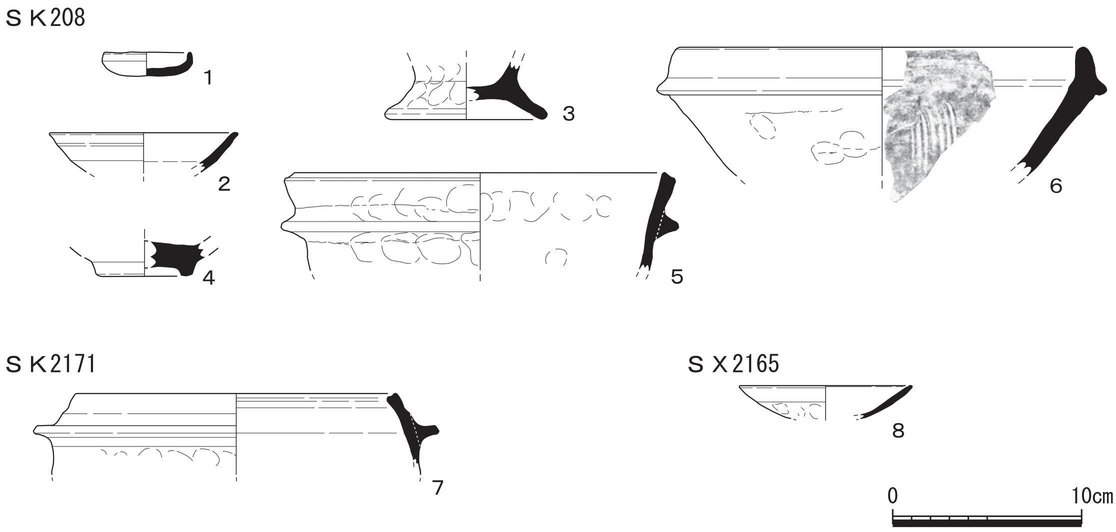
ＳＫ90（第87図１～13）　７・８は中国の龍泉窯系の青磁椀で、見込みにスタンプで文様を施



第86図　室町時代・戦国時代の出土遺物８



第87図　室町時代・戦国時代の出土遺物９



第88図　室町時代・戦国時代の出土遺物10

している。９は瀬戸の卸目皿である。10は中国の白磁椀である。

ＳＫ180（第87図14～20）　19は中国明代の染付である。20は大和の瓦質火鉢である。

ＳＫ3381（第87図21～27）　26は中国の龍泉窯系の青磁椀である。外面に簡易な文様表現が付く。27は大和の瓦質火鉢である。

ＳＫ208（第88図１～６）　３は柱状高台土器である。外面にユビオサエの痕跡が観察できる。

（３）安土桃山時代・江戸時代前期の遺物

ＳＢ01（第89図１～18）　17と18は朝鮮陶器である。同一個体の可能性があるが、接点はない。18は見込みに円形の砂目痕を有する。

ＳＸ2058（第89図19～40）　37は瀬戸美濃の香炉である。鉄釉が外面に掛かり、ロクロ成形で脚が三方向に付く。40は肥前陶器の鉄絵の鉢である。

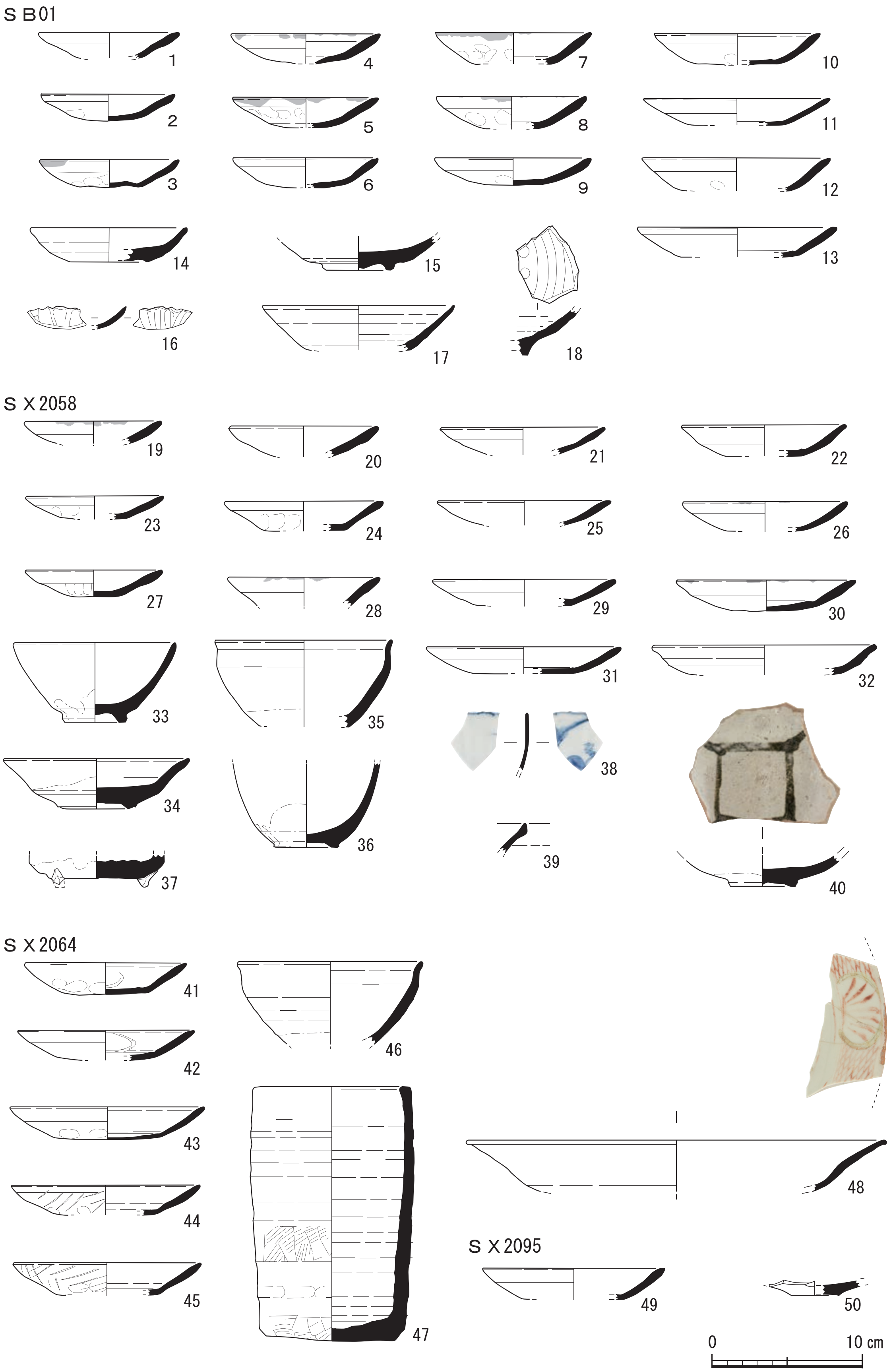
ＳＸ2064（第89図41～48）　47は信楽の花入れである。篦などの工具で体部をナデて調整した痕跡が残る。48は中国の漳州窯系の赤絵の大皿である。

ＳＥ133（第90図13～23）　22は瀬戸美濃の鉢で見込みに「福」字のスタンプ紋が入る。高台内に重ね焼きの痕跡が残存する。23は中国の龍泉窯系の青磁椀である。高台はケズリ出して成形している。

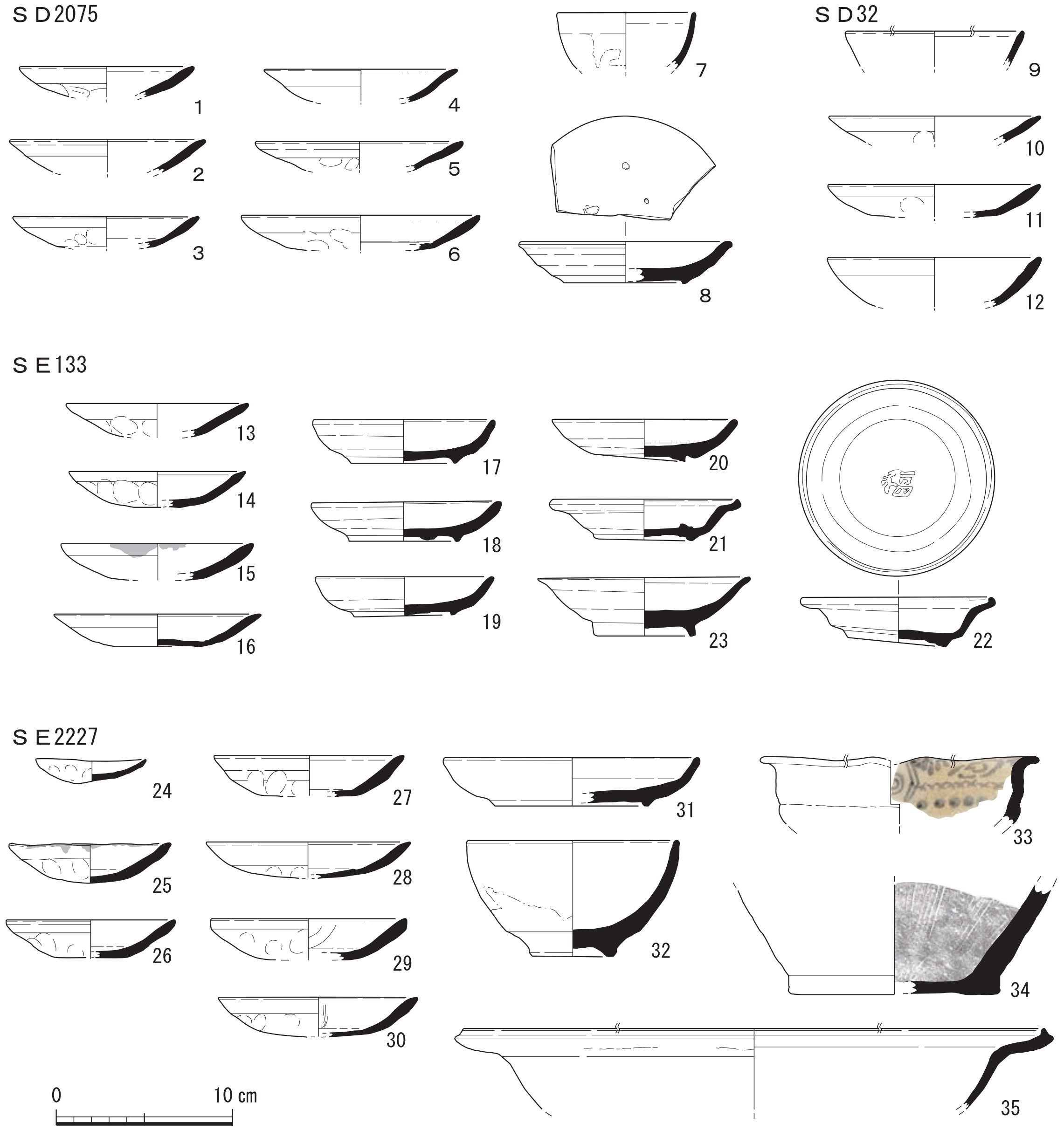
ＳＥ2227（第90図24～35）　33は瀬戸美濃の鉢で鉄絵志野である。

ＳＥ2057（第91・92図）　第91図１は内面に漆が塗られた土師器皿である。21・22は軟質施釉陶器の椀である。22は見込みと外面に鉄絵で模様が描かれる。26は肥前の彫三島手の椀である。外面と内面の口縁にかけて削り込み文様を表現する。32は中国龍泉窯系の小壺である。体部を削り込み文様を表現する。35は中国の漳州窯系の赤絵の大皿である。37は瀬戸美濃の水滴である。猿形で体部はロクロ成形、手足と頭部を手びねりで成形する。38は肥前の大鉢である。口縁端部に輪花の細工を施している。

ＳＥ136（第93・94図）　第93図24は肥前陶器の鉄絵の鉢である。見込みと口縁部にススキ文を



第89図　安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物１

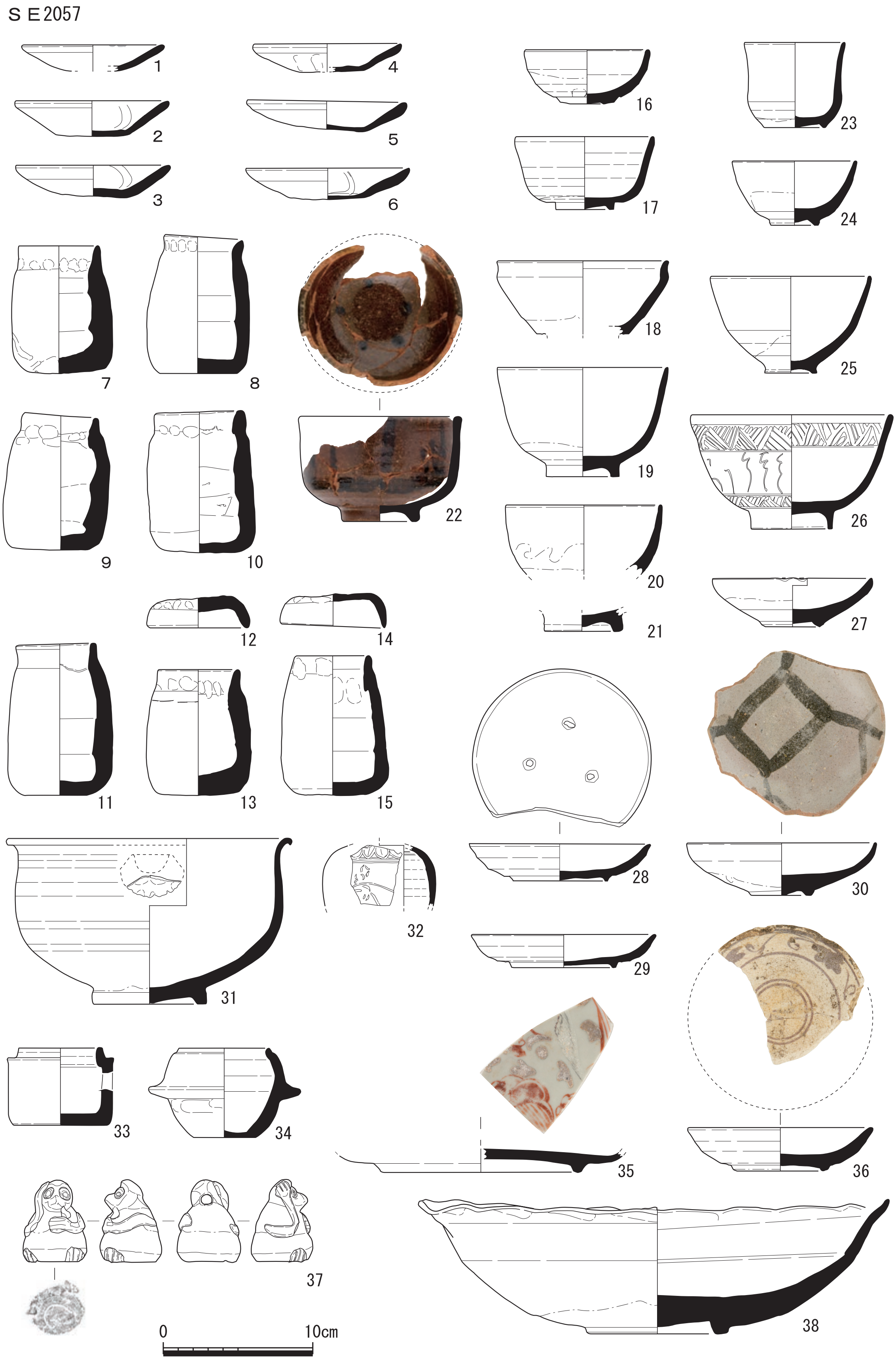


第90図　安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物２

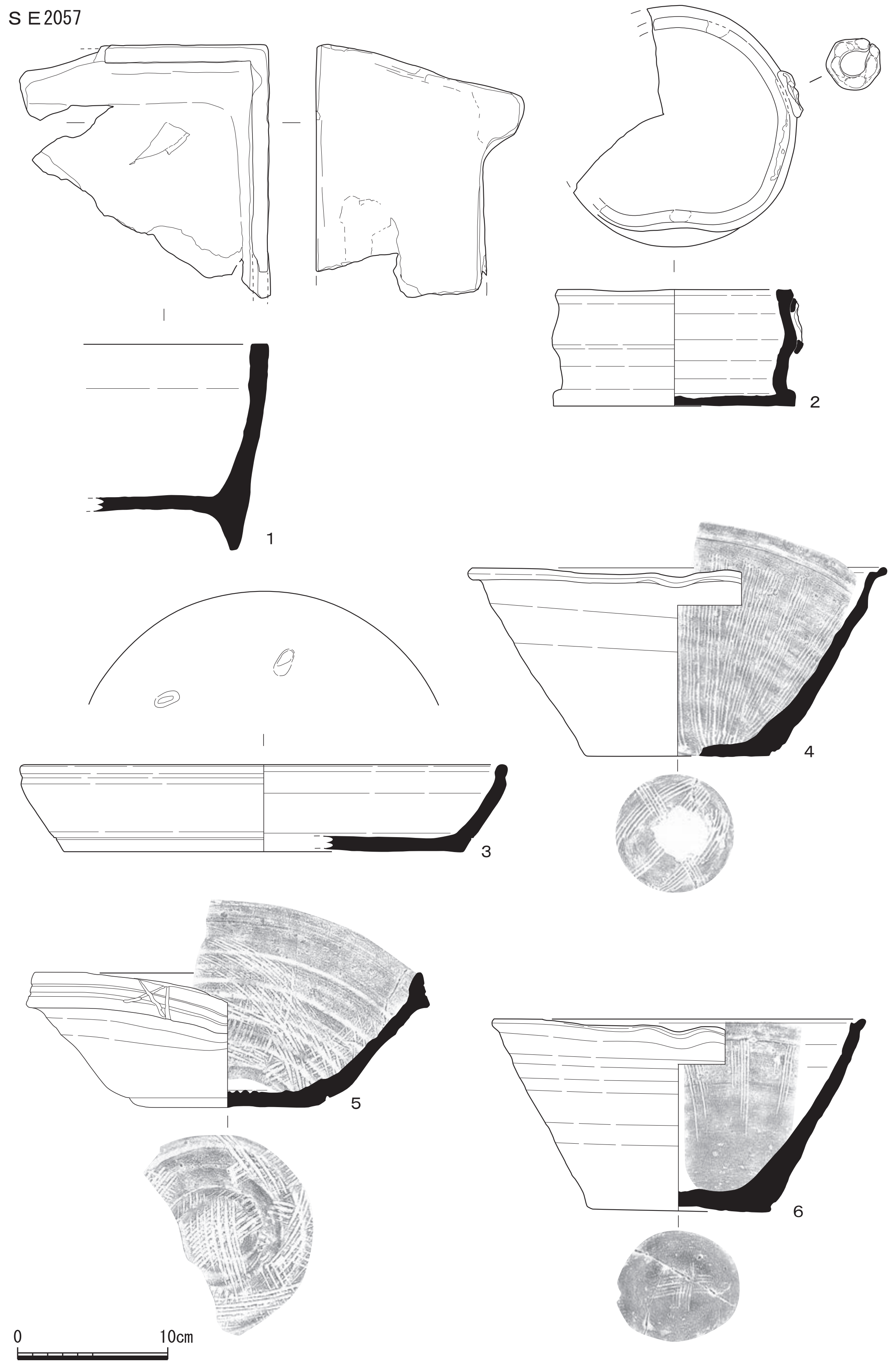
描く。口縁は四方を内側に曲げている。25は瀬戸美濃の鉄絵志野である。体部に竹垣、見込みに草紋を描く。体部に脚が付く。26～33は肥前陶器の鉄絵鉢である。見込みに「壱」を描く。第94図２は土師器皿を加工して作成された面打である。３は軟質施釉陶器の小壺である。ウリ科の植物を模したと思われ、葉にあたる部分に緑釉、実の部分に透明釉を掛ける。６は中国の景徳鎮窯の青花の椀である。外面に草花を描く。７は景徳鎮窯の白磁椀で内面に蓮を浮かし彫りしている。８は景徳鎮窯の青花皿で見込みに猿を描く。

ＳＳ3135（第95図12～15）　15は呉須の市松紋を上絵付けた菊御紋付の椀である。高台内に朱書きが残存する。ＳＳ3135に伴うというよりも上層からの混入遺物である。

ＳＳ3216・3217（第96図13～16）　15は肥前の褐釉の壺である。16は肥前陶器の鉄絵皿である。見込みと口縁端部に圏線を描く。見込みに砂目痕が付く。

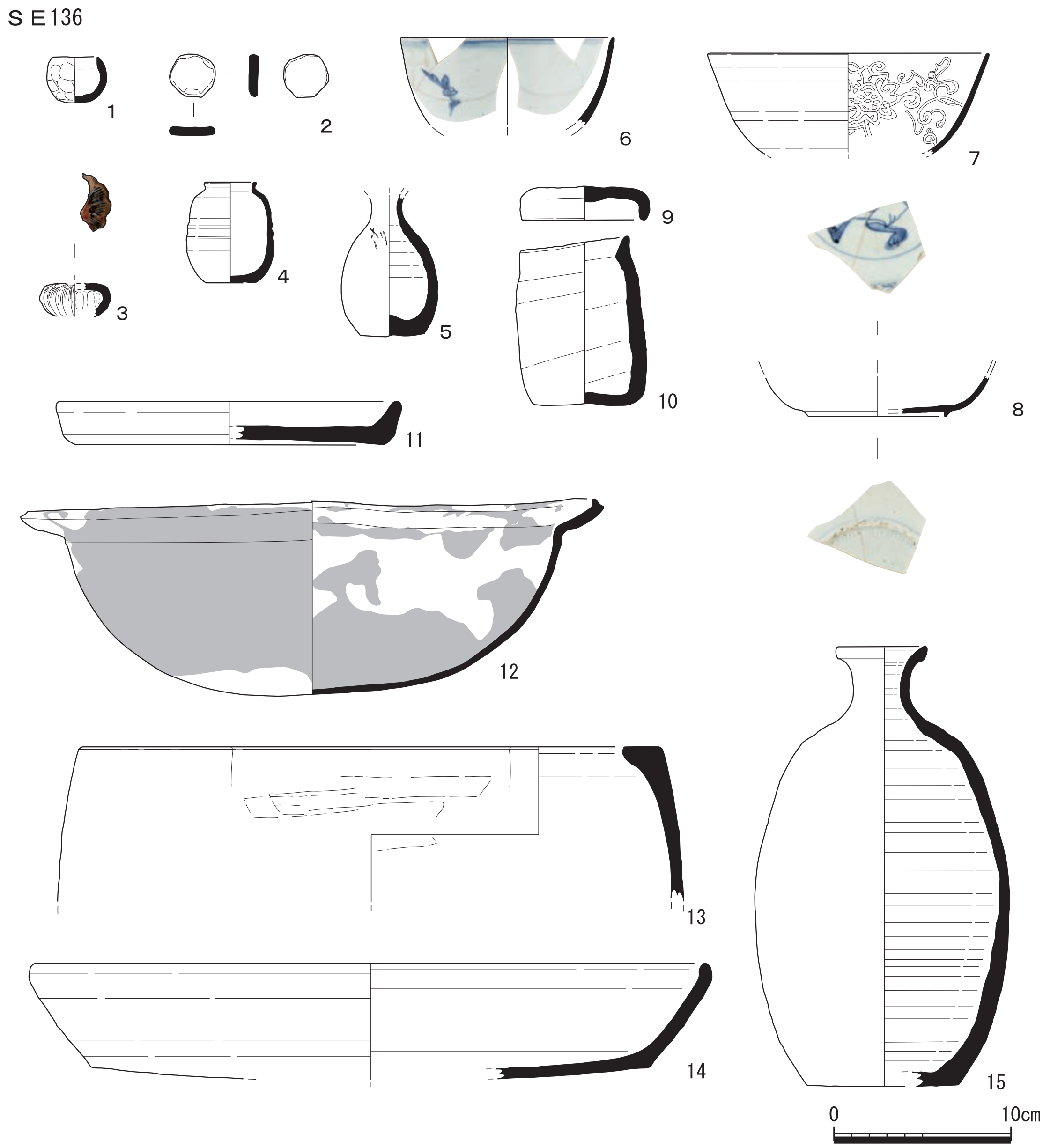


第91図　安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物３



第92図　安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物４

第93図　安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物５



第94図　安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物６

ＳＳ3229（第96図17～25）　21は金箔の付された土師器皿である。

ＳＳ3276（第96図26～29）　29は中国南方系の青花椀である。見込みに釉剝ぎの痕跡がある。内面に圏線、外面に簡略化した文様を描く。

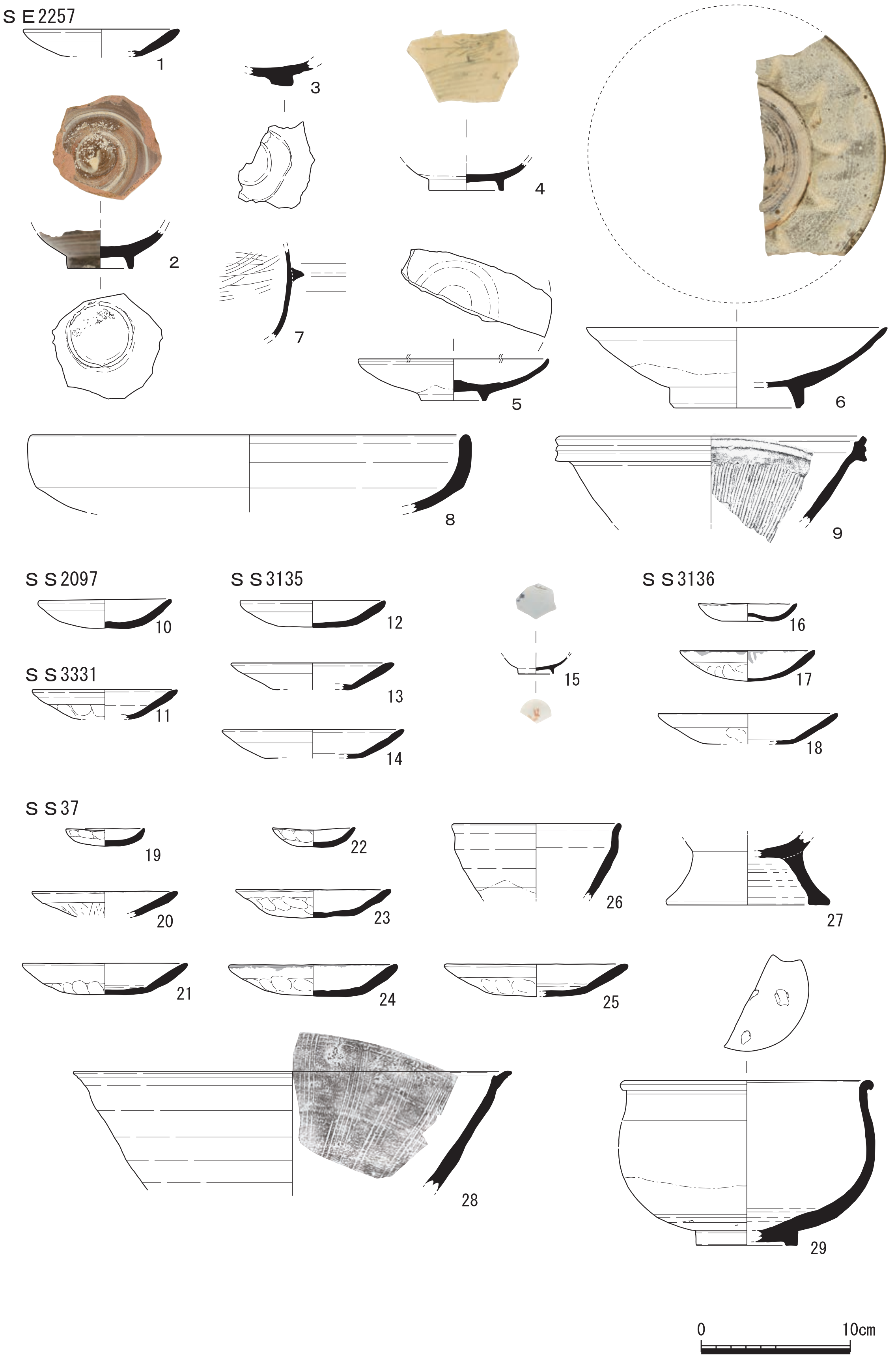
ＳＳ3239（第97図）　11は中国景徳鎮の椀である。見込みに「寿」紋を描き、畳付きに砂が付く、高台内にカンナの跳ねた痕跡が付く。12は中国景徳鎮の皿である。見込みに猿紋を描く。高台内にカンナの跳ねた痕跡が付く。

ＳＫ2044（第98図１～６）　６は中国南方系の青花の椀である。内外面に圏線が入る。

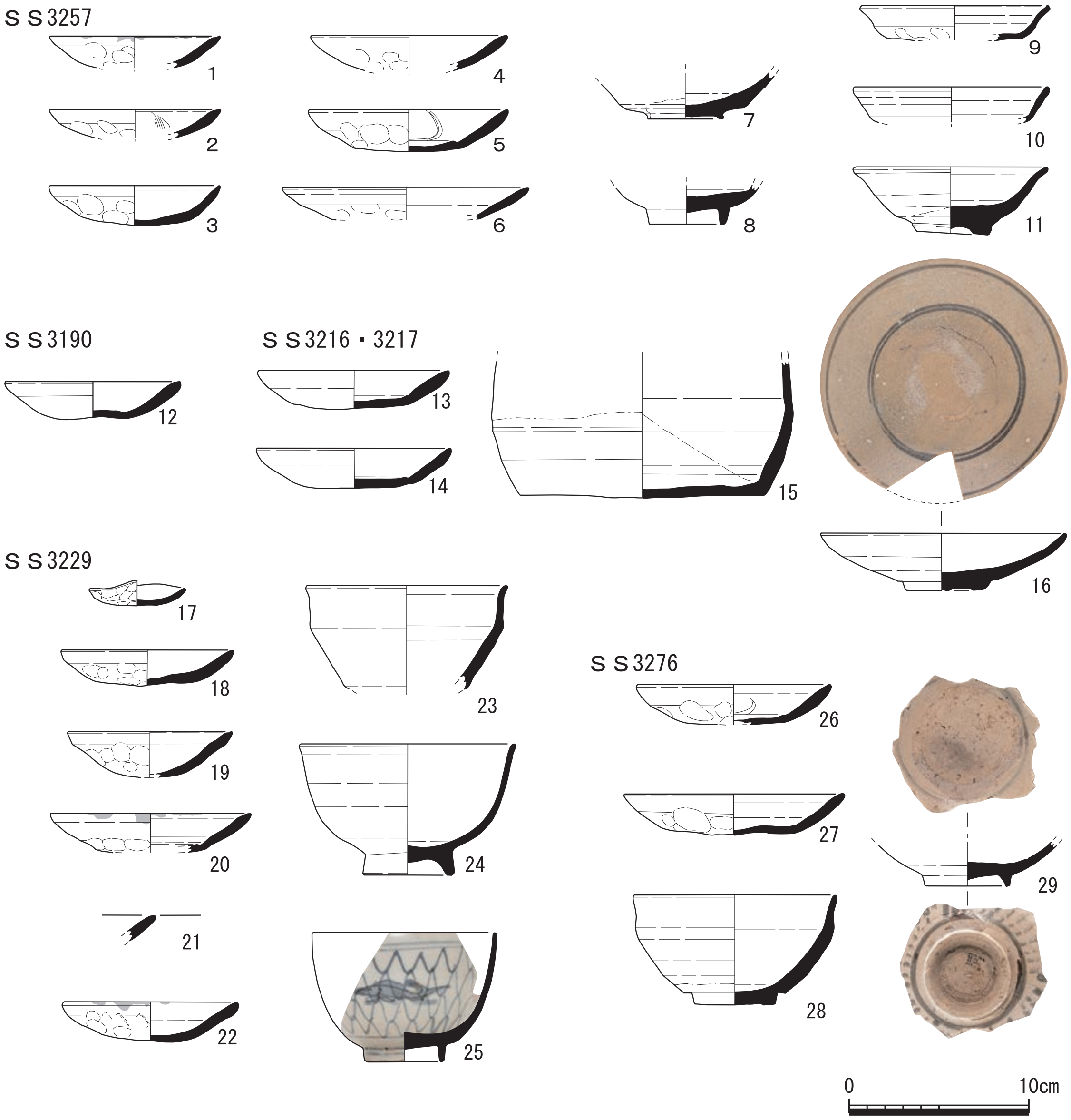
ＳＫ30（第98図７～28）　26は中国漳州窯系の皿である。

ＳＫ71（第98図29～36）　33は中国の瑠璃釉の磁器椀である。高台内と内面は透明釉を掛ける。

ＳＫ69（第99図１～34）　26は肥前陶器の鉄絵鉢である。圏線と草文を描く。27は瀬戸美濃陶



第95図　安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物７



第96図　安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物８

器の鉄絵志野の鉢である。見込みに飛鴈文を描く。底部に脚が三方向に付く。口縁の残存状況が悪いが輪花状を呈する。33は手びねりの犬形土製品である。目を穴で表現し四肢と尾は粘土をつまみ出して表現する。

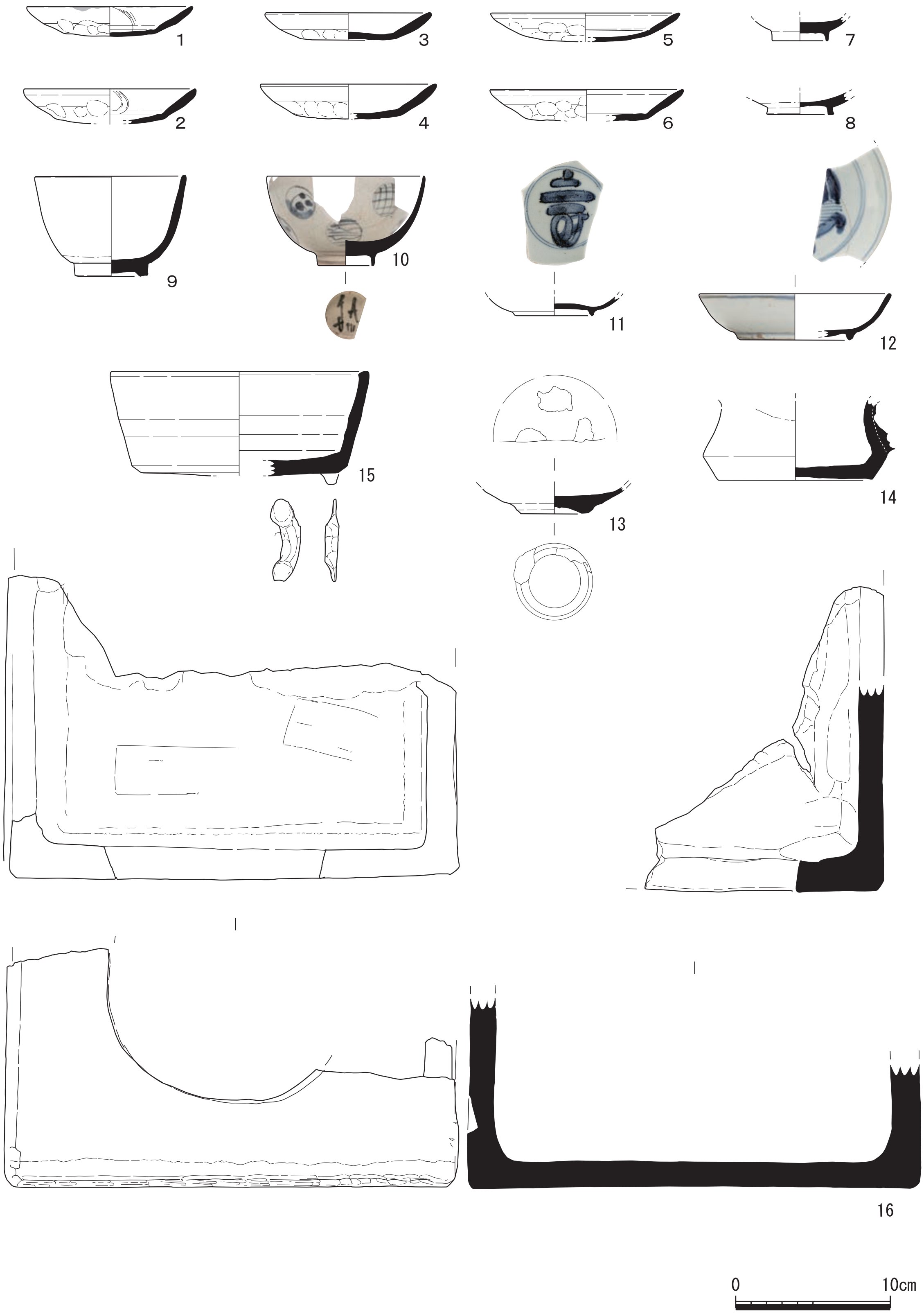
ＳＫ29（第100図１～22）　21と22は中国の白磁皿である。見込みを蛇の目釉剥ぎしている。

ＳＫ2086（第100図23～34）　33は土師器皿を加工して作成した面打である。

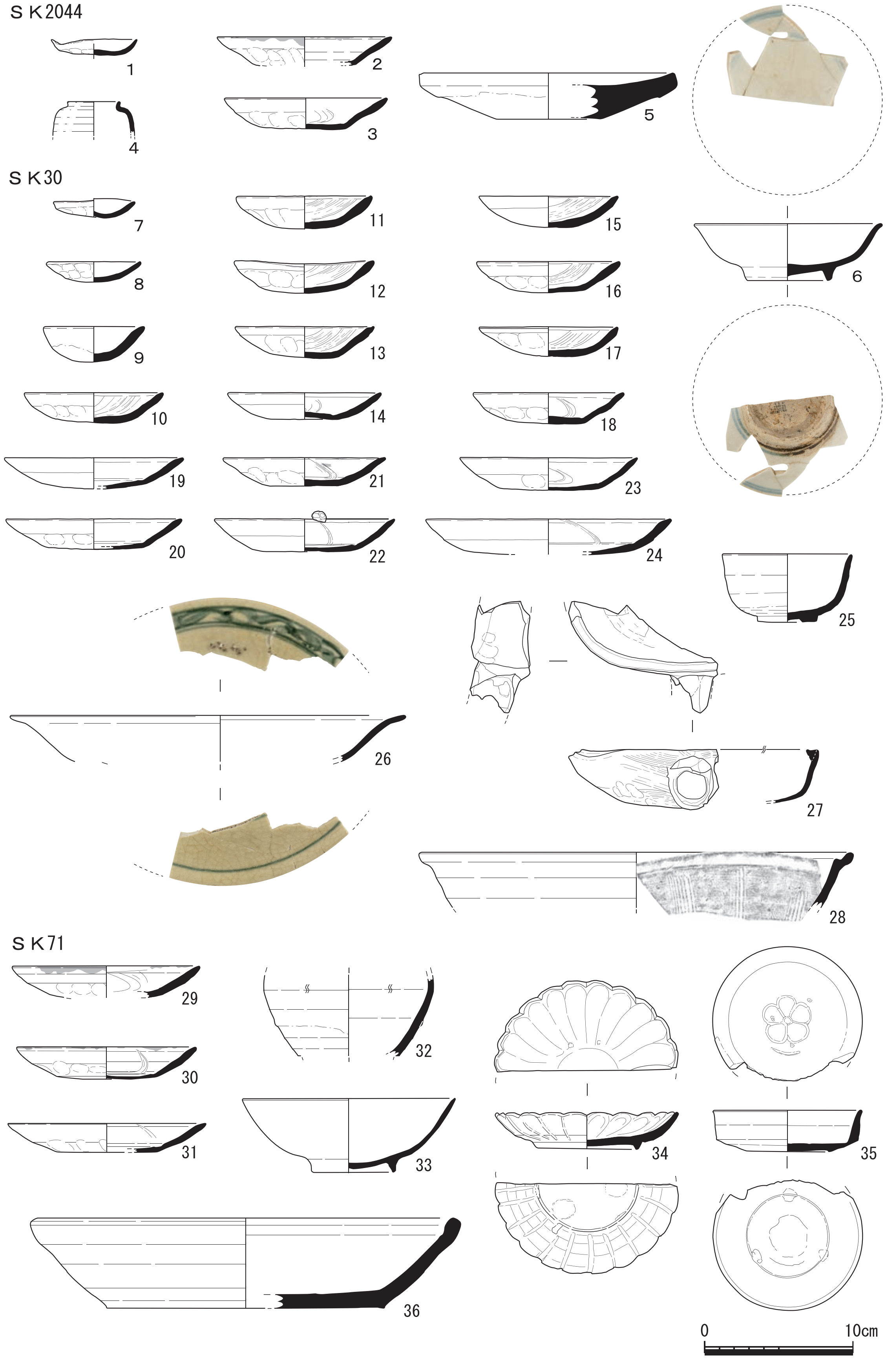
ＳＫ14（第101～102図１）　第101図22は中国磁器の青花椀である。見込みに草花文を描く。饅頭心を呈する。23は中国磁器の青花皿である。見込みに「寿」紋を描く。24は中国景徳鎮の輪花の白磁皿である。32～35は瓦灯である。同一製品の可能性があるが残存状況が悪く接点を有しない。

ＳＫ21（第102図２～24）　２は肥前磁器の赤絵の蓋である。ＳＫ21に混入した上層の遺物と考えられる。19はベトナム陶器の壺の一部である。肩部にあたると考えられ、外面に沈線を施す。

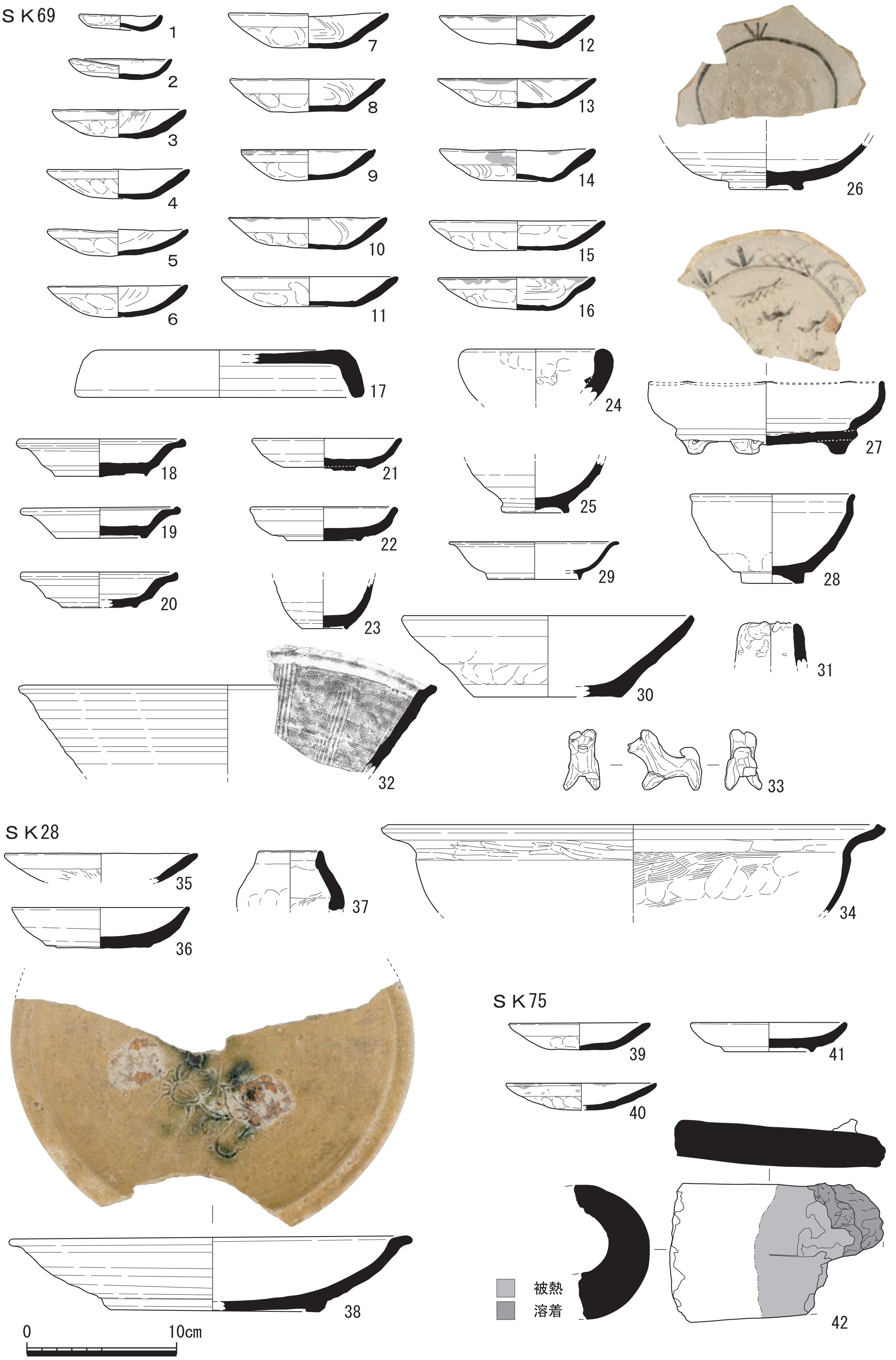
ＳＳ3239



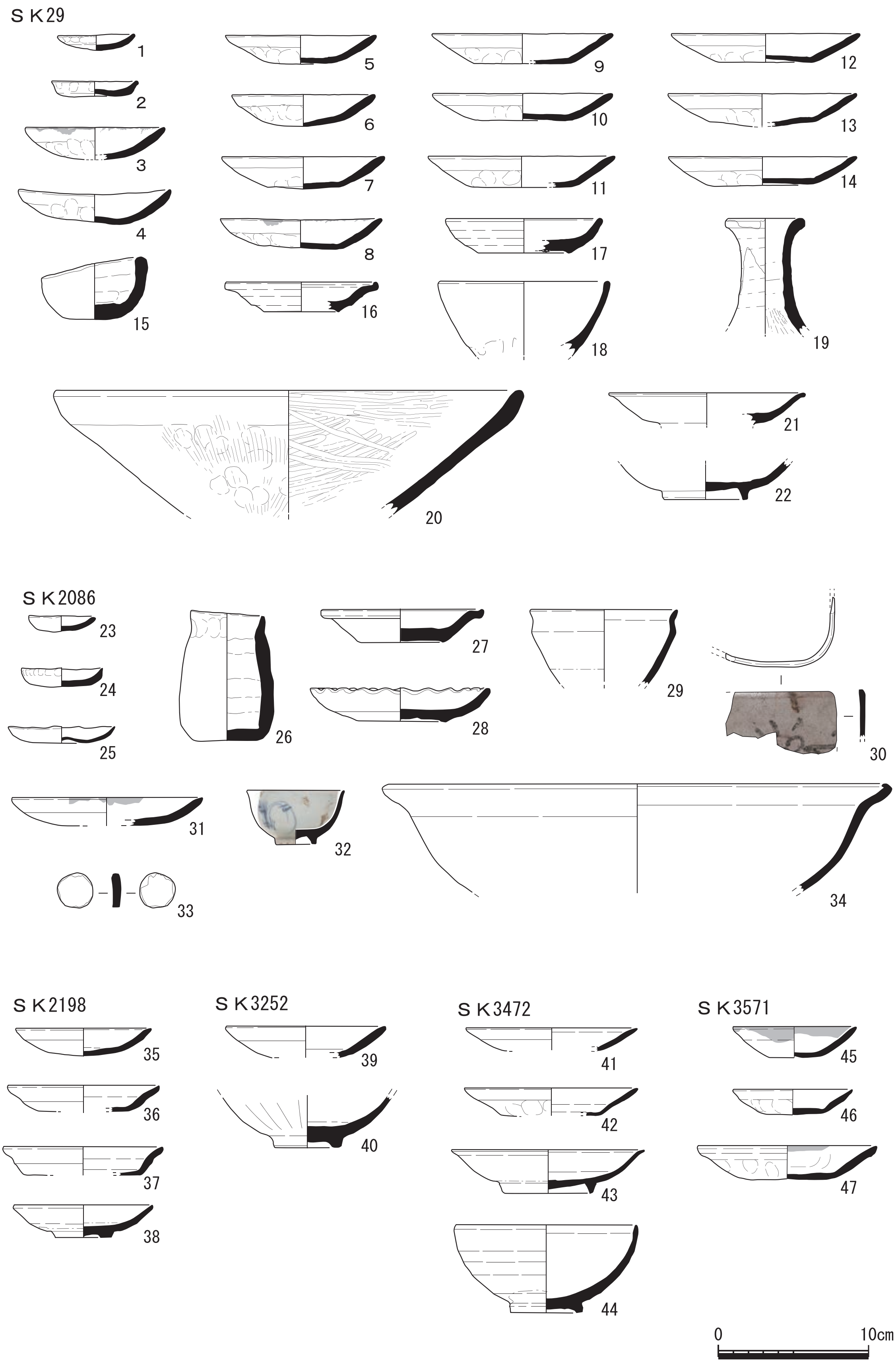
第97図　安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物９



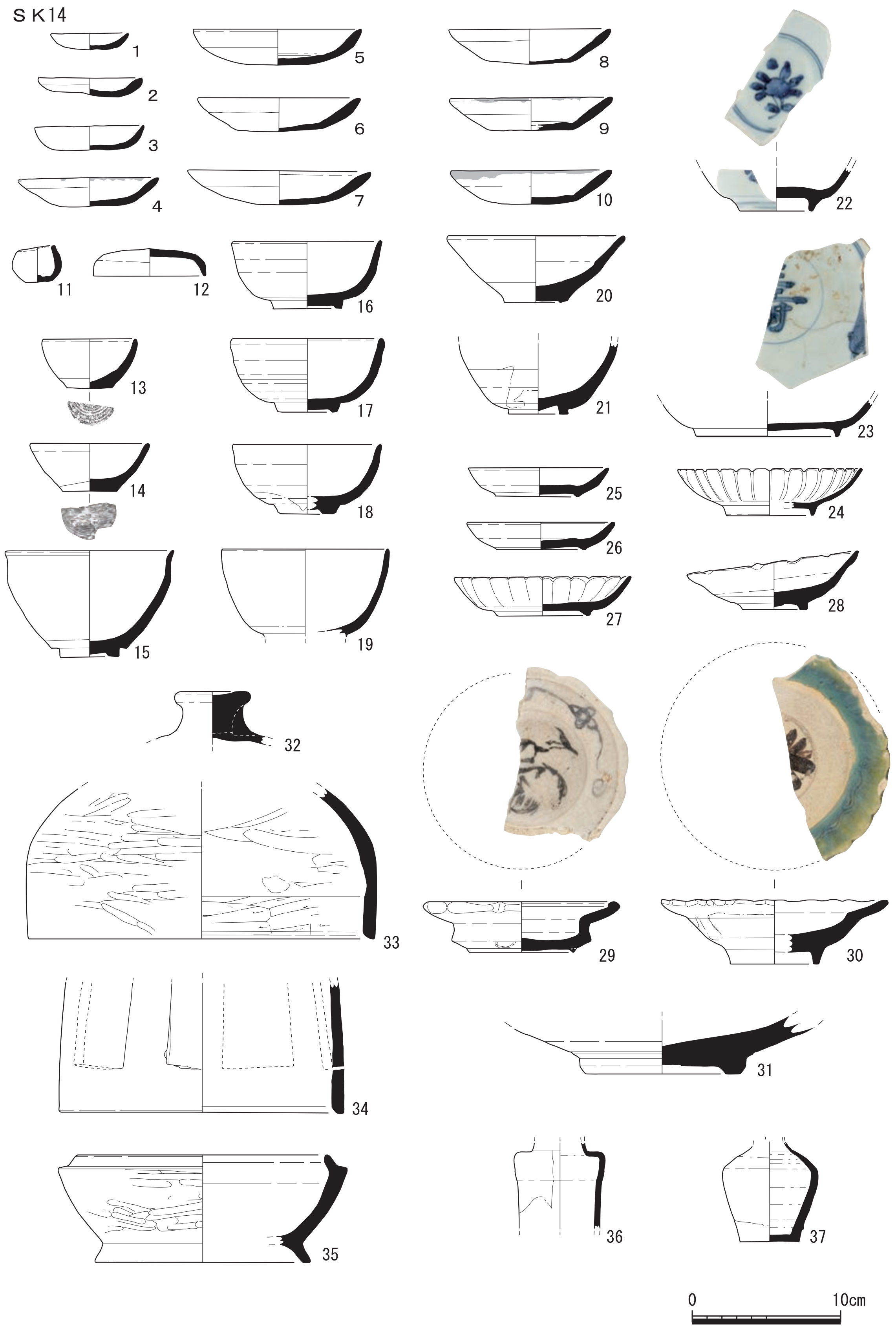
第98図　安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物10



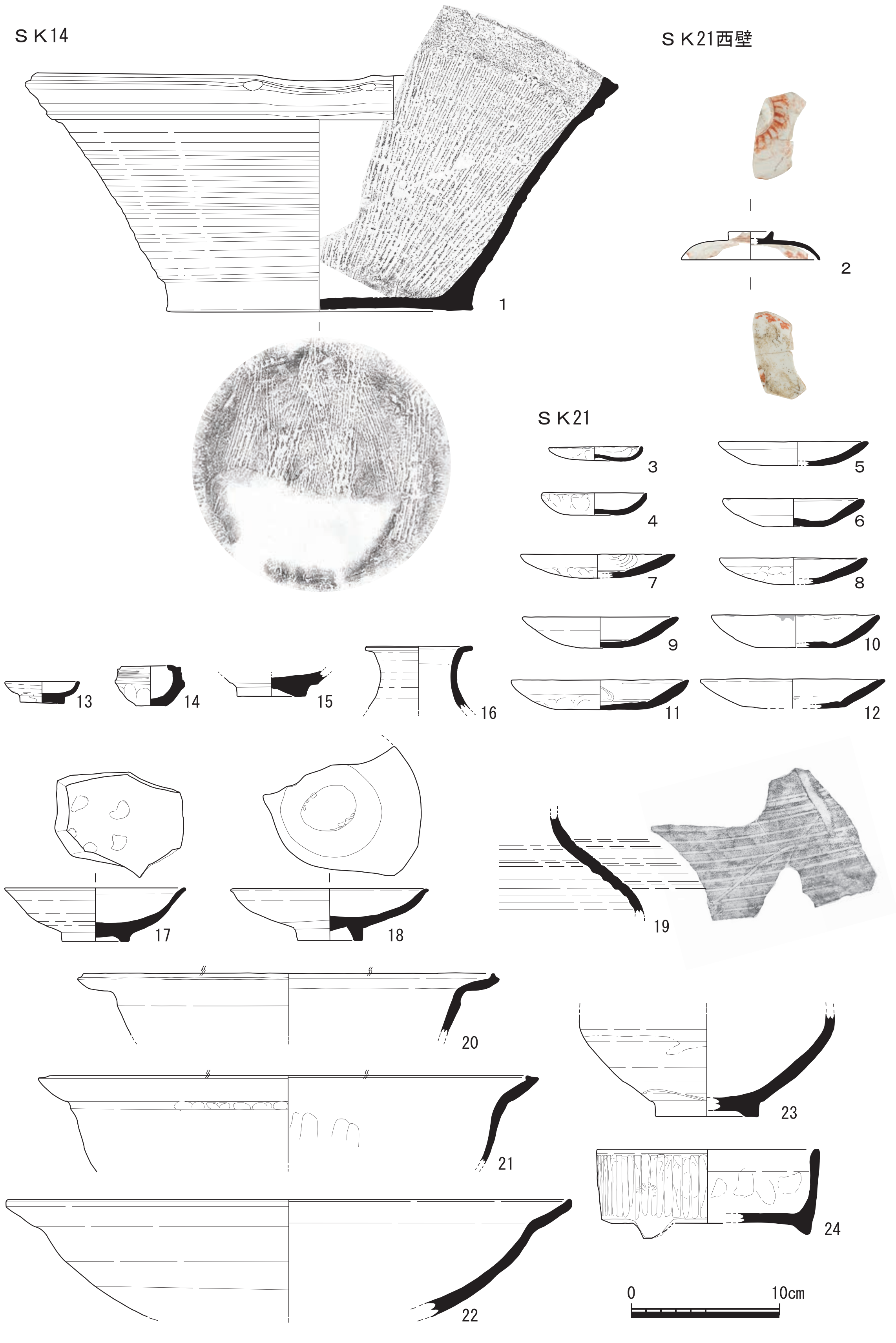
第99図　安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物11



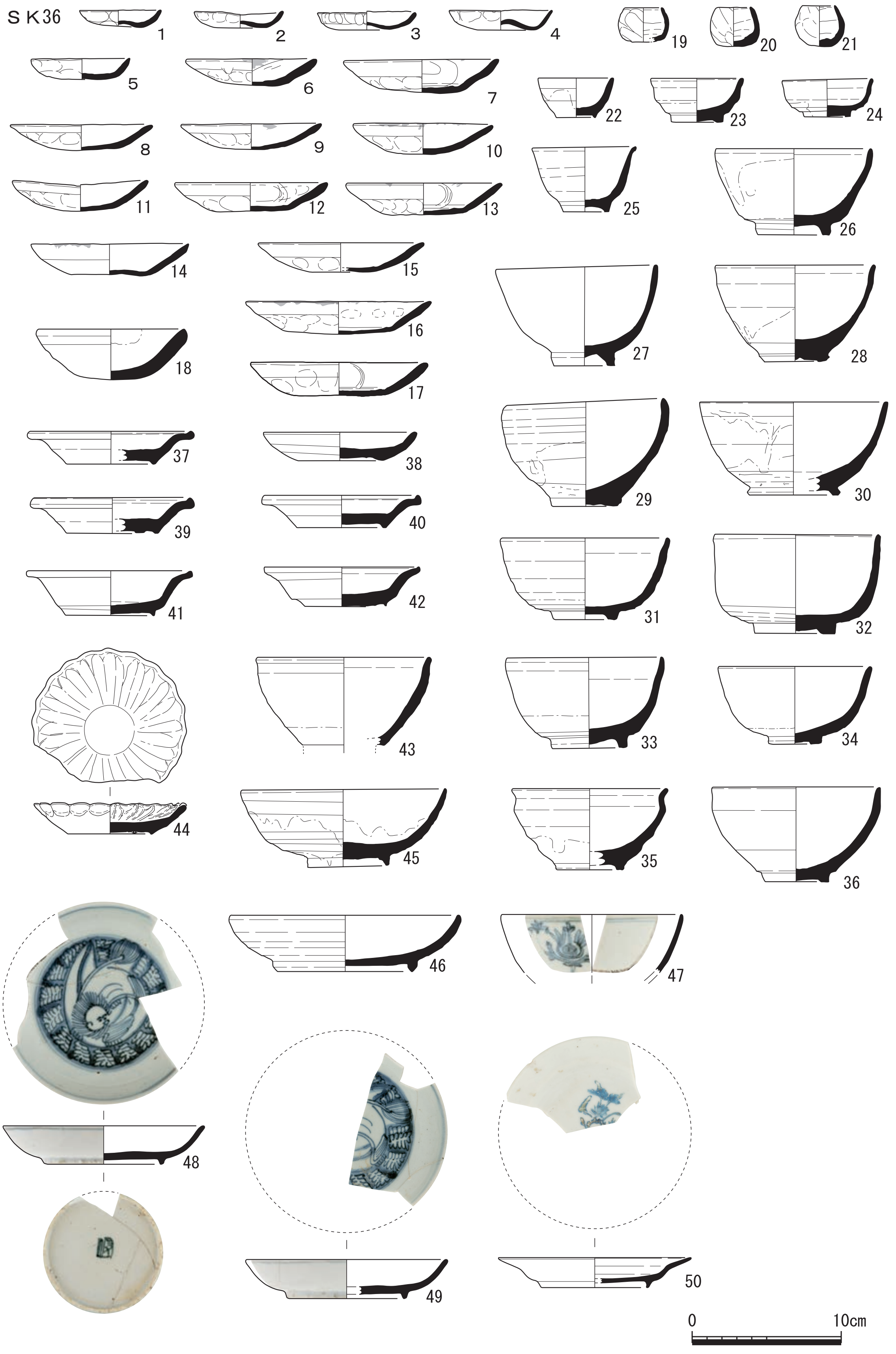
第100図　安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物12



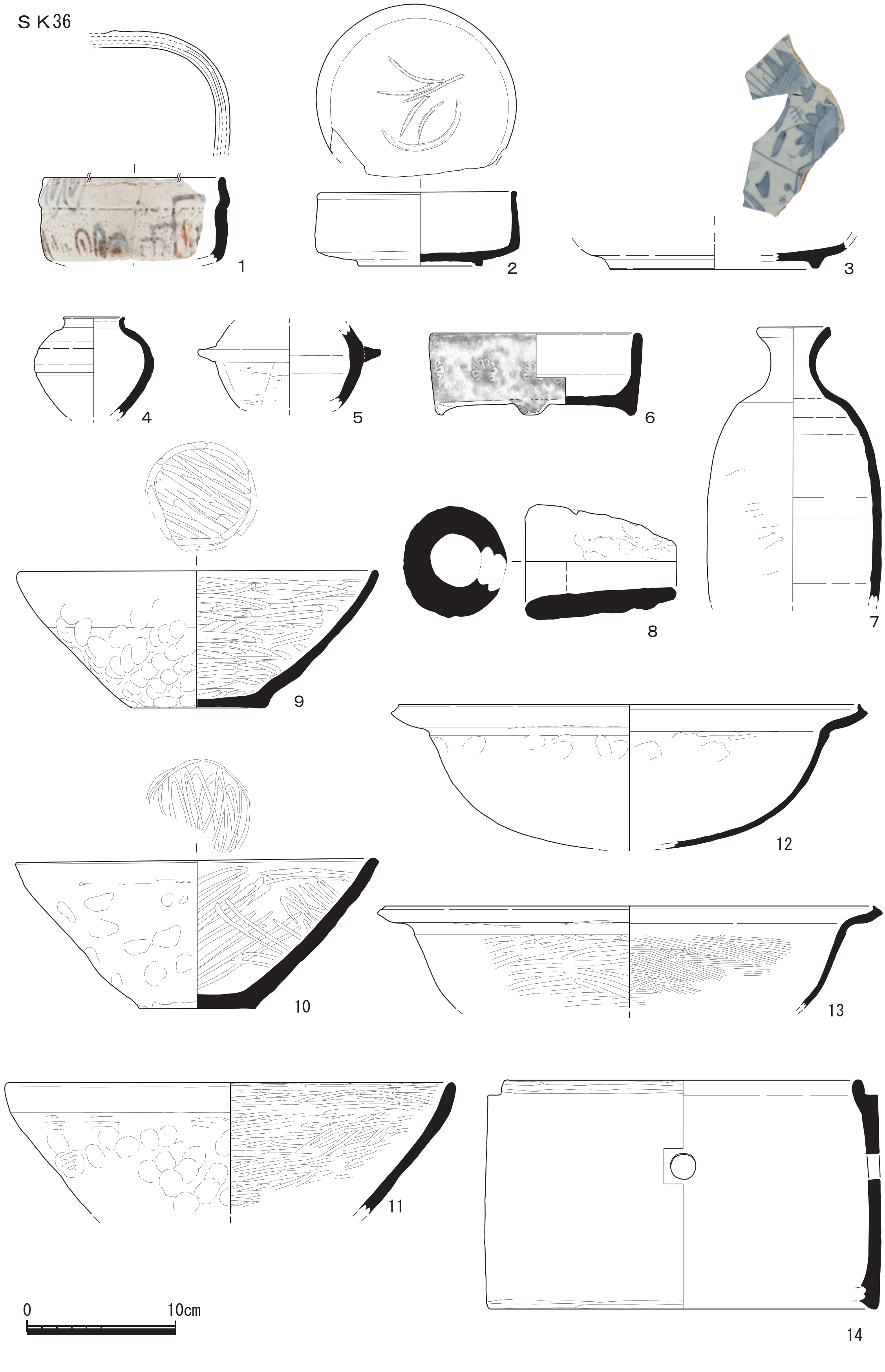
第101図　安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物13



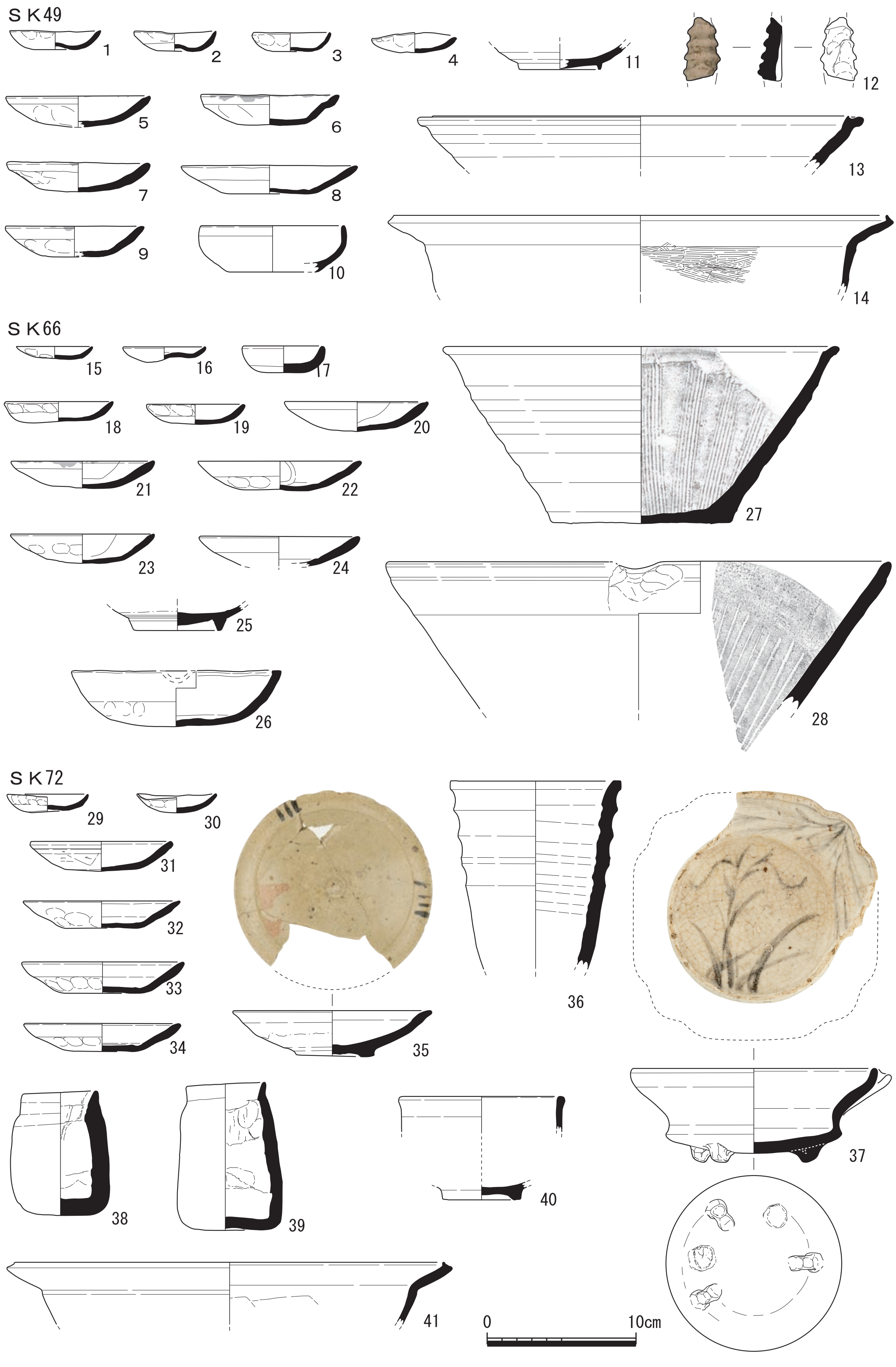
第102図　安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物14



第103図　安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物15



第104図　安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物16



第105図　安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物17

ＳＫ36（第103・104図）　第103図50は中国磁器の上絵皿である。釉上に蓮を描く。

ＳＫ49（第105図１～14）　10はロクロ成形の土師質の鉢である。12は土製品のミニチュアで「塔」を表現する。18世紀半ば以降の遺物であり、混入物である。

ＳＫ72（第105図29～41）　37は瀬戸美濃陶器の鉄絵志野の鉢である。方形である四隅にへこみを加えて装飾性を持たせている。見込みと口縁部に草文を描く。底部に三点脚を付け、また重ね焼きの痕跡が確認できる。40は軟質施釉陶器の椀である。口縁部と底部が残存するが接点はない。

ＳＫ79（第106図１～17）　12は中国磁器の青花皿である。見込みに「寿」字を描き、口縁部に四方襷紋を描く。14は中国漳州窯系の青花大皿である。口縁に波紋と窓に草花を描く。16は九州系の壺である。口縁に貝目跡が付く。

ＳＫ3186（第106図18・19）　18・19は肥前系の陶器皿である。型成形で五弁の花を表現する。畳付きに貝目跡が付く。

ＳＫ3241（第106図20・21）　20は肥前系の陶器皿である。型成形で五弁の花を表現する。畳付きに貝目跡が付く。21は備前の茶入れである。

ＳＫ2078（第106図22・23）　23は中国の瑠璃釉の磁器椀である。高台内と内面は透明釉を掛ける。

ＳＫ3440（第106図24）　24は軟質施釉陶器の椀である。見込みに鉄釉を掛け、外面に透明釉を掛ける。

ＳＫ2047（第107図１～17）　13は朝鮮陶器の底部である。見込みに９点と畳付き８点の砂目痕が残存する。15は中国陶器で褐釉の壺の肩部である。外面に圏線が入る。

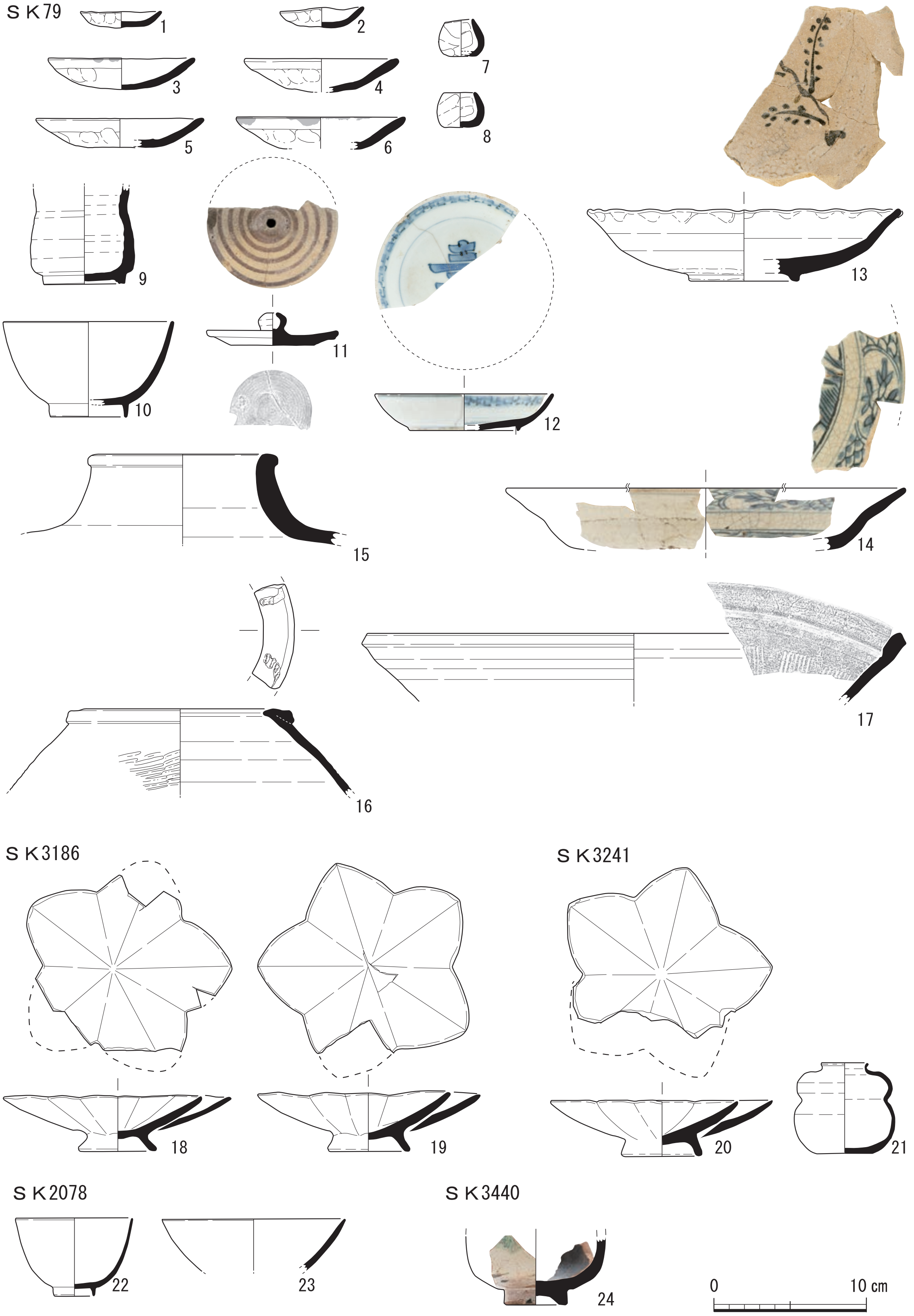
ＳＫ3324（第107図18）　18は中国陶器華南三彩の鉢である。口縁端部に輪花の細工を施している。

ＳＫ3427（第107図19・20）　19は肥前陶器の鉄絵鉢である。見込みに草花文を描き、口縁にも文様を施す。20は瀬戸美濃陶器の織部鉢である。型成形で体部に二点脚が残存するが、本来は三点あった。

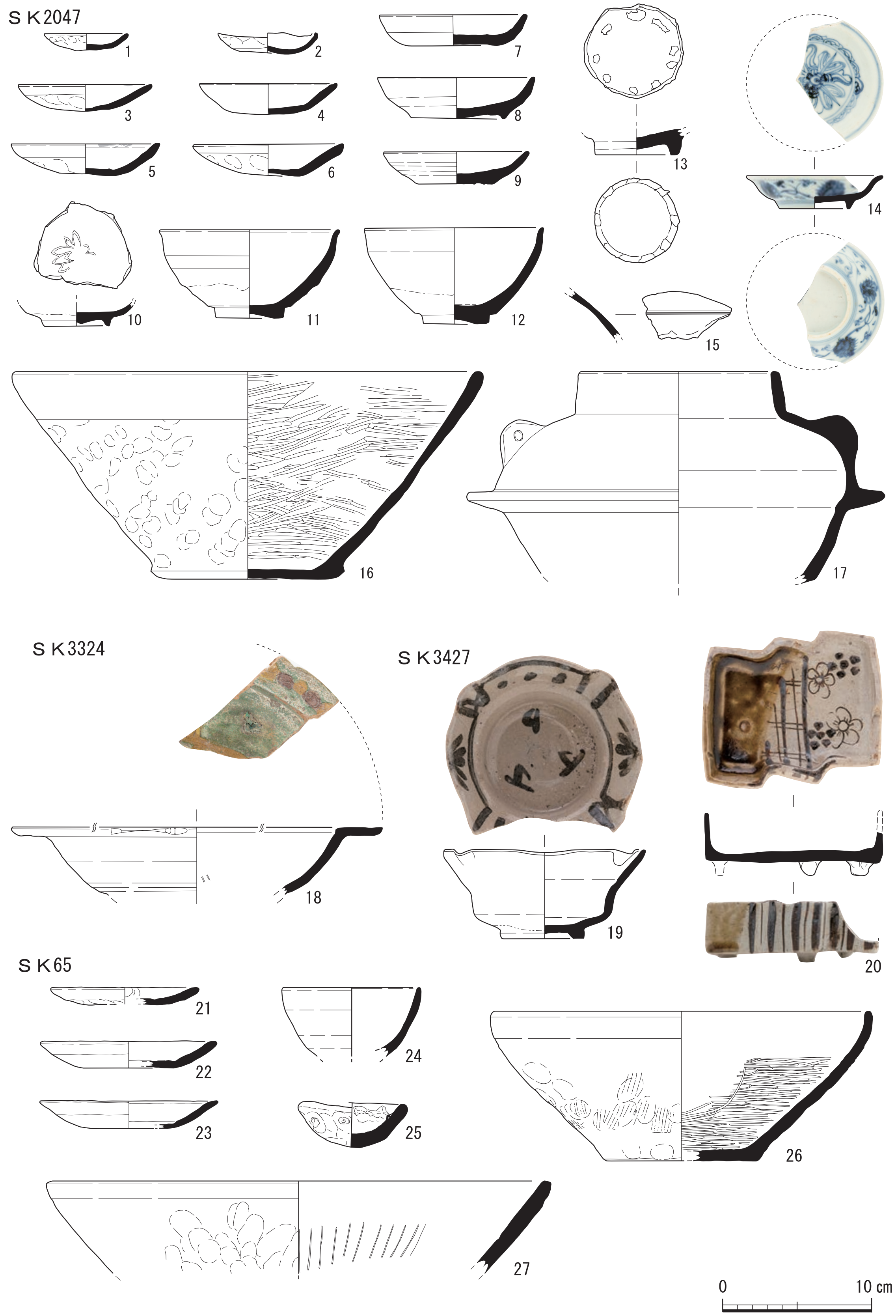
ＳＫ236（第108～109図１・２）　第108図30・31は中国白磁の皿である。30は口縁端部を輪花に加工し、31は菊花皿である。32は中国磁器の青花皿で見込みに鳥獣を描く。畳付きに砂が付着する。33は中国磁器の青花皿で見込みに「蛟」を描き口縁部に四方襷を入れる。34は中国磁器の青花椀で見込みに「蛟」を描く。35は中国のいわゆる龍泉窯系の青磁の皿で、後述する36とともに下層から巻き上げられた遺物である。36は緑釉陶器の椀で見込みに圏線が入る。

ＳＫ3167（第109図３～15）　５は肥前磁器の上絵の椀で花文を描く。10は肥前磁器の皿でいわゆる初期伊万里である。12・13は灰釉陶器の椀、14は灰釉陶器の鉢でＳＫ3167が掘られる際に削平された遺構の遺物であると考えられる。

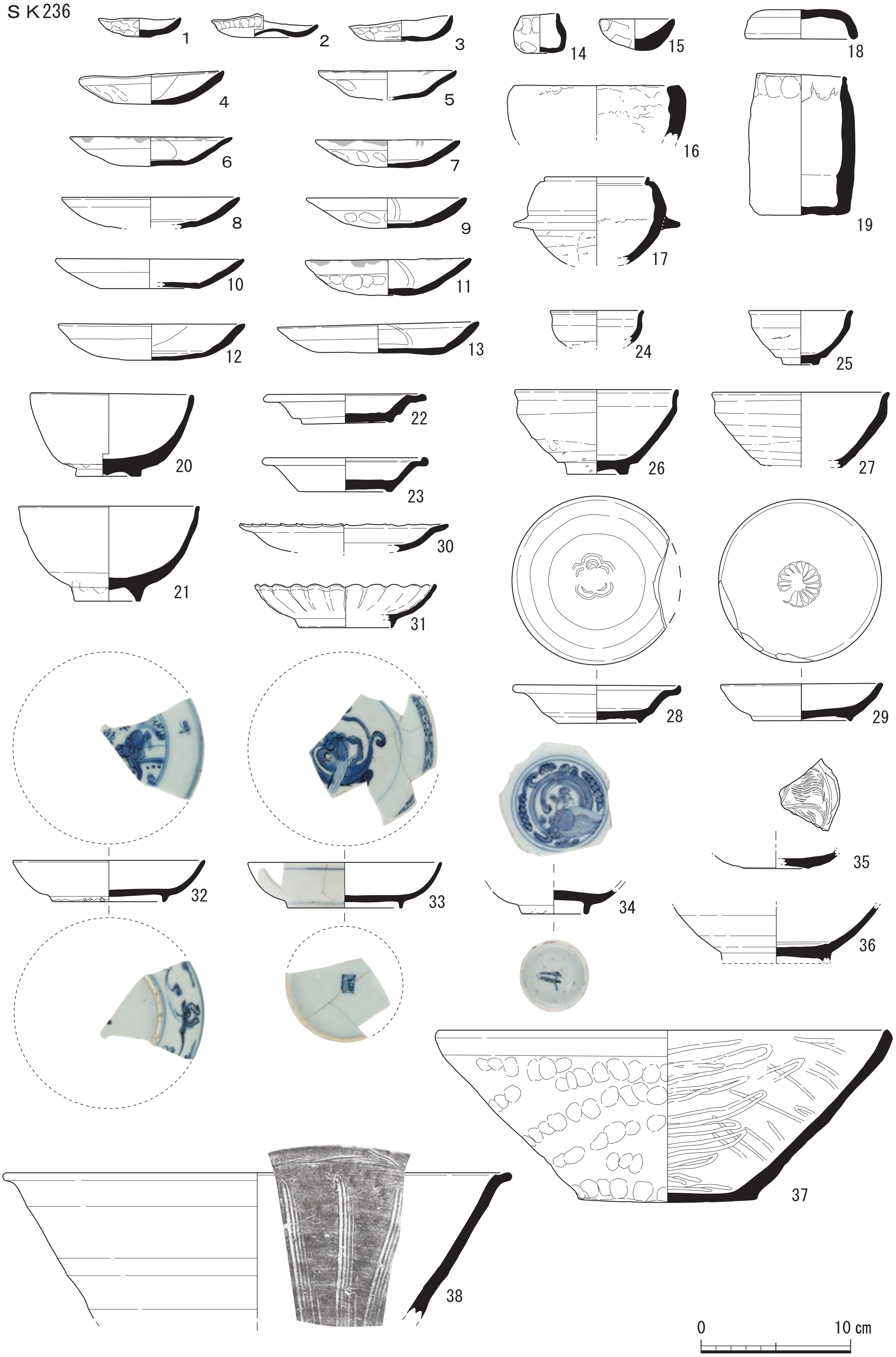
ＳＫ3230（第110・111図）　第110図26は瀬戸美濃陶器の鉄絵志野の小壺である。ロクロ成形で底部に糸切り痕を有する。鉄釉で縦線を入れる。28は中国の白磁小杯である。口縁端部が端反り、白濁色の釉薬をかける。36は中国磁器の青花椀である。見込みに「寿」を、円弧を描くように配



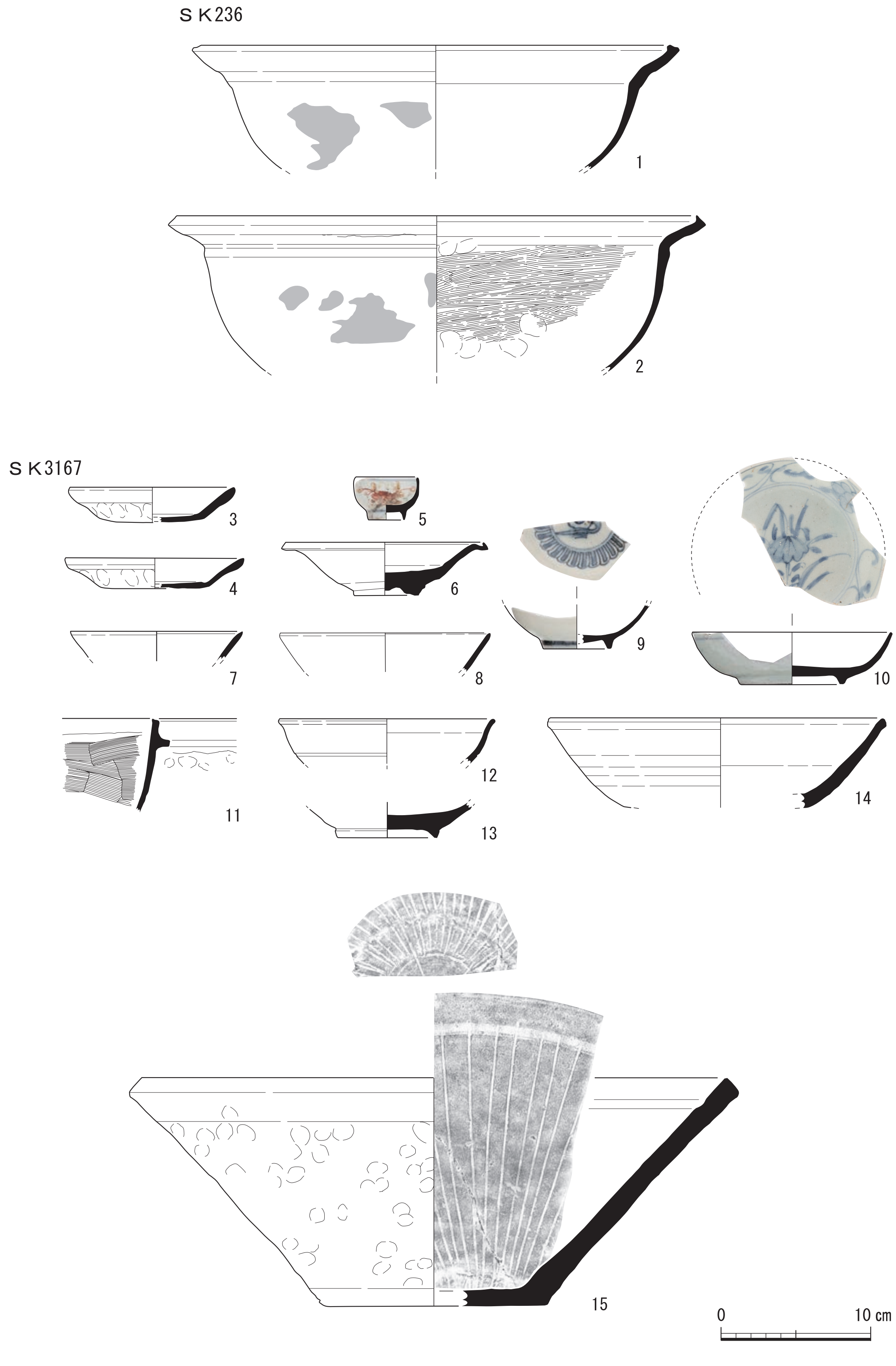
第106図　安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物18



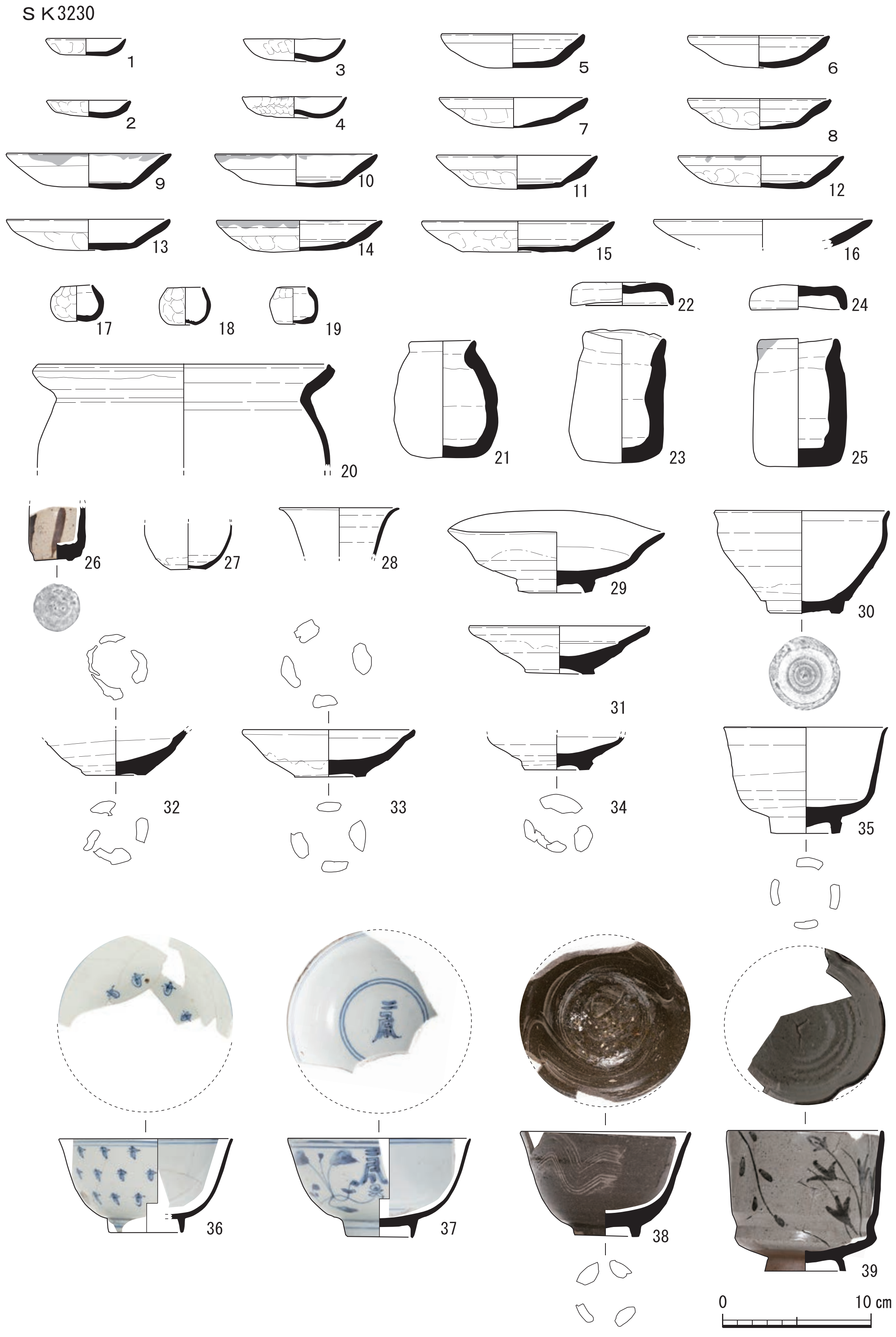
第107図　安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物19



第108図　安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物20



第109図　安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物21

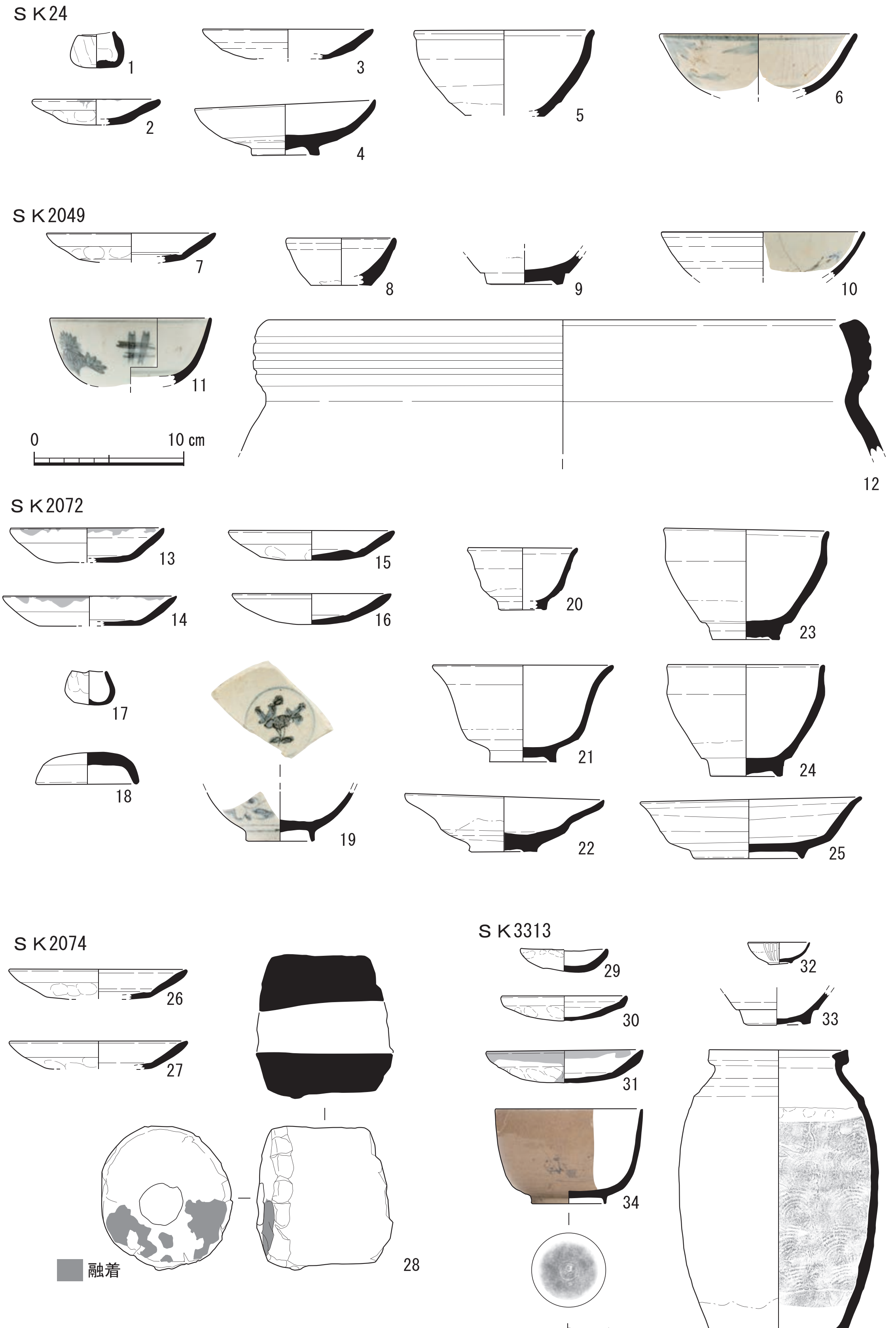


第110図　安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物22

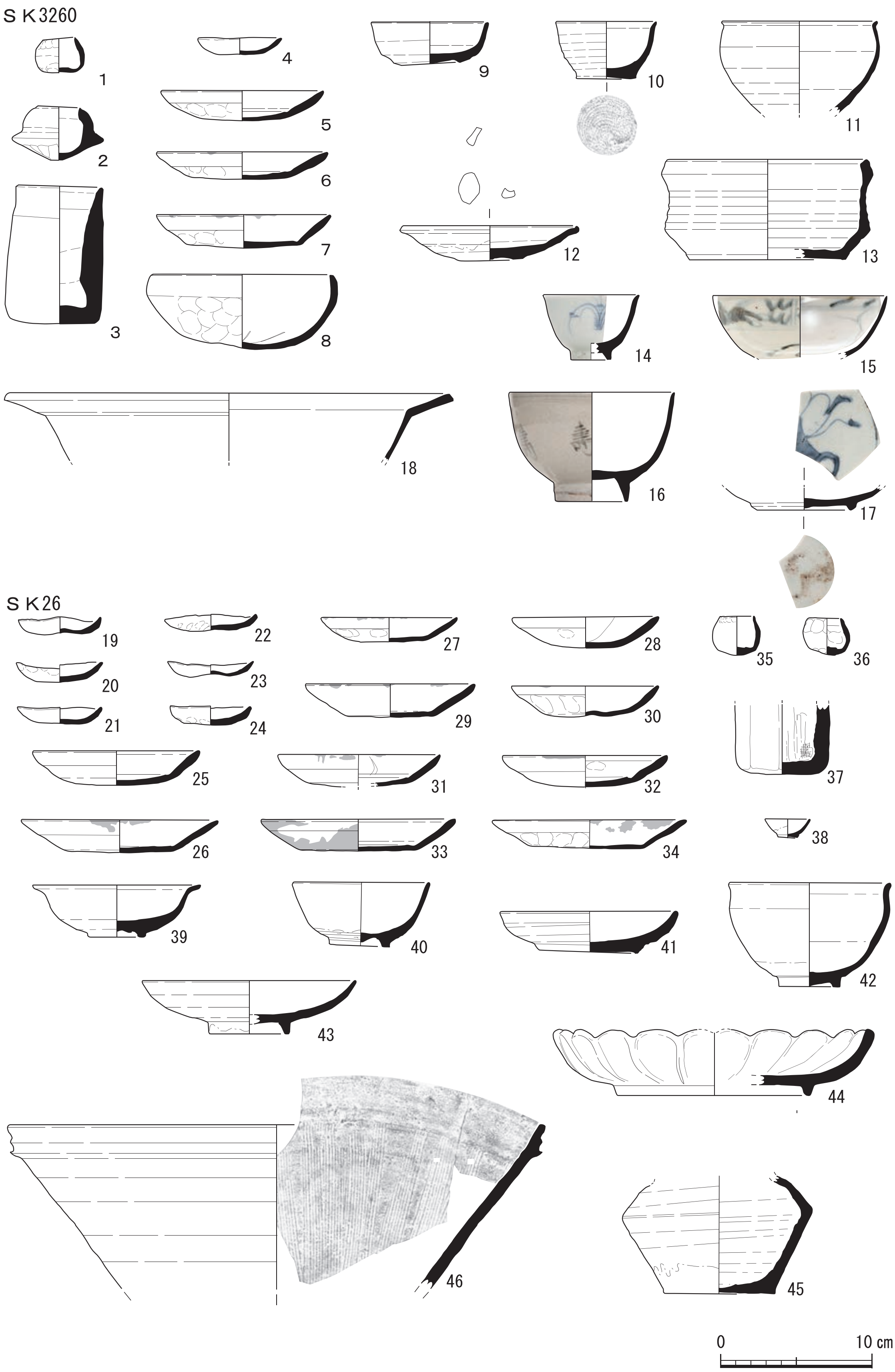
第111図　安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物23

第112図　安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物24

第113図　安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物25



第114図　安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物26



第115図　安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物27

置し､外面に市松模様に「寿」を描く。37は中国磁器の青花椀である。見込みに簡略化された「寿」字を書き、外面に草柄と「寿」字を配置する。39は肥前陶器の鉄絵椀である。外面に蔓文と草花文を描く。第111図１は中国磁器の青花小瓶で体部に花文を描く。ロクロ成形である。４は中国磁器の青花鉢で口縁端部を輪花にしている。内外面に芙蓉手を描く。６は中国磁器の青花馬上杯である。体部に「大明成化年製」脚部に吉祥文、内面に縦笛を演奏する文人、外面に僧侶と須弥壇、蓮華を描く。９は中国磁器の青花皿で見込みになづな文を描く。高台内にカンナの跳ねた跡が残る。12は中国白磁の脚付合子である。脚部にスカシと切彫を施す。13は中国白磁の皿で、内外面に文様がうすく浮かび上がるようにロクロで成形した後に型を用いて文様を入れている。15は中国の漳州窯系の赤絵の大皿である。

ＳＫ3329（第112図12～17）　14は中国の鉄釉椀である。いわゆる天目椀と称される椀で被熱しており、釉薬が一部破損している。

ＳＫ3407（第112図23～29）　26は中国磁器の青花皿である。内面に水辺と水鳥、蓮を描く。畳付きに砂が付着する。27は中国磁器の青花皿である。内面に水辺と水鳥、蓮を描く。26とは別個体である。畳付きに砂が付着する。29は瀬戸美濃陶器の鉄絵志野の鉢である。竹垣に花を描く。底部に脚が付く。

ＳＫ3226（第113図２）　２は波佐見磁器の鉢である。内面に花弁を表現するケズリ跡を有し、口縁端部をケズリ込むことで輪花を作出する。

ＳＫ3183（第113図３～５）　３は肥前磁器の皿でいわゆる初期伊万里である。見込みに荒磯文を描き、体部に菊花文の彫刻を施す。畳付きに砂が付着する。

ＳＫ3199（第113図６～26）　19は中国磁器の釉裏紅の椀である。見込みの草花文に花に紅を用い、草に呉須を挿している。22は中国磁器の青花皿である。猿紋を見込みに描き高台内にカンナの跳ねた跡が残る。25は肥前磁器の皿である。見込みに五弁花のこんにゃく印判が入る雪花文の皿で、上層からの混入と考えられる。

ＳＫ3313（第114図29～36）　34は肥前京焼風陶器の椀である。高台内の「清」字の刻印を押している。外面に山水文を描く。36は肥前陶器の壺で内面に工具によりタタキ目が残存する。

ＳＫ3260（第115図１～17）　８は土師質の鉢である。見込みに一本線の摺り目が三条入る。手づくね成形で口縁端部をナデて整えている。15は中国磁器の青花椀である。外面の口縁部に波と馬を描く。

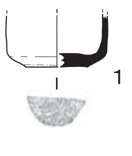
ＳＫ2087（第116図３）　３は中国の白磁椀である。底部に墨書が残存する。

ＳＫ3471（第116図４・５）　４・５はともに朝鮮陶器の椀で同一個体と考えられるが接点がない。貫入が多く入る。

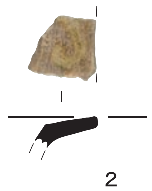
ＳＫ3246（第116図６）　６はベトナム陶器の壺である。

ＳＫ3292（第116図７）　７は軟質施釉陶器の椀である。

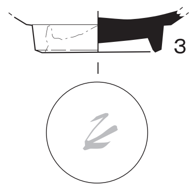
ＳＫ15



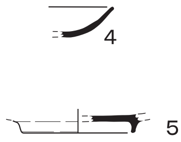
ＳＫ2073



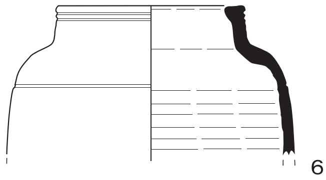
ＳＫ2087



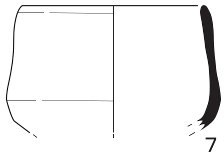
ＳＫ3471



ＳＫ3246

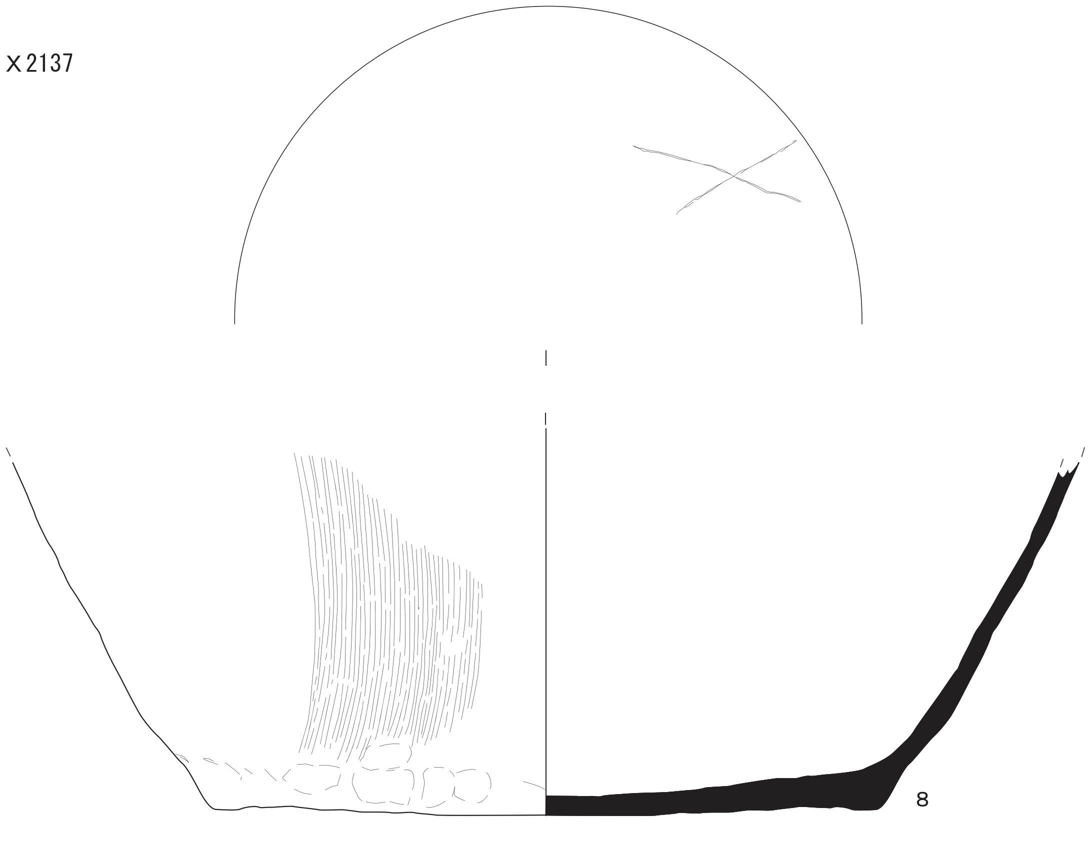


ＳＫ3292



0　10 ㎝

ＳＸ2137



0　10cm

第116図　安土桃山時代・江戸時代前期の出土遺物28

（４）江戸時代後期・幕末の遺物

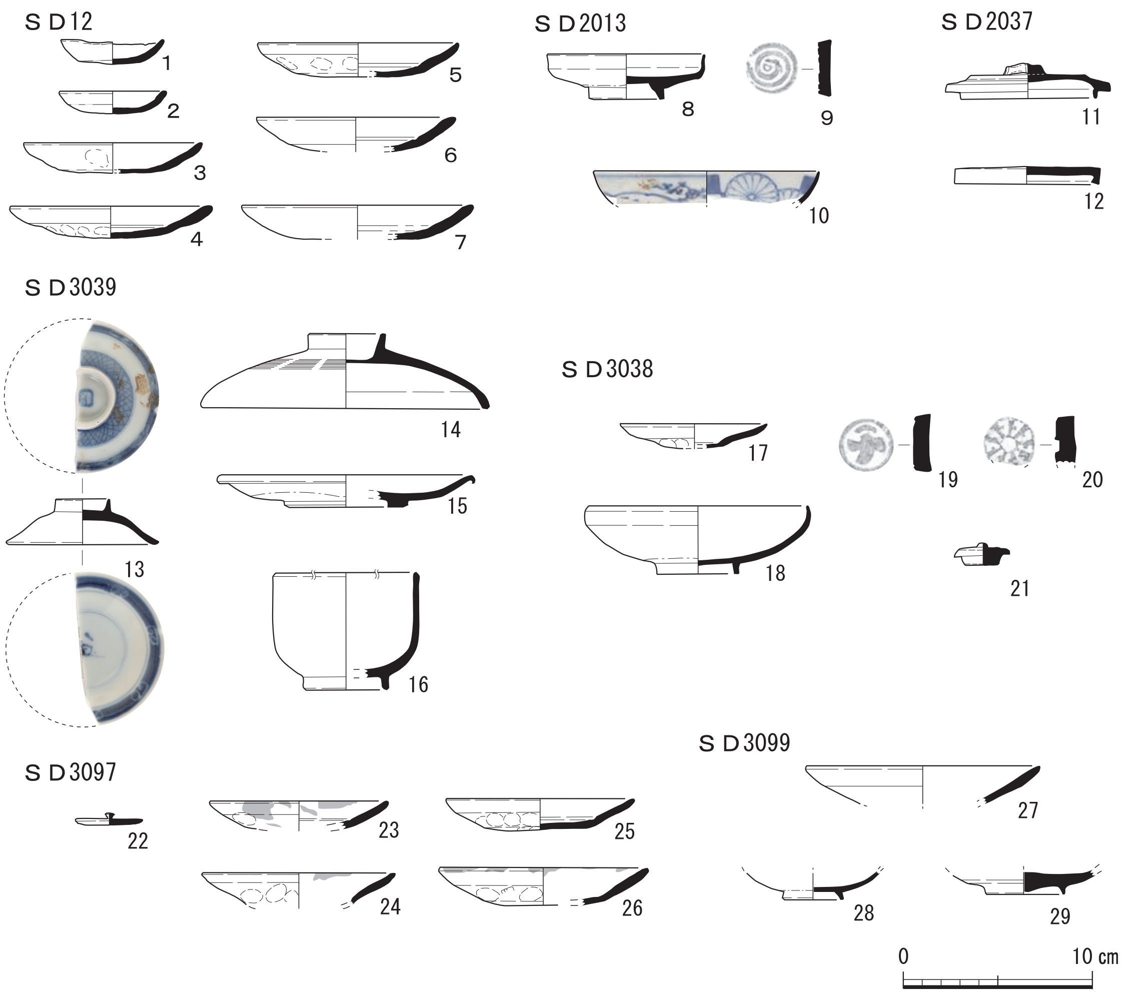
ＳＤ2013（第117図８～10 ）　10は肥前磁器の皿である。菊御紋付の染付で、見込みに市松柄が入る。

ＳＤ2020（第118図１～23）　20は京・信楽系の土瓶である。刷毛目を施し、その上から梅花を描く。

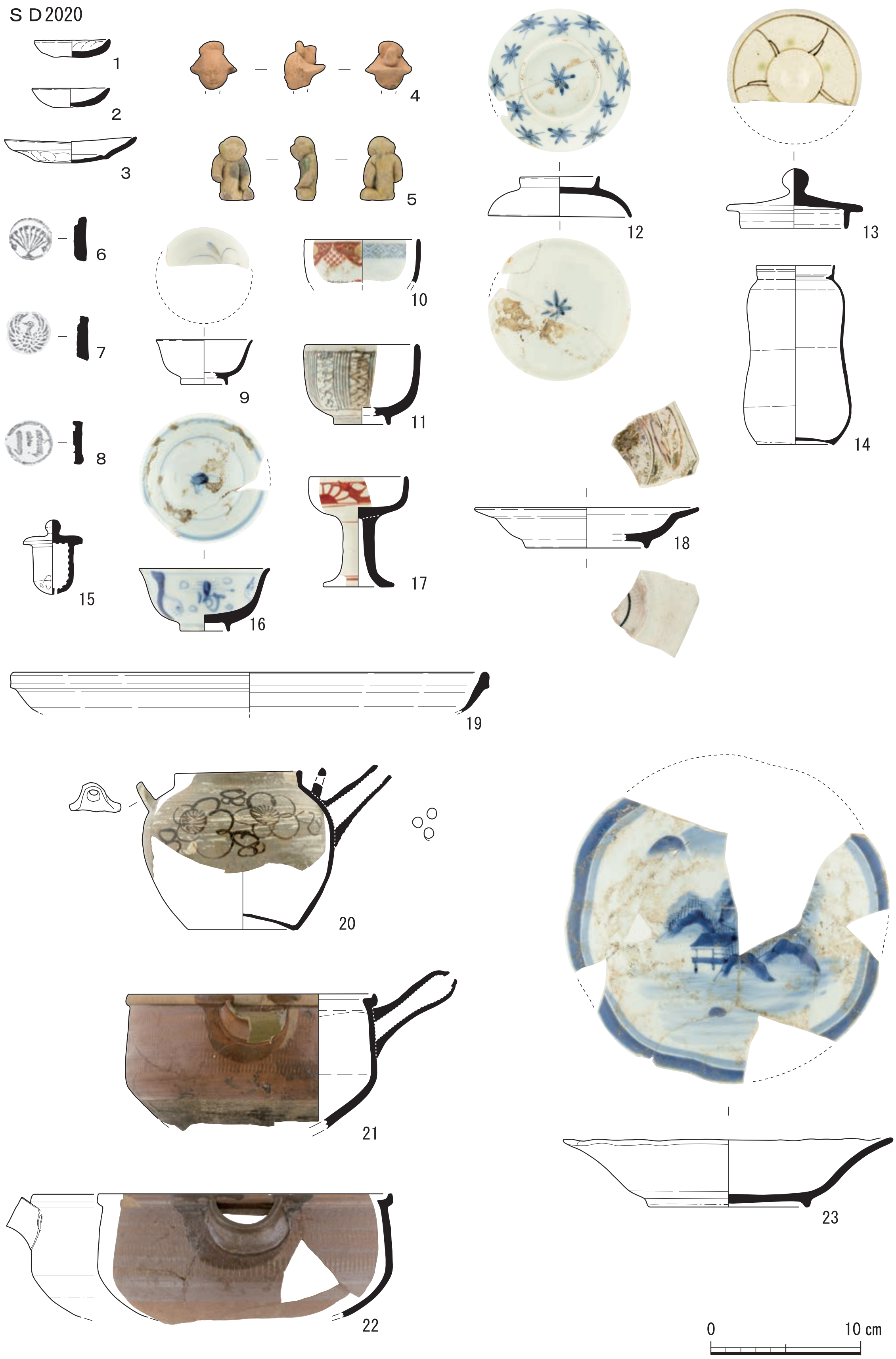
ＳＥ2223（第119図１～４）　４は備前の花入れである。板作りである。表側に蝉の表現が型で表される。

ＳＫ3247（第119図22～27）　28は土製品の仏像である。像は前後２枚の型からなる。台座は別付けである。全面に透明釉が施される。27は中国磁器の青花椀である。外面に唐子を描く。

ＳＥ3132（第120図１～16）　６は京焼の椀である。野草を描き、花に呉須、葉茎に鉄を用いて描き分ける。７は京焼の椀である。上絵付でタコ唐草を描く。10は瀬戸美濃陶器の片口鉢である。12は京焼の水滴で茶引き童子の形をなしている。二枚型成形で沓や茶臼の把手に鉄釉をかけ、全体に透明釉を掛けている。14は京・信楽系陶器の土瓶で、ぶどう蔓を描く。体部に陶器焼成時に別個体と融着した痕跡が付く。



第117図　江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物１

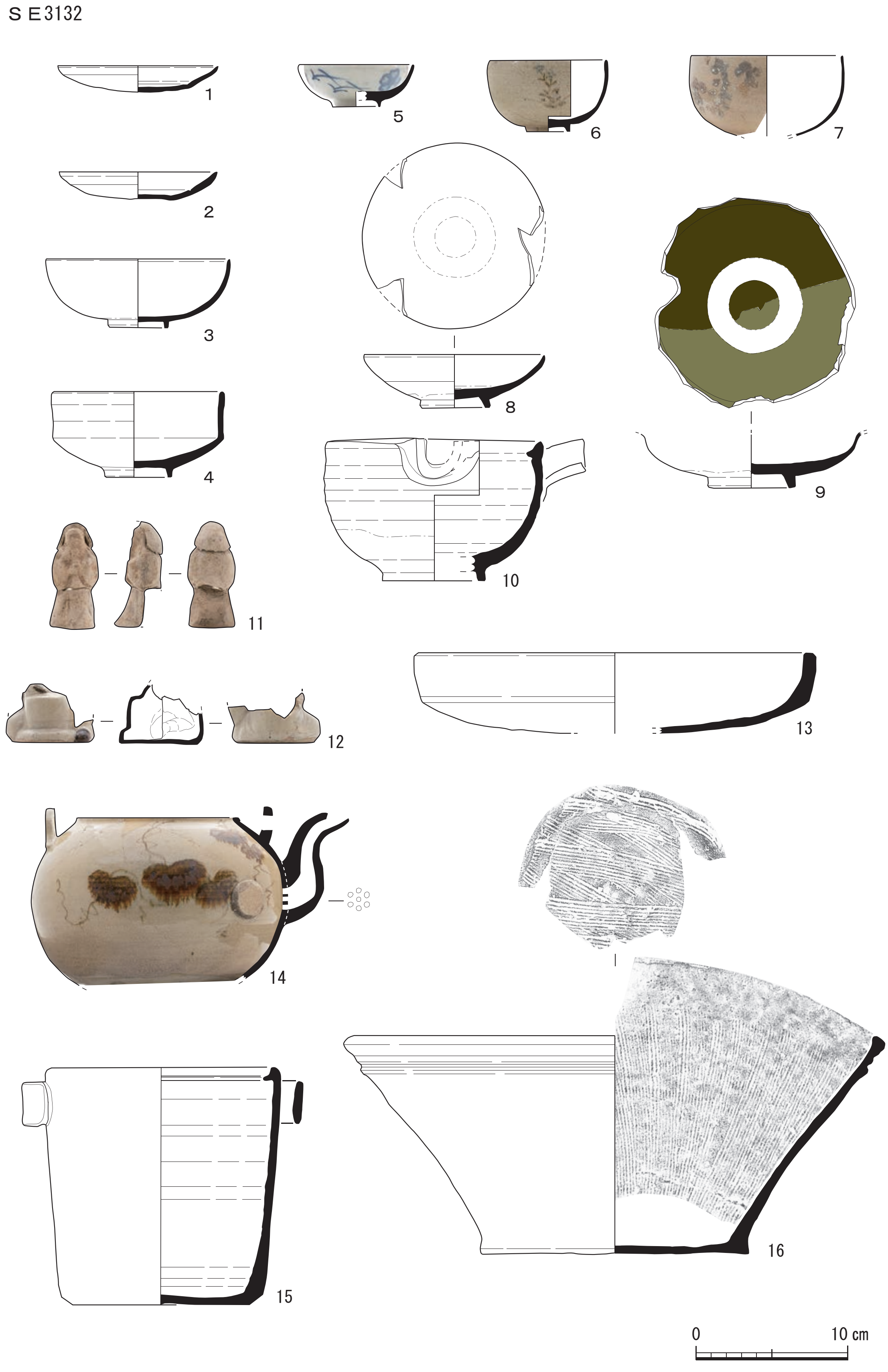


第118図　江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物２

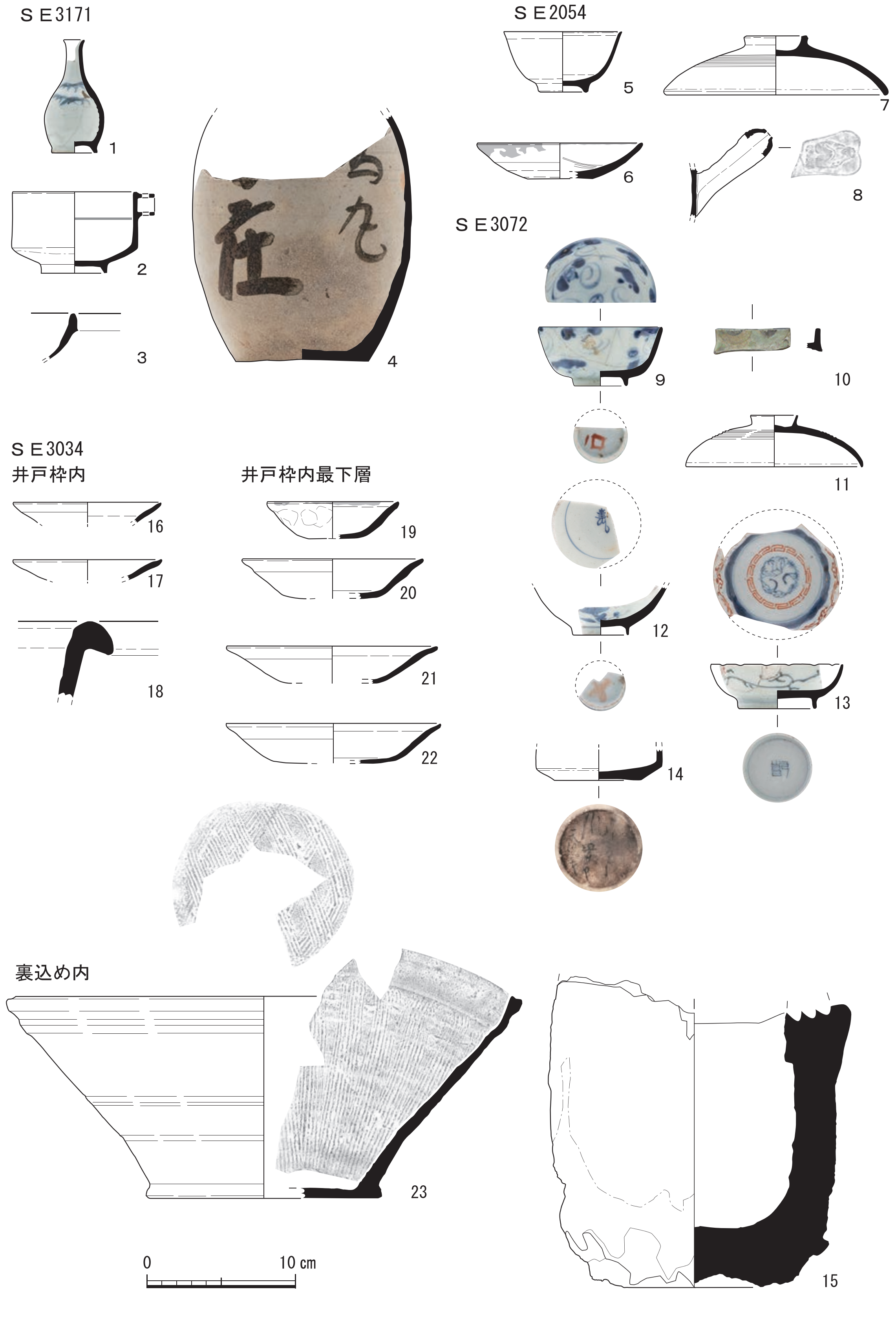
ＳＥ3072（第121図９～15）　13は肥前磁器の金彩色絵皿である。見込みに松竹梅を描き、口縁部に唐草などの文様を描き、模様の外周を金泥で囲う。高台内に「乾」字が入る。14は肥前陶器の筒型容器で底部に墨書「しるし　川□□　天保□年」とある。

ＳＥ3154（第122図６～21）　10 は中国磁器の青花で見込みに「禄」と書く。11は肥前磁器の椀で外面に赤絵「小町紅」が入る。

第119図　江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物３

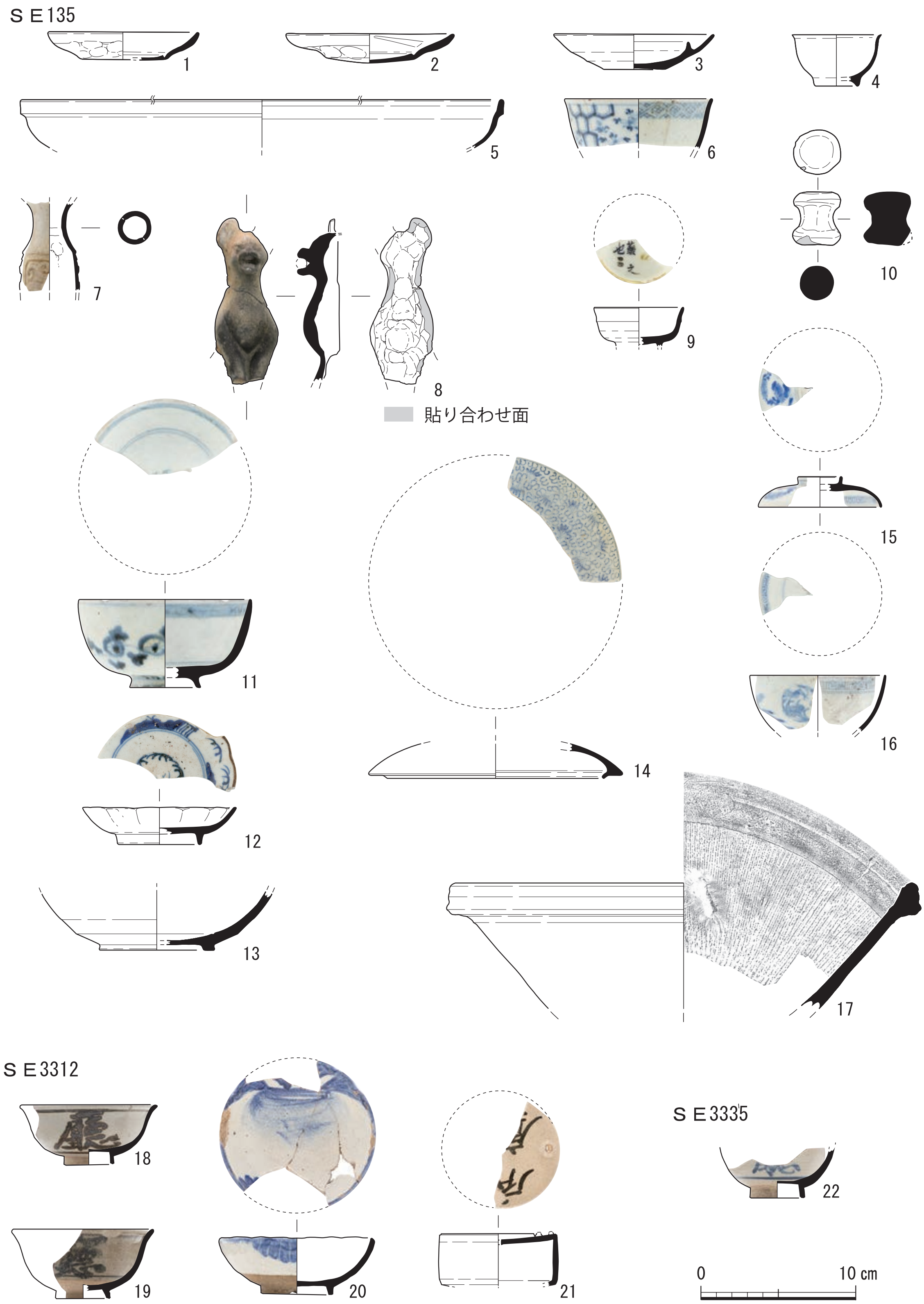


第120図　江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物４

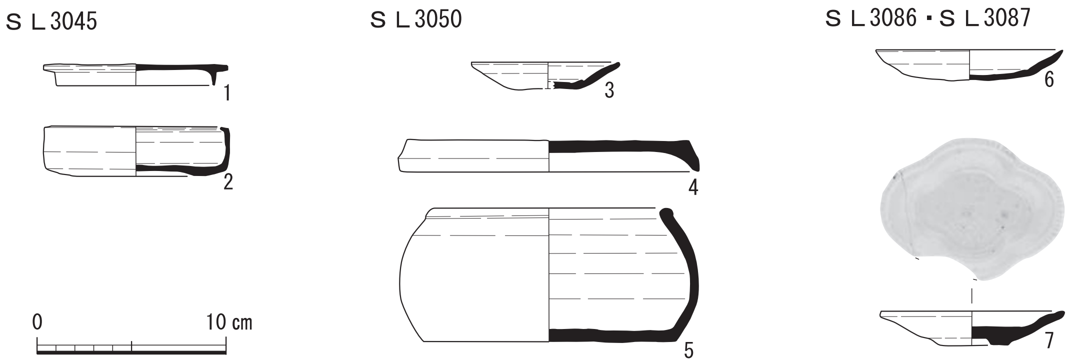


第121図　江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物５

第122図　江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物６



第123図　江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物７



第124図　江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物８

ＳＥ135（第123図１～17）　６は肥前磁器の椀で口縁部に四方襷、外面に花唐草、亀甲文を描く。７は磁器素地の型製品である。二枚型を合わせて成形している。９は瀬戸磁器の杯で見込みに上絵付けで「□薬之□也」と書く。15と16は肥前磁器染付の蓋と椀である。外面に丸紋で草花を描き、内面に雷文を巡らせる。被熱している。

ＳＥ3312（第123図18～21）　18・19は京・信楽系陶器の椀で「廰」字を書く。21は京・信楽系陶器の水滴で「府廰」と書く。

ＳＬ3050（第124図３～５）　４・５は土師質の壺である。いわゆる胞衣壺として埋められていることが多い土器であるが、カマドの燃焼部から出土していることから火消し壺として使用されている可能性がある。

ＳＬ3086・ＳＬ3087（第124図６・７）　７は肥前磁器の手塩皿である。ロクロ成形後に型で整形する。樹木文を表現する。

ＳＳ07（第125図１～38）　15は肥前磁器の椀で雨降り文を描く。

ＳＪ2040（第126図１・２）　１・２は胞衣壺の蓋と身である。蓋は型成形で離型材の雲母片が残存する。身はロクロ成形である。

ＳＪ3052（第127図１）　１は信楽の甕である。便槽として利用され、底部に結晶物が付着する。

ＳＫ23（第128図６～10）　10は土師質の面打である。土師皿を転用して作り出している。

ＳＫ2055（第129図１～９）　７は肥前磁器の染付椀である。外面に楼閣山水を描く。９は中国の華南三彩の盤である。緑釉を基調に草花に黄釉を塗る。

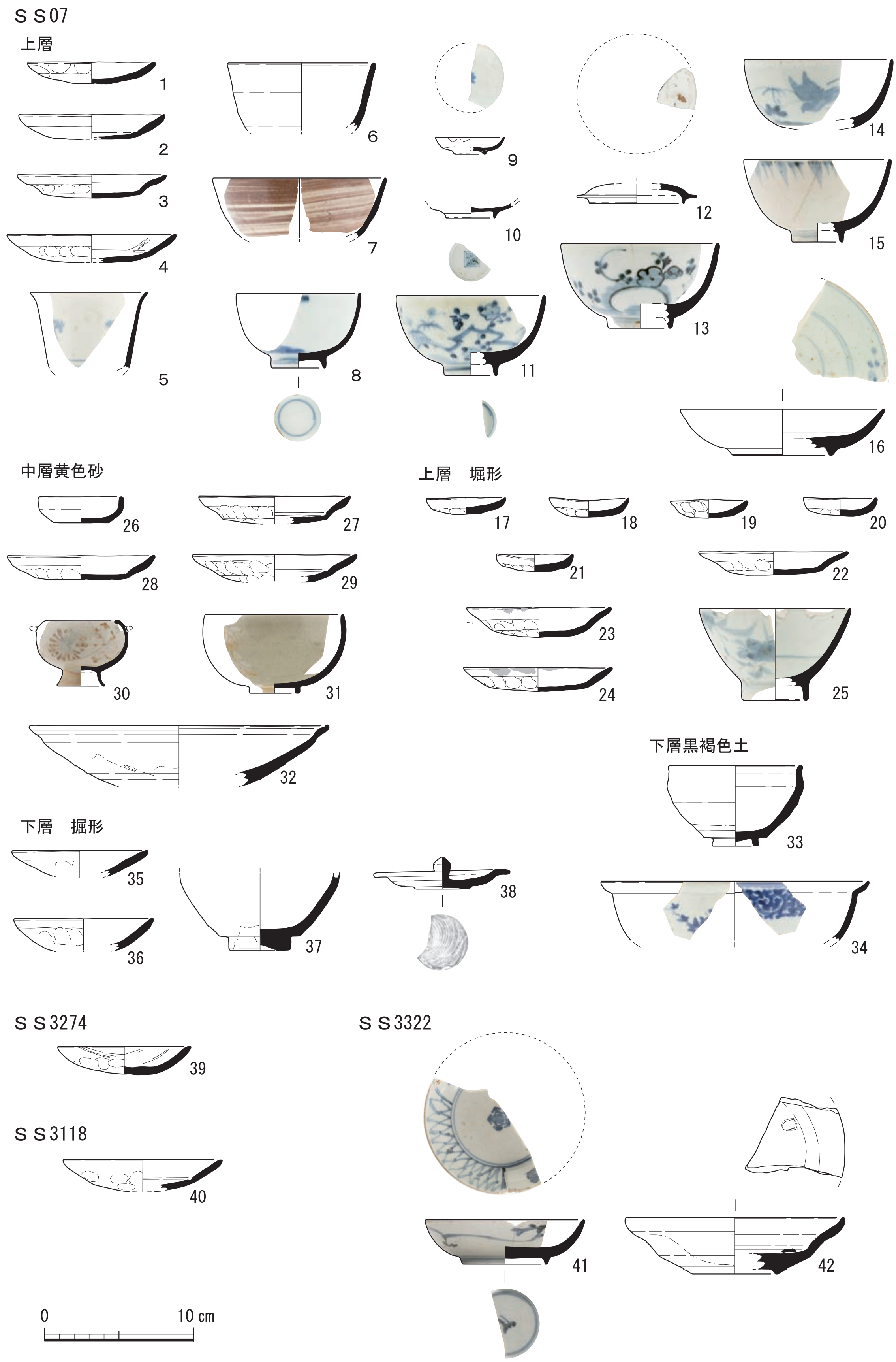
ＳＫ2076（第129図17～21）　21は中国磁器の漳州窯系の赤絵の皿である。

ＳＫ3172（第130図）　５は肥前磁器の染付椀でこんにゃく印判の菊文ともみじ文を付す。６は中国磁器の青花椀である。高台内に「大明成化年製」を書く。７・８は肥前磁器の皿である。見込みに蛇の目釉剝ぎを施す。９は中国磁器の小瓶である。外面に祥瑞文を描く。

ＳＫ3325（第131図５～15）　11は板作りの施釉陶器で鬢水入れである。14は肥前系の赤絵鬢付油壺である。

ＳＫ3264（第131図16～23）　19は肥前磁器の染付椀で松と雲を型紙刷りで表現する。

ＳＫ3272（第132図１～10）　７は京焼の椀で任意で緑釉を掛けた後に余白に透明釉を掛ける。



第125図　江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物９

また見込みに白釉で梅花を描く。梅花と緑釉と透明釉の境に赤絵で縁取りする。10は中国磁器の鉢で高台内に草花文、外面に鹿毛と芦毛の馬を描く。見込みに楼閣山水文が入る。

ＳＫ3253（第132図11）　11は肥前磁器の大皿で内面に梅、竹、松を描く。外面には唐草を配し、高台内に渦福、ハリ支えの跡が残る。

ＳＫ3291（第132図12～15）　13は花塩壺の蓋である。「深草砂川権兵衛」銘入り。14は花塩壺の身である。

ＳＫ3426（第132図16～21）　19は京焼の椀で柳と笹の葉を上絵で描く。20は京焼の椀で外面に笹の葉の上絵、内面に「卍」字の金泥が施されるがいずれも剥落が激しい。

ＳＫ3025（第133図１～６）　４は「仁清」銘の入る陶器である。５は土師質の小鉢で内外面に墨書で蓮華のような模様が描かれる。

ＳＫ3282（第133図７～18）　13は肥前磁器の椀で外面に野菜文を描く。いわゆる初期伊万里である。16は肥前の京焼風陶器で見込みに山水文、高台内に「柴」銘が入る。18は九州系の陶器鉢で緑釉を基調に鉄釉を付して刷毛目が入る。

ＳＫ2041（第134図）　９は肥前磁器の椀で口縁を輪花、外面に花唐草を描く。

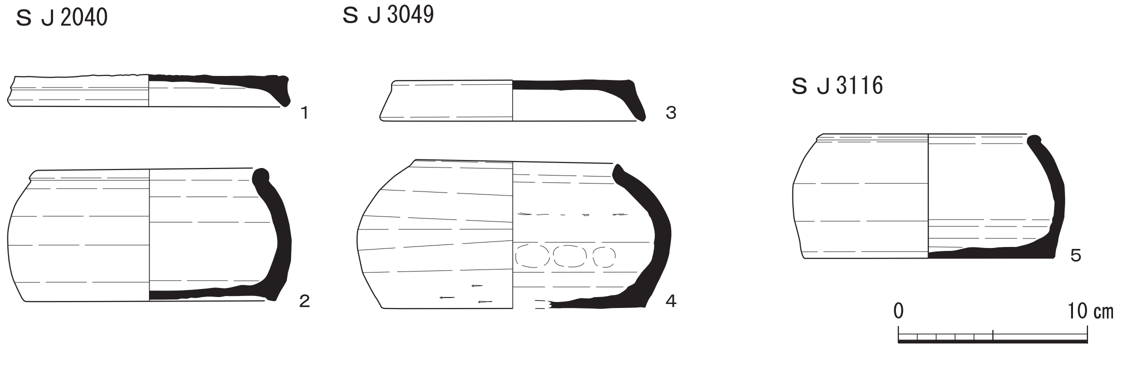
ＳＫ2042（第135図）　５は肥前磁器の皿で菊御紋付である。市松を従紋に菊御紋を重ね、散らす。８は肥前磁器の蓋で外面に雲を描く。９は肥前磁器の椀で８とセット関係である。10は肥前磁器の大皿で見込みに松竹梅、口縁部に花唐草、外面に唐草文を描く。

ＳＫ2015（第136・137図）　第137図13は肥前磁器の蓋である。14は肥前磁器の椀である。13とセット関係にある。

ＳＫ2048（第138図１～19）　10は泥面子である。小判紋で裏面に墨書「や」が書かれる。18は肥前磁器の望料椀で外面に七宝、見込みに組香紋を描く。

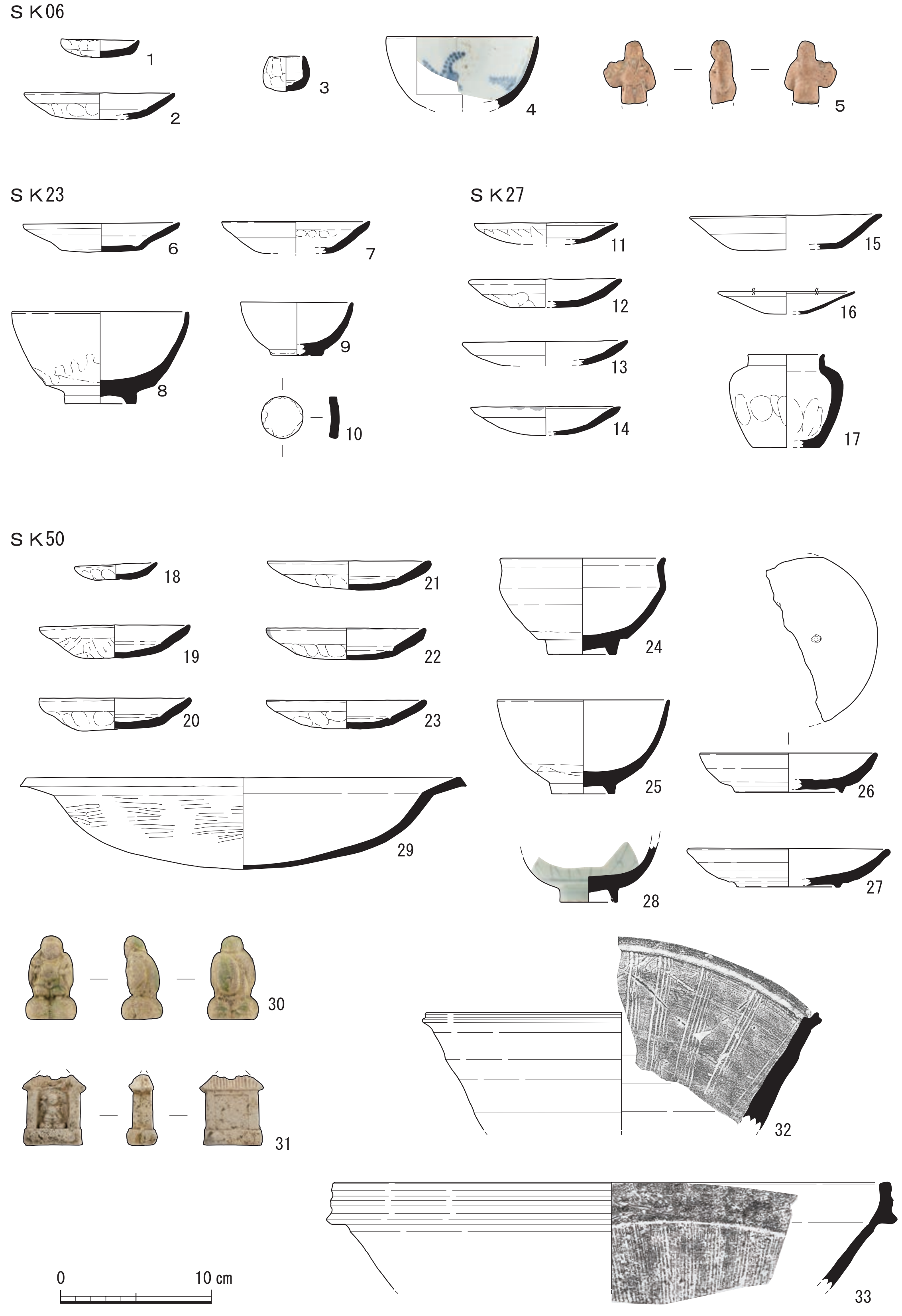
ＳＫ3109（第138図23～28）　25は「暁山」銘入りの京焼陶器である。褐釉を掛けている。「暁山」は青蓮院宮粟田口御所御用の職人に与えていた銘で19世紀前半から見られる。26は京都磁器の杯で見込みに金泥で木瓜紋、高台内に「周平之造」の朱が入る。周平は高橋道八の三男である江戸後期の陶工尾形周平のことと考えられる。

ＳＫ3035（第139図１～９）　９は肥前磁器の灯芯押さえの人形である。底部と背面に穴が開



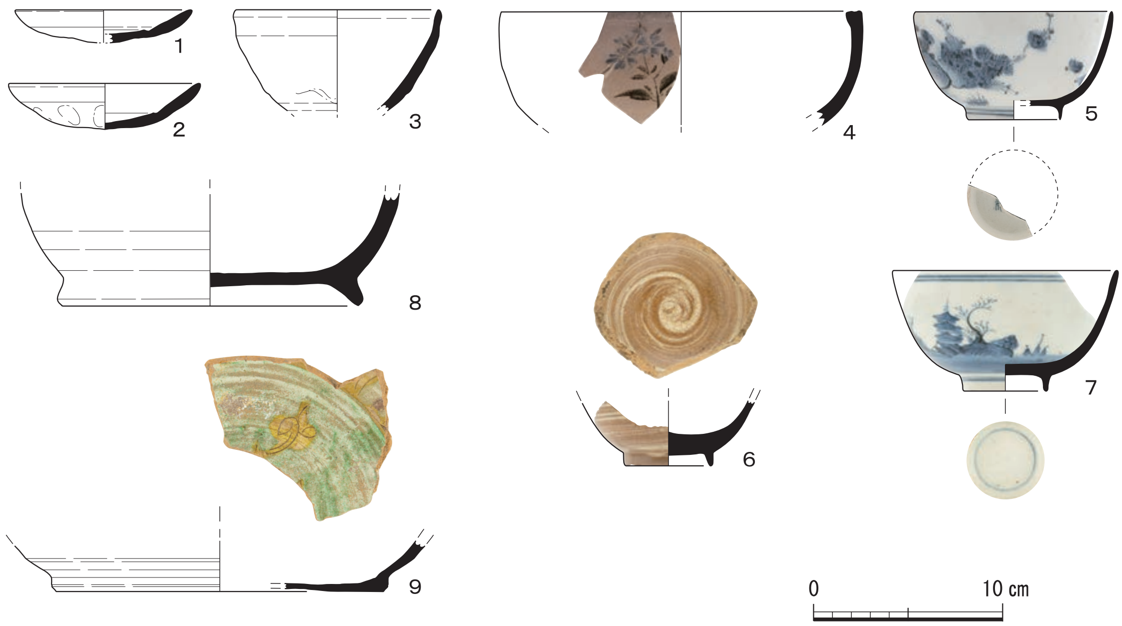
第126図　江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物10

第127図　江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物11

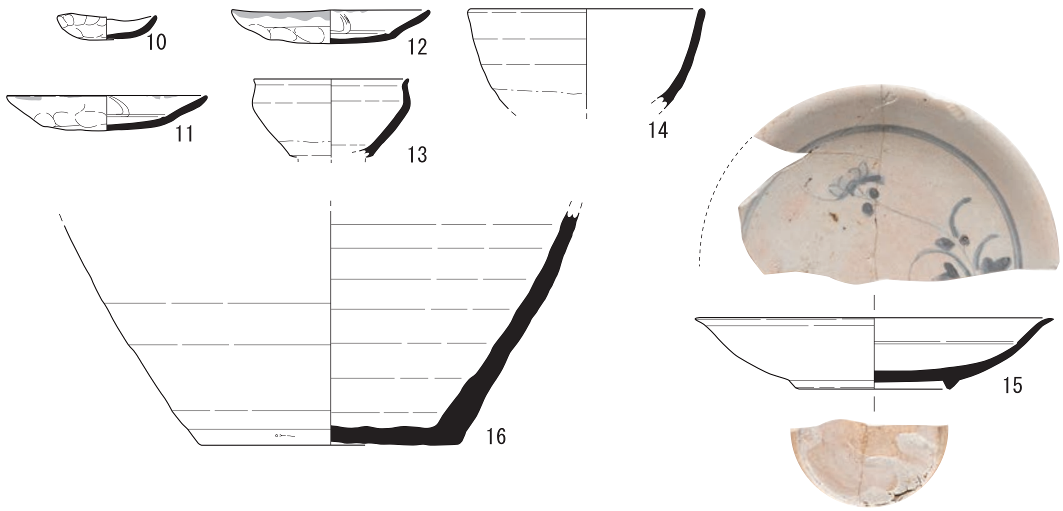


第128図　江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物12

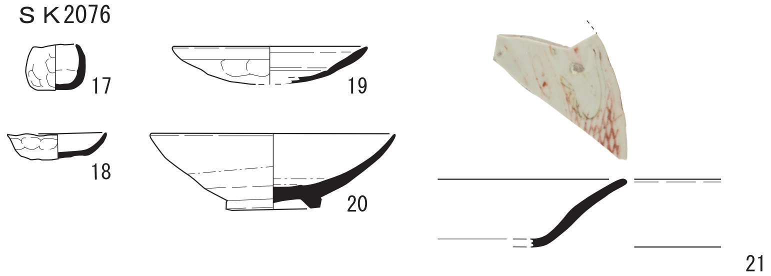
ＳＫ2055



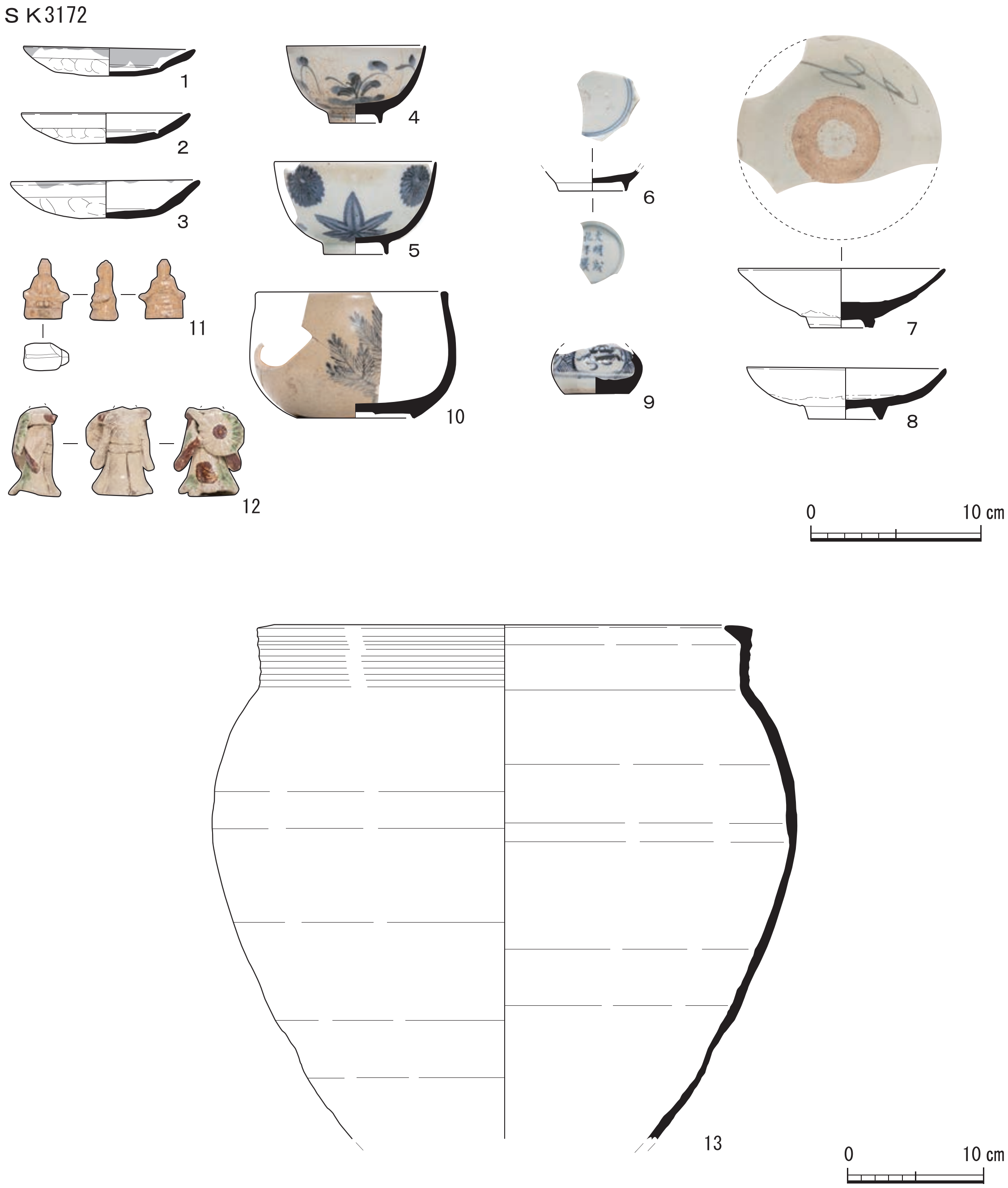
ＳＫ2059



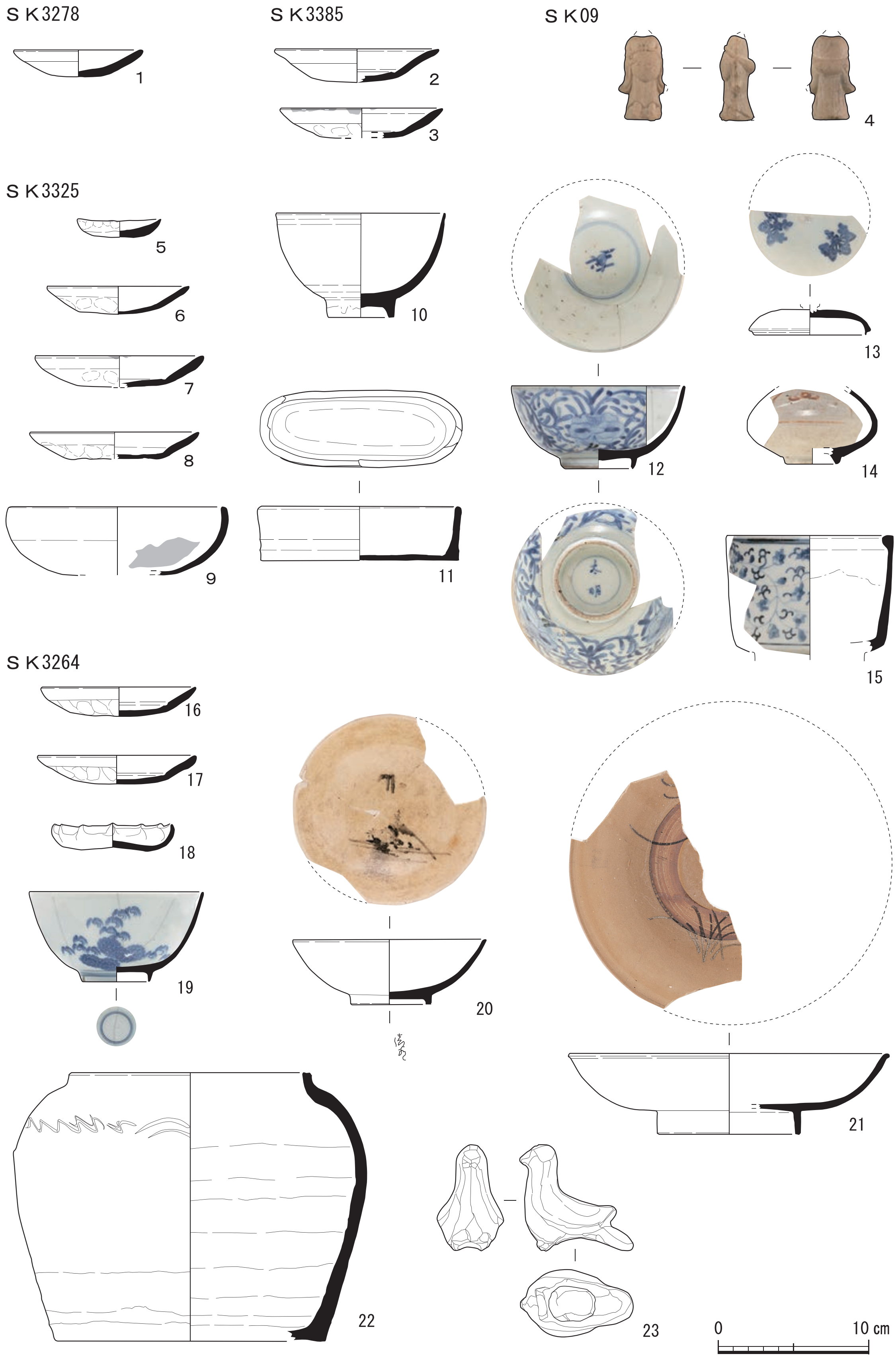
ＳＫ2076



第129図　江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物13

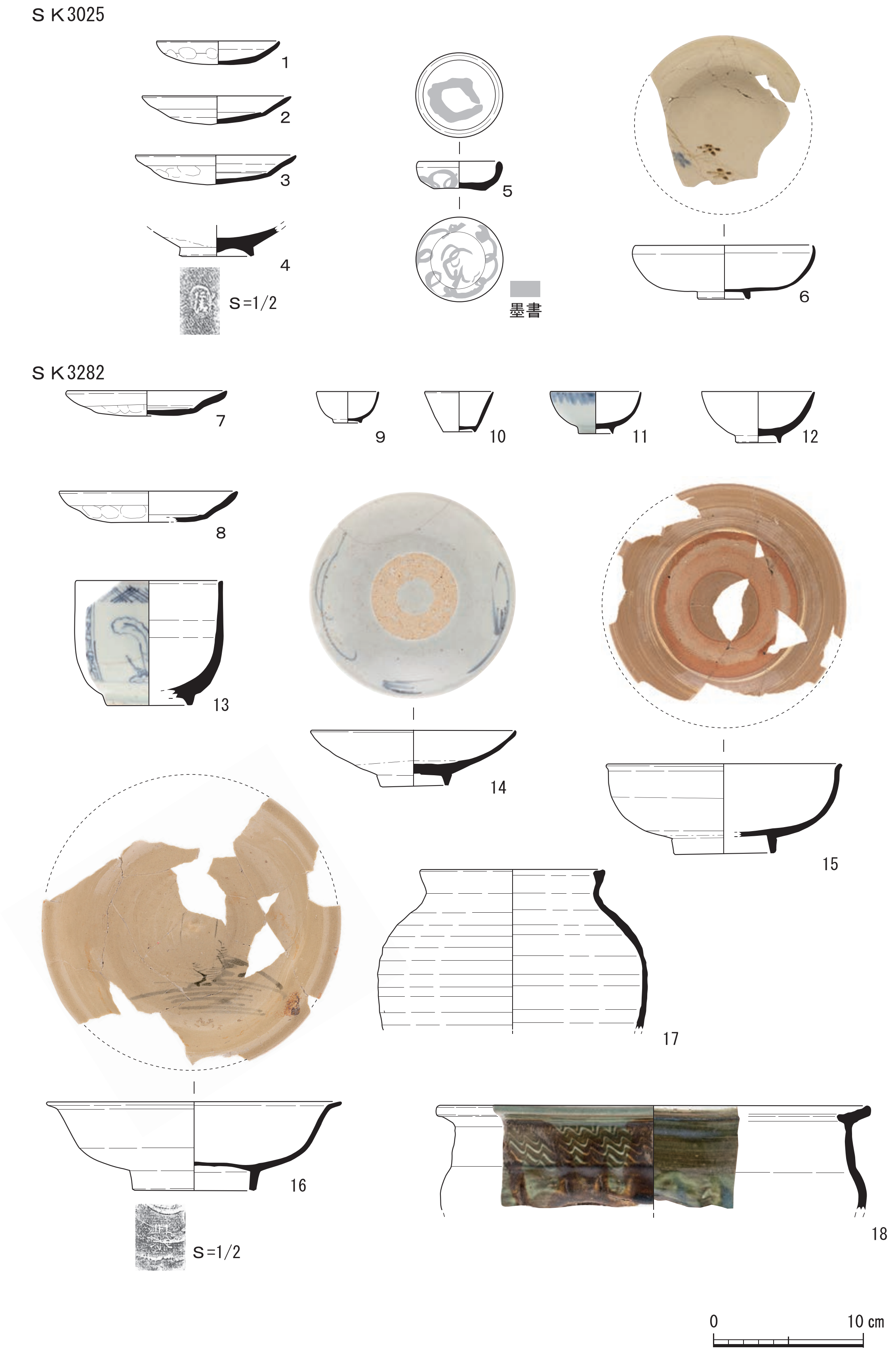


第130図　江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物14



第131図　江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物15

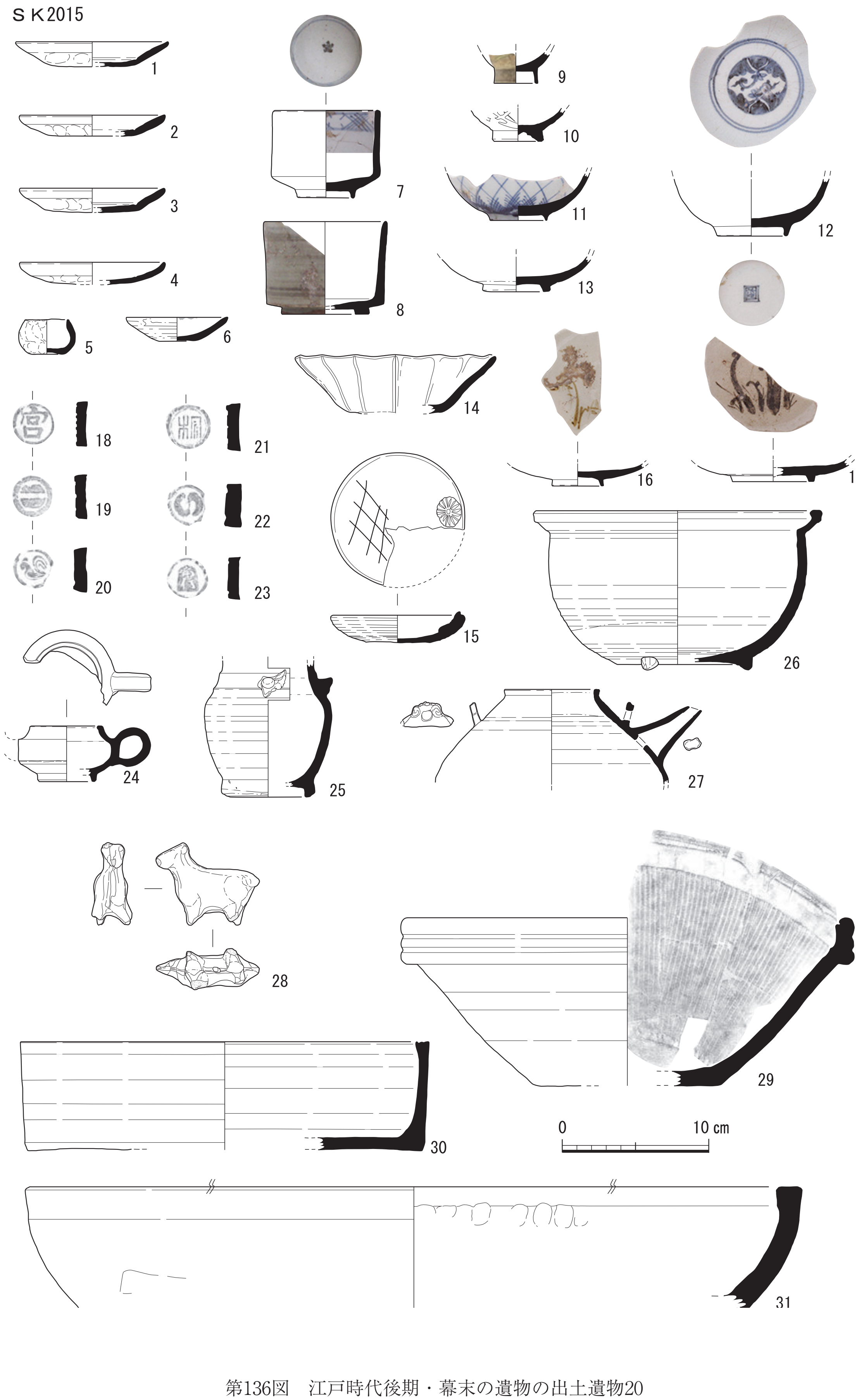
第132図　江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物16



第133図　江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物17

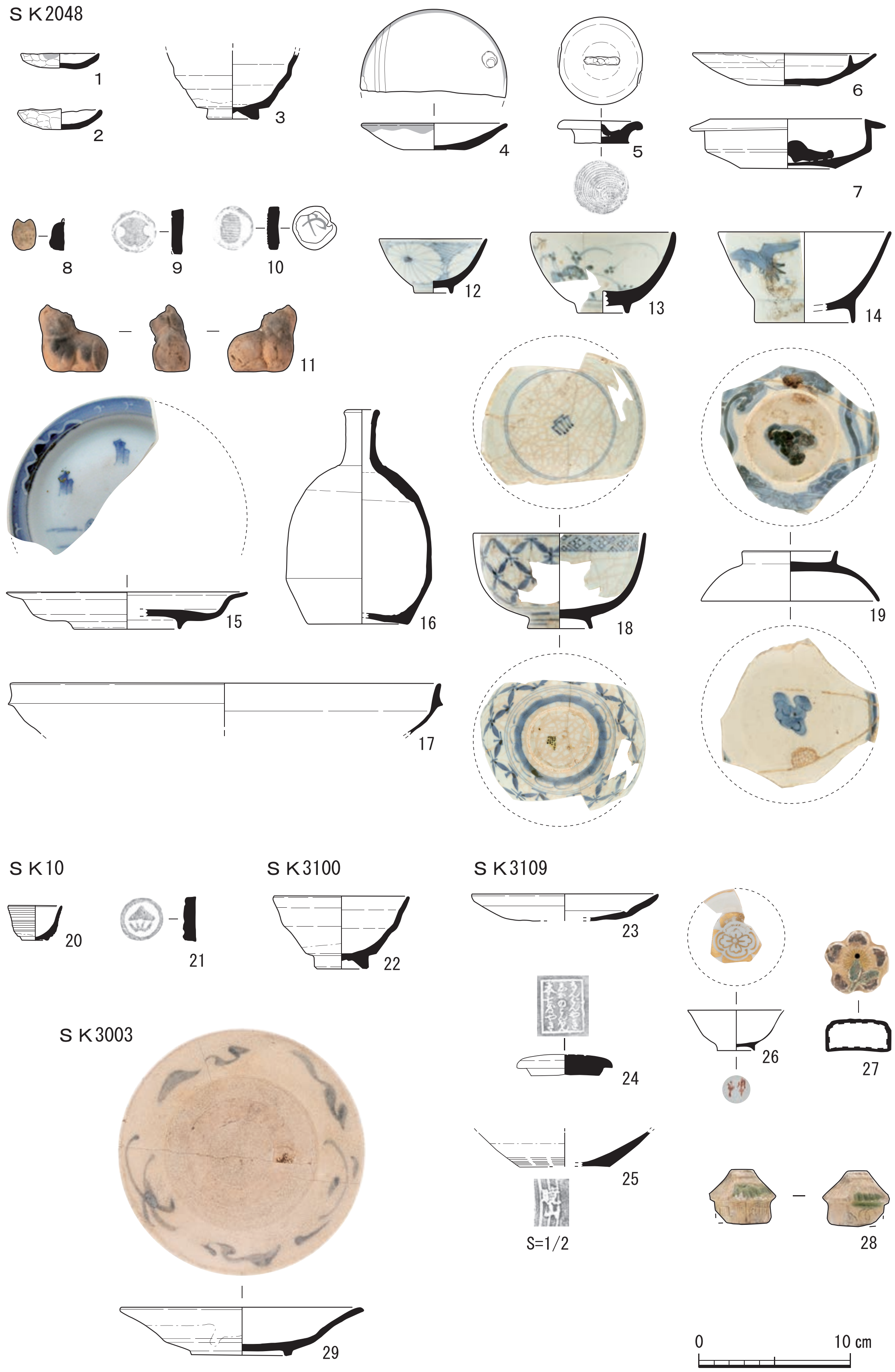
第134図　江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物18

第135図　江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物19

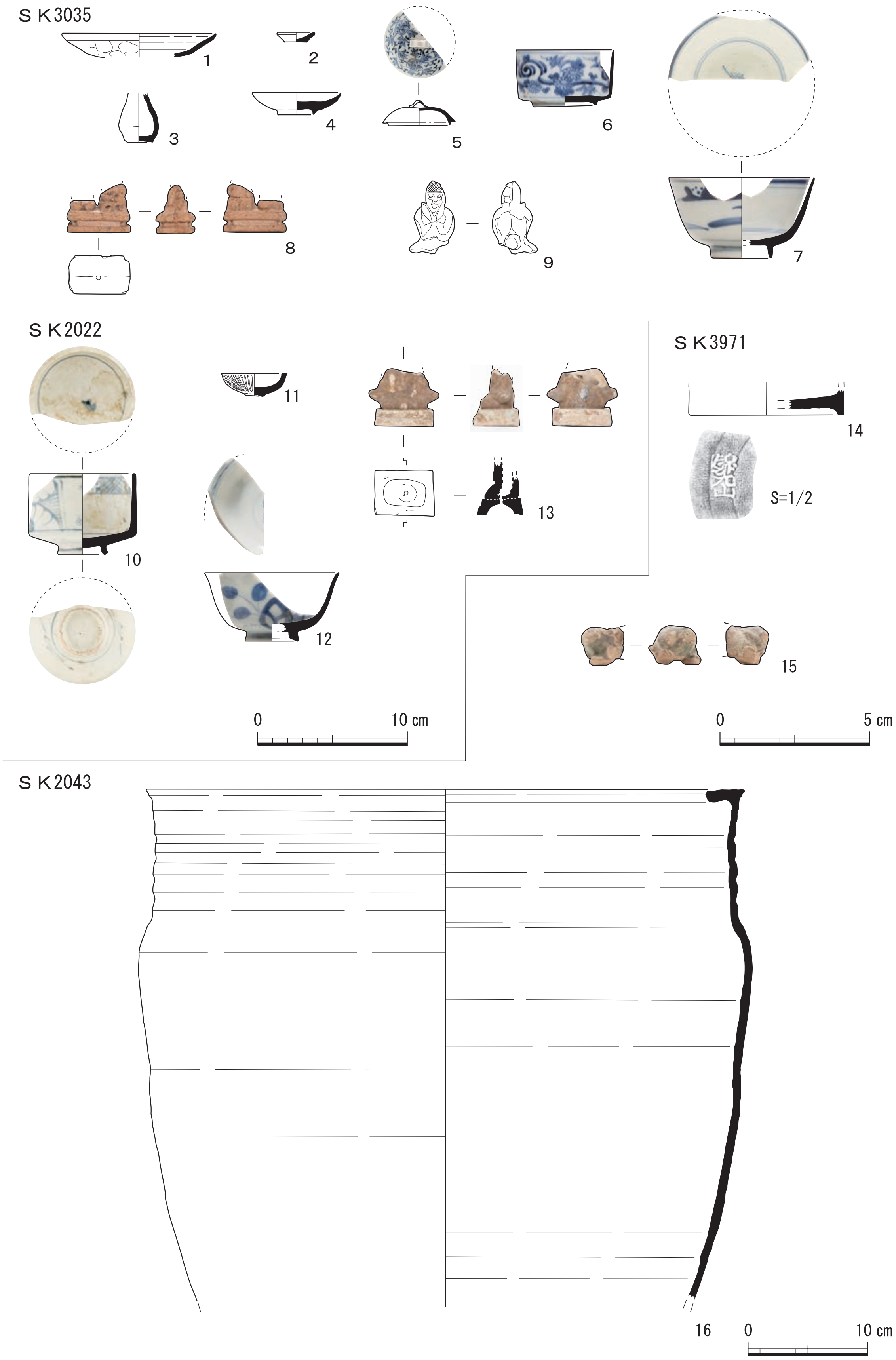


第136図　江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物20

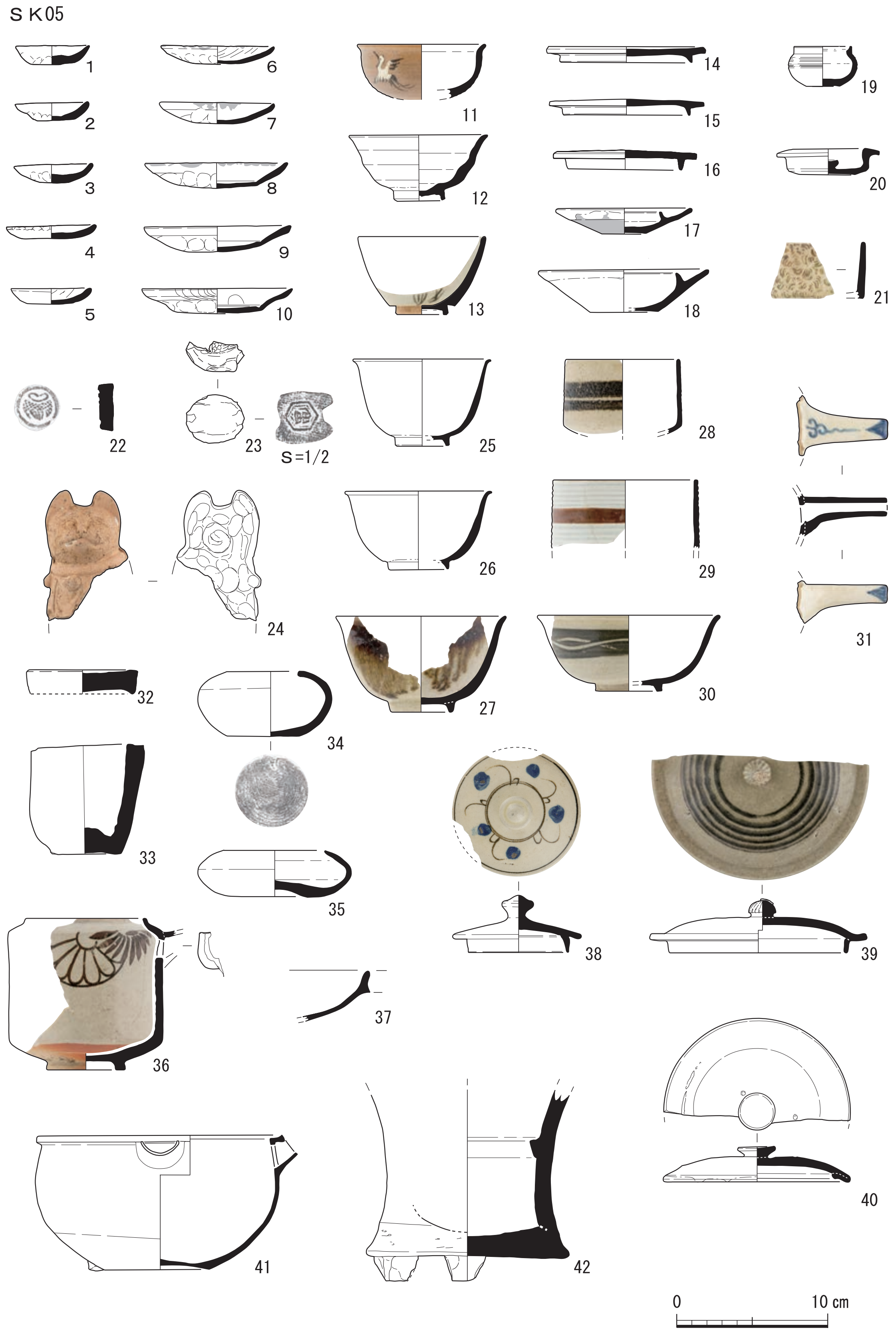
第137図　江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物21



第138図　江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物22

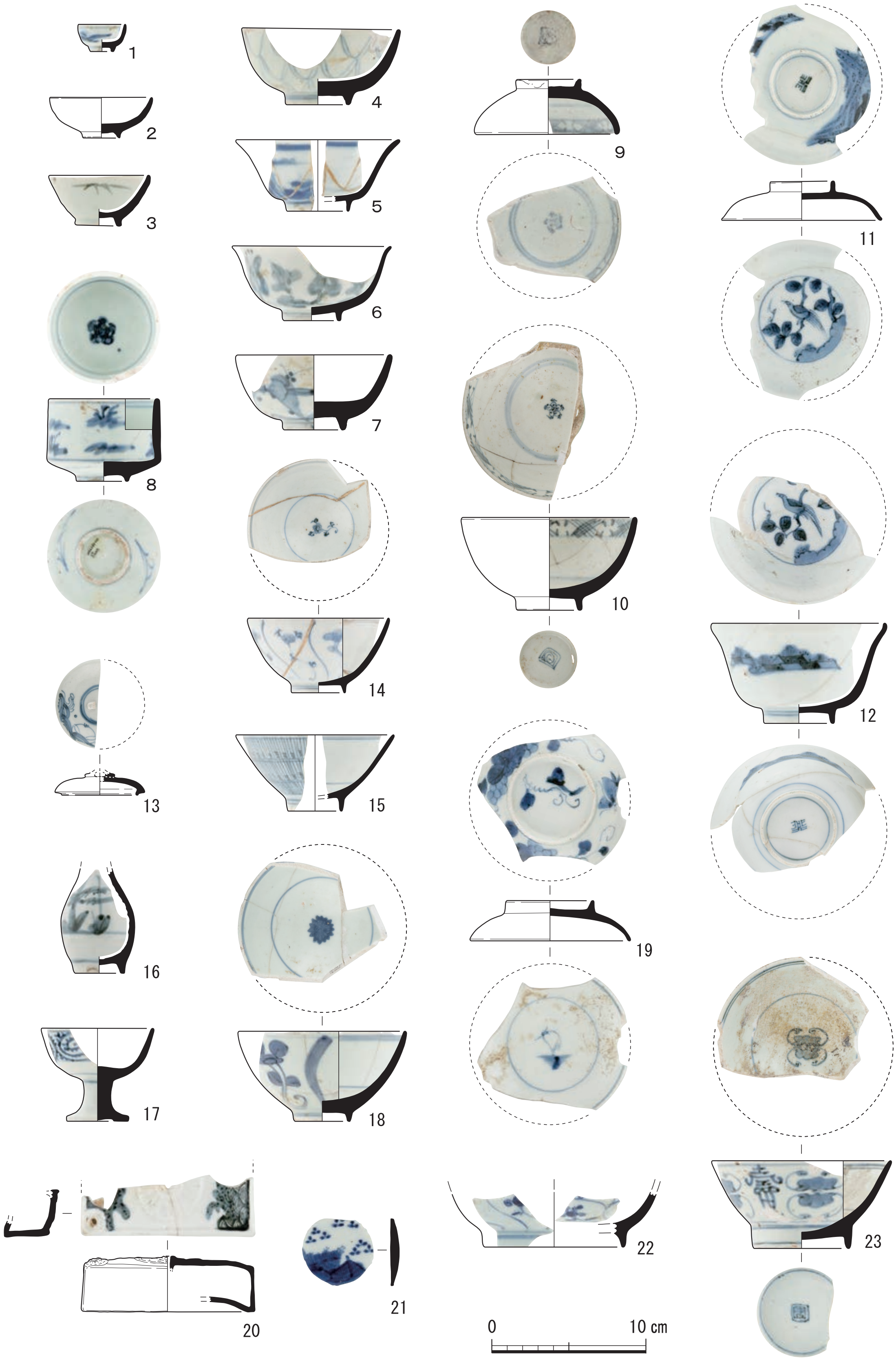


第139図　江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物23



第140図　江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物24

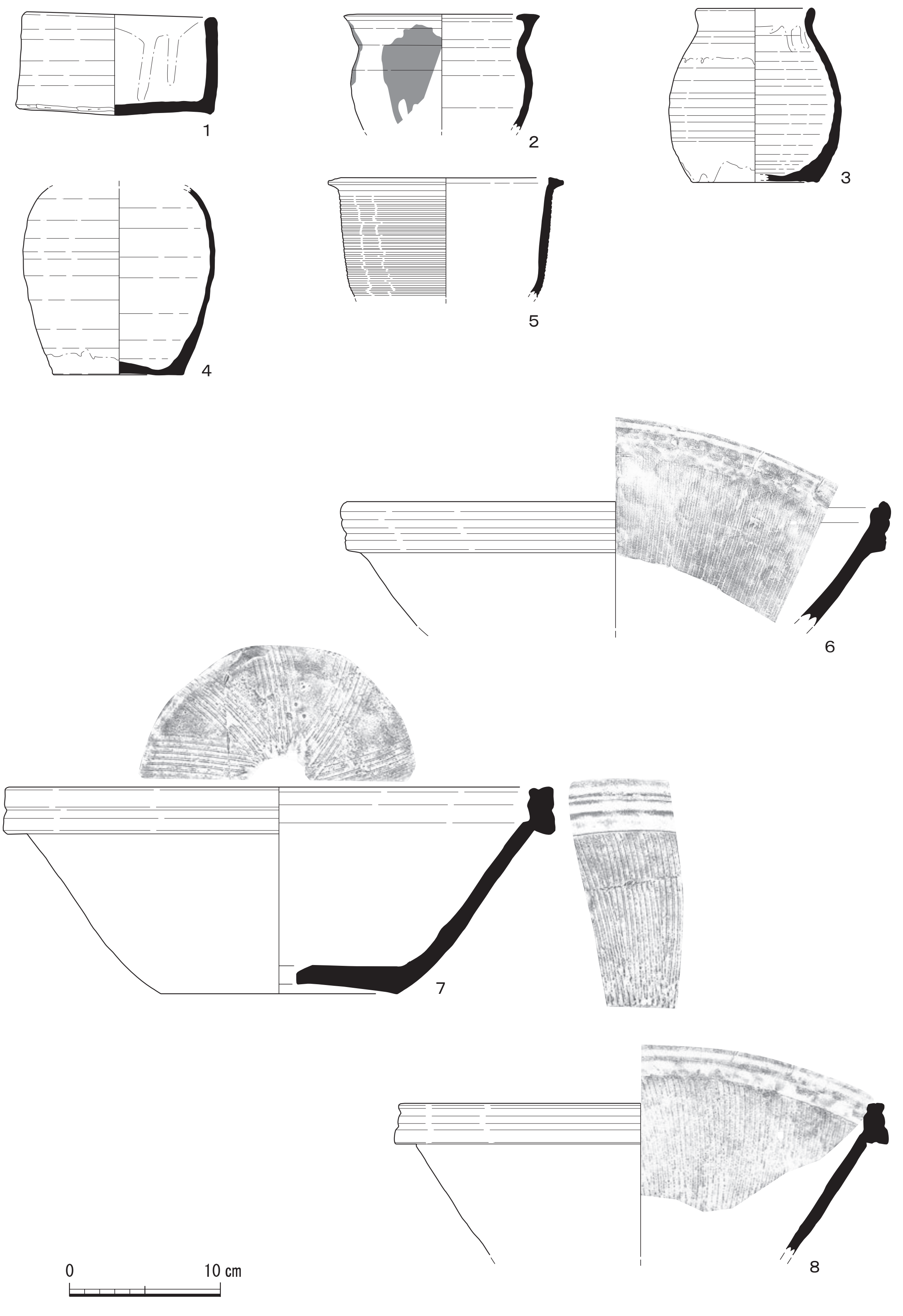
SK05



第141図　江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物25

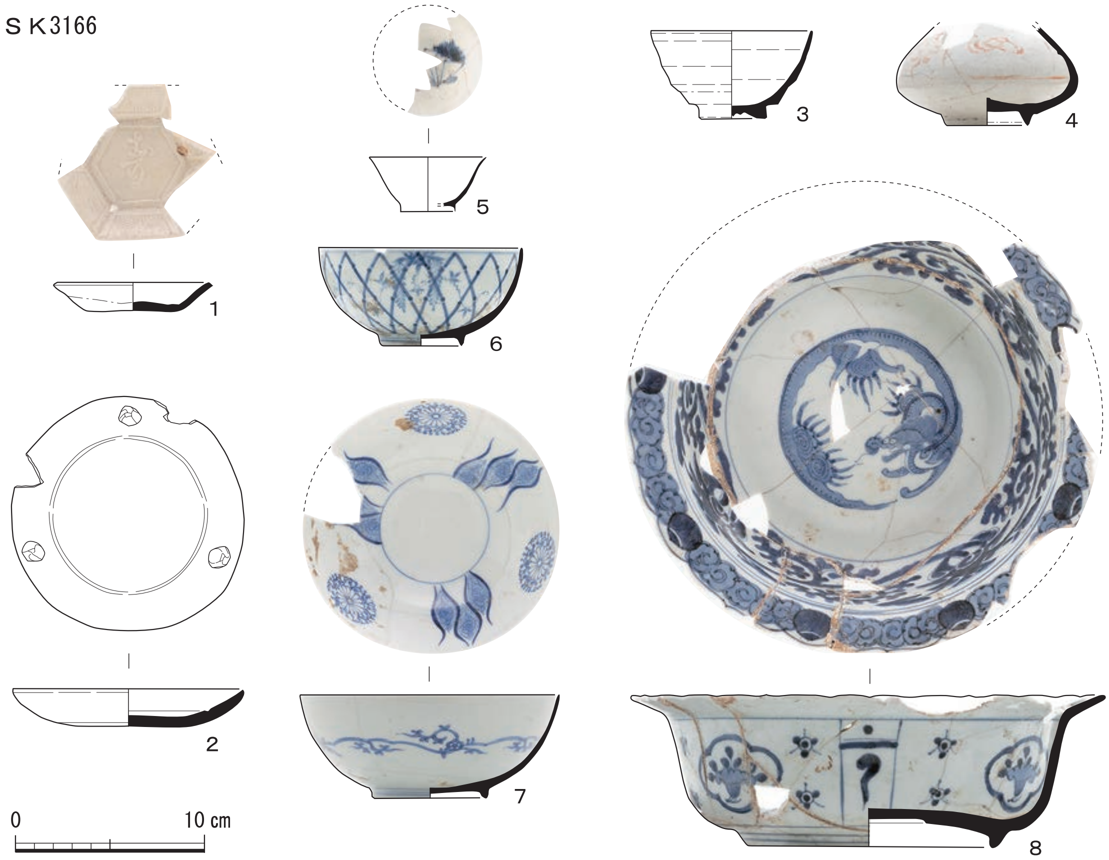
第142図　江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物26

ＳＫ05



第143図　江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物27

第144図　江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物28



第145図　江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物29

く。頭部は無釉である。頭部のみ型抜きしており、体部は手びねり成形である。

ＳＫ2022（第139図10～13）　13は土製品の人形である。天神を模しており、人形は二枚型成形、台は別付けで型成形である。

ＳＫ3971（第139図14・15）　14は京焼の陶器である。筒型で白釉を外面に掛ける。底部に「錦光山」銘が入る。錦光山は宝暦５（1755）年以降幕府の御用茶椀や禁裏御用品を焼いた陶家である。15は土製品の人形で獅子を模している。二枚型で前脚などは別付けである。

ＳＫ05（第140～143図）　第140図23は土製品の人形である。鳩を模しており、底部に亀甲で囲われた「亀」印が入る。亀在印は欽古堂亀祐関係の焼物と考えられる。第141図11・12は肥前磁器の蓋と椀である。組み物で見込みに野鳥を描く。14は肥前磁器の椀である。外面に霊芝文を描く。焼き継ぎされている。21は面打である。肥前磁器を打ち欠けて円形に加工している。22は中国磁器の鉢である。霊芝文を内外面に描く。第143図７は堺・明石系の擂鉢である。底部に二次加工の穴が開けられており、植木鉢として転用されたと考えられる。

ＳＫ3004（第144図１・２）　１は京焼の土瓶の注ぎ口である。陶胎染付で白化粧をして呉須で模様を描く。「道八」と書かれている。２は中国宜興窯の急須である。底部に「花間□□月下侶吟」と刻印が施される。いわゆるパンパン技法で作成されている。

ＳＫ3022（第144図３・４）　３は菊御紋付の肥前磁器の椀の破片である。

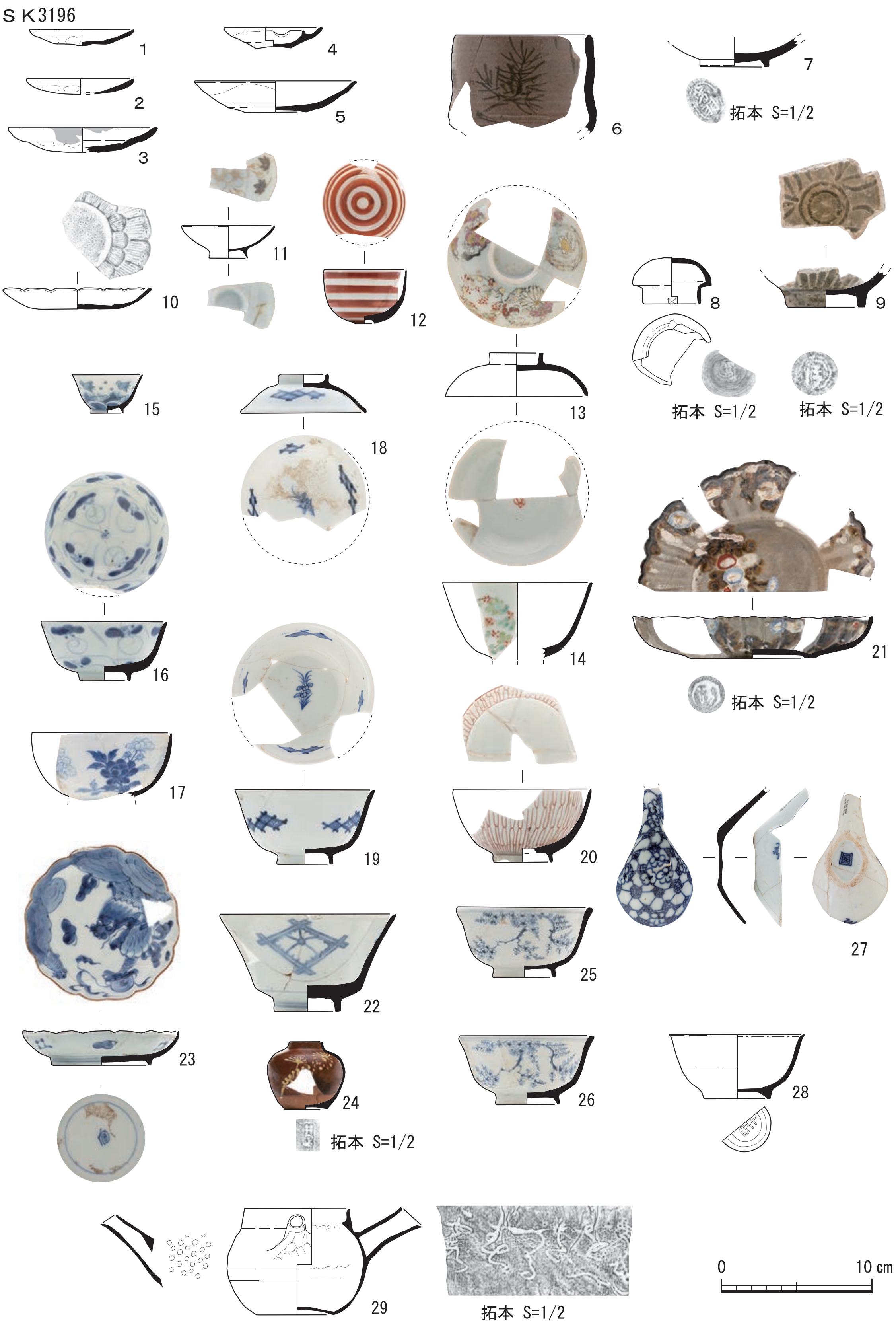
ＳＫ3103（第144図５～９）　５は肥前磁器の椀である。上絵にて朱朱書きで「りき本家」の文

第146図　江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物30

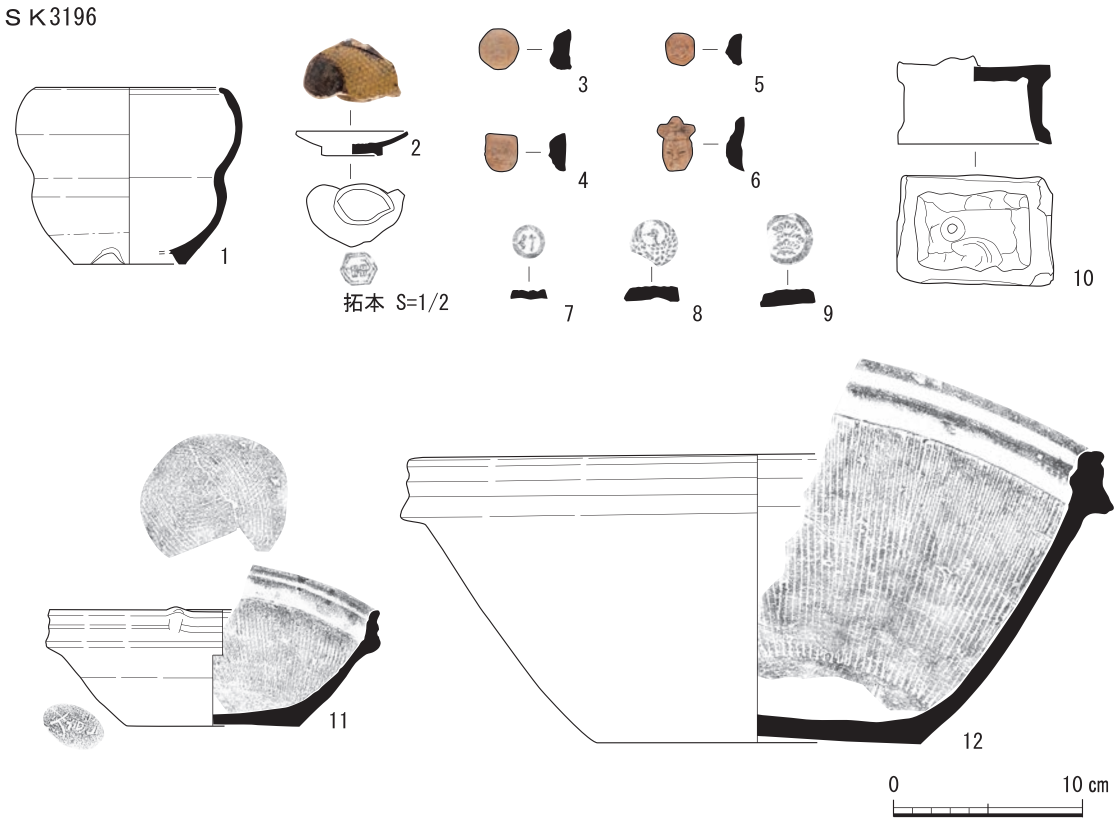
字が見える。６は中国磁器である。型造りで口縁端部の釉薬を剥いでいる。釉上彩で青花を描く徳化窯の椀である。７は肥前磁器の椀である。竹垣に藤を描く。８は肥前磁器の皿である。六甲文に牡丹を三方に入れる。見込みに正円を描く。

ＳＫ3108（第144図12～16）　15は瀬戸美濃陶器の椀である。いわゆる天保織部と称される焼物である。

ＳＫ3114（第144図17～28）　23は中国磁器の皿である。見込みに山水文を描き、外面に簡単な草花文を入れる。高台内に「道光年製」銘が入る。25は中国磁器の鉢である。内面の口縁部に唐草、外面に草花文を描く。26・27は京・信楽系陶器の土瓶である。26は蓋で穴が開いている。いずれも半練（はんねら）焼と称される。



第147図　江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物31



第148図　江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物32

ＳＫ3166（第145・146図）　第145図７は肥前磁器の菊御紋付染付の椀である。見込みに光格菊紋と雲立湧が交互に三方に配される。８は肥前磁器の鉢である。見込みに龍紋を描き外周を唐草が囲う。口縁部は削り込まれ輪花状になる。第146図３は瀬戸美濃陶器の火鉢である。いわゆる「呂栄」釉を掛ける。体部を飾る唐草は型から抜き出したものを貼り付けている。火鉢の内部に墨書が残存する。

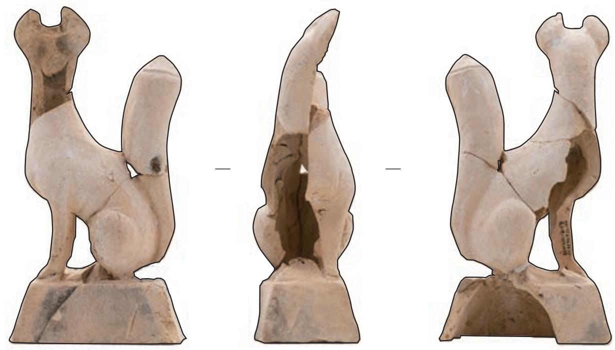
ＳＫ3196（第147・148図）　第147図７は京焼の底部である。高台内に「音羽」銘が刻印されている。京都清水で音羽屋を称する陶工が確認できることから関係があると思われる。８は京焼の蓋とみられる陶器で奥に「寶山」銘が入る。粟田焼の雲林院寶山の刻印と考えられる。９は京焼の椀である。線刻で文様を描き、底部に六甲で囲われた「清」字の刻印を持つ。21は京焼の菊花皿である。灰釉に鉄釉の塗り、白釉と赤、青の塗料で花を描く。底部に六甲に囲われた「清」字の刻印を持つ。13は肥前磁器の色絵の蓋である。丸紋で梅や菊などの文様を描く。14は肥前磁器の色絵の椀で13は14の蓋である。外面に丸紋で草花を描く。17は肥前磁器の菊御門付染付の椀である。外面に仙洞菊紋と牡丹を描いている。18は肥前磁器の染付の蓋である。四方襷を配する。19は肥前磁器の染付の椀で18は19の蓋である。内面に四方襷紋、外面に宝尽くしを描く。端反椀である。27は中国磁器の散蓮華である。型成形で内面に氷割れ梅花を描く。28は中国徳化窯の白磁椀である。口縁端部は釉剝ぎされ、高台内に文字が陽刻されている。29は連月焼の急須である。急須の上下と取っ手、注ぎ口がそれぞれ別付けで作出している。それぞれ型成形してからユビオ

第149図　江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物33

サエで整形している。体部には釘書きで「うきをへたつる　春霞」と書かれている。「たつ日より　長閑になりて　世の中の　憂きをへだつる　春霞かな」の一部と思われる。第148図２は施釉陶器のミニチュアである。鯛皿を模している。鯛の顔と背びれは鉄釉、体部に黄釉を掛けている。台部と皿は別型で作りだしている。台には刻印で「亀」が刻まれ、欽古堂亀祐関係の焼物と考えられる。11は堺・明石系の擂鉢で外面の底部付近に「入喜」と刻印され「△□□□」と墨書が残存する。

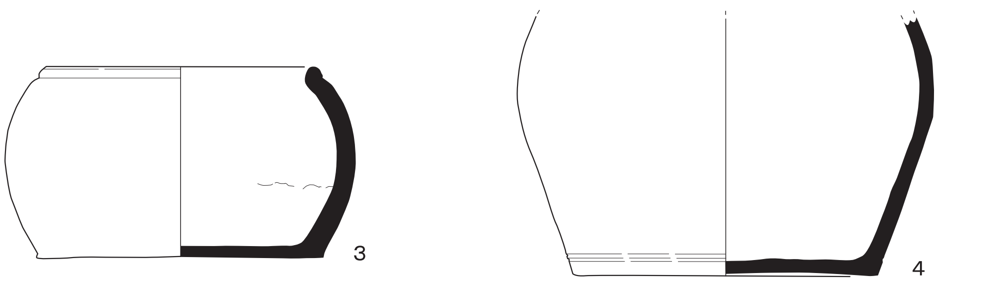
嘉永の焼土

1



2

３区南東部壁面



3

4

0　10㎝

第150図　江戸時代後期・幕末の遺物の出土遺物34

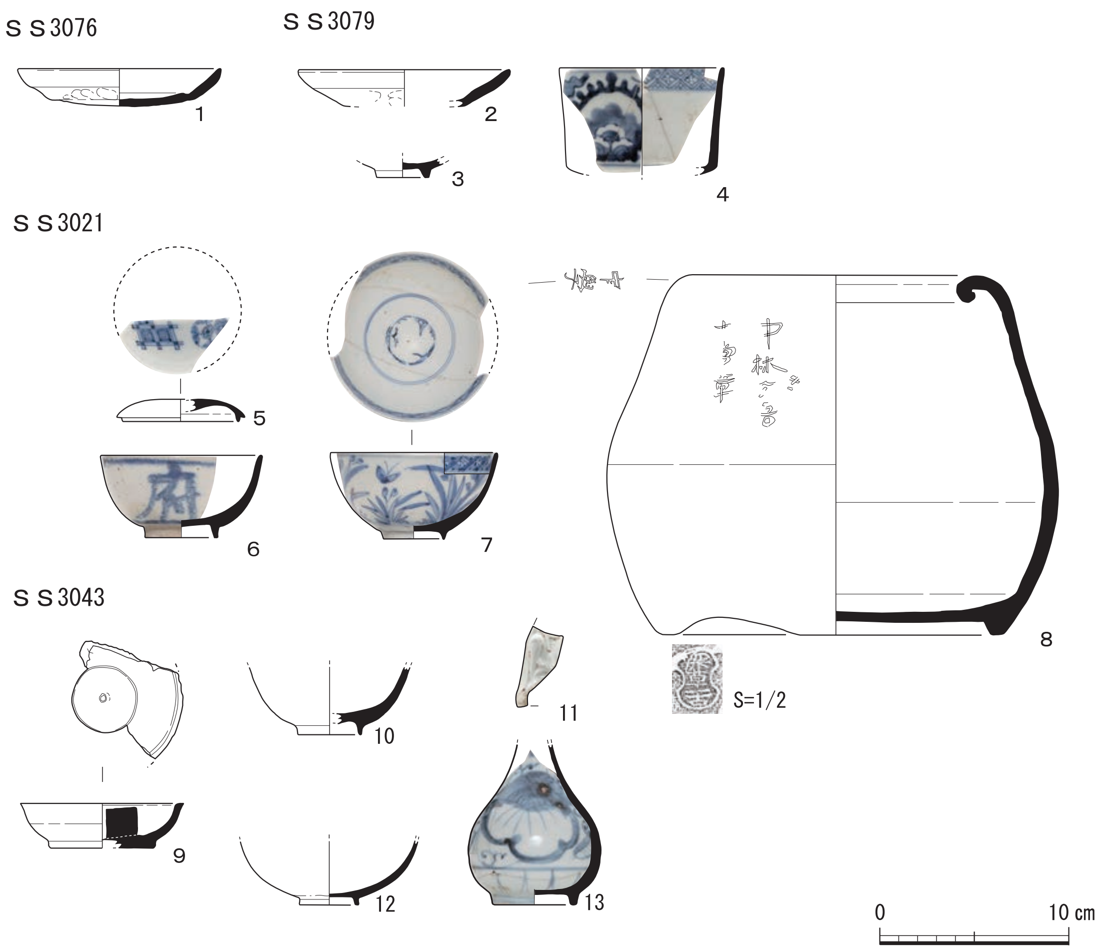
ＳＫ3053（第149図）　13は京都磁器の蓋である。14の蓋と考えられる。14は京都磁器の急須である。ロクロ成形で外面に楼閣山水を描き底部付近に「※○」が連続する。15は肥前磁器の皿で三方に牡丹を描き余白に亀甲文が入る。16は肥前磁器の皿で三方に四方襷、余白に野菊などの野草を描く。18・19は中国磁器の散蓮華である。型成形で内面に氷割れ梅花を描く。

嘉永の焼土（第150図１・２）　１・２はともに土製品の人形で稲荷狐である。１は鍵をくわえている。いずれも二枚型成形である。腹部あたりの余剰粘土は切除し、開口する台の上部は別の粘土を充てて開口部を埋めている。１は胡粉に朱を混ぜた塗料で塗られ桃色を呈し、２は胡粉で塗られ白色を呈する。町家に祀られた稲荷社の眷属であると考えられる。

３区南東部壁面（第150図３・４）　３は土師質の壺である。３は４を切るようにして埋設されていた状況から胞衣壺と考えられる。４は土師質の壺である。３に切られる埋設された壺で胞衣壺の可能性がある。

（５）近代の遺物

ＳＳ3021（第151図５～８）　８は深草の手あぶりである。外面に細かなミガキを施す。底部に瓢箪形の囲みに「深草吉」の刻印が入る外面には線刻で「中林□吾」「古宮章」、後円部に「中学」字が入る。



第151図　近代（中学校）の出土遺物１

ＳＳ3043（第151図９～13）　９は土師質の燭台である。ロクロ成形の鉢内に円筒の中央部に穴が開く。11は肥前磁器の赤絵人形である。二枚型成形の一部が出土した。

ＳＤ2014（第152図１～４）　16は素焼きの土管である。継ぎ手部分の形状から幕末ないし近代の遺物と判断できる。型成形で管の半ばに接合跡があり、かつ半円を接合した痕跡があることから４枚型と考えられる。

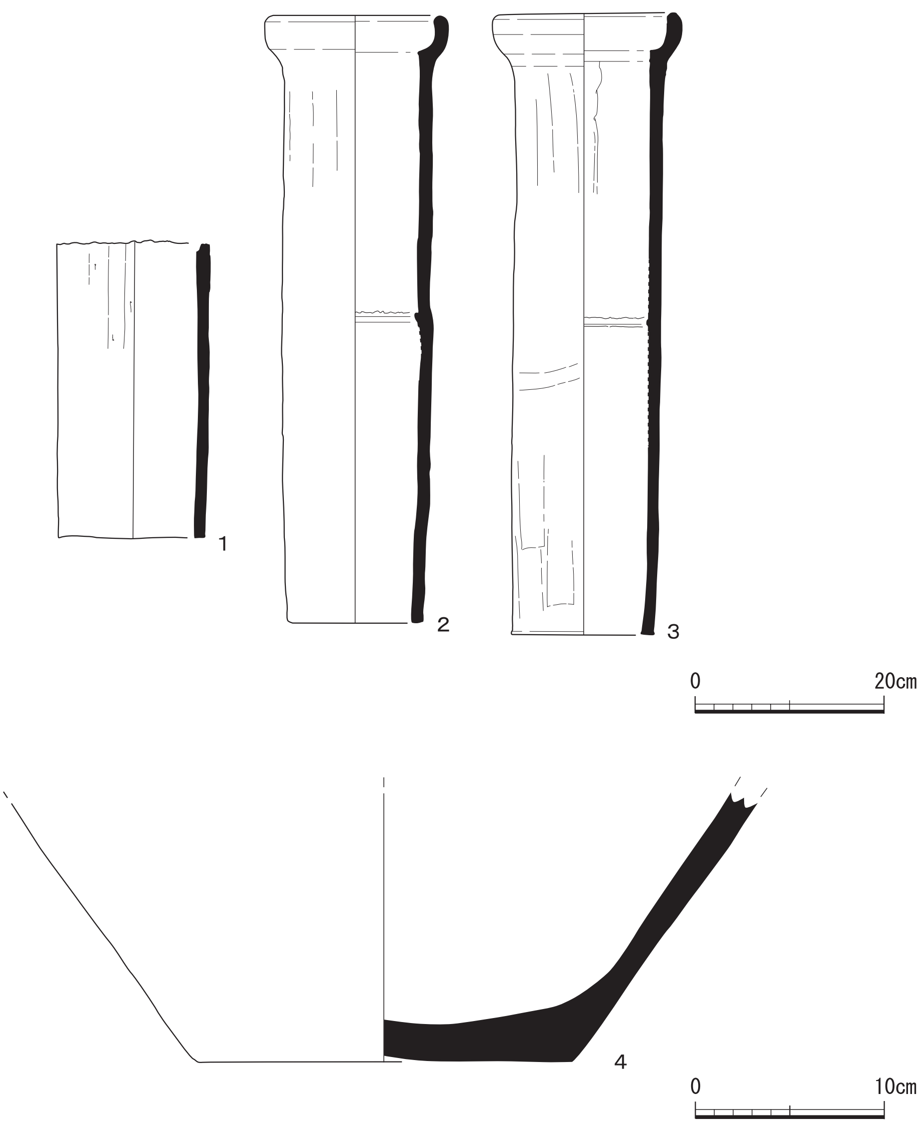
ＳＫ2001（第153図１～12）　６は京・信楽系陶器の蓋で裏面に「第壱課」の墨書がある。12は京・信楽系陶器の土瓶で底部に「第二課」の墨書がある。

ＳＫ3044（第153図14）　14 は相馬焼の椀である。内面は青磁、見込みに金彩の馬が描かれ、外面に波を表現し鉄釉を掛けている。高台内に「相馬」銘を入れる。

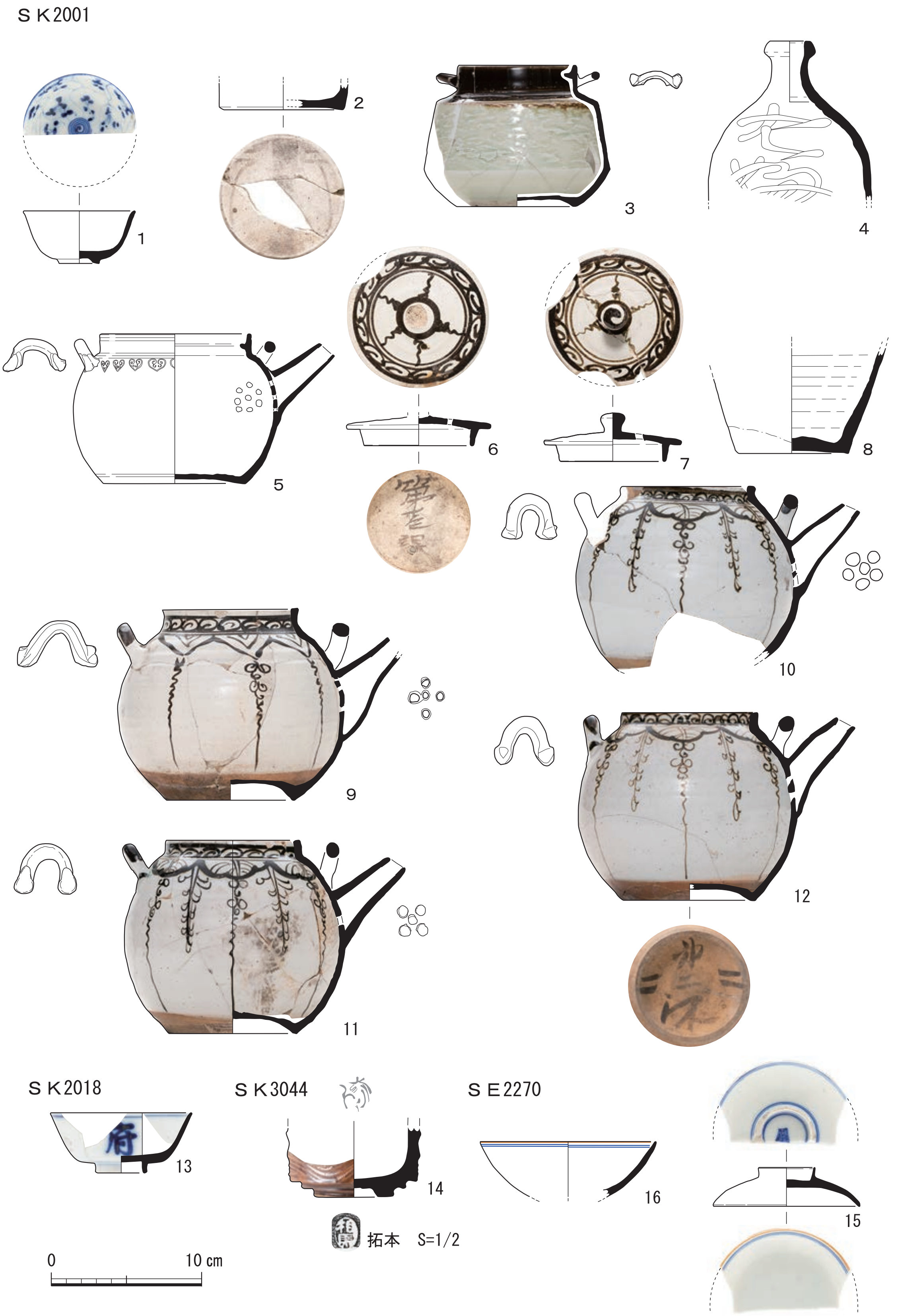
ＳＫ2002（第154図１～７）　６は常滑のインク瓶である。底部に円形の刻印があり中央に「Ｍ」外周に「ＭＡＲＵＺＥＮＩＮＫ★ＴＯＫＹＯ★」と入る。底部に「Ｍ」刻印が入る。７は陶器瓶である。ロクロ成形で外周に線刻して文様を表現し、肩部に渦文を描く。二耳であるが一つは欠

ＳＤ2014

ＳＪ3028



第152図　近代（中学校）の出土遺物２



第153図　近代（京都府庁）の出土遺物１

第154図　近代（京都府庁）の出土遺物２

落する。底部に「琉球」銘が入る。

ＳK2019（第154図８～17） 20は素焼きの五徳である。「ふかくさ」銘と丸に「下斎」銘が入る。

（６）その他の遺物

今回の調査で出土した陶磁器類以外の出土遺物には、瓦・鉄製品・銅製品・石製品・骨加工品・貝加工品・ガラス製品・木製品がある。

①瓦（第155～160図）

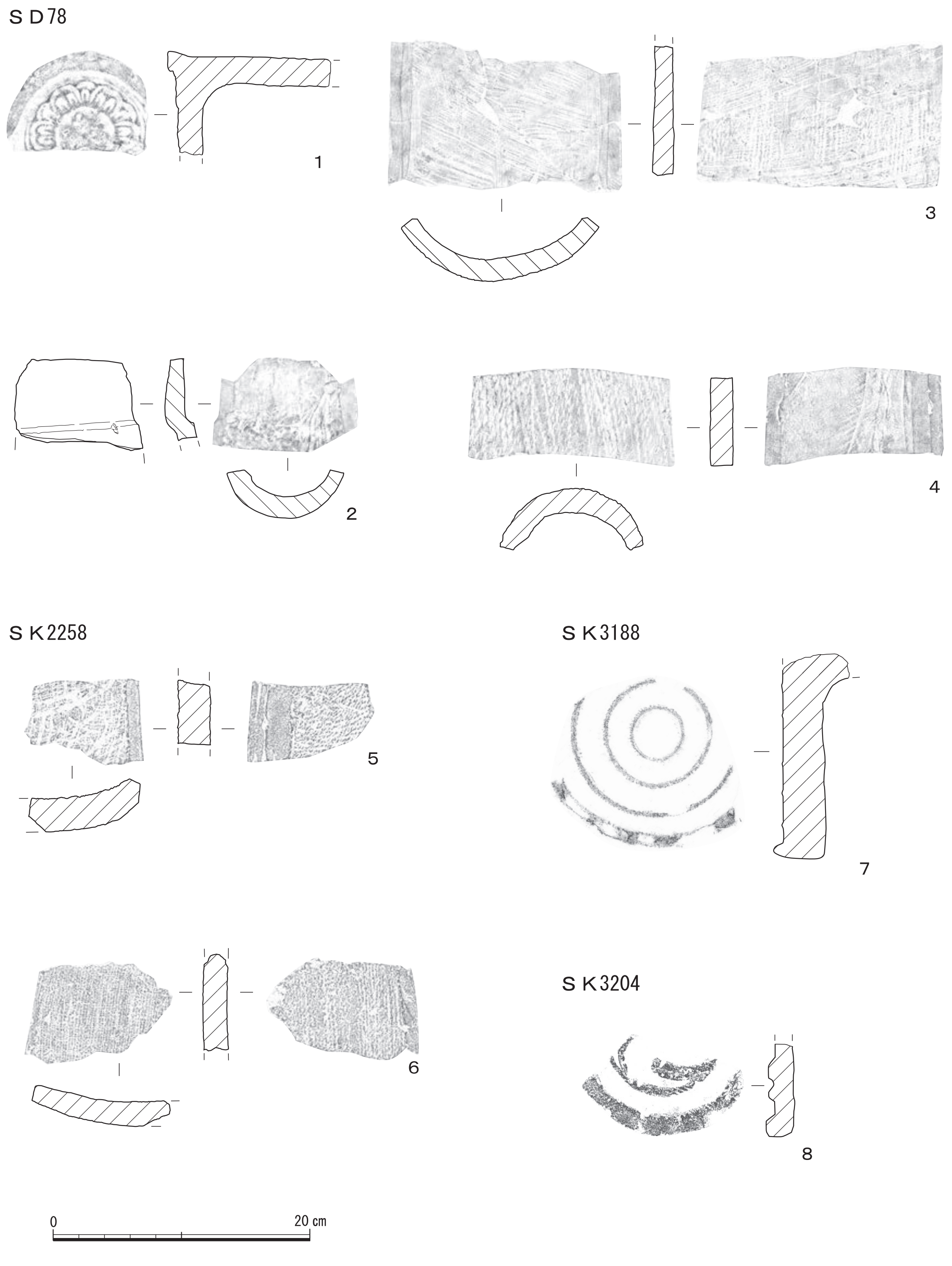
第155図１は複弁六葉蓮華文軒丸瓦である。中房の蓮子が残存するがはっきりとしない。凸面に粗い縄目跡、凹面に布目跡が残る。２は丸瓦の玉縁部である。凹面に布目の跡が残る。３は丸瓦部で、凸面に粗い縄目跡、凹面にコビキＢの調整跡が残る。４は丸瓦部で凸面に縄目跡が残る。５は平瓦で凸面に縄目跡、凹面に布目の跡が残る。６は平瓦で凸面に縄目跡、凹面に布目跡が残る。７は重圏文軒丸瓦である。８は右巻きの巴文である。扁平な文様で巴の末尾が連なる。第156図１は唐草文の軒平瓦である。凸部に布目の跡が残る。外縁部の上下に面取りが施され外縁はケズリとられている。２は平瓦である。凸面に縄目の跡、凹面に布目跡が残る。３は平瓦である。凸面に縄目の跡、凹面に布目の跡が残る。また、凹面には「右坊」の刻印が施されている。４は唐草文の軒平瓦である。凹面に縄目の跡が残る。５は丸瓦である。凹面にコビキＡの痕跡が残る。６は唐草文の軒平瓦である。凹面にナデ調整、凸面に布目跡が残る。７は剣頭文の軒平瓦である。凹面にナデ調整を施し、凸面に布目の圧痕を残す。第157図１～７は金箔瓦である。いずれもわずかに金が残存する程度で接着剤の漆も確認できない。１は巴文の軒丸瓦で尾は長く末尾が接続する。右巻きである。珠文は７個残存する。外区外縁に工具の痕跡が確認できる。５・６は葵文の軒丸瓦である。葵文に葉脈は確認できない。７は巴文の軒丸瓦である。巴は右巻きで尾は長く内区を一周する。珠文は13個で幅広く配置される。９・10はいずれも桟瓦である。ＳＥ3171の瓦組に用いられた瓦で打ち砕かれている。第158図１～５はＳＥ135から出土した嘉永の大火に罹災して廃棄された瓦である。４は唐草文の軒平瓦で中心飾りに宝珠を用いている。第159図３～８はＳＫ2042から出土した天明の大火で罹災して廃棄された瓦である。４・５は波濤文の軒平瓦である。第160図８～13はＳＥ3312から出土した瓦である。ＳＥ3312は幕末の京都守護職上屋敷に伴う遺構と想定され、内部に投棄された瓦は上屋敷関連の建物に葺かれていたと考えられる。８は波濤文の軒平瓦である。11は唐草の軒平瓦で内面にカキヤブリの調整が施される。12は巴文の軒丸瓦である。巴は左巻き、珠文は11個付く。

②鉄製品（第161図）

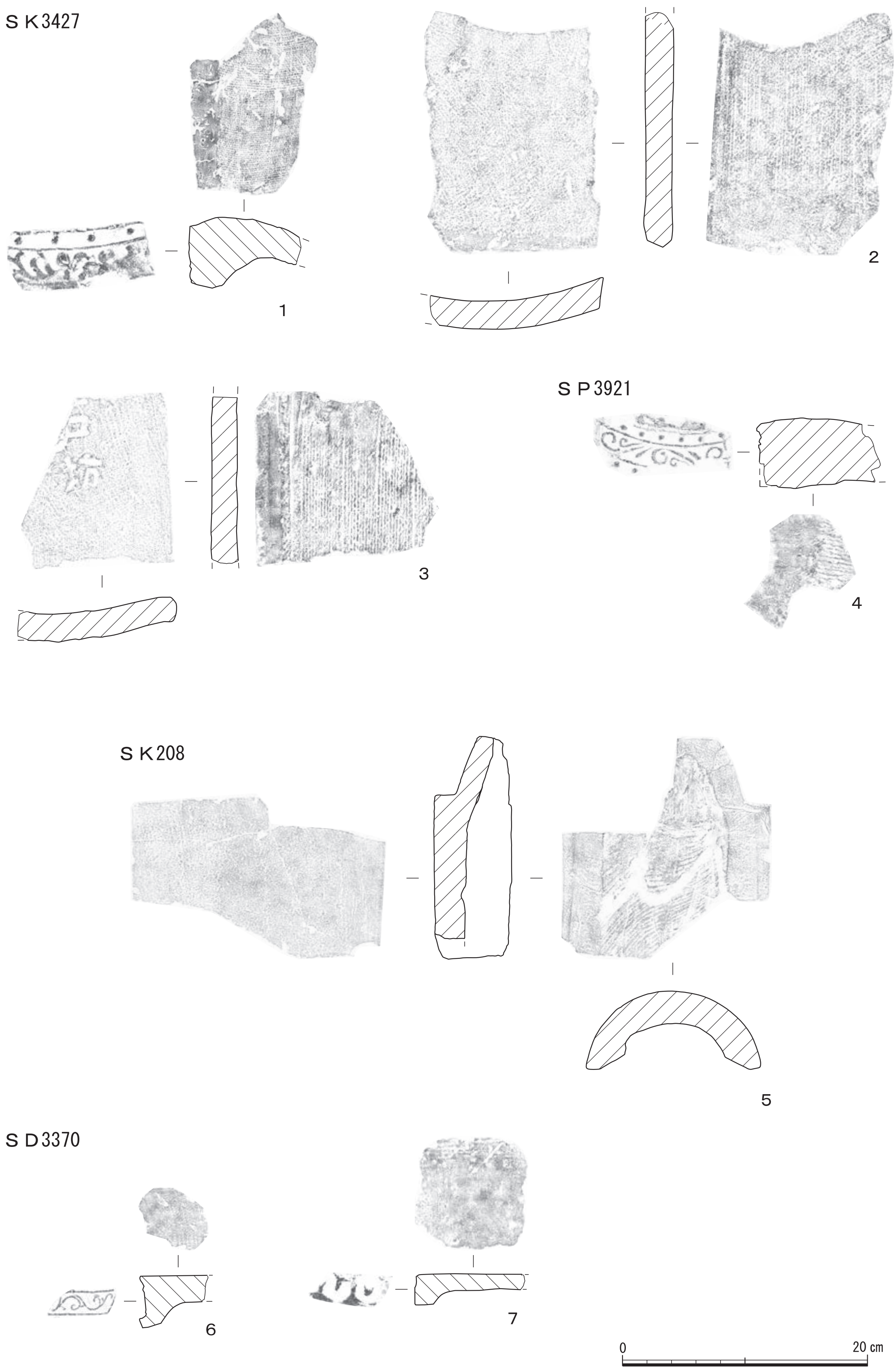
１は鉄刀である。刀身の一部しか残存しておらず刀身の全容は判然としない。２～６は包丁である。６は茎と柄を固定するための口金が残存する。12は鍬である。「Ｕ」字形の刃先で内側は風呂を差し込むように二股になり断面は凹形を呈する。

③銅製品（第162・163図）

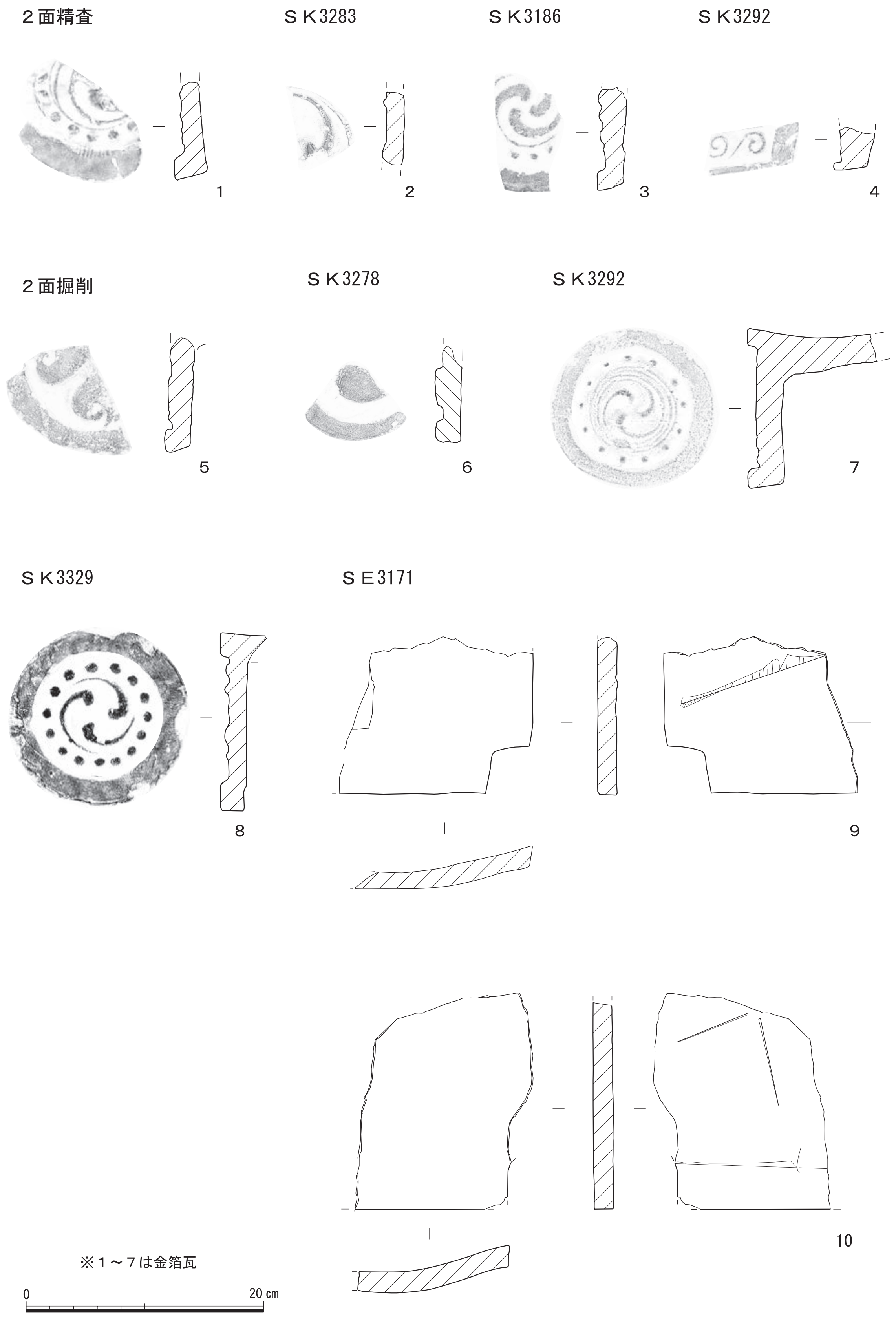
第162図１・２は火熨斗である。１は火桶にあたり、２は火桶と柄をつなぐ留め具である。内部に灰が詰められていたことから火熨斗と考えられる。３は竿秤の秤皿である。薄く伸ばした銅



第155図　瓦実測図１

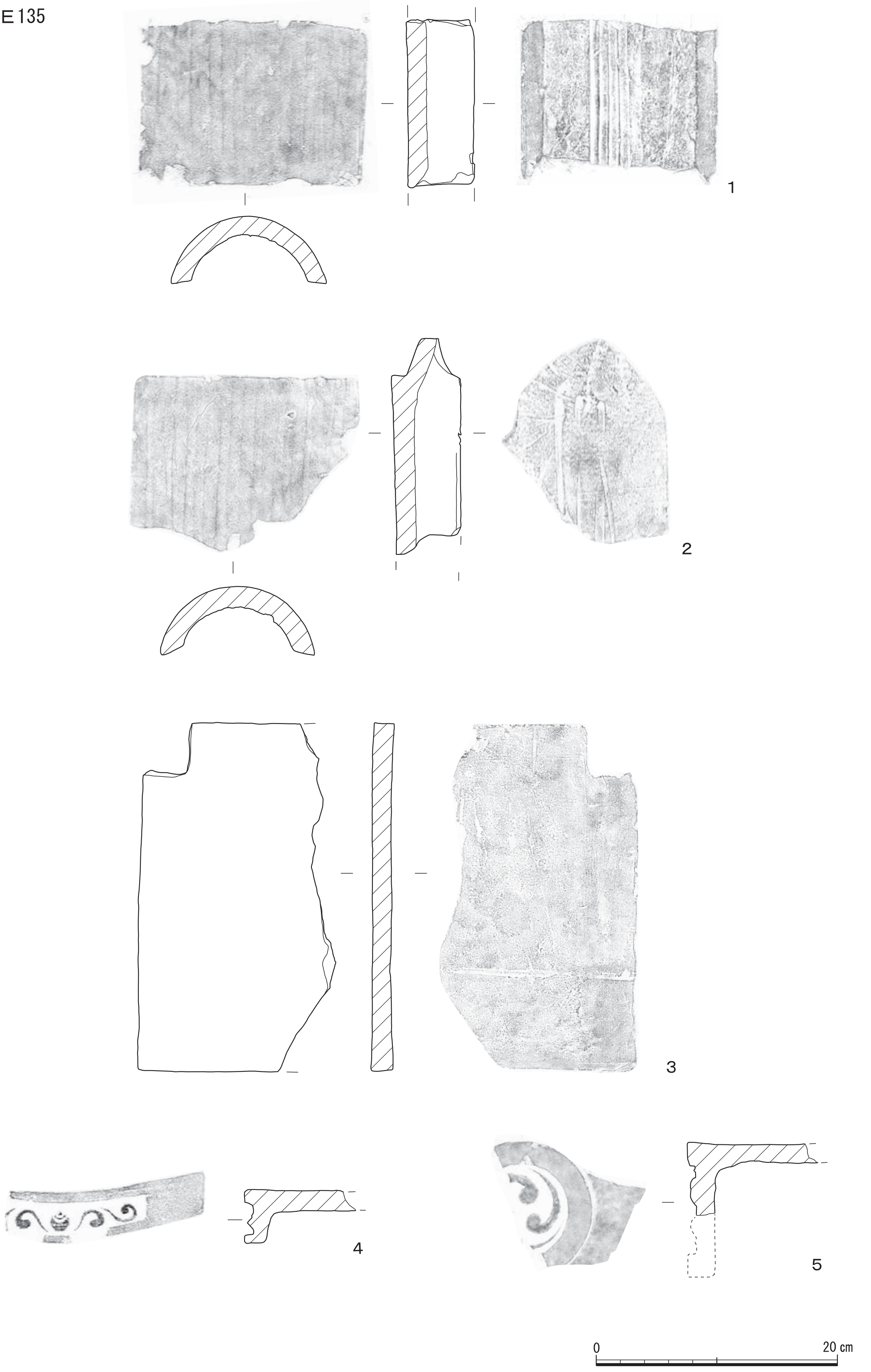


第156図　瓦実測図２

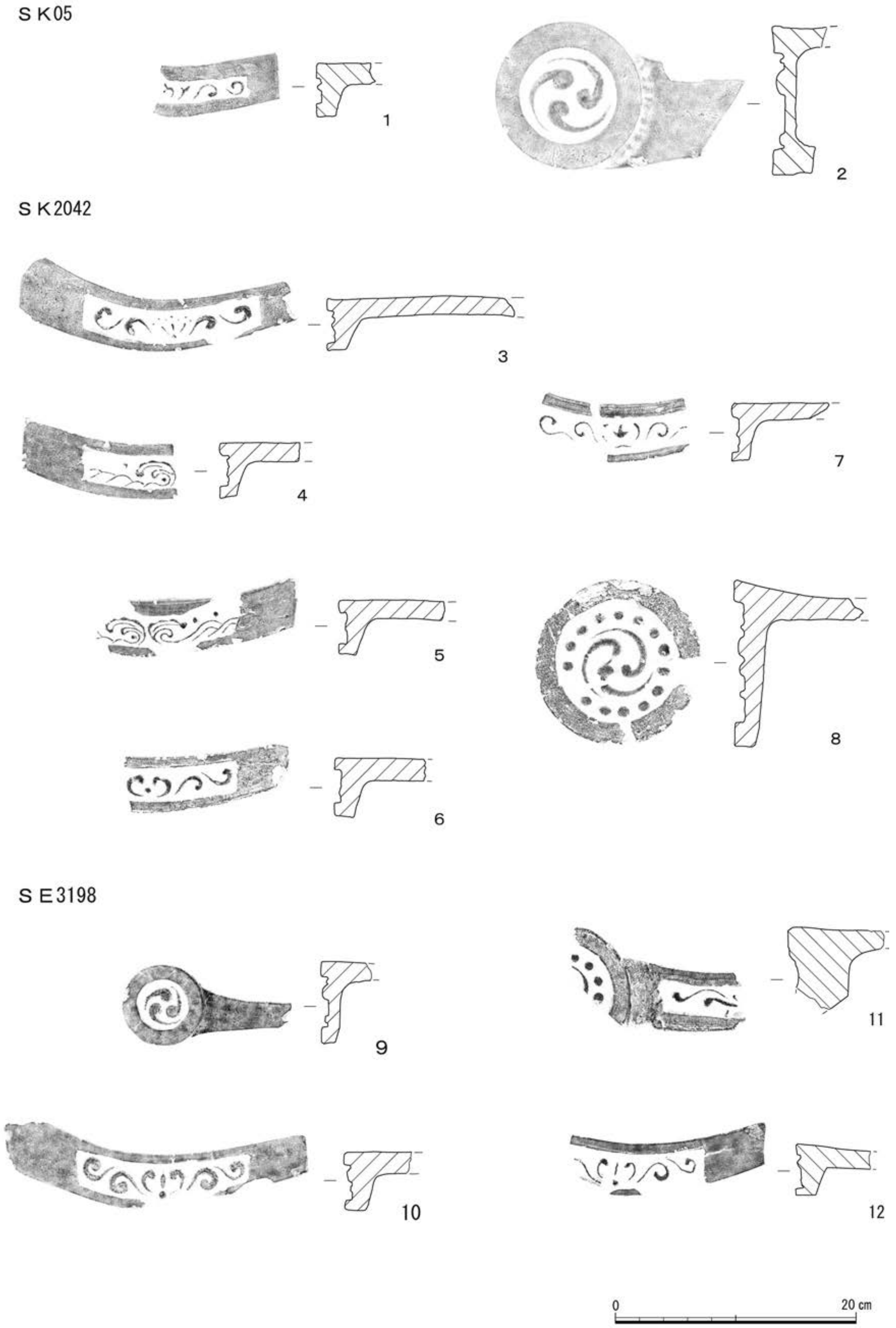

２面精査
ＳＫ3283
ＳＫ3186
ＳＫ3292
1
2
3
4
２面掘削
ＳＫ3278
ＳＫ3292
5
6
7
ＳＫ3329
ＳＥ3171
8
9
10
※１～７は金箔瓦
0
20㎝

第157図　瓦実測図３

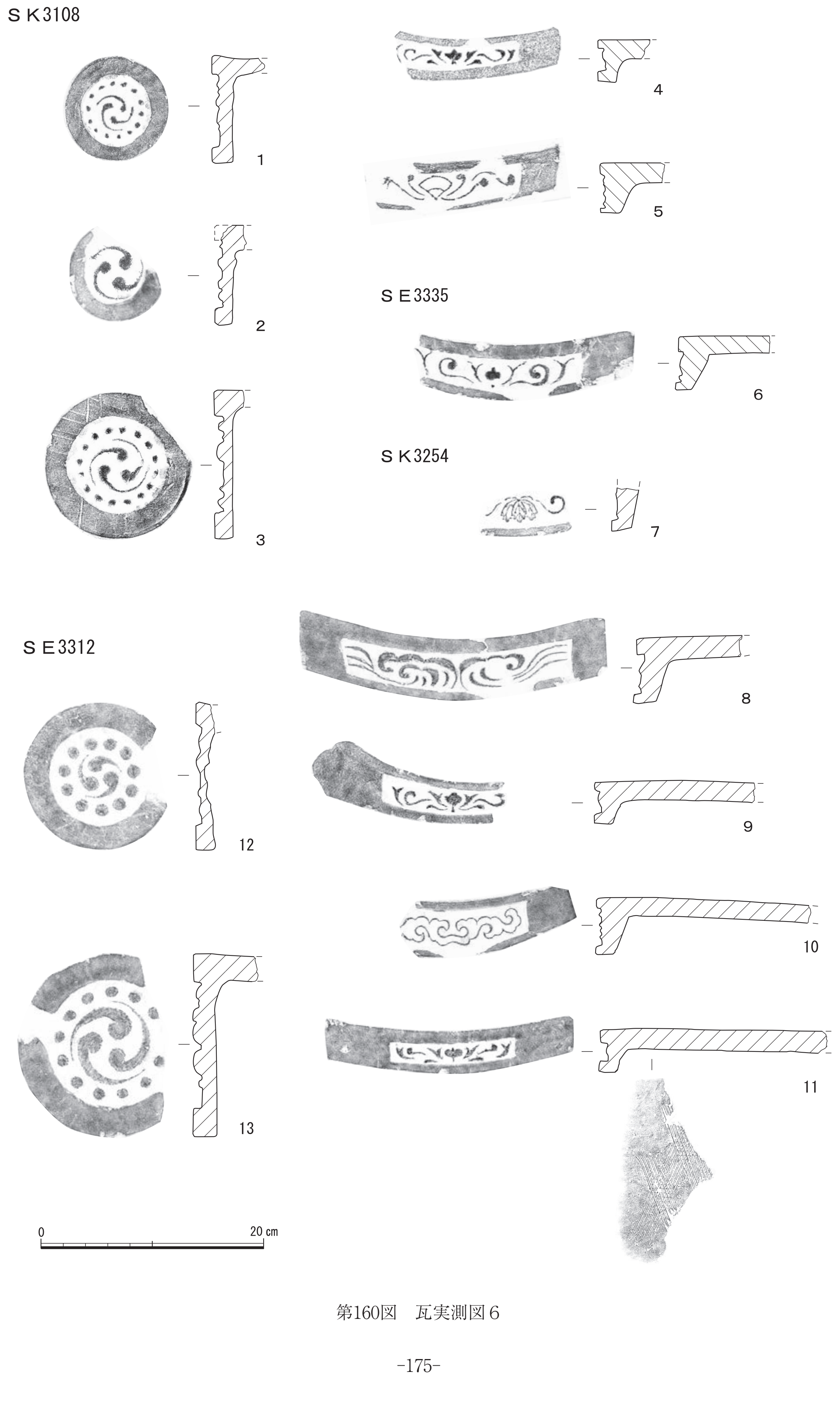
ＳＥ135



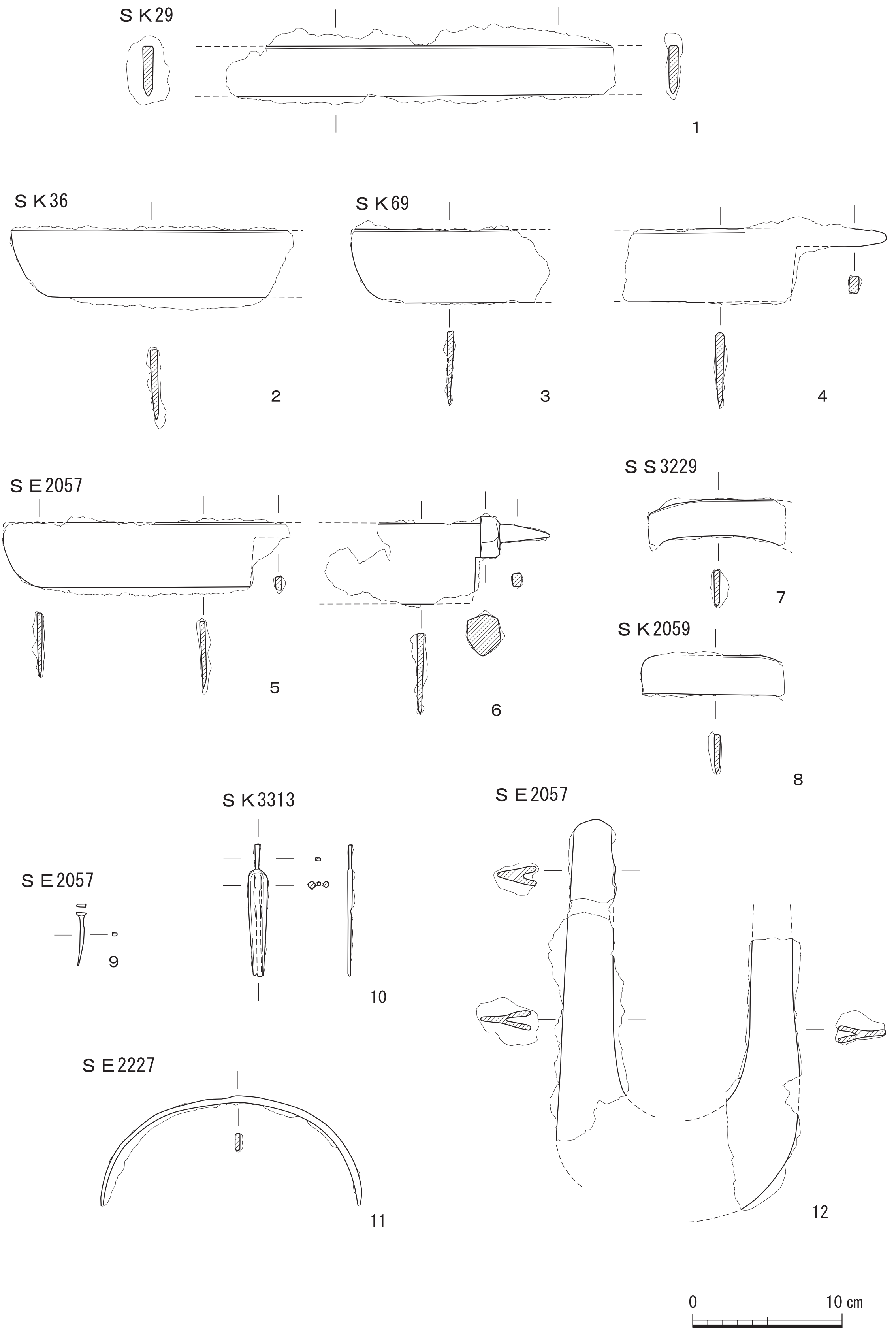
第158図　瓦実測図４



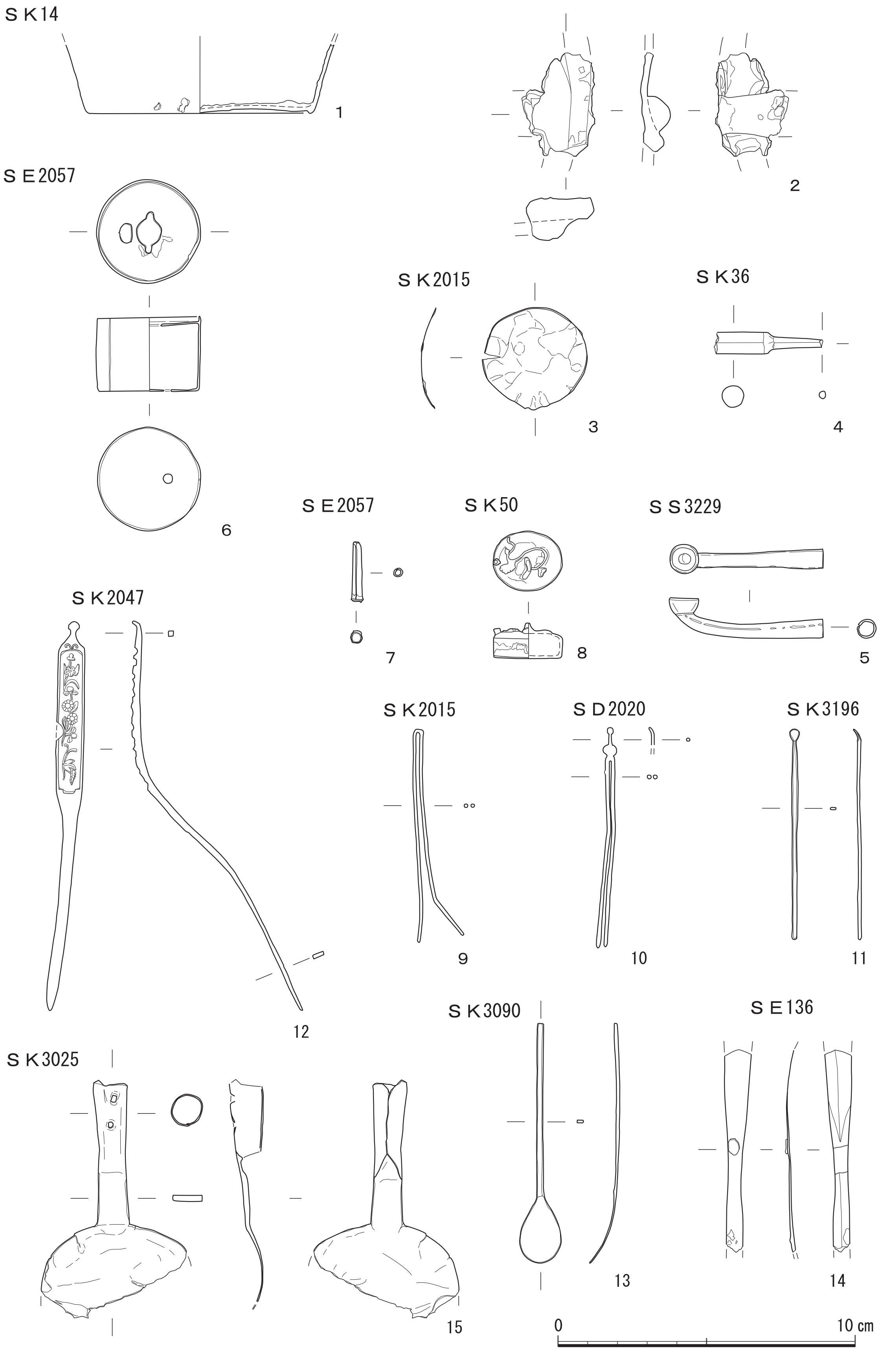
第159図　瓦実測図５



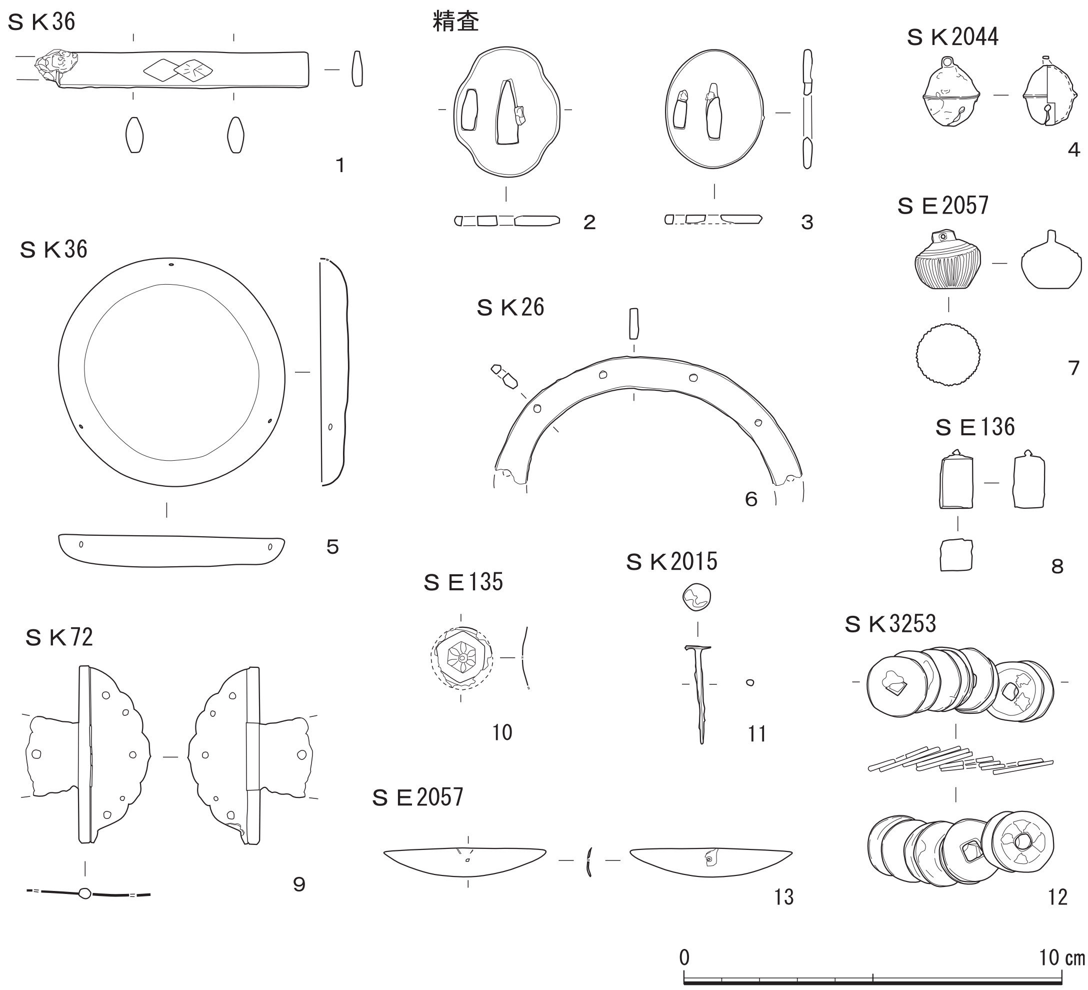
第160図　瓦実測図６



第161図　鉄製品実測図



第162図　銅製品実測図１

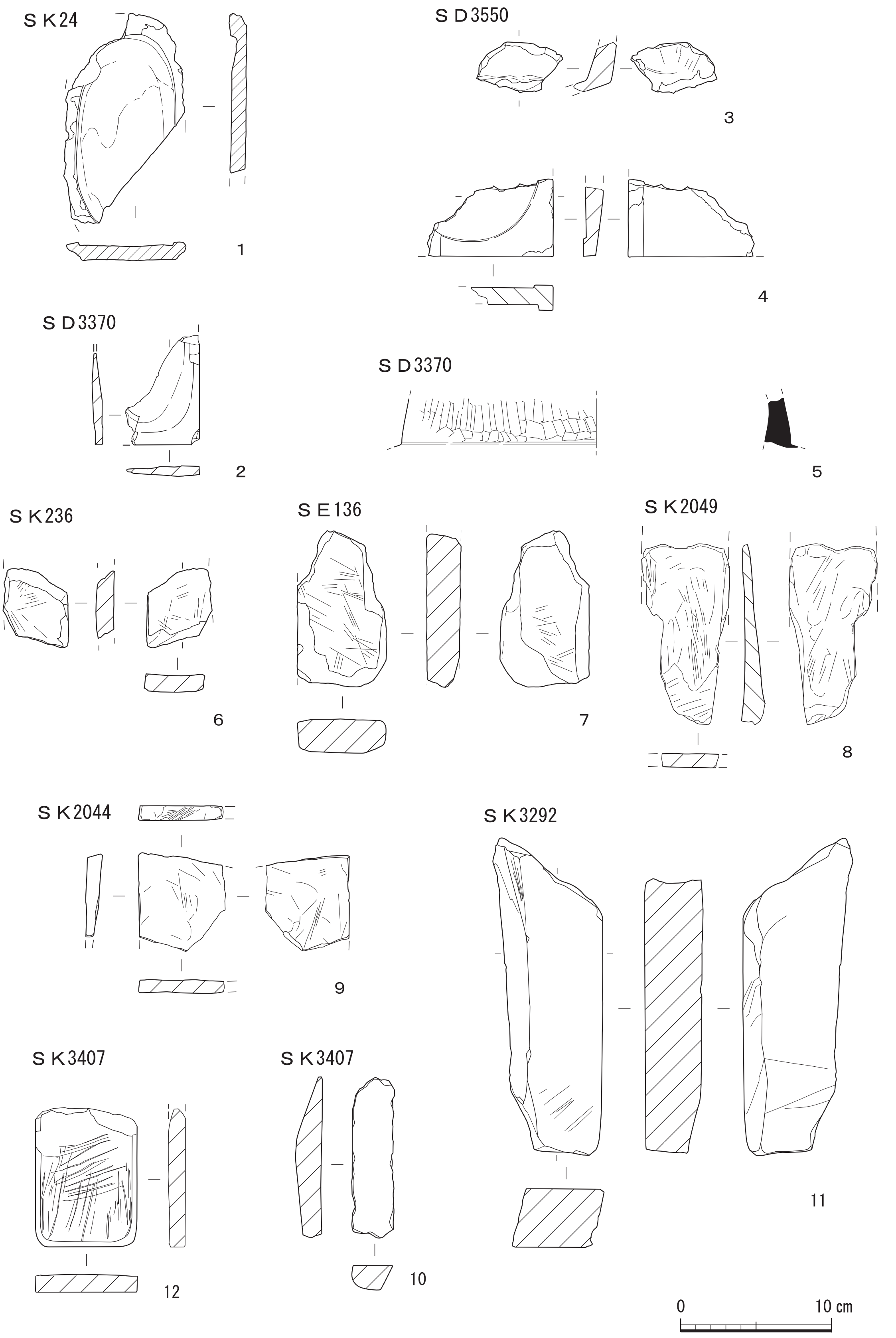


第163図　銅製品実測図２

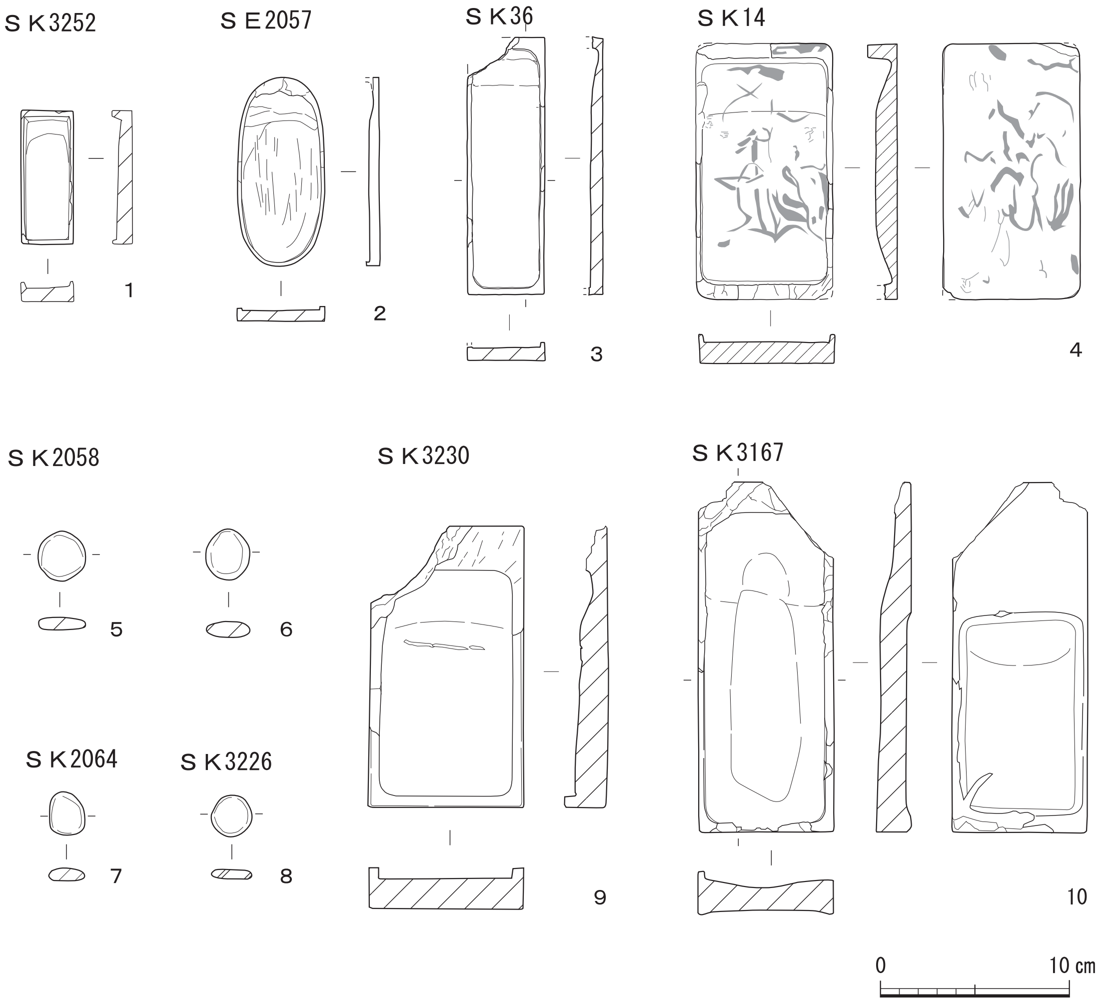
板に切れ目を入れ重ねるように曲げる。６は用途不明品である。上部と下部に穴が空く。７は６の内部に入っていた筒型の製品である。12は笄である。胴の地板には草花の文様を付している。15は杓子で把手の接続部には釘留めの穴が残る。第163図１は小柄である。小口に刀身が一部残存する。紋は菱形文を重ね、螺鈿で装飾する。４は鈴で表面は金が塗られている。５は竿秤の皿で三方に糸を通すための穴が空いている。13は塗金された金具である。中央部に穴が空いている。家具を装飾する金具か。

④石製品（第164～168図）

第164図３は石鍋の細片である。加工を加えていることから温石として使用したと考えられる。５は石鍋の胴部である。外面にケズリの痕跡が残存する。第165図４は粘板岩の硯である。内外に墨の跡が残る。第166図３は砥石である。表面には使用した跡が残るが、裏面には工具で突いたような剥離痕跡がみられる。４は火打石である。チャートで青みがかる淡い翡翠色を呈する。長年使用されたようで剥離痕が多くついている。10は硯の未完成品である。外周に線刻が削り込まれており硯縁を切り出す途中の資料と考えられる。第167図３・４は石筆（ロー石）である。５は硯である。裏面の陸側に修理痕跡がある。また裏面には引立烏帽子をかぶり甲冑を装着し、左

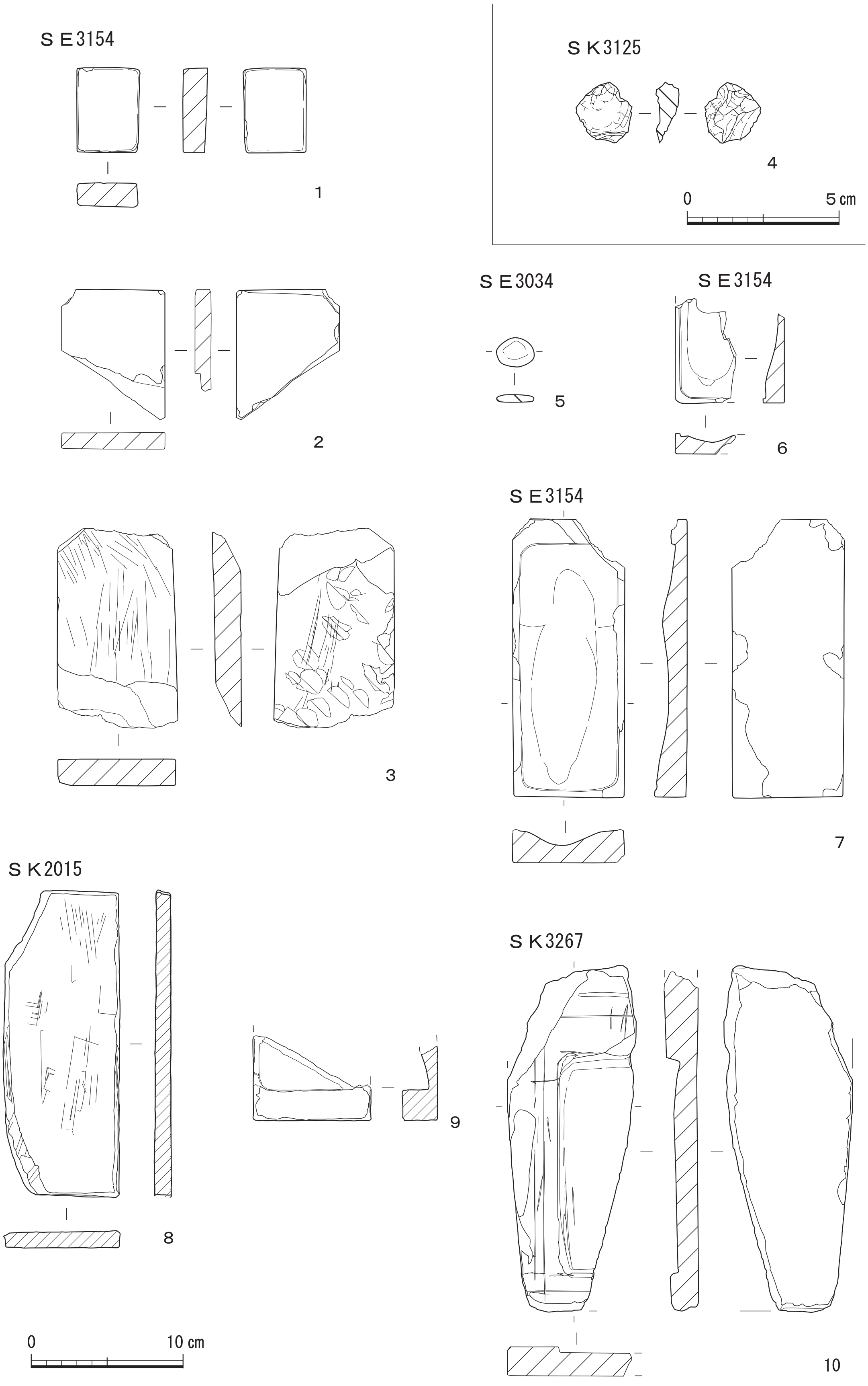


第164図　石製品実測図１

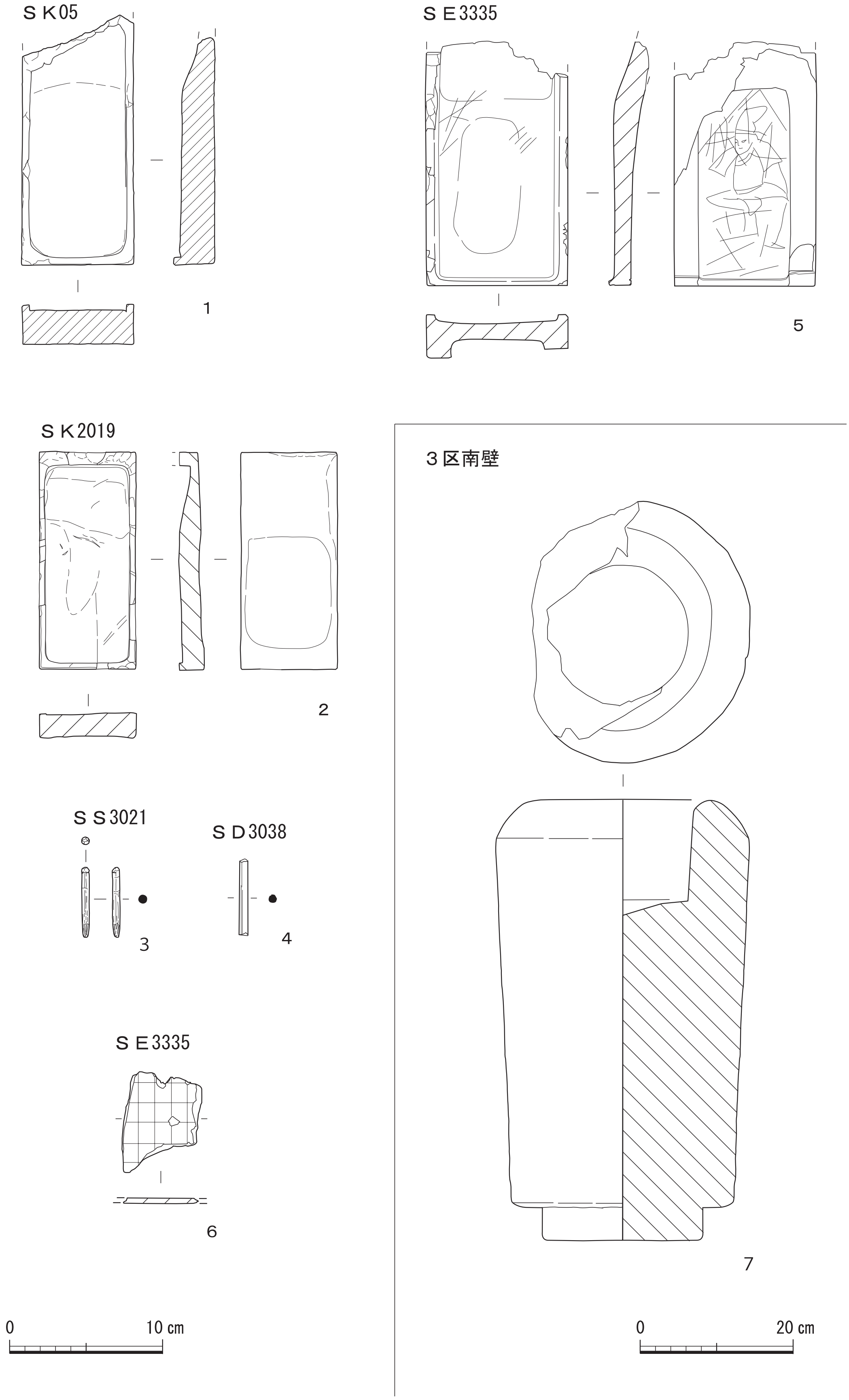


第165図　石製品実測図２

足を踏み下げ右足を左足の膝の上に組んで座る人物が線刻で描かれている。６は石盤である。方眼が線刻されている。石盤に石筆で文字を書いたと考えられる。７は手水鉢である。３区南壁から出土した。江戸後期とみられる。いわゆる棗形である。第168図１～４は礎石である。いずれも摺り穴を持つことから大きな門扉の回転軸を受ける軸摺り石であると想定される。１～３は花崗岩である。４は凝灰岩で軸受が擦り減って底部を貫通している。被熱していることから火災により廃棄されたと考えられる。３のように小さな規格の礎石や本来基壇の化粧に用いられる４のような凝灰岩が軸摺り石に使用されていることから別目的で使用されていた石を転用した資料と考えられる。

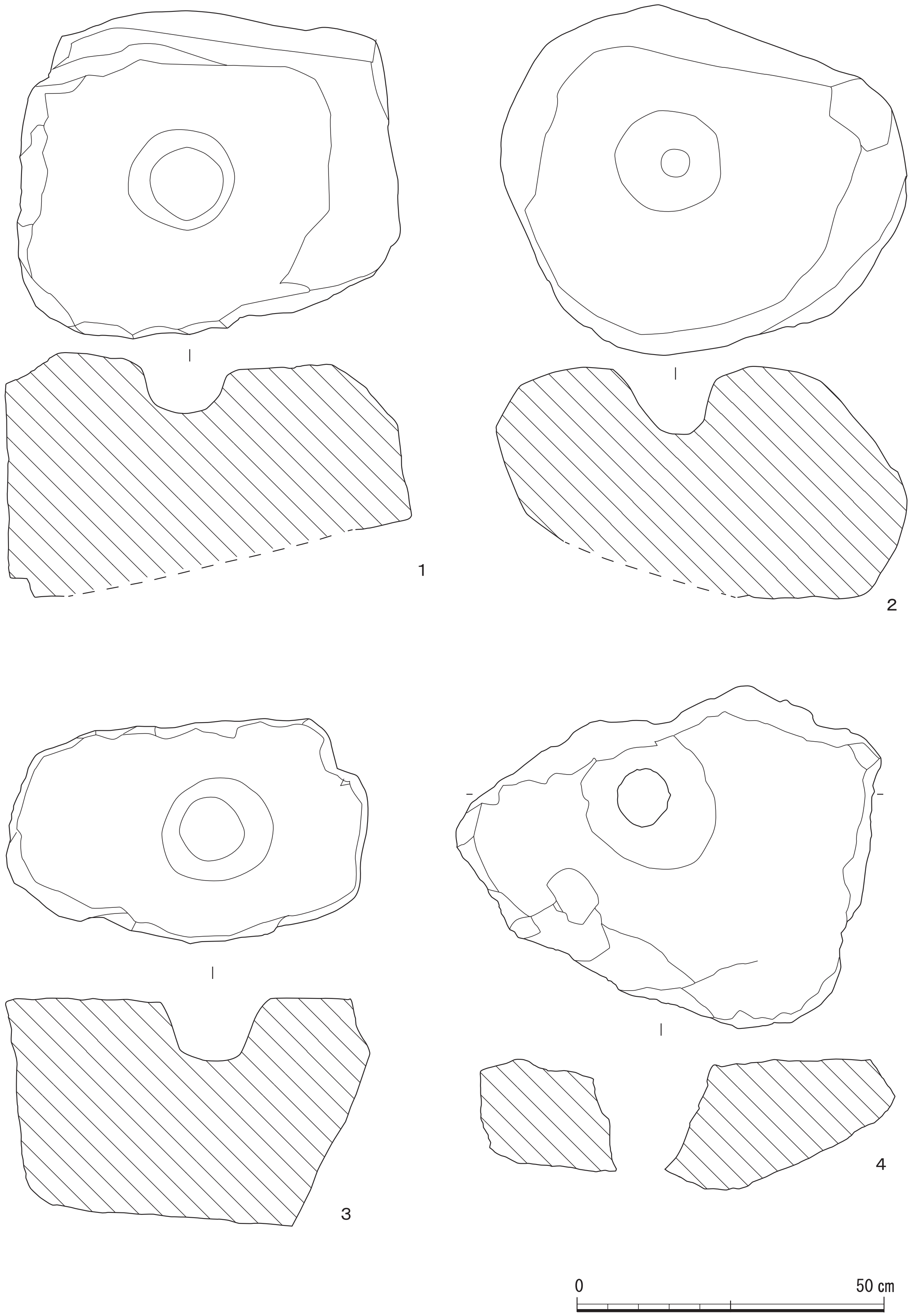


第166図　石製品実測図３

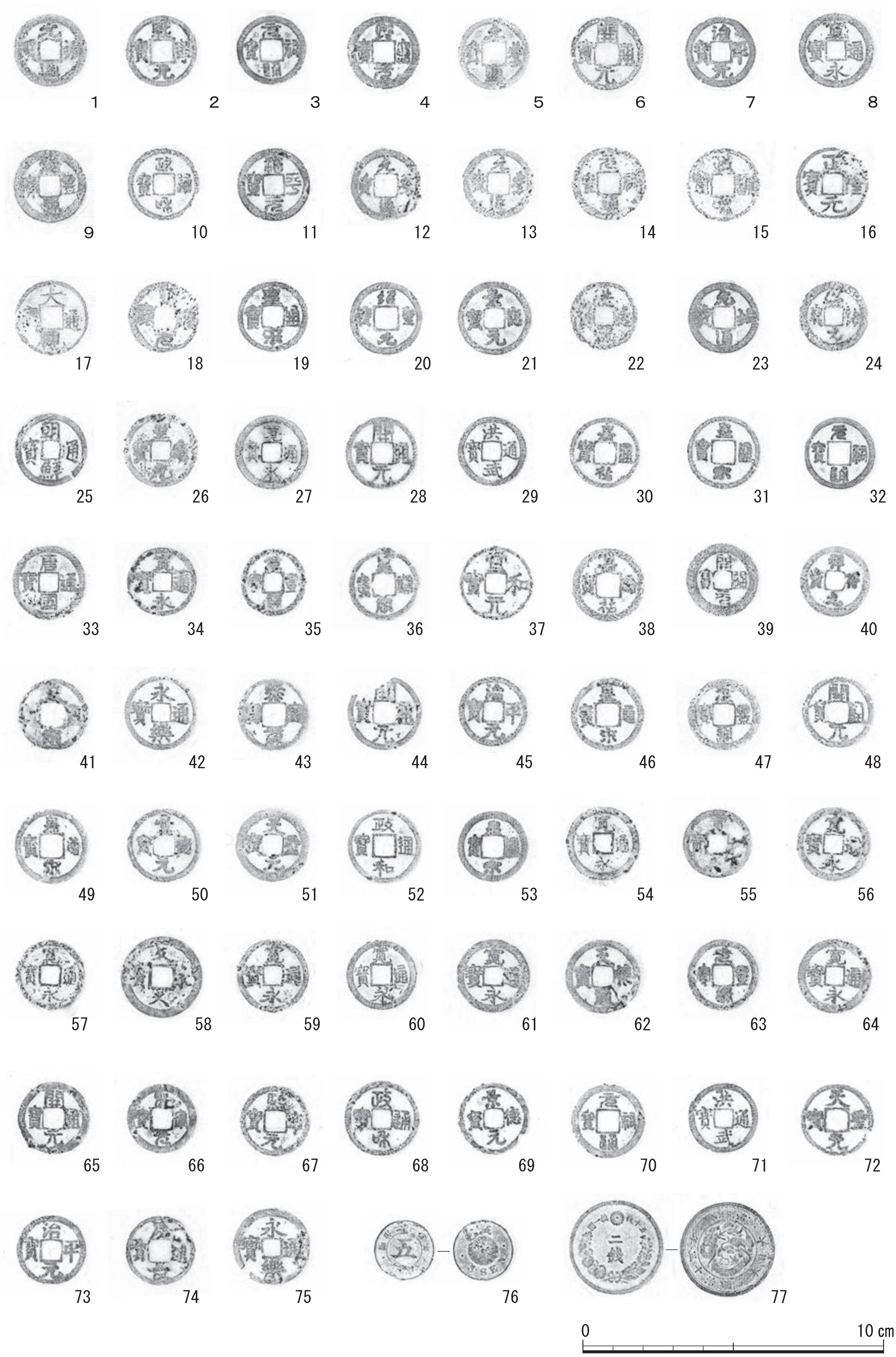


第167図　石製品実測図４

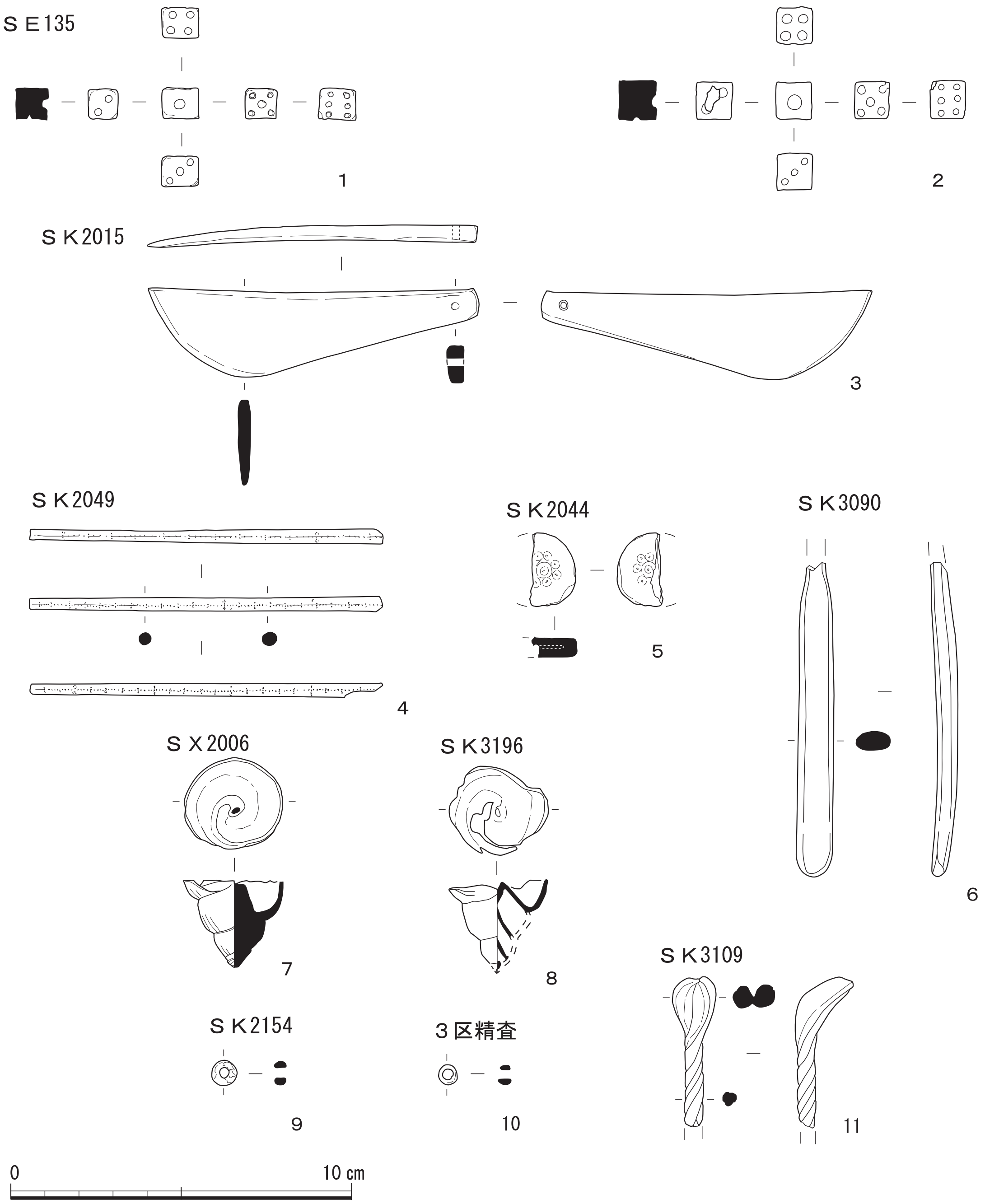
ＳＫ2258



第168図　石製品実測図５



第169図　銭貨実測図(出土地は付表6参照)



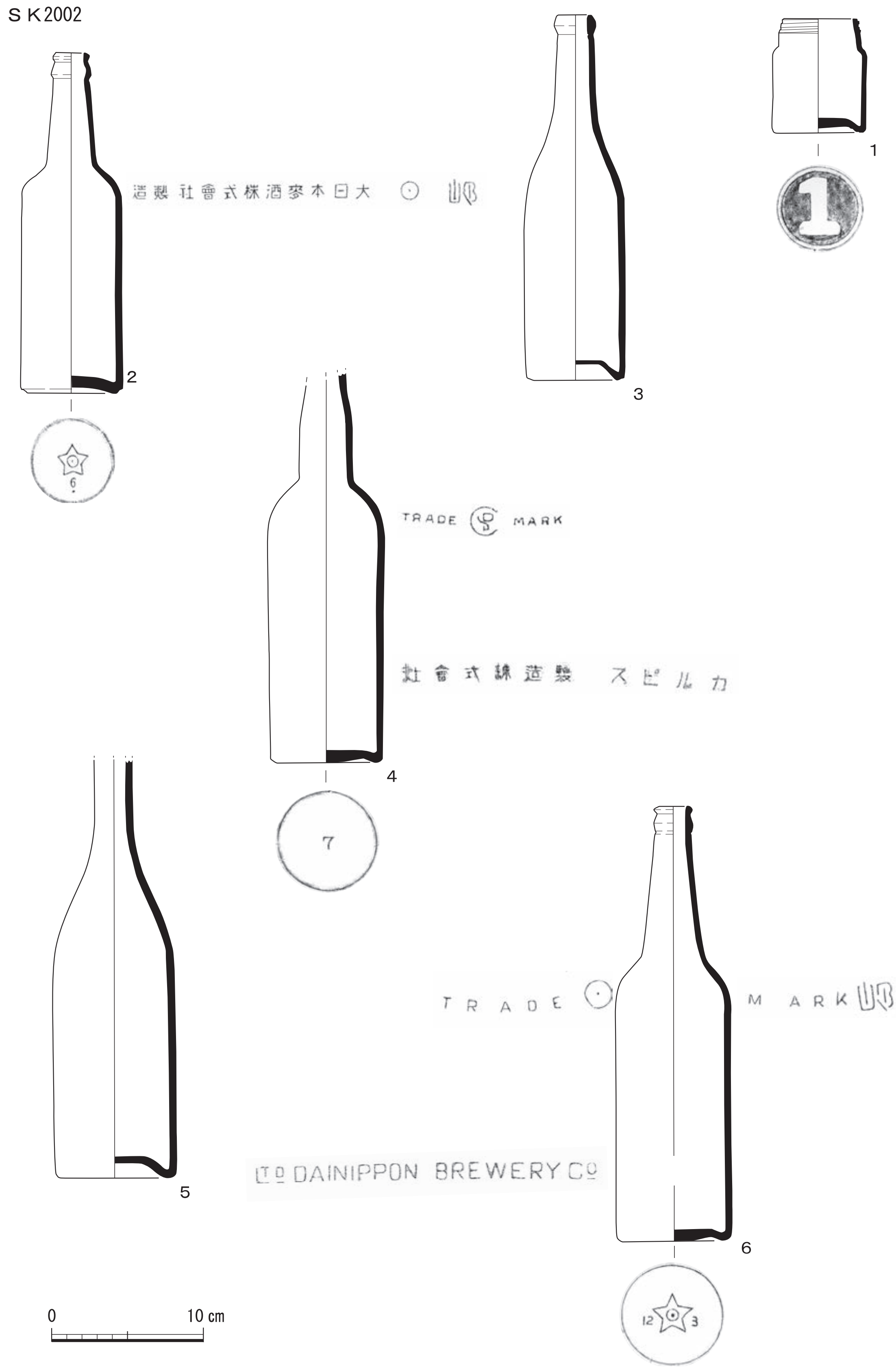
第170図　骨・貝加工品・ガラス製品実測図

⑤**銭貨**（第169図）

６は開元通寳である。初鋳は唐代の621年である。16は正隆元寳である。初鋳は金代の1158年である。25は朝鮮通寳である。初鋳は1423年である。33は唐國通寳である。初鋳は959年。37は宣和元寳である。初鋳は1119年である。真書。58は文久永寳である。初鋳は1863年。草文。74は慶長通寳である。初鋳は1606年である。77は二銭銅貨である。「明治十三年」鋳造である。

⑥**骨・貝加工品**（第170図１～８）

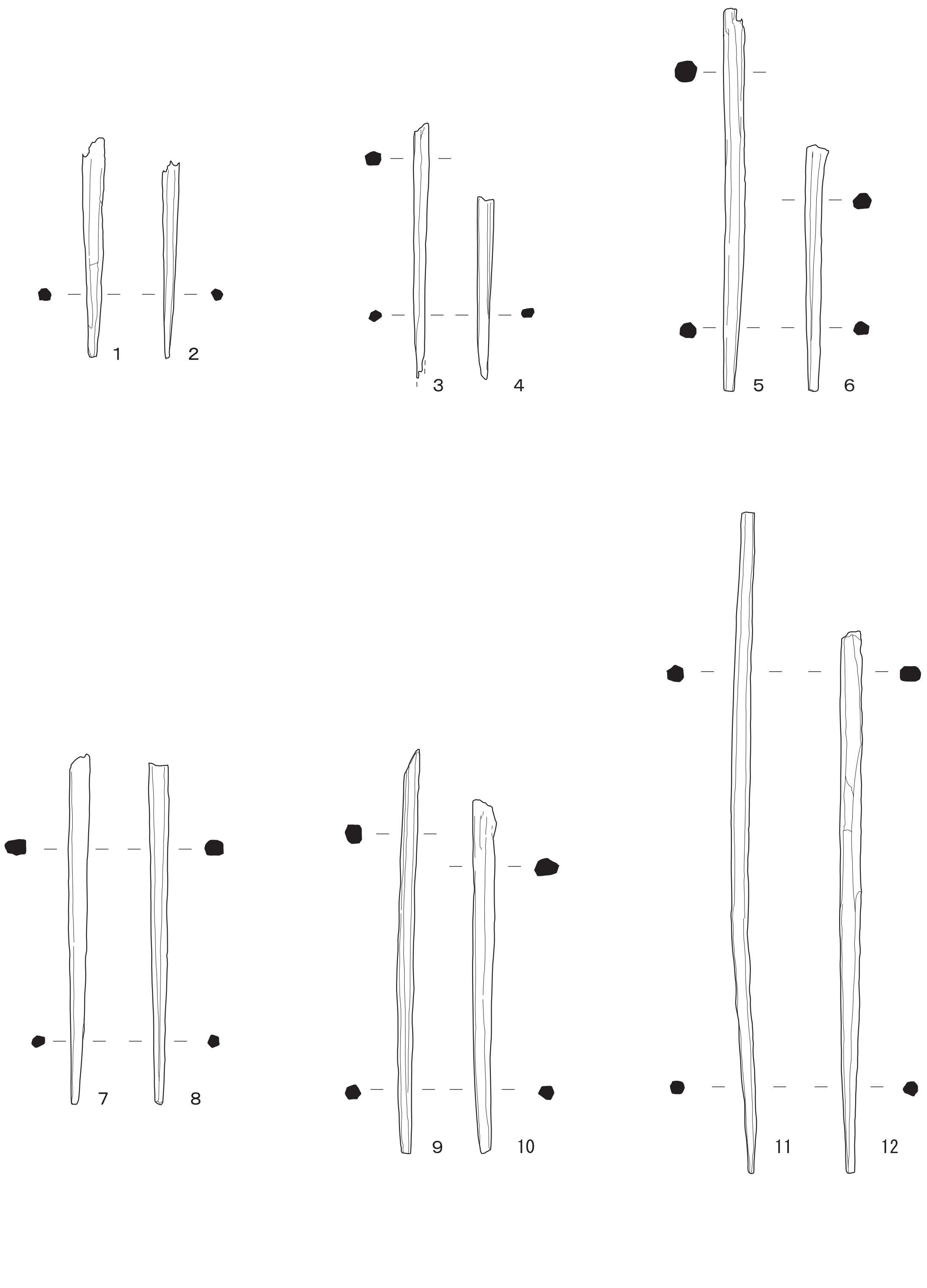
第170図２は骨製のサイコロである。被熱しており、内部が焼け落ちている。３は骨製の着付け篦である。持ち手部分に穿孔が施してある。４は骨製の竿秤の竿である。竿には三方向に目盛



第171図　ガラス製品実測図

りが打刻されている。５は骨製の双六の駒である。コンパスで内面に模様を描く。７・８は貝製の独楽である。バイ貝の殻口部を切除し内部に土や蝋を充塡して独楽として用いる。

ＳＥ2227



第172図　木製品実測図

⑦ガラス製品(第170図9～11・第171図)

第170図9・10は青緑色のやわらかいガラス玉である。11はガラス製の簪である。無色透明でねじりを加えている。第171図2はガラス瓶で「大日本麥酒株式會社製造」銘が入る。4はガラス瓶で「カルピス　製造株式會社」銘が入る。6はガラス瓶である。肩部に「TRADE MARK」底部付近に「Ltd DAINIPPON　BREWERY co」銘が入る。

⑧木製品(第172図)

木製品はＳＥ2227から出土した箸がある。六膳出土し、いずれもケズリ成形で端部が細くなる。

７．まとめ

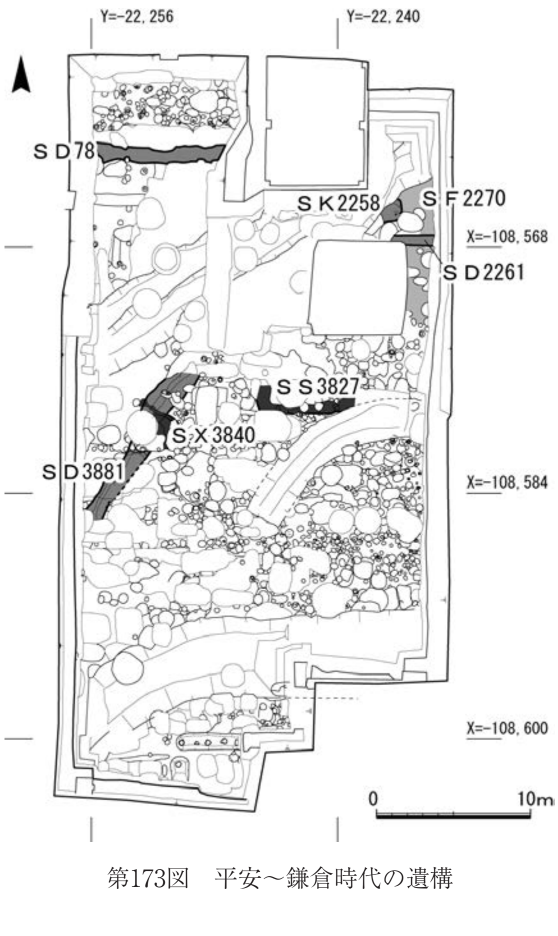
今回の調査で検出した遺構は総数1,485基を数える。まとめとして調査地の遺構の変遷について概観する。また、主要な遺構については別項にて記載を行う。

１)遺構の変遷について

(1)平安～鎌倉時代(第173図)

平安時代から鎌倉時代の遺構は希薄で、平安中期の遺構はＳＫ2258をはじめ数基しかない。

ＳＦ2270は粘土まざりの礫を多く内包する。SF2270は下層に黄色の硬質の礫層が確認され、この礫層に張り付くように検出されたことから、路面として造成されたと考えられる。SF2270はＳＫ2258に削平されていることから、この路面は10世紀には存在していた近衛大路の路面であると判断した。ＳＫ2258は、大型の土坑で一部に被熱痕が確認できる軸摺り石が出土している。同遺構は近衛大路にあたる路面を掘削していることから、恒常的に開口していた土坑というよりも、空閑地であった大路の路面に掘削せざるを得なかった土坑と考えられる。このことから災害後の整理に伴い掘削された土坑であったと思われる。



第173図　平安～鎌倉時代の遺構

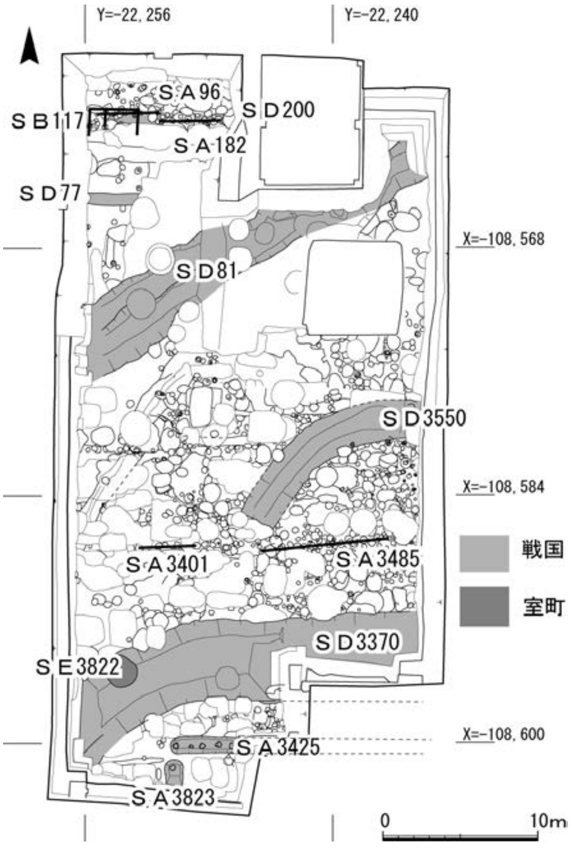
ＳＤ2261は、ＳＦ2270を掘削して造られた平安後期の溝と考えられる。大路の道幅は時代によって変化することが示唆されている(京都府埋文センター1988)ことから、ＳＤ2261も時代により変化する道幅の状況を示す一例と考えられる。ＳＤ78は、その北側で多数の遺構が検出されていることから近衛大路の北側側溝であると判断した。ＳＤ78は、ＳＤ2261よりもやや新相の土器を包含することから、大路に伴う溝は数十年単位で掘りなおされて

いる可能性がある。

ＳＳ3827は同安窯系の青磁が出土していることから13世紀初頭築造の建物跡と考えられる。西側に出入り口のある蔵などの建物と想定できる。また、ＳＳ3827以外の13世紀から14世紀にかけての遺構はほとんど確認できなかった。当該期の遺物は後世の遺構から混入して出土する状況が確認できることから、本来は遺構が構築されていたが、後世の削平により消失したと考えられる。

（２）室町～戦国時代（第174図）

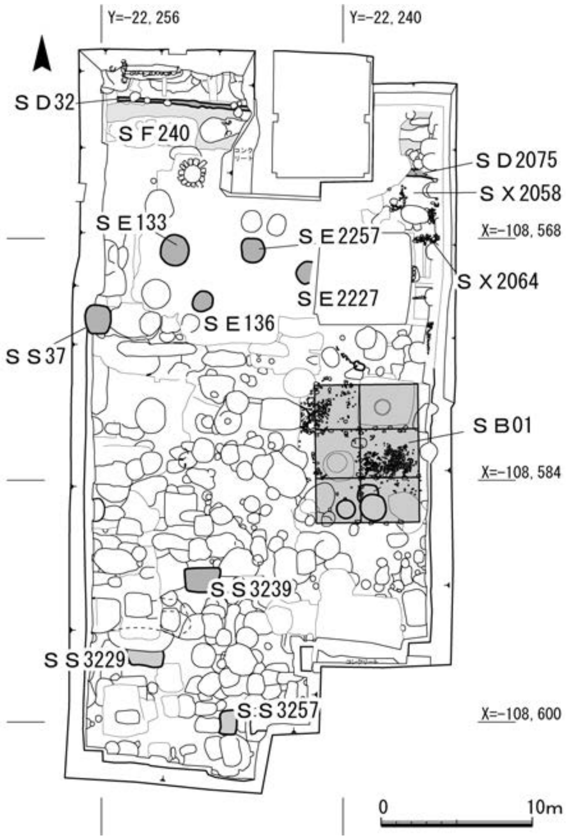
室町時代前期にあたる14世紀後半から15世紀後半にかけては、土師器皿をはじめとする遺物を包含する遺構がみつかっているが、顕著な遺構は少ない。そのなかでもＳＡ3401、ＳＡ3485、ＳＡ182のような柵、ＳＥ3822の石組井戸は15世紀段階では当地が居住域であった状況を示唆する貴重な遺構である。



第174図　室町～戦国時代の遺構

応仁の乱以降は道路側溝のＳＤ77が埋没し、ＳＤ81、ＳＤ3370、ＳＤ3550といった巨大な堀が掘削される。15世紀末にＳＤ81が掘削され、その後にＳＤ3370とＳＤ3550が掘削される。ＳＤ81は、ＳＤ77が示す近衛大路を突き抜けて構築されている。大路を切り裂く、京の条坊に沿わない堀が掘削されていることから、前例にそわない応仁の乱後の混乱した状況が垣間見える。ＳＤ81は攪乱による削平が激しく、関連する遺構が見つかっていない。ＳＤ81は南北壁面の傾斜が異なっており、さらに底部に段差があることから再掘削された堀であると認識している。この認識に立てば、堀は様々な状況変化に機敏に反応しなくてはならなかった人々の立場を反映しているとの認識を有することは簡易であろう。ＳＤ81は遺物の年代から16世紀までには埋没すると考えられ、その後、ＳＤ3370とＳＤ3550が掘削される。ＳＤ81の埋没の上層に焼土が形成されており、炭化物が見つかっている。年代測定をした結果、「1451-1523 cal AD（60.7%）」との結果を得られており、遺物の状況と齟齬はない。

ＳＤ3370とＳＤ3550の堀掘削時に合わせてＳＡ3425とＳＡ3823が構築されたと考えられる。しかし、遺構の性格上ＳＡ3425とＳＡ3823は様々な年代の遺物の巻き込みがあり、年代を細かく決定できない。ＳＤ3370とＳＤ3550は、出土遺物から時期差はほぼ見出せず、同時期に掘削されたと考えられる。また、ＳＤ3370南側に位置する布掘り柱列ＳＡ3425とＳＡ3823は、左京一条三坊二町の調査で検出されたものよりもはるかに深く、１ｍを超える掘削深度を有している。掘形内からは柱跡がみつかっており、堀形内の置石上に柱を据えて土砂を詰めている工事の過程が確認



第175図　安土桃山時代・江戸時代前期の遺構

できる。　なお、当調査地南東部におけるその後の京都府教育委員会の調査成果から、ＳＤ3425は東に延びることが確認されている。このことから、ＳＤ3425は塀などの構築物の基礎と考えられ、ＳＡ3425とＳＡ3823間が掘削されていないのは上部の構築物をより強固にするための工夫であろう。また、ＳＤ3550が途切れているのは、ＳＤ3370との間を外から内側に入るための通路としていたからであり、通路とその周囲を監視するためにＳＡ3425とＳＡ3823からなる構築物が建てられたと考えられる。調査地のこのような状況から、これらの遺構を施工した集団は南側に居住し、出入り口はＳＤ3550の南側をまわっていたのかもしれない。いずれもＳＤ81と同様に条坊に沿わない施設であるが、ＳＤ81とは異なり、計画的に準備された施設と考えられる。京中の治安の悪化に伴い防御施設として堀が掘削されたことは明らかであろう。堀は埋没状況から、ＳＤ3550以外は南側に土を置いていたことがわかっており、南側に守る対象があったことを示している。

左京一条三坊二町の調査では堀Ａが検出されており、この堀が北側を守る上京の構えの一部であると指摘されている。堀Ａは機能時期が16世紀と推定されている。本調査で検出したＳＤ3370とＳＤ3550の堀が15世紀末から16世紀初頭と若干時期が重なるところから、対峙する状況が一時期あった可能性がある。当地は、後年の織田信長による旧二条城やその前段階の斯波氏の武衛陣が南東に位置する立地条件にあり、信長の二条城とは年代が合わないが、斯波氏の武衛陣との関連性は考えておく必要があるだろう。

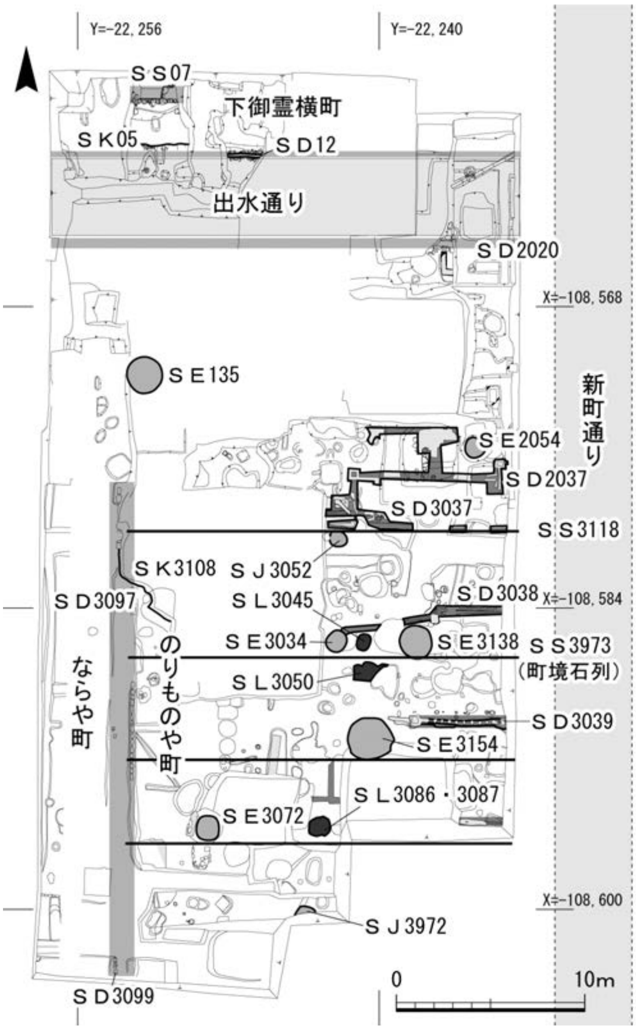
（３）安土桃山時代・江戸時代前期（第175図）

第２面で検出した遺構の多くは、江戸時代前期の遺物を包含する。廃棄土坑は１区の南側から３区の西半に集中する。調査地北側に出水通（近衛大路）、東側に新町通が位置することから、両通りに面する家々の裏手に当たる範囲がゴミ捨て場として使用されていたものと考えられる。廃棄土坑は、江戸時代を通して幾度も埋没と掘削を繰り返したようで、江戸時代後期に至るまで多くの土坑が切り合い、多量の遺物と有機物の残滓が確認できる。

調査地の北側には、出水通（ＳＦ240）とそれに伴う道路側溝（ＳＤ32、ＳＤ2075）が検出され、ＳＤ2075の南側では、黄色の粘土を基盤に、築地跡と想定されるＳＸ2058と建物の基礎ＳＸ2064を検出している。３区のＳＢ01と合わせて通りに面して建物が建てられていた状況が看取される。

建築物の一部であるこれらの遺構から出土した遺物には、15世紀末から16世紀初頭のいわゆる唐津などが混入しており、この時期頃に一帯が発展したことを示している。また、調査区内で出土した井戸（ＳＥ136、ＳＥ2227など）と石組遺構（ＳＳ3229、ＳＳ3239、ＳＳ3257など）の多くは、17世紀半ばに埋没するようで、この段階で大きく町の環境が変化したようである。

これらの状況は、焼土こそ確認できないものの、多量の炭化物とともに出土した遺物から、火災を大きな転換点として町が変わってきたことを示していると考えられる。元和６（1620）年の元和の大火後にＳＢ01などが建てられ、寛文13（1673）年の寛文十三年の大火で焼亡し、その後復興するも宝永５（1708）年の宝永の大火で再び焼亡する。元和の大火と寛文十三年の大火では、廃棄土坑内で炭化物が確認できるが、後年の天明８（1788）年の天明の大火のように焼土が確認できない。これは、瓦などの火災の熱を滞留させる要員が当時の町家に存在していなかったことを示していると考えられる。実際、瓦の出土は天明の大火に伴う火災後整理の土坑や嘉永の大火に伴う遺構からが大半であり、それ以前は金箔瓦のまばらな出土に限られることから、江戸時代前期では調査地一帯に瓦を葺く建物は存在していなかったものと考えられる。



第176図　江戸時代後期の遺構

また、安土桃山時代の遺構と遺物については、ある程度確認できるものの、大規模な建物などはなかった。先述したように、大名屋敷に葺かれていたと考えられる金箔瓦も金箔が激しく摩耗し、瓦自体もわずかに残存している状況であった。それゆえ、実際に葺かれていた場所から移動した、もしくはその後の開発で破壊され、関連遺構そのものが残存していないと考えられる。

（４）江戸時代後期（第176図）

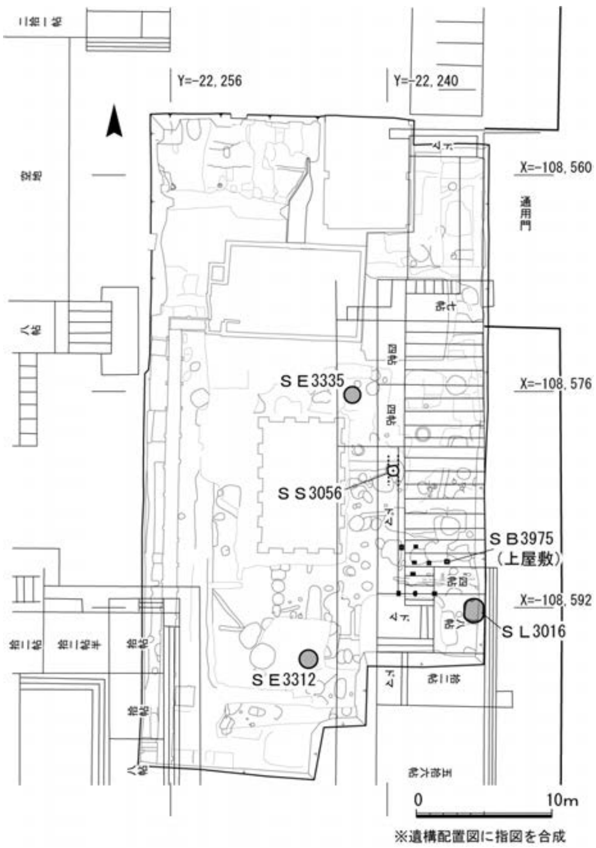
第１面で検出した遺構のほとんどは、嘉永７（1854）年の嘉永の大火に焼亡した町家関連の遺構である。天明の大火に伴う遺構に関しては断面からも確認でき、一部残存した遺構を第２面以降で取り上げた。

江戸時代後期は町家として機能していたが、嘉永の大火後は復興が進まず、京都守護職が文久

２(1862)年に当地に設置される。ＳＤ12は18世紀の土師器皿片が出土した出水通りの北側道路側溝である。ＳＤ2020は、溝内に19世紀の遺物を包含する出水通りの南側側溝である。路面は幾度も修築された跡が確認でき、互層状に重なり合っていることから通りは維持されており、出水通に面して町家が並んでいたと考えられる。

新町通りに面する町家は複数棟確認できるが、明確な家境と考えられる石列は、ＳＳ3118及びＳＳ3973の２条にとどまる。調査地の町家は生活排水を外に排出するために漆喰の暗渠を用いていた。出水通の側溝であるＳＤ2020に接続する漆喰溝から類推するに、各々の漆喰暗渠は町家が面する通りに排水していたようである。ＳＤ3039は瓦を転用した暗渠であるが、これを含めて６条の漆喰遺構を確認しており、ここから少なくとも６棟の町家が存在しており、うち１棟が出水通りに面し、残り５棟が新町通りに面していたことが分かる。ただし、ＳＤ2037のように複雑な機構を持つ溝については、正確な復原には至っておらず、今後の課題である。

町家には暗渠の他にＳＬ3050などのかまどが３か所から見つかっており、これに隣接するようにＳＥ3154などの井戸が検出されている。ＳＥ3034は漆喰の溝が接続する石組井戸で、他の井戸と比較しても浅いことから、貯水用の遺構であると考えられる。貯水用の遺構は天明の大火後にしばしば構築されていたようであり、ＳＥ3034はその一例として評価できる。そのほか、ＳＪ3052とＳＪ3972は甕を据え付けた便槽である。ＳＥ3034に投棄されていた甕などを含めて４基見つかっている。新町通りに面する町家の西端は、ＳＤ3097とＳＤ3099により区画されている。絵図によれば、東側は「のりものや町」、西側は「ならや町」である。また、出水通りに面する町は「下御霊横町」である。ＳＳ07はこの関連遺構である。町家の裏手は、江戸時代前半と変わらず不用品を廃棄する空間であったようで、ＳＫ3108のような大型の廃棄土坑が見つかっている。また、ＳＫ05は出水通りの中央に開けられた大型の土坑で、互層状の堆積が確認でき、一定期間開口していたと考えられるが、路面に大穴を開けたまま放置していたとも考え難く、どのような土地利用がされていたのかは不明である。



第177図　幕末の遺構

（５）幕末(第177図)

本調査地は、文久２(1862)年から建設着手された京都守護職上屋敷の東端にあたる。慶応３(1867)年に京都守護職が廃止されるまでの間、京都の治安維持を務めていた。京都守

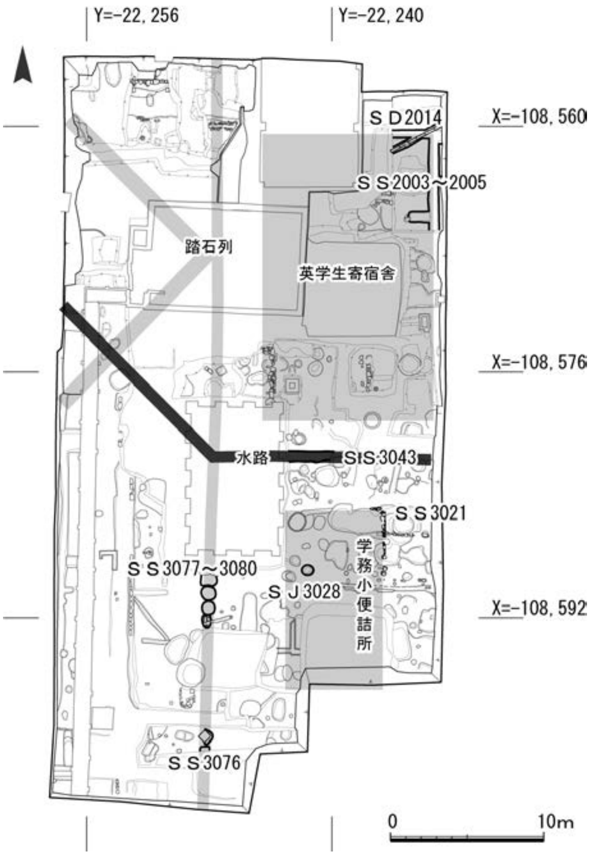
護職上屋敷に伴うとされる遺構を確認したのは、左京一条三坊二町の調査から引き続き二度目である。

町家は天明８(1788)年の天明の大火で焼亡し再び復興するが、嘉永７(1854)年の大火後は復興せず、京都守護職上屋敷が設置される。第１面で検出した遺構は、近代以降の開発により削平を受けており残存状況は悪い。守護職屋敷に関連する遺構は、上屋敷が５年間のみの機能という状況から、遺物による判別は困難であり、層位的判断と大工頭中井家の守護職指図(第２図)に残された位置情報から判断した。指図で記載されている上屋敷の敷地と現在の府庁域の形状は、ゆがみがあるもののおおよそ合致することから指図と現在の京都府庁を重ね、調査地に該当すると思われる建物に検討を加えた。

ＳＢ3975(上屋敷)、及びＳＥ3335とＳＥ3312は指図から、ＳＬ3016は層位から判断した。井戸から出土した遺物は近代の陶磁器が主体であり、中学校時代から京都府庁時代に役目を終えて埋没したと考えられる。ＳＥ3312は井戸枠内から瓦が多量に出土し、瓦当が確認できたことから、可能な限り報告している。瓦に被熱痕はなく、本瓦が混じることから上屋敷築造に伴って葺かれ、上屋敷廃絶後から継続して転用された後、役目を終えて投棄されたと考えられる。ＳＬ3016は嘉永の焼土を削平して設置されたかまどで、層位から守護職関係の施設と判断したが、指図では「ドマ」隣りの「八帖」と書かれた空間に位置することから、指図と相違する。左京一条三坊二町の調査でも指摘されているが、上屋敷は建設段階で改変が行われていたともあり、今回のかまどもその可能性を示唆していると判断し、報告することとした。このほか、ＳＳ3056は漆喰で造られた排水施設であり、指図上では「ドマ」に位置する。調理等で使用した水を捨てる施設であったのだろう。その南のＳＢ3975(上屋敷)は、指図上では板間と四帖が位置する。

（６）中学校（第178図）

京都守護職の上屋敷が廃されたのちさまざまな公の施設が当地に移転したが、京都府中学校は明治６年から17年にかけて存続していた。建物は新築されており、関連施設の基礎などが見つかっている。ＳＳ3076、ＳＳ3077からＳＳ3080は中央建物の周囲をかこむ踏み石である。また、ＳＳ3043はぐり石が敷き詰められた遺構であるが、延長線上の東壁に石組があり、溝であると判断した。溝は踏み石を横切っている。東側は新町通りの側溝に接続し排水していたようである。ＳＳ3021は「学

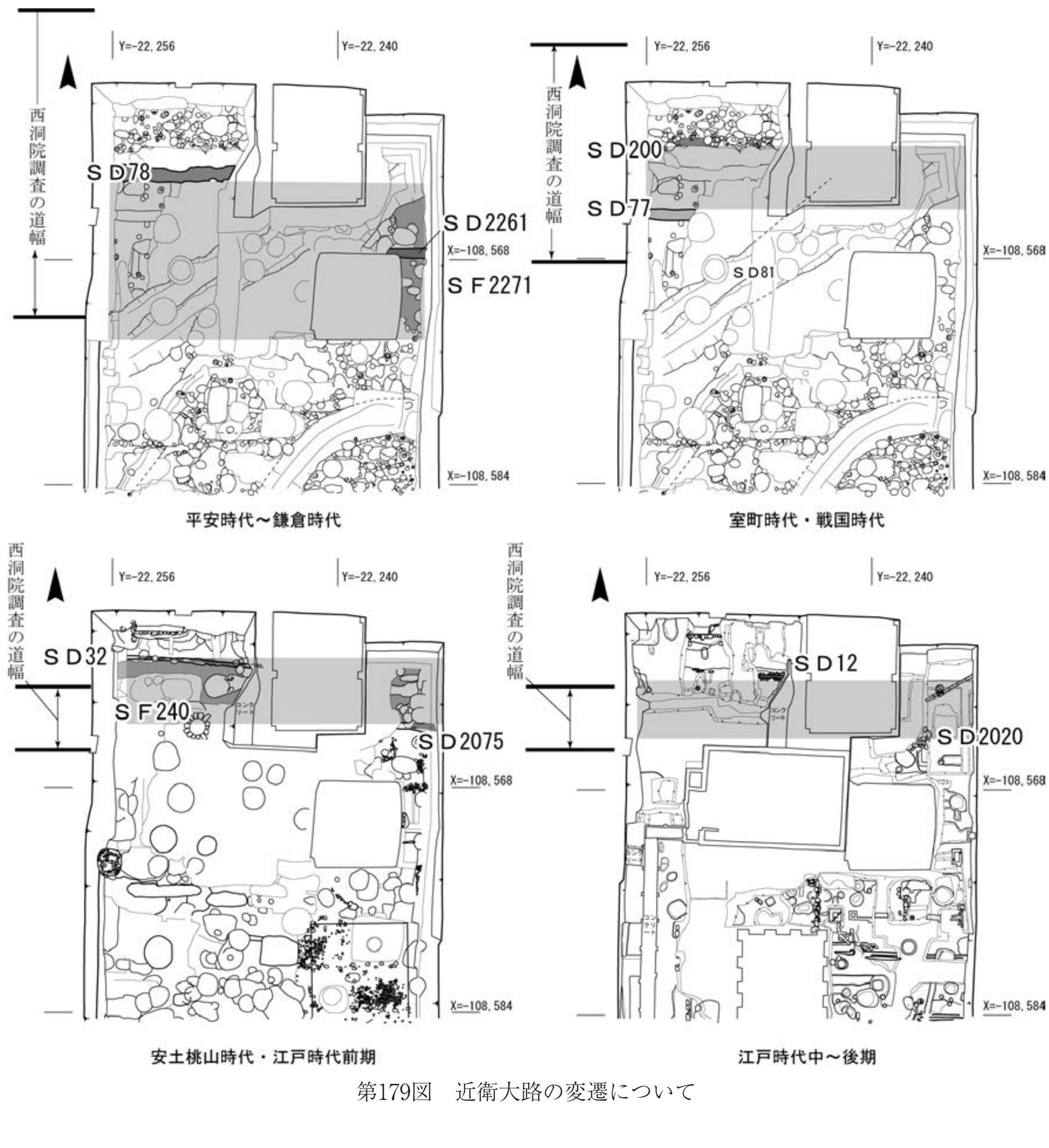


第178図　中学校の遺構

務小便詰所」の建物基礎である。ＳＪ3028はその便所の底部に当たる。甕の壁面に尿素の結晶物が付着していることから、便所は溜め置きしておいて汲み取っていたようである。北側のＳＤ2014は土管の敷設された暗渠で、ＳＳ2003～2005が基礎を担う「英学生寄宿舎」の排水菅である。

（７）京都府庁

今回の調査でレンガ積の建物基礎などが見つかっているが、紙幅の都合上別稿にて紹介したい。今回報告したのは、鉄筋コンクリート製のボイラー室に付属する燃焼部の掘形であるＳＫ2001・ＳＫ2002の遺物である。土瓶が集中して出土している。土瓶は、底部や蓋の裏に各々の所有課が記されているものがあった。インク瓶やガラス瓶は、燃焼部周囲から出土している。炭化物を主体とする埋土中から出土しており、ゴミとして処分する際に焼け残りの煤などとともに廃棄されたと考えられる。ガラス瓶の「カルピス製造株式会社」は、「カルピス」の製造元が、大正12(1923)年に会社の商号を「カルピス製造株式会社」に変更した後、昭和23(1948)に「カルピス食品工業



第179図　近衛大路の変遷について

株式会社」に商号を変更するまでの間に生産されていた瓶であると考えられる。また、「DAINIPPON BREWERY」及び「大日本麥酒株式会社」は、明治39(1906)年に大阪麦酒と日本麦酒と札幌麦酒が合併して誕生する大日本麦酒株式会社のことと考えられる。同社はアサヒ・サッポロ・ヱビス・ユニオン・カブトなどビールを販売したが、昭和24(1949)年解散している。これらの遺物から、ボイラー室は20世紀の前半に稼働していたといえよう。

また、ＳM3968はその上面から明治13年に鋳造された二銭銅貨が出土しており、その頃に敷設された整地であると考えられる。

２)近衛大路の変遷について

調査区北側は、過去の平安京(左京近衛・西洞院)(以下西洞院)の調査成果から、近衛大路が通っていたと推定される範囲であり、調査着手段階より平安京から江戸時代に至るまでの路面が検出される可能性が示唆されていた。第179図には、本調査で明らかとなった各時代の近衛大路の状況を示している。各時代の平面図の左側に示している線幅が、西洞院で検出された路面の位置である。ＳＦ2271は平安時代の路面であると想定され、図のトーンで示した範囲が平安京当初の近衛大路であると考えられる。また、ＳＤ78とＳＤ2261はそれぞれ道路側溝であるが、南限はＳＦ2271の確認できる範囲をもって南限とした。ともに平安京当初から存在する道路側溝ではなく、道幅が変更された鎌倉時代初頭頃の範囲を示す側溝であろう。ＳＤ78は北側側溝で、ＳＤ2261が南側側溝と考えられる。平安京建設当初の道幅は、西洞院と南限をほぼ同じくする。北端については、鎌倉時代初頭の段階しか判別できないが、この時期から道幅は縮小している。

室町・戦国時代では、ＳＤ77とＳＤ200が道路側溝として確認できる。ただし、近衛大路を横断するＳＤ81が機能していた段階でも道路側溝として機能していたかどうかは不明である。道幅SF2271と比較して半分程度にまで縮小しており、かつ西洞院の成果と比較しても半分以下である。北側はピットが集中していることから、宅地化していると考えられる。

近衛大路は江戸時代以降、出水通りと呼称されるようになることから、以下は近衛大路を出水通りと呼称する。江戸時代初頭ではＳＤ2075が出水通りの南側側溝となり、ＳＤ32が北側側溝として機能しているならば、第179図左下のようになる。室町・戦国時代から位置と道幅にあまり変化はない。西洞院辻の成果と比較しても路面幅に差はないが、当調査地の方が北に振れている。江戸時代中期にはＳＤ12が北側側溝、江戸時代後期にはＳＤ2020が南側側溝として機能している。道幅はやや狭くなり南に振れているが、西洞院で見つかっている路面の延長線上に調査地の路面が位置する。西洞院で指摘されていたように、路面は時期が経つにつれて道幅が縮小する傾向が見られたが、室町時代以降の道幅に大きな変化はなく、南に振れるなどの変化がみられるにとどまった。（加藤雄太）

参考文献

平尾政幸2019「土師器再考」『洛史　研究紀要』第12号　京都市埋蔵文化財研究所
藤澤良祐2008『中世瀬戸窯の研究』高志書院
藤澤良祐2005『瀬戸窯跡群』同成社

佐藤亜聖1996「大和における瓦質土器の展開と画期」『中近世土器の基礎研究Ⅺ』日本中世土器研究会
小田木富慈美2017「大阪市内出土の陶器・土器類～17世紀の甕・擂鉢・壺を中心に～」『関西近世考古学研究会　17世紀における甕・擂鉢の流通』関西近世考古学研究会
山本雅和2017「17世紀の京都のやきもの」『関西近世考古学研究会　17世紀における甕・擂鉢の流通』関西近世考古学研究会
重根弘和2018「備前－分類と分布－」『第36回中世土器研究会　国産陶器の系譜と暦年代』日本中世土器研究会
新田和央2014「京都出土の東磐系須恵器鉢」『第33回中世土器研究会　交番系須恵器（２）－編年と分布から考える－』日本中世土器研究会
長谷川眞2007「近世丹波焼の生産と流通」『大手前大学史学研究所オープン・リサーチ・センター　研究報告　近世丹波焼の研究』第３号　大手前大学史学研究所オープン・リサーチ・センター
畑中英二2003『信楽焼の考古学的研究』サンライズ出版
畑中英二2007『続・信楽焼の考古学的研究』サンライズ出版
橋本久和2018『概論 瓦器椀研究と中世社会』真陽社
中世土器研究会編1995『概説 中世の土器・陶磁器』真陽社
大橋康二2004「将軍家献上以外の特別な意味をもつ肥前磁器二題－禁裏御用陶器と梅干用壺－」『佐賀県立九州陶磁文化館　研究紀要』第３号　佐賀県立九州陶磁文化館
九州近世陶磁学会編 2000『九州陶磁の編年－九州近世陶磁学会10周年記念－』九州近世陶磁学会
瀬戸哲也2010「沖縄における12～16世紀貿易陶磁－中国産陶磁を中心とした様相と組成－」『貿易陶磁研究』第30号　日本貿易陶磁研究会
新垣力・瀬戸哲也2005「沖縄における14世紀～16世紀の中国産白磁の再整理　付.14～16世紀の青磁の様相整理メモ」『紀要　沖縄埋文研究３』沖縄県立埋蔵文化財センター
瀬戸哲也・仁王浩司・玉城靖・宮城弘樹・安座間充・松原哲志2008「沖縄における貿易陶磁研究－14～16世紀を中心に－」『紀要　沖縄埋文研究５』沖縄県立埋蔵文化財センター
江戸遺跡研究会2018「遺物にみる幕末・明治　資料編」『江戸遺跡研究会第31回大会遺物にみる幕末・明治』江戸遺跡研究会
小栗康寛「近世・近代における土管の様相－常滑を中心に－」『江戸遺跡研究会第31回大会遺物にみる幕末・明治』江戸遺跡研究会
山崎信二2008『奈良文化財研究所学報　近世瓦の研究』第78冊　奈良文化財研究所
奥村寛純 編1976『伏見人形の原型』伏偶舎
扇浦正義、大橋康二2020「唐人屋敷跡出土の清朝陶磁中心の変遷」『第９回　近世陶磁研究会　江戸時代における年代の判る罹災資料－中国陶磁と肥前陶磁の共伴資料を中心に－』近世陶磁研究会
池 修2012『御所の器』光村推古書院
江戸遺跡研究会編2001『図説江戸考古学研究事典』柏書房
財団法人京都市埋蔵文化財研究所2004『平安京左京北辺四坊－第２分冊（公家町）－』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第22冊
古代学協会・古代学研究所1994『平安京提要』角川書店
京都府教育会1935『京都府教育史　上』
谷 直樹編2003『大工頭中井家建築指図集　中井家所蔵本』思文閣出版

付編１．放射性炭素年代測定

パレオ・ラボAMS年代測定グループ
伊藤　茂・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹・Zaur Lomtatidze・辻　康男

１．はじめに

焼土面を形成した被熱時期の検討を目的に、焼土面直下の堆積層表層で採取された炭化材片について、加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定を行った。

写真１　測定試料

２．試料と方法

焼土面を形成した被熱時期の検討を目的に、焼土面直下の堆積層表層で採取された炭化材片について、加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定を行った。

表１　測定試料および処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-41261	遺構：ＳＸ 2165 調査区：２区 層位：焼土面直下	種類：炭化材 試料の性状：最終形成年輪以外　部位不明 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム：1.0 mol/L, 塩酸：1.2 mol/L）

３．結果

表２に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（δ^{13}C）、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した^{14}C年代、暦年較正結果を、図１に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下１桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

^{14}C年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。^{14}C年代（yrBP）の算出には、^{14}Cの半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した^{14}C年代誤差（±１σ）は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の^{14}C年代がその^{14}C年代誤差内に入る確率が68.2％であることを示す。

表２　放射性炭素年代測定および暦年較正の結果

測定番号	δ^{13}C（‰）	暦年較正用年代（yrBP ± 1 σ）	^{14}C 年代（yrBP ± 1 σ）	^{14}C 年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1 σ暦年代範囲	2 σ暦年代範囲
PLD-41261	-26.59 ± 0.23	368 ± 20	370 ± 20	1464-1514 cal AD (49.0%) 1599-1617 cal AD (19.2%)	1451-1523 cal AD (60.7%) 1572-1630 cal AD (34.7%)

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の^{14}C濃度が一定で半減期が5568年として算出された^{14}C年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の^{14}C濃度の変動、および半減期の違い（^{14}Cの半減期5730±40年）を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

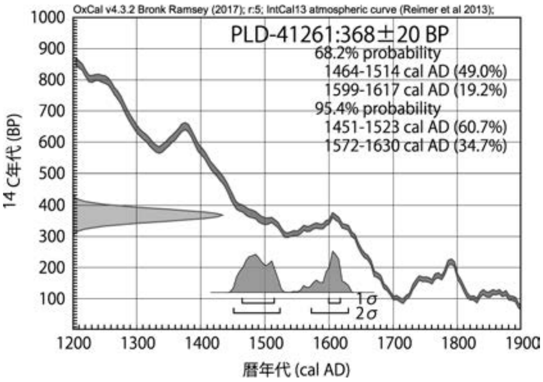


図１　暦年較正結果

^{14}C年代の暦年較正にはOxCal4.3（較正曲線データ：IntCal13）を使用した。なお、1σ暦年代範囲は、OxCalの確率法を使用して算出された^{14}C年代誤差に相当する68.2％信頼限界の暦年代範囲であり、同様に2σ暦年代範囲は95.4％信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は^{14}C年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

４．考 察

測定結果（以下の暦年較正年代は2σの値）は、^{14}C年代が370±20 BP、較正年代が1451-1523 cal AD (60.7%)および1572-1630 cal AD (34.7%)で、15世紀中頃～17世紀前半を示した。児玉編（2018）ふまえると、この較正年代は、室町時代前期～江戸時代前期に対比される。

今回の年代測定試料の採取層準の下位では、15世紀末～16世紀前半に埋没した堀が検出されている。また、年代試料の採取層準の上位には、江戸時代初頭（17世紀前半）の遺構が存在する。これらの層準に挟まれた焼土面直下の炭化材片の暦年代は、上記の層序関係と矛盾しないと判断されるが、詳細な時期の絞り込みには至っていない。

なお、木材の場合、最終形成年輪部分を測定すると枯死もしくは伐採年代が得られるが、内側の年輪を測定すると、最終形成年輪から内側であるほど古い年代が得られる（古木効果）。今回試料とした炭化材は、最終形成年輪が確認できない部位不明の木片である。したがって、測定結果は古木効果の影響を受けている可能性があり、その場合、木が実際に枯死もしくは伐採されたのは測定結果よりもやや新しい年代と考えられる。

参考文献

Bronk Ramsey, C. 2009　Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. Radiocarbon, 51(1), 337-360.

児玉幸多編2018　標準日本史年表．66p，吉川弘文館．

中村俊夫2000　放射性炭素年代測定法の基礎．日本先史時代の^{14}C年代編集委員会編「日本先史時代の^{14}C年代」：3-20，日本第四紀学会．

Reimer, P.J., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Haflidason, H., Hajdas, I., Hatte, C., Heaton, T.J., Hoffmann, D.L., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., Manning, S.W., Niu, M., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Staff, R.A., Turney, C.S.M., and van der Plicht, J. 2013　IntCal13 and Marine13 Radiocarbon Age Calibration Curves 0–50,000 Years cal BP. Radiocarbon, 55(4), 1869-1887.

付編２．花粉分析、プラント・オパール分析

森　将志(パレオ・ラボ)

１．はじめに

調査区付近の古環境を検討するために、堀（ＳＤ3370）の底部の堆積物が採取された。以下では、試料について行った花粉分析とプラント・オパール分析の結果を示し、遺跡周辺の古植生について検討した。なお、同一試料を用いて珪藻分析も行われている(珪藻分析の項参照)。

２．分析試料および方法

表１　分析試料一覧

試料 No.	調査区	遺構	層位	岩質
No. 5	3 区	Ｓ D 3370	59 層	腐植質粘土質シルト
No. 7			61 層	砂混じりシルト

分析試料は、３区の堀（ＳＤ3370）から採取された堆積物２点(No.５、No.７）である（表１)。ＳＤ3370は、深さ約2.0mを測る、戦国時代に構築された「構」に伴う堀である。時期は、堀底部の出土遺物から15世紀末と考えられている。今回の分析試料は、堀の底部から採取されており、堆積時期は15世紀末と判断される。

ＳＤ3370では、底部から20cm前後の厚さで堀の機能時～放置期に堆積したとみられる泥質堆積物が存在しており、この部分が分析層準に相当する。機能時～放置期の泥質堆積物の上部には、堀を埋め立てた偽礫を多く含む客土が厚く累重する。図１と写真１に、分析層準の堆積状況と岩質および試料の位置を示した。No.５は土壌化した黒色腐植質粘土質シルトであり、No.７は青灰色の砂混じりシルトである。これらの試料について、以下の手順で分析を行った。

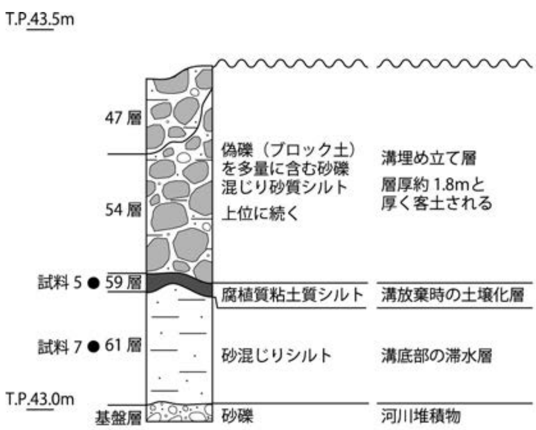


図１　堀（ＳＤ3370）の分析層準の堆積状況

写真１　試料採取断面

2-1．花粉分析

試料(湿重量約４ｇ)を遠沈管にとり、10％水酸化カリウム溶液を加え10分間湯煎する。水洗後、46％フッ化水素酸溶液を加え１時間放置する。水洗後、比重分離（比重2.1に調整した臭化亜鉛溶

液を加え遠心分離）を行い、浮遊物を回収し、水洗する。水洗後、酢酸処理を行い、続いてアセトリシス処理（無水酢酸９：濃硫酸１の割合の混酸を加え20分間湯煎）を行う。水洗後、残渣にグリセリンを滴下し、保存用とする。検鏡は、この残渣より適宜プレパラートを作製して行った。プレパラートは樹木花粉が200に達するまで検鏡し、その間に現れる草本花粉・胞子を全て数えた。また、保存状態の良好な花粉を選んで単体標本（PLC.3064～3072）を作製し、写真を図版１に載せた。

2-2. プラント・オパール分析

秤量した試料を乾燥後、再び秤量する（絶対乾燥重量測定）。別に試料約１g（秤量）をトールビーカーにとり、約0.02gのガラスビーズ（直径約0.04mm）を加える。これに30%の過酸化水素水を約20～30cc加え、脱有機物処理を行う。処理後、水を加え、超音波洗浄機による試料の分散後、沈降法により0.01mm以下の粒子を除去する。この残渣よりグリセリンを用いて適宜プレパラートを作製し、検鏡した。同定および計数は、機動細胞珪酸体に由来するプラント・オパールについて、ガラスビーズが300個に達するまで行った。また、植物珪酸体の写真を撮り、図版２に載せた。

３．結 果

3-1. 花粉分析

２試料から検出された花粉・胞子の分類群数は、樹木花粉20、草本花粉24、形態分類のシダ植物胞子１の、総計45である。これらの花粉・胞子の一覧表を表２に、分布図を図２に示した。分布図における樹木花粉の産出率は樹木花粉総数を基数とした百分率で、草本花粉と胞子の産出率は産出花粉胞子総数を基数とした百分率で示してある。図表においてハイフン（－）で結んだ分類群は、それらの分類群間の区別が困難なものを示す。また、クワ科やユキノシタ科、マメ科の花粉には樹木起源と草本起源の分類群があるが、各々に分けるのが困難なため、便宜的に草本花粉に一括して入れてある。

両試料ともに、草本花粉の産出割合が高く、樹木花粉の産出割合は低い。草本花粉では、No.５でサナエタデ節－ウナギツカミ節やセリ科が、No.７でアカザ科－ヒユ科などの産出が目立つ。また、ソバ属やベニバナ属といった栽培植物が両試料から産出している。樹木花粉では、両

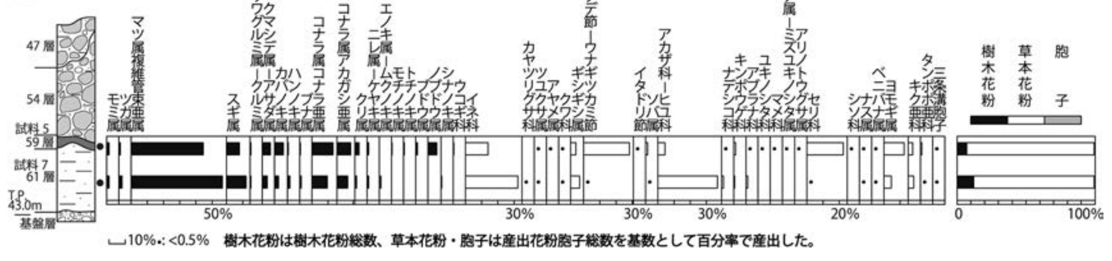


図２　花粉分布図

表２　産出花粉胞子一覧表

学名	和名	No. 5	No. 7
樹木			
Abies	モミ属	3	3
Tsuga	ツガ属	2	4
Pinus subgen. Diploxylon	マツ属複維管束亜属	89	113
Cryptomeria	スギ属	16	24
Pterocarya − *Juglans*	サワグルミ属－クルミ属	1	1
Carpinus − *Ostrya*	クマシデ属－アサダ属	10	6
Betula	カバノキ属	11	5
Alnus	ハンノキ属	1	3
Fagus	ブナ属	1	2
Quercus subgen. Lepidobalanus	コナラ属コナラ亜属	26	19
Quercus subgen. Cyclobalanopsis	コナラ属アカガシ亜属	17	13
Castanea	クリ属	5	2
Ulmus − *Zelkova*	ニレ属－ケヤキ属	2	2
Celtis − *Aphananthe*	エノキ属－ムクノキ属	-	2
Ilex	モチノキ属	1	-
Aesculus	トチノキ属	1	-
Vitis	ブドウ属	2	-
Ampelopsis	ノブドウ属	11	-
Tilia	シナノキ属	-	1
Araliaceae	ウコギ科	1	-
草本			
Gramineae	イネ科	397	533
Cyperaceae	カヤツリグサ科	0	1
Commelina	ツユクサ属	5	1
Iris	アヤメ属	7	-
Moraceae	クワ科	9	3
Rumex	ギシギシ属	88	90
Polygonum sect. *Persicaria* − *Echinocaulon*	サナエタデ節－ウナギツカミ節	797	6
Polygonum sect. *Reynoutria*	イタドリ節	3	-
Fagopyrum	ソバ属	33	6
Chenopodiaceae − Amaranthaceae	アカザ科－ヒユ科	124	605
Caryophyllaceae	ナデシコ科	3	19
Ranunculaceae	キンポウゲ科	35	9
Brassicaceae	アブラナ科	11	19
Saxifragaceae	ユキノシタ科	3	-
Leguminosae	マメ科	1	-
Epilobium − *Ludwigia*	アカバナ属－ミズユキノシタ属	2	-
Haloragis	アリノトウグサ属	1	-
Apiaceae	セリ科	634	5
Labiatae	シソ科	3	-
Solanum	ナス属	1	1
Carthamus	ベニバナ属	1	2
Artemisia	ヨモギ属	355	75
Tubuliflorae	キク亜科	78	55
Liguliflorae	タンポポ亜科	21	8
シダ植物			
trilete type spore	三条溝胞子	4	3
Arboreal pollen	樹木花粉	200	200
Nonarboreal pollen	草本花粉	2612	1438
Spores	シダ植物胞子	4	3
Total Pollen & Spores	花粉・胞子総数	2816	1641
unknown	不明	13	7

表３　試料１ｇ当りのプラント・オパール個数

	イネ （個／ｇ）	イネ穎破片 （個／ｇ）	ネザサ節型 （個／ｇ）	ヨシ属 （個／ｇ）	シバ属 （個／ｇ）	キビ族 （個／ｇ）	ウシクサ族 （個／ｇ）	ポイント型珪酸体 （個／ｇ）	不明 （個／ｇ）
No. 5	21,800	2,000	69,400	7,900	2,000	13,900	21,800	13,900	4,000
No. 7	18,800	5,400	55,200	1,300	0	14,800	14,800	0	10,800

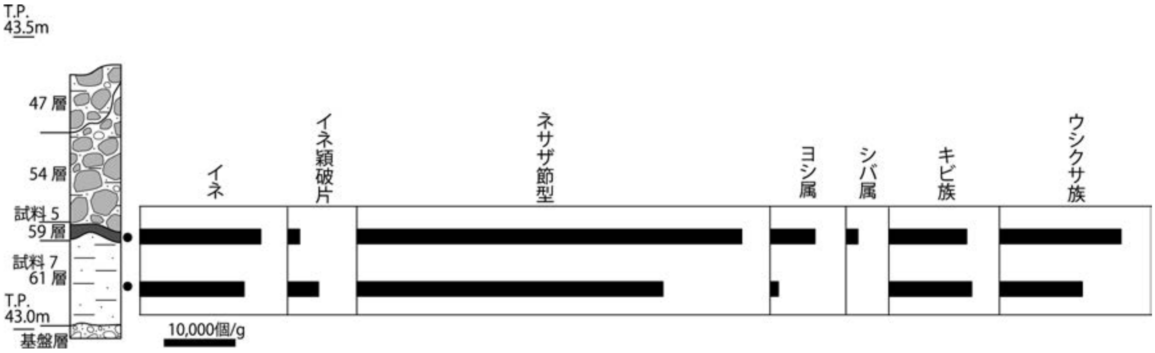


図３　植物珪酸体分布図

試料ともにマツ属複維管束亜属やコナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属などの産出が目立つ。

3-2. プラント・オパール分析

同定・計数された各植物のプラント・オパール個数とガラスビーズ個数の比率から試料１ｇ当りの各プラント・オパール個数を求め（表３）、分布図に示した（図３）。検鏡の結果、イネ機動細胞珪酸体とネザサ節型機動細胞珪酸体、ヨシ属機動細胞珪酸体、シバ属機動細胞珪酸体、キビ族機動細胞珪酸体、ウシクサ族機動細胞珪酸体の６種類の機動細胞珪酸体の産出が確認できた。

両試料ともにイネ機動細胞珪酸体やネザサ節型機動細胞珪酸体、キビ族機動細胞珪酸体、ウシクサ族機動細胞珪酸体の産出が目立つ。

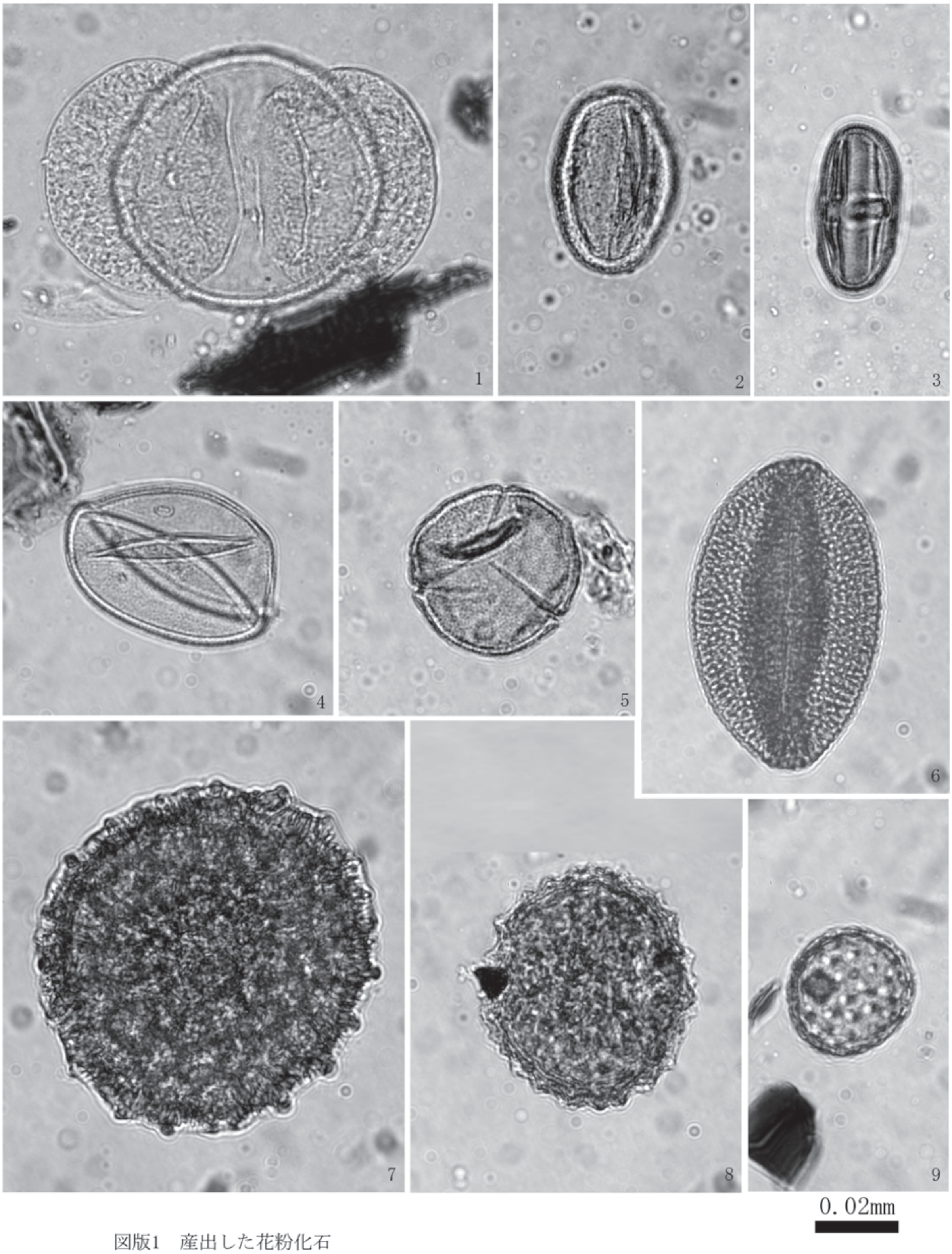
４．考 察

花粉分析では、両試料ともに草本花粉の産出割合が高く、樹木花粉の産出割合が低い結果となった。試料採取地点は、深さのある堀である。堀周辺は、樹木が鬱蒼と茂るような場所ではなく、草本類が生育する開けた環境であったと思われる。堀周辺に生育していた草本類としては、イネ科やギシギシ属、キンポウゲ科、ヨモギ属、キク亜科などが挙げられる。これらの分類群は両試料ともに同様な産出率を示すため、No.５とNo.７の堆積時に共通して生育していたと思われるが、No.５とNo.７で産出率が著しく異なる分類群もある。例えば、サナエタデ節－ウナギツカミ節とセリ科はNo.５で産出率が高く、アカザ科-ヒユ科はNo.７で産出率が高い。堀周辺の草本類の分布状況はNo.５の堆積時とNo.７の堆積時で異なっており、No.５の堆積時にはサナエタデ節－ウナギツカミ節とセリ科が、No.７の堆積時にはアカザ科－ヒユ科が堀周辺に分布を広げていた可能性がある。また、樹木花粉に含めているノブドウ属もNo.５とNo.７で産出率が異なり、No.７

では産出していないが、No.５において数%の産出率を示す。No.５の堆積時には、堀周辺につる性植物のノブドウ属も生育していたと考えられる。その他には、両試料ともに栽培植物のソバ属とベニバナ属が検出されているため、堀周辺においてソバ栽培やベニバナ栽培が行われていた可能性がある。

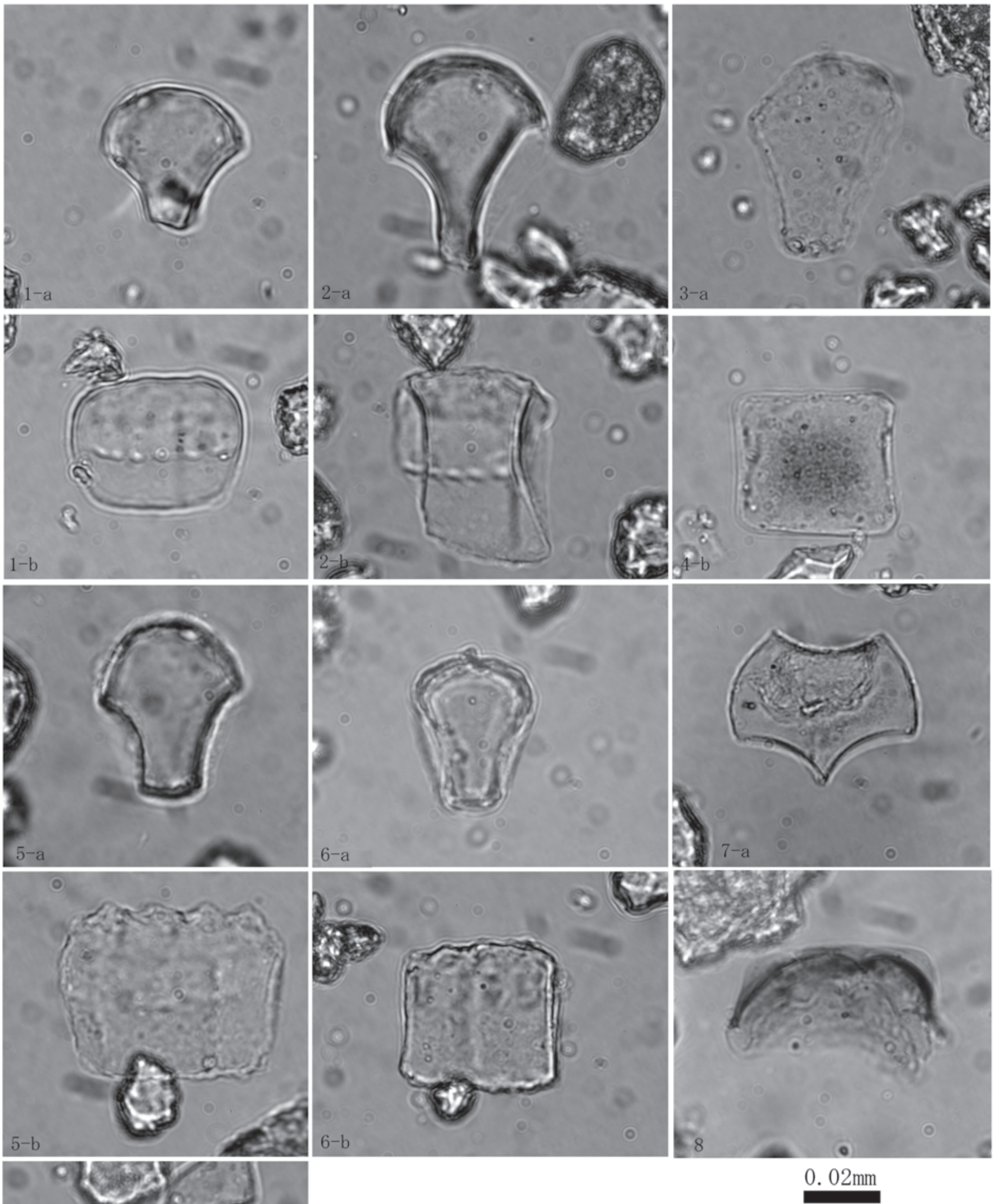
プラント・オパール分析の結果では、両試料ともにネザサ節型機動細胞珪酸体やキビ族機動細胞珪酸体、ウシクサ族機動細胞珪酸体の産出が目立つ。堀周辺にはネザサ節のササ類やキビ族、ウシクサ族といったイネ科植物が生育していたと考えられる。さらに、両試料からはイネの葉身で形成されるイネ機動細胞珪酸体や、籾殻に形成されるイネ頴破片が検出された。堀には、何らかの要因でイネの葉身や籾殻が堆積していた可能性がある。その他では、抽水植物のヨシ属の機動細胞珪酸体も両試料から検出された。ヨシ属機動細胞珪酸体はNo.５において産出量が増している。ただし、花粉分析の結果では湿地的環境の場所に生育するような分類群の顕著な産出がみられないため、ヨシ属機動細胞珪酸体のこの産出状況は、廃絶期の客土に被覆される放置期に相当するとみられる堀底の土壌化層準から採取されたNo.５での局地的な古植生を示していると考えられる。花粉分析の結果と合わせると、ＳＤ3370が埋め立てられる段階以前には、周囲につる性のノブドウ属やサナエタデ節－ウナギツカミ節、セリ科、荒れ地に生育するヨモギ属などの雑草が繁茂するとともに、堀底にヨシ属の分布が拡大する植生景観が形成されていたとみられ、堀が維持管理されなくなり、放置された期間が幾分存在していたと推定される。

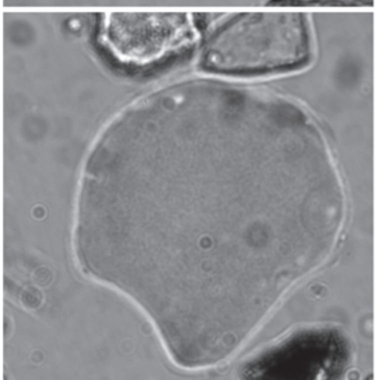
以上は堀周辺の古植生についてであったが、遺跡周辺のより広範囲の古植生に目を向けると、花粉分析の結果では、両試料ともにマツ属複維管束亜属やコナラ属コナラ亜属といった二次林要素の分類群の産出が目立つ。よって、遺跡周辺の京都盆地を取り巻く山地や丘陵および台地にはニヨウマツ類やコナラなどからなる二次林が広がっていたと思われる。さらに、両試料ともにコナラ属アカガシ亜属やスギ属の産出も見られ、カシ類の照葉樹林やスギ林も遺跡周辺に分布していたと考えられる。



図版1　産出した花粉化石

1.マツ属複維管束亜属（PLC.3064　No.5）
2.ノブドウ属（PLC.3065　No.5）
3.セリ科（PLC.3066　No.5）
4.イネ科（PLC.3067　No.7）
5.ギシギシ属（PLC.3068　No.7）
6.ソバ属（PLC.3069　No.5）
7.サナエタデ節-ウナギツカミ節（PLC.3070　No.5）
8.ベニバナ属（PLC.3071　No.7）
9.　アカザ科-ヒユ科（PLC.3072　No.7）





図版2　産出した植物珪酸体

1.イネ機動細胞珪酸体(No.5)　　2.イネ機動細胞珪酸体(No.7)
3.ウシクサ族機動細胞珪酸体(No.5)　　4.キビ族機動細胞珪酸体(No.5)
5.ネザサ節型機動細胞珪酸体(No.5)　　6.ネザサ節型機動細胞珪酸体(No.7)
7.シバ属機動細胞珪酸体(No.5)　　8.イネ穎破片(No.7)
9.ヨシ属機動細胞珪酸体(No.5)　　a:断面　b:側面

付編３．珪藻化石分析

野口真利江・辻　康男（パレオ・ラボ）

１．はじめに

珪藻は、10～500μmほどの珪酸質殻を持つ単細胞藻類で、殻の形や刻まれた模様などから多くの珪藻種が調べられ、現生の生態から特定環境を指標する珪藻種群が設定されている（小杉1988；安藤1990）。一般的に、珪藻の生育域は海水域から淡水域まで広範囲に及び、中には河川や沼地などの水成環境以外の陸地においても、わずかな水分が供給されるジメジメとした陸域環境（例えばコケの表面や湿った岩石の表面など）に生育する珪藻種が知られている。こうした珪藻群集の性質を利用して、堆積物中の珪藻化石群集の解析から、過去の堆積物の堆積環境について知ることができる。

ここでは、堀（ＳＤ3370）の機能時～放置期に相当する底部で採取された試料の珪藻化石群集を調べ、当該層準の堆積環境および水文環境について検討した。

２．試料と方法

試料は、ＳＤ3370底部のNo.５（59層）とNo.７（61層）であり、花粉分析とプラント・オパール分析と同一試料である。試料の採取位置や岩質記載は、花粉分析とプラント・オパール分析の項で示しているので参照願いたい。

各試料について以下の処理を行い、珪藻分析用プレパラートを作製した。

（1）湿潤重量約0.6gを取り出し、秤量した後ビーカーに移して30%過酸化水素水を加え、加熱・反応させ、有機物の分解と粒子の分散を行った。（2）反応終了後、水を加え１時間程してから上澄み液を除去し、細粒のコロイドを捨てる。この作業を７回ほど繰り返した。（3）懸濁残渣を遠心管に回収し、マイクロピペットで適量取り、カバーガラスに滴下し、乾燥させた。乾燥後は、マウントメディアで封入し、プレパラートを作製した。

作製したプレパラートは顕微鏡下600～1000倍で観察し、珪藻化石200個体以上について同定・計数した。珪藻殻は、完形と非完形（原則として半分程度残っている殻）に分けて計数し、完形殻の出現率として示した。さらに、試料の処理重量とプレパラート上の計数面積から、堆積物１ｇ当たりの殻数を計算した。また、保存状態の良好な珪藻化石を選び、写真を図版１に載せた。

３．珪藻化石の環境指標種群

珪藻化石の環境指標種群は、主に小杉（1988）および安藤（1990）が設定し、千葉・澤井（2014）により再検討された環境指標種群に基づいた。なお、環境指標種群以外の淡水種は広布種（W）として、その他の種はまとめて不明種（?）として扱った。また、破片のため属レベルの同定にとどめ

た分類群は、その種群を不明(?)として扱った。以下に、安藤(1990)が設定した淡水域における環境指標種群の概要を示す。

［上流性河川指標種群(Ｊ)］：河川上流部の渓谷部に集中して出現する種群である。これらは、殻面全体で岩にぴったりと張り付いて生育しているため、流れによってはぎ取られてしまうことがない。

［中～下流性河川指標種群(K)］：河川の中～下流部、すなわち河川沿いで河成段丘、扇状地および自然堤防、後背湿地といった地形が見られる部分に集中して出現する種群である。これらの種には、柄またはさやで基物に付着し、体を水中に伸ばして生活する種が多い。

［最下流性河川指標種群(L)］：最下流部の三角州の部分に集中して出現する種群である。これらの種には、水中を浮遊しながら生育している種が多い。これは、河川が三角州地帯に入ると流速が遅くなり、浮遊生の種でも生育できるようになるためである。

［湖沼浮遊生指標種群(M)］：水深が約1.5m以上で、岸では水生植物が見られるが、水底には植物が生育していない湖沼に出現する種群である。

［湖沼沼沢湿地指標種群(N)］：湖沼における浮遊生種としても、沼沢湿地における付着生種としても優勢な出現が見られ、湖沼・沼沢湿地の環境を指標する可能性が大きい種群である。

［沼沢湿地付着生指標種群(O)］：水深１m内外で、一面に植物が繁殖している所および湿地において、付着の状態で優勢な出現が見られる種群である。

［高層湿原指標種群(P)］：尾瀬ケ原湿原や霧ケ峰湿原などのように、ミズゴケを主とした植物群落および泥炭層の発達が見られる場所に出現する種群である。

［陸域指標種群(Q)］：上述の水域に対して、陸域を生息地として生活している種群である(陸生珪藻と呼ばれている)。

［陸生珪藻Ａ群(Qa)］：耐乾性の強い特定のグループである。

［陸生珪藻Ｂ群(Qb)］：Ａ群に随伴し、湿った環境や水中にも生育する種群である。

４．結 果

堆積物から検出された珪藻化石は、淡水種が22分類群16属13種２変種であった(表１)。これらの珪藻化石は、淡水域における４環境指標種群(K、L、O、Qa)に分類された(表１)。また、珪藻分布図を図１に示した。以下では、各試料における珪藻化石の特徴とその堆積環境について述べる。

・No.５(59層)

堆積物１g中の珪藻殻数は4.8×107個、完形殻の出現率は80.6%である。堆積物中の珪藻殻数は非常に多い。環境指標種群では、中～下流性河川指標種群(K)が多く、沼沢湿地付着生指標種群(O)をわずかに伴う。

・No.７(61層)

堆積物１g中の珪藻殻数は6.2×107個、完形殻の出現率は86.8%である。堆積物中の珪藻殻数は

表１　堆積物中の珪藻化石産出表(種群は、千葉・澤井(2014)による)

No.	分類群		種群	No. 5	No. 7
1	*Achnanthes*	*hungarica*	K	9	
2	*A.*	spp.	?	25	11
3	*Cyclotella*	*meneghiniana*	L		14
4	*Diatoma*	*mesodon*	W	1	
5	*Eunotia*	*pectinalis var. minor*	O	6	2
6	*E.*	spp.	?	3	
7	*Fragilaria*	*vaucheriae*	K	1	
8	*Gomphonema*	*parvulum*	W	6	20
9	*G.*	spp.	?	1	
10	*Luticola*	*mutica*	Qa		1
11	*Melosira*	*varians*	K	35	23
12	*Meridion*	*circulae*	W	2	
13	*M.*	*circulae var. constricta*	K	8	3
14	*Navicula*	*elginensis*	O	2	
15	*N.*	spp.	?	7	3
16	*Nitzschia*	spp.	?	19	4
17	*Pinnularia*	*gibba*	O	3	3
18	*P.*	spp.	?	1	1
19	*Planothidium*	*lanceolatum*	K	69	98
20	*Sellaphora*	*pupula*	W	4	6
21	*Surirella*	spp.	?	1	22
22	*Synedra*	*ulna*	W	1	
23	Unknown		?	2	1
	合　計			206	212
	中～下流性河川		K	122	124
	最下流性河川		L		14
	沼沢湿地付着生		O	11	5
	陸生Ａ群		Qa		1
	広布種		W	14	26
	淡水不定・不明種		?	57	41
	その他不明種		?	2	1
	淡水種			204	211
	完形殻の出現率（%）			80.6	86.8
	堆積物 1g 中の殻数（個）			4.8E+07	6.2E+07

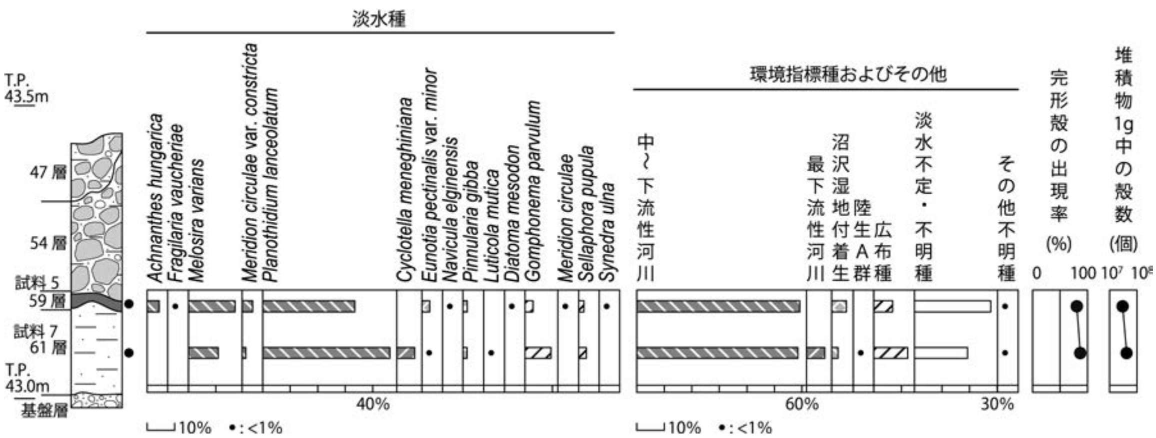


図１　堆積物中の珪藻化石分布図(主な分類群を表示)

非常に多い。環境指標種群では、中～下流性河川指標種群(K)が多く、最下流性河川指標種群(L)や沼沢湿地付着生指標種群(O)などをわずかに伴う。

５．考 察

No.５とNo.７では、いずれも流水環境下に生育する中～下流性河川指標種群が優占する。よって、ＳＤ3370の堀底は、水が澱み滞水するような閉鎖的な状況ではなく、一定の水の流れが生じるような状況であったと考えられる。分析層準は、堀の機能期～放置期に形成された底部の層厚20cm程度の泥質堆積物であり、この上部に層厚1.8m程度の厚い客土が載る。遺構の検出状況から、ＳＤ3370は深い堀であり、水を滞水させた場合に、十分な水深のある水域を形成できたと判断される。ただし、水深のある止水域に出現する珪藻群集を伴わない分析結果と堀埋土の層相から、機能期～放置期のＳＤ3370は、水深のある水堀ではなく、底部に極浅く湛水が生じるのみであり、さらに底部でその水に流れが生じるような水文環境が形成されていたと推定される。断面写真の観察と試料の岩質から、ＳＤ3370の分析層準はいずれも泥質堆積物であり、明瞭な葉理や砂の薄層も挟在しないと認識できる。この特徴から、ＳＤ3370の水域で生じていた水の流れは、かなり弱かったと推測される。

なお、No.５とNo.７のいずれの試料でも、第一位優占種はPlanothidium lanceolatumで、第二位優占種はMelosira variansであった。優占種は、どちらも貧腐水性水域を好む種である（渡辺・浅井，1992）。よって、ＳＤ3370の堀底では、周辺からの有機物の流入などの汚染のないきれいな水が流下していた可能性が高い。

また、第二位以下の優占種に着目すると、No.７ではGomphonema parvulumとCyclotella meneghinianaという、共にβ中腐水性水域を好む種が付随し（渡辺ほか，2005）、No.５ではAchnanthes属が多く、なかでもAchnanthes hungaricaが特徴的であった。Achnanthes hungaricaは有機汚濁に関しては広適応性種であるものの、Achnanthes属が第一位優占種群となる群集の多くは清浄水域で出現する（渡辺ほか，2005）。

付随する種群の産出傾向から、No.５に比べるとNo.７の水域環境はやや汚れていた可能性があるが、第一位および第二位優占種から考えて、いずれの水域環境も基本的には清浄水域であったと推定される。

以上から、ＳＤ3370の堀底は、水の流れを伴うような極浅い水深があり、滞水はせずに、溝底での水の循環や排水が良好であったと考えられる。このような状況は、ＳＤ3370が閉じられた閉鎖的な堀ではなく、どこかに排水口を伴うような構造であった可能性を示唆している。この点については、当時の地下水位や周辺の発掘調査結果などふまえ、さらに検討を要する。また、堀は、機能期と放置期を通じて、周囲から有機物などの廃棄物が多く流入する状況ではなかったとみられる。

引用・参考文献

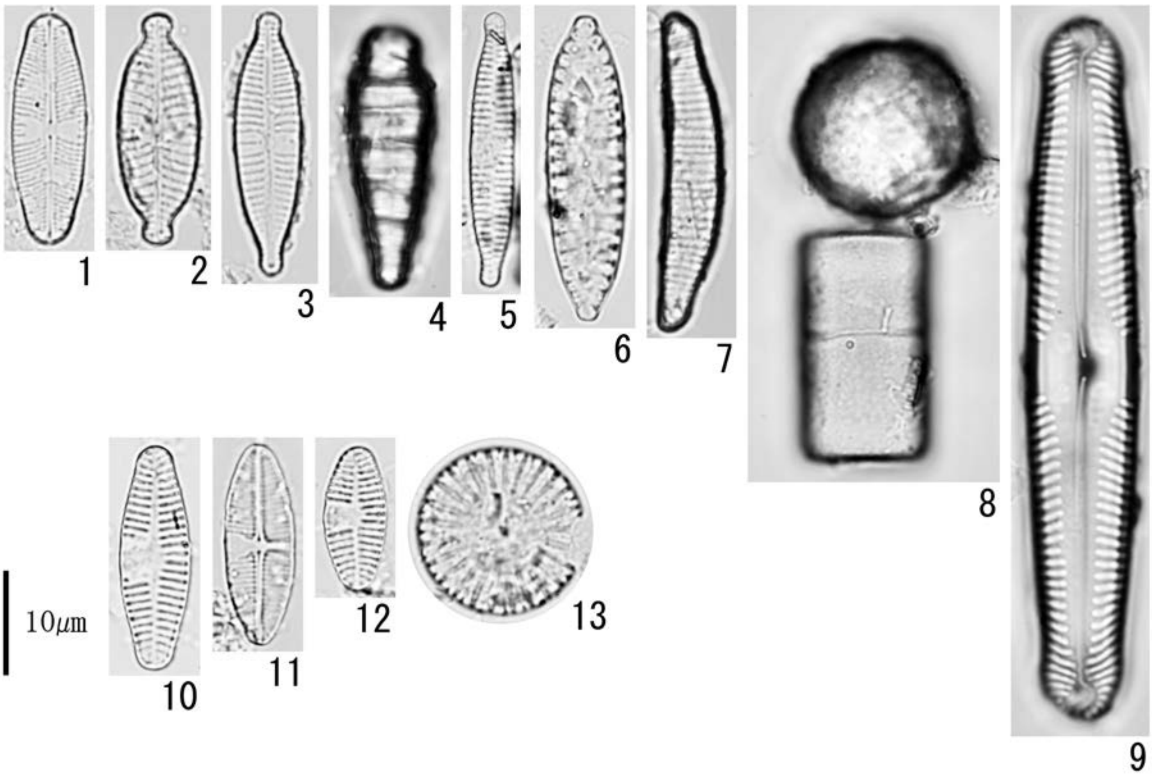
安藤一男(1990)淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用．東北地理，42，73-88.

千葉　崇・澤井裕紀(2014)環境指標種群の再検討と更新．Diatom，30，7-30.

小杉正人(1988)珪藻の環境指標種群の設定と古環境復元への応用．第四紀研究，27，1-20.

渡辺仁治・浅井一視(1992)高優占度珪藻による有機汚濁度の判定(1)．Achnanthes, Anomoeoneis, Aulacoseira, Melosiraを第1位種とする群集．Diatom，7，13-19.

渡辺仁治・浅井一視・大塚泰介・辻　彰洋・伯耆晶子(2005)淡水珪藻生態図鑑　群集解析に基づく汚濁指数DAIpo，pH耐性能．784p，内田老鶴圃.



図版1　堆積物中の珪藻化石の顕微鏡写真

1.Sellaphora pupula (No.7)　2.Navicula elginensis (No.5)　3.Gomphonema parvulum (No.7)
4.Meridion circulae var. constricta (No.5)　5.Fragilaria vaucheriae (No.5)　6.Surirella spp. (No.2)
7.Eunotia pectinalis var. minor (No.5)　8.Melosira varians (No.7)　9.Pinnularia gibba (No.5)
10.Planothidium lanceolatum (No.7)　11.Achnanthes hungarica (No.5)
12.Planothidium lanceolatum (No.5)　13.Cyclotella meneghiniana (No.7)

付編４．出土甕付着物の成分分析

竹原弘展（パレオ・ラボ）

１．はじめに

出土した甕の付着物について成分分析を行い、甕が便槽である可能性を検討した。

２．試料と方法

表１　分析対象

分析No.	出土遺構	備考
1	ＳＥ3034	井戸廃絶時に投棄された甕に、多量に付着する層状白色物
2	ＳＪ3052	遺構に据えられた埋甕の底部に付着する塊状淡黄色物、鉄分の沈着有り

分析対象は、井戸ＳＥ3034より出土した甕の付着物（分析No.１）と、ＳＪ3052に据えられた埋甕の底部付着物（分析No.２）の２点である（表１、図版１）。

いずれの甕も、天明の大火（1788年）後に建てられた町家の便槽と推定されている。

分析は、白色物および淡黄色物を採取し、乳鉢でよく粉砕した後、蛍光Ｘ線分析とＸ線回折分析を実施した。

［蛍光Ｘ線分析］

蛍光Ｘ線分析は、マイラーフィルムを張った試料ホルダに粉末試料を入れて、測定した。

分析装置は、エスアイアイ・ナノテクノロジー株式会社製エネルギー分散型蛍光Ｘ線分析計SEA1200VXを使用した。装置は、Ｘ線管が最大50kV、1000μＡのロジウム（Rh）ターゲット、Ｘ線照射径が８mmまたは１mm、Ｘ線検出器はＳＤＤ検出器（VorteX）である。この装置は、複数の一次フィルタが内蔵されており、適宜選択、挿入することでS/N比の改善が図れる。検出可能元素はナトリウム（Na）～ウラン（U）であるが、蛍光Ｘ線分析装置の性質上、軽元素の感度が若干低く、特に定量分析におけるナトリウムの精度は低い。

測定条件は、管電圧・一次フィルタの組み合わせが15kV（一次フィルタ無し・Cl測定用）・50kV（一次フィルタPb測定用・Cd測定用）の４条件で、測定時間は各条件500～1000s、管電流自動設定、照射径８mm、試料室内雰囲気真空に設定した。定量分析は、酸化物の形で算出し、ノンスタンダードFP法による半定量分析を行った。

［Ｘ線回折分析］

Ｘ線回折分析は、粉末試料を試料板に充填し、不定方位試料として、測定した。

分析装置は、株式会社リガク製Ｘ線回折装置MiniFlex600を使用した。装置は、Ｘ線管が銅（Cu）ターゲット、検出器が一次元半導体検出器（D/teX Ultra）を使用している。測定条件は、40kV、15mA、走査速度2deg/min、ステップ幅0.02deg、走査範囲3～65deg、蛍光Ｘ線軽減モードに設定し、回転試料台で試料を回転させつつ測定した。

なお、Ｘ線回折分析では、アルカリ長石（正長石や微斜長石など）、斜長石（曹長石や灰長石など）

や粘土鉱物などのそれぞれの細分は容易ではなく、回折パターンの図中では一例として典型的な鉱物のピークを示すが、本文および表中ではアルカリ長石、斜長石、粘土鉱物（14Å鉱物、10Å鉱物、7Å鉱物）といった名称を用いた。

３．結 果

［蛍光Ｘ線分析］

蛍光Ｘ線分析により得られた半定量分析結果を表２に示す。

分析No.１からは、カルシウム（CaO）が極めて多く検出された。ほかに、マグネシウム（MgO）、アルミニウム（Al2O3）、ケイ素（SiO2）、リン（P2O5）、硫黄（SO3）、カリウム（K2O）、チタン（TiO2）、マンガン（MnO）、鉄（Fe2O3）、銅（CuO）、亜鉛（ZnO）、ストロンチウム（SrO）、ジルコニウム（ZrO2）、バリウム（BaO）が検出された。

分析No.2からは、鉄（Fe2O3）、リン（P2O5）、ケイ素（SiO2）、カルシウム（CaO）が主に検出された。ほかに、マグネシウム（MgO）、アルミニウム（Al2O3）、硫黄（SO3）、カリウム（K2O）、チタン（TiO2）、マンガン（MnO）、銅（CuO）、亜鉛（ZnO）、ヒ素（As2O3）、ルビジウム（Rb2O）、ストロンチウム（SrO）、ジルコニウム（ZrO2）、バリウム（BaO）、鉛（PbO）が検出された。

［Ｘ線回折分析］

Ｘ線回折分析により得られた回折パターンを図１に、検出された鉱物を表３に示す。

分析No.１からは、方解石（Calcite）、石英（Quartz）、斜長石（図では曹長石Albite）といった鉱物のピークが検出された。また、粘土鉱物に由来すると考えられる6.2°（14Å鉱物：緑泥石、バーミキュライト、スメクタイト等）、8.8°（10Å鉱物：雲母、ハロイサイト（10Å）等）、12.5°（7Å鉱物：カオリン鉱物、蛇紋石類等）付近のピークも検出された。

分析No.２からは、石英（Quartz）、アルカリ長石（図では曹微斜長石Anorthoclase）、斜長石（図では曹長石Albite）といった鉱物のピークが検出された。また、粘土鉱物に由来すると考えられる8.8°（10Å鉱物：雲母、ハロイサイト（10Å）等、図では白雲母Muscovite）付近のピークも検出された。

表２　蛍光Ｘ線半定量分析結果（mass%）

分析No.	MgO	Al_2O_3	SiO_2	P_2O_5	SO_3	K_2O	CaO	TiO_2	MnO	Fe_2O_3	CuO	ZnO	As_2O_3	Rb_2O	SrO	ZrO_2	BaO	PbO
1	1.15	1.93	6.10	2.68	0.42	0.67	82.96	0.11	1.34	2.24	0.01	0.03	—	—	0.27	0.03	0.08	—
2	0.40	2.14	22.42	25.34	0.12	1.89	6.07	0.25	0.34	40.33	0.17	0.23	0.03	0.01	0.16	0.03	0.05	0.03

表３　Ｘ線回折分析による検出鉱物一覧

分析No.	方解石	石英	アルカリ長石	斜長石	14Å鉱物	10Å鉱物	7Å鉱物
1	◎	◎		○	△	△	△
2		◎	○	○		△	

◎：よく一致するピークを検出　○：ほぼ一致するピークを検出　△：微弱なピークを検出

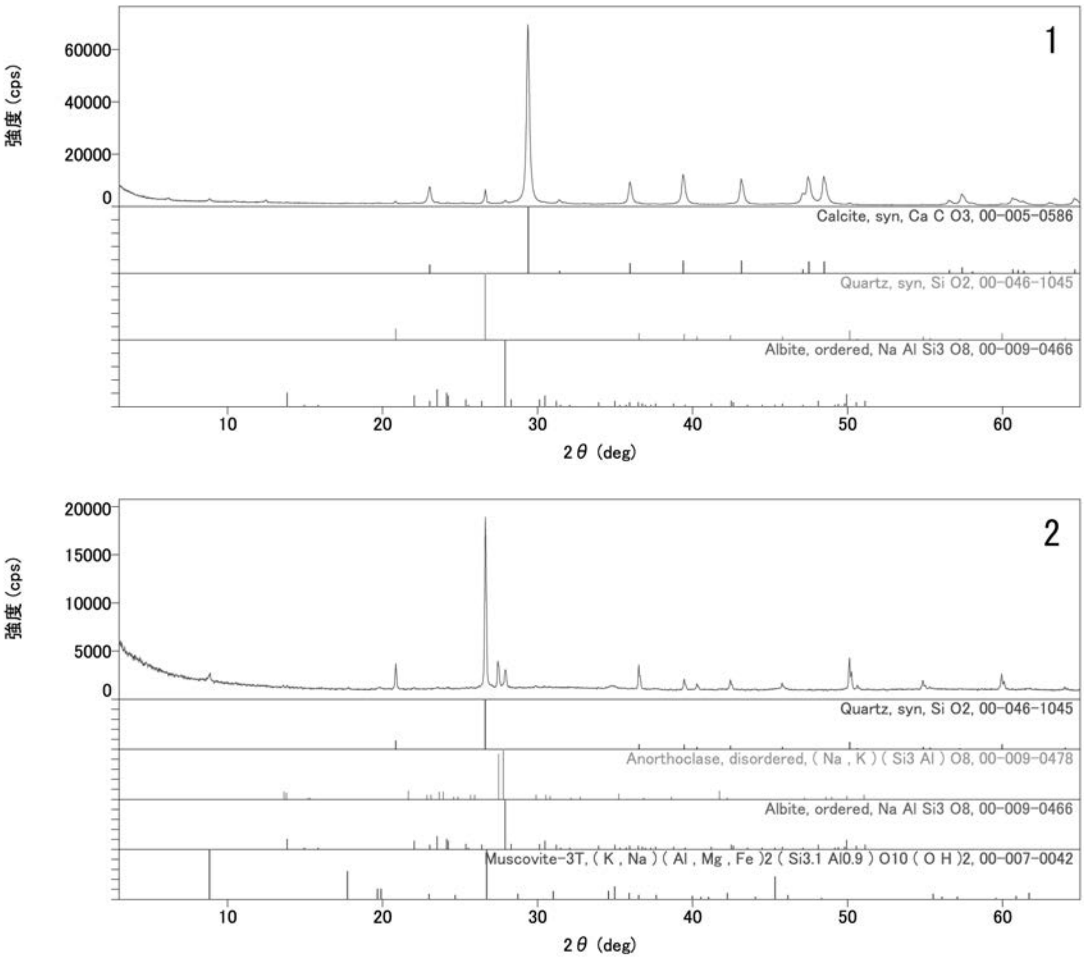


図１　Ｘ線回析パターン図　（１．分析No.１　２．分析No.２）

４．考 察

分析の結果、ＳＥ3034出土甕の付着物（分析No.１）とＳＪ3052出土埋甕の付着物（分析No.２）とでは、成分が大きく異なると判明した。

ＳＥ3034出土甕の付着物（分析No.１）は、蛍光Ｘ線分析ではカルシウム（CaO）が大部分を占めており、Ｘ線回折分析の結果と併せると、白色物は炭酸カルシウム（CaCO3）と考えられる。

一方、ＳＪ3052出土埋甕の付着物（分析No.２）は、蛍光Ｘ線分析では鉄（Fe2O3）、リン（P2O5）、カルシウム（CaO）が多く検出されており、鉄またはカルシウムのリン酸塩の存在が予想されたが、Ｘ線回折分析では通常の土砂に含まれる成分しか検出されず、リン酸塩の明瞭なピークは確認されなかった。そのため、リン酸鉄やリン酸カルシウムの類は、Ｘ線回折分析では検出されない、非晶質の状態で存在していると推定される。

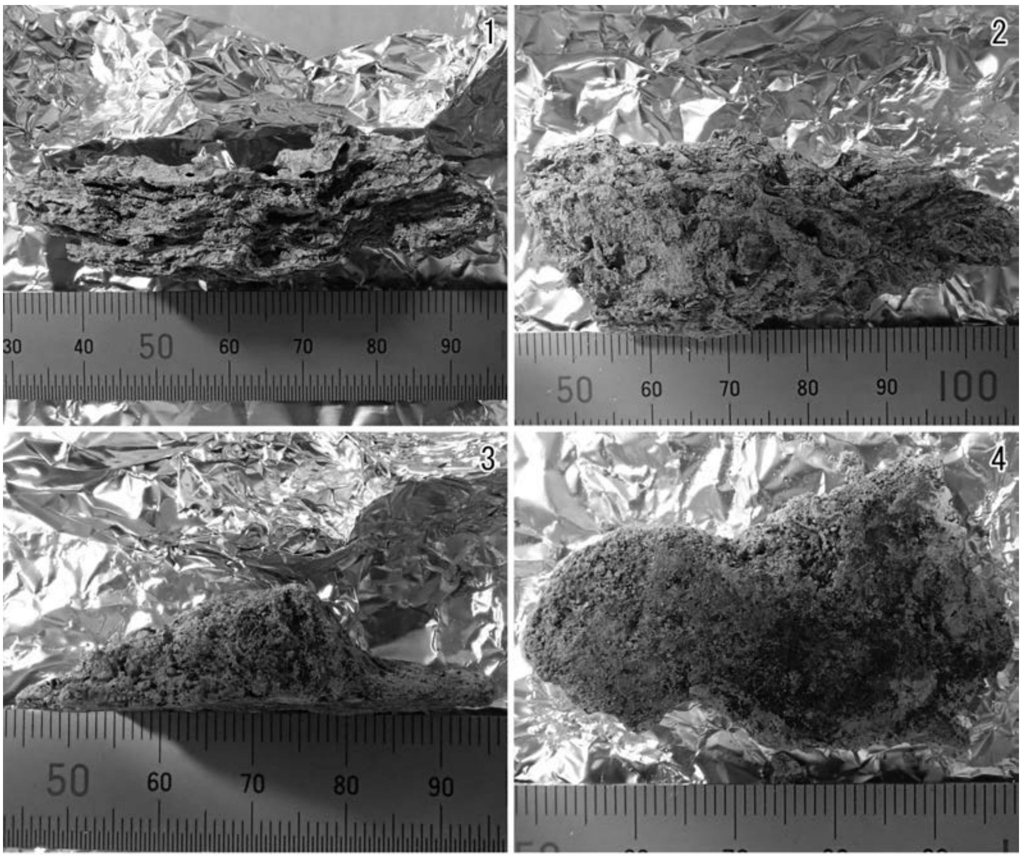
炭酸カルシウムやリン酸カルシウムは、トイレの使用に伴う析出物（尿石）であり得る物質であり、したがってＳＥ3034出土甕およびＳＪ3052出土埋甕が、ともに便槽であった可能性は十分に考えられる。一般的に、尿中の尿素は、分解されるとアンモニアとなり、pHが上がって槽内の水はアルカリ性となる。これにより、尿中の成分が、時には大気中の成分も取り込んで、難溶性の尿石となって析出し、固着する。今回分析した2試料の析出物の違いは、当時の使用環境や埋蔵環境の違いによると考えられる。ただし、ＳＥ3034出土甕の付着物（分析No.１）はリンがそれ

ほど多くないため､尿石ではなく別由来の物質である可能性も考慮する必要があろう。あるいは、ＳＪ3052出土埋甕の付着物（分析No.２）が甕底部の塊状付着物であるのに対し、ＳＥ3034出土甕付着物（分析No.１）は部位不明の甕の層状付着物であるため、成分の違いは尿石の析出位置の違いを示している可能性も考えられる。なお、ＳＪ3052出土埋甕の付着物（分析No.２）からは鉄が多く検出されているが、これは埋蔵環境等により鉄分が多く供給され、カルシウムと置換したものと推定される。

５．おわりに

平安京跡の遺構より出土した、便槽と推定されている甕の付着物について検討した結果、ＳＥ3034出土甕の付着物からは炭酸カルシウムが主に検出された。また、ＳＪ3052出土埋甕の底部付着物からはリンが多く検出され、非晶質リン酸塩の存在を示唆した。両者とも、尿石たり得る物質であり、成分的にも甕が便槽である可能性を支持する結果といえる。

参考文献
原田仁平2015　材料分析における粉末Ｘ線回折法　MiniFlexの利用．211p，リガク．
牧野和孝1998　鉱物資源百科辞典．1390p，日刊工業新聞社．
中井 泉編2005　蛍光Ｘ線分析の実際．242p，朝倉書店．
日本粘土学会編2009　粘土ハンドブック第三版．990p，技報堂出版．
リガク編2010　Ｘ線回折ハンドブック．243p，リガク．



図版１　分析対象試料　（１・２．分析No.１　３・４．分析No.２）

付表２　出土土器・陶磁器観察表

〈凡例〉
・小数点第２位を四捨五入、第１位で表示
・－；該当なし
・（　）；復元径・残存高

図面	報告番号	器種	器形	出土地点遺構名	法量（cm）		色調		備考
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬	
76	1	土師器	皿	ＳＰ 174	(13.8)	(1.6)	浅黄橙（7.5YR8/4）	－	
	2	磁器	椀	ＳＰ 174	(15.2)	(4.0)	灰白（N8/0）	白磁	中国
	3	土師器	皿	ＳＰ 128	－	(0.8)	灰白（10YR8/2）	－	
	4	土師器	皿	ＳＰ 128	－	(1.8)	にぶい橙（5YR7/4）	－	
	5	土師器	皿	ＳＰ 128	－	(1.3)	にぶい黄橙（10YR7/3）	－	
	6	土師器	皿	ＳＰ 128	－	(0.8)	にぶい橙（7.5YR7/3）	－	
	7	土師器	皿	ＳＰ 128	－	(0.9)	にぶい橙（7.5YR7/3）	－	
	8	土師器	皿	ＳＰ 128	－	(1.4)	浅黄橙（7.5YR8/3）	－	
	9	土師器	皿	ＳＫ 128	(12.4)	(2.1)	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	
	10	土師器	皿	ＳＰ 128	－	(1.5)	灰白（7.5YR8/2）	－	
	11	土師器	皿	ＳＰ 128	－	(2.9)	にぶい橙（5YR7/4）	－	
	12	土師器	皿	ＳＤ 3881	－	0.9	にぶい橙（7.5YR7/3）	－	
	13	土師器	皿	ＳＤ 3881	(10.0)	0.8	浅黄橙（7.5YR8/3）	－	
	14	土師器	皿	ＳＤ 3881	－	0.7	浅黄橙（7.5YR8/3）	－	
	15	土師器	皿	ＳＤ 3881	－	0.8	灰白（10YR8/2）	－	
	16	土師器	皿	ＳＤ 2261	(8.8)	1.0	橙（7.5YR6/6）	－	
	17	土師器	皿	ＳＤ 2261	(12.0)	0.9	にぶい橙（10YR7/3）	－	
	18	土師器	皿	ＳＤ 2261	－	(1.6)	にぶい橙（10YR7/3）	－	
	19	土師器	皿	ＳＤ 2261	－	(1.3)	灰白（10YR8/2）	－	
	20	土師器	皿	ＳＤ 2261	－	1.6	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	
	21	瓦器	椀	ＳＤ 2261	(16.0)	(4.0)	灰白（2.5Y8/1）	－	樟葉
	22	土師器	皿	ＳＤ 78	9.4	1.8	浅黄橙（7.5YR8/4）	－	
	23	土師器	皿	ＳＤ 78	9.4	1.9	浅黄橙（7.5YR8/4）	－	
	24	土師器	皿	ＳＤ 78	9.3	1.4	灰白（10YR8/2）	－	
	25	土師器	皿	ＳＤ 78	9.2	1.6	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	
	26	土師器	皿	ＳＤ 78	9.6	1.8	浅黄橙（7.5YR8/3）	－	
	27	土師器	皿	ＳＤ 78	9.2	1.8	浅黄橙（7.5YR8/4）	－	
	28	土師器	皿	ＳＤ 78	9.5	1.6	にぶい橙（7.5YR7/3）	－	
	29	土師器	皿	ＳＤ 78	10.0	2.0	橙（5YR7/6）	－	
	30	土師器	皿	ＳＤ 78	9.8	1.9	にぶい橙（7.5YR7/3）	－	
	31	土師器	皿	ＳＤ 78	10.0	1.2	にぶい橙（7.5YR7/3）	－	
	32	土師器	皿	ＳＤ 78	9.6	1.7	にぶい橙（5YR7/4）	－	
	33	土師器	皿	ＳＤ 78	(10.6)	1.1	にぶい橙（7.5YR7/3）	－	
	34	土師器	皿	ＳＤ 78	(13.2)	(2.7)	浅黄橙（7.5YR8/3）	－	
	35	土師器	皿	ＳＤ 78	13.3	4.4	灰黄（2.5Y7/2）	－	
	36	土師器	皿	ＳＤ 78	(13.8)	2.5	にぶい橙（7.5YR7/2）	－	
	37	土師器	皿	ＳＤ 78	14.8	2.2	にぶい黄橙（10YR7/2）	－	
	38	土師器	皿	ＳＤ 78	(14.4)	(2.7)	にぶい黄橙（10YR7/4）	－	
	39	土師器	皿	ＳＤ 78	(17.0)	3.5	にぶい橙（7.5YR7/3）	－	
	40	瓦器	皿	ＳＤ 78	8.8	2.0	灰（N4/0）	－	
	41	瓦器	椀	ＳＤ 78	(13.8)	(4.6)	灰（N4/0）	－	樟葉
	42	瓦器	椀	ＳＤ 78	(14.8)	(4.1)	灰（N4/0）	－	樟葉
	43	瓦器	椀	ＳＤ 78	(17.1)	(3.4)	暗灰（N3/0）	－	樟葉
	44	磁器	皿	ＳＤ 78	(9.4)	(1.8)	灰白（N8/0）	白磁	中国
	45	磁器	皿	ＳＤ 78	10.8	2.7	灰白（5Y8/1）	白磁	中国

図面	報告番号	器種	器形	出土地点遺構名	法量（cm）		色調		備考
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬	
76	46	磁器	皿	ＳＤ78	－	1.0	黄灰（2.5Y6/1）	白磁	中国
	47	磁器	椀	ＳＤ78	(12.0)	(3.3)	灰白（N8/0）	白磁	中国
	48	土師質	甕	ＳＤ78	－	(3.5)	にぶい橙（5YR6/3）	－	
	49	須恵器	壺	ＳＤ78	－	(4.5)	褐灰（7.5YR4/1）	－	底部糸切り痕
	50	緑釉陶器	椀	ＳＤ78	－	(3.9)	灰白（2.5Y8/2）	緑	軟質
	51	磁器	椀	ＳＤ78	(16.6)	(4.0)	灰白（5Y8/1）	白磁	中国
	52	磁器	椀	ＳＤ78	(16.0)	(4.6)	灰白（2.5Y8/1）	白磁	中国
	53	磁器	椀	ＳＤ78	(6.0)	(2.9)	浅黄橙（10YR8/3）	白磁	中国
	54	磁器	椀	ＳＤ78	－	(1.9)	灰白（N8/0）	白磁	中国
	55	灰釉陶器	壺	ＳＤ78	－	(14.8)	黄灰（2.5Y6/1）	灰	東海系
	56	土師質	羽釜	ＳＤ78	(23.8)	(8.0)	明褐灰（7.5YR7/2）	－	
77	1	土師器	皿	ＳＫ2258	(10.8)	1.6	灰黄（2.5Y7/2）	－	
	2	土師器	皿	ＳＫ2258	(10.5)	1.1	浅黄橙（10YR8/3）	－	
	3	土師器	皿	ＳＫ2258	(10.5)	(1.4)	灰白（10YR8/2）	－	
	4	土師器	皿	ＳＫ2258	10.7	1.6	にぶい黄橙（10YR7/3）	－	
	5	土師器	皿	ＳＫ2258	(12.8)	(2.5)	浅黄橙（10YR8/3）	－	煤付着
	6	土師器	皿	ＳＫ2258	14.9	2.7	浅黄橙（10YR8/4）	－	
	7	土師器	皿	ＳＫ2258	(17.8)	(3.1)	にぶい黄橙（10YR7/4）	－	
	8	緑釉陶器	椀	ＳＫ2258	－	(1.5)	橙（5YR7/6）	緑	軟質　三叉トチン　近江系
	9	緑釉陶器	椀	ＳＫ2258	－	(1.7)	灰（10YR6/1）	緑	硬質
	10	黒色土器	椀	ＳＫ2258	(14.0)	(4.6)	黒（N2/0）	－	Ｂ類
	11	磁器	椀	ＳＫ2258	(15.6)	(5.6)	灰白（2.5Y8/1）	白磁	中国
	12	灰釉陶器	椀	ＳＫ2258	14.2	6.0	灰白（10YR7/1）	灰	貼り付け高台
	13	土師質	椀	ＳＫ2258	14.4	(4.9)	灰白（2.5Y8/1）	－	緑釉椀の素地か
	14	灰釉陶器	椀	ＳＫ2258	(14.5)	(3.6)	灰白（5Y7/1）	灰	
	15	須恵器	壺	ＳＫ2258	(11.6)	(2.6)	灰（7.5Y6/1）	－	
	16	灰釉陶器	椀	ＳＫ2258	14.1	5.9	灰白（10YR7/1）	灰	貼り付け高台　重ね焼き痕
	17	灰釉陶器	椀	ＳＫ2258	－	(2.3)	灰白（2.5Y7/1）	灰	貼り付け高台　重ね焼き痕
	18	灰釉陶器	椀	ＳＫ2258	－	(2.6)	灰白（10YR8/1）	灰	貼り付け高台　重ね焼き痕
	19	灰釉陶器	椀	ＳＫ2258	－	(1.8)	灰白（10YR7/1）	灰	貼り付け高台　重ね焼き痕
	20	磁器	椀	ＳＫ2258	－	(2.1)	灰黄（2.5Y7/2）	青磁	越州窯系
	21	緑釉陶器	椀	ＳＫ2258	－	(2.1)	浅黄橙（7.5YR8/6）	緑	軟質　見込み圏線　三叉トチン　近江系
	22	緑釉陶器	椀	ＳＫ2258	－	(2.4)	灰褐（7.5YR5/2）	緑	硬質　見込み圏線
	23	緑釉陶器	椀	ＳＫ2258	－	(2.1)	橙（7.5YR7/6）	緑	軟質　見込み圏線
	24	緑釉陶器	椀	ＳＫ2258	－	(1.6)	灰白（2.5Y8/1）	緑	軟質　貼り付け高台
	25	黒色土器	椀	ＳＫ2258	(15.6)	(2.8)	黒（N2/0）	－	Ｂ類
	26	陶器	水注	ＳＫ2258	(4.0)	(6.1)	にぶい橙（5YR6/3）	青磁	越州窯系か
	27	磁器	椀	ＳＫ2258	－	(1.1)	灰白（2.5Y7/1）	青磁	越州窯系
	28	須恵器	壺	ＳＫ2258	－	(5.2)	灰色（N4/0）		壺の耳
	29	灰釉陶器	椀	ＳＫ2258	－	(3.3)	灰白（2.5Y7/1）	灰	貼り付け高台
	30	灰釉陶器	壺	ＳＫ2258	－	(3.8)	灰白（N7/0）	灰	
	31	土師質	壺	ＳＫ2258	(16.0)	(4.3)	にぶい橙（7.5YR6/4）		
	32	緑釉陶器	鉢	ＳＫ2258	(25.6)	10.4	浅黄橙（10YR8/4）	緑	軟質
	33	灰釉陶器	壺	ＳＫ2258	－	(7.5)	灰白（10YR7/1）	灰	
	34	須恵器	壺か	ＳＫ2258	(17.0)	(2.7)	灰（N5/0）	－	
	35	土師質	甕	ＳＫ2258	(17.2)	(4.1)	にぶい橙（7.5YR6/4）	－	羽釜か
	36	土師質	羽釜	ＳＫ2258	(20.0)	(5.3)	にぶい黄橙（10YR7/4）	－	
	37	土師質	羽釜	ＳＫ2258	(25.0)	(3.3)	にぶい褐（7.5YR5/4）	－	

図面	報告番号	器種	器形	出土地点遺構名	法量（cm）		色調		備考
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬	
77	38	土師質	羽釜	ＳＫ 2258	(19.2)	(4.7)	にぶい黄褐(10YR5/3)	−	
	39	土師質	甕	ＳＫ 2258	(28.9)	(3.5)	灰白（5Y8/1）	−	
78	1	土師器	皿	ＳＫ 234	(9.7)	(1.2)	にぶい黄橙(10YR7/4)	−	
	2	土師器	皿	ＳＫ 234	(10.6)	(1.5)	浅黄橙（10YR8/3）	−	
	3	土師器	皿	ＳＫ 234	(9.6)	1.4	灰白（10YR8/2）	−	
	4	土師器	皿	ＳＫ 234	(9.8)	(1.1)	にぶい黄橙(10YR7/4)	−	
	5	土師器	皿	ＳＫ 234	(11.1)	(1.7)	灰白（10YR8/2）	−	
	6	土師器	皿	ＳＫ 234	(11.2)	(7.5)	浅黄橙（7.5YR8/3）	−	
	7	土師器	皿	ＳＫ 234	(15.0)	2.0	にぶい黄橙(10YR7/3)	−	
	8	土師器	皿	ＳＫ 234	(14.3)	(2.8)	にぶい橙（7.5YR7/3）	−	
	9	黒色土器	椀	ＳＫ 234	15.9	(4.4)	黒（N2/0）	−	Ｂ類
	10	黒色土器	椀	ＳＫ 234	(15.7)	(4.6)	黒褐（2.5Y2/1）	−	Ｂ類
	11	土師器	皿	ＳＳ 3525	(4.1)	0.8	灰白（5YR8/1）	−	
	12	土師器	皿	ＳＳ 3525	(8.6)	1.1	淡赤橙（2.5YR7/4）	−	
	13	土師器	皿	ＳＫ 3839	15.0	2.8	浅黄橙（7.5YR8/3）	−	
	14	土師器	皿	ＳＫ 3839	15.5	2.8	明褐灰（7.5YR7/2）	−	
	15	土師器	皿	ＳＫ 238	10.2	1.5	浅黄橙（7.5YR8/3）	−	
	16	土師器	皿	ＳＫ 238	(13.4)	2.5	にぶい橙（7.5YR7/4）	−	
	17	土師器	皿	ＳＫ 238	(14.2)	(2.7)	にぶい黄橙(10YR7/3)	−	
	18	緑釉陶器	椀	ＳＫ 238	−	(1.1)	灰白（5Y8/1）	緑	軟質　貼り付け高台
	19	灰釉陶器	椀	ＳＫ 238	−	(1.1)	灰白（10YR7/1）	灰	貼り付け高台
	20	黒色土器	椀	ＳＫ 238	(15.4)	(3.4)	黒（N1.5/0）	−	Ｂ類
	21	緑釉陶器	椀	ＳＫ 238	15.0	6.3	灰白（2.5Y8/1）	緑	軟質　周防
	22	土師器	皿	ＳＳ 3827	(8.6)	(1.5)	灰白（2.5Y8/2）	−	雲母片含む　煤付着
	23	土師器	皿	ＳＳ 3827	(9.4)	(1.6)	にぶい黄橙(10YR7/3)	−	雲母片含む
	24	磁器	椀	ＳＳ 3827	−	(2.5)	灰黄（2.5Y7/2）	青磁	同安窯系　25 と同一個体か
	25	磁器	椀	ＳＳ 3827	−	(1.9)	灰白（2.5Y7/1）	青磁	同安窯系　24 と同一個体か
79	1	土師器	皿	Ｓ A3425	4.9	0.7	灰白（2.5Y8/2）	−	
	2	土師器	皿	Ｓ A3425	(6.8)	1.8	灰白（7.5YR8/2）	−	
	3	土師器	皿	Ｓ A3425	7.5	2.0	灰白（10YR8/1）	−	
	4	土師器	皿	Ｓ A3425	(7.5)	1.6	浅黄橙（7.5YR8/4）	−	
	5	土師器	皿	Ｓ A3425	(8.0)	1.4	にぶい橙（7.5YR7/3）	−	煤付着
	6	土師器	皿	Ｓ A3425	(8.6)	(1.6)	灰白（10YR8/2）	−	
	7	土師器	皿	Ｓ A3425	(8.4)	1.4	浅黄橙（7.5YR8/3）	−	
	8	土師器	皿	Ｓ A3425	(8.9)	1.4	にぶい橙（7.5YR7/3）	−	
	9	土師器	皿	ＳＡ 3425	(11.4)	1.6	灰白（10YR8/2）	−	
	10	土師器	皿	ＳＡ 3425	(10.4)	(1.9)	にぶい橙（7.5YR7/4）	−	
	11	土師器	皿	ＳＡ 3425	(12.0)	(1.8)	浅黄橙（7.5YR8/3）	−	
	12	土師器	皿	ＳＡ 3425	(11.2)	(1.4)	にぶい橙（7.5YR7/3）	−	
	13	土師器	皿	ＳＡ 3425	(12.0)	2.1	浅黄橙（7.5YR8/4）	−	
	14	土師器	皿	ＳＡ 3425	(14.0)	3.7	灰白（10YR8/2）	−	
	15	土師器	皿	ＳＡ 3425	−	(1.4)	浅黄橙（7.5YR8/4）	−	
	16	土師器	皿	ＳＡ 3425	−	(1.7)	灰白（10YR8/2）	−	煤付着
	17	灰釉陶器	鉢	ＳＡ 3425	(17.4)	(1.7)	灰白（5Y7/2）	灰	瀬戸
	18	陶器	甕	ＳＡ 3425	−	(9.6)	褐灰（7.5YR5/1）		常滑
	19	土師器	皿	ＳＡ 3823	−	(1.2)	にぶい橙（7.5YR7/4）	−	

図面	報告番号	器種	器形	出土地点遺構名	法量（cm）		色調		備考
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬	
79	20	土師器	皿	ＳＡ 3823	－	(1.8)	にぶい黄橙(10YR7/4)	－	
	21	土師器	皿	ＳＡ 3823	9.0	2.0	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	
	22	土師器	皿	ＳＡ 3823	(10.0)	(1.6)	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	
	23	土師器	皿	ＳＡ 3823	(11.8)	(1.9)	にぶい橙（7/4）	－	
	24	土師器	皿	ＳＡ 3823	(11.8)	(1.6)	浅黄橙（7.5YR8/3）	－	
	25	土師器	皿	ＳＡ 3823	(12.0)	(2.1)	灰白（10YR8/2）	－	
	26	土師器	皿	ＳＡ 3823	(13.0)	(2.2)	灰白（7.5YR8/2）	－	
	27	土師器	皿	ＳＡ 3823	(13.8)	(2.0)	浅黄橙（7.5YR8/4）	－	
	28	土師器	皿	ＳＡ 3485（ＳＰ 3740）	(13.0)	(1.5)	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	
	29	土師器	皿	ＳＡ 3485（ＳＰ 3689）	－	(1.3)	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	
	30	土師器	皿	ＳＡ 3485（ＳＰ 3689）	－	(1.7)	灰白（10YR8/2）	－	
	31	土師器	皿	ＳＡ 3485（ＳＰ 3485）	－	(1.5)	灰白（10YR8/2）	－	
	32	土師器	皿	ＳＡ 3485（ＳＰ 3485）	－	(1.7)	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	
	33	土師器	皿	ＳＡ 3485（ＳＰ 3485）	(11.0)	(1.9)	灰白（7.5YR8/2）	－	
	34	土師器	皿	ＳＡ 96（ＳＰ 100）	－	(1.4)	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	
	35	土師器	皿	ＳＡ 96（ＳＰ 100）	－	(1.6)	にぶい黄橙(10YR7/3)	－	
	36	土師器	皿	ＳＡ 96（ＳＰ 100）	－	(1.6)	浅黄橙（7.5YR8/3）	－	
	37	土師器	皿	ＳＡ 182（ＳＰ 196）	－	(1.5)	灰白（2.5Y8/2）	－	
	38	須恵器	鉢	ＳＡ 182（ＳＰ 182）	(28.8)	(2.0)	黄灰（2.5Y6/1）	－	東播系
	39	土師器	皿	ＳＡ 182（ＳＰ 182）	(12.8)	(1.5)	淡橙（5YR8/4）	－	
	40	陶器	壺	ＳＡ 182（ＳＰ 182）	(21.4)	(1.7)	暗赤褐（5YR3/4）	鉄	瀬戸か
	41	土師器	皿	ＳＡ 3401（ＳＰ 3401）	(14.0)	(2.5)	にぶい橙（7.5YR7/3）	－	
	42	土師器	皿	ＳＡ 3401（ＳＰ 3401）	－	(1.4)	灰白（7.5YR8/2）	－	
	43	土師器	皿	ＳＡ 3401（ＳＰ 3409）	－	(2.1)	浅黄橙（7.5YR8/4）	－	
	44	磁器	椀	ＳＡ 3401（ＳＰ 3409）	－	(2.3)	灰白（5Y7/2）	白磁	中国
	45	土師器	皿	ＳＢ 117（ＳＰ 198）	－	(1.7)	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	
	46	土師器	皿	ＳＢ 117（ＳＰ 176）	(11.4)	(2.5)	浅黄橙（10YR8/3）	－	
	47	土師器	皿	ＳＰ 3596	8.4	1.9	にぶい橙（7.5YR7/3）	－	
	48	土師器	皿	ＳＰ 2107	(10.8)	(1.8)	橙（7.5YR6/6）	－	煤付着
	49	土師器	皿	ＳＰ 2107	(11.5)	1.8	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	
	50	土師器	皿	ＳＰ 2107	(11.2)	(2.3)	浅黄橙（10YR8/4）	－	
	51	土師器	皿	ＳＰ 2107	(13.3)	(2.7)	灰白（10YR8/2）	－	
	52	土師器	皿	ＳＰ 2107	(16.6)	(2.6)	浅黄橙（7.5YR8/3）	－	
	53	土師器	皿	ＳＰ 3439	－	(2.6)	淡橙（5YR8/4）	－	
	54	土師質	羽釜	ＳＰ 3439	(12.4)	(2.1)	灰白（7.5YR8/2）	－	
	55	土師器	皿	ＳＰ 125	(9.8)	(1.6)	浅黄橙（7.5YR8/3）	－	

図面	報告番号	器種	器形	出土地点遺構名	法量（cm）		色調		備考
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬	
79	56	土師器	皿	ＳＰ125	(13.4)	(2.1)	浅黄橙（7.5YR8/4）	－	
	57	磁器	椀	ＳＰ125	－	(2.3)	灰白（N8/0）	白磁	中国
	58	土師器	皿	ＳＰ2121	(6.2)	(1.3)	にぶい橙（7.5YR6/4）	－	
	59	土師器	皿	ＳＰ2121	(13.0)	(3.0)	灰白（10YR8/2）		
	60	磁器	椀	ＳＰ2121	(6.0)	(1.7)	灰（5Y6/1）	青磁	龍泉窯系
	61	土師器	皿	ＳＰ99	(12.0)	1.9	橙（7.5YR7/6）	－	
	62	土師器	皿	ＳＰ192	(15.6)	2.2	橙（7.5YR7/6）	－	
80	1	土師質	壺	ＳＤ81	(19.6)	(4.7)	にぶい赤褐（5YR5/4）	－	
	2	土師器	皿	ＳＤ81	(6.8)	1.6	浅黄橙（7.5YR8/4）	－	
	3	土師器	皿	ＳＤ81	(7.2)	1.7	浅黄橙（7.5YR8/4）	－	
	4	土師器	柱状高台土器	ＳＤ81	－	(1.4)	灰白（2.5YR8/2）	－	底部糸切り痕
	5	土師器	皿	ＳＤ81	(14.5)	(2.4)	灰白（7.5YR8/2）	－	
	6	土師器	皿	ＳＤ81	(7.6)	1.3	浅黄橙（7.5YR8/4）	－	
	7	土師器	皿	ＳＤ81	(8.8)	(2.0)	浅黄橙（7.5YR8/4）	－	
	8	土師器	皿	ＳＤ81	(12.9)	2.3	橙（5YR7/6）	－	
	9	陶器	鉢	ＳＤ81	－	(2.7)	灰黄（2.5YR7/2）	灰	瀬戸　10と同一個体　脚別付
	10	陶器	鉢	ＳＤ81	(26.7)	(4.4)	浅黄橙（10YR8/3）	灰	瀬戸　９と同一個体
	11	磁器	皿	ＳＤ81	－	(1.9)	灰白（N8/0）	白磁	景徳鎮
	12	灰釉陶器	椀	ＳＤ81	－	(3.1)	灰白（5Y8/1）	灰	貼り付け高台　重ね焼き痕
	13	陶器	花瓶	ＳＤ81	－	(3.8)	灰白（10YR8/2）	灰	瀬戸　底部糸切り痕
	14	土師器	皿	ＳＤ81	(7.2)	(1.5)	浅橙（5YR8/3）	－	
	15	土師器	皿	ＳＤ81	(11.4)	(1.8)	灰白（7.5YR8/2）	－	煤付着
	16	土師器	皿	ＳＤ81	(12.8)	(2.2)	浅黄橙（7.5YR8/4）	－	
	17	陶器	花瓶	ＳＤ81	(12.0)	(3.6)	浅黄橙（10YR8/3）	鉄	瀬戸
	18	瓦質	三足	ＳＤ81	(27.0)	(3.4)	灰（N4/0）	－	脚別付
	19	瓦質	羽釜	ＳＤ81	(26.3)	(3.1)	灰白（N8/0）	－	
	20	須恵器	甕	ＳＤ81	(37.0)	(3.0)	灰（N5/0）	－	
	21	土師器	皿	ＳＤ81	(11.4)	(2.0)	灰白（10YR8/2）	－	
	22	土師器	皿	ＳＤ81	(13.2)	(2.3)	灰白（7.5YR8/2）	－	
	23	灰釉陶器	椀	ＳＤ81	－	(2.3)	灰白（N7/0）	灰	貼り付け高台　底部糸切り痕
	24	土師器	皿	ＳＤ81	(7.2)	1.7	浅黄橙（7.5YR8/6）	－	
	25	土師器	皿	ＳＤ81	(10.0)	1.5	浅黄橙（7.5YR8/4）	－	
	26	土師器	皿	ＳＤ81	(10.2)	1.6	淡橙（5YR8/4）	－	煤付着
	27	土師器	皿	ＳＤ81	(14.4)	(2.0)	浅黄橙（7.5YR8/3）	－	
	28	土師器	皿	ＳＤ81	(10.7)	(1.7)	灰白（7.5YR8/1）	－	
	29	土師器	皿	ＳＤ81	(16.2)	(1.9)	浅黄橙（7.5YR8/4）	－	
	30	陶器	椀	ＳＤ81	(13.6)	(3.3)	灰白（2.5Y7/1）	灰	瀬戸
	31	磁器	椀	ＳＤ81	(14.2)	(3.5)	白（N9/0）	白磁	中国
	32	磁器	椀	ＳＤ81	(16.8)	(4.5)	灰白（5Y8/1）	白磁	中国
	33	磁器	鉢	ＳＤ81	－	(3.4)	灰白（N8/0）	青磁	龍泉窯系
81	1	土師器	皿	ＳＤ81	(9.5)	1.5	浅黄橙（7.5YR8/4）	－	
	2	土師器	皿	ＳＤ81	(10.0)	1.7	にぶい橙（5YR7/4）	－	煤付着
	3	土師器	皿	ＳＤ81	(10.8)	2.0	淡橙（5YR8/4）	－	
	4	土師器	皿	ＳＤ81	(11.6)	(1.7)	淡橙（5YR8/4）	－	煤付着
	5	土師器	皿	ＳＤ81	(10.0)	1.8	浅黄橙（7.5YR8/4）	－	
	6	土師器	皿	ＳＤ81	(14.2)	2.3	浅黄橙（7.5YR8/3）	－	
	7	土師器	皿	ＳＤ81	(13.0)	2.8	灰白（7.5YR8/1）	－	
	8	土師器	皿	ＳＤ81	(15.0)	(3.4)	浅黄橙（10YR8/3）	－	
	9	土師器	皿	ＳＤ81	(15.8)	(2.9)	浅黄橙（7.5YR8/3）	－	

図面	報告番号	器種	器形	出土地点遺構名	法量（cm）		色調		備考
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬	
81	10	土師器	皿	ＳＤ81	(15.2)	3.5	にぶい橙（5YR7/4）	－	
	11	瓦質	火鉢	ＳＤ81	－	(7.9)	灰（N4/0）	－	大和
	12	磁器	皿	ＳＤ81	－	(1.6)	白（N8/0）	白磁	中国
	13	磁器	皿	ＳＤ81	9.6	2.2	灰白（10Y8/1）	白磁	中国
	14	磁器	皿	ＳＤ81	11.2	3.2	灰白（2.5Y8/2）	白磁	中国　重ね焼き痕
	15	磁器	椀	ＳＤ81	(17.0)	5.9	灰白（2.5Y8/2）	白磁	中国
	16	須恵器	甕	ＳＤ81	(34.7)	(3.3)	灰（N5/0）	－	
	17	土師器	皿	ＳＤ81	(9.5)	1.4	浅黄橙（7.5YR8/3）	－	
	18	磁器	椀	ＳＤ81	(13.0)	4.4	灰白（5Y8/1）	白磁	中国
	19	磁器	馬上杯	ＳＤ81	(3.8)	(5.0)	灰白（10YR8/1）	青磁	龍泉窯系
	20	瓦質	火鉢	ＳＤ81	(29.6)	(4.0)	オリーブ黒（5Y3/1）	－	大和
	21	瓦質	火鉢	ＳＤ81	(34.0)	(7.3)	褐灰（10YR5/1）	－	大和
	22	磁器	椀	ＳＤ81	－	(1.7)	オリーブ灰 (2.5GY5/1)	青磁	龍泉窯系　見込み印判
	23	磁器	椀	ＳＤ81	－	(1.9)	灰白（7.5Y8/1）	青磁	龍泉窯系
	24	磁器	椀	ＳＤ81	(14.9)	(3.8)	灰白（5Y7/1）	白磁	中国
	25	陶器	卸目皿	ＳＤ81	(8.2)	(1.6)	浅黄橙（7.5YR8/3）	灰	瀬戸
	26	須恵器	甕	ＳＤ81	40.0	(6.7)	褐灰（5YR4/1）	－	中・四国系　外面タタキ 内面ミガキ痕
82	1	土師器	皿	ＳＤ3550	(14.2)	(1.6)	浅黄橙（7.5YR8/3）	－	煤付着
	2	土師器	皿	ＳＤ3550	(15.0)	(2.3)	浅黄橙（7.5YR8/4）	－	
	3	磁器	皿	ＳＤ3550	－	(1.1)	灰白（2.5Y8/2）	白磁	中国　墨書「井」
	4	陶器	鉢	ＳＤ3550	－	(6.9)	褐灰（10YR6/1）	灰	瀬戸
	5	磁器	皿	ＳＤ3550	－	(1.4)	白（N9/0）	白磁	中国
	6	瓦質	火鉢	ＳＤ3550	－	(5.7)	褐灰（10YR4/1）	－	大和
	7	磁器	椀	ＳＤ3550	(14.2)	(4.2)	灰白（7.5YR8/1）	青磁	龍泉窯系
	8	土師質	羽釜	ＳＤ3550	23.6	(4.9)	灰白（2.5Y8/2）	－	
	9	陶器	甕	ＳＤ3550	－	(7.5)	灰赤（2.5YR4/2）		備前
	10	土師器	皿	ＳＤ3550	8.8	1.8	浅黄橙（7.5YR8/3）	－	煤付着
	11	土師器	皿	ＳＤ3550	(9.0)	2.0	浅黄橙（10YR8/4）	－	
	12	土師器	皿	ＳＤ3550	(12.0)	(2.4)	灰白（10YR8/2）	－	
	13	磁器	椀	ＳＤ3550	－	(3.2)	灰白（2.5Y7/1）	青磁	龍泉窯系
	14	磁器	椀	ＳＤ3550	(13.0)	(2.8)	灰白（N8/0）	青白磁	中国　被熱痕あり
	15	瓦質	擂鉢	ＳＤ3550	(30.6)	(5.4)	灰（N4/0）	－	和泉河内系
	16	陶器	甕	ＳＤ3550	－	(7.6)	にぶい赤褐 (2.5YR4/3)		備前
	17	磁器	椀	ＳＤ3550	(13.8)	(7.4)	灰白（N8/0）	青磁	龍泉窯系　見込み印判
	18	陶器	擂鉢	ＳＤ3550	(30.4)	(4.6)	灰白（10YR8/1）		信楽
	19	陶器	擂鉢	ＳＤ3550	(32.0)	(6.3)	灰褐（5YR5/2）		備前
	20	土師器	皿	ＳＤ3550	(13.0)	(1.6)	淡橙（5YR8/4）	－	
	21	土師器	皿	ＳＤ3550	(12.8)	(2.4)	浅黄橙（7.5YR8/4）	－	
	22	土師器	皿	ＳＤ3550	(13.8)	(2.7)	浅黄橙（7.5YR8/4）	－	
	23	土師器	皿	ＳＤ3550	(16.0)	(2.6)	浅黄橙（7.5YR8/6）	－	
	24	磁器	皿	ＳＤ3550	－	(1.2)	灰白（N8/0）	白磁	中国　墨書「川」
	25	陶器	椀	ＳＤ3550	(11.8)	(6.0)	灰白（2.5Y8/1）	鉄	中国
	26	陶器	擂鉢	ＳＤ3550	－	(5.5)	浅黄橙（10YR8/3）		信楽
83	1	瓦質	三足鍋	ＳＤ3370	(3.8)	(3.8)	灰白（5YR8/1）	－	
	2	陶器	鉢	ＳＤ3370	－	(2.0)	淡黄（2.5YR8/3）	緑	中国南部
	3	陶器	卸目皿	ＳＤ3370	(13.4)	2.8	灰白（2.5Y7/1）	灰	瀬戸
	4	緑釉陶器	椀	ＳＤ3370	－	(2.3)	灰白（7.5Y7/1）	緑	硬質
	5	緑釉陶器	椀	ＳＤ3370	－	(1.8)	橙（5YR7/6）	緑	軟質　貼り付け高台　見込み圏線　三叉トチン
	6	灰釉陶器	椀	ＳＤ3370	－	(2.7)	灰白（7.5Y7/2）	灰	貼付高台　重ね焼き痕

図面	報告番号	器種	器形	出土地点遺構名	法量（cm）		色調		備考
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬	
83	7	磁器	皿	ＳＤ 3370	8.0	1.6	灰白（N7/0）	白磁	中国
	8	磁器	皿	ＳＤ 3370	−	(1.2)	灰白（2.5YR8/2）	白磁	中国
	9	磁器	皿	ＳＤ 3370	−	(1.7)	灰白（2.5Y8/2）	白磁	中国
	10	磁器	椀	ＳＤ 3370	(10.6)	3.2	灰白（2.5Y8/2）	白磁	中国
	11	緑釉陶器	水注か	ＳＤ 3370	−	(8.4)	灰白（2.5Y8/2）	緑	軟質
	12	須恵器	壺	ＳＤ 3370	−	(5.9)	灰白（N4/0）	−	東播系
	13	瓦質	羽釜	ＳＤ 3370	(22.0)	(3.7)	灰（7.5Y5/1）	−	内面ヘラミガキ
	14	土師器	皿	ＳＤ 3370	(7.2)	2.0	灰白（10YR8/2）	−	
	15	土師器	皿	ＳＤ 3370	(6.7)	1.8	灰白（10YR8/2）	−	
	16	土師器	皿	ＳＤ 3370	(9.6)	2.0	浅黄橙（5YR8/4）	−	
	17	土師器	皿	ＳＤ 3370	(10.8)	2.1	浅黄橙（10YR8/3）	−	
	18	土師器	皿	ＳＤ 3370	(11.4)	2.6	浅黄橙（7.5YR8/3）	−	
	19	陶器	卸目皿	ＳＤ 3370	(10.0)	2.1	灰白（7.5YR8/2）		瀬戸
	20	灰釉陶器	椀	ＳＤ 3370	(11.2)	4.0	灰白（5Y8/1）	灰	貼り付け高台　重ね焼き痕
	21	陶器	椀	ＳＤ 3370	(4.0)	(3.5)	灰白（5Y7/1）	鉄	瀬戸
	22	磁器	椀	ＳＤ 3370	−	(3.0)	灰白（2.5Y8/2）	白磁	中国
	23	磁器	椀	ＳＤ 3370	(10.2)	(2.5)	灰白（5Y8/1）	白磁	中国
	24	磁器	皿	ＳＤ 3370	−	(1.7)	灰白（2.5Y8/1）	白磁	中国
	25	磁器	椀	ＳＤ 3370	(15.6)	(3.2)	灰白（N8/0）	青磁	龍泉窯系
	26	磁器	椀	ＳＤ 3370	−	(3.1)	灰白（10YR7/1）	青磁	龍泉窯系　見込み印判
	27	磁器	椀	ＳＤ 3370	−	(3.7)	灰白（5Y8/1）	染付	中国
	28	土師器	皿	ＳＤ 3370	(12.1)	(1.6)	灰白（10YR8/2）	−	
	29	土師器	皿	ＳＤ 3370	(15.8)	(1.8)	橙（5YR7/6）	−	
	30	磁器	椀	ＳＤ 3370	(15.0)	(3.0)	灰白（5Y8/1）	白磁	中国
	31	土師器	皿	ＳＤ 3370	(10.0)	(1.2)	浅黄橙（7.5YR8/3）	−	
	32	土師器	皿	ＳＤ 3370	(12.2)	(1.5)	浅黄橙（7.5YR8/4）	−	
	33	土師器	皿	ＳＤ 3370	(13.8)	(1.9)	にぶい橙（7.5YR7/4）	−	
	34	磁器	椀	ＳＤ 3370	−	(1.7)	灰白（10YR8/2）	白磁	中国
	35	瓦質	羽釜	ＳＤ 3370	(22.8)	(3.5)	灰（N4/0）	−	
	36	土師器	皿	ＳＤ 3370	−	(1.5)	にぶい橙（7.5YR7/4）	−	
	37	土師器	皿	ＳＤ 3370	−	(1.7)	にぶい橙（5YR7/4）	−	
	38	土師器	皿	ＳＤ 3370	−	(1.4)	にぶい橙（7.5YR7/3）	−	
	39	土師器	皿	ＳＤ 3370	(13.8)	(1.7)	灰白（10YR8/2）	−	
	40	土師器	皿	ＳＤ 3370	(15.2)	(1.6)	浅黄橙（7.5YR8/3）	−	
84	1	土師器	皿	ＳＤ 3370	10.0	2.1	浅黄橙（10YR8/3）	−	
	2	土師器	皿	ＳＤ 3370	(14.9)	(2.8)	浅黄橙（7.5YR8/4）	−	
	3	陶器	皿	ＳＤ 3370	8.6	2.7	灰黄（2.5Y7/2）	灰	瀬戸美濃　底部糸切り痕
	4	磁器	椀	ＳＤ 3370	−	(4.6)	灰オリーブ（7.5Y5/2）	青磁	龍泉窯系　蓮弁文
	5	磁器	椀	ＳＤ 3370	−	(2.1)	灰（N6/0）	青磁	龍泉窯系　見込み印判
	6	磁器	椀	ＳＤ 3370	−	(3.0)	灰白（N7/0）	青磁	龍泉窯系　見込み印判
	7	陶器	壺	ＳＤ 3370	(20.0)	(6.5)	黒褐（7.5YR2/2）	−	備前
	8	土師器	皿	ＳＤ 77	(6.8)	(1.6)	灰白（10YR8/2）	−	
	9	土師器	皿	ＳＤ 77	(11.8)	(1.9)	にぶい橙（5YR7/4）	−	
	10	土師器	皿	ＳＤ 200	(7.9)	1.3	浅黄橙（10YR8/3）	−	
	11	土師器	皿	ＳＤ 200	(10.0)	1.9	浅黄橙（7.5YR8/4）	−	
	12	土師器	皿	ＳＤ 200	(11.3)	(2.1)	浅黄橙（7.5YR8/3）	−	
	13	土師器	皿	ＳＤ 200	(11.9)	(1.7)	浅黄橙（7.5YR8/6）	−	
	14	土師器	皿	ＳＤ 200	(17.3)	(2.5)	にぶい橙（7.5YR7/4）	−	
	15	瓦質	羽釜	ＳＤ 200	28.0	(2.6)	褐灰（10YR4/1）	−	
	16	磁器	椀	ＳＤ 200	(13.6)	(2.7)	灰白（5Y8/1）	白磁	中国
85	1	土師器	皿	ＳＥ 3822	−	(1.3)	にぶい橙（7.5YR7/4）	−	
	2	土師器	皿	ＳＥ 3822	−	(1.6)	浅黄橙（10YR8/3）	−	

図面	報告番号	器種	器形	出土地点遺構名	法量（cm）		色調		備考
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬	
85	3	土師器	皿	ＳＥ 3822	－	(2.0)	浅黄橙（10YR8/3）	－	
	4	磁器	椀	ＳＥ 3822	－	(2.2)	灰白（5Y7/1）	白磁	中国
	5	土師器	皿	ＳＳ 3479	(6.8)	1.5	淡橙（5YR8/3）	－	
	6	土師器	皿	ＳＳ 3479	(14.8)	(2.0)	灰白（7.5YR8/1）	－	
	7	土師器	皿	ＳＳ 3479	(18.6)	(2.2)	灰白（10YR8/2）	－	
	8	土師器	皿	ＳＳ 3753	(7.2)	1.7	灰白（10YR8/2）	－	
	9	土師器	皿	ＳＳ 3753	(10.6)	2.5	浅黄橙（7.5YR8/3）	－	
	10	土師器	皿	ＳＳ 3753	(15.4)	2.5	浅黄橙（7.5YR8/4）	－	
	11	陶器	鉢	ＳＳ 3753	(18.2)	(3.9)	灰黄（5Y7/1）		瀬戸
	12	瓦質	羽釜	ＳＳ 3753	－	(4.0)	灰（5Y4/1）	－	内面ヘラミガキ
	13	陶器	椀	ＳＳ 3753	－	(3.6)	褐灰（7.5YR6/1）	灰	朝鮮か
	14	土師器	皿	ＳＳ 3507	(7.9)	1.4	橙（2.5YR6/6）	－	
	15	土師器	皿	ＳＳ 3507	(9.0)	(1.8)	淡橙（5YR8/4）	－	
	16	土師器	皿	ＳＳ 3507	(9.2)	1.7	橙（5YR7/6）	－	
	17	土師器	皿	ＳＳ 3507	(10.6)	2.3	淡橙（5YR8/4）	－	
	18	土師器	皿	ＳＳ 3507	(13.2)	(2.4)	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	
	19	土師器	皿	ＳＳ 3507	(15.5)	(2.1)	にぶい橙（5YR7/4）	－	
	20	土師器	皿	ＳＳ 3478	(8.6)	1.4	灰白（7.5YR8/2）	－	
	21	土師器	皿	ＳＳ 3478	(14.2)	(1.2)	灰白（7.5YR8/2）	－	
	22	土師器	皿	ＳＳ 3478	(14.8)	(2.5)	浅黄橙（7.5YR8/3）	－	
	23	土師器	皿	ＳＳ 3491	－	(2.4)	浅黄橙（7.5YR8/3）	－	
	24	瓦質	火鉢	ＳＳ 3491	(39.0)	(6.6)	灰（N4/0）	－	大和か　内外面ミガキ
	25	土師器	皿	ＳＳ 3306	(7.9)	(2.0)	橙（5YR6/6）	－	
	26	土師器	皿	ＳＳ 3306	(12.4)	(2.2)	淡橙（5YR8/4）	－	
	27	土師器	皿	ＳＳ 3390	(14.0)	(1.8)	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	
	28	土師器	皿	ＳＳ 3390	(16.8)	(2.3)	淡橙（5YR8/4）	－	
86	1	土師器	皿	ＳＫ 3831	11.4	2.8	淡橙（5YR8/4）	－	
	2	土師器	皿	ＳＫ 3831	11.5	2.6	淡橙（5YR8/4）	－	
	3	土師器	皿	ＳＫ 3831	12.4	2.9	灰白（7.5YR8/1）	－	
	4	土師器	皿	ＳＫ 3831	(13.5)	3.1	灰白（7.5YR8/2）	－	
	5	土師器	皿	ＳＸ 2199	(7.9)	(1.8)	浅黄橙（7.5YR8/3）	－	
	6	土師器	皿	ＳＸ 2199	(10.5)	(1.5)	にぶい黄橙（10YR7/4）	－	
	7	陶器	椀	ＳＸ 2199	(6.0)	(2.7)	灰黄褐（10YR5/2）	鉄	瀬戸
	8	緑釉陶器	椀	ＳＸ 2199	(14.6)	(2.5)	浅黄橙（7.5YR8/4）	緑	
	9	土師器	皿	ＳＫ 2185	6.5	1.9	灰白（2.5Y8/2）	－	
	10	土師器	皿	ＳＫ 2185	(10.6)	1.9	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	
	11	土師器	皿	ＳＫ 2185	(10.5)	(2.1)	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	
	12	土師器	皿	ＳＫ 2185	(11.3)	(3.0)	灰白（10YR8/2）	－	
	13	土師器	皿	ＳＫ 2185	(12.9)	(3.3)	浅黄橙（7.5YR8/3）	－	
	14	土師器	皿	ＳＫ 2185	(10.8)	(1.7)	にぶい橙（5YR7/4）	－	
	15	土師器	皿	ＳＫ 2204	5.8	1.3	にぶい黄橙（10YR7/4）	－	
	16	土師器	皿	ＳＫ 2204	(7.4)	(1.8)	灰白（10YR8/2）	－	煤付着
	17	土師器	皿	ＳＫ 2204	(11.0)	(2.1)	浅黄橙（7.5YR8/4）	－	
	18	土師器	皿	ＳＫ 2204	(13.2)	(2.6)	橙（5YR7/6）	－	
	19	瓦器	椀	ＳＫ 2204	(15.4)	(4.5)	灰（N4/0）	－	樟葉
	20	磁器	椀	ＳＫ 2204	－	(1.5)	淡黄（2.5Y8/4）	白磁	中国　高台内墨書
	21	磁器	椀	ＳＫ 2204	－	(4.3)	灰白（N7/0）	青磁	龍泉窯系　見込み印判　連弁文
	22	磁器	皿	ＳＫ 2204	(11.8)	(2.7)	染付	－	
	23	土師器	皿	ＳＫ 2157	(5.8)	(1.5)	橙（7.5YR6/6）	－	

図面	報告番号	器種	器形	出土地点遺構名	法量（cm）		色調		備考
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬	
86	24	土師器	皿	S K 2157	(7.0)	1.6	橙（7.5YR6/6）	−	
	25	土師器	皿	S K 2157	7.2	1.5	橙（5YR7/6）	−	
	26	土師器	皿	S K 2157	7.7	1.6	灰白（2.5YR8/2）	−	
	27	土師器	皿	S K 2157	7.2	2.0	にぶい橙（7.5YR7/4）	−	
	28	土師器	皿	S K 2157	(7.2)	(1.7)	淡黄（2.5Y8/3）	−	
	29	土師器	皿	S K 2157	7.0	1.4	にぶい黄橙（10YR7/3）	−	
	30	土師器	皿	S K 2157	(7.6)	(1.5)	灰白（2.5Y8/2）	−	
	31	土師器	皿	S K 2157	(7.6)	1.3	にぶい橙（7.5YR7/4）	−	
	32	土師器	皿	S K 2157	(7.8)	(1.5)	にぶい黄橙（10YR7/4）	−	
	33	土師器	皿	S K 2157	8.6	1.5	にぶい黄橙（10YR7/4）	−	煤付着
	34	土師器	皿	S K 2157	(8.4)	(1.4)	にぶい黄橙（10YR6/4）	−	
	35	土師器	皿	S K 2157	(7.0)	(1.4)	にぶい橙（7.5YR6/4）	−	
	36	土師器	皿	S K 2157	(6.6)	(1.5)	にぶい橙（7.5YR6/4）	−	
	37	土師器	皿	S K 2157	7.1	1.5	にぶい橙（7.5YR6/4）	−	
	38	土師器	皿	S K 2157	(7.2)	(1.2)	にぶい橙（7.5YR7/3）	−	
	39	土師器	皿	S K 2157	6.7	1.4	にぶい橙（7.5YR7/4）	−	
	40	土師器	皿	S K 2157	6.8	1.7	橙（7.5YR6/6）	−	
	41	土師器	皿	S K 2157	(7.4)	(1.7)	にぶい黄橙（10YR7/3）	−	
	42	土師器	皿	S K 2157	6.8	1.9	にぶい橙（7.5YR7/4）	−	
	43	土師器	皿	S K 2157	8.7	2.2	浅黄橙（7.5YR8/4）	−	
	44	土師器	皿	S K 2157	(14.4)	2.8	浅黄橙（7.5YR8/3）	−	煤付着
	45	土師器	皿	S K 2157	(16.0)	(2.7)	浅黄橙（7.5YR8/4）	−	
	46	土師器	皿	S K 2157	15.6	3.0	浅黄橙（7.5YR8/4）	−	
	47	瓦質	火鉢	S K 2157	(4.7)	(6.1)	灰（N4/0）	−	大和
	48	土師器	皿	S K 2104	(11.2)	(0.9)	浅黄橙（10YR8/3）	−	
	49	土師器	皿	S K 2105	−	(1.8)	浅黄橙（10YR8/2）	−	
87	1	土師器	皿	S K 90	12.0	1.7	にぶい橙（5YR7/4）	−	
	2	土師器	皿	S K 90	(14.8)	2.2	浅黄橙（7.5YR8/4）	−	
	3	土師器	皿	S K 90	(16.0)	2.8	浅黄橙（7.5YR8/4）	−	
	4	土師器	皿	S K 90	(14.3)	1.9	浅黄橙（7.5YR8/3）	−	
	5	土師器	皿	S K 90	(14.8)	2.1	浅黄橙（7.5YR8/6）	−	
	6	土師器	皿	S K 90	(13.9)	(2.2)	にぶい橙（7.5YR7/4）	−	
	7	磁器	椀	S K 90	−	(2.3)	灰白（5Y7/1）	青磁	龍泉窯系　見込み印判
	8	磁器	椀	S K 90	−	(2.7)	灰（N6/0）	青磁	龍泉窯系　見込み印判
	9	陶器	卸目皿	S K 90	(15.8)	(3.4)	浅黄橙（10YR8/3）	灰	瀬戸
	10	磁器	椀	S K 90	−	(3.4)	灰白（5Y8/1）	白磁	中国
	11	灰釉陶器	椀	S K 90	−	(1.6)	にぶい黄橙（10YR7/2）	灰	貼り付け高台
	12	陶器	甕	S K 90	−	(7.6)	にぶい赤褐（5YR4/3）		備前
	13	瓦質	羽釜	S K 90	(15.5)	(3.9)	灰（N4/0）	−	
	14	土師器	皿	S K 180	(7.9)	2.2	にぶい橙（7.5YR6/4）	−	
	15	土師器	皿	S K 180	(12.0)	1.9	灰白（7.5YR8/1）	−	煤付着
	16	土師器	皿	S K 180	(14.4)	2.0	浅黄橙（10YR8/3）	−	
	17	土師器	皿	S K 180	(14.4)	2.0	灰白（10YR8/2）	−	
	18	土師器	皿	S K 180	14.6	2.5	淡橙（5YR8/4）	−	煤付着
	19	磁器	椀	S K 180	−	(4.0)	白（N9/0）	染付	中国
	20	瓦質	火鉢	S K 180	(34.0)	(5.4)	灰（N6/0）	−	大和
	21	土師器	皿	S K 3381	(7.3)	1.5	浅黄橙（7.5YR8/3）	−	

図面	報告番号	器種	器形	出土地点遺構名	法量（cm）		色調		備考
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬	
87	22	土師器	皿	ＳＫ3381	(9.0)	1.7	淡橙（5YR8/3）	－	煤付着
	23	土師器	皿	ＳＫ3381	10.0	2.0	橙（5YR7/6）	－	煤付着
	24	磁器	皿	ＳＫ3381	(9.1)	(1.5)	灰白（10YR8/2）	白磁	中国
	25	灰釉陶器	椀	ＳＫ3381	－	(1.6)	褐灰（10YR6/1）	灰	
	26	磁器	椀	ＳＫ3381	(15.6)	(5.5)	灰白（N8/0）	青磁	龍泉窯系
	27	瓦質	火鉢	ＳＫ3381	(39.8)	(3.7)	灰褐色（7.5YR6/2）	－	大和
	28	土師器	皿	ＳＫ2154	(6.8)	(1.9)	浅黄橙（7.5YR8/4）	－	
	29	土師器	皿	ＳＫ2154	(9.2)	(1.7)	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	
	30	土師器	皿	ＳＫ2154	(11.2)	(2.2)	灰白（2.5Y8/2）	－	
	31	土師器	皿	ＳＫ3743	14.4	2.2	浅黄橙（7.5YR8/6）	－	
	32	土師器	皿	ＳＫ3593	(10.4)	(2.2)	浅黄橙（7.5YR8/3）	－	煤付着
	33	土師器	皿	ＳＫ3593	(14.8)	(1.9)	浅黄橙（7.5YR8/4）	－	
88	1	土師器	皿	ＳＫ208	4.5	1.3	浅黄橙（7.5YR8/4）	－	
	2	磁器	皿	ＳＫ208	(9.6)	(2.1)	灰白（7.5Y8/1）	白磁	中国
	3	土師器	柱状高台土器	ＳＫ208	－	(3.1)	橙（5YR6/6）	－	
	4	磁器	皿	ＳＫ208	－	(1.8)	灰白（N8/0）	青磁	龍泉窯系
	5	瓦質	羽釜	ＳＫ208	(19.5)	(5.2)	灰白（2.5Y7/1）	－	
	6	陶器	擂鉢	ＳＫ208	(21.4)	(6.8)	明赤褐（2.5YR5/6）		備前
	7	瓦質	羽釜	ＳＫ2171	(17.0)	(4.3)	暗灰（N3/0）	－	
	8	土師器	皿	ＳＸ2165	(9.2)	(1.8)	褐灰（10YR4/1）	－	
89	1	土師器	皿	ＳＢ01	(9.3)	(1.7)	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	
	2	土師器	皿	ＳＢ01	(8.8)	(1.8)	灰白（10YR8/2）	－	煤付着
	3	土師器	皿	ＳＢ01	9.2	1.9	浅黄橙（10YR8/3）	－	煤付着
	4	土師器	皿	ＳＢ01	9.8	2.0	浅黄橙（7.5YR8/3）	－	煤付着
	5	土師器	皿	ＳＢ01	(9.6)	(2.0)	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	煤付着
	6	土師器	皿	ＳＢ01	9.6	2.0	浅黄橙（7.5YR8/4）	－	
	7	土師器	皿	ＳＢ01	(10.4)	(2.1)	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	煤付着
	8	土師器	皿	ＳＢ01	10.0	2.2	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	煤付着
	9	土師器	皿	ＳＢ01	10.4	1.9	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	
	10	土師器	皿	ＳＢ01	(11.0)	(2.1)	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	
	11	土師器	皿	ＳＢ01	(12.4)	(1.8)	にぶい黄橙（10YR7/4）	－	
	12	土師器	皿	ＳＢ01	(12.5)	(2.2)	灰黄褐（10YR6/2）	－	
	13	土師器	皿	ＳＢ01	(13.2)	(2.0)	にぶい橙（7.5YR7/3）	－	
	14	陶器	皿	ＳＢ01	(10.4)	(2.3)	灰白（2.5Y8/1）	灰	瀬戸美濃　見込み釉剥ぎ
	15	陶器	皿	ＳＢ01	－	(2.3)	にぶい赤褐（5YR5/3）	灰	肥前　砂目
	16	磁器	皿	ＳＢ01	－	(1.5)	灰白（2.5GY8/1）	青磁	肥前
	17	陶器	椀	ＳＢ01	(12.8)	(3.0)	暗オリーブ灰（2.5GY3/1）	灰	朝鮮　砂目　18と同一個体
	18	陶器	椀	ＳＢ01	－	3.0	暗オリーブ灰（2.5GY3/1）	灰	朝鮮　砂目　17と同一個体
	19	土師器	皿	ＳＸ2058	(9.2)	1.5	にぶい橙（5YR6/4）	－	煤付着　両面漆塗
	20	土師器	皿	ＳＸ2058	(10.0)	2.0	浅黄橙（10YR8/4）	－	
	21	土師器	皿	ＳＸ2058	(11.0)	(1.8)	にぶい黄橙（10YR7/3）	－	
	22	土師器	皿	ＳＸ2058	(11.0)	2.1	浅黄橙（7.5YR8/6）	－	煤付着
	23	土師器	皿	ＳＸ2058	(9.2)	(1.6)	にぶい橙（5YR7/3）	－	
	24	土師器	皿	ＳＸ2058	(10.6)	2.0	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	
	25	土師器	皿	ＳＸ2058	(11.6)	(1.6)	浅黄橙（7.5YR8/4）	－	
	26	土師器	皿	ＳＸ2058	(11.0)	2.0	橙（7.5YR7/6）	－	煤付着
	27	土師器	皿	ＳＸ2058	(9.2)	1.8	褐灰（10YR4/1）	－	
	28	土師器	皿	ＳＸ2058	(10.2)	(1.4)	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	煤付着

図面	報告番号	器種	器形	出土地点遺構名	法量（cm）		色調		備考
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬	
89	29	土師器	皿	S X 2058	(12.2)	1.8	にぶい黄橙(10YR7/3)	−	煤付着
	30	土師器	皿	S X 2058	12.0	2.1	橙（7.5YR7/6）	−	
	31	土師器	皿	S X 2058	(13.0)	1.8	黒褐（2.5Y3/1）	−	
	32	土師器	皿	S X 2058	(15.0)	(2.0)	にぶい橙（5YR7/3）	−	
	33	陶器	椀	S X 2058	10.8	5.3	灰褐（5YR4/2）	灰	肥前
	34	陶器	皿	S X 2058	12.4	3.3	にぶい橙（7.5YR7/3）	灰	肥前
	35	陶器	椀	S X 2058	11.8	5.8	淡黄（2.5Y8/3）	鉄	瀬戸美濃
	36	陶器	椀	S X 2058	9.8	5.7	にぶい褐（7.5YR5/4）	灰	肥前
	37	陶器	香炉	S X 2058	9.0	1.9	淡黄（2.5Y8/4）	鉄	瀬戸美濃
	38	磁器	鉢	S X 2058	−	(3.6)	灰白（N8/0）	染付	景徳鎮
	39	磁器	椀	S X 2058	−	(2.5)	灰白（N8/0）	白磁	中国
	40	陶器	鉢	S X 2058	(10.4)	(2.5)	浅黄（2.5Y7/3）	鉄絵	肥前
	41	土師器	皿	S X 2064	10.6	2.2	橙（5YR7/6）	−	
	42	土師器	皿	S X 2064	(11.6)	2.0	にぶい橙（5YR7/4）	−	
	43	土師器	皿	S X 2064	(12.8)	2.2	にぶい橙（7.5YR6/4）	−	
	44	土師器	皿	S X 2064	(12.5)	2.0	浅黄橙（7.5YR8/3）	−	線刻あり
	45	土師器	皿	S X 2064	(12.4)	2.2	淡橙（5YR8/4）	−	線刻あり
	46	陶器	椀	S X 2064	(12.2)	(5.5)	灰白（7.5YR8/2）	鉄	瀬戸美濃
	47	陶器	花入れ	S X 2064	(10.6)	17.0	浅黄橙（10YR8/3）	泥漿	信楽
	48	磁器	皿	S X 2064	(28.0)	(3.4)	灰白（N7/2）	赤絵	漳州窯系
	49	土師器	皿	S X 2095	(12.2)	2.1	にぶい橙（7.5YR7/4）	−	
	50	磁器	皿	S X 2095	−	(0.9)	灰白（7.5Y7/1）	白磁	中国
90	1	土師器	皿	S D 2075	(9.8)	(1.7)	にぶい橙（7.5YR7/4）	−	
	2	土師器	皿	S D 2075	(11.0)	(1.9)	にぶい橙（7.5YR7/3）	−	
	3	土師器	皿	S D 2075	(10.4)	(1.9)	淡橙（5YR8/3）	−	煤付着
	4	土師器	皿	S D 2075	(10.8)	(1.9)	浅黄橙（7.5YR8/4）	−	煤付着
	5	土師器	皿	S D 2075	(11.6)	(1.7)	にぶい橙（7.5YR7/4）	−	
	6	土師器	皿	S D 2075	(13.4)	(2.0)	にぶい橙（7.5YR7/4）	−	
	7	陶器	椀	S D 2075	(3.8)	(3.3)	灰白（10YR8/2）	灰	瀬戸美濃
	8	陶器	皿	S D 2075	(12.2)	2.4	浅黄橙（7.5YR8/3）	志野	瀬戸美濃
	9	磁器	皿	S D 32	(10.2)	(2.1)	灰白（2.5Y8/1）	白磁	中国
	10	土師器	皿	S D 32	(12.0)	(1.5)	橙（7.5YR7/6）	−	
	11	土師器	皿	S D 32	(12.0)	1.9	にぶい橙（7.5YR7/4）	−	
	12	土師器	皿	S D 32	(12.0)	(2.8)	にぶい橙（5YR7/4）	−	
	13	土師器	皿	S E 133	10.3	(1.9)	浅黄橙（7.5YR8/3）	−	
	14	土師器	皿	S E 133	(10.0)	(2.1)	にぶい黄橙(10YR7/3)	−	
	15	土師器	皿	S E 133	10.8	(2.1)	にぶい橙（7.5YR7/3）	−	煤付着
	16	土師器	皿	S E 133	(11.8)	1.9	灰白（10YR8/2）	−	
	17	陶器	皿	S E 133	10.2	2.5	浅黄（2.5Y7/3）	灰	瀬戸美濃
	18	陶器	皿	S E 133	10.7	2.3	浅黄（2.5Y7/4）	灰	瀬戸美濃
	19	陶器	皿	S E 133	10.0	2.3	浅黄（2.5Y7/4）	灰	瀬戸美濃
	20	陶器	皿	S E 133	10.3	2.4	灰白（2.5YR8/2）	灰	瀬戸美濃　見込み釉剥ぎ
	21	陶器	皿	S E 133	10.5	2.4	灰黄（2.5YR7/2）	灰	瀬戸美濃　見込み釉剥ぎ
	22	陶器	皿	S E 133	10.6	2.8	灰白（7.5Y8/1）	灰	瀬戸美濃
	23	磁器	皿	S E 133	12.0	3.4	浅黄（2.5Y7/3）	青磁	龍泉窯系
	24	土師器	皿	S E 2227	6.3	1.5	灰黄（2.5Y7/2）	−	
	25	土師器	皿	S E 2227	(9.2)	2.3	にぶい橙（7.5YR7/4）	−	煤付着
	26	土師器	皿	S E 2227	(9.6)	2.2	浅黄橙（7.5YR8/4）	−	
	27	土師器	皿	S E 2227	(10.8)	2.3	にぶい橙（7.5YR7/3）	−	煤付着
	28	土師器	皿	S E 2227	(11.6)	2.0	橙（7.5YR7/6）	−	

図面	報告番号	器種	器形	出土地点遺構名	法量（cm）		色調		備考
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬	
90	29	土師器	皿	ＳＥ 2227	(11.2)	2.3	褐灰（10YR5/1）	−	煤付着
	30	土師器	皿	ＳＥ 2227	(11.4)	2.2	橙（7.5YR7/6）	−	
	31	陶器	皿	ＳＥ 2227	(14.6)	2.8	浅黄橙（10YR8/3）	灰	肥前
	32	陶器	椀	ＳＥ 2227	(12.0)	6.6	にぶい橙（5YR6/4）	灰	肥前
	33	陶器	鉢	ＳＥ 2227	(13.8)	(3.8)	灰白（2.5Y8/2）	鉄絵志野	瀬戸美濃
	34	陶器	擂鉢	ＳＥ 2227	−	(5.9)	橙（2.5YR6/6）	−	信楽
	35	土師質	炮烙	ＳＥ 2227	(33.0)	(4.6)	にぶい橙（7.5YR7/3）	−	大和か
91	1	土師器	皿	ＳＥ 2057	(9.1)	(1.7)	橙（7.5YR7/6）	−	漆塗　煤付着
	2	土師器	皿	ＳＥ 2057	10.4	2.4	灰黄褐（10YR5/2）	−	煤付着
	3	土師器	皿	ＳＥ 2057	10.4	2.2	橙（7.5YR7/6）	−	
	4	土師器	皿	ＳＥ 2057	10.0	1.9	褐灰（10YR5/1）	−	
	5	土師器	皿	ＳＥ 2057	10.6	1.9	にぶい橙（7.5YR7/4）	−	煤付着
	6	土師器	皿	ＳＥ 2057	11.0	2.1	橙（7.5YR7/6）	−	煤付着
	7	土師質	焼塩壺	ＳＥ 2057	5.2	8.6	橙（5YR7/6）	−	
	8	土師質	焼塩壺	ＳＥ 2057	5.4	9.3	橙（5YR6/6）	−	
	9	土師質	焼塩壺	ＳＥ 2057	4.7	9.2	橙（5YR7/6）	−	
	10	土師質	焼塩壺	ＳＥ 2057	5.6	9.6	橙（5YR7/6）	−	
	11	土師質	焼塩壺	ＳＥ 2057	5.4	10.1	にぶい橙（5YR7/4）	−	
	12	土師質	焼塩壺蓋	ＳＥ 2057	6.5	2.2	にぶい黄橙（10YR7/4）	−	
	13	土師質	焼塩壺	ＳＥ 2057	5.2	8.5	橙（7.5YR7/6）	−	
	14	土師質	焼塩壺蓋	ＳＥ 2057	6.9	2.3	浅黄橙（7.5YR8/4）	−	
	15	土師質	焼塩壺	ＳＥ 2057	4.8	9.4	黄橙（7.5YR7/8）	−	
	16	陶器	椀	ＳＥ 2057	(8.2)	3.7	灰白（10YR8/2）	志野	瀬戸美濃
	17	陶器	椀	ＳＥ 2057	9.4	4.9	灰白（10YR8/2）	志野	瀬戸美濃
	18	陶器	椀	ＳＥ 2057	(11.2)	(4.5)	黒（7.5YR1.7/1）	鉄	瀬戸美濃
	19	陶器	椀	ＳＥ 2057	11.5	7.3	浅黄橙（10YR8/3）	緑	瀬戸美濃
	20	陶器	椀	ＳＥ 2057	(10.3)	(4.7)	にぶい赤褐（5YR5/3）	灰	肥前
	21	軟質施釉陶器	椀	ＳＥ 2057	−	1.3	橙（2.5YR6/6）	灰	京都
	22	軟質施釉陶器	椀	ＳＥ 2057	10.7	7.0	橙（2.5YR6/6）	鉄絵	京都
	23	陶器	杯	SE2057	6.8	5.7	にぶい黄橙（10YR7/2）	灰	肥前
	24	陶器	椀	ＳＥ 2057	8.4	4.3	淡黄（2.5YR8/3）	灰	肥前
	25	陶器	椀	ＳＥ 2057	10.8	6.5	灰黄（2.5YR7/2）	灰	肥前
	26	陶器	椀	ＳＥ 2057	13.6	7.7	灰白（10YR8/1）	灰	肥前
	27	陶器	皿	ＳＥ 2057	10.8	3.3	灰白（10YR8/2）	灰	肥前　胎土目
	28	陶器	皿	ＳＥ 2057	12.2	2.5	灰白（10YR8/2）	灰	瀬戸美濃　見込みトチン痕
	29	陶器	皿	ＳＥ 2057	(12.2)	2.3	灰白（10YR8/1）	灰	瀬戸美濃
	30	陶器	皿	ＳＥ 2057	(12.6)	3.5	鉄絵？	鉄絵	肥前
	31	陶器	片口鉢	ＳＥ 2057	(19.2)	11.1	灰白（10YR8/2）	灰	肥前
	32	磁器	小壺	ＳＥ 2057	(7.6)	(4.1)	灰白（N8/0）	青磁	龍泉窯系
	33	瓦質	瓦灯	ＳＥ 2057	5.6	5.2	黒褐（10YR3/1）	−	
	34	瓦質	小型羽釜	ＳＥ 2057	6.1	6.0	褐灰（10YR5/1）	−	
	35	磁器	皿	ＳＥ 2057	−	(1.6)	灰白（N7/0）	赤絵	漳州窯
	36	陶器	皿	ＳＥ 2057	(12.4)	2.9	灰白（2.5Y8/2）	鉄絵志野	瀬戸美濃
	37	陶器	水滴	ＳＥ 2057	4.2	5.5	灰白（2.5Y7/1）	志野	瀬戸美濃　猿形　ロクロ＋手びねり　左腕上、後頭部に穿孔痕
	38	陶器	鉢	ＳＥ 2057	31.0	9.0	にぶい黄橙（10YR7/3）	灰	肥前
92	1	瓦質	火鉢	ＳＥ 2057	−	13.8	灰（5Y4/1）	−	大和か

図面	報告番号	器種	器形	出土地点遺構名	法量（cm）		色調		備考
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬	
92	2	陶器	鉢	ＳＥ 2057	15.4	7.3	暗赤褐（2.5YR3/3）	−	丹波
	3	陶器	盤	ＳＥ 2057	(31.8)	5.8	暗赤褐（2.5YR3/3）	−	備前
	4	陶器	擂鉢	ＳＥ 2057	27.4	12.6	明赤褐（2.5YR5/8）	−	信楽　植木鉢に転用
	5	陶器	擂鉢	ＳＥ 2057	25.8	9.0	赤褐（10R4/4）	−	備前
	6	陶器	擂鉢	ＳＥ 2057	24.6	12.9	橙（5YR6/8）	−	信楽
93	1	土師器	皿	ＳＥ 136	5.3	9.5	にぶい黄橙（10YR7/3）	−	
	2	土師器	皿	ＳＥ 136	5.4	8.5	にぶい橙（7.5YR7/4）	−	
	3	土師器	皿	ＳＥ 136	5.9	1.2	にぶい黄橙（10YR7/3）	−	
	4	土師器	皿	ＳＥ 136	9.9	2.2	橙（5YR6/6）	−	煤付着
	5	土師器	皿	ＳＥ 136	9.9	2.0	にぶい橙（7.5YR7/4）	−	
	6	土師器	皿	ＳＥ 136	10.1	2.1	橙（7.5YR7/6）	−	
	7	土師器	皿	ＳＥ 136	10.8	2.2	にぶい黄橙（10YR6/3）	−	
	8	土師器	皿	ＳＥ 136	10.7	2.1	黒褐（2.5Y3/1）	−	
	9	土師器	皿	ＳＥ 136	10.8	2.4	にぶい橙（7.5YR7/4）	−	煤付着
	10	土師器	皿	ＳＥ 136	10.1	2.2	にぶい橙（7.5YR7/4）	−	煤付着
	11	土師器	皿	ＳＥ 136	12.2	2.4	にぶい橙（7.5YR7/4）	−	
	12	土師器	皿	ＳＥ 136	12.2	2.2	橙（7.5YR7/6）	−	
	13	土師器	皿	ＳＥ 136	12.8	2.3	浅黄橙（7.5YR8/4）	−	
	14	陶器	小椀	ＳＥ 136	(5.9)	2.3	灰白（10YR8/2）	灰	瀬戸美濃
	15	陶器	小椀	ＳＥ 136	7.2	3.4	橙（7.5YR6/6）	灰	肥前
	16	陶器	椀	ＳＥ 136	6.5	5.4	にぶい黄橙（10YR6/4）	灰	肥前
	17	陶器	筒形椀	ＳＥ 136	6.0	6.1	淡黄（2.5Y8/3）	灰	瀬戸美濃
	18	陶器	皿	ＳＥ 136	12.7	2.8	灰白（5Y8/1）	志野	瀬戸美濃　菊花皿
	19	陶器	皿	ＳＥ 136	13.7	3.1	灰白（2.5Y8/2）	志野	瀬戸美濃
	20	陶器	皿	ＳＥ 136	11.6	3.9	明赤褐（5RY5/6）	灰	肥前
	21	陶器	皿	ＳＥ 136	11.5	3.6	橙（7.5YR6/6）	灰	肥前
	22	陶器	皿	ＳＥ 136	12.3	4.3	にぶい褐（7.5YR5/4）	灰	肥前
	23	陶器	皿	ＳＥ 136	14.9	3.7	浅黄（2.5Y7/4）	鉄絵	肥前
	24	陶器	鉢	ＳＥ 136	18.4	5.1	灰（7.5Y6/1）	鉄絵	肥前
	25	陶器	鉢	ＳＥ 136	14.0	4.5	淡黄（2.5Y8/4）	鉄絵志野	瀬戸美濃
	26	陶器	鉢	ＳＥ 136	11.3	5.0	にぶい赤褐（5YR5/4）	鉄絵	肥前　見込み「壹」
	27	陶器	鉢	ＳＥ 136	11.7	5.1	にぶい橙（7.5YR7/4）	鉄絵	肥前　見込み「壹」
	28	陶器	鉢	ＳＥ 136	11.6	4.6	灰褐色（7.5YR5/2）	鉄絵	肥前　見込み「壹」
	29	陶器	鉢	ＳＥ 136	11.0	(4.4)	にぶい褐（7.5YR5/3）	鉄絵	肥前　見込み「壹」
	30	陶器	鉢	ＳＥ 136	10.7	4.4	黄灰（2.5Y6/1）	鉄絵	肥前　見込み「壹」
	31	陶器	鉢	ＳＥ 136	11.1	4.9	灰黄褐（10YR6/2）	鉄絵	肥前　見込み「壹」
	32	陶器	鉢	ＳＥ 136	(10.7)	5.1	にぶい赤褐（5YR5/4）	鉄絵	肥前　見込み「壹」
	33	陶器	鉢	ＳＥ 136	−	(2.4)	黄灰（2.5Y6/1）	鉄絵	肥前　見込み「壹」
94	1	土師質	小壺	ＳＥ 136	2.5	2.6	灰白（2.5Y8/1）	−	
	2	土師質	面打	ＳＥ 136	2.6	−	にぶい橙	−	土師器皿転用
	3	軟質施釉陶器	小壺	ＳＥ 136	(4.0)	(2.2)	明赤褐（5YR5/6）	透明＋緑	
	4	陶器	小壺	ＳＥ 136	3.3	5.8	淡黄（2.5Y8/3）	鉄	瀬戸美濃
	5	陶器	小瓶	ＳＥ 136	−	(8.1)	にぶい黄橙（10YR6/4）	−	備前　火襷
	6	磁器	椀	ＳＥ 136	(12.0)	(4.9)	白（N9/0）	染付	景徳鎮
	7	磁器	椀	ＳＥ 136	(15.8)	(5.8)	白（N9/0）	白磁	景徳鎮　浮かし彫り
	8	磁器	皿	ＳＥ 136	(32.6)	(8.8)	白（N9/0）	染付	景徳鎮
	9	土師質	焼塩壺蓋	ＳＥ 136	(37.8)	(6.6)	灰白（10YR8/2）	−	

図面	報告番号	器種	器形	出土地点遺構名	法量（cm）		色調		備考
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬	
94	10	土師質	焼塩壺	ＳＥ136	5.0	25.0	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	
	11	瓦質	盤	ＳＥ136	(10.6)	1.8	灰（N4/0）	－	大和か
	12	土師質	炮烙	ＳＥ136	－	(2.8)	灰褐（7.5YR5/2）	－	大和型
	13	瓦質	風炉	ＳＥ136	－	(1.2)	黒褐（2.5Y3/1）	－	大和か
	14	陶器	盤	ＳＥ136	－	(1.7)	極暗赤褐（2.5YR2/3）	－	丹波
	15	陶器	徳利	ＳＥ136	(13.2)	(2.8)	黄灰（2.5Y6/1）	－	備前
95	1	土師器	皿	ＳＥ2257	(18.6)	5.3	灰白（7.5YR8/2）	－	
	2	陶器	椀	ＳＥ2257	－	(5.9)	にぶい赤橙（10R6/4）	刷毛目	肥前　砂付着
	3	陶器	椀	ＳＥ2257	(29.2)	(5.2)	淡黄（2.5YR8/2）	黒	瀬戸黒
	4	陶器	皿	ＳＥ2257	(20.7)	(5.8)	灰白（2.5YR8/1）	鉄絵	肥前　京焼風　在印
	5	磁器	皿	ＳＥ2257	9.0	2.0	灰白（5Y8/1）	白磁	肥前　見込み蛇ノ目釉剥ぎ
	6	陶器	皿	ＳＥ2257	(9.6)	(2.0)	褐灰（10YR6/1）	灰	肥前　見込み蛇ノ目釉剥ぎ
	7	土師質	羽釜	ＳＥ2257	9.8	1.8	浅黄橙（10YR8/4）	－	
	8	土師質	炮烙	ＳＥ2257	(11.0)	1.8	褐（7.5YR4/3）	－	深草か
	9	陶器	擂鉢	ＳＥ2257	12.2	1.9	浅黄橙（10YR8/3）	－	信楽
	10	土師器	皿	ＳＳ2097	－	(1.2)	浅黄橙（10YR8/4）	－	煤付着
	11	土師器	皿	ＳＳ3331	(6.6)	1.2	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	煤付着
	12	土師器	皿	ＳＳ3135	9.0	2.1	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	
	13	土師器	皿	ＳＳ3135	(12.0)	(2.1)	にぶい黄橙（10YR7/4）	－	
	14	土師器	皿	ＳＳ3135	5.2	1.3	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	
	15	磁器	椀	ＳＳ3135	(9.8)	1.7	白（N9/0）	釉上彩	菊御紋付　高台内朱書き
	16	土師器	皿	ＳＳ3136	(11.0)	2.1	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	
	17	土師器	皿	ＳＳ3136	5.5	1.3	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	煤付着
	18	土師器	皿	ＳＳ3136	10.4	1.9	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	
	19	土師器	皿	ＳＳ37	11.2	2.1	にぶい黄橙（10YR7/3）	－	
	20	土師器	皿	ＳＳ37	12.0	2.2	橙（7.5YR7/6）	－	煤付着
	21	土師器	皿	ＳＳ37	11.0	(5.0)	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	
	22	土師器	皿	ＳＳ37	－	(4.7)	にぶい黄橙（10YR7/3）	－	煤付着
	23	土師器	皿	ＳＳ37	(29.2)	(8.0)	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	煤付着
	24	土師器	皿	ＳＳ37	(16.4)	11.1	橙（7.5YR7/6）	－	煤付着
	25	土師器	皿	ＳＳ37	(9.4)	(1.8)	橙（7.5YR7/6）	－	
	26	陶器	椀	ＳＳ37	(9.5)	(1.6)	灰白（10YR8/2）	鉄	瀬戸美濃
	27	陶器	花瓶	ＳＳ37	9.4	2.3	灰白（2.5Y8/2）	灰	瀬戸　脚部別付け
	28	陶器	擂鉢	ＳＳ37	(10.8)	(2.0)	橙（7.5YR7/6）	－	信楽
	29	陶器	鉢	ＳＳ37	11.0	2.4	明褐灰（7.5YR7/2）	灰	肥前　胎土目
96	1	土師器	皿	ＳＳ3257	(13.6)	(1.8)	灰白（7.5YR8/2）	－	煤付着
	2	土師器	皿	ＳＳ3257	－	(2.6)	灰白（7.5YR8/2）	－	
	3	土師器	皿	ＳＳ3257	－	(2.3)	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	煤付着
	4	土師器	皿	ＳＳ3257	(10.3)	2.0	灰白（7.5YR8/2）	－	
	5	土師器	皿	ＳＳ3257	5.7	(2.0)	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	煤付着
	6	土師器	皿	ＳＳ3257	(10.6)	3.8	淡橙（5YR8/3）	－	
	7	陶器	皿	ＳＳ3257	9.7	2.1	にぶい黄橙（10YR7/4）	灰	肥前
	8	磁器	椀	ＳＳ3257	10.7	2.2	灰白（N8/0）	白磁	肥前
	9	土師器	皿	ＳＳ3257	11.0	2.0	灰白（7.5YR8/2）	－	煤付着
	10	土師器	皿	ＳＳ3257	5.7	2.0	明褐灰（7.5YR7/2）	－	
	11	陶器	皿	ＳＳ3257	10.6	3.8	にぶい黄橙（10YR7/3）	灰	肥前　砂目
	12	土師器	皿	ＳＳ3190	9.7	2.1	にぶい橙（7.5YR7/3）	－	

図面	報告番号	器種	器形	出土地点遺構名	法量（cm）		色調		備考
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬	
96	13	土師器	皿	ＳＳ3216・ＳＳ3217	10.7	2.2	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	
	14	土師器	皿	ＳＳ3216・ＳＳ3217	11.0	2.0	橙（7.5YR7/6）	－	
	15	陶器	壺	ＳＳ3216・ＳＳ3217	(16.9)	(7.5)	灰褐（5YR4/2）	褐釉	肥前か
	16	陶器	皿	ＳＳ3216・ＳＳ3217	13.7	3.2	にぶい橙（7.5YR6/4）	鉄絵	肥前　砂目
	17	土師器	皿	ＳＳ3229	5.2	1.4	にぶい橙（7.5YR7/3）	－	煤付着
	18	土師器	皿	ＳＳ3229	(9.5)	2.0	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	
	19	土師器	皿	ＳＳ3229	(9.1)	2.6	浅黄橙（7.5YR8/4）	－	
	20	土師器	皿	ＳＳ3229	(11.1)	(2.2)	橙（5YR7/6）	－	煤付着
	21	土師器	皿	ＳＳ3229	－	(1.4)	浅黄橙（7.5YR8/4）	－	内面金箔残存
	22	土師器	皿	ＳＳ3229	9.6	2.3	浅黄橙（7.5YR8/4）	－	煤付着
	23	陶器	椀	ＳＳ3229	(11.1)	(5.8)	灰白（10YR8/1）	鉄	瀬戸
	24	陶器	椀	ＳＳ3229	(11.9)	7.3	にぶい橙（7.5YR7/4）	灰	肥前
	25	磁器	椀	ＳＳ3229	(10.1)	7.2	白（N9/0）	染付	肥前
	26	土師器	皿	ＳＳ3276	(10.6)	2.3	浅黄橙（7.5YR8/3）	－	煤付着
	27	土師器	皿	ＳＳ3276	(12.1)	2.3	にぶい橙（5YR7/4）	－	
	28	陶器	椀	ＳＳ3276	(11.2)	6.2	灰（N4/0）	鉄	瀬戸美濃
	29	磁器	椀	ＳＳ3276	－	(2.5)	灰白（10YR8/2）	染付	中国南方　見込み釉剥ぎ
97	1	土師器	皿	ＳＳ3239	(10.6)	2.0	浅黄橙（7.5YR8/3）	－	煤付着
	2	土師器	皿	ＳＳ3239	(11.0)	2.3	浅黄橙（7.5YR8/3）	－	
	3	土師器	皿	ＳＳ3239	(10.7)	1.8	黒褐（10YR3/1）	－	煤付着
	4	土師器	皿	ＳＳ3239	(11.4)	2.3	にぶい黄橙（10YR7/3）	－	
	5	土師器	皿	ＳＳ3239	(12.1)	1.9	灰白（7.5YR8/2）	－	
	6	土師器	皿	ＳＳ3239	(12.4)	2.1	にぶい橙（5YR7/4）	－	
	7	磁器	椀	ＳＳ3239	－	(1.6)	白（N9/0）	白磁	肥前
	8	陶器	椀	ＳＳ3239	－	(1.5)	浅黄橙（10YR8/3）	透明	京・信楽系
	9	陶器	椀	ＳＳ3239	9.7	6.6	浅黄橙（10YR8/4）	鉄	瀬戸美濃
	10	磁器	椀	ＳＳ3239	(10.1)	5.9	白（N9/0）	染付	肥前　高台内「大明年製」
	11	磁器	皿	ＳＳ3239	－	(1.3)	灰白（7.5Y8/1）	染付	景徳鎮
	12	磁器	皿	ＳＳ3239	(12.4)	3.1	白（N9/0）	染付	景徳鎮
	13	陶器	皿	ＳＳ3239	－	(1.8)	浅黄橙（10YR8/4）	灰	肥前　砂目
	14	陶器	水指	ＳＳ3239	－	(5.2)	褐（7.5YR4/6）	灰	信楽
	15	陶器	鉢	ＳＳ3239	(16.5)	8.4	灰白（10YR8/1）	鉄釉	信楽
	16	瓦質	火鉢	ＳＳ3239	(29.5)	(15.5)	灰（N4/0）	－	
98	1	土師器	皿	ＳＫ2044	5.7	1.1	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	
	2	土師器	皿	ＳＫ2044	(11.7)	(1.9)	淡橙（5YR8/4）	－	煤付着
	3	土師器	皿	ＳＫ2044	10.8	2.2	灰白（7.5YR8/2）	－	
	4	陶器	茶入	ＳＫ2044	(3.4)	(2.3)	灰白（7.5YR8/1）	鉄	瀬戸美濃
	5	磁器	盤	ＳＫ2044	(17.5)	3.1	白（N8/0）	青磁	龍泉窯系
	6	磁器	皿	ＳＫ2044	(12.4)	3.8	灰白（10YR8/2）	染付	中国南方
	7	土師器	皿	ＳＫ30	5.9	1.3	にぶい黄橙（10YR7/3）	－	
	8	土師器	皿	ＳＫ30	6.1	1.4	にぶい黄橙（10YR7/3）	－	
	9	土師器	椀	ＳＫ30	6.6	2.4	明褐灰（7.5YR7/2）	－	
	10	土師器	皿	ＳＫ30	9.2	2.1	浅黄橙（7.5YR8/4）	－	
	11	土師器	皿	ＳＫ30	9.0	2.2	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	煤付着
	12	土師器	皿	ＳＫ30	9.3	2.2	にぶい橙（7.5YR7/3）	－	煤付着
	13	土師器	皿	ＳＫ30	9.2	2.2	浅黄橙（7.5YR8/4）	－	

図面	報告番号	器種	器形	出土地点遺構名	法量（cm）		色調		備考
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬	
98	14	土師器	皿	ＳＫ30	(10.2)	1.8	浅黄橙（7.5YR8/3）	－	
	15	土師器	皿	ＳＫ30	9.2	2.1	浅黄橙（7.5YR8/4）	－	
	16	土師器	皿	ＳＫ30	9.5	2.1	にぶい橙（5YR7/4）	－	
	17	土師器	皿	ＳＫ30	9.4	2.0	浅黄橙（7.5YR8/3）	－	
	18	土師器	皿	ＳＫ30	10.1	2.1	灰白（2.5Y8/2）	－	
	19	土師器	皿	ＳＫ30	(12.0)	2.1	にぶい橙（5YR7/4）	－	
	20	土師器	皿	ＳＫ30	9.7	2.1	浅黄橙（7.5YR8/3）	－	煤付着
	21	土師器	皿	ＳＫ30	10.8	1.9	浅黄橙（7.5YR8/3）	－	煤付着
	22	土師器	皿	ＳＫ30	12.0	2.2	橙（5YR7/6）	－	金属付着
	23	土師器	皿	ＳＫ30	(11.9)	2.2	浅黄橙（7.5YR8/6）	－	
	24	土師器	皿	ＳＫ30	16.4	2.4	浅黄橙（7.5YR8/4）	－	
	25	陶器	椀	ＳＫ30	(8.6)	4.6	灰白（10YR8/2）	志野	瀬戸美濃
	26	磁器	皿	ＳＫ30	(24.8)	(3.1)	白（N9/0）	染付	漳州窯　砂付着
	27	土師質	炮烙	ＳＫ30	(17.2)	4.1	にぶい橙（5YR7/4）	－	
	28	陶器	擂鉢	ＳＫ30	(29.0)	(3.7)	橙（5YR7/6）	－	信楽
	29	土師器	皿	ＳＫ71	(10.8)	(1.9)	にぶい橙（5YR7/4）	－	煤付着
	30	土師器	皿	ＳＫ71	(12.0)	2.2	浅黄橙（7.5YR8/4）	－	煤付着
	31	土師器	皿	ＳＫ71	(13.2)	2.0	にぶい橙（7.5YR6/4）	－	
	32	陶器	椀	ＳＫ71	(11.5)	(5.5)	黄灰（2.5Y6/1）	鉄	瀬戸美濃
	33	磁器	椀	ＳＫ71	(14.3)	5.0	乳白色	瑠璃＋透明	中国　外面瑠璃釉
	34	陶器	皿	ＳＫ71	12.1	2.5	灰白（10YR8/2）	灰	瀬戸美濃　高台内重ね焼き痕　菊花皿
	35	陶器	皿	ＳＫ71	9.9	2.8	浅黄（2.5Y7/3）	灰	瀬戸美濃　重ね焼き痕　見込み印判
	36	陶器	鉢	ＳＫ71	28.0	6.1	にぶい赤褐（5YR4/3）	－	備前
99	1	土師器	皿	ＳＫ69	5.8	1.1	にぶい黄橙（10YR7/3）	－	煤付着
	2	土師器	皿	ＳＫ69	6.8	1.4	にぶい橙（7.5YR7/3）	－	煤付着
	3	土師器	皿	ＳＫ69	8.8	2.0	浅黄橙（7.5YR8/4）	－	煤付着
	4	土師器	皿	ＳＫ69	9.4	2.1	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	
	5	土師器	皿	ＳＫ69	9.4	1.9	にぶい橙（5YR7/4）	－	
	6	土師器	皿	ＳＫ69	9.2	2.2	浅黄橙（10YR8/3）	－	
	7	土師器	皿	ＳＫ69	10.9	2.4	橙（7.5YR7/6）	－	煤付着
	8	土師器	皿	ＳＫ69	10.6	2.3	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	
	9	土師器	皿	ＳＫ69	9.8	2.1	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	煤付着
	10	土師器	皿	ＳＫ69	10.5	2.2	浅黄橙（10YR8/3）	－	煤付着
	11	土師器	皿	ＳＫ69	11.5	2.0	浅黄橙（7.5YR8/4）	－	
	12	土師器	皿	ＳＫ69	10.4	2.3	浅黄橙（7.5YR8/3）	－	煤付着
	13	土師器	皿	ＳＫ69	10.5	2.0	浅黄橙（7.5YR8/3）	－	煤付着
	14	土師器	皿	ＳＫ69	10.6	2.2	浅黄橙（10YR8/4）	－	煤付着
	15	土師器	皿	ＳＫ69	11.5	2.0	にぶい黄橙（10YR7/4）	－	
	16	土師器	皿	ＳＫ69	10.4	2.3	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	煤付着
	17	土師質	蓋	ＳＫ69	(20.1)	3.2	褐灰（10YR6/1）	－	
	18	陶器	皿	ＳＫ69	11.0	2.6	灰白（10YR8/1）	灰	瀬戸美濃　見込み釉剥ぎ
	19	陶器	皿	ＳＫ69	10.3	2.1	灰白（10YR8/1）	灰	瀬戸美濃　見込み釉剥ぎ
	20	陶器	皿	ＳＫ69	(10.3)	2.4	灰白（2.5Y8/2）	鉄	瀬戸美濃
	21	陶器	皿	ＳＫ69	9.9	2.2	灰白（10YR7/1）	灰	瀬戸美濃　見込み釉剥ぎ
	22	陶器	皿	ＳＫ69	9.5	2.3	灰白（5Y8/1）	灰	瀬戸美濃
	23	陶器	小椀	ＳＫ69	－	(3.4)	灰白（7.5YR8/2）	灰	瀬戸美濃
	24	鋳造製品	取鍋	ＳＫ69	(8.8)	(3.5)	灰白（10YR7/1）	－	
	25	陶器	椀	ＳＫ69	－	(3.5)	にぶい黄橙（10YR7/2）	灰	肥前

図面	報告番号	器種	器形	出土地点遺構名	法量（cm）		色調		備考
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬	
99	26	陶器	鉢	ＳＫ 69	－	(3.1)	にぶい黄橙(10YR7/3)	鉄絵	肥前
	27	陶器	鉢	ＳＫ 69	(15.4)	4.9	浅黄橙（10YR8/3）	鉄絵志野	瀬戸美濃
	28	陶器	椀	ＳＫ 69	10.8	6.0	橙（7.5YR6/6）	鉄	瀬戸美濃
	29	磁器	皿	ＳＫ 69	(11.5)	2.6	灰白（N8/0）	白磁	景徳鎮
	30	陶器	鉢	ＳＫ 69	(19.3)	5.5	褐（7.5YR4/6）	－	丹波
	31	土製品	羽口	ＳＫ 69	(3.4)	(2.9)	にぶい橙（5YR6/4）	－	
	32	陶器	擂鉢	ＳＫ 69	(27.2)	6.0	にぶい赤褐(2.5YR5/4)	－	信楽
	33	土製品	人形	ＳＫ 69	2.5	5.0	浅黄橙（10YR8/3）	－	犬形土製品　手びねり
	34	土師質	炮烙	ＳＫ 69	(32.8)	(5.9)	にぶい黄褐(10YR7/3)	－	深草か
	35	土師器	皿	ＳＫ 28	(12.8)	(2.0)	にぶい橙（5YR7/4）	－	
	36	陶器	皿	ＳＫ 28	11.8	2.7	浅黄橙（7.5YR8/3）	灰	瀬戸美濃
	37	土師質	焼塩壺	ＳＫ 28	(4.0)	(4.0)	にぶい黄橙(10YR7/2)	－	
	38	陶器	大皿	ＳＫ 28	27.00	5.00	灰白（10YR8/2）	黄瀬戸	瀬戸美濃　重ね焼き痕　見込み印判
	39	土師器	皿	ＳＫ 75	(9.4)	1.9	にぶい黄橙(10YR7/4)	－	
	40	土師器	皿	ＳＫ 75	(10.0)	1.8	にぶい橙（5YR7/4）	－	煤付着
	41	陶器	皿	ＳＫ 75	(10.1)	2.0	灰白（2.5Y7/1）	灰	瀬戸美濃　高台内重ね填痕
	42	鋳造製品	羽口	ＳＫ 75	14.3	9.4	にぶい黄橙(10YR7/3)	－	
100	1	土師器	皿	ＳＫ 29	5.1	1.1	にぶい黄橙(10YR7/4)	－	
	2	土師器	皿	ＳＫ 29	5.7	1.1	にぶい橙（7.5YR7/3）	－	煤付着
	3	土師器	皿	ＳＫ 29	9.3	2.2	浅黄橙（10YR8/4）	－	煤付着
	4	土師器	皿	ＳＫ 29	10.1	2.3	にぶい黄橙(10YR7/2)	－	
	5	土師器	皿	ＳＫ 29	10.0	1.9	橙（7.5YR7/4）	－	煤付着
	6	土師器	皿	ＳＫ 29	9.5	2.1	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	
	7	土師器	皿	ＳＫ 29	(10.8)	(2.2)	にぶい橙（7.5YR7/3）	－	煤付着
	8	土師器	皿	ＳＫ 29	10.7	2.1	浅黄橙（10YR8/3）	－	煤付着
	9	土師器	皿	ＳＫ 29	11.9	2.0	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	
	10	土師器	皿	ＳＫ 29	12.0	1.8	にぶい橙（7.5YR6/4）	－	
	11	土師器	皿	ＳＫ 29	(12.4)	2.1	橙（5YR6/6）	－	
	12	陶器	徳利	ＳＫ 29	4.9	7.7	灰赤（2.5YR4/2）	灰	備前
	13	土師器	皿	ＳＫ 29	(12.6)	2.2	にぶい橙（5YR7/4）	－	煤付着
	14	土師器	皿	ＳＫ 29	12.5	2.0	にぶい黄橙(10YR7/4)	－	煤付着
	15	土師質	小鉢	ＳＫ 29	6.6	4.2	浅黄橙（7.5YR8/4）	－	
	16	陶器	皿	ＳＫ 29	(10.0)	2.0	にぶい橙（7.5YR7/3）	鉄	瀬戸美濃
	17	陶器	皿	ＳＫ 29	(10.4)	2.3	灰白（10YR7/1）	灰	瀬戸美濃
	18	陶器	椀	ＳＫ 29	(11.2)	(5.0)	にぶい橙（7.5YR7/4）	灰	肥前
	19	土師器	皿	ＳＫ 29	(12.5)	1.9	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	
	20	瓦質	鉢	ＳＫ 29	(31.0)	(8.2)	褐灰（10YR5/1）	－	大和　内面ミガキ
	21	磁器	皿	ＳＫ 29	(13.1)	(2.2)	灰白（10YR7/1）	白磁	中国　蛇ノ目釉剥ぎ
	22	磁器	皿	ＳＫ 29	－	(2.6)	灰白（10YR7/1）	白磁	中国　蛇ノ目釉剥ぎ
	23	土師器	皿	ＳＫ 2086	(4.5)	1.1	にぶい黄橙(10YR7/4)	－	
	24	土師器	皿	ＳＫ 2086	(5.5)	1.3	褐灰（7.5YR4/1）	－	
	25	土師器	皿	ＳＫ 2086	(7.1)	1.0	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	
	26	土師質	焼塩壺	ＳＫ 2086	5.0	8.7	橙（5YR7/6）	－	

図面	報告番号	器種	器形	出土地点遺構名	法量（cm）		色調		備考
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬	
100	27	陶器	皿	ＳＫ2086	10.9	2.2	にぶい橙（5YR6/4）	灰	瀬戸美濃　重ね焼き痕
	28	陶器	皿	ＳＫ2086	12.0	2.3	灰白（10YR8/2）	鉄	瀬戸美濃
	29	陶器	椀	ＳＫ2086	(9.8)	(4.8)	明褐灰（7.5YR7/2）	鉄	瀬戸美濃
	30	陶器	鉢	ＳＫ2086	−	(4.1)	灰白（10YR8/2）	鉄絵志野	瀬戸美濃
	31	土師器	皿	ＳＫ2086	12.7	1.9	赤褐（2.5YR4/8）	−	内面漆塗り　煤付着
	32	磁器	小杯	ＳＫ2086	6.6	3.6	灰白（N8/0）	染付	肥前
	33	土師質	面打	ＳＫ2086	2.4	0.6	浅黄橙（7.5YR8/6）	−	土師器皿転用
	34	土師質	炮烙	ＳＫ2086	(34.0)	(7.3)	浅黄橙（10YR8/4）	−	大和か
	35	土師器	皿	ＳＫ2198	9.0	1.9	にぶい橙（7.5YR7/4）	−	
	36	土師器	皿	ＳＫ2198	(10.0)	1.8	にぶい橙（7.5YR6/4）	−	
	37	土師器	皿	ＳＫ2198	(10.6)	(1.9)	にぶい橙（7.5YR7/4）	−	
	38	磁器	皿	ＳＫ2198	(9.2)	2.3	淡黄（2.5Y8/3）	白磁	中国　見込み釉剥ぎ　高台内朱書
	39	土師器	皿	ＳＫ3252	(10.6)	(2.1)	にぶい橙（7.5YR7/4）	−	
	40	磁器	椀	ＳＫ3252	−	(3.5)	灰白（N7/0）	青磁	龍泉窯系　連弁文
	41	土師器	皿	ＳＫ3472	(11.3)	(1.6)	灰白（10YR8/2）	−	
	42	土師器	皿	ＳＫ3472	(11.5)	1.9	灰白（10YR8/2）	−	
	43	磁器	皿	ＳＫ3472	(12.8)	3.0	灰白（N8/0）	白磁	中国　見込み蛇ノ目釉剥ぎ
	44	陶器	椀	ＳＫ3472	(12.0)	5.9	灰白（10YR8/1）	灰	肥前
	45	土師器	皿	ＳＫ3571	8.4	2.1	浅黄橙（7.5YR8/4）	−	煤付着
	46	土師器	皿	ＳＫ3571	8.0	1.7	にぶい橙（7.5YR7/3）	−	
	47	土師器	皿	ＳＫ3571	12.0	2.3	にぶい橙（7.5YR7/4）	−	煤付着
101	1	土師器	皿	ＳＫ14	5.2	1.1	にぶい黄橙（7/4）	−	
	2	土師器	皿	ＳＫ14	6.9	1.5	にぶい黄橙（10YR7/4）	−	
	3	土師器	皿	ＳＫ14	7.3	1.7	にぶい橙（7.5YR7/4）	−	
	4	土師器	皿	ＳＫ14	9.4	2.0	にぶい橙（7.5YR7/4）	−	煤付着
	5	土師器	皿	ＳＫ14	(11.4)	2.9	にぶい橙（7.5YR7/4）	−	
	6	土師器	皿	ＳＫ14	10.8	2.3	橙（7.5YR7/6）	−	
	7	土師器	皿	ＳＫ14	12.3	2.3	橙（7.5YR7/6）	−	煤付着
	8	土師器	皿	ＳＫ14	10.8	2.4	橙（7.5YR7/6）	−	
	9	土師器	皿	ＳＫ14	(10.8)	2.2	にぶい橙（5YR7/4）	−	煤付着
	10	土師器	皿	ＳＫ14	11.7	2.3	にぶい橙（7.5YR7/4）	−	煤付着
	11	土師質	小壺	ＳＫ14	2.5	2.5	灰白（2.5Y8/2）	−	
	12	土師質	焼塩壺蓋	ＳＫ14	7.5	1.9	にぶい橙（7.5YR7/4）	−	
	13	陶器	小杯	ＳＫ14	(6.2)	3.3	橙（5YR6/6）	灰	肥前　底部糸切り痕
	14	陶器	小杯	ＳＫ14	(7.8)	3.3	にぶい橙（5YR6/4）	灰	肥前　底部糸切り痕
	15	陶器	椀	ＳＫ14	(11.2)	7.2	灰白（2.5Y8/2）	鉄	瀬戸美濃
	16	陶器	椀	ＳＫ14	(10.0)	4.6	灰白（10YR8/2）	灰	瀬戸美濃
	17	陶器	椀	ＳＫ14	(10.0)	5.0	灰白（2.5Y8/2）	灰	瀬戸美濃
	18	陶器	椀	ＳＫ14	(9.8)	4.7	灰白（10YR8/2）	灰	瀬戸美濃
	19	陶器	椀	ＳＫ14	11.2	(6.0)	灰白（5Y8/1）	鉄	瀬戸美濃
	20	陶器	皿	ＳＫ14	(11.8)	4.6	にぶい橙（5YR6/4）	灰	肥前　砂目
	21	磁器	椀	ＳＫ14	−	(4.8)	にぶい黄（2.5Y6/3）	灰	肥前
	22	磁器	椀	ＳＫ14	−	(2.7)	白（N9/0）	染付	景徳鎮
	23	磁器	皿	ＳＫ14	−	(2.4)	白（N9/0）	染付	景徳鎮
	24	磁器	皿	ＳＫ14	(12.3)	3.2	灰白（N8/1）	白磁	景徳鎮
	25	陶器	皿	ＳＫ14	9.4	2.0	明褐灰（7.5YR7/2）	灰	瀬戸美濃　見込み釉剥ぎ
	26	陶器	皿	ＳＫ14	9.7	1.9	灰白（2.5Y8/2）	灰	瀬戸美濃　見込み釉剥ぎ
	27	陶器	皿	ＳＫ14	(11.8)	3.2	灰白（10YR8/2）	灰	瀬戸美濃　菊花皿
	28	陶器	皿	ＳＫ14	11.6	4.0	灰黄（2.5Y6/2）	灰	肥前　砂目
	29	陶器	皿	ＳＫ14	(12.4)	3.4	灰白（2.5Y8/2）	鉄絵志野	瀬戸美濃

図面	報告番号	器種	器形	出土地点 遺構名	法量（cm） 口径・幅	 器高・長さ	色調 色調	 釉薬	備考
101	30	陶器	皿	ＳＫ 14	(15.2)	4.8	灰白（2.5Y8/2）	織部	瀬戸美濃
	31	陶器	鉢	ＳＫ 14	−	(3.8)	橙（2.5YR6/6）	灰	肥前
	32	瓦質	瓦灯	ＳＫ 14	−	(3.7)	暗灰黄（2.5Y5/2）	−	大和か
	33	瓦質	瓦灯	ＳＫ 14	(23.2)	(10.2)	オリーブ黒（5Y3/1）	−	大和か
	34	瓦質	瓦灯	ＳＫ 14	(19.0)	(8.8)	灰白（10YR7/1）	−	大和か
	35	瓦質	瓦灯	ＳＫ 14	(16.7)	7.3	暗灰（N3/0）	−	大和か
	36	陶器	茶入	ＳＫ 14	−	(6.4)	灰白（2.5Y7/1）	鉄	瀬戸美濃
	37	陶器	小壺	ＳＫ 14	−	(6.8)	褐灰（7.5YR6/1）	灰	肥前
102	1	陶器	擂鉢	ＳＫ 14	40.1	26.3	橙（５YR7/6）	−	信楽
	2	磁器	蓋	ＳＫ 21	9.4	1.9	白（N9/0）	赤絵	肥前
	3	土師器	皿	ＳＫ 21	(6.2)	1.0	にぶい橙（7.5YR7/4）	−	煤付着
	4	土師器	皿	ＳＫ 21	7.0	1.5	にぶい橙（7.5YR7/3）	−	
	5	土師器	皿	ＳＫ 21	(10.1)	1.6	にぶい橙（5YR6/4）	−	煤付着
	6	土師器	皿	ＳＫ 21	(9.4)	1.9	にぶい橙（7.5YR7/4）	−	
	7	土師器	皿	ＳＫ 21	(10.4)	1.6	浅黄橙（7.5YR8/4）	−	
	8	土師器	皿	ＳＫ 21	9.8	1.8	にぶい橙（7.5YR7/3）	−	煤付着
	9	土師器	皿	ＳＫ 21	(10.4)	2.1	浅黄橙（7.5YR8/4）	−	
	10	土師器	皿	ＳＫ 21	(11.2)	2.2	橙（5YR7/6）	−	煤付着
	11	土師器	皿	ＳＫ 21	(12.0)	2.0	浅黄橙（7.5YR8/4）	−	
	12	土師器	皿	ＳＫ 21	(12.4)	1.7	にぶい橙（7.5YR7/4）	−	
	13	磁器	小皿	ＳＫ 21	4.8	1.5	灰白（N8/0）	白磁	肥前
	14	瓦質	ミニチュア	ＳＫ 21	2.5	2.7	黄灰（2.5Y4/1）	−	釜
	15	陶器	椀	ＳＫ 21	−	(1.7)	浅黄橙（10YR8/4）	鉄	瀬戸美濃
	16	陶器	壺	ＳＫ 21	(7.0)	(4.2)	にぶい赤褐（7.5R4/3）	鉄	信楽
	17	陶器	皿	ＳＫ 21	(11.8)	3.6	褐灰（7.5YR6/1）	灰	肥前　砂目
	18	磁器	皿	ＳＫ 21	(13.6)	3.5	灰白（N8/0）	白磁	肥前　蛇ノ目釉剥ぎ
	19	陶器	壺	ＳＫ 21	−	(6.6)	にぶい赤褐 (2.5YR4/3)	−	ベトナム
	20	土師質	炮烙	ＳＫ 21	(27.6)	(4.2)	にぶい橙（7.5YR7/3）	−	大和か
	21	土師器	炮烙	ＳＫ 21	(32.4)	(5.9)	明黄褐（10YR7/6）	−	大和か
	22	磁器	鉢	ＳＫ 21	(38.0)	(7.9)	灰（5Y5/1）	刷毛	肥前
	23	陶器	鉢	ＳＫ 21	−	(6.9)	にぶい黄橙 (10YR7/2)	灰	肥前
	24	瓦質	火鉢	ＳＫ 21	(12.4)	5.7	褐灰（10YR5/1）	−	大和　花形印判残存
103	1	土師器	皿	ＳＫ 36	5.4	1.1	にぶい橙（7.5YR7/4）	−	
	2	土師器	皿	ＳＫ 36	5.9	1.2	にぶい橙（7.5YR7/4）	−	
	3	土師器	皿	ＳＫ 36	6.9	1.4	にぶい黄橙 (10YR7/4)	−	
	4	土師器	皿	ＳＫ 36	6.9	1.4	にぶい黄橙 (10YR7/4)	−	
	5	土師器	皿	ＳＫ 36	6.6	1.4	にぶい黄橙 (10YR7/4)	−	
	6	土師器	皿	ＳＫ 36	8.7	2.0	橙（7.5YR7/6）	−	煤付着
	7	土師器	皿	ＳＫ 36	10.7	2.4	橙（7.5YR7/6）	−	煤付着
	8	土師器	皿	ＳＫ 36	9.5	2.0	にぶい橙（7.5YR7/4）	−	
	9	土師器	皿	ＳＫ 36	9.3	1.8	浅黄橙（7.5YR8/4）	−	煤付着
	10	土師器	皿	ＳＫ 36	9.2	2.2	にぶい橙（7.5YR7/4）	−	煤付着
	11	土師器	皿	ＳＫ 36	9.4	2.1	浅黄橙（10YR8/4）	−	
	12	土師器	皿	ＳＫ 36	10.5	2.1	橙（7.5YR7/6）	−	
	13	土師器	皿	ＳＫ 36	10.3	2.2	橙（7.5YR7/6）	−	煤付着
	14	土師器	皿	ＳＫ 36	10.5	2.1	橙（7.5YR7/6）	−	煤付着
	15	土師器	皿	ＳＫ 36	(11.0)	2.0	にぶい橙（7.5YR7/4）	−	
	16	土師器	皿	ＳＫ 36	12.2	2.4	にぶい橙（7.5YR7/4）	−	煤付着

図面	報告番号	器種	器形	出土地点遺構名	法量（cm）		色調		備考
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬	
103	17	土師器	皿	S K 36	11.8	2.3	浅黄橙（10YR8/4）	－	
	18	鋳造製品	坩堝	S K 36	9.8	3.4	黄灰（2.5YR6/1）	－	
	19	土師質	小壺	S K 36	2.4	2.3	浅黄橙（10YR8/3）	－	
	20	土師質	小壺	S K 36	(2.3)	2.7	にぶい黄橙（10YR7/3）	－	
	21	土師質	小壺	S K 36	(2.2)	2.8	浅黄橙（7.5YR8/3）	－	
	22	陶器	小杯	S K 36	(5.0)	2.7	灰白（5Y7/1）	灰	肥前
	23	陶器	小椀	S K 36	(6.0)	3.0	灰白（10YR8/2）	鉄	瀬戸美濃
	24	陶器	小椀	S K 36	6.0	2.6	にぶい橙（7.5YR7/4）	鉄	瀬戸美濃
	25	陶器	椀	S K 36	6.9	4.4	浅黄橙（7.5YR8/3）	灰	肥前
	26	陶器	椀	S K 36	9.4	5.8	浅黄（2.5Y7/3）	鉄	肥前
	27	陶器	椀	S K 36	10.9	6.7	にぶい赤褐（5YR5/3）	灰	肥前
	28	陶器	椀	S K 36	(10.6)	6.5	にぶい赤褐（5YR5/4）	鉄	肥前
	29	陶器	椀	S K 36	10.6	7.3	にぶい橙（5YR7/4）	灰	肥前
	30	陶器	椀	S K 36	(12.6)	6.3	にぶい黄（2.5Y6/3）	灰	肥前
	31	陶器	椀	S K 36	(11.0)	5.5	灰白（2.5Y8/2）	志野	瀬戸美濃
	32	陶器	椀	S K 36	11.0	6.7	にぶい橙（7.5YR7/3）	灰	瀬戸美濃
	33	陶器	椀	S K 36	(10.4)	6.0	にぶい黄橙（10YR6/3）	鉄	肥前
	34	陶器	椀	S K 36	10.2	5.3	灰白（2.5Y8/2）	志野	瀬戸美濃
	35	陶器	椀	S K 36	(10.3)	5.5	にぶい黄橙（10YR6/3）	鉄	肥前
	36	陶器	椀	S K 36	(11.2)	6.4	淡黄（2.5Y8/3）	鉄	瀬戸美濃
	37	陶器	皿	S K 36	(10.7)	2.3	オリーブ黄（5Y6/4）	灰	瀬戸美濃
	38	陶器	皿	S K 36	10.2	2.0	灰白（7.5YR8/1）	灰	瀬戸美濃
	39	陶器	皿	S K 36	(10.4)	2.4	オリーブ黄（5Y6/4）	灰	瀬戸美濃
	40	陶器	皿	S K 36	(10.3)	2.2	オリーブ黄（5Y6/4）	灰	瀬戸美濃
	41	陶器	皿	S K 36	11.0	3.0	灰白（5Y8/1）	灰	瀬戸美濃
	42	陶器	皿	S K 36	10.3	2.3	灰白（5Y8/2）	灰	瀬戸美濃
	43	陶器	椀	S K 36	(11.5)	6.0	にぶい黄橙（10YR7/2）	鉄	瀬戸美濃
	44	陶器	皿	S K 36	10.3	2.1	灰白（10YR8/2）	灰	瀬戸美濃　菊花皿　重ね焼き痕
	45	陶器	椀	S K 36	13.7	5.4	浅黄橙（10YR8/3）	灰	肥前
	46	陶器	皿	S K 36	(15.2)	3.8	淡黄（2.5Y8/3）	鉄	瀬戸美濃
	47	磁器	椀	S K 36	(12.0)	(3.9)	灰白（7.5Y8/1）	染付	漳州窯
	48	磁器	皿	S K 36	13.5	2.6	灰白（N8/1）	染付	景徳鎮
	49	磁器	皿	S K 36	(13.5)	2.6	灰白（N8/1）	染付	景徳鎮
	50	磁器	皿	S K 36	(12.8)	2.0	灰白（N8/0）	上絵	景徳鎮
104	1	磁器	鉢	S K 36	(12.0)	(5.7)	灰白（5Y8/1）	鉄絵志野	瀬戸美濃
	2	陶器	鉢	S K 36	13.2	5.1	灰白（10YR8/2）	灰	瀬戸美濃　重ね焼き痕　線刻文
	3	磁器	皿	S K 36	－	(1.8)	灰白（5Y7/1）	染付	漳州窯
	4	陶器	小壺	S K 36	(4.0)	(6.8)	灰赤（2.5YR4/2）	－	備前
	5	瓦質	ミニチュア	S K 36	(12.4)	(5.7)	オリーブ黒（5Y3/1）	－	羽釜
	6	瓦質	火鉢	S K 36	(13.9)	5.6	黄灰（2.5Y4/1）	－	大和
	7	陶器	徳利	S K 36	(4.6)	(18.6)	暗赤褐（2.5YR3/3）	－	丹波
	8	鋳造製品	羽口	S K 36	3.8	10.2	浅黄橙（7.5YR8/4）	－	
	9	瓦質	鉢	S K 36	24.0	9.3	橙（7.5YR6/6）	－	大和　内面ミガキ
	10	瓦質	鉢	S K 36	24.6	10.0	褐灰（10YR5/1）	－	大和　内面ミガキ
	11	瓦質	鉢	S K 36	(30.0)	(9.2)	黄灰（2.5Y6/1）	－	大和　内面ミガキ
	12	土師質	炮烙	S K 36	(31.0)	(9.8)	黄橙（10YR8/6）	－	大和型
	13	土師質	炮烙	S K 36	(32.8)	(7.0)	灰黄褐（10YR4/2）	－	大和型

図面	報告番号	器種	器形	出土地点遺構名	法量（cm）		色調		備考
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬	
104	14	瓦質	火入	ＳＫ 36	(23.6)	15.5	黒（7.5Y2/1）	–	大和
105	1	土師器	皿	ＳＫ 49	6.0	1.3	灰白（10YR8/2）	–	擂り目入る
	2	土師器	皿	ＳＫ 49	5.5	1.4	にぶい黄橙（10YR7/3）	–	
	3	土師器	皿	ＳＫ 49	5.2	1.3	にぶい黄橙（10YR7/3）	–	
	4	土師器	皿	ＳＫ 49	5.8	1.4	にぶい黄橙（10YR7/3）	–	
	5	土師器	皿	ＳＫ 49	(9.6)	2.2	浅黄橙（7.5YR8/3）	–	煤付着
	6	土師器	皿	ＳＫ 49	(9.1)	2.1	にぶい橙（7.5YR7/4）	–	煤付着
	7	土師器	皿	ＳＫ 49	(9.3)	2.1	にぶい橙（7/4）	–	煤付着
	8	土師器	皿	ＳＫ 49	11.7	2.0	にぶい橙（7.5YR7/4）	–	
	9	土師器	皿	ＳＫ 49	9.2	2.1	浅黄橙（10YR8/3）	–	煤付着
	10	土師質	鉢	ＳＫ 49	(9.6)	(3.1)	灰黄（2.5Y7/2）	–	
	11	陶器	皿	ＳＫ 49	–	(1.8)	浅黄橙（10YR8/3）	灰	瀬戸美濃
	12	土製品	ミニチュア	ＳＫ 49	2.4	(4.3)	灰白（10YR8/2）	–	塔　型合わせ
	13	陶器	擂鉢	ＳＫ 49	(27.9)	(3.6)	橙（2.5YR6/6）		信楽
	14	土師質	炮烙	ＳＫ 49	(33.1)	(5.2)	にぶい橙（7.5YR7/4）	–	大和か
	15	土師器	皿	ＳＫ 66	5.1	0.9	にぶい黄橙（10YR7/3）	–	
	16	土師器	皿	ＳＫ 66	5.5	1.1	浅黄（10YR8/3）	–	
	17	土師器	皿	ＳＫ 66	5.3	1.8	にぶい橙（7.5YR7/4）	–	
	18	土師器	皿	ＳＫ 66	7.1	1.5	にぶい黄橙（10YR7/2）	–	
	19	土師器	皿	ＳＫ 66	6.4	1.4	灰白（10YR8/2）	–	煤付着
	20	土師器	皿	ＳＫ 66	9.5	2.0	灰黄（2.5Y7/2）	–	
	21	土師器	皿	ＳＫ 66	9.5	1.9	浅黄橙（10YR8/3）	–	煤付着
	22	土師器	皿	ＳＫ 66	10.9	2.0	浅黄橙（10YR8/3）	–	
	23	土師器	皿	ＳＫ 66	9.5	2.0	淡黄（2.5Y8/3）	–	
	24	土師器	皿	ＳＫ 66	10.6	(2.0)	灰白（2.5Y8/2）	–	
	25	磁器	椀	ＳＫ 66	–	(1.5)	にぶい黄橙（10YR7/2）	染付	漳州窯
	26	瓦質	片口鍋	ＳＫ 66	(13.5)	3.7	灰白（2.5Y8/2）	–	
	27	陶器	擂鉢	ＳＫ 66	(26.1)	12.0	赤（10R5/6）	–	信楽
	28	陶器	擂鉢	ＳＫ 66	(33.6)	(10.0)	橙（2.5YR6/6）	–	丹波
	29	土師器	皿	ＳＫ 72	5.4	1.3	にぶい黄橙（10YR7/3）	–	
	30	土師器	皿	ＳＫ 72	5.2	1.3	にぶい黄橙（10YR7/3）	–	
	31	土師器	皿	ＳＫ 72	(9.4)	2.1	にぶい橙（7.5YR7/4）	–	
	32	土師器	皿	ＳＫ 72	(10.4)	1.9	にぶい橙（5YR6/4）	–	
	33	土師器	皿	ＳＫ 72	(10.8)	2.1	浅黄橙（7.5YR8/6）	–	
	34	土師器	皿	ＳＫ 72	(10.3)	1.9	にぶい橙（5YR7/4）	–	
	35	陶器	皿	ＳＫ 72	13.2	3.1	灰黄（2.5Y7/2）	鉄絵	肥前
	36	陶器	花入	ＳＫ 72	(11.4)	(12.7)	浅黄橙（10YR8/4）	泥漿	信楽
	37	陶器	鉢	ＳＫ 72	(16.3)	6.3	灰白（2.5Y8/2）	鉄絵志野	瀬戸美濃　重ね焼き痕
	38	土師質	焼塩壺	ＳＫ 72	4.8	8.4	橙（7.5YR7/6）	–	
	39	土師質	焼塩壺	ＳＫ 72	5.2	10.0	淡橙（5YR8/3）	–	
	40	軟質施釉陶器	椀	ＳＫ 72	(10.6)	(2.4)	赤褐（10R6/6）	透明＋鉄	見込み鉄釉　京都　口縁と高台のみ
	41	土師質	炮烙	ＳＫ 72	(28.8)	(4.2)	浅黄橙（10YR8/4）	–	深草か
106	1	土師器	皿	ＳＫ 79	5.3	1.1	にぶい黄橙（10YR7/3）	–	煤付着

図面	報告番号	器種	器形	出土地点遺構名	法量（cm）		色調		備考
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬	
106	2	土師器	皿	S K 79	5.4	1.4	にぶい黄橙（10YR7/4）	－	
	3	土師器	皿	S K 79	9.5	2.1	浅黄橙（10YR8/3）	－	煤付着
	4	土師器	皿	S K 79	(10.0)	2.2	浅黄橙（7.5YR8/3）	－	
	5	土師器	皿	S K 79	(11.0)	1.9	灰（5Y4/1）	－	
	6	土師器	皿	S K 79	(11.0)	2.1	浅黄橙（7.5YR8/3）	－	煤付着
	7	土師器	小壺	S K 79	1.9	2.4	灰黄（2.5Y7/2）	－	
	8	土師器	小壺	S K 79	2.1	2.3	灰白（2.5Y8/2）	－	
	9	陶器	椀	S K 79	－	(6.5)	灰白（10YR8/2）	灰	瀬戸美濃
	10	磁器	椀	S K 79	(11.1)	6.3	灰白（N8/0）	白磁	肥前
	11	陶器	蓋	S K 79	8.6	2.1	灰（5Y6/1）	鉄絵	瀬戸美濃　底部糸切り痕
	12	磁器	皿	S K 79	(11.7)	2.4	灰白（N8/0）	染付	景徳鎮
	13	陶器	皿	S K 79	(20.1)	4.7	にぶい黄橙（10YR7/4）	鉄絵	肥前
	14	陶器	皿	S K 79	(26.0)	(4.1)	灰白（5Y7/1）	染付	漳州窯系
	15	陶器	壺	S K 79	(11.0)	(6.0)	黒褐（2.5Y3/2）	－	被熱
	16	陶器	壺	S K 79	(14.8)	(5.6)	灰黄（2.5Y7/2）	鉄	九州　貝目
	17	陶器	擂鉢	S K 79	(35.0)	(4.5)	にぶい赤褐（5YR4/4）	－	丹波
	18	陶器	皿	S K 3186	15.0	3.7	灰（N5/0）	灰	肥前系　型成形　貝目
	19	陶器	皿	S K 3186	14.7	4.0	灰（N5/0）	灰	肥前系　型成形　貝目
	20	陶器	皿	S K 3241	12.3	3.7	黒褐（5YR2/1）	灰	肥前系　型成形　貝目
	21	陶器	茶入	S K 3241	(3.1)	6.0	暗赤褐（5YR3/2）	鉄	備前
	22	磁器	椀	S K 2078	(7.6)	5.2	灰白（N8/0）	白磁	中国
	23	磁器	椀	S K 2078	(12.0)	(3.4)	灰白（N8/0）	瑠璃＋透明	中国　外面瑠璃釉
	24	軟質施釉陶器	椀	S K 3440	－	(4.5)	にぶい橙（7.5YR6/4）	鉄絵＋透明	京都
107	1	土師器	皿	S K 2047	5.6	1.2	にぶい黄橙（10YR7/4）	－	
	2	土師器	皿	S K 2047	6.6	1.5	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	
	3	土師器	皿	S K 2047	8.9	1.9	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	
	4	土師器	皿	S K 2047	9.2	2.1	黒（7.5Y2/1）	－	煤付着
	5	土師器	皿	S K 2047	9.8	2.2	にぶい黄橙（10YR7/4）	－	煤付着
	6	土師器	皿	S K 2047	10.0	2.2	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	
	7	陶器	皿	S K 2047	9.8	2.1	灰白（2.5Y8/2）	灰	瀬戸美濃
	8	陶器	皿	S K 2047	10.4	2.8	灰白（2.5Y7/1）	灰	瀬戸美濃
	9	陶器	皿	S K 2047	9.7	2.3	灰白（5Y7/1）	灰	瀬戸美濃　見込み釉剥ぎ
	10	磁器	皿	S K 2047	－	(1.7)	灰白（N8/0）	青磁	中国　見込み印判
	11	陶器	椀	S K 2047	12.0	6.0	灰白（10YR8/2）	鉄	瀬戸美濃
	12	陶器	椀	S K 2047	(11.9)	6.5	灰白（5YR8/2）	鉄	瀬戸美濃
	13	陶器	椀	S K 2047	－	1.8	灰白（N7/0）	灰	朝鮮　砂目
	14	磁器	皿	S K 2047	(9.0)	(2.2)	白（N9/0）	染付	中国
	15	陶器	壺	S K 2047	－	(3.2)	灰黄褐（10YR6/2）	褐釉	中国
	16	瓦質	鉢	S K 2047	(31.4)	(14.0)	オリーブ黒（10YR3/1）	－	大和か
	17	瓦質	釜	S K 2047	13.0	13.6	灰（5Y4/1）	－	大和か
	18	陶器	鉢	S K 3324	(24.8)	(4.7)	にぶい橙（7.5YR6/4）	緑＋黄	中国
	19	陶器	鉢	S K 3427	13.6	6.0	にぶい黄橙（10YR7/2）	鉄絵	肥前
	20	陶器	鉢	S K 3427	12.0	4.2	灰白（2.5Y8/1）	織部	瀬戸美濃
	21	土師器	皿	S K 65	(9.6)	(1.2)	浅黄橙（7.5YR8/3）	－	
	22	土師器	皿	S K 65	(11.5)	1.8	にぶい黄橙（10YR7/2）	－	

図面	報告番号	器種	器形	出土地点遺構名	法量（cm） 口径・幅	器高・長さ	色調 色調	釉薬	備考
107	23	土師器	皿	ＳＫ 65	(11.8)	1.9	浅黄橙（10YR8/3）	－	
	24	陶器	椀	ＳＫ 65	9.1	(4.6)	灰（5Y6/1）	灰	肥前
	25	鋳造製品	取鍋	ＳＫ 65	6.6	3.0	灰白（2.5Y7/1）	－	
	26	瓦質	鉢	ＳＫ 65	25.1	10.1	暗灰（N3/0）	－	大和型
	27	陶器	擂鉢	ＳＫ 65	(33.1)	(6.2)	橙（5YR6/6）		丹波
108	1	土師器	皿	ＳＫ 236	5.4	1.3	にぶい黄橙（10YR7/3）	－	煤付着
	2	土師器	皿	ＳＫ 236	6.9	1.6	浅黄橙（10YR8/4）	－	
	3	土師器	皿	ＳＫ 236	6.9	1.7	浅黄（2.5Y7/4）	－	
	4	土師器	皿	ＳＫ 236	9.6	2.3	浅黄（2.5Y7/3）	－	
	5	土師器	皿	ＳＫ 236	9.2	2.0	にぶい黄橙（10YR7/4）	－	煤付着
	6	土師器	皿	ＳＫ 236	10.8	2.0	浅黄橙（7.5YR8/4）	－	煤付着
	7	土師器	皿	ＳＫ 236	9.6	1.9	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	煤付着
	8	土師器	皿	ＳＫ 236	(11.8)	(2.1)	灰（N5/0）	－	
	9	土師器	皿	ＳＫ 236	10.7	2.1	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	
	10	土師器	皿	ＳＫ 236	(12.5)	2.0	黄灰（2.5Y5/1）	－	
	11	土師器	皿	ＳＫ 236	11.0	2.5	橙（7.5YR7/6）	－	煤付着
	12	土師器	皿	ＳＫ 236	(12.4)	2.5	橙（7.5YR7/6）	－	
	13	土師器	皿	ＳＫ 236	13.4	2.2	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	
	14	土師質	小壺	ＳＫ 236	2.5	2.7	灰白（2.5Y8/2）	－	
	15	鋳造製品	取鍋	ＳＫ 236	4.9	2.2	オリーブ（2.5GY5/1）	－	
	16	鋳造製品	取鍋	ＳＫ 236	(11.0)	(3.7)	灰白（2.5Y8/1）	－	
	17	瓦質	ミニチュア	ＳＫ 236	(6.8)	5.7	黒褐（10YR3/1）	－	羽釜
	18	土師質	焼塩壺蓋	ＳＫ 236	7.1	2.0	浅黄橙（7.5YR8/4）	－	
	19	土師質	焼塩壺	ＳＫ 236	5.8	9.5	淡赤橙（2.5YR7/4）	－	
	20	陶器	椀	ＳＫ 236	(10.8)	5.6	灰黄（2.5Y7/2）	灰	肥前
	21	陶器	椀	ＳＫ 236	(11.9)	6.4	褐色（7.5YR4/4）	鉄	肥前
	22	陶器	皿	ＳＫ 236	10.3	2.5	灰白（N7/0）	灰	瀬戸美濃
	23	陶器	皿	ＳＫ 236	10.7	2.3	灰白（5Y7/1）	灰	瀬戸美濃
	24	陶器	椀	ＳＫ 236	(6.1)	(2.4)	灰白（N8/0）	鉄	瀬戸美濃　取鍋に転用
	25	陶器	小椀	ＳＫ 236	8.9	3.7	灰白（2.5Y8/2）	鉄	瀬戸美濃
	26	陶器	椀	ＳＫ 236	10.8	5.7	灰白（10YR8/1）	鉄	瀬戸美濃
	27	陶器	椀	ＳＫ 236	11.6	(5.1)	灰白（2.5Y8/2）	鉄	瀬戸美濃
	28	陶器	皿	ＳＫ 236	11.0	2.6	灰白（2.5Y7/1）	灰	瀬戸美濃　見込み印判
	29	陶器	皿	ＳＫ 236	10.6	2.6	灰白（5Y8/1）	灰	瀬戸美濃　見込み印判
	30	磁器	皿	ＳＫ 236	(13.9)	(1.9)	白（N9/0）	白磁	景徳鎮　輪花皿
	31	磁器	皿	ＳＫ 236	(11.8)	3.0	白（N9/0）	白磁	景徳鎮　菊花皿
	32	磁器	皿	ＳＫ 236	(12.8)	2.8	明青灰（5B7/1）	染付	景徳鎮
	33	磁器	皿	ＳＫ 236	(12.8)	3.1	灰白（N8/0）	染付	景徳鎮
	34	磁器	椀	ＳＫ 236	4.4	(1.6)	明青灰（5B7/1）	染付	景徳鎮
	35	磁器	皿	ＳＫ 236	－	(1.8)	灰白（5Y7/1）	青磁	龍泉窯系
	36	緑釉陶器	椀	ＳＫ 236	－	(3.8)	灰白（10YR8/2）	緑	軟質　見込み圏線
	37	瓦質	鉢	ＳＫ 236	30.0	11.6	灰（N5/0）	－	大和
	38	陶器	擂鉢	ＳＫ 236	(33.7)	(9.8)	橙（5YR6/8）		信楽
109	1	土師質	炮烙	ＳＫ 236	(31.3)	8.3	にぶい黄橙（10YR7/4）	－	大和型　煤付着
	2	土師質	炮烙	ＳＫ 236	(34.7)	10.5	にぶい黄橙（10YR7/3）	－	大和型　煤付着
	3	土師器	皿	ＳＫ 3167	(11.0)	2.4	浅黄橙（7.5YR8/4）	－	
	4	土師器	皿	ＳＫ 3167	(12.0)	2.0	橙（7.5YR7/6）	－	
	5	磁器	ミニチュア	ＳＫ 3167	(4.2)	2.9	白（N9/0）	上絵＋染付	肥前
	6	陶器	皿	ＳＫ 3167	(13.2)	3.6	灰白（N8/0）	灰	肥前　砂目

図面	報告番号	器種	器形	出土地点遺構名	法量（cm）		色調		備考
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬	
109	7	磁器	椀	ＳＫ 3167	(11.5)	(2.0)	灰白（10Y8/1）	白磁	中国
	8	磁器	椀	ＳＫ 3167	(14.0)	(2.6)	灰白（10Y8/1）	白磁	中国
	9	磁器	椀	ＳＫ 3167	−	(2.9)	灰白（N8/0）	染付	中国
	10	磁器	皿	ＳＫ 3167	(13.4)	3.5	白（N9/0）	染付	肥前
	11	瓦質	羽釜	ＳＫ 3167	−	(6.3)	灰（N4/0）	−	
	12	灰釉陶器	椀	ＳＫ 3167	(14.4)	(3.0)	灰白（7.5YR7/1）	灰	
	13	灰釉陶器	椀	ＳＫ 3167	−	(2.4)	灰白（5Y7/1）	灰	
	14	灰釉陶器	鉢	ＳＫ 3167	(22.8)	(6.0)	灰白（N7/0）	灰	貼り付け高台　重ね焼き痕
	15	陶器	擂鉢	ＳＫ 3167	(40.2)	15.3	にぶい赤褐（2.5YR4/3）	−	丹波
110	1	土師器	皿	ＳＫ 3230	5.3	1.2	浅黄橙（7.5YR8/3）	−	
	2	土師器	皿	ＳＫ 3230	5.5	1.3	浅黄橙（7.5YR8/4）	−	
	3	土師器	皿	ＳＫ 3230	6.7	1.6	浅黄橙（7.5YR8/3）	−	煤付着
	4	土師器	皿	ＳＫ 3230	7.0	1.5	浅黄橙（7.5YR8/3）	−	煤付着
	5	土師器	皿	ＳＫ 3230	9.5	2.3	にぶい橙（7.5YR7/4）	−	
	6	土師器	皿	ＳＫ 3230	9.4	2.2	にぶい橙（7.5YR7/4）	−	
	7	土師器	皿	ＳＫ 3230	9.9	2.1	にぶい橙（7.5YR7/4）	−	
	8	土師器	皿	ＳＫ 3230	9.5	2.1	にぶい橙（7.5YR7/4）	−	
	9	土師器	皿	ＳＫ 3230	11.0	2.5	にぶい橙（5YR7/4）	−	煤付着
	10	土師器	皿	ＳＫ 3230	10.8	2.3	淡橙（5YR8/3）	−	煤付着
	11	土師器	皿	ＳＫ 3230	10.7	2.3	にぶい橙（5YR7/4）	−	煤付着
	12	土師器	皿	ＳＫ 3230	11.1	2.3	にぶい橙（5YR7/4）	−	煤付着
	13	土師器	皿	ＳＫ 3230	10.9	2.1	浅黄橙（7.5YR8/3）	−	
	14	土師器	皿	ＳＫ 3230	11.0	2.2	浅黄橙（7.5YR8/4）	−	煤付着
	15	土師器	皿	ＳＫ 3230	(12.9)	2.1	にぶい橙（7.5YR7/4）	−	
	16	土師器	皿	ＳＫ 3230	(14.8)	(1.9)	灰褐（7.5YR6/2）	−	内外面に金付着
	17	土師質	小壺	ＳＫ 3230	2.2	2.5	浅黄橙（10YR8/3）	−	
	18	土師質	小壺	ＳＫ 3230	2.4	2.6	灰白（10YR8/2）	−	
	19	土師質	小壺	ＳＫ 3230	2.0	2.5	灰白（10YR8/2）	−	
	20	土師質	羽釜	ＳＫ 3230	(19.6)	(7.0)	浅黄橙（10YR8/4）	−	
	21	土師質	焼塩壺	ＳＫ 3230	4.2	8.0	にぶい橙（5YR7/4）	−	
	22	土師質	焼塩壺蓋	ＳＫ 3230	6.7	1.6	橙（2.5YR7/6）	−	
	23	土師質	焼塩壺	ＳＫ 3230	5.2	9.0	橙（2.5YR7/6）	−	
	24	土師質	焼塩壺蓋	ＳＫ 3230	6.6	1.7	にぶい橙（7.5YR7/3）	−	
	25	土師質	焼塩壺	ＳＫ 3230	5.0	8.7	にぶい橙（5YR6/4）	−	煤付着
	26	陶器	小壺	ＳＫ 3230	−	(3.7)	灰白（10YR8/1）	鉄絵志野	瀬戸美濃
	27	陶器	小壺	ＳＫ 3230	−	(3.1)	灰白（2.5Y8/1）	鉄	肥前
	28	磁器	杯	ＳＫ 3230	(8.0)	(3.3)	白（N9/0）	白磁	中国か
	29	陶器	皿	ＳＫ 3230	14.4	5.6	にぶい橙（7.5YR7/4）	灰	肥前　砂目
	30	陶器	椀	ＳＫ 3230	(11.7)	7.0	浅黄橙（10YR8/3）	鉄	瀬戸美濃　底部糸切り痕
	31	陶器	皿	ＳＫ 3230	12.1	3.3	にぶい橙（7.5YR7/4）	灰	肥前　砂目
	32	陶器	皿	ＳＫ 3230	−	(3.1)	赤褐（2.5YR4/6）	灰	肥前　砂目
	33	陶器	皿	ＳＫ 3230	11.5	3.2	赤褐（2.5YR4/6）	灰	肥前　砂目
	34	陶器	皿	ＳＫ 3230	−	(2.4)	灰白（10YR7/1）	灰	肥前　砂目
	35	陶器	椀	ＳＫ 3230	10.9	7.7	灰白（N8/0）	灰	肥前　砂目
	36	磁器	椀	ＳＫ 3230	(11.6)	6.4	白（N9/0）	染付	景徳鎮
	37	磁器	椀	ＳＫ 3230	(12.2)	6.7	白（N9/0）	染付	景徳鎮
	38	陶器	椀	ＳＫ 3230	11.4	8.1	暗赤灰（7.5R3/1）	刷毛目	肥前　胎土目
	39	陶器	椀	ＳＫ 3230	(10.4)	9.5	灰白（10YR7/1）	鉄絵	肥前
111	1	磁器	小瓶	ＳＫ 3230	1.2	3.2	白（N9/0）	染付	景徳鎮
	2	磁器	小椀	ＳＫ 3230	−	(1.9)	白（N9/0）	染付	景徳鎮

図面	報告番号	器種	器形	出土地点遺構名	法量（cm）		色調		備考
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬	
111	3	磁器	小杯	S K 3230	(5.5)	3.6	白（N9/0）	染付	景徳鎮
	4	磁器	鉢	S K 3230	(12.4)	(3.3)	白（N9/0）	染付	景徳鎮
	5	磁器	椀	S K 3230	(12.3)	(5.1)	白（N9/0）	染付	景徳鎮
	6	磁器	馬上杯	S K 3230	(7.6)	(7.5)	白（N9/0）	染付	景徳鎮
	7	磁器	椀	S K 3230	－	(1.7)	白（N9/0）	染付	中国
	8	磁器	椀	S K 3230	－	2.2	白（N9/0）	染付	中国
	9	磁器	皿	S K 3230	(12.0)	3.2	白（N9/0）	染付	景徳鎮
	10	磁器	椀	S K 3230	(13.0)	5.2	灰白（N8/0）	染付	中国南方
	11	磁器	蓋	S K 3230	(8.8)	2.9	灰白（N8/0）	染付	景徳鎮
	12	磁器	脚付合子	S K 3230	(10.7)	4.6	灰白（2.5Y8/1）	白磁	中国
	13	磁器	皿	S K 3230	(13.9)	2.8	白（N9/0）	白磁	景徳鎮
	14	磁器	皿	S K 3230	(12.0)	2.2	白（N9/0）	染付	景徳鎮
	15	磁器	皿	S K 3230	(17.8)	(2.6)	灰白（2.5Y8/1）	赤絵	漳州窯系
	16	陶器	擂鉢	S K 3230	(33.8)	12.7	にぶい赤褐（2.5YR4/3）	－	丹波
	17	陶器	擂鉢	S K 3230	(36.0)	16.5	にぶい赤褐（5YR6/4）	－	丹波
112	1	土師質	小壺	S K 3249	2.3	2.6	灰白（2.5YR8/2）	－	
	2	土師器	皿	S K 3249	11.4	2.2	にぶい橙	－	煤付着
	3	陶器	皿	S K 3249	10.2	3.7	にぶい橙（7.5YR7/4）	灰	肥前
	4	陶器	椀	S K 3249	11.0	6.9	灰白（10YR8/2）	鉄	瀬戸美濃
	5	磁器	椀	S K 3249	(12.1)	5.0	白（N9/0）	染付	景徳鎮
	6	土師器	皿	S K 3282 下層	10.9	2.6	浅黄橙（7.5YR8/4）	－	煤付着
	7	陶器	椀	S K 3282 下層	4.8	2.4	灰白（10YR8/1）	灰	瀬戸美濃
	8	陶器	椀	S K 3282 下層	(5.8)	4.7	灰白（10YR8/1）	灰	肥前
	9	土師質	焼塩壺	S K 3282 下層	5.0	8.6	淡赤橙（2.5YR7/6）	－	
	10	陶器	鉢	S K 3282 下層	22.1	13.8	にぶい橙（7.5YR7/3）	鉄絵	肥前
	11	土師器	皿	S K 3363	(14.6)	2.5	灰白（10YR8/2）	－	内面金付着
	12	土師器	皿	S K 3329	10.0	2.2	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	
	13	土師器	皿	S K 3329	12.2	2.2	浅黄橙（7.5YR8/4）	－	
	14	陶器	椀	S K 3329	(10.8)	7.1	灰白（2.5Y7/1）	鉄	中国　被熱
	15	陶器	椀	S K 3329	(11.2)	7.9	にぶい橙（7.5YR5/3）	鉄	瀬戸美濃
	16	磁器	椀	S K 3329	－	(4.1)	白（N9/0）	染付	中国
	17	磁器	皿	S K 3329	－	(2.0)	灰白（7.5Y7/1）	赤絵	漳州窯
	18	土師器	皿	S K 3364	11.1	2.1	浅黄橙（7.5YR8/4）	－	煤付着
	19	土師器	皿	S K 3364	11.0	2.3	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	煤付着
	20	陶器	皿	S K 3364	11.6	3.1	灰（7.5Y6/1）	灰	肥前　砂目
	21	陶器	椀	S K 3364	10.5	6.8	灰白（5Y7/1）	灰	肥前
	22	陶器	擂鉢	S K 3364	(32.6)	15.6	赤褐（5YR4/6）	－	丹波
	23	土師器	皿	S K 3407	(10.4)	2.1	浅黄橙（7.5YR8/4）	－	
	24	土師器	皿	S K 3407	(11.2)	2.3	浅黄橙（7.5YR8/4）	－	
	25	陶器	椀	S K 3407	(10.6)	6.6	褐灰（7.5YR6/1）	鉄	肥前
	26	磁器	皿	S K 3407	(13.8)	3.8	白（N9/0）	染付	景徳鎮
	27	磁器	皿	S K 3407	－	(1.4)	白（N9/0）	染付	景徳鎮
	28	陶器	皿	S K 3407	11.8	2.6	灰白（2.5Y8/2）	鉄絵志野	瀬戸美濃
	29	陶器	鉢	S K 3407	－	7.1	灰白（2.5Y8/2）	鉄絵志野	瀬戸美濃
113	1	土師器	皿	S K 3656	(13.6)	(1.9)	浅黄橙（7.5YR8/4）	－	
	2	磁器	鉢	S K 3226	21.9	9.6	白（N9/0）	青白磁	波佐見
	3	磁器	皿	S K 3183	13.6	2.5	灰白（N8/0）	染付	肥前

図面	報告番号	器種	器形	出土地点遺構名	法量（cm）		色調		備考
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬	
113	4	磁器	瓶	S K 3183	(9.1)	(13.0)	灰白（N8/0）	染付	肥前
	5	磁器	皿	S K 3183	(20.0)	5.6	灰白（5Y7/1）	青磁	肥前
	6	土師器	皿	S K 3199	5.2	1.3	浅黄橙（7.5YR8/4）	－	煤付着
	7	土師器	皿	S K 3199	9.1	2.1	浅黄橙（10YR8/4）	－	
	8	土師器	皿	S K 3199	10.9	2.7	浅黄橙（7.5YR8/6）	－	
	9	土師器	皿	S K 3199	(11.0)	2.1	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	煤付着
	10	土師器	皿	S K 3199	(12.5)	(2.1)	にぶい橙（5YR7/4）	－	
	11	土師質	鉢	S K 3199	6.5	4.4	灰白（2.5Y8/2）	－	煤付着　内曇り
	12	陶器	皿	S K 3199	－	(0.7)	淡黄（2.5Y8/3）	緑	
	13	土師質	焼塩壺	S K 3199	5.2	8.7	橙（5YR6/6）	－	
	14	陶器	椀	S K 3199	(11.3)	7.5	灰白（2.5YR8/1）	鉄	瀬戸美濃
	15	陶器	椀	S K 3199	(9.9)	7.0	灰白（2.5YR7/1）	灰	肥前
	16	陶器	皿	S K 3199	(9.7)	2.2	灰白（5Y8/2）	灰	瀬戸美濃　見込み釉剥ぎ
	17	磁器	椀	S K 3199	(9.6)	(5.3)	灰白（N8/0）	染付	こんにゃく印判
	18	磁器	椀	S K 3199	(11.7)	6.1	白（N9/0）	染付	中国
	19	磁器	椀	S K 3199	－	(2.5)	白（N9/0）	紅＋染付	景徳鎮
	20	磁器	椀	S K 3199	(5.7)	(3.4)	灰白（N8/0）	染付	肥前
	21	陶器	蓋	S K 3199	(8.5)	(3.2)	浅黄橙（7.5YR8/6）	黄＋緑	中国
	22	磁器	皿	S K 3199	(12.8)	3.0	灰白（N8/0）	染付	景徳鎮
	23	磁器	皿	S K 3199	(14.0)	3.3	灰白（N8/0）	染付	肥前
	24	磁器	皿	S K 3199	－	(3.6)	灰白（N8/0）	赤絵	漳州窯系
	25	磁器	皿	S K 3199	13.5	3.0	灰白（N8/0）	染付	肥前　こんにゃく印判　五弁花
	26	陶器	擂鉢	S K 3199	(35.5)	14.2	褐（7.5YR4/3）	－	丹波
114	1	土師質	小壺	S K 24	2.5	2.5	灰黄（2.5Y7/2）	－	
	2	土師器	皿	S K 24	(8.5)	1.8	浅黄橙（7.5YR8/4）	－	煤付着
	3	土師器	皿	S K 24	(11.4)	(2.0)	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	
	4	陶器	皿	S K 24	12.2	(3.7)	灰白（7.5Y7/1）	灰	肥前　砂目
	5	陶器	椀	S K 24	12.0	(5.8)	にぶい橙（7.5YR7/4）	鉄	瀬戸美濃
	6	磁器	椀	S K 24	(13.0)	4.1	浅黄橙（10YR8/3）	染付	福建広東系
	7	土師器	皿	S K 2049	(11.2)	(2.0)	明赤褐（2.5YR5/6）	－	煤付着
	8	陶器	椀	S K 2049	(7.1)	3.2	灰白（2.5Y8/1）	灰	肥前
	9	陶器	碗	S K 2049	－	(2.3)	灰白（10YR8/2）	鉄	瀬戸美濃
	10	陶器	椀	S K 2049	(13.4)	(3.0)	灰白（7.5YR8/1）	鉄絵	京都
	11	磁器	椀	S K 2049	(10.7)	(4.5)	白（N9/0）	染付	肥前　こんにゃく印判
	12	陶器	甕	S K 2049	(39.4)	(9.1)	浅黄橙（7.5YR8/6）	泥漿	信楽
	13	土師器	皿	S K 2072	(10.2)	(2.3)	灰白（2.5Y8/2）	－	煤付着
	14	土師器	皿	S K 2072	(11.6)	(2.0)	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	煤付着
	15	土師器	皿	S K 2072	(11.0)	(2.0)	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	
	16	土師器	皿	S K 2072	(10.6)	(2.1)	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	
	17	土師質	小壺	S K 2072	2.3	2.4	浅黄橙（10YR8/3）	－	
	18	土師質	焼塩壺蓋	S K 2072	6.6	2.2	橙（2.5YR6/8）	－	
	19	磁器	椀	S K 2072	－	(3.3)	白（N9/0）	染付	中国
	20	陶器	椀	S K 2072	(7.2)	(4.2)	浅黄（2.5Y7/4）	緑	瀬戸美濃
	21	陶器	椀	S K 2072	(12.0)	(6.5)	暗灰黄（2.5Y4/2）	灰	京都
	22	陶器	皿	S K 2072	(13.3)	(3.9)	灰白（7.5YR7/1）	灰	肥前
	23	陶器	椀	S K 2072	10.9	7.5	淡黄（2.5YR8/3）	鉄	瀬戸美濃
	24	陶器	椀	S K 2072	(10.5)	(7.5)	浅黄橙（10YR8/3）	鉄	瀬戸美濃
	25	陶器	皿	S K 2072	14.7	4.2	灰白（10YR8/2）	灰	瀬戸美濃
	26	土師器	皿	S K 2074	(11.8)	2.0	浅黄橙（7.5YR8/4）	－	
	27	土師器	皿	S K 2074	(11.7)	(1.9)	浅黄橙（7.5YR8/4）	－	
	28	鋳造製品	羽口	S K 2074	9.6	(9.1)	にぶい橙（5YR7/3）	－	

図面	報告番号	器種	器形	出土地点遺構名	法量（cm）		色調		備考
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬	
114	29	土師器	皿	ＳＫ 3313	5.7	1.6	にぶい橙（7.5YR7/4）	−	
	30	土師器	皿	ＳＫ 3313	8.4	1.7	浅黄橙（7.5YR8/4）	−	
	31	土師器	皿	ＳＫ 3313	10.4	2.3	浅黄橙（10YR8/3）	−	煤付着
	32	磁器	紅皿	ＳＫ 3313	4.1	1.5	灰白（N8/0）	白磁	肥前　型成形
	33	陶器	椀	ＳＫ 3313	−	（2.1）	灰白（2.5Y8/2）	灰	肥前系か
	34	陶器	椀	ＳＫ 3313	（9.8）	6.4	灰白（2.5Y8/2）	鉄絵	肥前　高台内「清」在印
	35	陶器	椀	ＳＫ 3313	−	（1.0）	にぶい黄橙（10YR7/2）	灰	肥前
	36	陶器	壺	ＳＫ 3313	（9.4）	19.7	暗赤褐（2.5YR3/4）	褐	肥前
115	1	土師質	小壺	ＳＫ 3260	2.1	2.4	灰白（7.5YR8/2）	−	
	2	土師質	ミニチュア	ＳＫ 3260	2.8	3.6	浅黄橙（7.5YR8/3）	−	羽釜　ロクロ成形
	3	土師質	焼塩壺	ＳＫ 3260	5.5	9.2	赤橙（10R6/8）	−	
	4	土師質	小皿	ＳＫ 3260	5.4	1.2	浅黄橙（7.5YR8/3）	−	
	5	土師器	皿	ＳＫ 3260	（10.6）	2.5	にぶい橙（7.5YR7/4）	−	
	6	土師器	皿	ＳＫ 3260	11.2	1.9	浅黄橙（7.5YR8/3）	−	煤付着
	7	土師器	皿	ＳＫ 3260	（11.4）	2.3	浅黄橙（7.5YR8/4）	−	煤付着
	8	土師質	鉢	ＳＫ 3260	（11.9）	5.0	灰白（10YR8/2）	−	深草　擂り目入る
	9	陶器	椀	ＳＫ 3260	7.6	2.9	灰白（N8/0）	灰	瀬戸美濃
	10	陶器	椀	ＳＫ 3260	6.5	3.9	褐灰（10YR6/1）	鉄	肥前　底部糸切り痕
	11	陶器	椀	ＳＫ 3260	（10.2）	（6.1）	白（N9/0）	灰	肥前
	12	陶器	皿	ＳＫ 3260	11.5	2.4	褐灰白（10YR6/1）	灰	肥前
	13	陶器	鉢	ＳＫ 3260	（13.0）	6.7	褐灰（10YR4/1）	−	信楽
	14	磁器	椀	ＳＫ 3260	（6.2）	4.3	白（N9/0）	染付	肥前
	15	磁器	椀	ＳＫ 3260	（11.5）	（4.1）	白（N9/0）	染付	漳州窯
	16	陶器	椀	ＳＫ 3260	（10.8）	7.3	灰白（N8/0）	染付	肥前
	17	磁器	皿	ＳＫ 3260	−	（1.5）	灰白（N9/0）	染付	景徳鎮
	18	土師質	炮烙	ＳＫ 3260	（29.0）	（4.5）	灰褐（7.5YR5/2）	−	
	19	土師器	皿	ＳＫ 26	5.4	1.3	橙（7.5YR7/6）	−	
	20	土師器	皿	ＳＫ 26	5.6	1.4	にぶい橙（7.5YR7/4）	−	
	21	土師器	皿	ＳＫ 26	5.5	1.2	にぶい橙（7.5YR7/4）	−	
	22	土師器	皿	ＳＫ 26	6.0	1.2	にぶい黄橙（10YR7/3）	−	
	23	土師器	皿	ＳＫ 26	5.7	1.1	にぶい黄橙（10YR7/4）	−	
	24	土師器	皿	ＳＫ 26	5.2	1.3	にぶい橙（5YR7/4）	−	
	25	土師器	皿	ＳＫ 26	（11.0）	2.3	にぶい橙（7.5YR7/4）	−	
	26	土師器	皿	ＳＫ 26	（13.0）	2.2	灰白（10YR8/2）	−	煤付着
	27	土師器	皿	ＳＫ 26	8.9	1.7	橙（7.5YR7/6）	−	
	28	土師器	皿	ＳＫ 26	9.6	2.1	橙（5YR7/6）	−	
	29	土師器	皿	ＳＫ 26	（11.2）	2.3	にぶい橙（7.5YR7/4）	−	煤付着
	30	土師器	皿	ＳＫ 26	9.7	2.1	浅黄橙（10YR8/3）	−	
	31	土師器	皿	ＳＫ 26	（10.7）	（2.1）	にぶい黄橙（10YR7/4）	−	
	32	土師器	皿	ＳＫ 26	（10.8）	2.2	にぶい黄橙（10YR7/3）	−	煤付着
	33	土師器	皿	ＳＫ 26	（12.8）	2.2	にぶい橙（5YR6/4）	−	煤付着
	34	土師器	皿	ＳＫ 26	12.7	2.1	にぶい黄橙（10YR7/3）	−	煤付着
	35	土師質	小壺	ＳＫ 26	2.2	2.6	淡黄（2.5Y8/3）	−	
	36	土師質	小壺	ＳＫ 26	2.1	2.5	浅黄（2.5Y7/3）	−	
	37	土師質	焼塩壺	ＳＫ 26	−	（4.7）	明褐（7.5YR5/6）	−	
	38	磁器	ミニチュア	ＳＫ 26	3.0	−	灰白（2.5Y8/1）	白磁	肥前　椀　型成形

図面	報告番号	器種	器形	出土地点遺構名	法量（cm）		色調		備考
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬	
115	39	陶器	皿	ＳＫ26	(11.0)	3.5	にぶい黄褐(10YR5/4)	灰	肥前　胎土目
	40	陶器	椀	ＳＫ26	8.9	4.3	にぶい赤褐（5YR4/4）	灰	肥前
	41	陶器	皿	ＳＫ26	11.6	2.8	灰白（10YR8/2）	志野	瀬戸美濃
	42	陶器	椀	ＳＫ26	(10.6)	7.0	灰白（2.5Y8/2）	鉄	瀬戸美濃
	43	磁器	皿	ＳＫ26	(14.1)	3.6	灰白（N8/0）	白磁	肥前　蛇ノ目釉剥ぎ
	44	陶器	皿	ＳＫ26	(20.4)	4.5	灰白（10YR8/1）	灰	瀬戸美濃　菊花皿
	45	陶器	小壺	ＳＫ26	－	(7.9)	にぶい赤褐（5YR5/3）	鉄	
	46	陶器	擂鉢	ＳＫ26	(35.2)	(10.9)	にぶい赤褐（5YR5/4）	－	信楽
116	1	陶器	茶入	ＳＫ15	－	(2.8)	灰白（2.5GY8/1）	鉄	中国か
	2	陶器	鉢	ＳＫ2073	－	(1.6)	黄（5Y7/6）	緑＋黄	中国南方
	3	磁器	椀	ＳＫ2087	－	(2.2)	灰白（7.5YR8/2）	白磁	中国　高台内墨書
	4	陶器	皿	ＳＫ3471	－	(1.6)	褐灰（10YR6/1）	灰	朝鮮か
	5	陶器	皿	ＳＫ3471	－	(1.0)	褐灰（10YR6/1）	灰	朝鮮か
	6	陶器	壺	ＳＫ3246	(9.8)	(7.7)	黒褐（10YR3/2）	灰	ベトナム
	7	軟質施釉陶器	椀	ＳＫ3292	(9.6)	(6.6)	黒褐（2.5YR3/1）	鉄	京都
	8	陶器	甕	ＳＸ2137	－	(25.5)	にぶい赤褐（5YR4/3）	－	備前
117	1	土師器	皿	ＳＤ12	3.4	1.3	橙（7.5YR7/6）	－	
	2	土師器	皿	ＳＤ12	(5.6)	1.2	にぶい黄橙(10YR7/4)	－	
	3	土師器	皿	ＳＤ12	(9.4)	(1.6)	にぶい黄橙(10YR7/4)	－	
	4	土師器	皿	ＳＤ12	(10.6)	1.7	黒褐（10YR3/1）	－	煤付着
	5	土師器	皿	ＳＤ12	(10.6)	(1.8)	にぶい黄橙(10YR7/4)	－	
	6	土師器	皿	ＳＤ12	(10.5)	(1.8)	にぶい黄橙(10YR7/4)	－	
	7	土師器	皿	ＳＤ12	(12.2)	(1.8)	橙（5YR7/6）	－	
	8	陶器	皿	ＳＤ2013	(8.3)	2.4	浅黄橙（7.5YR8/3）	灰	京・信楽系
	9	土製品	泥面子	ＳＤ2013	3.1	－	にぶい橙（5YR7/4）	－	「渦叶」型押し
	10	磁器	皿	ＳＤ2013	(11.9)	(1.8)	白（N9/0）	染付	肥前　菊御紋付
	11	陶器	蓋	ＳＤ2037	7.6	1.0	灰白（2.5Y8/1）	鉄絵	京・信楽系
	12	陶器	蓋	ＳＤ2037	7.1	1.9	灰白（5Y8/1）	透明	京・信楽系
	13	磁器	蓋	ＳＤ3039	(8.0)	2.4	白（N9/0）	染付	瀬戸　端反椀
	14	陶器	蓋	ＳＤ3039	15.1	4.1	オリーブ黄（7.5Y6/3）	灰	京・信楽系
	15	陶器	皿	ＳＤ3039	(13.6)	(1.7)	灰白（7.5YR7/1）	鉄絵	肥前
	16	磁器	椀	ＳＤ3039	(7.4)	(6.2)	白（N9/0）	染付	肥前
	17	土師器	皿	ＳＤ3038	(7.7)	1.3	浅黄橙（7.5YR8/4）	－	
	18	陶器	椀	ＳＤ3038	(11.6)	3.6	灰白（5Y8/1）	灰	京・信楽系
	19	土製品	泥面子	ＳＤ3038	2.9	－	にぶい橙（5YR7/4）	－	型押し
	20	土製品	泥面子	ＳＤ3038	3.0	－	橙（5YR6/6）	－	型押し
	21	土師質	ミニチュア	ＳＤ3038	－	3.0	にぶい橙（7.5YR7/3）	緑	蓋　型押し
	22	陶器	蓋	ＳＤ3097	3.6	0.7	暗赤褐（2.5YR3/3）	鉄	
	23	土師器	皿	ＳＤ3097	(9.4)	(1.5)	にぶい橙（5YR7/4）	－	煤付着
	24	土師器	皿	ＳＤ3097	(10.2)	(1.7)	にぶい黄橙(10YR7/3)	－	煤付着
	25	土師器	皿	ＳＤ3097	9.9	1.7	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	
	26	土師器	皿	ＳＤ3097	(11.0)	2.0	浅黄橙（7.5YR8/4）	－	煤付着
	27	土師器	皿	ＳＤ3099	(12.4)	(2.0)	浅黄橙（7.5YR8/4）	－	煤付着
	28	陶器	椀	ＳＤ3099	－	(1.4)	灰白（2.5Y8/1）	透明	京・信楽系
	29	陶器	椀	ＳＤ3099	－	(1.2)	にぶい橙（5YR6/4）	灰	肥前
118	1	土師器	皿	ＳＳ2020	5.0	1.2	にぶい橙（7.5YR7/3）	－	

図面	報告番号	器種	器形	出土地点遺構名	法量（cm）		色調		備考
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬	
118	2	土師器	皿	ＳＳ 2020	5.1	1.3	にぶい橙（7.5YR7/3）	－	
	3	土師器	皿	ＳＳ 2020	9.1	1.8	浅黄橙（10YR8/3）	－	
	4	土製品	人形	ＳＳ 2020	(3.2)	(3.2)	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	深草　頭部のみ　型合わせ　髷別付
	5	土製品	人形	ＳＳ 2020	2.9	4.3	灰白（10YR8/1）	緑＋透明	深草　猿　顔型押し　手びねり
	6	土製品	泥面子	ＳＳ 2020	2.9	0.8	橙（5YR6/6）	－	扇　型押し
	7	土製品	泥面子	ＳＳ 2020	3.0	0.8	にぶい橙（7.5YR）	－	鶴　型押し
	8	土製品	泥面子	ＳＳ 2020	3.3	0.8	橙（5YR7/6）	－	「川」　型押し
	9	磁器	椀	ＳＳ 2020	(6.4)	3.0	灰白（10YR8/1）	上絵	肥前
	10	磁器	椀	ＳＳ 2020	(7.6)	(2.9)	灰白（N8/0）	金彩赤絵	肥前
	11	磁器	椀	ＳＳ 2020	(7.3)	5.3	灰白（7.5YR8/1）	染付	肥前
	12	磁器	蓋	ＳＳ 2020	9.5	2.7	白（N9/0）	染付	肥前
	13	磁器	蓋	ＳＳ 2020	7.1	4.0	灰黄（2.5Y7/2）	鉄絵	京・信楽系
	14	陶器	小壺	ＳＳ 2020	5.2	12.0	褐灰（5YR5/1）	－	備前
	15	陶器	蓋	ＳＳ 2020	4.0	5.0	灰黄（2.5YR6/2）	灰	京・信楽系
	16	磁器	小椀	ＳＳ 2020	8.6	4.2	白（N9/0）	染付	瀬戸
	17	磁器	仏飯器	ＳＳ 2020	(6.4)	7.4	灰白（2.5YR8/2）	赤絵	肥前系
	18	磁器	皿	ＳＳ 2020	(15.0)	(2.7)	灰白（2.5Y8/1）	色絵	肥前系
	19	土師質	焙烙	ＳＳ 2020	(31.6)	(2.7)	にぶい褐（7.5YR6/3）	－	津田
	20	陶器	土瓶	ＳＳ 2020	(8.3)	11.0	にぶい橙（7.5YR7/4）	鉄絵	京・信楽系
	21	陶器	行平鍋	ＳＳ 2020	16.4	9.0	灰白（2.5Y8/1）	鉄	京・信楽系
	22	陶器	行平鍋	ＳＳ 2020	(19.2)	(8.2)	にぶい橙（7.5YR7/4）	鉄	京・信楽系
	23	磁器	皿	ＳＳ 2020	(22.0)	(4.6)	白（N9/0）	染付	肥前
119	1	土師器	皿	ＳＥ 2223	(9.4)	1.7	橙（7.5YR7/6）	－	煤付着
	2	軟質施釉陶器	椀	ＳＥ 2223	(7.8)	(4.2)	にぶい橙（7.5YR6/4）	透明	京都
	3	磁器	小椀	ＳＥ 2223	(4.9)	3.6	白（N9/0）	染付	景徳鎮
	4	陶器	花入	ＳＥ 2223	(7.6)	6.7	極暗赤褐（5YR2/3）	鉄	備前　セミ形　型成形
	5	土師器	皿	ＳＥ 2269	(5.6)	1.3	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	
	6	土師器	皿	ＳＥ 2269	(6.0)	1.2	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	
	7	土師器	皿	ＳＥ 2269	(5.2)	1.3	にぶい黄橙（10YR7/3）	－	
	8	土師器	皿	ＳＥ 2269	(11.1)	2.1	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	
	9	土師器	皿	ＳＥ 2269	(10.6)	1.7	浅黄橙（7.5YR8/4）	－	
	10	土師器	皿	ＳＥ 2269	(9.4)	2.3	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	
	11	土師器	皿	ＳＥ 2269	(10.8)	2.0	黒褐（10YR3/1）	－	
	12	土師器	皿	ＳＥ 2269	(10.9)	2.0	にぶい黄橙（10YR7/4）	－	
	13	磁器	椀	ＳＥ 2269	(10.0)	5.5	白（N9/0）	染付	肥前
	14	土師器	皿	ＳＥ 2264	5.1	1.4	にぶい橙（5YR6/4）	－	煤付着
	15	土師器	皿	ＳＥ 2264	(10.6)	2.1	浅黄橙（10YR8/4）	－	
	16	陶器	椀	ＳＥ 2264	－	4.0	灰白（2.5Y8/2）	灰	京都
	17	磁器	椀	ＳＥ 2264	(12.0)	(5.8)	灰白（5Y8/1）	染付	肥前
	18	陶器	椀	ＳＥ 2264	(11.0)	5.2	浅黄橙（10YR8/3）	刷毛目	肥前
	19	陶器	椀	ＳＥ 2264	(10.0)	6.8	灰白（10YR8/1）	透明	肥前
	20	陶器	皿	ＳＥ 2264	(19.4)	6.3	灰白（2.5Y8/2）	緑	肥前　見込み蛇ノ目釉剥ぎ
	21	土製品	人形	ＳＥ 2264	3.9	5.6	にぶい橙（7.5YR7/3）	－	牛　型合わせ
	22	土師器	皿	ＳＥ 3247	(11.4)	(2.3)	浅黄橙（7.5YR8/3）	－	
	23	土師器	皿	ＳＥ 3247	(11.5)	2.0	黒褐（2.5Y3/1）	－	煤付着
	24	土師質	小壺	ＳＥ 3247	2.3	2.3	灰白（2.5Y8/1）	－	
	25	土製品	人形	ＳＥ 3247	2.5	3.6	灰白（2.5YR8/2）	透明	仏像　型合わせ　台座別付き

図面	報告番号	器種	器形	出土地点遺構名	法量（cm）		色調		備考
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬	
119	26	陶器	椀	ＳＥ 3247	(8.5)	4.5	浅黄橙（10YR8/4）	鉄	瀬戸美濃
	27	磁器	椀	ＳＥ 3247	(9.7)	5.3	白（N9/0）	染付	景徳鎮
	28	磁器	椀	ＳＥ 3198	(9.8)	(4.8)	白（N9/0）	染付	肥前　型紙刷り
	29	陶器	擂鉢	ＳＥ 3198	－	(5.1)	にぶい赤褐（5YR4/4）	－	信楽
120	1	土師器	皿	ＳＥ 3132	10.6	1.8	灰白（10YR8/2）	－	
	2	土師器	皿	ＳＥ 3132	10.5	1.9	灰白（10YR8/2）	－	
	3	陶器	椀	ＳＥ 3132	12.2	4.6	浅黄橙（10YR8/3）	透明	京・信楽系
	4	陶器	椀	ＳＥ 3132	12.0	5.7	にぶい黄橙（10YR7/3）	透明	京・信楽系
	5	磁器	椀	ＳＥ 3132	8.70	2.80	灰白（5Y8/1）	染付	肥前
	6	陶器	椀	ＳＥ 3132	7.8	4.8	灰白（2.5Y8/2）	色絵	京・信楽系
	7	陶器	椀	ＳＥ 3132	(10.0)	5.3	浅黄橙（10YR8/3）	上絵	京・信楽系
	8	陶器	椀	ＳＥ 3132	12.0	3.6	灰白（10YR8/2）	緑	肥前　蛇ノ目釉剥ぎ
	9	陶器	鉢	ＳＥ 3132	(14.5)	(3.8)	にぶい橙（7.5YR7/4）	緑	肥前　蛇ノ目釉剥ぎ　釉掛け分け
	10	陶器	片口鉢	ＳＥ 3132	(17.4)	9.2	淡黄（5Y8/3）	灰	瀬戸美濃
	11	土製品	人形	ＳＥ 3132	3.3	7.0	にぶい黄橙（10YR7/3）	－	虚無僧　型合わせ　笠別付
	12	陶器	水滴	ＳＥ 3132	(6.1)	(3.8)	浅黄橙（10YR8/3）	鉄絵＋透明	京都　茶坊主　型合わせ
	13	土師質	炮烙	ＳＥ 3132	(26.6)	(5.4)	灰黄褐（10YR4/2）	－	深草か
	14	陶器	土瓶	ＳＥ 3132	21.2	11.8	浅黄（2.5Y8/3）	鉄絵	京・信楽系
	15	陶器	建水	ＳＥ 3132	14.7	15.7	灰白（2.5Y7/1）	灰	京・信楽系
	16	陶器	擂鉢	ＳＥ 3132	(35.8)	14.4	浅黄橙（10YR8/3）	泥漿	信楽
121	1	磁器	御神酒徳利	ＳＥ 3171	4.0	7.6	白（N9/0）	染付	肥前
	2	陶器	柄杓	ＳＥ 3171	7.4	5.5	灰白（10YR8/1）	鉄絵	京・信楽系
	3	土師質	炮烙	ＳＥ 3171	－	(3.1)	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	津田
	4	陶器	徳利	ＳＥ 3171	(14.8)	(16.6)	灰白（2.5Y）	鉄絵＋白化粧	京・信楽系
	5	磁器	椀	ＳＥ 2054	8.0	4.1	白（N9/0）	白磁	徳化窯　口縁釉剥ぎ　型成形
	6	陶器	灯明皿	ＳＥ 2054	(11.1)	2.4	灰白（10YR8/1）	透明	京・信楽系　煤付着
	7	陶器	蓋	ＳＥ 2054	(14.8)	4.0	灰白（10YR8/2）	灰	京・信楽系
	8	陶器	行平把手	ＳＥ 2054	(3.1)	(7.4)	浅黄橙（7.5YR8/3）	鉄	京・信楽系　型成形
	9	磁器	椀	ＳＥ 3072	8.4	4.0	白（N9/0）	染付	瀬戸　高台内朱書
	10	陶器	容器	ＳＥ 3072	(5.8)	(2.2)	灰黄褐（10YR6/2）	上絵＋白化粧	京都
	11	陶器	蓋	ＳＥ 3072	12.0	3.5	褐灰（10YR6/1）	灰	京・信楽系
	12	磁器	椀	ＳＥ 3072	(9.0)	(3.2)	白（N9/0）	染付	肥前　底部着色
	13	磁器	皿	ＳＥ 3072	9.0	3.0	白（N9/0）	金彩＋赤絵＋染付	肥前　高台内「乾」
	14	陶器	筒形容器	ＳＥ 3072	(8.6)	(2.1)	灰白（10YR8/2）	透明	肥前　墨書「しるし　川□□　天保□年」
	15	鋳造製品	坩堝	ＳＥ 3072	(19.4)	(20.4)	緑黒（10GY2/1）	－	
	16	土師器	皿	ＳＥ 3034	(10.0)	(1.4)	灰白（10YR8/2）	－	
	17	土師器	皿	ＳＥ 3034	(10.2)	(1.4)	橙（5Y7/6）	－	
	18	陶器	甕	ＳＥ 3034	(12.6)	(5.2)	にぶい黄橙（10YR7/2）	泥漿	信楽
	19	土師器	皿	ＳＥ 3034	(8.8)	(2.5)	浅黄橙（7.5YR8/4）	－	煤付着
	20	土師器	皿	ＳＥ 3034	(12.2)	2.6	灰黄（2.5Y7/2）	－	
	21	土師器	皿	ＳＥ 3034	(14.2)	(2.5)	灰白（10YR8/1）	－	
	22	土師器	皿	ＳＥ 3034	(14.4)	(2.7)	灰白（10YR8/2）	－	内曇り
	23	陶器	擂鉢	ＳＥ 3034	(33.5)	13.5	灰白（2.5Y8/2）	－	信楽
122	1	土師器	皿	ＳＥ 3138	(10.9)	1.9	橙（7.5YR6/6）	－	
	2	陶器	油受皿	ＳＥ 3138	7.6	1.5	浅黄橙（10YR8/3）	灰	京・信楽系　煤付着

図面	報告番号	器種	器形	出土地点遺構名	法量（cm）		色調		備考
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬	
122	3	陶器	風炉	ＳＥ3138	−	(13.1)	明赤褐色（2.5YR5/6）	−	深草　外面ミガキ
	4	磁器	皿	ＳＥ3138	12.6	3.8	白（N9/0）	染付	肥前
	5	磁器	蓋	ＳＥ3138	(9.2)	2.8	白（N9/0）	染付	肥前　端反椀
	6	土師器	皿	ＳＥ3154	(10.4)	(1.6)	黒褐（5YR3/1）	−	煤付着
	7	土師器	皿	ＳＥ3154	(14.4)	(2.3)	にぶい橙（7.5YR6/4）	−	
	8	陶器	椀	ＳＥ3154	(10.0)	(5.8)	灰白（10YR8/2）	鉄	瀬戸
	9	陶器	平椀	ＳＥ3154	−	(2.7)	灰白（10YR8/2）	透明	京・信楽系　墨書「す」
	10	磁器	椀	ＳＥ3154	−	(2.6)	白（N9/0）	染付	中国
	11	磁器	椀	ＳＥ3154	(9.8)	4.4	白（N9/0）	染付＋赤絵	肥前　小町紅
	12	磁器	椀	ＳＥ3154	(11.4)	6.6	白（N9/0）	染付	肥前　広東椀
	13	磁器	蓋	ＳＥ3154	(10.1)	2.8	白（N9/0）	染付	肥前
	14	磁器	鉢	ＳＥ3154	(12.9)	(5.3)	白（N9/0）	染付＋赤絵	肥前
	15	磁器	鉢	ＳＥ3154	(17.7)	(5.2)	白（N9/0）	染付	肥前
	16	土製品	土人形	ＳＥ3154	2.7	4.4	浅黄橙（10YR8/3）	−	鳩　朱・墨塗　型合わせ
	17	土製品	土人形	ＳＥ3154	6.2	12.1	浅黄橙（7.5YR8/3）	−	子連れ女性　彩色あり　型合わせ
	18	土製品	ミニチュア	ＳＥ3154	13.4	3.4	浅黄橙（7.5YR8/3）	緑	橋
	19	土製品	泥面子	ＳＥ3154	3.1	−	にぶい橙（5YR7/4）	−	「王」型押し
	20	土製品	泥面子	ＳＥ3154	2.9	−	にぶい橙（7.5YR7/4）	−	「祇園守」型押し
	21	陶器	鉢	ＳＥ3154	(13.0)	(11.6)	褐灰（10YR6/1）	鉄釉	京・信楽系
123	1	土師器	皿	ＳＥ135	(9.6)	1.8	灰白（7.5YR8/2）	−	煤付着
	2	土師器	皿	ＳＥ135	10.7	1.9	褐灰（10YR6/1）	−	煤付着
	3	陶器	油受皿	ＳＥ135	(10.2)	2.3	橙（7.5YR7/6）	透明	京・信楽系
	4	磁器	椀	ＳＥ135	(5.8)	3.4	白（N9/0）	白磁	徳化窯　口縁釉剥ぎ　型成形
	5	土師質	炮烙	ＳＥ135	(31.0)	(3.2)	にぶい黄橙（10YR7/3）	−	津田
	6	磁器	椀	ＳＥ135	(9.5)	(3.2)	白（N9/0）	染付	肥前
	7	磁器	小瓶か	ＳＥ135	(3.8)	(5.6)	灰白（N8/0）	−	型合わせ
	8	土製品	土人形	ＳＥ135	(4.0)	(10.7)	にぶい黄橙（10YR7/3）	−	狐　型合わせ
	9	磁器	小杯	ＳＥ135	(5.7)	(2.5)	白（N9/0）	鉄＋黒	瀬戸　見込み「(百)薬之(長)也」
	10	土製品	紡錘車	ＳＥ135	3.1	3.5	橙（2.5YR6/6）	−	手びねり
	11	磁器	椀	ＳＥ135	(11.0)	(5.7)	白（N9/0）	染付	肥前
	12	磁器	皿	ＳＥ135	(9.8)	2.4	白（N9/0）	染付	肥前　口縁に鉄釉
	13	陶器	擂鉢	ＳＥ135	−	(3.8)	黄灰（2.5Y5/1）	灰	京・信楽系
	14	磁器	蓋	ＳＥ135	(16.4)	(2.2)	白（N9/0）	染付	肥前　ミジン唐草
	15	磁器	蓋	ＳＥ135	(7.9)	2.0	白（N9/0）	染付	肥前　被熱
	16	磁器	椀	ＳＥ135	(8.7)	(3.6)	白（N9/0）	染付	肥前　被熱
	17	陶器	擂鉢	ＳＥ135	(29.4)	(8.2)	暗褐（7.5YR3/4）	−	堺・明石系
	18	陶器	椀	ＳＥ3312	(8.7)	3.9	灰白（10YR8/1）	鉄絵	京・信楽系　墨書「入江」
	19	陶器	椀	ＳＥ3312	(9.0)	4.5	にぶい黄橙（10YR7/2）	鉄絵	京・信楽系
	20	陶器	皿	ＳＥ3312	9.7	3.7	浅黄橙（10YR8/3）	陶胎染付	京・信楽系
	21	陶器	水滴	ＳＥ3312	(7.8)	(3.4)	灰白（10YR8/2）	鉄絵	京・信楽系
	22	陶器	椀	ＳＥ3335	−	(3.3)	灰白（10YR8/2）	染付	京・信楽系　墨書「工」
124	1	磁器	蓋	ＳＬ3045	9.8	1.2	白（N9/0）	透明	京・信楽系
	2	磁器	蓋物身	ＳＬ3045	9.8	2.5	白（N8/0）	透明	京・信楽系
	3	土師器	皿	ＳＬ3050	(6.6)	1.4	にぶい橙（7.5YR7/4）	−	
	4	土師質	蓋	ＳＬ3050	16.0	1.7	にぶい橙（7.5YR7/3）	−	火消し壺として使用か　型成形
	5	土師質	壺	ＳＬ3050	12.8	7.1	にぶい橙（7.5YR7/4）	−	火消し壺として使用か

図面	報告番号	器種	器形	出土地点 遺構名	法量（cm）		色調		備考
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬	
124	6	土師器	皿	ＳＬ3086 ・ＳＬ3087	(10.0)	1.7	浅黄橙（10YR8/3）	－	
	7	磁器	皿	ＳＬ3086 ・ＳＬ3087	9.8	1.8	白（N9/0）	透明	肥前　型押し
125	1	土師器	皿	ＳＳ07	(8.4)	1.5	にぶい橙（7.5YR7/3）	－	
	2	土師器	皿	ＳＳ07	(9.7)	1.7	にぶい橙（7.5YR6/4）	－	
	3	土師器	皿	ＳＳ07	(9.9)	1.7	黒褐（10YR3/1）	－	
	4	土師器	皿	ＳＳ07	(11.2)	1.9	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	
	5	磁器	椀	ＳＳ07	(7.8)	(5.1)	灰白（7.5Y8/1）	染付	肥前
	6	軟質施釉陶器	椀	ＳＳ07	(9.7)	(4.6)	灰黄褐（10YR6/2）	灰＋黒	京都　内面黒釉
	7	陶器	椀	ＳＳ07	(11.5)	(4.0)	にぶい赤褐（5YR5/4）	刷毛目	肥前
	8	磁器	椀	ＳＳ07	(8.2)	5.0	灰白（N8/0）	染付	肥前
	9	磁器	小皿	ＳＳ07	(4.6)	1.2	灰白（N8/0）	染付	肥前
	10	磁器	丸椀	ＳＳ07	－	(0.9)	灰白（7.5Y8/1）	染付	肥前　高台内渦福
	11	磁器	椀	ＳＳ07	(9.8)	5.4	灰白（N8/0）	染付	波佐見
	12	磁器	蓋	ＳＳ07	(6.2)	(1.4)	灰白（N8/1）	色絵	肥前
	13	磁器	椀	ＳＳ07	(10.4)	5.7	灰白（7.5Y8/1）	染付	波佐見
	14	磁器	椀	ＳＳ07	(9.8)	4.6	灰白（7.5Y8/1）	染付	肥前　こんにゃく印判
	15	磁器	椀	ＳＳ07	(9.7)	5.5	灰白（10YR8/2）	染付	肥前
	16	磁器	皿	ＳＳ07	(13.6)	3.1	灰白（5Y8/1）	染付	波佐見
	17	土師器	皿	ＳＳ07	5.3	1.2	浅黄橙（7.5YR8/4）	－	煤付着
	18	土師器	皿	ＳＳ07	5.3	1.3	にぶい黄橙（10YR7/3）	－	煤付着
	19	土師器	皿	ＳＳ07	5.2	1.3	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	
	20	土師器	皿	ＳＳ07	4.9	1.2	浅黄橙（10YR8/4）	－	
	21	土師器	皿	ＳＳ07	5.1	1.2	浅黄橙（10YR8/4）	－	煤付着
	22	土師器	皿	ＳＳ07	10.1	1.6	にぶい橙（7.5YR7/3）	－	
	23	土師器	皿	ＳＳ07	9.7	2.0	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	煤付着
	24	土師器	皿	ＳＳ07	(10.0)	1.6	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	煤付着
	25	磁器	椀	ＳＳ07	(10.0)	6.2	灰白（N8/0）	染付	肥前　広東椀
	26	土師器	鉢	ＳＳ07	5.5	2.3	浅黄橙（10YR8/4）	－	ロクロ成形
	27	土師器	皿	ＳＳ07	(10.1)	(1.9)	黒褐（2.5Y3/1）	－	
	28	土師器	皿	ＳＳ07	(9.8)	1.6	橙（5YR7/6）	－	
	29	土師器	皿	ＳＳ07	(11.0)	(1.9)	にぶい黄橙（10YR6/3）	－	
	30	陶器	杯	ＳＳ07	4.8	4.4	灰白（2.5Y7/2）	上絵	京都
	31	陶器	椀	ＳＳ07	9.2	5.3	灰白（2.5Y8/1）	灰	京・信楽系
	32	陶器	鉢	ＳＳ07	(20.0)	(4.0)	にぶい橙（7.5YR7/4）	灰	肥前
	33	陶器	椀	ＳＳ07	(8.7)	5.4	灰白（10YR8/2）	鉄	瀬戸美濃
	34	磁器	鉢	ＳＳ07	(17.9)	(4.0)	灰白（5Y8/1）	染付	肥前
	35	土師器	皿	ＳＳ07	(9.0)	(1.7)	橙（7.5YR7/6）	－	
	36	土師器	皿	ＳＳ07	(9.2)	(2.2)	にぶい橙（5YR7/4）	－	
	37	陶器	椀	ＳＳ07	－	(5.3)	にぶい橙（7.5YR6/4）	鉄	瀬戸美濃
	38	陶器	蓋	ＳＳ07	9.2	2.2	黄灰（2.5Y4/1）	－	京・信楽系　底部糸切り痕
	39	土師器	皿	ＳＳ3274	8.8	2.0	浅黄橙（7.5YR8/3）	－	煤付着
	40	土師器	皿	ＳＳ3118	(10.6)	(2.1)	にぶい黄橙（10YR6/3）	－	
	41	磁器	皿	ＳＳ3322	(10.6)	3.0	灰白（N8/0）	染付	波佐見　見込み五弁花印判
	42	陶器	皿	ＳＳ3322	(14.6)	(3.9)	にぶい橙（5YR6/4）	灰	肥前　胎土目
126	1	土師質	蓋	ＳＪ2040	14.4	1.8	橙（5YR7/6）	－	型成形
	2	土師質	壺	ＳＪ2040	11.8	7.1	浅黄橙（7.5YR8/4）	－	胞衣壺
	3	土師質	蓋	ＳＪ3049	13.7	2.2	にぶい橙（5YR7/4）	－	型成形

図面	報告番号	器種	器形	出土地点遺構名	法量（cm）		色調		備考
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬	
126	4	土師質	壺	ＳＪ 3049	10.7	7.9	にぶい橙（5YR7/4）	－	胞衣壺
	5	土師質	壺	ＳＪ 3116	12.0	6.6	橙（5YR7/6）	－	胞衣壺
127	1	陶器	甕	ＳＪ 3052	－	31.8	灰白（2.5Y8/2）	－	信楽
	2	陶器	甕	ＳＪ 3972	不明	(4.4)	にぶい赤褐（2.5YR4/3）	－	信楽
	3	陶器	甕	ＳＪ 3972	－	(63.6)	灰白（10YR8/2）	－	信楽
128	1	土師器	皿	ＳＫ 06	5.2	1.3	浅黄橙（7.5YR8/4）	－	
	2	土師器	皿	ＳＫ 06	(10.0)	(1.8)	にぶい黄橙（10YR7/3）	－	
	3	土師質	小壺	ＳＫ 06	2.2	2.4	浅黄橙（10YR8/2）	－	
	4	磁器	椀	ＳＫ 06	(10.0)	(4.8)	白（N9/0）	染付	肥前
	5	土製品	土人形	ＳＫ 06	(3.3)	4.2	にぶい橙（5YR7/4）	－	猩々　型合わせ
	6	土師器	皿	ＳＫ 23	(10.4)	(1.9)	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	
	7	土師器	皿	ＳＫ 23	(9.8)	(2.2)	橙（7.5YR7/6）	－	
	8	陶器	椀	ＳＫ 23	(11.8)	6.2	にぶい橙（7.5YR6/4）	灰	肥前
	9	陶器	小椀	ＳＫ 23	(7.4)	3.6	灰白（10YR8/2）	志野	瀬戸美濃
	10	土師質	面打	ＳＫ 23	2.8	2.8	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	土師器皿転用
	11	土師器	皿	ＳＫ 27	(9.5)	(1.4)	浅黄橙（10YR8/4）	－	
	12	土師器	皿	ＳＫ 27	(10.0)	1.9	灰白（10YR8/2）	－	
	13	土師器	皿	ＳＫ 27	(10.8)	(1.5)	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	
	14	土師器	皿	ＳＫ 27	(9.8)	1.9	にぶい橙（5YR7/4）	－	煤付着
	15	土師器	皿	ＳＫ 27	(12.8)	2.3	浅黄橙（7.5YR8/4）	－	煤付着
	16	磁器	皿	ＳＫ 27	(9.0)	1.7	灰白（N8/0）	白磁	中国　口縁釉剥ぎ
	17	瓦質	小壺	ＳＫ 27	(5.0)	6.2	灰（5Y4/1）	－	
	18	土師器	皿	ＳＫ 50	5.4	1.1	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	
	19	土師器	皿	ＳＫ 50	10.0	2.2	にぶい黄橙（10YR7/3）	－	
	20	土師器	皿	ＳＫ 50	10.0	2.2	灰黄褐（10YR6/2）	－	
	21	土師器	皿	ＳＫ 50	(10.8)	2.0	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	
	22	土師器	皿	ＳＫ 50	10.5	2.2	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	煤付着
	23	土師器	皿	ＳＫ 50	10.5	1.9	にぶい黄橙（10YR7/3）	－	
	24	陶器	椀	ＳＫ 50	(10.7)	6.4	灰白（2.5Y8/1）	鉄	瀬戸美濃
	25	陶器	椀	ＳＫ 50	(11.4)	6.2	灰白（2.5Y7/1）	緑	肥前
	26	陶器	皿	ＳＫ 50	(10.8)	2.6	灰白（2.5Y8/1）	志野	瀬戸美濃
	27	陶器	皿	ＳＫ 50	(13.0)	2.6	灰白（10YR7/1）	灰	瀬戸美濃　見込み釉剥ぎ
	28	磁器	椀	ＳＫ 50	－	(4.0)	灰白（N8/0）	染付	肥前
	29	土師質	焙烙	ＳＫ 50	(28.9)	6.3	灰黄褐（10YR4/2）	－	深草か　型成形
	30	土製品	土人形	ＳＫ 50	3.3	5.6	灰白（2.5Y8/2）	緑＋透明	大黒　型合わせ
	31	土製品	土人形	ＳＫ 50	(4.4)	4.8	灰白（2.5Y8/2）	－	堂内大黒　型合わせ
	32	陶器	擂鉢	ＳＫ 50	(26.0)	(7.8)	橙（5YR6/6）	－	信楽
	33	陶器	擂鉢	ＳＫ 50	(36.8)	(7.1)	赤褐（2.5YR4/6）	－	信楽
129	1	土師器	皿	ＳＫ 2055	(9.4)	1.8	橙（7.5YR7/6）	－	
	2	土師器	皿	ＳＫ 2055	(10.2)	2.0	にぶい黄橙（10YR7/3）	－	
	3	陶器	椀	ＳＫ 2055	(10.8)	(5.4)	灰白（5Y8/1）	鉄	中国
	4	陶器	鉢	ＳＫ 2055	(19.1)	(6.0)	黄灰（2.5Y4/1）	鉄絵	京都
	5	磁器	椀	ＳＫ 2055	(10.6)	5.7	白（N9/0）	染付	肥前
	6	陶器	椀	ＳＫ 2055	－	(3.5)	灰白（2.5Y7/1）	刷毛目	肥前
	7	磁器	椀	ＳＫ 2055	(11.0)	6.4	白（N9/0）	染付	肥前
	8	土師質	壺	ＳＫ 2055	－	(5.9)	橙（7.5YR7/6）	－	深草
	9	陶器	盤	ＳＫ 2055	－	(2.2)	にぶい橙（7.5YR6/4）	緑＋黄	中国
	10	土師器	皿	ＳＫ 2059	5.2	1.5	浅黄橙（7.5YR8/4）	－	

図面	報告番号	器種	器形	出土地点遺構名	法量（cm）		色調		備考
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬	
129	11	土師器	皿	ＳＫ 2059	10.5	1.9	浅黄橙（7.5YR8/3）	－	煤付着
	12	土師器	皿	ＳＫ 2059	10.4	1.9	浅黄橙（7.5YR8/3）	－	煤付着
	13	陶器	椀	ＳＫ 2059	(8.1)	(4.2)	灰白（N8/0）	鉄	瀬戸美濃
	14	陶器	椀	ＳＫ 2059	(12.2)	(5.4)	浅黄橙（7.5YR8/4）	灰	肥前
	15	磁器	皿	ＳＫ 2059	(19.0)	3.8	灰白（2.5Y8/1）	染付	肥前
	16	陶器	壺	ＳＫ 2059	－	(12.4)	灰白（2.5Y8/1）	－	信楽
	17	土師質	小壺	ＳＫ 2076	2.2	2.5	灰白（7.5YR8/2）	－	
	18	土師器	皿	ＳＫ 2076	5.7	1.4	橙（5YR7/6）	－	
	19	土師器	皿	ＳＫ 2076	(10.2)	(2.0)	浅黄橙（7.5YR8/3）	－	
	20	陶器	皿	ＳＫ 2076	12.9	4.1	灰白（7.5YR8/1）	緑	肥前　見込み蛇ノ目釉剥ぎ
	21	磁器	皿	ＳＫ 2076	(26.0)	(3.5)	灰白（N8/0）	赤絵	漳州窯
130	1	土師器	皿	ＳＫ 3172	10.1	1.8	にぶい黄橙（10YR7/4）	－	煤付着
	2	土師器	皿	ＳＫ 3172	9.9	1.8	にぶい黄橙（10YR6/3）	－	
	3	土師器	皿	ＳＫ 3172	11.1	2.3	にぶい黄橙（10YR7/4）	－	煤付着
	4	磁器	椀	ＳＫ 3172	8.2	4.6	灰白（N8/0）	染付	肥前
	5	磁器	椀	ＳＫ 3172	(9.5)	5.5	白（N9/0）	染付	肥前　こんにゃく印判
	6	磁器	椀	ＳＫ 3172	－	(1.3)	白（N9/0）	染付	中国　高台内「大明成化年製」
	7	磁器	皿	ＳＫ 3172	(12.2)	3.5	白（N9/0）	染付	肥前　見込み蛇ノ目釉剥ぎ
	8	磁器	皿	ＳＫ 3172	11.7	3.1	にぶい黄橙（10YR7/2）	青磁	肥前　見込み蛇ノ目釉剥ぎ
	9	磁器	小瓶	ＳＫ 3172	－	(2.7)	灰白（2.5Y8/1）	染付	中国
	10	陶器	鉢	ＳＫ 3172	(11.0)	7.4	浅黄橙（10YR8/3）	鉄絵染付	京・信楽系
	11	土師質	人形	ＳＫ 3172	2.8	3.6	黄橙（10YR8/6）	透明＋緑	天神　型合わせ
	12	土師質	人形	ＳＫ 3172	4.3	5.2	灰白（7.5Y8/2）	透明＋鉄＋緑	西行　手びねり
	13	陶器	甕	ＳＫ 3172	33.0	(37.9)	暗赤褐（5YR3/4）		信楽
131	1	土師器	皿	ＳＫ 3278	(8.6)	(1.8)	にぶい橙（5YR7/4）	－	
	2	土師器	皿	ＳＫ 3385	11.8	2.3	にぶい橙（7.5YR7/3）	－	
	3	土師器	皿	ＳＫ 3385	(10.7)	2.0	淡橙（5YR8/4）	－	煤付着
	4	土製品	土人形	ＳＫ 09	3.1	5.6	にぶい黄橙（10YR6/3）	－	西行　型合わせ
	5	土師器	皿	ＳＫ 3325	5.5	1.3	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	
	6	土師器	皿	ＳＫ 3325	9.4	1.9	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	
	7	土師器	皿	ＳＫ 3325	(11.2)	2.1	にぶい橙（7.5YR7/3）	－	煤付着
	8	土師器	皿	ＳＫ 3325	(11.2)	1.9	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	煤付着
	9	土師質	鉢	ＳＫ 3325	(14.0)	(4.6)	にぶい黄橙（10YR7/2）	－	内曇り
	10	陶器	椀	ＳＫ 3325	(11.2)	7.0	灰白（5Y8/2）	緑＋透明	肥前
	11	陶器	鬢水入れ	ＳＫ 3325	13.0	3.6	浅黄橙（7.5YR8/3）	透明	京・信楽系
	12	磁器	椀	ＳＫ 3325	(11.5)	5.5	灰白（N8/0）	染付	肥前　高台内「太明」
	13	磁器	蓋	ＳＫ 3325	(7.4)	1.7	白（N9/0）	染付	肥前　こんにゃく印判
	14	磁器	鬢付油壺	ＳＫ 3325	－	(5.0)	灰白（N8/0）	赤絵	肥前
	15	磁器	鉢	ＳＫ 3325	(11.0)	(7.8)	灰白（N8/0）	染付	肥前
	16	土師器	皿	ＳＫ 3264	10.2	2.0	浅黄橙（10YR8/3）	－	
	17	土師器	皿	ＳＫ 3264	10.4	2.0	にぶい橙（5YR6/4）	－	煤付着
	18	土師質	花塩壺	ＳＫ 3264	7.8	1.9	灰白（10YR8/2）	－	
	19	磁器	椀	ＳＫ 3264	11.5	6.0	白（N9/0）	染付	肥前　型紙刷り
	20	陶器	椀	ＳＫ 3266	12.8	4.9	灰白（2.5Y8/2）	鉄絵	肥前　高台「清水」銘
	21	陶器	皿	ＳＫ 3264	(21.2)	6.4	浅黄橙（2.5YR7/3）	鉄絵	肥前　見込み蛇ノ目釉剥ぎ

図面	報告番号	器種	器形	出土地点遺構名	法量（cm）		色調		備考
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬	
131	22	土師質	壺	ＳＫ 3264	15.9	18.0	にぶい橙（7.5YR6/4）	－	火消し壺
	23	土製品	人形	ＳＫ 3264	4.5	7.6	にぶい黄橙（10YR7/3）	－	鳩　型合わせ
132	1	土師器	皿	ＳＫ 3272	10.0	1.7	浅黄橙（7.5Y8/3）	－	
	2	土師器	皿	ＳＫ 3272	10.6	2.0	褐灰（10YR4/1）	－	煤付着
	3	土師器	皿	ＳＫ 3272	10.3	2.0	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	煤付着
	4	陶器	椀	ＳＫ 3272	(9.8)	5.2	灰黄（2.5YR7/2）	灰	京・信楽系
	5	陶器	椀	ＳＫ 3272	11.4	5.1	淡黄（2.5Y8/3）	鉄絵	京・信楽系　三点ハリ支え
	6	磁器	椀	ＳＫ 3272	6.4	5.3	白（N9/0）	染付	肥前
	7	陶器	椀	ＳＫ 3272	9.2	5.5	灰白（10YR8/2）	緑＋灰＋上絵	京・信楽系
	8	磁器	椀	ＳＫ 3272	8.8	4.6	白（N9/0）	染付	肥前
	9	磁器	皿	ＳＫ 3272	14.0	4.3	白（N9/0）	染付	肥前
	10	磁器	鉢	ＳＫ 3272	(15.8)	(8.8)	白（N8/0）	染付	中国
	11	磁器	皿	ＳＫ 3253	(21.1)	3.1	白（N9/0）	染付	肥前　高台内渦福
	12	磁器	椀	ＳＫ 3291	(11.0)	6.3	灰白（N8/0）	染付	肥前
	13	土師質	花塩壺蓋	ＳＫ 3291	7.6	1.3	灰白（2.5YR8/2）	－	「深草砂川権兵衛」銘　型押し
	14	土師質	花塩壺	ＳＫ 3291	7.2	5.0	浅黄橙（10YR8/3）	－	
	15	陶器	鉢	ＳＫ 3291	(10.1)	4.4	灰白（2.5Y8/2）	織部	瀬戸美濃
	16	土師器	皿	ＳＫ 3426	(10.8)	(1.9)	灰黄（2.5YR7/2）	－	
	17	土師器	皿	ＳＫ 3426	(11.2)	1.6	灰黄（2.5YR7/2）	－	
	18	土師器	鉢	ＳＫ 3426	(6.2)	2.1	灰白（10YR8/2）	－	
	19	陶器	椀	ＳＫ 3426	9.6	5.5	灰白（10Y7/1）	上絵	京都
	20	陶器	椀	ＳＫ 3426	7.0	3.4	淡黄（2.5YR8/3）	上絵	京都
	21	土製品	土鈴	ＳＫ 3426	2.9	3.5	にぶい橙（10YR7/2）	－	手びねり
133	1	土師器	皿	ＳＫ 3025	8.1	1.6	にぶい橙（5YR7/4）	－	
	2	土師器	皿	ＳＫ 3025	9.9	1.9	橙（5YR6/6）	－	
	3	土師器	皿	ＳＫ 3025	(10.7)	2.0	淡橙（5YR8/4）	－	
	4	陶器	皿	ＳＫ 3025	－	(2.1)	浅黄橙（7.5YR8/3）	灰	京都　高台内「仁清」銘
	5	土師質	小鉢	ＳＫ 3025	5.4	2.0	浅黄橙（10YR8/3）	－	墨書
	6	陶器	椀	ＳＫ 3025	(11.9)	3.6	灰白（2.5YR8/1）	鉄絵	京・信楽系
	7	土師器	皿	ＳＫ 3282	10.6	1.7	浅黄橙（7.5YR8/3）	－	
	8	土師器	皿	ＳＫ 3282	(11.8)	2.1	にぶい橙（5YR7/4）	－	
	9	磁器	ミニチュア	ＳＫ 3282	4.1	2.1	白（N9/0）	白磁	肥前　椀
	10	磁器	ミニチュア	ＳＫ 3282	4.5	2.7	白（N9/0）	白磁	肥前　椀
	11	磁器	椀	ＳＫ 3282	6.0	2.9	白（N9/0）	染付	肥前
	12	磁器	椀	ＳＫ 3282	(7.5)	3.5	白（N9/0）	白磁	肥前
	13	磁器	椀	ＳＫ 3282	(9.7)	8.4	白（N9/0）	染付	肥前
	14	磁器	椀	ＳＫ 3282	13.6	3.8	白（N9/0）	染付	肥前　見込み蛇ノ目釉剥ぎ
	15	陶器	鉢	ＳＫ 3282	15.5	6.1	にぶい黄橙（10YR7/3）	刷毛目	肥前　見込み蛇ノ目釉剥ぎ
	16	陶器	鉢	ＳＫ 3282	19.5	6.0	灰白（2.5YR8/1）	鉄絵	肥前　高台内「柴」在印
	17	陶器	壺	ＳＫ 3282	(12.1)	(10.7)	灰白（2.5Y8/1）	鉄釉	信楽
	18	陶器	鉢	ＳＫ 3282	(28.6)	(7.0)	灰褐（7.5YR5/2）	緑＋刷毛目	九州系
134	1	土師器	皿	ＳＫ 2041	(10.4)	1.6	浅黄橙（7.5YR8/4）	－	煤付着
	2	土師器	皿	ＳＫ 2041	11.0	2.0	明褐灰（7.5YR7/2）	－	
	3	土師器	皿	ＳＫ 2041	11.8	1.8	浅黄橙（7.5YR8/3）	－	煤付着
	4	軟質施釉陶器	ミニチュア	ＳＫ 2041	(5.6)	1.2	浅黄橙（10YR8/3）	緑＋透明	皿
	5	陶器	椀	ＳＫ 2041	(9.2)	5.2	浅黄橙（10YR8/3）	鉄絵	京・信楽系
	6	磁器	椀	ＳＫ 2041	－	(4.4)	白	赤絵	肥前
	7	磁器	椀	ＳＫ 2041	(10.1)	5.5	白	染付	波佐見

図面	報告番号	器種	器形	出土地点遺構名	法量（cm）		色調		備考
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬	
134	8	陶器	香炉	ＳＫ2041	(10.0)	4.0	白	染付	肥前　脚別付け
	9	磁器	椀	ＳＫ2041	7.6	6.6	白	染付	肥前　見込み五弁花
	10	陶器	蓋	ＳＫ2041	(8.0)	1.3	浅黄橙（10YR8/3）	鉄絵	京・信楽系
	11	土製品	人形	ＳＫ2041	3.7	7.0	橙（5YR6/6）	－	まつたけ持ち　型合わせ
	12	陶器	ミニチュア	ＳＫ2041	(5.1)	(4.2)	にぶい黄橙（10YR7/3）	鉄＋透明	京・信楽系　家　型押し
	13	陶器	片口鉢	ＳＫ2041	(23.7)	(9.0)	にぶい赤褐（5Y4/3）	刷毛目	肥前
	14	陶器	鉢	ＳＫ2041	(20.0)	10.2	赤褐（10R5/3）	刷毛目	肥前
	15	土師質	焙烙	ＳＫ2041	(30.4)	(4.7)	灰黄褐（10YR4/2）	－	大和か
	16	土師質	焙烙	ＳＫ2041	(26.2)	(4.9)	にぶい橙（7.5YR6/4）	－	深草
	17	土師質	火鉢	ＳＫ2041	(21.4)	9.8	橙（5YR6/6）	－	深草
	18	土師質	火鉢	ＳＫ2041	(24.6)	15.1	橙（7.5YR7/6）	－	深草
	19	陶器	擂鉢	ＳＫ2041	(34.0)	(13.3)	赤（10R5/6）	－	堺・明石系
135	1	陶器	平皿	ＳＫ2042	－	(2.1)	にぶい黄橙（10YR7/4）	上絵	京都　被熱
	2	磁器	椀	ＳＫ2042	－	(2.3)	白（N9/0）	染付	景徳鎮
	3	磁器	椀	ＳＫ2042	－	(2.8)	白（N9/0）	染付	肥前　望料椀
	4	磁器	椀	ＳＫ2042	(3.9)	6.4	にぶい黄橙（10YR7/1）	染付	肥前　こんにゃく印判　五弁花
	5	磁器	皿	ＳＫ2042	(12.0)	3.1	白（N9/0）	染付	菊御紋付
	6	瓦質	瓦灯か	ＳＫ2042	(9.0)	(4.3)	赤褐色（10R5/4）	－	
	7	陶器	不明	ＳＫ2042	－	(1.2)	灰褐（5YR6/2）	－	
	8	磁器	蓋	ＳＫ2042	(9.1)	2.7	白（N9/0）	染付	肥前
	9	磁器	椀	ＳＫ2042	(10.7)	6.1	白（N9/0）	染付	肥前
	10	磁器	皿	ＳＫ2042	(20.6)	3.6	白（N9/0）	染付	肥前　被熱
	11	陶器	壺	ＳＫ2042	(11.6)	－	灰白（N7/0）	褐	肥前　被熱
	12	陶器	鍋	ＳＫ2042	(21.6)	(7.3)	褐灰（5YR6/1）	鉄	京・信楽系
	13	土師質	風炉	ＳＫ2042	－	(9.6)	にぶい橙（7.5YR6/4）	－	深草か
	14	土師質	風炉	ＳＫ2042	－	(7.0)	明赤褐（5YR5/8）	－	深草　マーブル状胎土
	15	陶器	擂鉢	ＳＫ2042	(28.4)	(9.3)	にぶい赤褐（5YR4/3）	－	堺・明石系　被熱
136	1	土師器	皿	ＳＫ2015	(10.4)	1.7	橙（7.5YR7/6）	－	
	2	土師器	皿	ＳＫ2015	(9.8)	1.5	浅黄橙（7.5YR8/4）	－	
	3	土師器	皿	ＳＫ2015	(9.8)	1.7	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	
	4	土師器	皿	ＳＫ2015	(9.8)	1.5	にぶい黄橙（10YR7/3）	－	
	5	土師質	小壺	ＳＫ2015	(2.9)	2.4	浅黄橙（10YR8/3）	－	
	6	陶器	灯明皿	ＳＫ2015	(7.0)	1.6	灰白（2.5Y8/2）	透明	京・信楽系　煤付着
	7	磁器	椀	ＳＫ2015	7.0	(6.0)	灰白（N8/0）	青磁＋染付	肥前　見込み五弁花　外面青磁
	8	磁器	椀	ＳＫ2015	(8.2)	(6.4)	灰（5Y6/1）	刷毛目	京・信楽系
	9	陶器	小杯	ＳＫ2015	－	(2.0)	灰白（5Y8/1）	色絵	京・信楽系
	10	陶器	椀	ＳＫ2015	－	(2.3)	黄灰（2.5Y6/1）	白	萩系　ピラ掛け
	11	磁器	椀	ＳＫ2015	－	(3.3)	白（N9/0）	染付	肥前
	12	磁器	椀	ＳＫ2015	－	(3.9)	白（N9/0）	染付	肥前　外面青磁
	13	陶器	椀	ＳＫ2015	－	(2.4)	灰白（5Y8/1）	灰	京・信楽系
	14	陶器	椀	ＳＫ2015	(13.6)	(4.1)	黄灰（2.5YR6/1）	白	高取
	15	磁器	皿	ＳＫ2015	8.8	(2.1)	灰黄（2.5YR7/2）	灰	京・信楽系
	16	磁器	皿	ＳＫ2015	－	(1.6)	灰白（N8/0）	鉄絵	京・信楽系
	17	磁器	皿	ＳＫ2015	－	(1.5)	灰黄（2.5Y7/2）	鉄絵	京・信楽系
	18	土製品	泥面子	ＳＫ2015	3.1	0.8	にぶい橙（7.5YR6/4）	－	「宮」の字
	19	土製品	泥面子	ＳＫ2015	3.1	0.9	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	「二」の字
	20	土製品	泥面子	ＳＫ2015	3.1	0.9	橙（5YR6/6）	－	「鶏」紋
	21	土製品	泥面子	ＳＫ2015	3.3	0.9	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	「桐」紋

図面	報告番号	器種	器形	出土地点遺構名	法量（cm）		色調		備考
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬	
136	22	土製品	泥面子	S K 2015	3.0	1.2	にぶい橙（5YR7/4）	－	「い」の字
	23	土製品	泥面子	S K 2015	3.0	0.9	にぶい橙（5YR7/4）	－	「角行」紋
	24	陶器	灯火具	S K 2015	(4.8)	3.8	灰白（5Y8/2）	透明	京・信楽系
	25	磁器	瓶	S K 2015	－	(9.3)	灰白（N8/1）	青磁	肥前
	26	陶器	鍋	S K 2015	(19.3)	10.9	にぶい橙（7.5YR7/4）	鉄	京・信楽系
	27	陶器	急須	S K 2015	(6.4)	(6.5)	黄灰（2.5Y6/1）	鉄	京・信楽系
	28	土製品	人形	S K 2015	2.8	5.6	にぶい赤褐（5YR5/4）	－	馬　土玉入り
	29	陶器	擂鉢	S K 2015	(31.0)	10.5	橙（2.5YR6/6）	－	堺・明石系
	30	陶器	鉢	S K 2015	(28.0)	7.5	褐（7.5YR4/3）	－	丹波
	31	陶器	鉢	S K 2015	(51.4)	(8.3)	浅黄橙（7.5YR8/3）	緑＋透明	
137	1	磁器	皿	S K 2015	(5.2)	2.4	白（N9/0）	染付	肥前　朱書き「京都　紅」
	2	磁器	椀	S K 2015	(5.7)	3.2	白（N9/0）	染付	肥前
	3	磁器	小杯	S K 2015	(7.0)	3.1	白（N9/0）	染付	肥前
	4	磁器	椀	S K 2015	(7.4)	3.8	灰白（N8/0）	染付	肥前
	5	磁器	皿	S K 2015	(10.7)	3.3	白（N9/0）	染付	肥前　口縁鉄釉
	6	土製品	水滴	S K 2015	(4.4)	(3.0)	灰白（2.5Y8/2）	赤絵	肥前
	7	磁器	蓋	S K 2015	(8.9)	1.6	灰白（5Y8/2）	鉄絵	京・信楽系
	8	磁器	椀	S K 2015	(7.8)	5.2	灰白（N8/0）	鉄絵	京・信楽系
	9	磁器	蓋	S K 2015	(9.0)	3.5	褐灰（10YR4/1）	刷毛目	肥前
	10	磁器	御神酒徳利	S K 2015	4.8	(8.5)	灰白（N8/0）	染付	肥前
	11	磁器	椀	S K 2015	(8.9)	5.5	灰白（N8/0）	染付	肥前
	12	磁器	椀	S K 2015	(10.1)	5.5	白（N9/0）	色絵	肥前系　端反椀
	13	磁器	蓋	S K 2015	(9.8)	2.5	白（N9/0）	染付	肥前　端反椀蓋
	14	磁器	椀	S K 2015	11.0	(4.9)	白（N9/0）	染付	肥前　端反椀
	15	磁器	皿	S K 2015	10.2	2.4	灰白（N8/0）	染付	波佐美
	16	磁器	椀	S K 2015	11.0	6.2	灰白（7.5Y8/1）	染付	肥前　端反椀
	17	磁器	椀	S K 2015	(11.5)	6.4	白（N9/0）	染付	肥前
	18	土製品	人形	S K 2015	3.3	(3.1)	灰白（10YR8/2）	緑＋透明	釣人　型合わせ
	19	土製品	人形	S K 2015	4.2	(6.5)	にぶい橙（7.5YR7/3）	緑＋鉄＋透明	猿まわし　手びねり
	20	土製品	人形	S K 2015	5.5	(7.3)	にぶい赤褐（5YR4/3）	－	女性　型合わせ
	21	磁器	皿	S K 2015	－	2.1	白（N9/0）	染付	肥前　蛇ノ目高台
	22	磁器	鉢	S K 2015	(21.0)	7.1	白（N9/0）	染付	肥前
138	1	土師器	皿	S K 2048	5.1	1.1	淡橙（5YR8/4）	－	煤付着
	2	土師器	皿	S K 2048	5.3	1.4	浅黄橙（7.5YR8/3）	－	
	3	陶器	椀	S K 2048	－	(4.5)	にぶい黄橙（10YR7/2）	灰	高取
	4	陶器	灯明受皿	S K 2048	9.4	1.8	灰白（10YR8/2）	透明	京・信楽系　煤付着
	5	土師質	蓋	S K 2048	5.8	1.5	浅黄橙（10YR8/3）	－	底部糸切り痕
	6	陶器	灯明受皿	S K 2048	12.0	2.2	灰白（2.5Y8/1）	透明	京・信楽系
	7	陶器	蓋	S K 2048	10.2	3.3	明褐灰（7.5YR7/1）	灰	京・信楽系
	8	土製品	芥子面子	S K 2048	1.3	2.1	浅黄橙（7.5YR8/3）	－	狐　型押し
	9	土製品	泥面子	S K 2048	3.0	0.8	にぶい橙（5YR7/4）	－	組紐　型押し
	10	土製品	泥面子	S K 2048	2.9	0.8	橙（5YR7/6）	－	小判　型押し　墨書「や」
	11	土製品	人形	S K 2048	4.5	4.5	橙（5YR7/6）	－	猫　型合わせ
	12	磁器	椀	S K 2048	(7.0)	3.6	白（N9/0）	染付	肥前系
	13	磁器	椀	S K 2048	9.3	5.4	白（N9/0）	染付	波佐見
	14	磁器	椀	S K 2048	(11.3)	6.0	白（N9/0）	染付	肥前　広東椀
	15	磁器	皿	S K 2048	(7.8)	2.5	白（N9/0）	染付	肥前
	16	陶器	徳利	S K 2048	2.0	14.2	褐灰（7.5YR5/1）	白	丹波
	17	土師質	炮烙	S K 2048	(28.4)	(3.4)	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	津田

図面	報告番号	器種	器形	出土地点遺構名	法量（cm）		色調		備考
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬	
138	18	磁器	椀	ＳＫ 2048	(11.2)	6.3	白（N9/0）	染付	肥前　望料椀
	19	磁器	蓋	ＳＫ 2048	(11.7)	3.3	灰白（7.5YR8/2）	染付	肥前　広東椀蓋
	20	土製品	ミニチュア	ＳＫ 10	(3.6)	2.3	橙（5YR7/6）	透明	椀
	21	土製品	泥面子	ＳＫ 10	3.0	3.0	橙（7.5YR6/6）	－	「松」紋
	22	陶器	椀	ＳＫ 3100	8.9	4.8	灰オリーブ（5Y6/2）	灰	高取
	23	土師器	皿	ＳＫ 3109	(12.4)	(1.8)	浅黄橙（10YR8/4）	－	
	24	土師質	花塩壺蓋	ＳＫ 3109	6.4	1.4	浅黄橙（7.5YR8/4）	－	深草　刻印「なんばんやき　しおのこんほん　本七度やき」
	25	陶器	鉢	ＳＫ 3109	(11.4)	(2.4)	褐灰（10YR6/1）	褐	京都　「暁山」銘
	26	磁器	杯	ＳＫ 3109	(6.4)	2.7	白（N9/0）	金彩	京都　「周平之造」朱書
	27	陶器	水滴	ＳＫ 3109	4.5	2.1	浅黄橙（10YR8/3）	透明＋緑＋黄	京・信楽系
	28	土師質	ミニチュア	ＳＫ 3109	4.5	3.7	浅黄橙（8/3）	－	家　型合わせ成形
	29	磁器	皿	ＳＫ 3003	14.9	3.2	灰白（10YR8/3）	染付	肥前　見込み蛇ノ目釉剥ぎ
139	1	土師器	皿	ＳＫ 3035	(10.3)	(1.6)	灰白（7.5YR8/2）	－	
	2	陶器	ミニチュア	ＳＫ 3035	2.4	0.7	黄橙（7.5YR8/6）	緑釉	皿
	3	陶器	ミニチュア	ＳＫ 3035	－	3.4	灰白（10YR8/2）	緑＋透明	壺
	4	磁器	小皿	ＳＫ 3035	5.9	1.5	白（N9/0）	白磁	肥前
	5	磁器	蓋	ＳＫ 3035	4.1	1.7	白（N9/0）	染付	肥前
	6	磁器	蓋物	ＳＫ 3035	(6.5)	3.8	白（N9/0）	染付	肥前
	7	磁器	椀	ＳＫ 3035	(9.7)	5.4	白（N9/0）	染付	肥前系
	8	土製品	人形	ＳＫ 3035	4.2	3.3	橙（5YR7/6）	－	恵比寿と大黒　型合わせ
	9	磁器	灯芯押さえ	ＳＫ 3035	2.7	4.8	白（N9/0）	白磁	肥前　頭部型押し　手びねり成形
	10	磁器	椀	ＳＫ 2022	(6.9)	5.4	白（N9/0）	染付	肥前
	11	磁器	紅皿	ＳＫ 2022	4.4	1.5	白（N9/0）	白磁	肥前　型押し
	12	磁器	椀	ＳＫ 2022	(8.9)	4.6	白（N9/0）	染付	瀬戸　端反椀
	13	土製品	人形	ＳＫ 2022	4.6	3.8	灰白（7.5YR8/1）	緑＋黄	天神　型合わせ　台別付け
	14	陶器	筒形容器	ＳＫ 3971	(10.4)	1.7	にぶい黄橙（10YR7/2）	白	京都「錦光山」銘
	15	土製品	人形	ＳＫ 3971	(2.0)	(2.6)	浅黄橙（7.5YR8/4）	緑＋透明	獅子　型合わせ　前脚別付
	16	陶器	甕	ＳＫ 2043	(60.0)	51.4	浅黄橙（10YR8/4）	泥漿	信楽
140	1	土師器	皿	ＳＫ 05	4.9	1.3	にぶい橙（5YR6/4）	－	煤付着
	2	土師器	皿	ＳＫ 05	4.9	1.3	浅黄橙（10YR8/4）	－	
	3	土師器	皿	ＳＫ 05	5.2	1.2	浅黄橙（10YR8/3）	－	
	4	土師器	皿	ＳＫ 05	5.9	0.9	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	
	5	土師器	皿	ＳＫ 05	5.4	1.0	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	
	6	土師器	皿	ＳＫ 05	(7.4)	1.2	にぶい橙（5YR6/4）	－	煤付着
	7	土師器	皿	ＳＫ 05	7.4	1.4	橙（5YR6/6）	－	煤付着
	8	土師器	皿	ＳＫ 05	9.4	1.7	橙（7.5YR7/6）	－	煤付着
	9	土師器	皿	ＳＫ 05	9.6	1.7	浅黄橙（7.5YR8/4）	－	
	10	土師器	皿	ＳＫ 05	10.0	1.2	橙（5YR7/6）	－	
	11	陶器	椀	ＳＫ 05	(8.3)	(3.6)	にぶい黄橙（10YR7/3）	上絵	京・信楽系
	12	陶器	椀	ＳＫ 05	(9.1)	4.4	浅黄橙（10YR8/3）	灰	京・信楽系
	13	陶器	椀	ＳＫ 05	(8.4)	5.2	灰白（10Y7/1）	鉄絵	京・信楽系
	14	陶器	蓋	ＳＫ 05	(10.6)	1.1	灰白（7.5Y7/1）	透明	京・信楽系
	15	陶器	蓋	ＳＫ 05	(10.3)	1.1	灰白（2.5Y8/2）	透明	京・信楽系
	16	陶器	蓋	ＳＫ 05	9.5	1.3	灰白（10Y8/1）	透明	京・信楽系
	17	陶器	油受皿	ＳＫ 05	(8.7)	1.7	灰白（5Y8/1）	透明	京・信楽系　煤付着
	18	陶器	油受皿	ＳＫ 05	(10.1)	2.8	灰白（2.5Y8/2）	透明	京・信楽系

図面	報告番号	器種	器形	出土地点遺構名	法量（cm）		色調		備考
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬	
140	19	土製品	小壺	ＳＫ05	(3.8)	2.7	にぶい赤褐 (2.5YR4/4)	泥漿	
	20	陶器	蓋	ＳＫ05	6.8	1.7	灰（7.5Y7/1）	灰	京・信楽系
	21	陶器	鬢水入れ	ＳＫ05	不明	(3.7)	灰白（7.5Y8/1）	上絵	京・信楽系
	22	土製品	泥面子	ＳＫ05	3.1	3.1	橙（7.5YR7/6）	−	笠　型押し
	23	土製品	人形	ＳＫ05	(3.9)	(2.0)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	−	鳩「亀」在印　型合わせ
	24	土製品	猫	ＳＫ05	(5.4)	(8.6)	にぶい橙（7.5YR7/4）	−	型合わせ
	25	陶器	椀	ＳＫ05	(9.0)	5.8	灰白（2.5Y8/2）	透明	京・信楽系
	26	陶器	椀	ＳＫ05	(9.6)	5.2	灰白（2.5Y8/2）	灰	京・信楽系
	27	陶器	椀	ＳＫ05	(11.1)	6.4	灰白（5Y7/1）	灰	京・信楽系
	28	陶器	椀	ＳＫ05	(7.4)	(5.0)	灰白（2.5Y8/1）	鉄絵	京・信楽系
	29	磁器	椀	ＳＫ05	(9.5)	(4.5)	灰白（7.5Y8/1）	鉄絵	肥前系
	30	陶器	椀	ＳＫ05	(12.0)	5.0	灰白（5Y7/1）	鉄絵	京・信楽系
	31	陶胎染付	急須の口	ＳＫ05	(4.0)	6.0	にぶい黄橙 (10YR7/3)	陶胎染付	京・信楽系
	32	土師質	焼塩壺蓋	ＳＫ05	7.4	(1.6)	橙（5YR6/6）	−	
	33	土師質	焼塩壺	ＳＫ05	5.2	7.3	橙（5YR6/6）	−	
	34	土師質	花塩壺	ＳＫ05	4.7	4.4	灰白（10YR8/2）	−	深草　底部糸切り痕
	35	土師質	花塩壺	ＳＫ05	(6.6)	3.1	灰白（10YR8/2）	−	深草
	36	陶器	片口	ＳＫ05	(7.7)	10.1	灰白（2.5Y7/1）	鉄絵	京・信楽系
	37	土師質	炮烙	ＳＫ05	−	(5.1)	にぶい橙（7.5YR7/4）	−	津田
	38	陶器	蓋	ＳＫ05	6.6	3.8	灰白（5Y8/2）	鉄絵	京・信楽系
	39	陶器	蓋	ＳＫ05	14.4	3.5	浅黄（2.5Y7/3）	鉄絵	京・信楽系
	40	陶器	蓋	ＳＫ05	12.2	2.4	褐灰（7.5YR6/1）	鉄	京・信楽系
	41	陶器	行平鍋	ＳＫ05	16.2	9.0	灰（7.5Y6/1）	灰	京・信楽系
	42	土師質	涼炉	ＳＫ05	−	(12.7)	浅黄橙（7.5YR8/3）	−	京・信楽系
141	1	磁器	ミニチュア	ＳＫ05	(3.0)	1.8	灰白（5Y8/1）	染付	肥前　椀
	2	磁器	椀	ＳＫ05	6.6	2.7	明緑灰（7.5GY8/1）	白磁	肥前
	3	磁器	椀	ＳＫ05	6.4	3.3	灰白（N8/0）	染付	肥前
	4	磁器	椀	ＳＫ05	(10.2)	5.0	灰白（N8/0）	染付	波佐見
	5	磁器	椀	ＳＫ05	(10.6)	4.7	白（N9/0）	染付	瀬戸　端反椀　焼き継ぎ痕
	6	磁器	椀	ＳＫ05	(10.2)	4.9	灰白（N8/0）	染付	瀬戸　端反椀
	7	磁器	椀	ＳＫ05	9.9	4.9	灰白（10Y8/1）	染付	波佐見
	8	磁器	椀	ＳＫ05	7.0	5.4	白（N9/0）	染付	肥前　見込み五弁花
	9	磁器	蓋	ＳＫ05	(9.1)	3.6	灰白（N8/0）	青磁＋染付	肥前　見込み五弁花　高台内「渦福」
	10	磁器	椀	ＳＫ05	(11.2)	6.0	灰白（N8/0）	青磁＋染付	肥前　見込み五弁花　高台内「渦福」
	11	磁器	蓋	ＳＫ05	(10.3)	2.6	白（N9/0）	染付	肥前
	12	磁器	椀	ＳＫ05	(11.1)	6.5	白（N9/0）	染付	肥前
	13	磁器	蓋	ＳＫ05	4.8	1.5	灰白（5Y8/1）	染付	肥前
	14	磁器	椀	ＳＫ05	(9.1)	4.9	灰白（7.5Y8/1）	染付	肥前　焼き継ぎ痕
	15	磁器	椀	ＳＫ05	(10.2)	5.0	白（N9/0）	染付	肥前
	16	磁器	御神酒徳利	ＳＫ05	−	6.8	灰白（5Y8/1）	染付	肥前
	17	磁器	仏飯具	ＳＫ05	7.2	6.1	灰白（N8/0）	染付	肥前
	18	磁器	椀	ＳＫ05	(10.8)	5.9	白（N9/0）	染付	肥前
	19	磁器	蓋	ＳＫ05	(10.3)	2.6	白（N9/0）	染付	肥前　広東椀蓋
	20	磁器	水滴	ＳＫ05	1.1	3.6	灰白（5Y8/1）	染付	瀬戸
	21	磁器	面打	ＳＫ05	4.6	4.3	白（N9/0）	染付	肥前磁器転用
	22	磁器	鉢	ＳＫ05	−	3.5	白（V9/0）	染付	中国
	23	磁器	椀	ＳＫ05	(11.6)	5.7	白（N9/0）	染付	肥前　広東椀

図面	報告番号	器種	器形	出土地点遺構名	法量（cm）		色調		備考
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬	
142	1	磁器	皿	S K 05	13.3	3.0	灰白（7.5Y8/1）	染付	波佐見　見込み蛇ノ目釉剥ぎ　五弁花
	2	磁器	皿	S K 05	14.0	3.9	灰白（N8/0）	染付	波佐見　見込み蛇ノ目釉剥ぎ　高台内「渦福」
	3	磁器	鉢	S K 05	(18.1)	11.6	灰白（N8/0）	染付	肥前　焼き継ぎ痕
	4	磁器	皿	S K 05	－	1.7	灰白（5Y8/1）	染付	肥前系　焼き継ぎ痕
	5	磁器	皿	S K 05	－	1.8	白（N9/0）	染付	肥前　「太明成化年製」
	6	土製品	人形	S K 05	7.2	18.9	にぶい黄橙（10YR7/3）	－	西行　型合わせ
143	1	陶器	鉢	S K 05	(12.3)	6.9	にぶい赤褐（5YR5/3）	灰	備前
	2	陶器	甕	S K 05	(13.0)	7.8	にぶい黄橙（10YR7/2）	鉄＋黒	京・信楽系　黒釉かけ流し
	3	陶器	壺	S K 05	(7.5)	11.6	灰白（10YR7/1）	灰	信楽
	4	陶器	壺	S K 05	－	(12.5)	浅黄橙（10YR8/3）	鉄	京・信楽系
	5	陶器	鉢	S K 05	(15.6)	8.0	にぶい褐（7.5YR5/3）	－	京・信楽系
	6	陶器	擂鉢	S K 05	(35.6)	8.1	にぶい赤褐（2.5YR5/4）	－	堺・明石系
	7	陶器	擂鉢	S K 05	(35.6)	13.6	灰褐（7.5Y4/2）	－	堺・明石系　植木鉢に転用
	8	陶器	擂鉢	S K 05	(32.0)	10.0	にぶい赤褐（2.5YR5/3）	－	堺・明石系
144	1	陶器	土瓶	S K 3004	(4.1)	(4.9)	にぶい橙（7.5Y6/4）	陶胎染付	京都　「道八」銘
	2	陶器	急須	S K 3004	7.6	7.3	灰褐（5YR4/2）	紫泥	宜興窯　「花間□□月下侶吟」銘
	3	磁器	椀	S K 3022	－	(3.7)	白（N9/0）	染付	肥前　菊御紋付
	4	陶器	椀	S K 3022	－	(5.8)	灰白（10YR8/2）	透明	肥前　高台内墨書
	5	磁器	椀	S K 3103	(7.4)	3.6	白（N9/0）	染付＋赤絵	肥前　朱書き「りき本家」
	6	磁器	椀	S K 3103	(8.6)	4.5	白（N9/0）	釉上彩	徳化窯　口縁釉剥ぎ　型成形
	7	磁器	椀	S K 3103	(10.2)	5.4	白（N9/0）	染付	肥前
	8	磁器	皿	S K 3103	8.4	1.9	白（N9/0）	染付	肥前
	9	土製品	土人形	S K 3103	3.8	3.1	橙（2.5YR6/6）	－	猿　手びねり＋頭部型押し
	10	陶器	椀	S K 2025	12.3	8.2	灰白（N8/2）	志野	瀬戸美濃
	11	土製品	泥面子	S K 3360	3.1	3.5	橙（7.5YR6/6）	－	「兵」　型押し
	12	土師器	皿	S K 3108	7.9	1.6	淡黄（2.5Y8/3）	－	
	13	土師器	皿	S K 3108	(9.7)	1.5	にぶい黄（2.5Y6/3）	－	
	14	磁器	椀	S K 3108	－	(4.3)	白（N9/0）	染付	肥前
	15	陶器	椀	S K 3108	6.3	5.8	淡黄（2.5Y8/3）	織部	瀬戸美濃　天保織部
	16	土製品	鳩笛	S K 3108	4.6	2.5	にぶい黄橙（10YR7/4）	透明＋緑	手びねり
	17	土師器	皿	S K 3114	8.7	1.5	浅黄橙（10YR8/3）	－	
	18	磁器	杯	S K 3114	(6.0)	3.5	褐灰（10YR4/2）	刷毛目	京・信楽系　型押し
	19	磁器	皿	S K 3114	2.6	1.7	白（N9/0）	釉上彩	京都
	20	磁器	椀	S K 3114	(7.8)	(4.1)	白（N9/0）	染付	瀬戸
	21	磁器	椀	S K 3114	8.2	4.5	白（N9/0）	染付	京都か
	22	磁器	椀	S K 3114	(9.8)	5.0	白（N9/0）	釉上彩	京都
	23	磁器	皿	S K 3114	(7.8)	2.7	白（N9/0）	染付	中国　高台内「道光年製」
	24	磁器	椀	S K 3114	8.2	4.6	白（N9/0）	染付	瀬戸
	25	磁器	鉢	S K 3114	(13.8)	(4.5)	白（N9/0）	染付	中国
	26	陶器	蓋	S K 3114	9.8	3.6	灰褐（7.5YR5/2）	－	京・信楽系　半練
	27	陶器	土瓶	S K 3114	(10.8)	13.1	灰褐（7.5YR5/2）	－	京・信楽系　半練
	28	磁器	壺	S K 3114	(13.2)	(12.0)	白（N9/0）	染付	肥前
145	1	陶器	皿	S K 3166	(10.0)	1.5	灰白（5Y8/1）	透明	京・信楽系　型成形
	2	軟質施釉陶器	油受皿	S K 3166	12.4	2.0	にぶい橙（5YR7/4）	透明	

図面	報告番号	器種	器形	出土地点遺構名	法量（cm）		色調		備考
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬	
145	3	陶器	椀	ＳＫ 3166	8.6	4.7	灰黄（2.5Y7/2）	灰釉	高取
	4	磁器	髪付油壺	ＳＫ 3166	(9.7)	(5.3)	白（N9/0）	染付	肥前系
	5	磁器	杯	ＳＫ 3166	6.2	2.9	灰白（N8/0）	赤絵	肥前
	6	磁器	椀	ＳＫ 3166	10.8	5.2	白（N9/0）	染付	肥前
	7	磁器	椀	ＳＫ 3166	13.8	6.5	白（N9/0）	染付	肥前　光格菊御紋付
	8	磁器	鉢	ＳＫ 3166	25.0	8.1	白（N9/0）	染付	肥前　蛇ノ目高台
146	1	磁器	鉢	ＳＫ 3166	19.5	9.3	白（N9/0）	染付	肥前　蛇ノ目高台
	2	磁器	皿	ＳＫ 3166	(33.1)	4.4	白（N9/0）	染付	肥前
	3	陶器	火鉢	ＳＫ 3166	−	(13.6)	灰白（2.5YR8/2）	緑	瀬戸美濃　墨書「□等　セリ　エウ」
147	1	土師器	皿	ＳＫ 3196	(6.9)	1.1	灰白（10YR8/2）	−	
	2	土師器	皿	ＳＫ 3196	(7.1)	1.1	灰白（10YR8/2）	−	
	3	土師器	皿	ＳＫ 3196	(9.8)	1.7	橙（5YR7/6）	−	煤付着
	4	陶器	油受皿	ＳＫ 3196	6.5	1.4	灰白（10YR7/1）	透明	京・信楽系
	5	陶器	灯明皿	ＳＫ 3196	(10.8)	2.1	灰白（2.5YR8/2）	透明	京・信楽系　煤付着
	6	陶器	椀	ＳＫ 3196	(9.0)	(6.6)	にぶい赤褐（5YR4/3）	鉄絵	京・信楽系
	7	陶器	皿	ＳＫ 3196	−	(2.0)	灰白（2.5YR8/2）	透明	京都「音羽」銘
	8	陶器	蓋	ＳＫ 3196	(3.6)	3.1	灰白（2.5YR8/2）	透明	京都「寶山」銘
	9	陶器	椀	ＳＫ 3196	−	(2.5)	灰白（2.5YR8/1）	緑	京都 「清」銘
	10	陶器	皿	ＳＫ 3196	(10.0)	1.4	明赤褐（2.5YR5/6）	−	型成形
	11	磁器	蓋	ＳＫ 3196	(6.2)	2.2	白（N9/0）	上絵	京都
	12	磁器	椀	ＳＫ 3196	5.6	3.6	白（N9/0）	赤絵	京都か
	13	磁器	蓋	ＳＫ 3196	9.4	2.9	白（N9/0）	釉上彩	肥前系
	14	磁器	椀	ＳＫ 3196	(9.9)	(5.1)	白（N9/0）	釉上彩	肥前系
	15	磁器	杯	ＳＫ 3196	4.6	2.6	白（N9/0）	染付	京都
	16	磁器	椀	ＳＫ 3196	8.3	4.0	白（N9/0）	染付	瀬戸
	17	磁器	椀	ＳＫ 3196	(9.3)	(4.4)	白（N9/0）	染付	肥前　仙洞菊御紋付
	18	磁器	蓋	ＳＫ 3196	8.3	2.6	白（N9/0）	染付	肥前
	19	磁器	椀	ＳＫ 3196	9.3	5.0	白（N9/0）	染付	肥前
	20	磁器	椀	ＳＫ 3196	(9.2)	4.9	白（N9/0）	赤絵	京都か
	21	陶器	皿	ＳＫ 3196	(15.8)	2.8	にぶい褐（7.5YR5/3）	鉄絵＋上絵	京都「清」銘　型成形
	22	磁器	椀	ＳＫ 3196	11.7	6.5	白（N9/0）	染付	肥前
	23	磁器	皿	ＳＫ 3196	10.3	2.3	白（N9/0）	染付	肥前
	24	陶器	ミニチュア	ＳＫ 3196	2.2	4.5	橙（5YR7/6）	透明＋白	壺「井定」銘
	25	磁器	椀	ＳＫ 3196	8.8	4.7	白（N9/0）	染付	
	26	磁器	椀	ＳＫ 3196	8.8	4.6	白（N9/0）	染付	
	27	磁器	散蓮華	ＳＫ 3196	5.1	3.7	白（N9/0）	染付	中国
	28	磁器	椀	ＳＫ 3196	(9.0)	4.3	白（N9/0）	白磁	徳化窯　口縁釉剥ぎ　型成形
	29	陶器	急須	ＳＫ 3196	7.0	7.1	黒褐（5YR3/1）	−	蓮月焼　型成形 「うきをへたつる春霞」
148	1	陶器	鉢	ＳＫ 3196	(9.8)	9.4	にぶい黄橙（10YR6/3）	灰	京・信楽系
	2	陶器	ミニチュア	ＳＫ 3196	3.3	1.3	橙（7.5YR7/6）	鉄＋黄	深草 「亀」銘　型押し　台別付け
	3	土製品	芥子面子	ＳＫ 3196	2.2	−	浅黄橙（10YR8/4）	−	「猿」 型押し
	4	土製品	芥子面子	ＳＫ 3196	1.8	2.1	橙（7.5YR6/8）	−	「鬼」 型押し
	5	土製品	芥子面子	ＳＫ 3196	1.6	1.7	橙（5YR7/6）	−	「天狗」 型押し
	6	土製品	芥子面子	ＳＫ 3196	2.0	2.9	浅黄橙（7.5YR8/4）	−	型押し
	7	土製品	泥面子	ＳＫ 3196	2.0	−	にぶい橙（7.5YR7/4）	−	「汁」字　型押し
	8	土製品	泥面子	ＳＫ 3196	3.0	−	浅黄橙（7.5YR8/4）	−	「鶴」紋　型押し
	9	土製品	泥面子	ＳＫ 3196	3.0	−	にぶい黄橙（10YR6/4）	−	「松」紋　型押し

図面	報告番号	器種	器形	出土地点遺構名	法量（cm）		色調		備考
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬	
148	10	土製品	人形	ＳＫ3196	(8.2)	(4.7)	浅黄橙（10YR8/4）	－	稲荷狐台　胡粉付着　型合わせ
	11	陶器	擂鉢	ＳＫ3196	(17.4)	6.2	明赤褐（2.5YR5/8）	－	堺・明石系　墨書「入喜」在印
	12	陶器	擂鉢	ＳＫ3196	35.2	15.3	にぶい赤褐（2.5YR5/4）	－	堺・明石系
149	1	土師器	皿	ＳＫ3053	8.0	1.5	黒褐（2.5Y3/1）	－	
	2	土師器	皿	ＳＫ3053	10.2	2.0	黒褐（2.5Y3/1）	－	煤付着
	3	陶器	椀	ＳＫ3053	7.8	5.9	浅黄（2.5Y8/3）	鉄絵	京・信楽系
	4	磁器	椀	ＳＫ3053	9.2	4.3	白（N9/0）	染付	肥前
	5	陶器	椀	ＳＫ3053	(9.8)	6.5	灰白（2.5YR8/2）	透明	京・信楽系
	6	磁器	杯	ＳＫ3053	6.0	2.9	白（N9/0）	染付	肥前
	7	磁器	椀	ＳＫ3053	8.2	4.3	白（N9/0）	染付	瀬戸
	8	磁器	椀	ＳＫ3053	10.2	4.4	白（N9/0）	白磁	徳化窯　口縁釉剥ぎ　型成形
	9	磁器	椀	ＳＫ3053	9.6	5.0	白（N9/0）	染付	肥前
	10	磁器	椀	ＳＫ3053	7.6	5.4	白（N9/0）	染付	肥前
	11	磁器	蓋	ＳＫ3053	5.4	1.9	白（N9/0）	染付	肥前
	12	磁器	蓋	ＳＫ3053	8.9	2.7	白（N9/0）	染付	肥前
	13	磁器	蓋	ＳＫ3053	4.0	1.3	白（N9/0）	染付	京都か
	14	磁器	急須	ＳＫ3053	11.0	(5.6)	白（N9/0）	染付	京都か
	15	磁器	皿	ＳＫ3053	9.2	1.8	白（N9/0）	染付	肥前
	16	磁器	皿	ＳＫ3053	11.2	2.2	白（N9/0）	染付	肥前
	17	磁器	鉢	ＳＫ3053	16.8	8.1	白（N9/0）	染付	肥前
	18	磁器	散蓮華	ＳＫ3053	5.6	5.5	白（N9/0）	染付	中国
	19	磁器	散蓮華	ＳＫ3053	3.6	3.7	白（N9/0）	染付	中国
	20	陶器	土瓶	ＳＫ3053	(16.9)	10.1	にぶい赤褐（5YR4/3）	銅＋鉄＋白	京・信楽系
	21	陶器	徳利	ＳＫ3053	(14.3)	(21.9)	灰褐（5YR4/2）	鉄釉	丹波　線刻
150	1	土製品	人形	嘉永焼土	9.6	18.5	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	稲荷狐　型合わせ　胡粉残留
	2	土製品	人形	嘉永焼土	9.4	17.8	浅黄橙（10YR8/4）	－	稲荷狐　型合わせ　胡粉残留
	3	土師質	壺	３区南東部東壁	14.2	10.1	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	胞衣壺
	4	土師質	壺	３区南東部東壁	－	(13.7)	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	胞衣壺か
151	1	土師器	皿	ＳＳ3076	10.7	2.0	灰白（2.5Y8/2）	－	煤付着
	2	土師器	皿	ＳＳ3079	(11.2)	(2.0)	にぶい橙（7.5YR7/4）	－	
	3	磁器	椀	ＳＳ3079	－	1.0	灰白（7.5Y8/2）	灰	京・信楽系
	4	陶器	椀	ＳＳ3079	(8.7)	(5.7)	灰白（5YR8/1）	染付	肥前
	5	磁器	蓋	ＳＳ3021	(6.1)	1.2	白（N9/0）	染付	京都
	6	陶器	椀	ＳＳ3021	(8.4)	4.4	灰白（N8/0）	鉄絵	京・信楽系
	7	磁器	椀	ＳＳ3021	4.8	4.6	白（N9/0）	染付	肥前
	8	土師質	風炉	ＳＳ3021	15.0	19.1	明赤褐（2.5YR5/6）	－	深草　落書きあり「深草吉」在印
	9	土師質	燭台	ＳＳ3043	(8.6)	0.4	浅黄橙（7.5YR8/4）	－	深草
	10	磁器	椀	ＳＳ3043	－	3.6	灰白（10Y8/1）	白磁	瀬戸
	11	磁器	人形	ＳＳ3043	2.9	4.6	白（N9/0）	赤絵	肥前
	12	陶器	椀	ＳＳ3043	－	3.4	灰白（5Y7/1）	透明	京・信楽系
	13	磁器	徳利	ＳＳ3043	－	8.5	灰白（7.5Y8/1）	染付	肥前
152	1	土師質	土管	ＳＤ2014	－	31.7	明赤褐（2.5YR5/8）	－	信楽
	2	土師質	土管	ＳＤ2014	17.8	66.6	赤（10K5/6）	－	信楽
	3	土師質	土管	ＳＤ2014	18.8	66.2	橙（2.5YR6/6）	－	信楽

図面	報告番号	器種	器形	出土地点遺構名	法量（cm）		色調		備考
					口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬	
152	4	陶器	甕	ＳＪ 3028	(56.8)	17.8	赤（10R5/6）	泥漿	信楽
153	1	磁器	小椀	ＳＫ 2001	7.4	3.5	白（N9/0）	染付	瀬戸
	2	陶器	容器	ＳＫ 2001	−	1.7	灰白（5YR8/1）	灰	
	3	磁器	壺	ＳＫ 2001	7.8	9.4	白（N9/0）	鉄＋緑	
	4	陶器	徳利	ＳＫ 2001	3.0	10.7	黒（10YR2/1）	鉄	丹波
	5	陶器	土瓶	ＳＫ 2001	9.8	10.0	明赤褐（2.5YR5/8）	−	常滑か
	6	陶器	蓋	ＳＫ 2001	6.9	3.3	浅黄（2.5YR7/4）	白＋鉄絵	京・信楽系
	7	陶器	蓋	ＳＫ 2001	7.2	2.0	浅黄（2.5YR7/4）	白＋鉄絵	京・信楽系　墨書「第壱課」
	8	陶器	徳利	ＳＫ 2001	−	(7.0)	にぶい赤褐（5YR4/3）	鉄	丹波
	9	陶器	土瓶	ＳＫ 2001	9.0	12.8	浅黄（2.5YR7/4）	白＋鉄絵	京・信楽系
	10	陶器	土瓶	ＳＫ 2001	9.0	11.5	灰白（N8/0）	白＋鉄絵	京・信楽系
	11	陶器	土瓶	ＳＫ 2001	8.9	12.9	鉄絵	白＋鉄絵	京・信楽系
	12	陶器	土瓶	ＳＫ 2001	9.0	12.5	にぶい黄（2.5YR6/3）	白＋鉄絵	京・信楽系　墨書「第二課」
	13	磁器	椀	ＳＫ 2018	9.3	4.0	白（N9/0）	染付	
	14	陶器	椀	ＳＫ 3044	9.0	4.7	灰白（2.5Y8/2）	鉄＋青磁	相馬焼　見込み金彩馬絵「相馬」在印
	15	磁器	蓋	ＳＥ 2270	(9.8)	2.6	白（N9/0）	染付	瀬戸美濃
	16	磁器	椀	ＳＥ 2270	(11.8)	3.7	白（N9/0）	染付	瀬戸美濃
154	1	陶器	インク瓶	ＳＫ 2002	4.8	21.2	暗赤褐（5YR3/4）	鉄	常滑　「M」「MARUZENINK ★ TOKYO ★」
	2	陶器	インク瓶	ＳＫ 2002	4.7	9.8	暗赤褐（5YR3/4）	鉄	常滑　「M」「MARUZENINK ★ TOKYO ★」
	3	陶器	インク瓶	ＳＫ 2002	4.0	20.4	にぶい赤褐（2.5YR4/4）	鉄	常滑　「M」「MARUZENINK ★ TOKYO ★」
	4	陶器	インク瓶	ＳＫ 2002	3.8	19.6	暗赤（10R3/4）	鉄	常滑　「M」「MARUZENINK ★ TOKYO ★」
	5	陶器	インク瓶	ＳＫ 2002	3.0	19.8	暗赤褐（7.5R3/3）	鉄	常滑　「M」「MARUZENINK ★ TOKYO ★」
	6	陶器	インク瓶	ＳＫ 2002	3.0	20.5	褐（7.5YR4/4）	鉄	常滑　「M」「MARUZENINK ★ TOKYO ★」
	7	陶器	瓶	ＳＫ 2002	3.5	22.7	暗赤褐（5YR3/2）	−	「琉球」在印
	8	陶器	灯明受皿	ＳＤ 2009	(11.7)	2.0	灰白（N8/0）	灰	京・信楽系
	9	磁器	椀	ＳＤ 2009	(8.5)	3.4	白（N9/0）	染付	瀬戸
	10	磁器	椀	ＳＤ 2009	(14.2)	6.6	白（N9/0）	染付	肥前系
	11	磁器	椀	ＳＫ 2019	8.7	3.7	白（N9/0）	染付	瀬戸
	12	磁器	椀	ＳＫ 2019	(9.0)	4.2	白（N9/0）	染付	
	13	磁器	椀	ＳＫ 2019	(9.5)	4.4	白（N9/0）	染付	
	14	磁器	椀	ＳＫ 2019	(9.1)	4.1	白（N9/0）	染付	
	15	陶器	急須	ＳＫ 2019	7.7	3.8	赤褐（2.5YR4/6）	−	常滑
	16	陶器	土瓶蓋	ＳＫ 2019	5.4	3.1	淡黄（5Y8/3）	緑	京・信楽系
	17	陶器	土瓶	ＳＫ 2019	7.2	10.0	灰白（10YR8/2）	緑	京・信楽系
	18	陶器	土瓶	ＳＫ 2019	7.8	11.4	灰白（2.5Y8/2）	緑	京・信楽系
	19	陶器	土瓶	ＳＫ 2019	7.7	10.3	明緑灰（10GY6/1）	緑	京・信楽系
	20	土師質	五徳	ＳＫ 2019	(2.7)	(7.2)	灰白（2.5Y8/2）	−	深草　「ふかくさ　下斎」在印

写真図版		器種	器形	出土地点遺構名	法量（cm）		色調		備考
図版	報告番号				口径・幅	器高・長さ	色調	釉薬	
図版90	1	陶器	椀	14-u ２面直上掘削	(12.4)	7.6	灰白（10YR8/1）	黒	瀬戸黒
図版92	1	土師質	壺	13-o	14.4	6.6	にぶい黄橙色 (10YR7/3)	－	深草　ロクロ成形　雲母残存
	2	土師質	壺	13-o	14.7	7.5	にぶい黄橙色 (10YR7/3)	－	深草　ロクロ成形　雲母残存
	3	土師質	壺	14-o 嘉永大火前後	14.7	6.5	橙（7.5YR7/6）	－	深草　ロクロ成形　雲母残存
図版93	1	磁器	椀	10-p 路面掘削 （２－３面）	(8.0)	(1.3)	灰黄（2.5Y7/2）	青磁	越州窯
図版103	1	磁器	人形	９-r ２面	(1.9)	(3.1)	灰白（2.5Y8/2）	白磁	中国　手びねり
図版106	1	磁器	椀	14-a	(11.5)	(5.0)	灰白（N8/）	青磁	龍泉窯系
図版110	1	陶器	皿	12-x 精査	(6.8)	(1.6)	にぶい黄橙 (7.5YR6/4)	緑＋黄	中国
図版113	1	磁器	皿	14-a 精査	(3.6)	(3.8)	灰黄褐（10YR6/2）	色絵	漳州窯
図版114	1	磁器	皿	15-t ２面掘削	16.9	3.1	灰白（2.5Y8/1）	染付	漳州窯
図版118	1	陶器	椀	14-w･x ２面精査	(2.6)	(3.1)	黄灰（2.5Y4/1）	象嵌	朝鮮
	2	陶器	壺	12-t ３面	(11.2)	(5.0)	灰褐（５YR5/2）	褐	ベトナムか
図版119	1	磁器	皿	９･10-t～v 攪乱	(4.2)	(1.8)	白（N9/0）	染付	肥前
	2	磁器	椀	10･11-t･u １面精査	(4.8)	(2.3)	白（N9/0）	染付	肥前　菊御紋付
	3	磁器	蓋	13･14- w 焼土直上層	(4.1)	(0.4)	白（N9/0）	染付	肥前　菊御紋付　被熱
図版120	1	磁器	皿	ＳＫ 2042	(5.3)	(1.6)	白（N9/0）	染付	肥前　菊御紋付
	2	磁器	皿	ＳＫ 2042	(7.7)	(1.6)	白（N9/0）	染付	肥前　菊御紋付
	3	磁器	皿	ＳＫ 2042	(8.5)	(2.6)	白（N9/0）	染付	肥前　菊御紋付
図版121	1	磁器	皿	ＳＫ 3114	2.7	1.4	白（N9/0）	染付	肥前　菊御紋付
	2	磁器	皿	ＳＫ 3114	1.2	0.9	白（N9/0）	染付	肥前　菊御紋付
	3	磁器	皿	ＳＫ 3108	1.6	1.1	白（N9/0）	染付	肥前　菊御紋付
図版122	1	磁器	椀	10 － v 精査	4.7	3.1	白（N9/0）	赤絵	京都　高台内「道八」朱書
	2	陶器	椀	13･14-w ～ y 精査	(3.4)	(1.1)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	黒	高台内「楽」銘　十代目吉左衛門
	2	土製品	ミニチュア	14-r	3.4	3.1	淡黄（2.5Y8/3）	緑＋透明	深草　燈籠　手びねり＋型押
	3	陶器	椀	９･10-t ～ v 攪乱	(7.2)	(5.5)	灰白（2.5Y8/2）	透明	京都　高台内「粟田」銘
図版123	1	陶器	椀	２面	(7.4)	(1.6)	浅黄橙（10YR8/3）	銹絵＋白	高台内「仁清」銘
	2	陶器	椀	12-x･y	(8.7)	(2.2)	灰白（2.5Y8/2）	透明	京・信楽系　高台内墨書「□令」
	3	陶器	椀	13･14- w 焼土直上層	(4.7)	4.5	灰白（2.5Y8/1）	灰	関西系　墨書「五」「六」「平」
図版124	1	土製品	人形	11-t 精査	4.9	3.7	淡黄（2.5Y8/3）	－	犬形土製品　手びねり
	3	土製品	人形	13･14-w･y 精査	2.6	3.7	灰白（2.5Y8/2）	－	深草　天神　型合わせ
	4	土製品	人形	12･13-p･q 天明大火	5.1	(9.1)	浅黄橙（10YR8/4）	－	深草　獅子舞　手びねり
	5	土製品	人形	12-w １面精査	3.6	(7.1)	浅黄橙（10YR8/3）	－	深草　不動明王　型合わせ
	6	土製品	人形	３区 廃土	10.3	9.1	浅黄橙（10RY8/3）	－	深草　司馬温公甕割　型合わせ
図版125	1	土製品	人形	15-t ２面	(10.3)	14.5	灰黄（2.5Y6/2）	－	深草　富士見西行　型合わせ
	5	焼土塊	－	12-y	20.0	13.5	－	－	土壁や金属、陶磁器の混合物
	6	焼土塊	－	12-y	26.0	25.0	－	－	土壁や金属、陶磁器の混合物

付表３　出土瓦観察表

図面	報告番号	種類	出土地点 遺構名	法量（cm） 幅	 長さ	 高さ	 厚さ	色調	備考
155	1	軒丸瓦	S D 78	19.5	(13.7)	(8.4)	2.5	灰（N5/0）	複弁六葉蓮華文　凸面縄目　凹面布目
	2	丸瓦	S D 78	(9.6)	(6.7)	(2.5)	1.6	灰（N5/0）	凹面布目
	3	丸瓦	S D 78	(15.6)	(11.3)	(4.8)	1.8	灰（N6/0）	凸面縄目　凹面コビキＢ
	4	丸瓦	S D 78	11.2	(7.0)	4.8	2.0	灰白（N4/0）	凸面縄目
	5	平瓦	S K 2258	(8.7)	(6.5)	(4.2)	(2.4)	黄灰（2.5Y5/1）	凸面縄目　凹面布目
	6	平瓦	S K 2258	(11.1)	(7.8)	(3.2)	(2.1)	灰白（2.5Y7/1）	凸面縄目　凹面布目
	7	軒平瓦	S K 3188	(16.9)	(5.5)	(16.4)	−	灰（N4/0）	重圏文
	8	軒平瓦	S K 3204	(12.6)	(2.1)	(7.5)	(2.1)	灰（N4/0）	右巻巴文
156	1	軒平瓦	S K 3427	(16.0)	(10.5)	5.7	2.7	灰（N6/0）	唐草文　凸面布目
	2	平瓦	S K 3427	(14.0)	(19.3)	(4.3)	2.8	灰（N6/0）	凸面縄目　凹面布目
	3	平瓦	S K 3427	(12.8)	(14.2)	(3.7)	2.3	灰（N5/0）	凸面縄目　凹面布目「右坊」印
	4	軒平瓦	S P 3921	(11.6)	(8.3)	5.5	10.7	灰（N4/0）	唐草文　凹面縄目
	5	丸瓦	S K 208	14.4	(18.3)	6.4	2.7	灰（N4/0）	凹面コビキＡ
	6	軒平瓦	S D 3370	(7.8)	(5.6)	4.1	2.2	灰白（N7/0）	唐草文　凹面ナデ　凸面布目
	7	軒平瓦	S D 3370	(9.0)	(9.6)	2.5	1.2	灰（N5/0）	剣頭文　凸面布目　凹面ナデ
157	1	軒丸瓦	２面精査	(12.0)	(2.8)	(8.3)	2.8	灰黄（2.5Y7/2）	金箔瓦　右巻き巴文
	2	軒丸瓦	S K 3283	(5.1)	(1.8)	(6.2)	1.9	オリーブ黒（5Y3/1）	金箔瓦　右巻き巴文
	3	軒丸瓦	S K 3186	(6.3)	(2.5)	(8.8)	2.5	黒（N2/0）	金箔瓦　右巻き巴文
	4	軒平瓦	S K 3292	(7.5)	(3.5)	(3.7)	2.9	暗灰（N3/0）	金箔瓦　唐草文
	5	軒丸瓦	２・３面掘削	(10.7)	(2.6)	(9.7)	2.2	黒（10YR2/1）	金箔瓦　葵文
	6	軒丸瓦	S K 3278	(9.1)	−	(8.2)	2.3	黒（N2/0）	金箔瓦　葵文
	7	軒丸瓦	S K 3292	13.4	(11.0)	13.5	3.0	黒（N2/0）	金箔瓦　右巻き巴文　珠文13個
	8	軒丸瓦	S K 3329	15.0	(3.9)	15.4	2.0	灰（N5/0）	右巻き巴文　珠文15個
	9	桟瓦	S E 3171	(16.4)	(13.2)	3.5	1.7	灰（N4/0）	
	10	桟瓦	S E 3171	(14.9)	(18.2)	4.0	1.8	灰（N4/0）	
158	1	丸瓦	S E 135	13.0	(14.0)	5.6	1.7	にぶい黄橙（10YR6/4）	
	2	丸瓦	S E 135	13.9	(18.1)	5.8	2.3	暗灰（N3/0）	
	3	桟瓦	S E 135	(16.5)	29.1	1.9	1.9	にぶい黄橙（10YR6/4）	
	4	軒平瓦	S E 135	(16.0)	(9.1)	6.3	1.7	灰（N5/0）	唐草文　宝珠文
	5	軒桟瓦	S E 135	(16.0)	(12.8)	11.4	1.9	灰（N5/0）	右巻き巴文
159	1	軒平瓦	S K 05	(10.6)	(4.2)	4.5	3.8	灰（N6/0）	唐草文
	2	軒桟瓦	S K 05	(20.8)	(4.5)	12.4	1.6	灰（10Y5/1）	右巻き巴文
	3	軒平瓦	S K 2042	(26.2)	(15.6)	4.4	1.6	暗灰（N3/0）	唐草文
	4	軒平瓦	S K 2042	(13.2)	(6.7)	4.7	1.7	にぶい黄橙（10YR7/4）	波濤文
	5	軒平瓦	S K 2042	(18.2)	(8.7)	4.6	1.6	黒（N2/0）	波濤文
	6	軒平瓦	S K 2042	(16.6)	(7.5)	5.0	1.9	浅黄橙（10YR8/3）	唐草文
	7	軒平瓦	S K 2042	(15.0)	(8.1)	4.8	1.9	にぶい黄橙（10YR7/4）	唐草文
	8	軒丸瓦	S K 2042	18.9	(10.8)	18.9	1.9	にぶい黄橙（10YR7/3）	右巻き巴文　珠文15個
	9	軒桟瓦	S E 3198	(15.0)	(2.8)	−	6.2	黒（N4/0）	右巻き巴文
	10	軒平瓦	S E 3198	25.4	(7.2)	−	(7.8)	黒（N2/0）	唐草文
	11	軒桟瓦	S E 3198	(15.1)	(8.1)	6.6	8.1	灰（N4/0）	右巻き巴文　唐草文
	12	軒平瓦	S E 3198	(16.8)	(6.7)	4.2	1.7	灰（N4/0）	唐草文
160	1	軒桟瓦	S K 3108	9.4	(4.8)	9.7	2.0	浅黄（2.5Y7/3）	右巻き巴文　珠文14個

図面	報告番号	種類	出土地点遺構名	法量（cm）				色調	備考
				幅	長さ	高さ	厚さ		
160	2	軒桟瓦	ＳＫ 3108	(9.7)	(9.0)	2.2	3.4	灰白（2.5Y8/1）	右巻き巴文
	3	軒丸瓦	ＳＫ 3108	13.4	(2.7)	13.4	1.6	灰（5Y4/1）	右巻き巴文　珠文16個
	4	軒桟瓦	ＳＫ 3108	(15.4)	(5.1)	3.8	1.6	灰（N5/0）	唐草文
	5	軒平瓦	ＳＫ 3108	(18.2)	(6.8)	4.5	1.9		扇文
	6	軒平瓦	ＳＥ 3335	(20.4)	(10.9)	4.8	1.5	暗灰（N3/0）	唐草文
	7	軒平瓦	ＳＫ 3254	(8.2)	(2.4)	4.1	1.9	にぶい黄橙（10YR7/3）	桐文　唐草文
	8	軒平瓦	ＳＥ 3312	27.8	(10.7)	5.7	2.0	黒（N2/0）	波濤文
	9	軒桟瓦	ＳＥ 3312	(25.2)	(17.4)	3.7	1.8	黒（N2/0）	唐草文
	10	軒桟瓦	ＳＥ 3312	(16.3)	(19.4)	5.0	3.5	黒（N2/0）	雲文
	11	軒平瓦	ＳＥ 3312	22.4	(20.3)	4.0	2.0	黒（N2/0）	唐草文　凹面カキヤブリ
	12	軒丸瓦	ＳＥ 3312	13.5	13.4	13.4	1.7	黒（N2/0）	左巻き巴文　珠文11個
	13	軒丸瓦	ＳＥ 3312	14.9	(16.5)	5.6	2.2	黒（N2/0）	右巻き巴文　珠文13個
図版125	2	軒平	13･14-p 攪乱	(8.9)	(7.5)	5.6	2.6	灰白（10YR8/2）	被熱　唐草文　凹面：布目
	4	軒平	13-o ３面精査	(13.4)	(12.6)	6.4	3.8	褐灰（10YR6/1）	唐草文　凹面：布目
	3	軒平	10-q 精査	(10.6)	(7.6)	7.2	5.2	灰（N6/0）	唐草文
図版133	4	瓦	ＳＬ 3050	26.5	(21.8)	−	2.0	黒（N2/0）	かまどの焚口に据える

付表４　出土金属製品観察表

図面	報告番号	種類	出土地点遺構名	法量（cm）			重量(g)	材質	備考
				長さ	幅	厚さ			
161	1	鉄刀	ＳＫ 29	(26.2)	5.5	3.0	436.0	鉄	鍛造
	2	包丁	ＳＫ 36	(19.0)	5.6	0.9	134.0	鉄	鍛造
	3	包丁	ＳＫ 69	(13.4)	5.7	0.8	59.0	鉄	鍛造
	4	包丁	ＳＫ 69	(17.7)	5.9	0.9	113.0	鉄	鍛造
	5	包丁	ＳＥ 2057	(19.3)	5.4	1.0	112.0	鉄	鍛造
	6	包丁	ＳＥ 2057	(15.1)	6.4	2.6	73.0	鉄	鍛造
	7	鎌	ＳＳ 3229	(9.2)	3.2	1.3	43.0	鉄	鍛造
	8	鎌	ＳＫ 2059	(9.7)	3.1	0.9	53.0	鉄	鍛造
	9	釘	ＳＥ 2057	3.6	0.7	2.5	1.1	鉄	
	10	簪	ＳＫ 3313	8.9	1.4	0.5	10.3	鉄	
	11	把手	ＳＥ 2227	(17.5)	1.2	0.9	70.0	鉄	
	12	鍬	ＳＥ 2057	(21.5)	5.3	3.3	604.0	鉄	
162	1	火熨斗	ＳＫ 14	(3.5)	11.0	0.2	69.0	銅	２と同一個体
	2	火熨斗留め具	ＳＫ 14	(3.7)	(3.3)	1.4	3.7	銅	１と同一個体
	3	秤皿	ＳＫ 2015	0.8	5.2	0.1	8.1	銅	
	4	煙管　吸口	ＳＫ 36	(5.5)	1.1	0.2	3.7	銅	
	5	煙管　雁首	ＳＳ 3229	7.8	1.5	−	12.5	銅	
	6	不明品	ＳＥ 2057	3.8	5.2	0.1	71.0	銅	７と同一個体
	7	筒形製品	ＳＥ 2057	3.1	0.6	1.0	2.4	銅	６と同一個体
	8	水滴	ＳＫ 50	3.0	3.5	1.8	25.0	銅	
	9	簪	ＳＫ 2015	10.8	0.6	0.2	3.7	銅	
	10	簪	ＳＤ 2020	11.7	0.7	0.2	4.7	銅	
	11	耳かき	ＳＫ 3196	10.7	0.5	0.2	3.3	銅	
	12	笄	ＳＫ 2047	19.7	1.4	0.5	34.0	銅	
	13	匙	ＳＫ 3090	12.2	2.1	0.2	5.3	銅	
	14	笄	ＳＥ 136	(10.2)	1.3	1.8	7.6	銅	
	15	杓子	ＳＫ 3025	12.1	7.4	0.3	38.0	銅	

図面	報告番号	種類	出土地点遺構名	法量（cm）			重量（g）	材質	備考
				長さ	幅	厚さ			
163	1	小柄	ＳＫ 36	(10.9)	1.4	0.6	33.0	銅	刀身一部残存　螺鈿装飾あり
	2	鍔	精査	5.2	4.2	4.0	43.0	銅	
	3	鍔	精査	4.8	4.0	3.5	30.0	銅	
	4	鈴	ＳＫ 2044	2.8	2.3	－	4.7	銅	表面鍍金
	5	秤皿	ＳＫ 36	9.0	1.2	0.1	36.0	銅	三方に穿孔跡あり
	6	金具	ＳＫ 26	12.1	1.2	0.3	31.0	銅	
	7	錘	ＳＥ 2057	2.4	2.6	－	61.0	銅	
	8	錘	ＳＥ 136	2.3	1.3	－	21.0	銅	
	9	蝶番	ＳＫ 72	7.1	5.0	0.1	15.2	銅	
	10	飾り金具	ＳＥ 135	2.5	－	0.1	0.7	銅	
	11	釘	ＳＫ 2015	3.9	1.1	0.3	1.6	銅	
	12	銭貨	ＳＫ 3253	3.0	7.4	1.0	31.0	銅	９枚融着
	13	装飾金具か	ＳＥ 2057	1.2	6.5	0.1	2.7	銅	表面鍍金

付表５　出土石製品観察表

図面	報告番号	種類	出土地点遺構名	法量（cm）			色調	材質	備考
				幅	長さ	厚さ			
164	1	硯	ＳＫ 24	8.0	(14.0)	1.2	暗灰（N3/0)	ホルンフェルス	
	2	硯	ＳＤ 3370	(4.9)	(5.3)	0.5	灰（N5/0)	粘板岩	
	3	温石	ＳＤ 3550	(5.7)	(3.3)	1.6	褐灰（5YR6/1)	滑石	石鍋転用
	4	硯	ＳＤ 3550	8.4	5.2	1.7	暗灰（N3/0)	粘板岩	
	5	石鍋	ＳＤ 3370	(26.0)	(3.2)	1.6	にぶい褐（7.5YR6/3)	滑石	
	6	砥石	ＳＫ 236	(4.4)	(5.3)	1.1	灰白（2.5Y8/1)	凝灰岩	
	7	砥石	ＳＥ 136	(5.9)	(10.4)	2.3	にぶい橙（5YR7/3)	凝灰岩	
	8	砥石	ＳＫ 2049	(5.8)	(12.0)	1.5	暗灰黄（2.5Y5/2)	粘板岩	
	9	砥石	ＳＫ 2044	(5.8)	(6.2)	1.0	灰（7.5Y5/1)	粘板岩	
	10	砥石	ＳＫ 3407	(10.7)	(2.8)	1.7	灰（10Y5/1)	泥岩	
	11	砥石	ＳＫ 3292	(7.3)	(21.1)	3.9	淡黄（2.5Y8/4)	頁岩	
	12	硯	ＳＫ 3407	6.8	(9.3)	1.2	暗灰（N3/0)	粘板岩	
165	1	硯	ＳＫ 3252	2.8	7.1	1.1	灰（10Y5/1)	粘板岩	
	2	硯	ＳＥ 2057	4.6	10.0	0.8	灰（N4/0)	頁岩	
	3	硯	ＳＫ 36	4.1	13.7	0.7	灰（10YR6/1)	粘板岩	
	4	硯	ＳＫ 14	7.3	13.6	1.6	灰（10Y4/1)	粘板岩	
	5	碁石	ＳＸ 2058	2.5	2.7	0.6	灰褐（10YR4/1)	頁岩	
	6	碁石	ＳＸ 2058	2.3	2.7	0.8	暗灰（N3/0)	頁岩	
	7	碁石	ＳＸ 2064	1.4	2.3	0.7	暗灰（N3/0)	頁岩	
	8	碁石	ＳＫ 3226	2.2	2.2	0.5	黒褐（2.5Y3/1)	頁岩	
	9	硯	ＳＫ 3230	8.3	14.9	2.3	黄灰（2.5Y6/1)	粘板岩	
	10	硯	ＳＫ 3167	7.2	18.6	2.4	浅黄（5Y7/3)	粘板岩	
166	1	砥石	ＳＥ 3154	4.2	5.6	1.8	浅黄橙（10YR8/3)	凝灰岩	
	2	砥石	ＳＥ 3154	6.9	(8.6)	1.1	灰白（7.5Y7/1)	粘板岩	
	3	砥石	ＳＥ 3154	7.9	(13.6)	1.8	にぶい黄（2.5YR6/3)	頁岩	
	4	火打石	ＳＫ 3125	1.8	2.0	0.8	青灰（５BG6/1)	チャート	
	5	碁石	ＳＥ 3034	2.5	2.0	0.5	黒（N2/0)	頁岩	
	6	硯	ＳＥ 3154	(4.0)	(6.9)	1.4	灰褐（7.5YR5/2)	粘板岩	
	7	硯	ＳＥ 3154	7.4	18.3	2.2	灰オリーブ（5Y6/2)	粘板岩	
	8	砥石	ＳＫ 2015	7.7	20.2	1.2	明褐灰（7.5YR7/1)	頁岩	
	9	硯	ＳＫ 2015	7.8	(5.6)	2.4	褐灰（10YR6/1)	粘板岩	
	10	硯	ＳＫ 3267	(8.5)	22.8	2.3	灰（N4/0)	粘板岩	未製品

図面	報告番号	種類	出土地点 遺構名	法量（cm）			色調	材質	備考
				幅	長さ	厚さ			
167	1	硯	ＳＫ 05	7.4	(16.3)	2.6	浅黄橙（10YR8/3）	凝灰岩	
	2	硯	ＳＫ 2019	6.4	(14.2)	1.6	暗灰黄（2.5Y4/2）	粘板岩	
	3	石筆 （ロー石）	ＳＳ 3021	－	(4.6)	0.5	灰白（7.5YR8/1）	蝋石	
	4	石筆 （ロー石）	ＳＤ 3038	－	(5.1)	0.5	浅黄（2.5Y8/3）	蝋石	
	5	硯	ＳＥ 3335	9.8	(16.0)	2.9	灰（7.5Y5/）	粘板岩	裏面落書きあり 石灰で修理痕あり
	6	石盤	ＳＥ 3335	(4.9)	(9.6)	0.4	灰（N5/0）	粘板岩	
	7	手水鉢	３区南壁	(33.5)	57.6	－	－	花崗岩	
168	1	礎石	ＳＫ 2258	62.0	40.0	－	－	花崗岩	
	2	礎石	ＳＫ 2258	57.0	37.5	－	－	花崗岩	
	3	礎石	ＳＫ 2258	60.0	35.2	－	－	斑れい岩	
	4	礎石	ＳＫ 2258	70.0	20.1	－	浅黄橙（10YR8/4）	凝灰岩	被熱
図版131	1	硯	３区 15-t ２面 掘削	5.0	11.0	0.7	青黒（10BG1.7/1）	粘板岩	「天下一中村石見守 印」
	2	火打石	２区 10-p･q 攪乱	2.9	1.6	－	青灰（5BG5/1）	チャート	
	3	薬研	２区 10-o･p 遺物包含層	2.6	(11.6)	－	黄灰（2.5Y5/1）	凝灰岩	外面摩耗
図版132	1	茶臼	１区 １面 北西角 天明大火下層	(23.8)	6.4	－	にぶい黄褐（10YR7/2）	黒雲母花崗岩	上面被熱　花崗岩
図版133	1	かまど石	ＳＬ 3086・3087	12.5	26.5	5.5	暗灰黄（2.5Y5/2）	砂岩	外面に工具による加工痕　被熱
	2	かまど石	ＳＬ 3086・3087	12.5	21.0	6.8	暗灰黄（2.5Y5/2）	砂岩	外面に工具による加工痕　被熱
	3	かまど石	ＳＬ 3050	14.0	27.0	6.3	暗灰黄（2.5Y5/2）	礫岩	外面に工具による加工痕　被熱

付表６　出土銭貨観察表

図面	報告番号	種類	出土地点 遺構名	法量（cm）		重量 (g)	初鋳年	備考
				外形	穿孔径			
169	1	元祐通寳	ＳＫ 21	2.5	7.0	3.3	1086 年	北宋
	2	熈寧元寳	ＳＫ 21	2.4	7.5	3.9	1068 年	北宋
	3	元祐通寳	ＳＫ 21	2.4	7.5	3.0	1086 年	北宋
	4	熈寧元寳	ＳＫ 21	2.4	7.5	2.6	1068 年	北宋
	5	元豊通寳	ＳＫ 21	2.4	7.5	1.8	1078 年	北宋
	6	開元通寳	ＳＫ 14	2.4	8.0	2.2	621 年	唐
	7	治平元寳	ＳＫ 27	2.4	7.0	2.7	1064 年	北宋
	8	寛永通寳	ＳＫ 14	2.5	7.0	3.4	1636 年	日本
	9	元豊通寳	ＳＫ 29	2.4	7.0	3.8	1078 年	北宋
	10	政和通寳	ＳＫ 14	2.4	7.5	2.2	1111 年	北宋
	11	治平元寳	ＳＫ 36	2.4	7.0	4.1	1064 年	北宋
	12	元豊通寳	ＳＫ 36	2.4	8.0	3.4	1078 年	北宋
	13	元豊通寳	ＳＫ 36	2.4	7.5	2.3	1078 年	北宋
	14	元祐通寳	ＳＫ 36	2.5	7.5	2.9	1086 年	北宋
	15	政和通寳	ＳＫ 36	2.4	7.5	2.7	1111 年	北宋
	16	正隆元寳	ＳＫ 36	2.4	7.0	2.4	1157 年	金
	17	大観通寳	ＳＫ 36	2.5	7.5	2.7	1107 年	北宋
	18	□□元寳	ＳＫ 36	2.3	7.0	3.6	－	－
	19	皇宋通寳	ＳＫ 36	2.3	7.0	2.8	1038 年	北宋
	20	紹聖元寳	ＳＫ 36	2.3	7.5	2.4	1094 年	北宋
	21	景徳元寳	ＳＫ 36	2.4	7.0	2.9	1004 年	北宋

図面	報告番号	種類	出土地点遺構名	法量（cm）		重量（g）	初鋳年	備考
				外形	穿孔径			
169	22	洪武通寳	ＳＫ 71	2.3	6.0	2.9	1368 年	明
	23	元祐通寳	ＳＫ 79	2.3	7.0	2.4	1086 年	北宋
	24	淳化元寳	ＳＫ 14	2.3	6.0	3.4	990 年	北宋
	25	朝鮮通寳	ＳＰ 82	2.4	6.0	2.6	1423 年	朝鮮
	26	聖宋元寳	壁面精査	2.5	6.5	3.3	1101 年	北宋
	27	寛永通寳	ＳＫ 2015	2.5	6.5	3.2	1668 年	江戸
	28	開元通寳	ＳＫ 2044	2.4	7.0	3.6	621 年	唐
	29	洪武通寳	ＳＫ 2044	2.3	6.5	3.1	1368 年	明
	30	嘉祐通寳	ＳＫ 2044	2.3	7.5	2.7	1056 年	北宋
	31	皇宋通寳	ＳＫ 2044	2.4	7.5	3.1	1038 年	北宋
	32	元祐通寳	ＳＫ 2044	2.4	7.5	3.6	1086 年	北宋
	33	唐國通寳	ＳＫ 2044	2.5	6.5	2.8	959 年	南唐
	34	寛永通寳	ＳＫ 2055	2.3	6.0	2.8	1636 年	江戸
	35	元豊通寳	ＳＫ 2044	2.2	6.5	2.3	1078 年	北宋
	36	皇宋通寳	ＳＫ 2044	2.5	7.5	3.9	1038 年	北宋
	37	宣和元寳	ＳＫ 2059	2.5	7.0	2.2	1119 年	北宋
	38	嘉祐通寳	ＳＥ 2057	2.4	7.5	2.5	1056 年	北宋
	39	開元通寳	ＳＥ 2057	2.5	6.5	2.8	621 年	唐
	40	祥符元寳	ＳＸ 2058	2.3	6.5	1.9	1009 年	北宋
	41	皇宋通寳	ＳＸ 2058	2.4	8.5	3.8	1038 年	北宋
	42	永楽通寳	精査	2.5	6.5	3.0	1408 年	明
	43	熙寧元寳	ＳＸ 2058	2.5	7.5	2.8	1068 年	北宋
	44	開元通寳	ＳＸ 2095	2.5	7.5	2.3	621 年	唐
	45	治平元寳	２－３面 掘削	2.3	6.5	3.8	1064 年	北宋
	46	皇宋通寳	ＳＫ 2047	2.5	7.5	3.3	1038 年	北宋
	47	元豊通寳	ＳＥ 2057	2.5	7.0	2.8	1078 年	北宋
	48	開元通寳	３面	2.3	8.0	2.7	621 年	唐
	49	皇宋通寳	３面	2.5	7.5	2.7	1038 年	北宋
	50	景徳元寳	ＳＫ 2258	2.5	6.5	2.6	1004 年	北宋
	51	天聖元寳	ＳＥ 2227	2.5	7.0	2.0	1023 年	北宋
	52	政和通寳	ＳＫ 2047	2.5	7.0	3.3	1111 年	北宋
	53	皇宋通寳	ＳＫ 2047	2.3	7.0	2.2	1038 年	北宋
	54	寛永通寳	ＳＫ 3003	2.5	6.5	2.4	1636 年	江戸
	55	寛永通寳	ＳＫ 3003	2.5	6.5	3.4	1668 年	江戸
	56	寛永通寳	ＳＫ 3003	2.3	6.0	2.5	1668 年	江戸
	57	寛永通寳	ＳＫ 3003	2.3	6.5	2.6	1636 年	江戸
	58	文久永寳	ＳＫ 3068	2.7	7.5	3.4	1863 年	江戸
	59	寛永通寳	ＳＤ 3097	2.4	6.0	3.5	1636 年	江戸
	60	寛永通寳	ＳＫ 3103	2.3	6.5	2.8	1668 年	江戸
	61	寛永通寳	ＳＫ 3035	2.4	6.0	3.9	1636 年	江戸
	62	天禧通寳	ＳＢ 01	2.5	7.0	2.8	1017 年	北宋
	63	元豊通寳	ＳＳ 3229	2.4	7.0	2.9	1078 年	北宋
	64	寛永通寳	ＳＫ 3230	2.5	6.0	3.4	1636 年	江戸
	65	開元通寳	ＳＫ 3230	2.4	2.5	2.5	960 年	南宋
	66	熙寧元寳	ＳＫ 3230	2.3	7.0	2.8	1064 年	北宋
	67	熙寧元寳	ＳＫ 3230	2.3	7.0	2.2	1064 年	北宋
	68	政和通寳	ＳＫ 3167	2.5	6.5	3.9	1111 年	北宋
	69	景徳元寳	ＳＤ 3370	2.4	6.5	2.4	1004 年	北宋
	70	元祐通寳	ＳＫ 3230	2.5	7.0	3.0	1086 年	北宋
	71	洪武通寳	ＳＫ 3192	2.3	6.5	3.0	1368 年	明
	72	天聖元寳	ＳＫ 3364	2.4	7.0	2.2	1023 年	北宋
	73	治平元寳	ＳＫ 3291	2.3	6.5	2.7	1064 年	北宋
	74	慶長通寳	ＳＫ 3291	2.4	7.0	1.7	1606 年	江戸

図面	報告番号	種類	出土地点遺構名	法量（cm）		重量（g）	初鋳年	備考
				外形	穿孔径			
169	75	永楽通寳	ＳＥ 3312	2.5	6.0	2.3	1408年	明
	76	五銭	ＳＤ 2009	2.0	−	4.4	−	明治23年
	77	二銭	ＳＭ 3968	3.2	−	14.0	−	明治13年

付表７　出土骨・貝・ガラス製品観察表

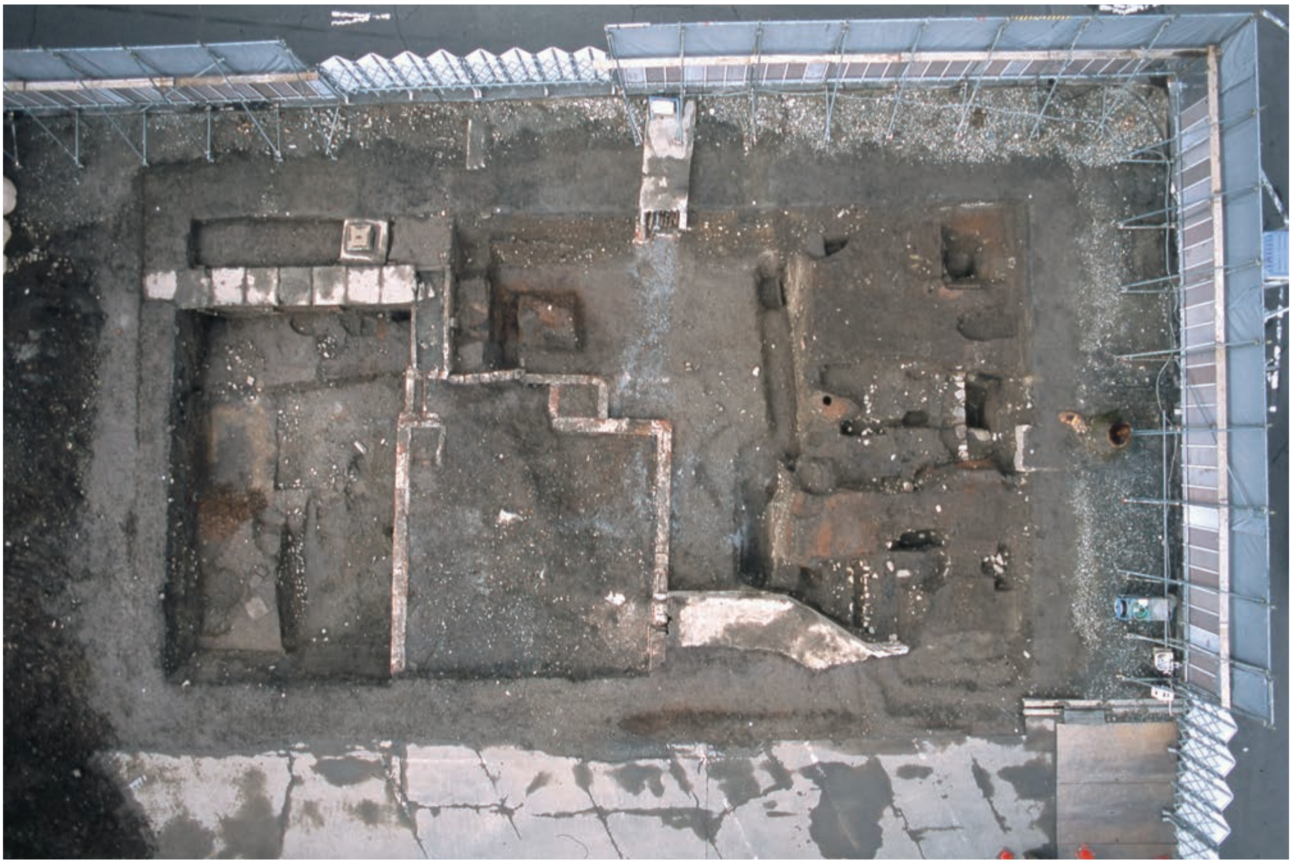
挿図	報告番号	種類	出土地点遺構名	法量（cm）		材質	備考
				口径・幅	器高・長さ		
170	1	サイコロ	ＳＥ 135	1.1	0.9	骨	白（N9/0）　被熱
	2	サイコロ	ＳＥ 135	1.1	1.1	骨	白（N9/0）　被熱
	3	着付け箆	ＳＫ 2015	2.6	9.7	骨	浅黄橙（10YR8/3）　穿孔
	4	竿秤	ＳＫ 2049	0.4	(10.4)	骨	浅黄（2.5Y8/3）
	5	双六の駒	ＳＫ 2044	2.1	−	骨	灰白（10YR8/1）
	6	櫛払	ＳＫ 3090	1.1	(9.4)	骨	灰白（7.5Y8/2）
	7	独楽	ＳＸ 2006	2.9	2.6	バイ貝	灰白（10YR8/2）
	8	独楽	ＳＫ 3196	2.9	2.6	バイ貝	灰白（5Y8/1）
	9	ガラス玉	ＳＫ 2154	0.8	0.9	ガラス	青緑色　完形
	10	ガラス玉	３区（9-u）精査	0.6	0.6	ガラス	青緑色　ほぼ完形
	11	簪	ＳＫ 3109	1.3	4.4	ガラス	無色透明　1/4残存
171	1	瓶	ＳＫ 2002	4.7	7.5	ガラス	緑灰（10G6/1）・底部に「１」
	2	瓶	ＳＫ 2002	2.4	22.5	ガラス	オリーブ灰（10Y5/2）・「大日本麦酒株式會社製造」
	3	瓶	ＳＫ 2002	2.2	24.1	ガラス	透明グリーン
	4	瓶	ＳＫ 2002	2.7	(25.8)	ガラス	極暗褐（7.5YR2/3）・「TRADE MARK」「カルピス製造株式会社」
	5	瓶	ＳＫ 2002	2.6	(27.7)	ガラス	透明な暗オリーブ（7.5Y4/3）
	6	瓶	ＳＫ 2002	2.5	28.8	ガラス	極暗褐（7.5YR2/3）・「TRADE MARK」「DAINIPPON BREWERY Co」
図版130	1	駒	３区 15-t 掘削	0.4	2.2	骨	にぶい黄橙（10YR7/4）
	2	櫛払	３区 ９･10-t〜ｖ攪乱	1.0	(9.9)	骨	淡黄（2.5Y8/3）
	3	独楽	２区 ９-o 精査	2.9	3.0	貝	殻口を切除して成形する

付表８　出土木製品観察表

挿図	報告番号	種類	遺構名	法量（cm）			材質	備考
				幅	長さ	厚み		
172	1	箸	ＳＥ 2227	0.7	(6.9)	−	木	
	2	箸	ＳＥ 2227	0.6	(6.2)	−	木	
	3	箸	ＳＥ 2227	0.5	(8.0)	−	木	
	4	箸	ＳＥ 2227	0.6	(5.7)	−	木	
	5	箸	ＳＥ 2227	0.7	(12.0)	−	木	
	6	箸	ＳＥ 2227	0.7	(7.7)	−	木	
	7	箸	ＳＥ 2227	6.5	(11.0)	−	木	
	8	箸	ＳＥ 2227	6.5	(10.7)	−	木	
	9	箸	ＳＥ 2227	0.6	(12.7)	−	木	
	10	箸	ＳＥ 2227	0.7	(11.1)	−	木	
	11	箸	ＳＥ 2227	0.6	20.7	−	木	
	12	箸	ＳＥ 2227	0.7	(17.0)	−	木	

図　版

(1)第１面１区全景(南東から)



(2)第１面１区全景(東から)

図版第２　平安京跡（左京一条三坊三町）

(1)第２面１区全景(西から)

(2)第２面１区俯瞰(南から)

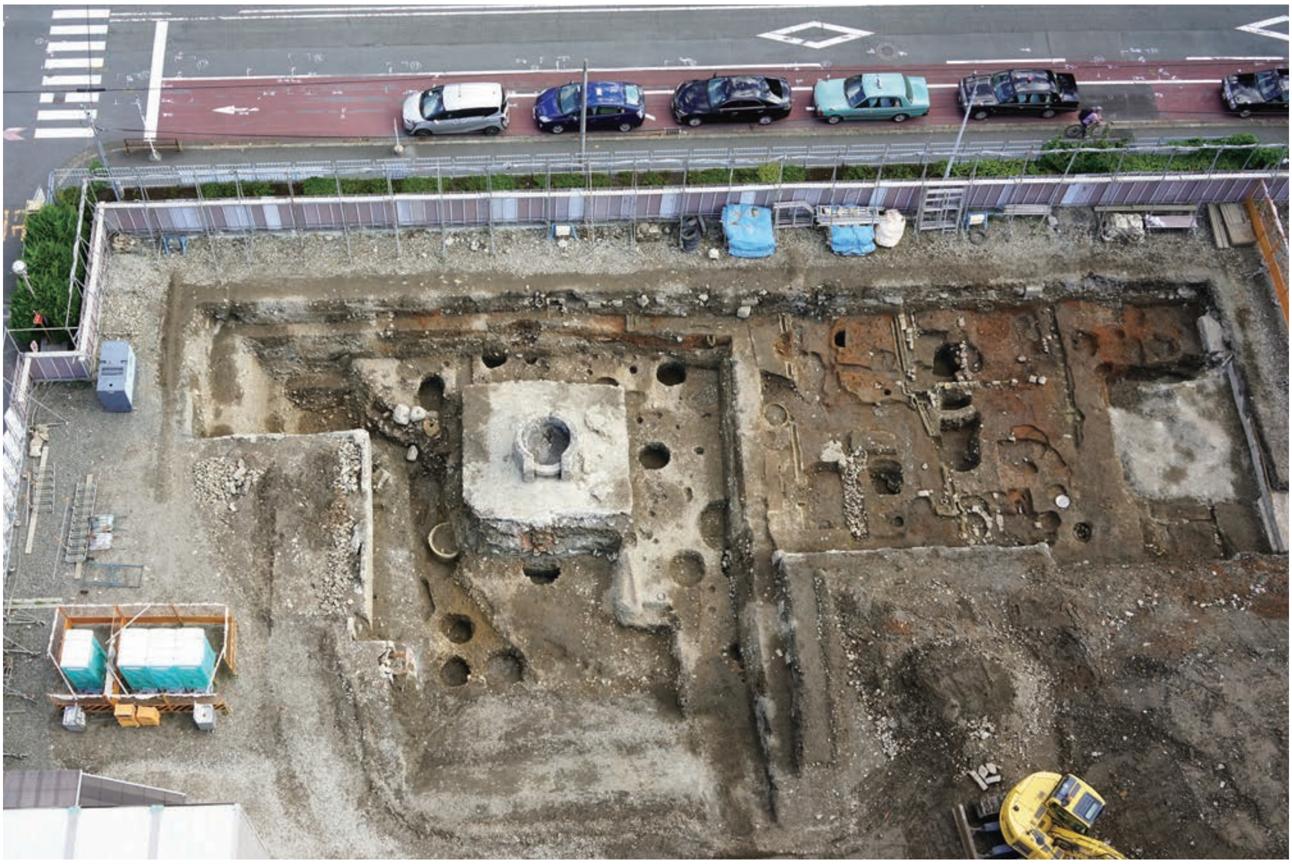
図版第３　平安京跡（左京一条三坊三町）

⑴第２面２区全景（西から）

⑵第２面３区全景（西から）

(1)第３面１区全景(南東から)

(2)第３面１区全景(東から)



(1)第３面２区全景(西から)

(2)第３面２区全景(西から)

図版第６　平安京跡（左京一条三坊三町）

(1)第３面３区全景(西から)

(2)第３面３区全景(北西から)

(1)第１面１区近衛大路断面(南西から)

(2)第１面１区ＳＳ07(北西から)

(1)第１面１区ＳＤ12断面(西から)

(2)第１面１区北側全景(北東から)

(1)第１面２区ＳＳ2003(北から)

(2)第１面２区ＳＳ2003(東から)

(1)第1面2区ＳＳ2004(東から)

(2)第1面2区ＳM3968断面(西から)

(1)第１面２区ＳＤ2014(北東から)

(2)第１面２区ＳＳ2003・ＳＳ2005(北から)


(1)第１面２区ＳＤ2009(南西から)


(2)第１面２区ＳＸ2023(北東から)

(1)第１面２区ＳＳ2031(西から)

(2)第１面２区全景(南西から)


(1)第１面２区全景(南から)


(2)第１面２区全景(南東から)

(1)第１面２区ＳＤ2020(東から)

(2)第１面２区ＳＤ2020(北東から)

(1)第１面２区ＳＤ2020(北から)

(2)第１面２区ＳＤ2037(南から)

(1)第１面２区ＳＤ2037(北西から)

(2)第１面２区ＳＤ2037(北東から)

(1)第１面２区ＳＤ2037(東から)

(2)第１面２区ＳＤ2037(東から)

(1)第１面２区ＳＤ2037枡(北から)

(2)第１面２区ＳＤ2037枡(南から)

(1)第１面２区ＳＪ2040(南から)

(2)第１面２区ＳＫ2019(南から)


(1)第１面３区ＳＳ3021(東から)


(2)第１面３区ＳＳ3021(北東から)

(1)第１面３区ＳＳ3043(西から)

(2)第１面３区ＳＤ3039(東から)

(1)第１面３区ＳＤ3037・SD3038(西から)

(2)第１面３区ＳＬ3045・ＳＥ3034(西から)

(1)第１面３区ＳＬ3045(北から)

(2)第１面３区ＳＬ3045(北から)

(1)第１面３区ＳＪ3028(東から)

(2)第１面３区ＳＪ3052(東から)


(1)第１面３区ＳＳ3076(東から)


(2)第１面３区ＳＳ3077 ～ＳＳ3080(東から)

(1)第１面３区ＳＳ3056(北から)

(2)第１面３区ＳＳ3056断面(東から)

(1)第１面３区ＳＥ3072(東から)

(2)第１面３区ＳＬ3050(北から)


(1)第１面３区ＳＬ3050(南西から)


(2)第１面３区ＳＬ3050(南から)

(1)第１面３区ＳＬ3086・ＳＬ3087(南から)

(2)第１面３区ＳＤ3097(北から)

(1)第１面３区ＳＳ3115(南から)

(2)第１面３区ＳＬ3016(西から)

(1)第１面３区ＳＬ3016(南から)

(2)第１面３区ＳＳ3118(南から)

(1)第１面３区ＳＸ3128(東から)

(2)第１面３区ＳＸ3127・ＳＸ3128(東から)

(1)第１面３区南東隅漆喰溝(北西から)

(2)第１面３区ＳＪ3972(北から)

(1)第１面３区全景(南から)

(2)第２面１区ＳＫ66断面(西から)

(1)第２面１区ＳＫ28遺物出土状況(南から)

(2)第２面１区ＳＳ37(西から)

(1)第２面ＳＦ240(西から)

(2)第２面１区全景(北東から)

(1)第２面２区ＳＸ2058(南西から)

(2)第２面２区ＳＸ2058アゼ断面(南東から)

(1)第２面２区ＳＸ2058東側南北アゼ断面(西から)

(2)第２面２区ＳＳ2097(西から)

(1)第２面２区ＳＤ2075(東から)

(2)第２面２区ＳＫ2105(北から)

(1)第２面２区ＳＫ2105(北から)

(2)第２面２区ＳＥ2227断面(西から)

(1)第２面２区全景(北東から)

(2)第２面２区全景(南から)

(1)第２面３区ＳＥ3138(北から)

(2)第２面３区ＳＥ3154(南から)

(1)第２面３区ＳＥ3198(東から)

(2)第２面３区ＳＫ3167(北から)

(1)第２面３区ＳＥ3132(北東から)

(2)第２面３区ＳＳ3147(西から)

(1)第２面３区ＳＳ3190(北から)

(2)第２面３区ＳＢ01(東から)

(1)第２面３区ＳＢ01(北から)

(2)第２面３区ＳＥ3171(東から)

(1)第２面３区ＳＳ3239断面(北から)

(2)第２面３区ＳＳ3239(北から)

(1)第２面３区ＳＫ3278(北から)

(2)第２面３区ＳＳ3284(南西から)

(1)第２面３区ＳＳ3229・ＳＫ3230(東から)

(2)第２面３区ＳＳ3229(北から)

(1)第２面３区ＳＳ3276(西から)

(2)第２面３区ＳＳ3274(南から)

(1)第２面３区ＳＳ3322断面(南から)

(2)第２面３区ＳＳ3322(南から)

(1)第２面３区ＳＳ3331上層(西から)

(2)第２面３区ＳＳ3331下層(北から)

(1)第２面３区ＳＳ3257(西から)

(2)第２面３区ＳＥ3247(東から)

(1)第２面３区ＳＥ3312(東から)

(2)第２面３区ＳＥ3132(北から)

(1)第２面３区ＳＫ3385断面(東から)

(2)第２面３区ＳＫ3472断面(北から)

(1)第２面３区ＳＳ3491(東から)

(2)第２面３区全景(北西から)


(1)第２面３区全景(南西から)


(2)第３面１区ＳＥ135(北東から)


(1)第３面１区ＳＰ96(ＳＡ96)断面(西から)


(2)第３面１区ＳＰ100(ＳＡ96)断面(東から)

⑴第３面１区ＳＰ117（ＳＢ117）断面（西から）

⑵第３面１区ＳＰ117（ＳＢ117）（北から）

(1)第３面１区ＳＰ207(ＳＢ117)断面(南から)

(2)第３面１区ＳＰ207(ＳＢ117)(南から)

(1)第３面１区ＳＤ77断面(東から)

(2)第３面１区西壁　(北東から)

(1)第３面１区ＳD81断面　（北東から）

(2)第３面１区ＳD81断面（北東から）

(1)第３面１区ＳD81(北東から)

(2)第３面１区ＳD81(北東から)

(1)第３面１区北壁断面(南東から)

(2)第３面１区ＳＤ78断面(東から)

(1)第３面１区北半全景(西から)

(2)第３面１区全景(北東から)

(1)第３面２区ＳＳ2111(東から)

(2)第３面２区ＳＳ2111(南西から)

(1)第３面２区焼土ＳＸ2165(東から)

(2)第３面２区ＳＸ2137(西から)

(1)第３面２区ＳＫ2157　土器検出状況(北から)

(2)第３面２区ＳＳ2199(北東から)


(1)第３面２区ＳＤ81断面(北から)


(2)第３面２区ＳＤ81断面(北西から)

(1)第３面２区ＳＫ2258 礎石出土状況(北西から)

(2)第３面３区ＳＳ3507(北から)

(1)第３面３区ＳＫ3571　遺物出土状況(西から)

(2)第３面３区ＳＳ3288断面(東から)

(1)第３面３区ＳＳ3305・ＳＳ3306(北から)

(2)第３面３区ＳＫ3593　遺物出土状況(北から)


(1)第３面３区ＳＫ3743断面 遺物出土状況(東から)


(2)第３面３区ＳＫ3831(西から)

(1)第３面３区ＳＳ3306断面(北から)

(2)第３面３区ＳＳ3305断面(北から)

(1)第３面３区ＳＳ3827(北から)

(2)第３面３区ＳＳ3827断面(東から)


(1)第３面３区ＳＤ3550断面(南西から)


(2)第３面３区ＳＤ3550(南西から)

(1)第３面３区ＳＡ3425(東から)

(2)第３面３区ＳＡ3425(西から)

(1)第３面３区ＳＡ3823断面(北から)

(2)第３面３区ＳＡ3823断面(北から)

(1)第３面３区ＳＤ3370 集石出土状況(西から)

(2)第３面３区ＳＡ3425・ＳＤ3370(南東から)


(1)第３面３区ＳＤ3370東側断面（西から）


(2)第３面３区ＳＤ3370(東から)

(1)第３面３区ＳＤ3370 西側断面(北東から)

(2)第３面３区ＳＤ3370・ＳＡ3425(西から)

(1)第３面３区ＳＤ3370・ＳＤ3550(西から)

(2)第３面３区ＳＤ3370・ＳＡ3425(東から)

(1)第３面３区ＳＤ3370・ＳＡ3425(東から)

(2)第３面３区ＳＸ3840(西から)

(1)第３面３区ＳＸ3840断割断面(南西から)

(2)第３面３区ＳＤ3881断面(南西から)


(1)第３面３区ＳＤ3881(南西から)


(2)第３面３区ＳＥ3822(南東から)

図版第 87　平安京跡（左京一条三坊三町）

(1)第３面３区ＳＰ3921瓦出土状況（北西から）

(2)第３面３区全景（南から）

(1)第３面３区全景(南東から)

(2)第３面３区全景(北から)


99－38


94－4


94－5


78－21

出土遺物 1

図版第 90　平安京跡（左京一条三坊三町）

115－8

91－26

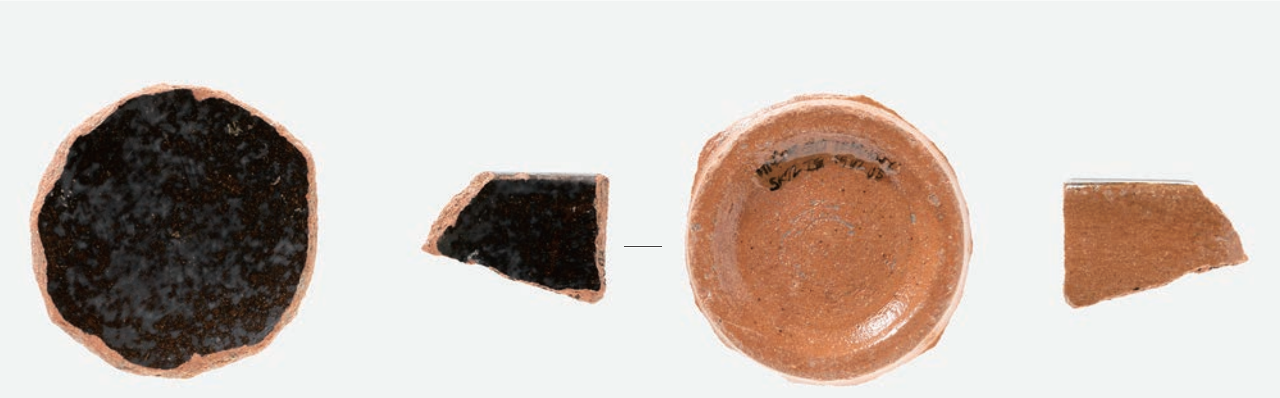
1

110－39

114－36

112－10

出土遺物２


105－40


107－19


107－20


107－17


107－16

1

2

102−1

3

119−4

118−14

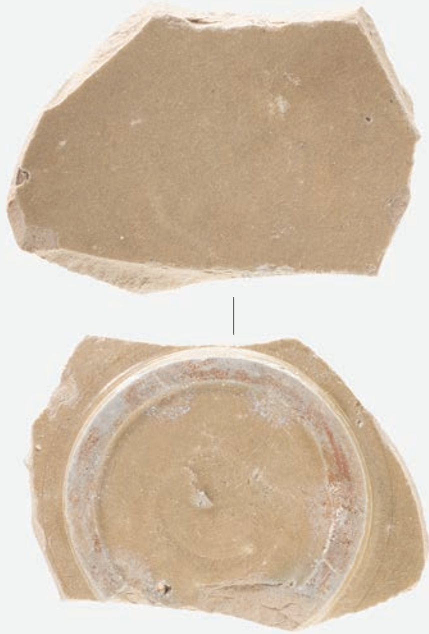
147−11

149−14

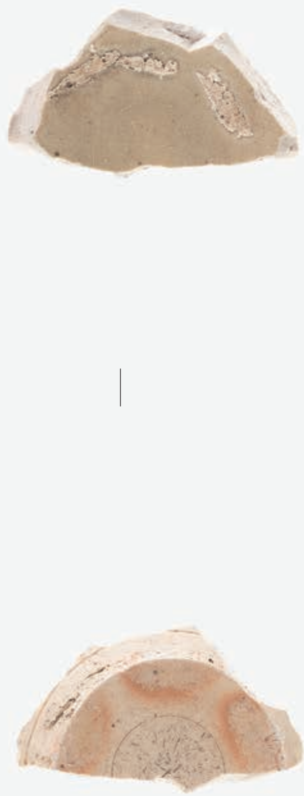
144−15

147−25

77－26



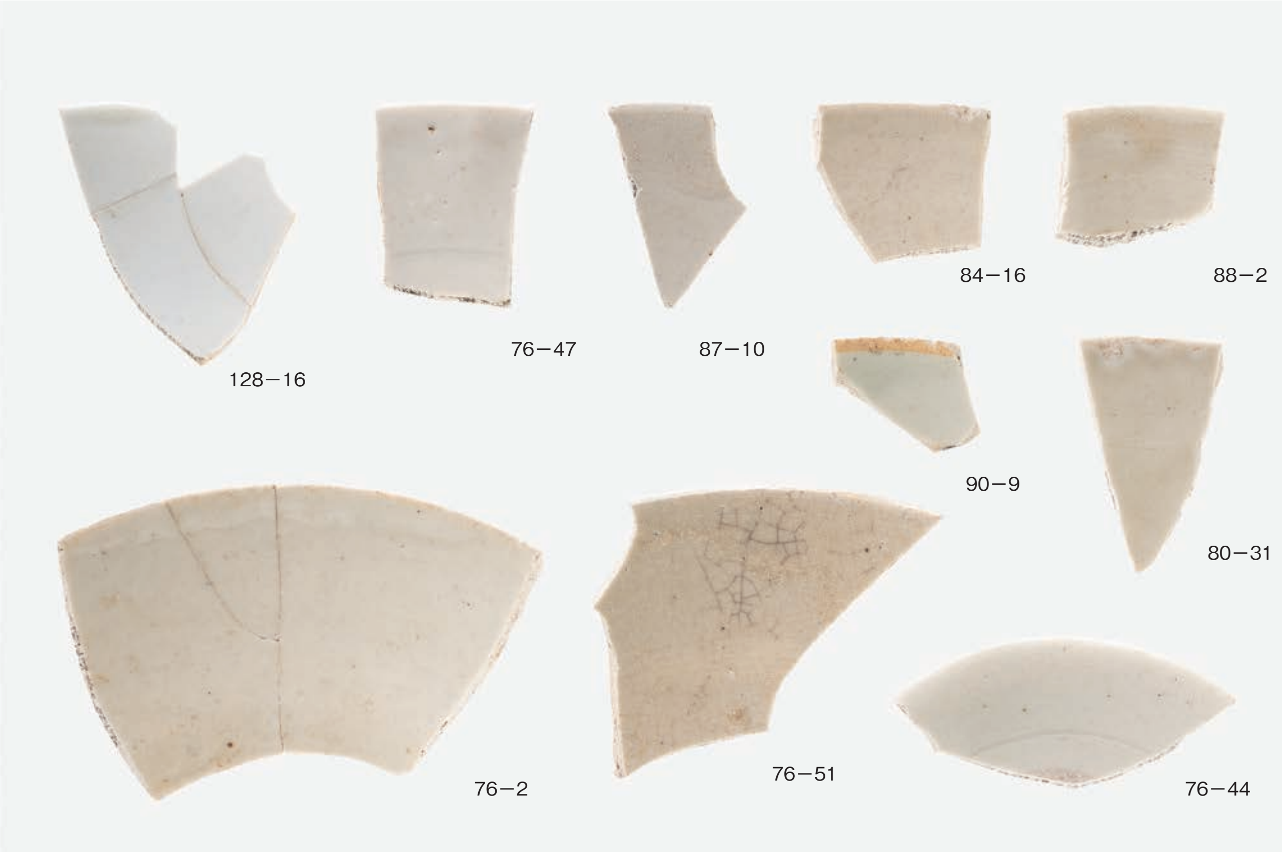
1



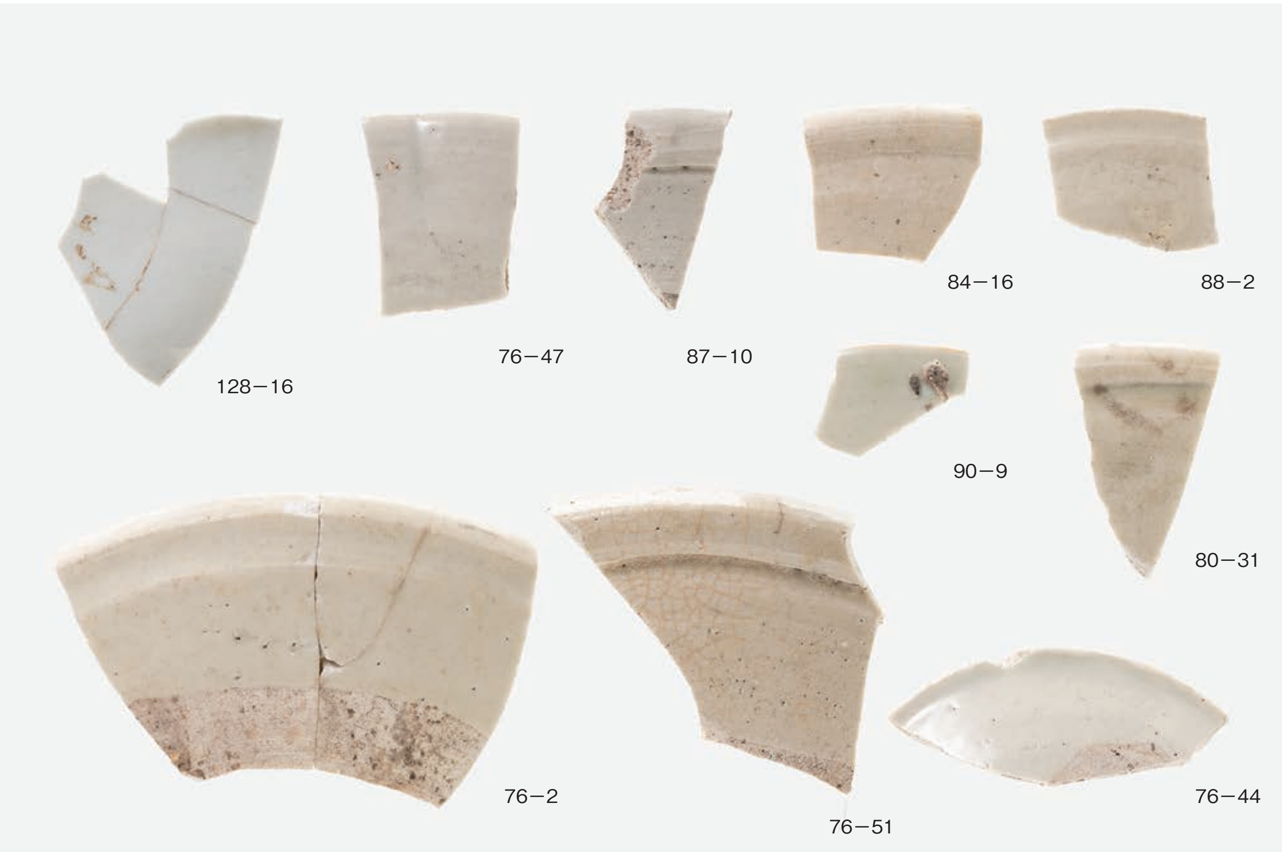
77－27

77－20

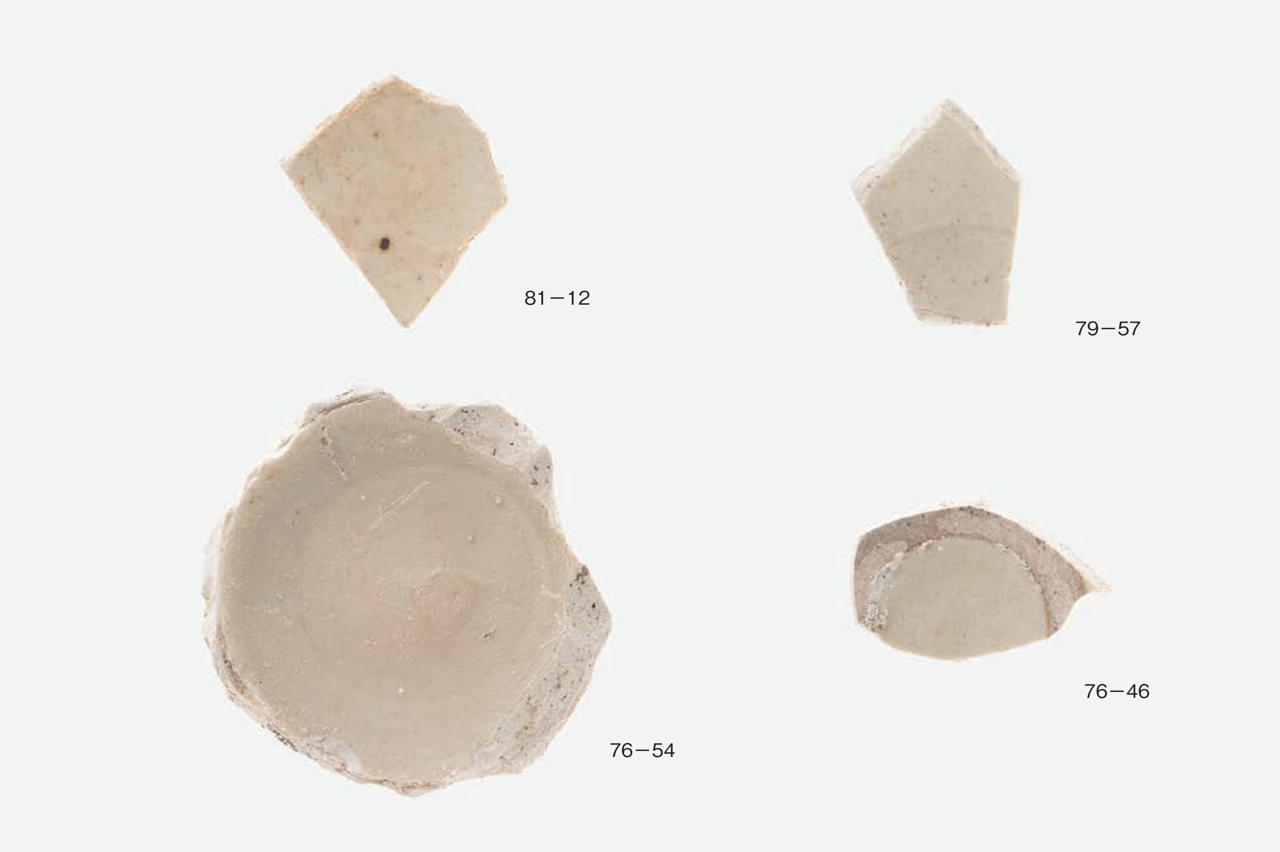
図版第 94　平安京跡（左京一条三坊三町）



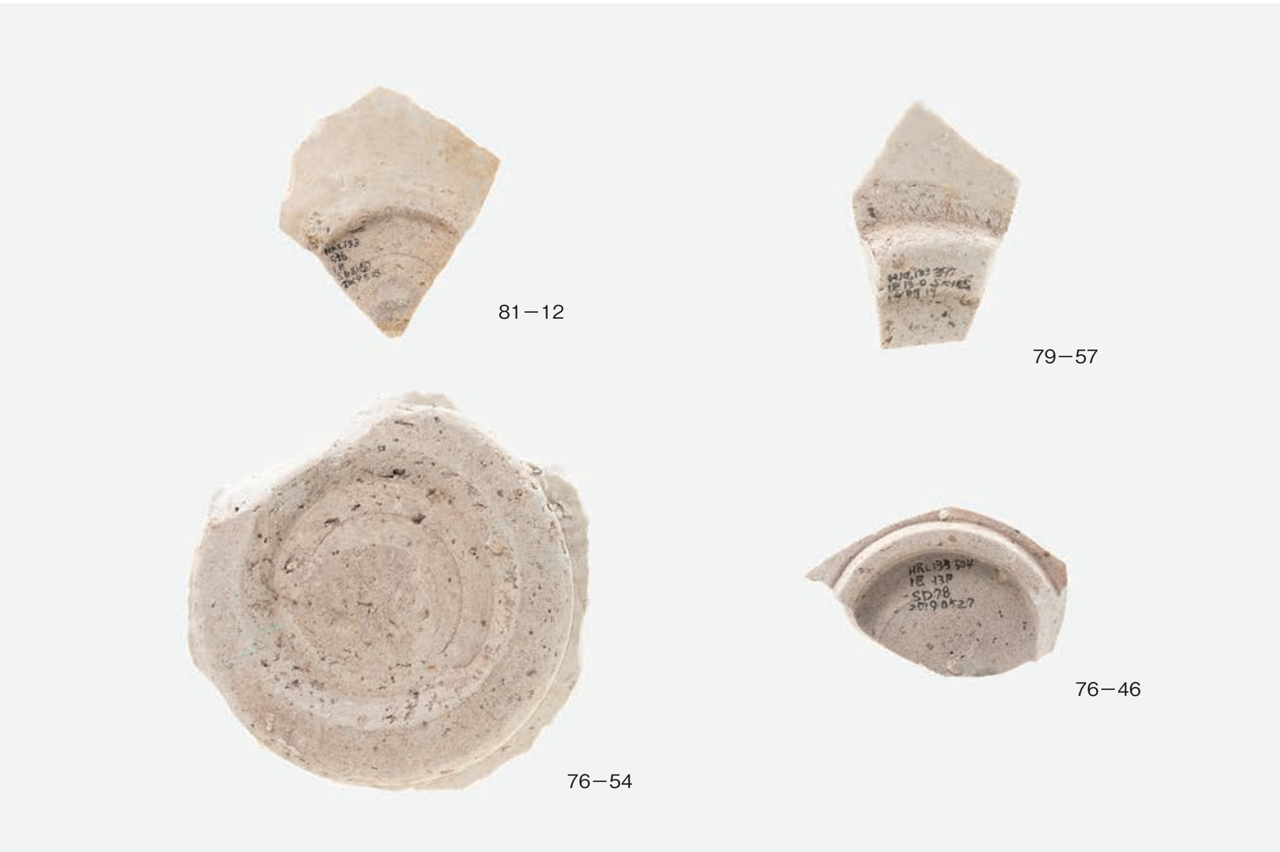
出土遺物 6



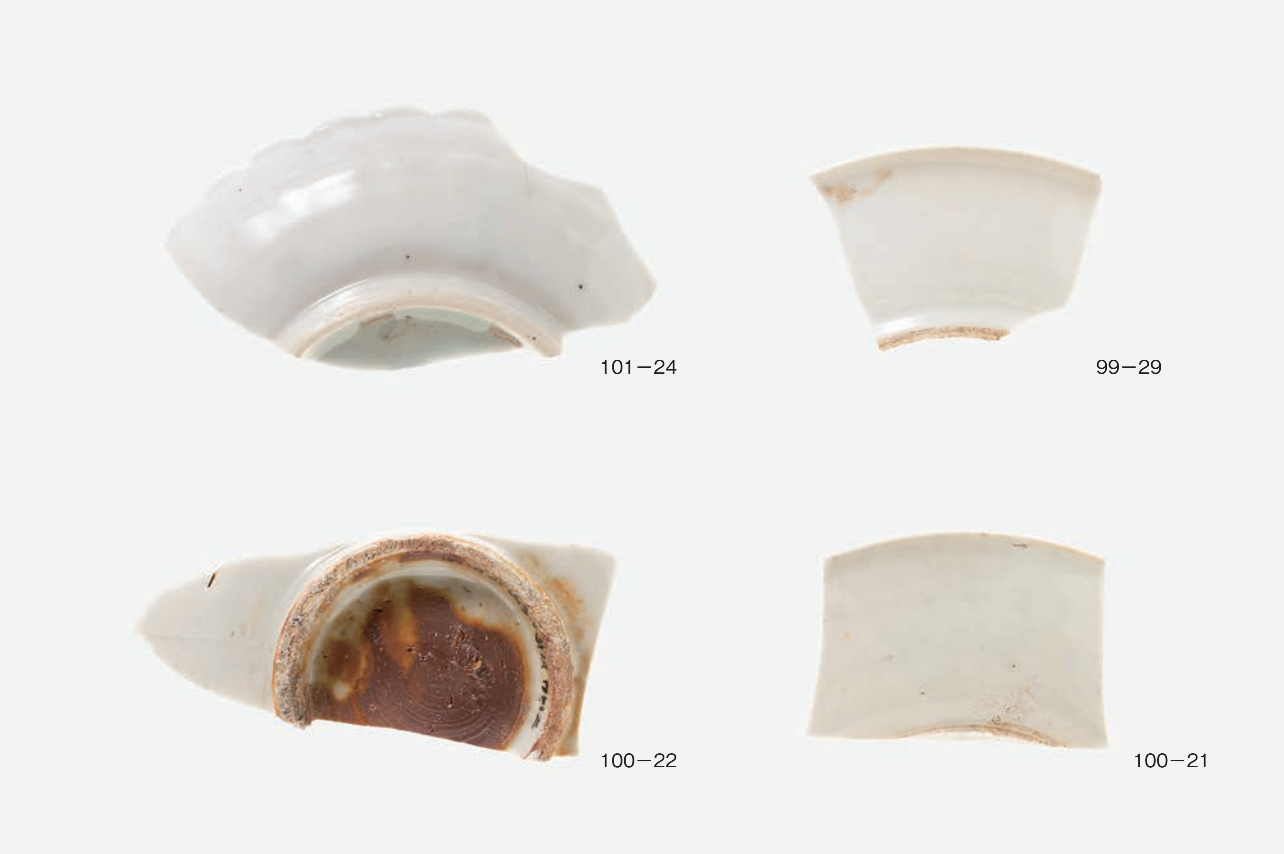
出土遺物 7



出土遺物８



出土遺物９



出土遺物10

出土遺物11

76−45

76−53

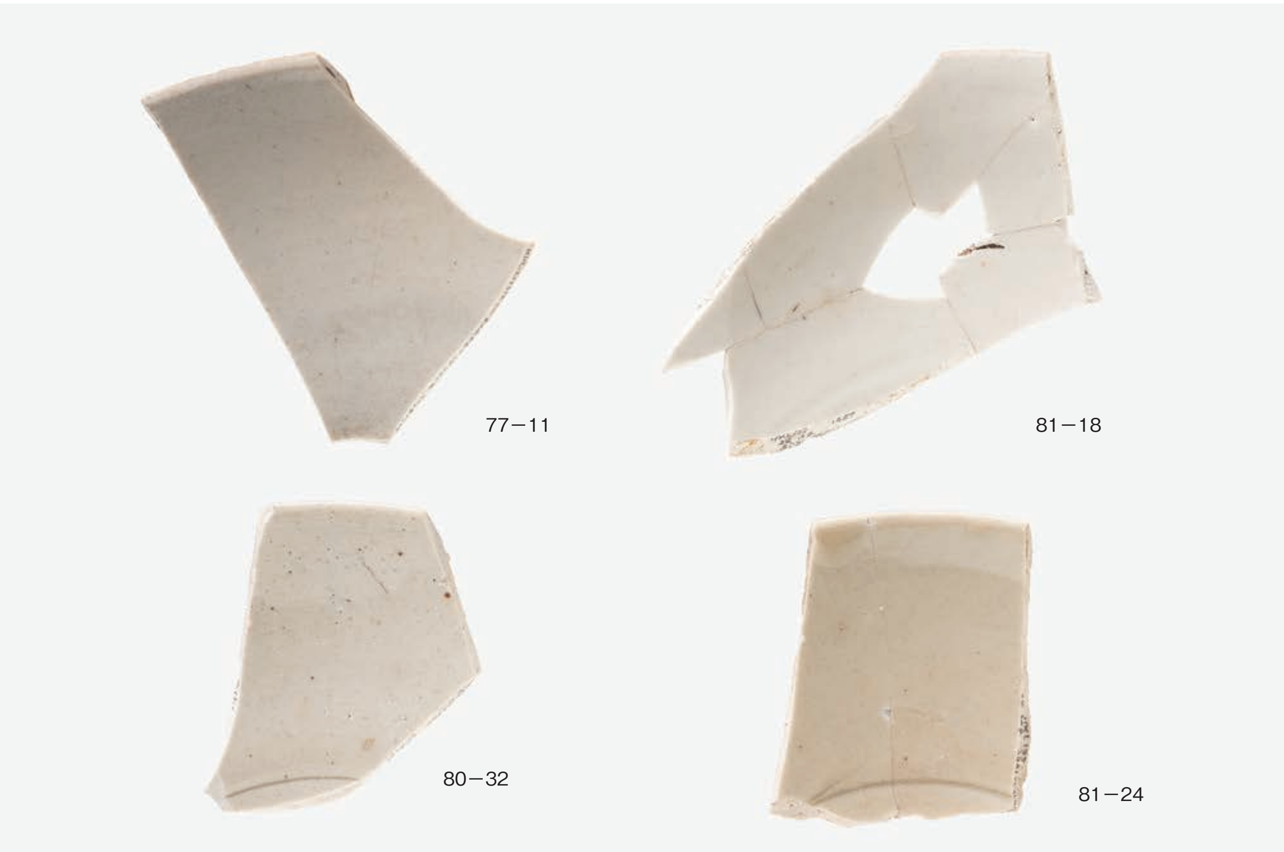
80−11

図版第 98　平安京跡（左京一条三坊三町）

出土遺物13

出土遺物14

出土遺物15



出土遺物16

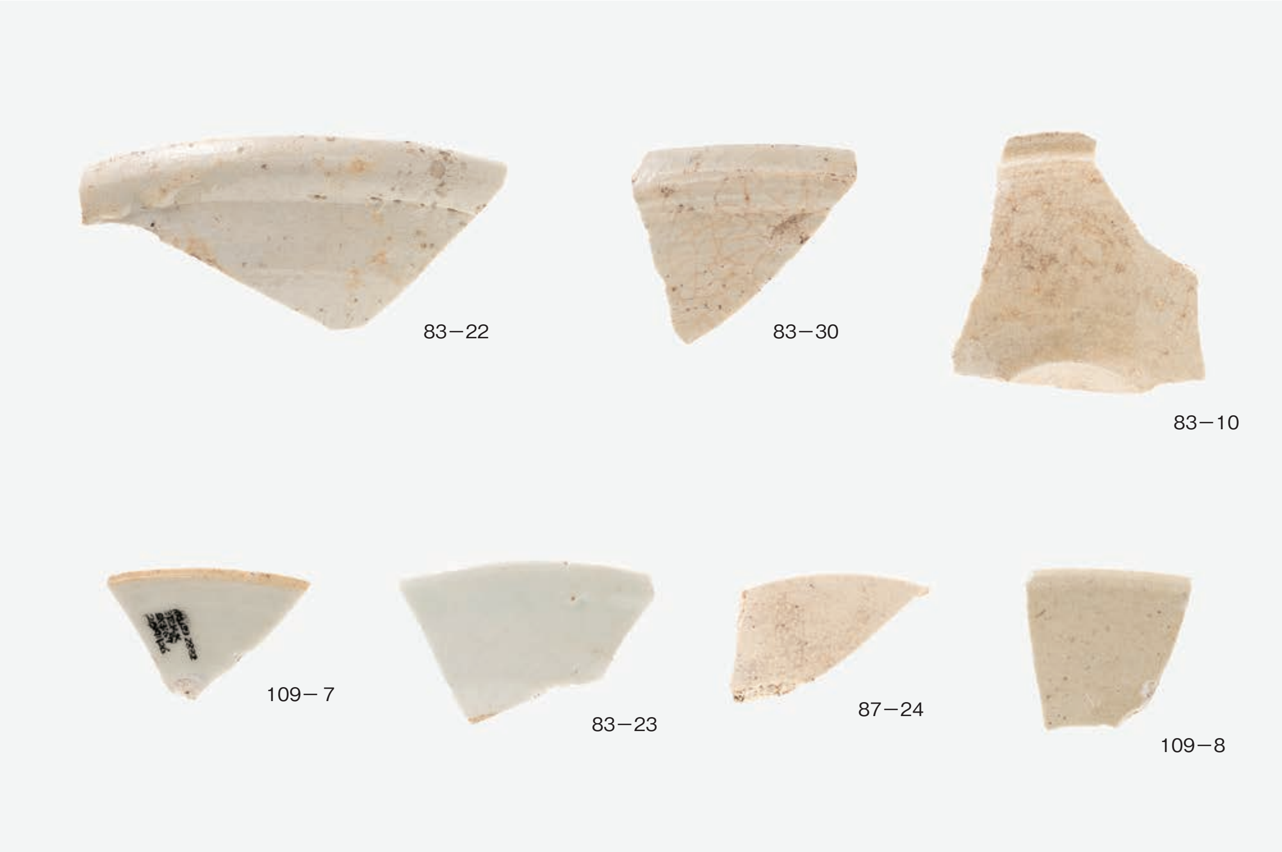
76－52

107－10

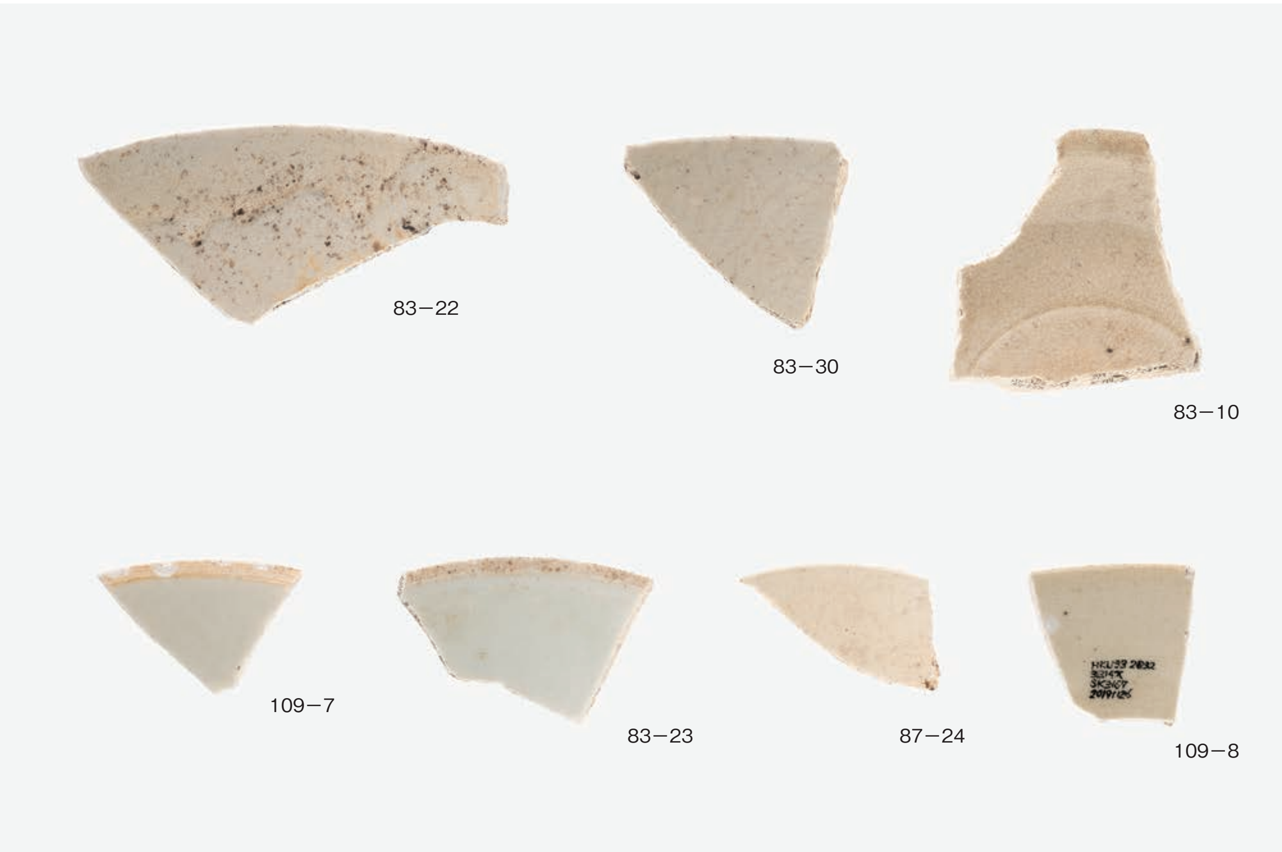
81－14

81－15

図版第 101　平安京跡（左京一条三坊三町）

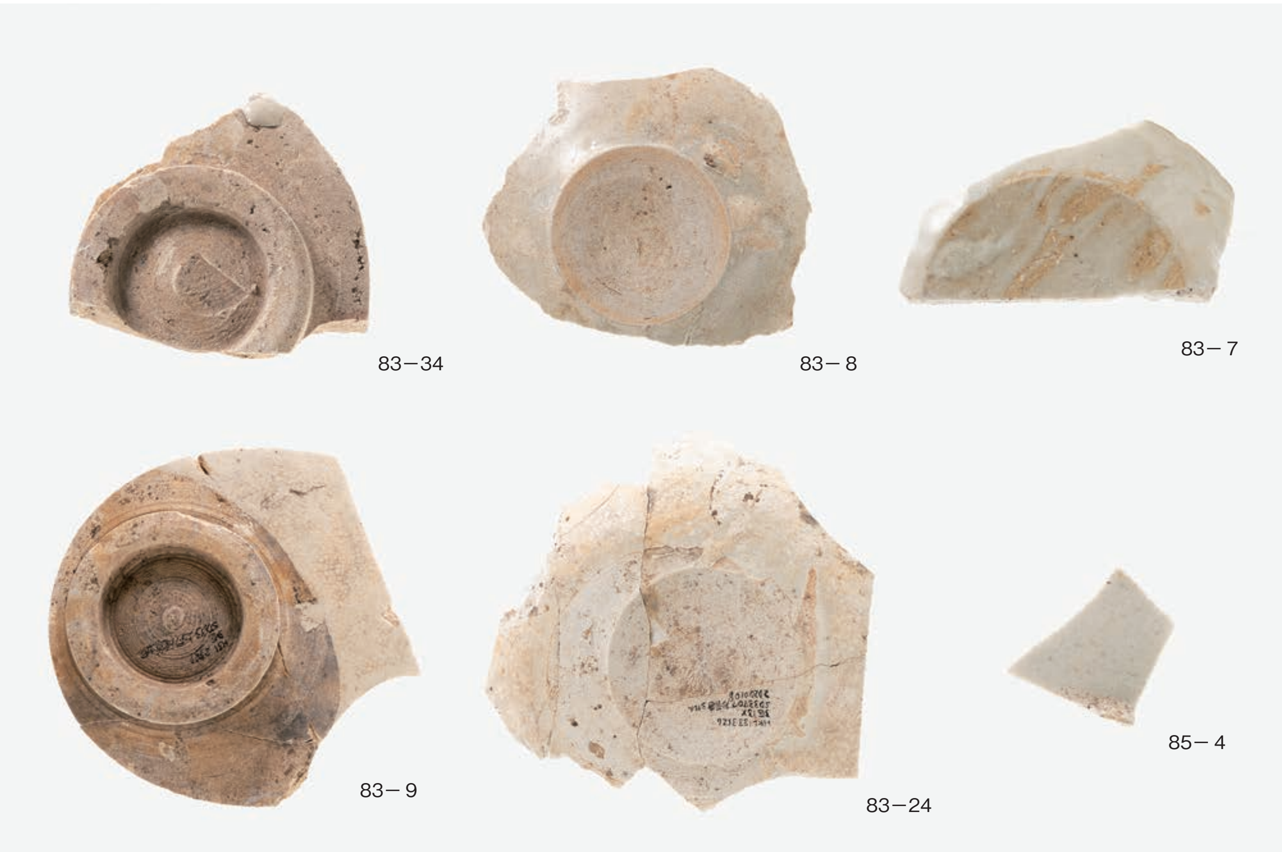


出土遺物18



出土遺物19

出土遺物20



出土遺物21

図版第 103　平安京跡（左京一条三坊三町）

116－3

82－3

82－24

123－4

106－22

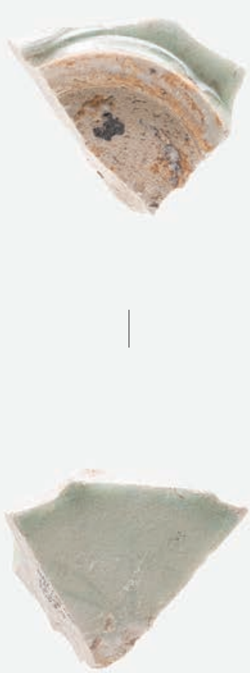
121－5

1

111－12

100－43

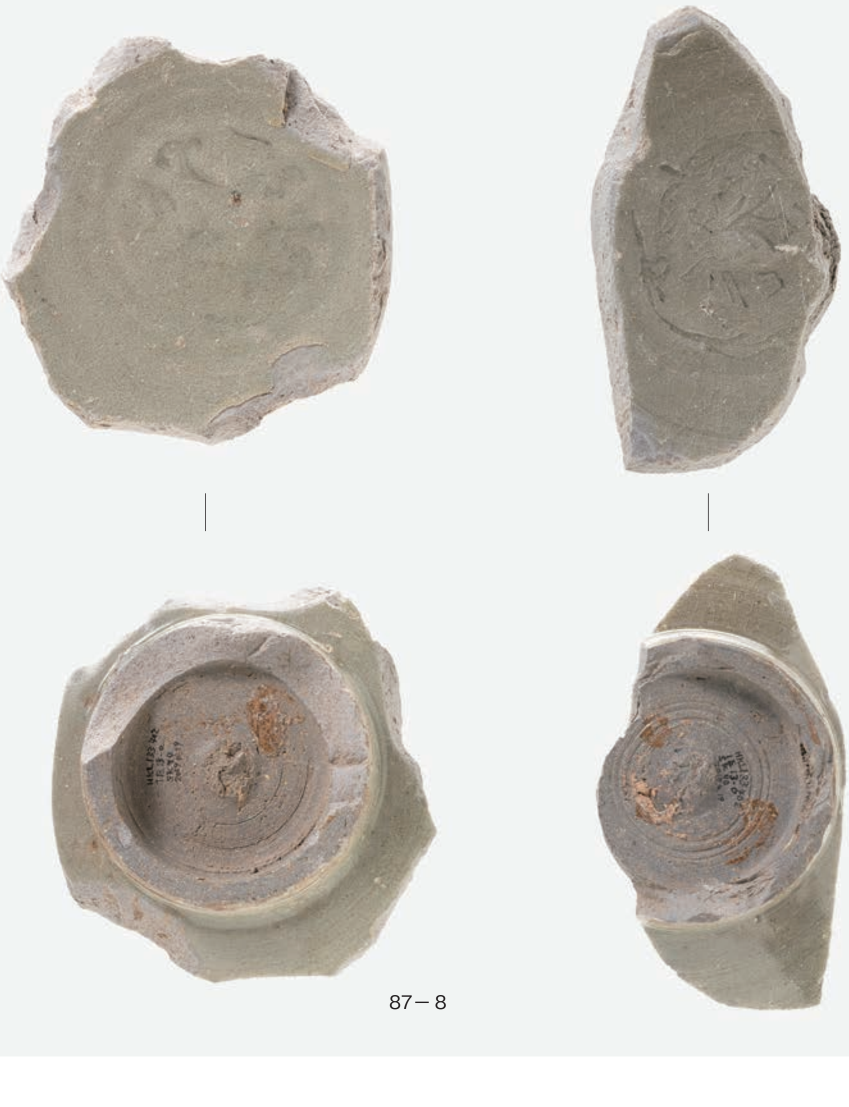
108－35



88－4

81－22

86－21



87－8

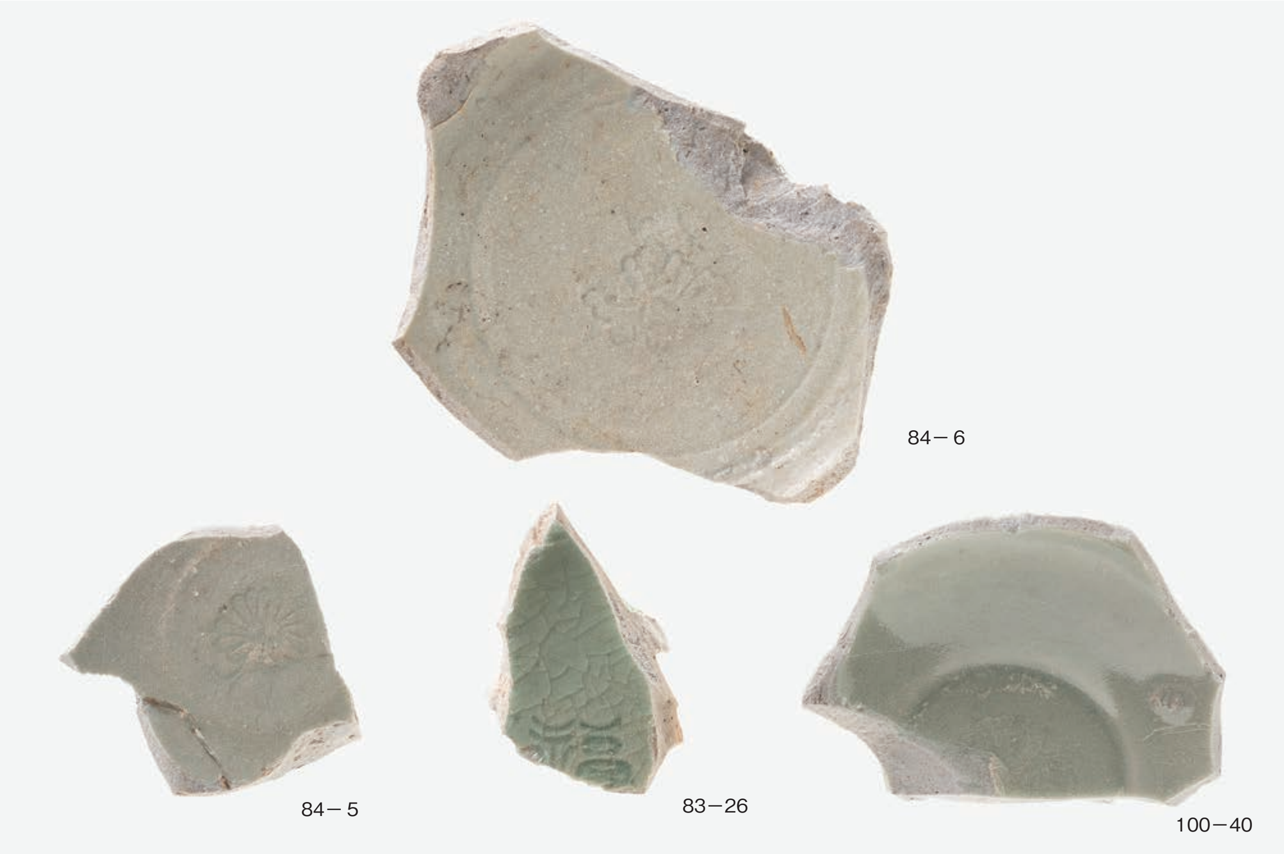
87－7

90−23

82−17

1

出土遺物25



出土遺物26

出土遺物27

84－ 4

83－25

87－26

82－14

82－13

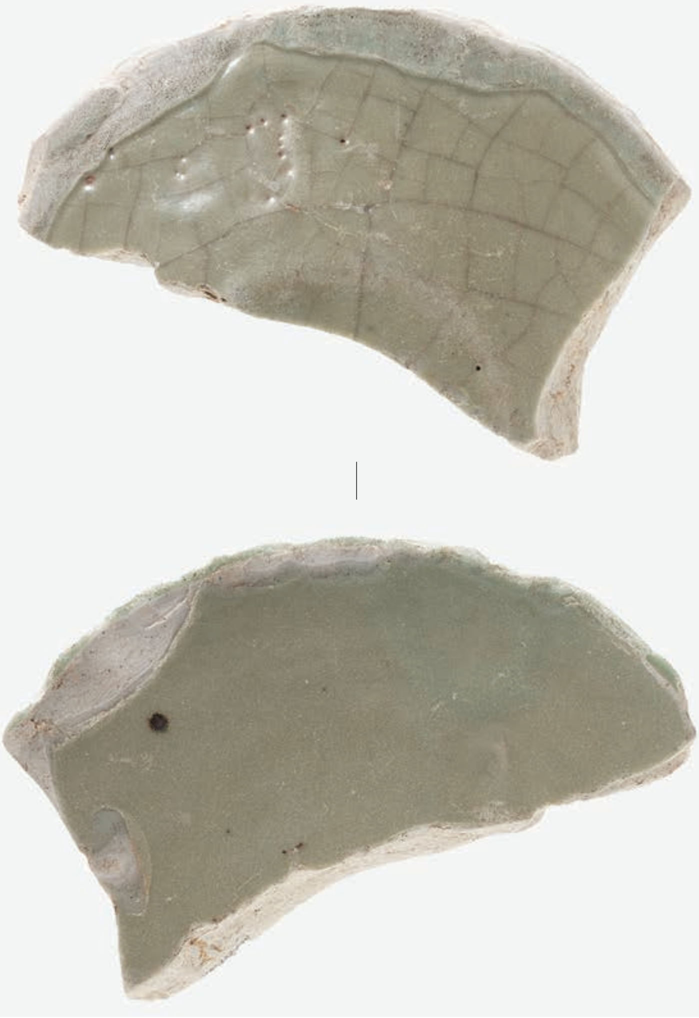
91－32

80－33

81－19

81－23

79－60

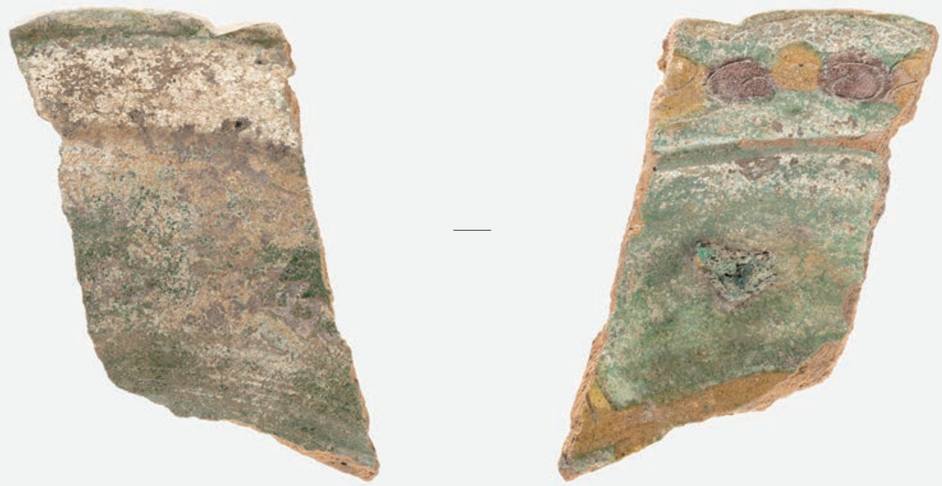


98－5

83－2

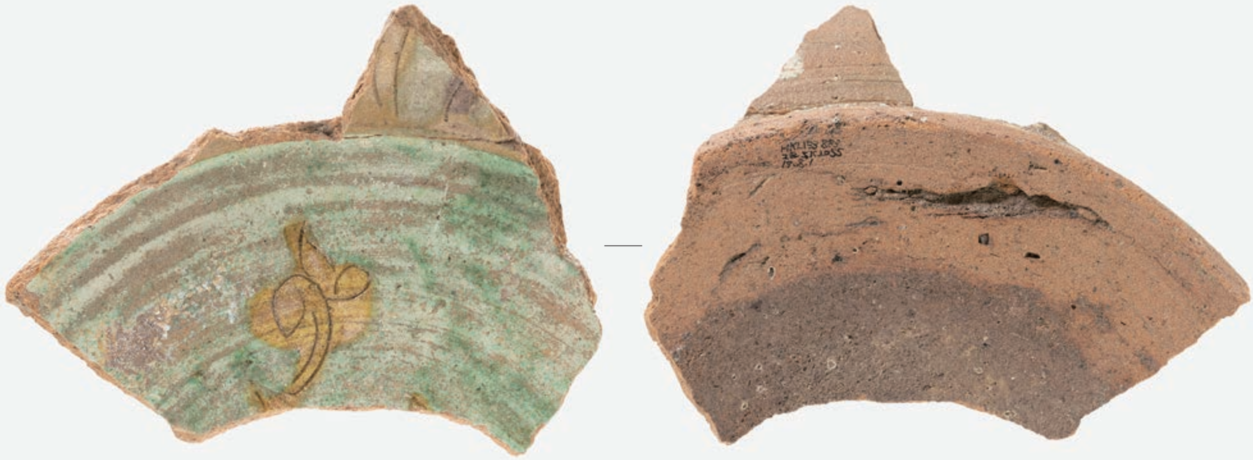
116－２

1

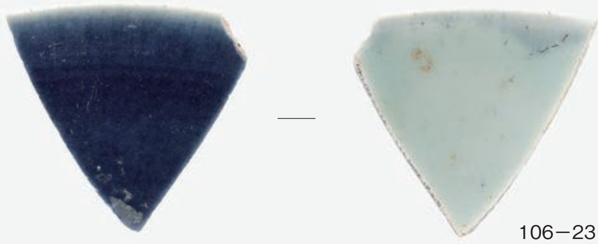


107－18

113－21


129－9


144－2


106－23


98－33

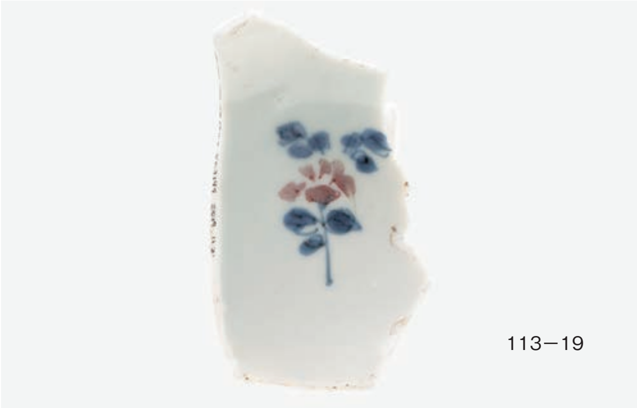
112−14

89−48

113−24

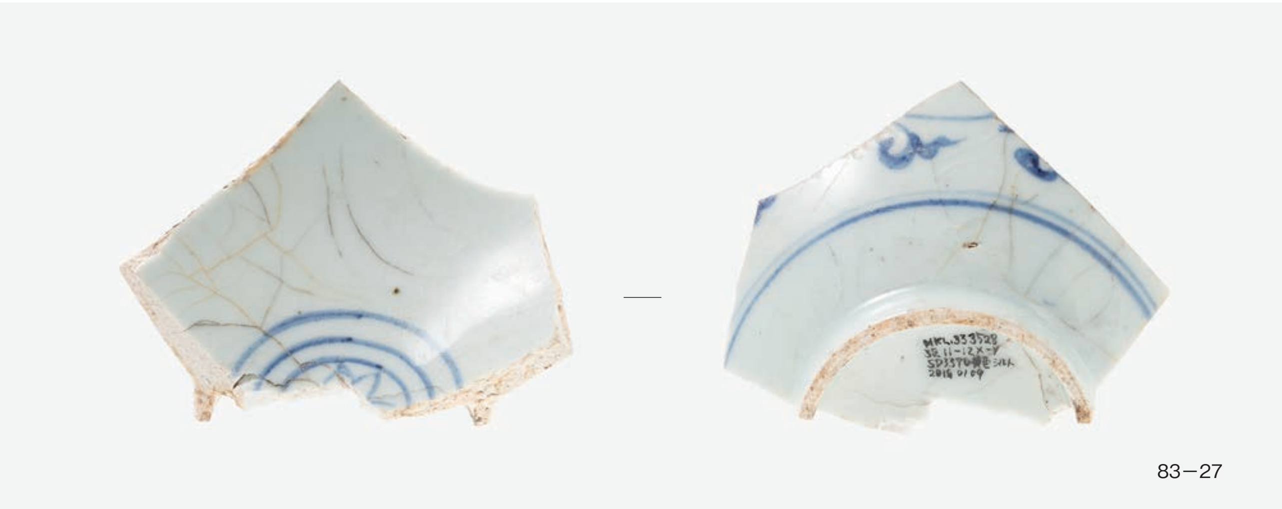
91−35

1

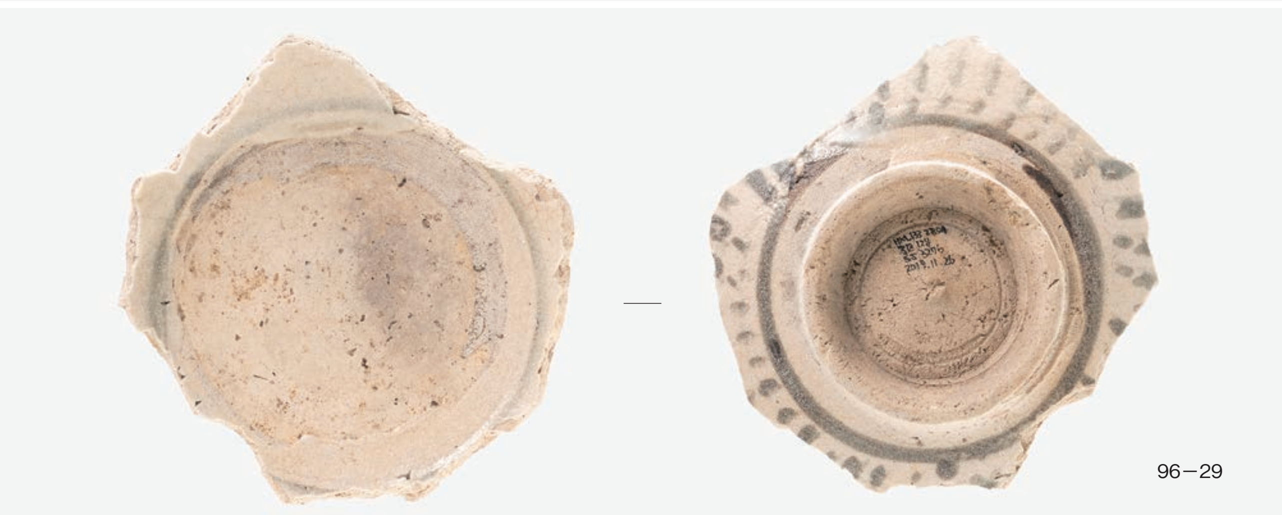


113−19

107−14



83−27



96−29

1

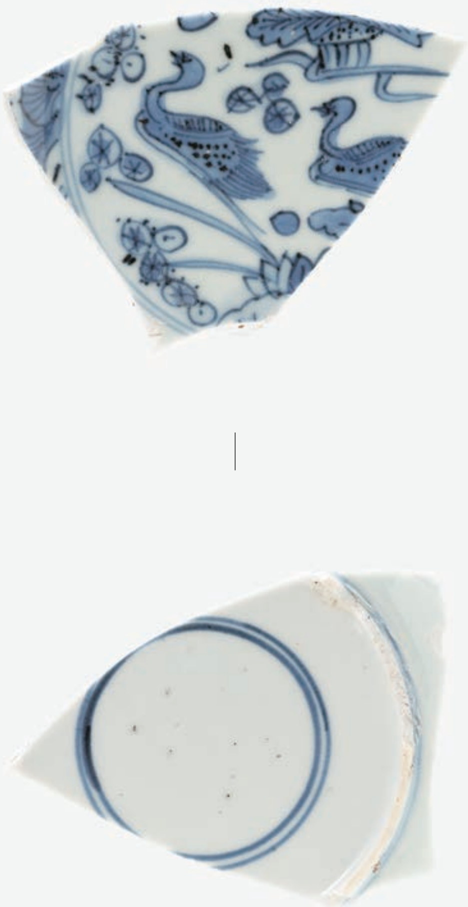
111－1

111－4

111－6

出土遺物34

103−50



112−27

112−26

111－11

144－６

149－18　　149－19

132－10

144－25

144－23

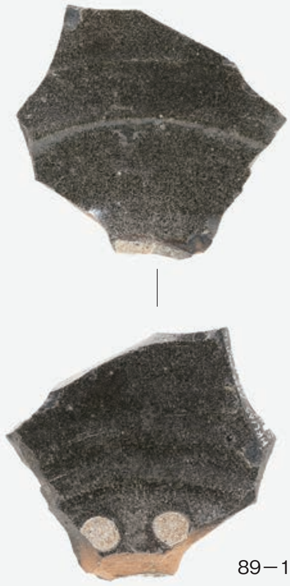
141－22

107－13

図版第 118　平安京跡（左京一条三坊三町）

1

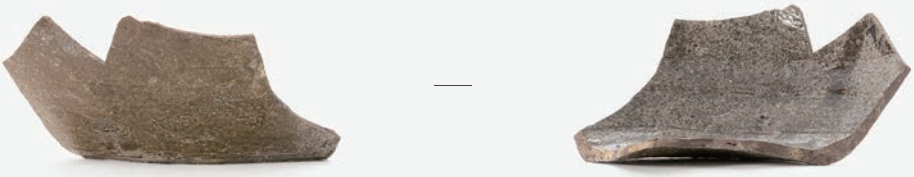
89－17



89－18

107－15

96－15

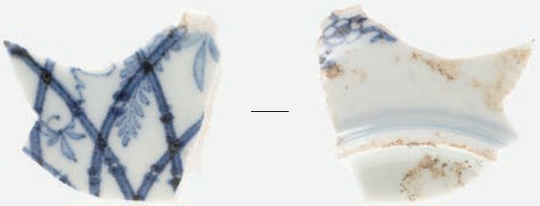


2

102－19

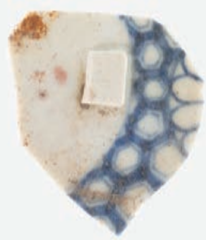
図版第 119　平安京跡（左京一条三坊三町）

116－6



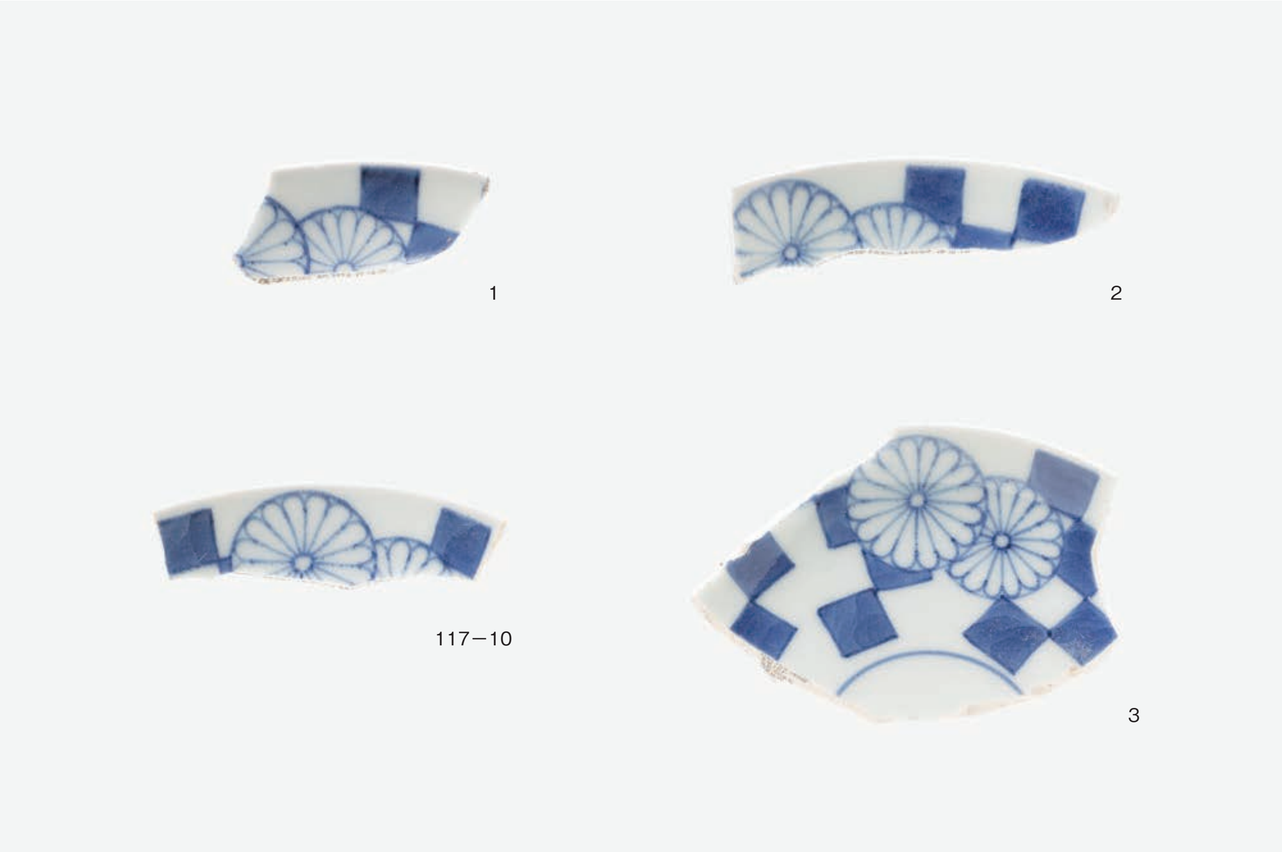
1

2



3

135－5



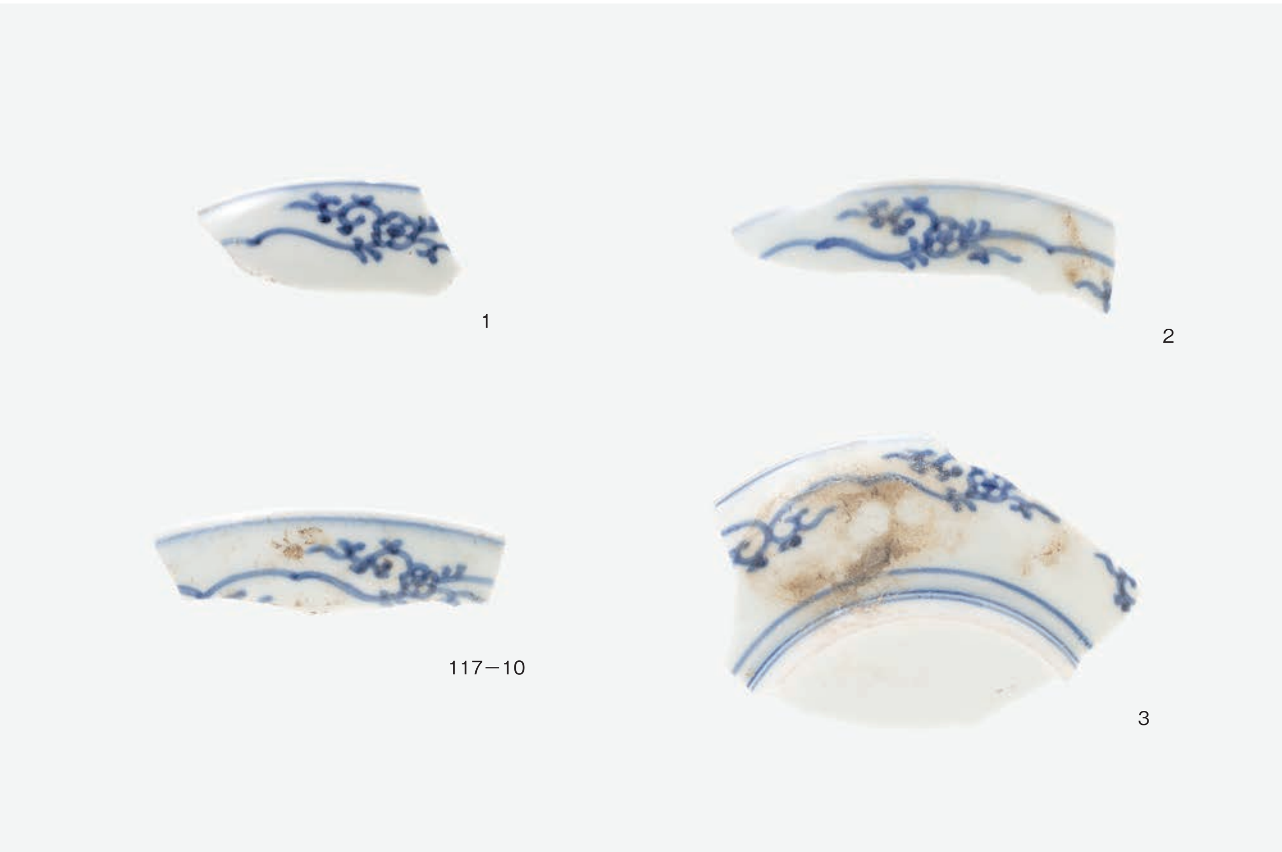
1

2

117－10

3

出土遺物40



1

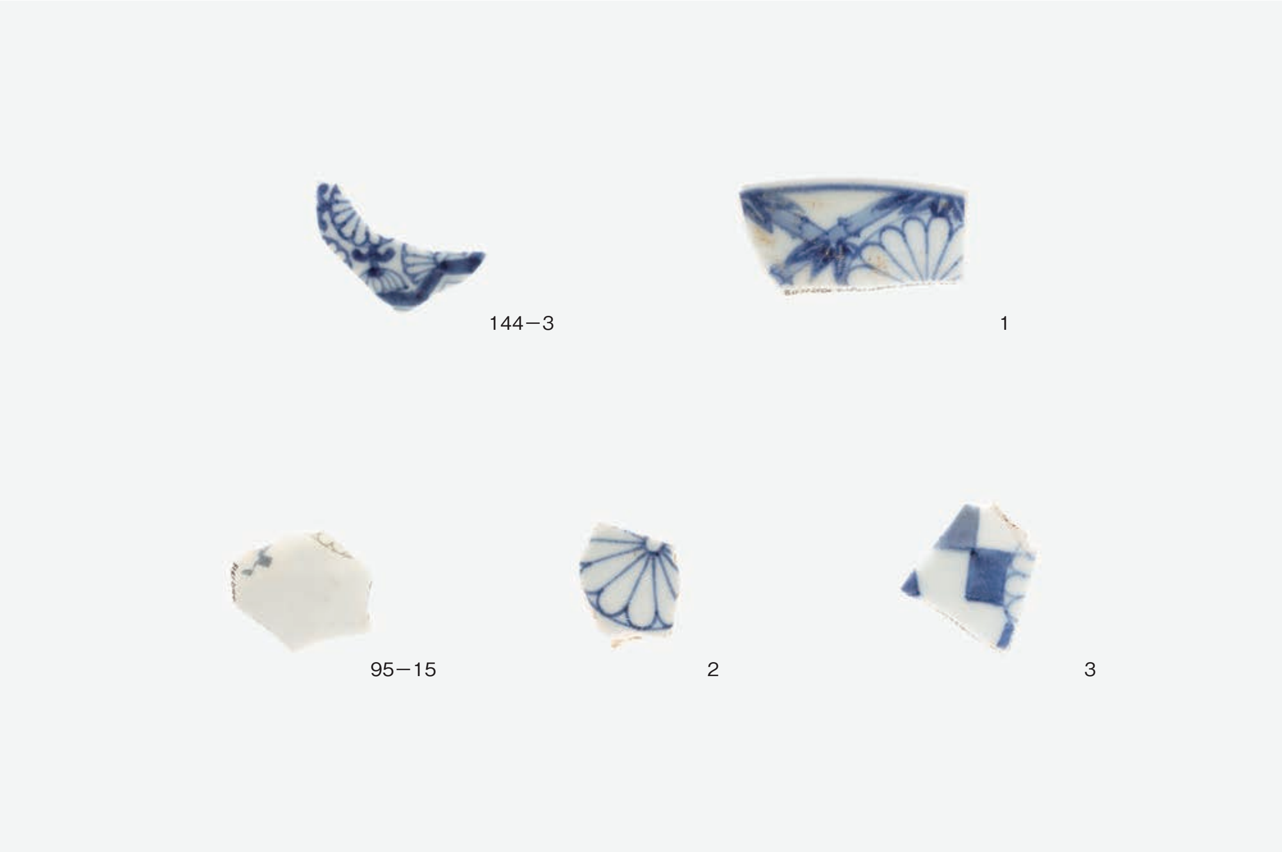
2

117－10

3

出土遺物41

図版第 121　平安京跡（左京一条三坊三町）



出土遺物42

出土遺物43

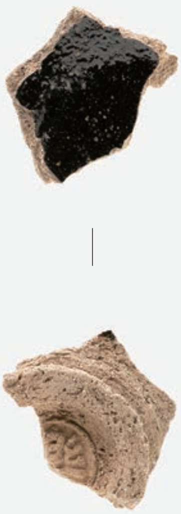
図版第 122　平安京跡（左京一条三坊三町）

147－17

145－7

144－1

138－26



2

1

153－14

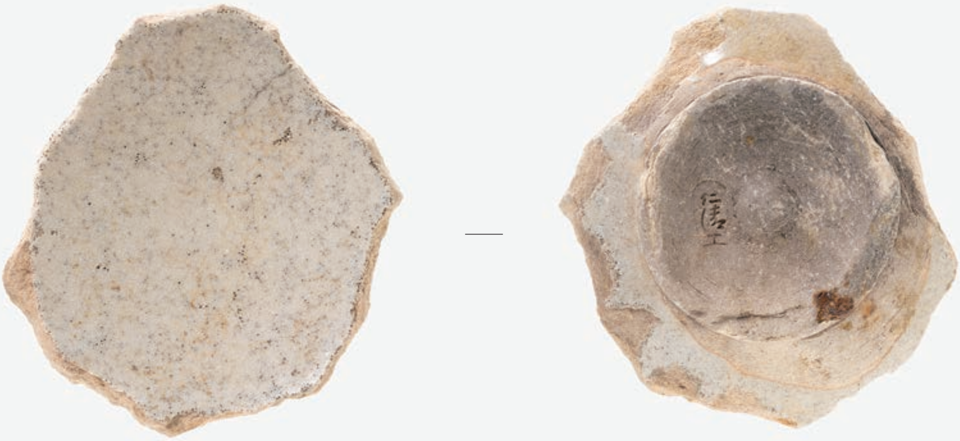
3

147－29

図版第 123　平安京跡（左京一条三坊三町）

1

140－23



133－ 4

2

121－14

3


123－18


153－12


123－22


153－ 6


1


99－33


2


3


4


5


6

1

150－1　150－2

2

3

4

5　6

出土遺物48

出土遺物49

161－12

161－6

161－5

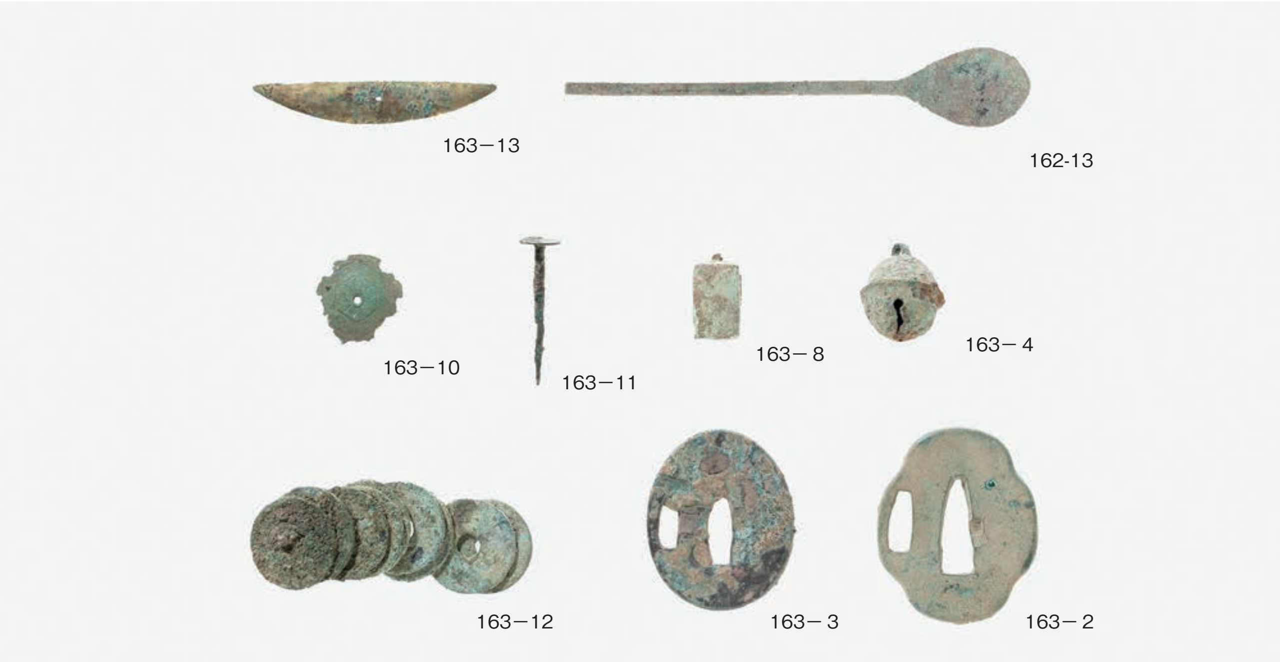
161－2

161－1

図版第 128　平安京跡（左京一条三坊三町）

161－3

161－4



163－13

162-13

163－10

163－11

163－8

163－4

163－12

163－3

163－2

162－2

162－1

163－7

162－8

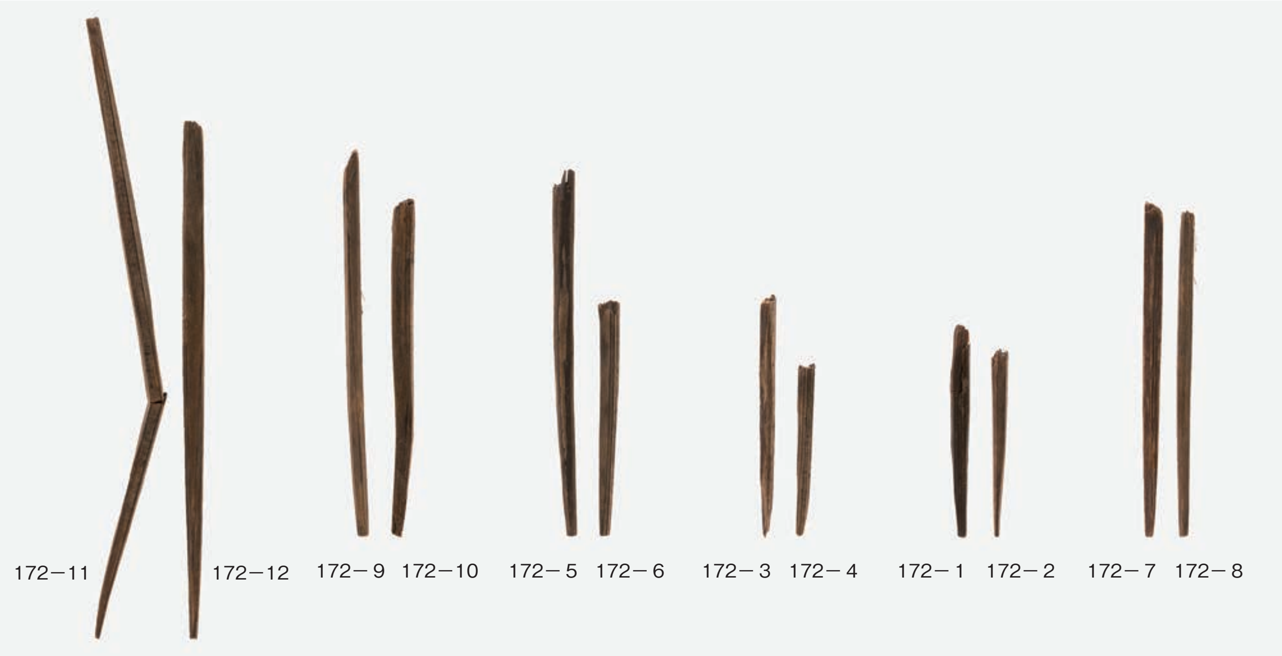
162－7

162－6

出土遺物52

出土遺物53

出土遺物54


172−11
172−12
172−９
172−10
172−５
172−６
172−３
172−４
172−１
172−２
172−７
172−８


1


2


3

1

1

2

3

4

108－16

108－24

99－24

99－31

108－16

108－24

99－24

99－31

103－18

107－25

114－28

99－42

104－ 8

報告書抄録

ふりがな	
書名	
副書名	
巻次	
シリーズ名	京都府遺跡調査報告集
シリーズ番号	第182冊
編著者名	加藤雄太・岡﨑研一
編集機関	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
所在地	〒617-0002　京都府向日市寺戸町南垣内40番の3　Tel. 075（933）3877
発行年月日	西暦2021年８月20日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	 遺跡番号	北緯 °　′　″	東経 °　′　″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
へいあんきょうあと（さきょういちじょうさんぼうさんちょう） 平安京跡（左京一条三坊三町）	きょうとしかみぎょうくしもだちうりどおりしんまちにしいるやぶのうちちょう 京都市上京区下立売通新町西入藪ノ内町	26100	1	35°　01′　15″	135°　45′　22″	20181107～20190227 20190416～20200309	1,550	建物建設

備考：北緯・東経の値は世界測地系に基づく。

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
平安京跡（左京一条三坊三町）	都城	平安	道路・溝・土坑	土師器・須恵器・瓦質土器・瓦	
		鎌倉	溝・土坑	土師器・須恵器・瓦質土器・陶磁器・瓦	
		室町	堀・柵列・建物・土坑	土師器・須恵器・瓦質土器・陶磁器・銭貨・金属器・石製品	
		江戸	道路・礎石建物跡・溝・石組遺構・火災痕跡	土師器・陶磁器・瓦(金箔瓦含む)・銭貨・金属器・石製品・木製品・骨製品・貝製品	

所収遺跡名	要約
平安京跡（左京一条三坊三町）	調査地は平安京の左京一条三坊三町にあたり、北側に近衛大路が敷設されていた地点である。調査では、近衛大路の路面を検出した。このほか、平安時代の遺構としては11世紀後半頃の土坑などを検出した。中世の遺構では、戦国時代の構の一部である堀と布掘りの柱列を検出した。南側に土塁などがあったと考えられ、調査地の北側は構の外側であったとみられる。近世初頭には、聚楽第に伴う大名屋敷地に関連する金箔瓦が出土している。江戸時代初期には、町衆の宅地となり、建物や廃棄土坑を検出している。江戸時代後期には、町家の地下構造を構成する漆喰溝などを検出した。江戸時代末期には、京都守護職上屋敷関連遺構を検出した。以上のように、平安時代から近世の土地利用状況がわかる調査事例である。

京都府遺跡調査報告集 第182冊

令和３年８月20日

発行　公益財団法人
　京都府埋蔵文化財調査研究センター
　〒617-0002　向日市寺戸町南垣内40番の３
　Tel（075）933-3877（代）　Fax（075）922-1189
　http://www.kyotofu-maibun.or.jp

印刷　三 星 商 事 印 刷 株 式 会 社
　〒604-0093　京都市中京区新町通竹屋町下ル
　Tel（075）256-0961（代）　Fax（075）231-7141